

香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第5冊

西末則遺跡 V

—第1分冊—

2015. 3

香川県教育委員会



調査地より東を望む（上が東）



C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 1（上が東）



C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 2 (上が北)



C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 3 (上が南)



C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 4 (上が東)



C 調査区 丘陵斜面部・B17 区周辺写真 (上が東)



C 調査区 B16・17区調査状況（北から）



C 調査区 B17区調査状況（西から）



D 調査区 E14・13・10・F12 区周辺空中写真（上が西）



D 調査区 E14・13・F12 区周辺空中写真（上が西）



D 調査区 柱穴出土遺物



D 調査区 SXe07・08 出土遺物



D 調査区 SDe45 出土遺物



D 調査区 SKe04・06 出土遺物



D 調査区 SDe01 出土槍先形石器



D 調査区 包含層出土大型蛤刃石斧



E 調査区 包含層出土陶印



D・E 調査区出土中国銭集合

序 文

西末則遺跡は香川県綾歌郡綾川町北及び山田下に所在する、縄文時代から中世までの遺跡です。発掘調査は香川県農業試験場移転事業に伴い、平成13年から平成17年度までの期間で実施しました。

調査対象となる範囲は広く、注目される調査成果としては、縄文時代の石器製作跡、弥生時代の大規模灌漑水路、古代～中世後半の集落跡などがあげられます。古代集落周辺からは埋没した自然河川を複数条確認しました。河川からは集落から廃棄されたと考えられる多量の遺物が出土し、貴重な調査成果になりました。

本書は平成14年度から平成17年度にかけて発掘調査した遺跡の中央部分を中心とした箇所での報告です。今回報告する調査成果の中で注目されるのは、弥生時代後期・古代～中世にいたる当時の灌漑水路網の変遷がたどれる溝群を、古代・中世～近世にいたる集落跡とともに確認した点です。

この報告書を刊行することで、西末則遺跡の報告が終了することになりました。西末則遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの長期間、関係諸機関並びに、地元関係者各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月20日

香川県埋蔵文化財センター

所長 真 鍋 昌 宏

例 言

1. 本報告書は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第5冊で、香川県綾歌郡綾川町に所在する西末則遺跡（にしすえのりいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県農林水産部（当時）から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成14・15年度は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、平成16・17年度は香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。
 - 平成14年度担当 C調査区：木下晴一、石原徹也、武井美和
D調査区：西村尋文、川原和生、角田三保
E調査区：柏 徹哉、小野秀幸、飯間俊行
 - 平成15年度担当 F調査区：蔵本晋司、柏 徹哉、武井美和
 - 平成16年度担当 E調査区：北山健一郎、佐々木和裕、武井美和
J調査区：蔵本晋司、松井和久、平尾勝洋
 - 平成17年度担当 E調査区：福家正人、長井博志、森 麻子
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。
香川県農政水産部農業経営課、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業及び執筆は以下の分担で実施した。
C調査区：木下晴一 D・E調査区：西村尋文 J・F調査区：小野秀幸
編集は森格也・西村尋文が担当した。
なお、第Ⅷ章第3節では、元香川県埋蔵文化財センターの調査担当で、現在高松市立川添小学校教諭、柏徹哉氏に寄稿していただいた。
7. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。
SH：竪穴建物 SB：掘立柱建物 SA：柵列 SP：柱穴 SK：土坑 SF：窯跡 ST：墓 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。
発掘調査時は「調査区」単位で、遺構の種別ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。報告の際には同じ番号が重複するため、調査区や整理年度で異なる小文字のアルファベットの「整理区画記号」を、遺構記号と遺構番号の中間に付すことで、固有の報告遺構名を表すことにした。
例) ●区検出のSB01（検出時遺構名）→SB_e01（報告遺構名）
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1／25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に土器実測と写真撮影を委託した。
土器実測・デジタルトレース……………（株）アコード
遺物写真撮影…………… 岡村印刷工業株式会社

本文目次

第1分冊

第I章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査の経過……………(西村) 1

第2節 整理作業の経過……………(西村) 4

第II章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法……………(西村) 6

第2節 整理作業の方法……………(西村) 9

第III章 C調査区の調査

第1節 C調査区の概要・基本層位……………(木下) 11

第2節 C調査区の遺構・遺物……………(木下) 15

第IV章 D調査区の調査

第1節 D調査区の概要・基本層位……………(西村) 49

第2節 D調査区の遺構・遺物……………(西村) 55

第V章 E調査区の調査

第1節 E調査区の概要・基本層位……………(西村) 150

第2節 E調査区の遺構・遺物……………(西村) 152

第2分冊

第VI章 J調査区の調査

第1節 概要・基本層位……………(小野) 1

第2節 J調査区の遺構・遺物……………(小野) 13

第VII章 F調査区の調査

第1節 概要・基本層位……………(小野) 169

第2節 F調査区の遺構・遺物……………(小野) 169

第VIII章 まとめ

第1節 C調査区の歴史の変遷……………(木下) 197

第2節 D・E調査区からみた西末則遺跡……………(西村) 200

第3節 周辺水利調査と西末則遺跡検出中世居館について……………(柏) 211

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第57図	SFe01・02平・断面図, 出土遺物	63
第2図	調査地区割図	3	第58図	SDe07～10断面図, 出土遺物	65
第3図	グリッド割図	7	第59図	SDe12～15断面図, 出土遺物	67
第4図	年度別調査区割図	8	第60図	SDe16～18断面図, 出土遺物	68
第5図	b地区土層断面図の取得位置・堆積状況模式図	12	第61図	SXe01・04断面図, 出土遺物	69
第6図	土層断面図(1)(B17調査区)	13	第62図	SAe01平・断面図	70
第7図	土層断面図(2)(C17調査区)	14	第63図	SXe02平・断面図, 出土遺物	71
第8図	土層断面図(3)(D15n調査区)	15	第64図	D12区柱穴・C13・D15s・D12区包含層出土遺物	72
第9図	SDb01断面図, 出土遺物	16	第65図	E15・E14・E13・F12区遺構配置図	73・74
第10図	遺構配置図	17・18	第66図	D12区包含層出土遺物	75
第11図	SHb01平・断面図	19	第67図	SDe19・20・39・40断面図, 出土遺物	76
第12図	SDb02平・断面図	20	第68図	SRe01・02断面図, 出土遺物	78
第13図	SHb01・SDb02出土遺物	20	第69図	SBe01平・断面図	79
第14図	SHb02平・断面図, 出土遺物	21	第70図	SBe02・SAe02・03平・断面図, 出土遺物	80
第15図	SHb02付近土層断面	22	第71図	SBe03・SAe04～06平・断面図, 出土遺物	81
第16図	SHb03平・断面図, 出土遺物	23	第72図	SBe04平・断面図, 出土遺物	82
第17図	SBb01平・断面図	23	第73図	SBSBe05平・断面図	85
第18図	SBb02平・断面図	24	第74図	SBe06平・断面図	86
第19図	SBb02出土遺物	25	第75図	SBe06出土遺物	87
第20図	SBb03平・断面図, 出土遺物	27	第76図	SBe07平・断面図	88
第21図	SBb04平・断面図, 出土遺物	27	第77図	SBe08平・断面図, 出土遺物	88
第22図	SBb05平・断面図, 出土遺物	28	第78図	SBe09・10平・断面図	89
第23図	SBb06平・断面図	29	第79図	SEe01出土遺物	92
第24図	その他の古代の柱穴断面図, 出土遺物	29	第80図	SKe02～05平・断面図, 出土遺物	93
第25図	SDb06断面図	30	第81図	SKe06～09平・断面図, 出土遺物	94
第26図	SDb06出土遺物(1)	31	第82図	SKe10～13平・断面図, 出土遺物	96
第27図	SDb06出土遺物(2)	32	第83図	SKe14・15平・断面図, 出土遺物	97
第28図	SDb07・SDb08断面図, 出土遺物	32	第84図	SKe16・17平・断面図, 出土遺物	98
第29図	SDb09断面図, 出土遺物	33	第85図	STe01平・断面図, 出土遺物	99
第30図	その他の溝状遺構断面図, 出土遺物	34	第86図	SFe03・04平・断面図, 出土遺物	100
第31図	SXb01平・断面図, 出土遺物	35	第87図	SFe05・06平・断面図, 出土遺物	101
第32図	SXb02断面図	36	第88図	SFe07平・断面図	102
第33図	SKb01平・断面図, 出土遺物	36	第89図	SDe23断面図, 出土遺物	103
第34図	SBb07・SBb08平・断面図	37	第90図	SDe24断面図, 出土遺物	104
第35図	SBb09・SBb10平・断面図	38	第91図	SDe24出土遺物	105
第36図	SBb11～SBb13平・断面図	39	第92図	SDe24・25断面図, 出土遺物	106
第37図	SDb10断面図, 出土遺物	40	第93図	SDe26a断面図, 出土遺物	108
第38図	SDb11平・断面図, 出土遺物	41	第94図	SDe26a出土遺物	109
第39図	その他の溝状遺構断面図, 出土遺物	42	第95図	SDe26b断面図, 出土遺物	110
第40図	SDb29断面図, 出土遺物	42	第96図	SDe26b出土遺物	111
第41図	SDb30～38断面図, 出土遺物	43	第97図	SDe27～33・35断面図, 出土遺物	112
第42図	焼成遺構平・断面図	45	第98図	SDe38・41・50断面図, 出土遺物	115
第43図	包含層出土遺物(1)	46	第99図	SDe51断面図, 出土遺物	116
第44図	包含層出土遺物(2)	47	第100図	SDe51・52断面図, 出土遺物	117
第45図	包含層出土遺物(3)	47	第101図	SDe42～44断面図, 出土遺物	118
第46図	そのほかの遺物	48	第102図	SDe45断面図, 出土遺物	121
第47図	基本層位柱状図	50	第103図	SDe46～49断面図, 出土遺物	122
第48図	基本層位C13区	51・52	第104図	SXe06～08平・断面図, 出土遺物	124
第49図	B16・C13・D15s・D12区遺構配置図	53・54	第105図	SXe07・08出土遺物(1)	125
第50図	SDe01・02断面図, 出土遺物	56	第106図	SXe07・08出土遺物(2)	126
第51図	SDe01出土遺物	57	第107図	SXe07・08出土遺物(3)	127
第52図	SDe02～04断面図, 出土遺物	58	第108図	SXe07・08出土遺物(4)	128
第53図	SDe06断面図, 出土遺物	59	第109図	SXe07・08出土遺物(5)	129
第54図	SDe11断面図, 出土遺物	61	第110図	SXe09・10平・断面図, 出土遺物	131
第55図	SXe03出土遺物	61	第111図	SXe05・11平・断面図, 出土遺物	132
第56図	SFe00平・断面図, 出土遺物	62	第112図	SXe12平・断面図	133

第113 図	SXe12 出土遺物	134	第158 図	C9・E10・E9 区包含層出土遺物	193
第114 図	SDe37・53 断面図, 出土遺物	136	第159 図	SXo09 平・断面図, 出土遺物	194
第115 図	E13・F12 区遺構配置図	137・138	第160 図	F7・E6 区 遺構配置図	195・196
第116 図	E13 区柱穴出土遺物	139	第161 図	F6・B5 区 遺構配置図	197・198
第117 図	E13・F12 区柱穴出土遺物	140	第162 図	SRo05 断面図, 出土遺物	200
第118 図	F12 区柱穴出土遺物(1)	141	第163 図	SRo05 出土遺物	201
第119 図	F12 区柱穴出土遺物(2)	142	第164 図	SRo07・08 出土遺物	202
第120 図	F12 区柱穴出土遺物(3)	143	第165 図	F6・F7・E6・D7 河川配置図	203
第121 図	E15・E14 区包含層出土遺物	144	第166 図	F6・B5 区南壁断面図	205・206
第122 図	E14・E13 区包含層出土遺物	145	第167 図	F6・B5 区南壁・西壁断面図	207
第123 図	F12 区包含層出土遺物(1)	146	第168 図	F6・B5 区断面図	208
第124 図	F12 区包含層出土遺物(2)	147	第169 図	SRo09 出土遺物 (1)	209
第125 図	F7・E6・D7 区遺構配置図	151	第170 図	SRo09 出土遺物 (2)	210
第126 図	C9・E10・E9e・E9w 区遺構配置図	153・154	第171 図	SRo09 出土遺物 (3)	211
第127 図	SKo06 平・断面図, 出土遺物	155	第172 図	SRo09 出土遺物 (4)	212
第128 図	SDo00・01 断面図, 出土遺物	156	第173 図	SXo13 土器出土状況	213
第129 図	SDo02・03・14・28 断面図, 出土遺物	157	第174 図	SXo14 土器出土状況	214
第130 図	SDo29 断面図, 出土遺物	159	第175 図	SRo10 出土遺物	215
第131 図	SRo01 断面図, 出土遺物	160	第176 図	SBo15 平・断面図	216
第132 図	SRo03 断面図, 出土遺物	161	第177 図	SKo07・14 平・断面図, 出土遺物	217
第133 図	SRo03 出土遺物 (1)	162	第178 図	SDo33・34・36 断面図, 出土遺物	218
第134 図	SRo03 出土遺物 (2)	163	第179 図	SDo37・38・39・41 断面図, 出土遺物	220
第135 図	SRe03 出土遺物 (3)	164	第180 図	SXo10 平・断面図, 出土遺物	221
第136 図	SBo13・14 平・断面図	165	第181 図	SBo16 平・断面図	221
第137 図	SKo02 平・断面図, 出土遺物	165	第182 図	SBo17 ~ 20 平・断面図, 出土遺物	222
第138 図	SDo15 断面図, 出土遺物	166	第183 図	SBo21・22 平・断面図, 出土遺物	224
第139 図	SBo01 ~ SBo04 平・断面図	167	第184 図	SBo22_SP05 平・断面図, 出土遺物	225
第140 図	SBo05・06 平・断面図, 出土遺物	168	第185 図	SBo23 平・断面図, 出土遺物	225
第141 図	SBo07・08 平・断面図, 出土遺物	171	第186 図	SBo24・SAo07 平・断面図, 出土遺物	227
第142 図	SBo09 平・断面図, 出土遺物	172	第187 図	SBo25・26 平・断面図	228
第143 図	SBo10・11・12・SAo00 平・断面図, 出土遺物	173	第188 図	SAo06・08・09・10 平・断面図	229
第144 図	SAo01 ~ 05 平・断面図, 出土遺物	174	第189 図	SKo13・15 平・断面図, 出土遺物	231
第145 図	SEo01 平・断面図, 出土遺物	176	第190 図	SKo16 平・断面図, 出土遺物	232
第146 図	SKo01・03 平・断面図, 出土遺物	177	第191 図	SKo17・18 平・断面図, 出土遺物	233
第147 図	SKo04・05 平・断面図	178	第192 図	SKo19 平・断面図, 出土遺物	234
第148 図	SDo04・05・06・07 断面図, 出土遺物	180	第193 図	SDo40・42 平・断面図, 出土遺物	235
第149 図	SDo08・09・10・11 断面図, 出土遺物	181	第194 図	SXo11・12 平・断面図	236
第150 図	SDo12・17・18・20・22 断面図, 出土遺物	183	第195 図	SXo11・12 出土遺物	237
第151 図	SDo23 断面図, 出土遺物	185	第196 図	SKo08・09 平・断面図	238
第152 図	SDo23 ~ 25 断面図, 出土遺物	186	第197 図	F7・E6 区柱穴出土遺物	239
第153 図	SDo24 ~ 27・30 ~ 32 断面図, 出土遺物	188	第198 図	F6 区柱穴出土遺物	240
第154 図	SXo02 ~ 04 平・断面図, 出土遺物	190	第199 図	F7 区包含層出土遺物	241
第155 図	SXo05・07 平・断面図, 出土遺物	191	第200 図	F7・E6 区包含層出土遺物	242
第156 図	SRo04 出土遺物	192	第201 図	E6・F6 区包含層出土遺物	243
第157 区	C9・E10・E9w 区柱穴出土遺物	192	第202 図	F6・B5 区包含層出土遺物	244

表目次

第1 表	西末則遺跡調査工程表	2	第5 表	西末則遺跡V 出土土器観察表 (1) ~ (58)	
第2 表	年度別発掘調査担当一覧	2	第6 表	西末則遺跡V 出土石器観察表 (1) ~ (7)	
第3 表	平成24・25・26 年度組織表	4	第7 表	西末則遺跡V 出土金属観察表	
第4 表	報告遺構名整理記号一覧	9	第8 表	西末則遺跡V 出土銭観察表	
			第9 表	西末則遺跡V 出土瓦観察表 (1) ~ (2)	

付図目次

付図1	西末則遺跡遺構配置図 (B17・B16・C17・D15n・D15s・C13・D12・E15・E14・E13・F12 区)
付図2	西末則遺跡遺構配置図 (B5・C9・E10・E9w・E9e・E6・F7・F6 区)

図版目次

巻頭図版 1

- 調査地より東を望む（上が東）
- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 1（上が東）

巻頭図版 2

- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 2（上が北）
- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 3（上が南）

巻頭図版 3

- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 4（上が東）
- C 調査区 丘陵斜面部・B17 区周辺写真（上が東）

巻頭図版 4

- C 調査区 B16・17 区調査状況（北から）
- C 調査区 B17 区調査状況（西から）

巻頭図版 5

- D 調査区 E14・13・10・F12 区周辺空中写真（上が西）
- D 調査区 E14・13・F12 区周辺空中写真（上が西）

巻頭図版 6

- D 調査区 柱穴出土遺物
- D 調査区 SXe07・08 出土遺物

巻頭図版 7

- D 調査区 SDe45 出土遺物
- D 調査区 SKe04・06 出土遺物

巻頭図版 8

- D 調査区 SDe01 出土槍先形石器
- D 調査区 包含層出土太型短刃石斧
- E 調査区 包含層出土陶片
- D・E 調査区出土中国銭集合

図版 1

- B16 調査区 調査状況（西南から）
- B17 調査区 東壁断面
- SDb01 遺物 (1) 出土状況（南から）
- SDb01 遺物 (2) 出土状況（南から）
- SHb01 調査状況（南から）
- SHb01 かまど断面（南から）
- SHb01 断面（北から）
- SDb02 遺物出土状況（東から）

図版 2

- SHb02 調査状況（西から）
- SHb03 断面（北から）
- SBb01・SBd15 調査状況（東から）
- SBb02 調査状況（西北から）
- SBb01_SP06・SBd15_SP 切り合い関係（南から）
- SBd02_SP11 断面（西から）
- SBb02_SP01 遺物出土状況（西から）
- SBb04 検出状況（南から）

図版 3

- SBb05・SBb02 調査状況（南から）
- SBb06 検出状況（南から）
- SXb02 検出状況（南から）
- SXb02 調査状況（北から）
- SDb11 調査状況（西から）
- SDb25 等 調査状況（東から）
- SDb30 等 調査状況（東から）
- SDb32 等 断面（西から）

図版 4

- C13 区南半部全景 (1)（南から）
- C13 区南半部全景 (2)（南から）

- C13 区南端部全景 (1)（南から）
- C13 区南端部全景 (2)（東から）
- C13 区 SFe00 全景（南西から）
- C13 区 SFe01・02 全景（南から）
- C13 区 SFe01 遺物出土状況（南から）
- C13 区 SFe01 土層断面 (1)（北から）

図版 5

- C13 区 SFe01 土層断面 (2)（北西から）
- C13 区 SFe02 窯壁詳細（南西から）
- C13 区 SFe02 土層断面（北から）
- C13 区 SDe01・02 全景（北から）
- C13 区 SDe01 北端部土層断面（南から）
- D12・15 区調査区全景（北から）
- D12 区南半部全景（東から）
- D15s 区 SDe13 土層断面（南から）

図版 6

- E14・15 区調査区全景（北から）
- E14 区調査区全景（東から）
- E15 区 SFe03 全景（西から）
- E15 区 SFe04・05 全景（東から）
- E15 区 SFe04 土層断面（北から）
- E15 区 SFe05 全景（東から）
- E15 区 SFe05 煙道部詳細（東から）

図版 7

- E14 区 SDe19～23 全景（北東から）
- E14 区 SDe19・20 全景（南東から）
- E14・15 区 SDe24・SFe03～05 全景（北から）
- E14・15 区 SDe24 全景（南から）
- E14・15 区 SDe24 土層断面（南から）
- E14 区 SDe25 全景（西から）
- E14 区 SDe26a 全景（東から）
- E14 区 SDe26a 土層断面（西から）

図版 8

- E13 区調査区全景（東から）
- E13 区西半部全景（東から）
- E13 区東半部全景（東から）
- E13 区東半部全景（南から）
- F12 区調査区全景 (1)（東から）

図版 9

- F12 区調査区全景 (2)（東から）
- F12 区西半部全景 (1)（東から）
- F12 区西半部全景 (2)（東から）
- F12 区東半部全景 (1)（東から）
- F12 区東半部全景 (2)（東から）

図版 10

- F12 区中央部全景（北から）
- F12 区 SBe06 全景（北から）
- F12 区 SBe06_SP19（東から）
- F12 区 12FSP71 遺物出土状況（南西から）
- F12 区 12ESP170 遺物出土状況（南から）
- F12 区 12FSP392 遺物出土状況（東から）
- F12 区 12FSP557 全景（北から）
- F12 区 12FSP687 柱材（南から）

図版 11

- F12 区 12FSP704 根石（西から）
- F12 区 12FSP768 上面銭出土状況（北から）

- E13 区 SKe03 全景 (西から)
 E13 区 SKe03 焼土検出状況 (西から)
 E13 区 SKe04 遺物出土状況 (東から)
 E13 区 SKe06 遺物出土状況 (北から)
 E13 区 STe01 全景 (西から)
 F12 区 SFe06・07 検出状況 (東から)
- 図版 12
 F12 区 SFe06・07 全景 (東から)
 F12 区 SFe06 検出状況 (東から)
 F12 区 SFe06 遺物出土状況 (北から)
 F12 区 SFe06 全景 (東から)
 F12 区 SFe07 全景 (東から)
 F12 区 SFe07 土層断面 (1) (北から)
 F12 区 SFe07 土層断面 (2) (北から)
 F12 区 SFe07 土層断面 (3) (北から)
- 図版 13
 F12 区 SFe07 完掘状況 (東から)
 E13・F12 区 SDe26b・51 全景 (南から)
 E14 区 SDe26a 土層断面 (西から)
 E13 区 SDe26b 土層断面 (北から)
 E13 区 SDe26b 北端土層断面 (南から)
 F12 区 SDe45～47 周辺全景 (北から)
 F12 区 SDe45 土層断面 (西から)
 F12 区 SXe07 土層断面 (西から)
- 図版 14
 F12 区 SRe01 土層断面 (1) (北西から)
 F12 区 SRe01 土層断面 (2) (北から)
 C9 区北半部全景 (南から)
 C9 区南半部全景 (北から)
 C9 区 SBo01 全景 (南から)
 C9 区 SBo02 全景 (南から)
 C9 区 SBo03 全景 (南から)
 C9 区 SBo04 全景 (南から)
- 図版 15
 C9 区 SKo01 全景 (南から)
 C9 区 SKo03 全景 (東から)
 C9 区 SDo00 全景 (南東から)
 C9 区 SDo01・02 全景 (南東から)
 C9 区 SDo02～04 全景 (北西から)
 C9 区 SDo12 遺物出土状況 (北から)
 C9 区 SXo02 全景 (南から)
 C9 区 SRo01 全景 (北東から)
- 図版 16
 E10 区調査区全景 (南から)
 E10 区 SBo10・11 全景 (南から)
 E10 区 SBo10・11 全景 (北から)
 E10 区 SDo14・23・24 等全景 (南から)
 E10 区 SDo23 全景 (南から)
- 図版 17
 E10 区 SDo24 全景 (東から)
 E10 区 SDo24 土層断面 (西から)
 E10 区 SDo25 全景 (南から)
 E9e 区調査区全景 (1) (南から)
 E9e 区調査区全景 (2) (東から)
 E9e 区 SKo06 遺物出土状況 (北から)
 E9e 区 SKo06 全景 (北から)
 E9e 区 SDo29 土層断面 (1) (南東から)
- 図版 18
 E9e 区 SDo29 土層断面 (2) (南東から)
 E9e 区 SRo03 土層断面 (北東から)
- E9w 区調査区全景 (南から)
 E9w 区 SBo13 全景 (南から)
 E9w 区 SEo01 全景 (南から)
 E9w 区 SEo01 断面 (東から)
 E9w 区 SDo30～32 全景 (西から)
- 図版 19
 F7 区調査区全景 (南から)
 F7 区 SBo15 周辺 (東から)
 F7 区 SRo05 土層断面 (北から)
 F6 区第1面調査区全景 (西から)
- 図版 20
 F6 区第1面調査区東部全景 (1) (北から)
 F6 区第1面調査区東部全景 (2) (北から)
 F6 区第1面調査区西部全景 (北から)
 F6 区 SBo20 全景 (北から)
 F6 区 SBo22 全景 (北から)
 F6 区 SBo22_SP05 遺物出土状況 (南から)
 F6 区 SKo16 遺物出土状況 (南から)
 F6 区 SKo16 全景 (南から)
- 図版 21
 F6 区 SP682 遺物出土状況 (南から)
 F6 区 SP492 遺物出土状況 (東から)
 F6 区 SKo19 遺物出土状況 (西から)
 F6 区 SXo13 遺物出土状況 (北から)
- 図版 22
 1・5・15・19・20
- 図版 23
 21・26・68・68 (底部)・78・79・81・206
- 図版 24
 258・278・287・481・485・480・505・506・592・594
- 図版 25
 SDe24 出土瓦集合
- 図版 26
 597・637・638・644・643・642・641・756・766・803・805・806
- 図版 27
 820・821・822・837・SXe12 出土石英片・1074・1075・1077・1112・1131・1132・1130・1134・1143
- 図版 28
 1137・1145・1142・1141・1181・1176・1182・1183・1245・1249・1312・1329・1343・1375
- 図版 29
 1384・1719・1390・1503・1406・1409・1422・1428・1435・1450・1441
- 図版 30
 1485・1487・1490・1499・1510・1512・1513・1519・1520・1516・1514・1517
- 図版 31
 1525・1526・1527・1529・1669・1571・1573・1576・1670・1598・1575・1577・1572・1580・1583・1587・1579・1585・1586・1588・1582・1584・1581・1578・1608・1609・1671・1675・1711・1712・1713・1709・1710・1707・1714・1708
- 図版 32
 276・290・273・245・328・994・864・907・993
- 図版 33
 1157・1159・1158・268・259・327・346・313・344・343・325・341・345・332・300・342・253・312・243・261・267・299・1056・1057・1020・1019・1004・537・1059・355・788・651・538・958・539・540・1060・

1003 · 1062 · 1061 · 1320 · 1148 · 1251 · 1289 · 1160 ·
1167 · 1201 · 1762 · 1124 · 1122 · 1559 · 1305 · 1126 ·
1127 · 1790 · 1220 · 1172 · 1097 · 1149

图版 34

D · E 調査区出土中国銭集合

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 発掘調査の経過

西末則遺跡の発掘調査は香川県農業試験場の移転事業に伴う調査である。予定地は約 18ha を測る広大な用地で、平成 12 年度から試掘調査を適宜行い、保護措置の必要範囲は 75,857㎡を測ることで確定した。

発掘調査は平成 13 年度の 10 月から開始し、平成 17 年度の 6 月で終了した。現地調査を担当したのは平成 13 年度～15 年度までの期間を（財）香川県埋蔵文化財調査センターが、15 年度末に財団法人が解散し、県直営の香川県埋蔵文化財センターに引き継がれ、16 年度から調査が完了する 17 年度までは香川県埋蔵文化財センターが担当した。

詳細な調査の経緯と経過の詳細は平成 17 年度に刊行した、最初の調査報告書にあたる『西末則遺跡 I』に収録しているので参照していただきたい。なお、平成 13 年度から 17 年度までの大まかな調査工程については第 1 表に記載し、また本書に収録している調査区の調査担当については第 2 表にまとめた。



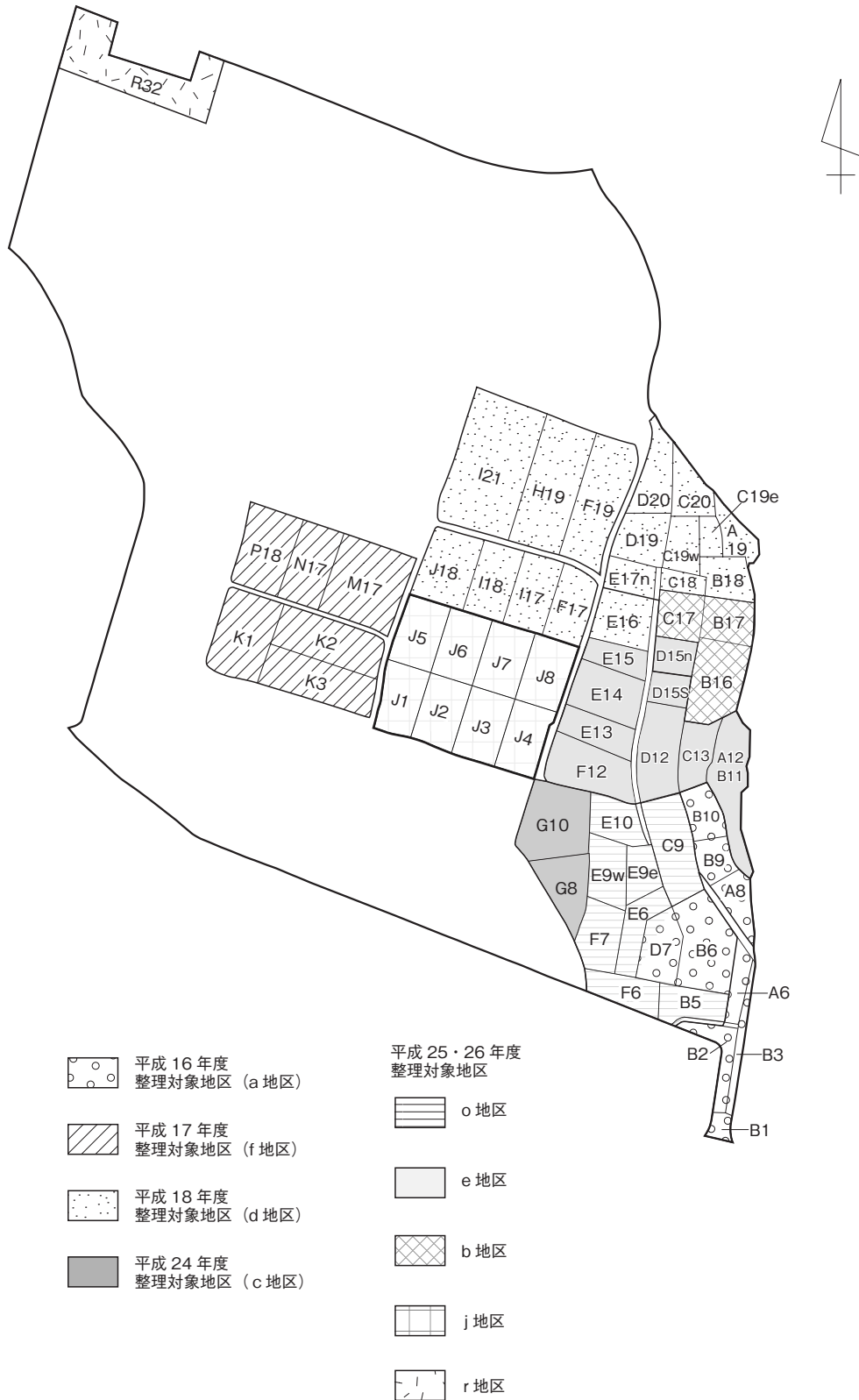
第 1 図 遺跡位置図

第1表 西末則遺跡調査工程表

調査年度	調査区	調査担当	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
13	A	柏、木下、大塚												
	B	川原、小野、武井												
14	C	木下、石原、武井												
	D	西村、川原、角田												
	E	柏、小野、飯間												
15	D	川原、小野、角田												
	F	柏、蔵本、武井												
	G	川原、小野、角田												
	H	川原、小野、角田												
	I	柏、北山、武井												
	K	川原、小野												
16	B	蔵本、松井、平尾												
	E	北山、佐々木、武井												
	J	蔵本、松井												
	K	北山、佐々木、武井												
17	E	福家、長井、森												

第2表 年度別発掘調査担当一覧

調査年度	調査区	担 当
平成14年度担当	C調査区	木下 晴一、石原 徹也、武井 美和
	D調査区	西村 尋文、川原 和生、角田 三保
	E調査区	柏 徹哉、小野 秀幸、飯間 俊行
平成15年度担当	F調査区	蔵本 晋司、柏 徹哉、武井 美和
平成16年度担当	E調査区	北山 健一郎、佐々木 和裕、武井 美和
	J調査区	蔵本 晋司、松井 和久、平尾 勝洋
平成17年度担当	E調査区	福家 正人、長井 博志、森 麻子



第 2 図 調査地区割図

第2節 整理作業の経過

西末則遺跡の整理作業は平成16年度から開始し、現在までに『西末則遺跡Ⅰ～Ⅳ』の4冊の調査報告書を刊行している。本整理作業は最後の調査報告にあたる『西末則遺跡Ⅴ』作成のための整理作業である。本書の整理作業は平成25年と26年の2ヵ年に分けて実施した。平成25年度は4月から翌年3月までの12ヶ月間、平成26年度は4～6月までの3ヶ月間の合計15ヶ月間で整理を実施した。

平成25年度は、遺構から出土した土器の接合と抽出作業を先行した。その結果、抽出された実測予定の遺物は当初予定していた数量を超え、土器1,498点、石器263点、金属器33点、木製品1点 合計1,795点を数える。実測作業は遺物点数が多いことから、出土遺物を業務委託と直営業務に区分し実施した。また、実測作業は6月から土器実測から開始し翌年1月までの8ヶ月間を要した。

遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキヤニングを行い、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図作りに移行した。なお、遺構の整理に際しては、整理担当が発掘担当と異なるため、残された資料から個別の遺構の状況を把握する際には苦慮する局面が多々あった。

出土遺物の写真撮影に際しては、基本的には直営で実施したが、難易度の高い遺物については平成25年度に民間業者に委託して撮影を実施した。また、本遺跡から中国銭の良品が多数出土したため、平成25年度に保存処理を委託した。

平成26年度の整理は昨年度からの継続で4月から開始し6月まで実施した。平成26年度の主な業務は遺構挿図と遺物図面を統合し報告書の編集作業である。順次作業を進め報告遺構名や遺物番号が整った段階で、原稿の執筆作業を並行して実施した。各種作業が完了した段階で、遺物や図面類の収納作業を行い遺物の整理作業を終了した。

なお、平成24年度に整理作業を実施したF調査区とJ調査区の調査成果については、本書に収録して刊行した。

平成24～26年度の整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第3表 平成24・25・26年度組織表

平成24年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	炭井 宏秋	総括	所長	藤好 史郎
	副課長	木虎 淳		次長	真鍋 正彦
総務・生涯学習 推進グループ	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長(兼務)	真鍋 正彦
文化財グループ	主任主事	白川 弘二		主任	宮武 ふみ代
	課長補佐	西岡 達哉		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	森下 英治		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 格也
				文化財専門員	小野 秀幸
				嘱託	大林 真沙代
					岡崎 江伊子
					北濱 敦子
					加藤 恵子

平成 25 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	増田 宏	総括	所長	真鍋 昌宏
	副課長	木虎 淳		次長	前田 和也
総務・生涯学習 推進グループ	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長（兼務）	前田 和也
	主任主事	白川 弘二		主任	俵野 英二
	主任主事	丸山 千晶		主任	宮武 ふみ代
文化財グループ	課長補佐	片桐 孝浩		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 格也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託	大林 真沙代
					岡崎 江伊子
					北濱 敦子
					合田 和子

平成 26 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	増田 宏	総括	所長	真鍋 昌宏
	副課長	川上 泰		次長	前田 和也
総務・生涯学習 推進グループ	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長（兼務）	前田 和也
	主任	白川 弘二		主任	俵野 英二
	主事	和木 麻佳		主任	寺岡 仁美
文化財グループ	課長補佐	片桐 孝浩		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 格也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託	市川 孝子
					中野 優美
					牧野 香織
					青屋 真理
					原 節子

(参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会 2005 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 15 年度』
- 香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 冊 西末則遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 16 年度』
- 香川県教育委員会 2006 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 17 年度』
- 香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 2 冊 西末則遺跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 3 冊 西末則遺跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 冊 西末則遺跡Ⅳ』

第Ⅱ章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

1. グリッドの設定

対象地を調査するにあたり、まず事業予定地全体に南東隅を基点とする20mメッシュのグリッドを設定した。グリッド基点A1は国土座標第Ⅳ系の $X = 135.820$ 、 $Y = 40.520$ で、座標北の方向に1, 2, 3・・・、西の方向にA, B, C・・・と付し、各交点をB2, D2等のように呼称することにした。また、20mメッシュのグリッドの呼称は南東隅の交点名によっている。

調査区全体の図化は、遺構密度の高い地域に限り業者に委託して航空測量を実施し、 $1/100 \cdot 1/50$ の縮尺で図化した。また、航空測量の対象外の区域と主要な遺構については、トータルステーションによる測量及び手描きの実測等により対応した。対象地内に設置する基準点については、対象地内の数地点に限り測量業者に委託し設置した。

2. 調査区の設定

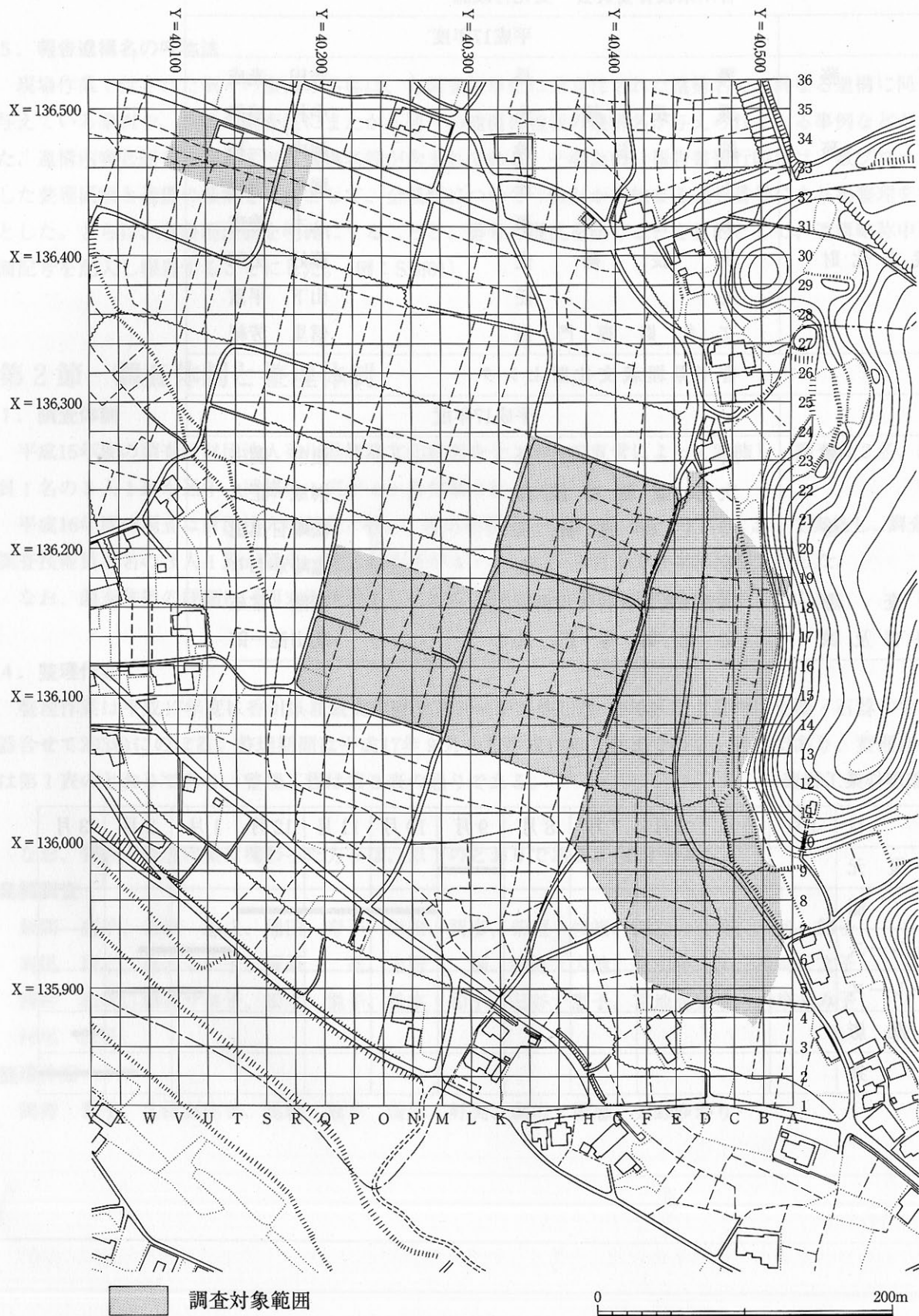
事業予定地は綾川町（旧綾上町）山田下、綾川町（旧綾南町）北の旧二町に及び綾川の北岸の段丘面上に位置する。県道278号線を北限とし、南限は綾川の氾濫原まで、東限は東辺に所在する南北丘陵（末則丘陵）までで、南北約450m、東西約400mを測り、面積は約18haを測る。調査対象地は、予定地の南東部、綾上町側に所在する南北丘陵（末則丘陵）の西斜面から綾南町に広がる地域と、予定地の北西部、県道278号線の南に広がる飛び地状の地域とに分かれる。

調査区の設定としては、調査対象地の面積がかなり広いため、まず、対象地をA～K地区までの8地区に区分した。また、調査を進める都合上、大区画内をさらに小区分した地区を設定した。地区名の付け方は、地区内の最も代表的なグリッド名称を採用して、B2区・A6区等と呼称することにした。これは、農業試験場用地内の発掘調査が複数年次にまたがり、調査区も全面ではなく局所的に、設定される可能性もあり、調査区名によって大まかな位置が把握できることを目的にしたものである。

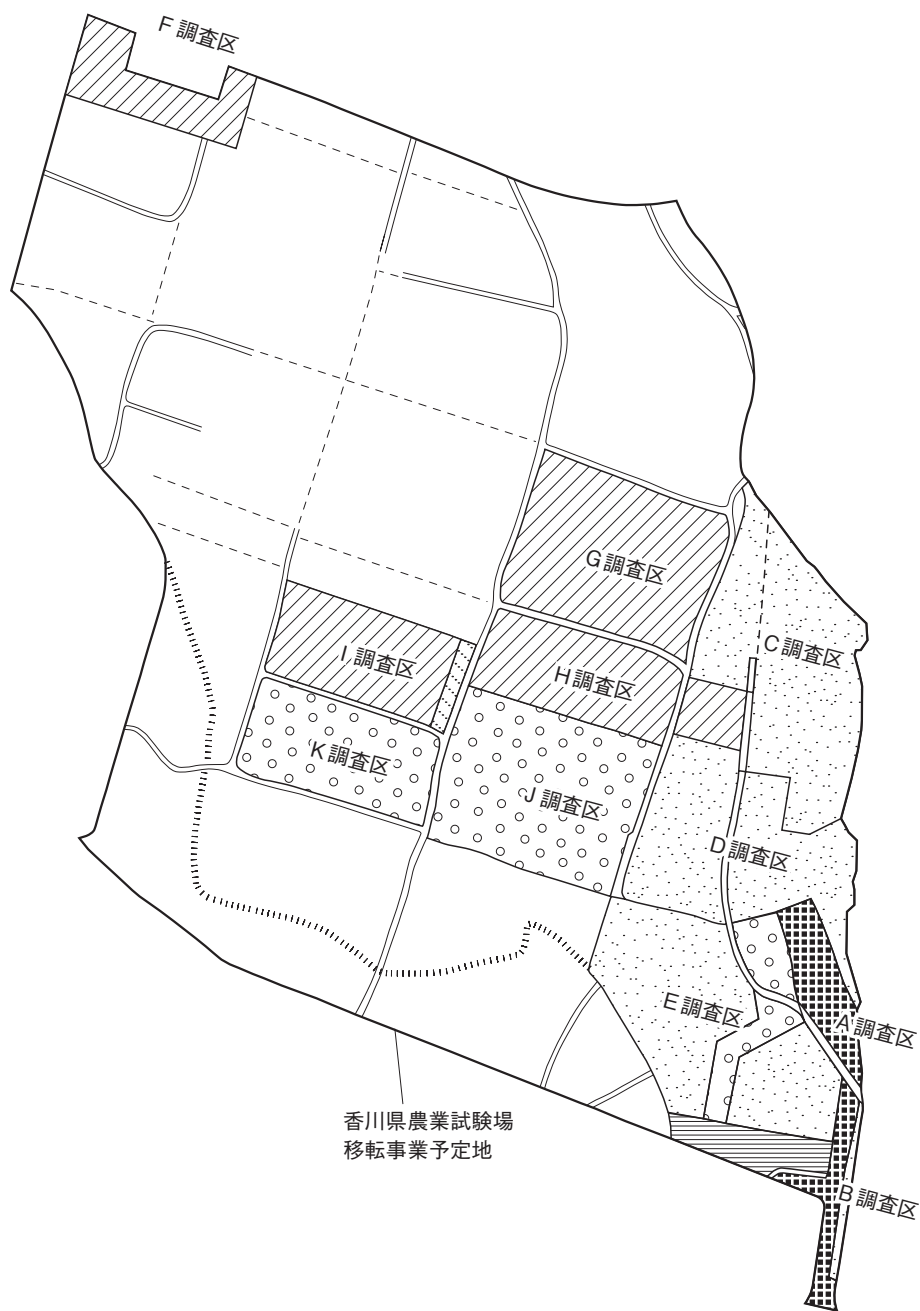
3. 仮設工事・重機・測量等について

機械掘削は土木業者と契約して行なった。調査事務所や仮設電力及び主要な調査用具はリース契約を結び調査に用いた。現場作業員はセンターが直接雇用し作業に従事した。

測量等で用いる基準点については、測量業者に委託して設置した。検出した遺構の平面測量については、平成13・14年度までは航空測量業者に委託して、ヘリコプターによる航空測量で $1/100 \cdot 1/50$ 等の平面図を作成していたが、平成15年以降は調査担当が分担して、光波測量機器を用いたデジタル測量による平面測量を実施した。また、現場の個別写真撮影や遺物出土状況・土層断面図等の個別の記録作業については、適宜担当職員が分担して実施した。



第3図 グリッド割図



- 平成 13 年度調査区
- 平成 14 年度調査区
- 平成 15 年度調査区
- 平成 16 年度調査区
- 平成 17 年度調査区

第 4 図 年度別調査区割図

第2節 整理作業の方法

1. 整理作業の計画

本遺跡は、広大な調査対象地を数年にわたり、複数パーティーで調査を実施してきている関係上、相当数の職員が調査に関与し、全体像を把握しにくい状況になっている。整理作業に際しては、発掘調査時での区画割のとおり整理の範囲が確定できない問題と、発掘調査の担当者が必ずしも整理まで担当できるとは限らない人事上の問題等があり、整理作業を順調に進めるための課題となっている。そのため、これらの問題点を解消し、計画的に整理作業を進めるため、後年度に及ぶ整理計画を作成し作業を進めることにした。

2. 整理区画と遺構名の整理

西末則遺跡の発掘調査は対象地が広いため複数の調査班により複数年度で実施した。調査区は細分され、遺構名は年度単位ないしは調査区単位で01番から付されているため、報告の都合上再整理を必要とした。遺構名を付す方法としては、整理区画や整理年度を考慮した小文字のアルファベット記号を「整理区画記号」として、遺構名と番号との間に付けて分別するのが混乱を防ぐ得策と考え、遺構名と番号との間にアルファベットの記号を付すことにしたが整理年度が長期にわたり、整理記号が多様化し解り難くなった点があるため、以下に一覧化しておく。なお、本書に収録している調査区と整理区画記号についても下表に記載しているので参照していただきたい。

第4表 報告遺構名整理記号一覧

報告書名	整理年度	調査区	地区	整理記号	報告遺構名例示
西末則遺跡Ⅰ	平成16年度	A調査区	A8・B9・B10	a	SBa01
		B調査区	A6・B1・B2・B3	a	—
		E調査区	B6・D7	a	—
西末則遺跡Ⅱ	平成17年度	I調査区	P18・N17・M17	f	SBf01
		K調査区	K1・K2・K3	f	—
西末則遺跡Ⅲ	平成18年度	C調査区	A19・B18・B17・B16・C20・C19w・C18・C17・D15n・D20・D19・E17n	d	SBd01
		G調査区	I21・H19・F19	d	—
		H調査区	J18・I18・I17・F17	d	—
西末則遺跡Ⅳ	平成24年度	E調査区	G10・G8	c	SBc01
西末則遺跡Ⅴ	平成24年度	F調査区	R32	r	SBr01
		J調査区	J5・J6・J7・J8・J1・J2・J3・J4	j	SBj01
	平成25・26年度	C調査区	B17・B16・C17・D15n	b	SBb01
		D調査区	A12・B11・C13・D15s・D12・E15・E14・E13・F12	e	SBe01
		E調査区	B5・C9・E10・E9w・E9e・E6・F7・F6	o	SBo01

3. 遺構の整理

遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原図のチェックと、図面のスキヤニングを行い、原図をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。また、掘立柱建物は設定しきれていないものや、柱穴の組み合わせ等を含め再整理をおこなった。その結果、多数の建物跡の追加と、調査時に推定していた建物構造等の細部修正を行った。

4. 遺物の整理

遺物実測については、出土遺物の中で図化可能な遺物については極力図化した。なお、本整理作業の報告遺物は数が多く、土器 1,498 点、石器 263 点、金属器 33 点、木製品 1 点 合計 1,795 点を数える。遺物点数が多い事から、実測とトレースに関しては整理期間との関係で効率化を計る必要が出てきた。そのため、土器実測とトレース作業の一部を民間業者に委託した。遺物写真撮影については、極力担当者で実施したが、難易度の高い出土遺物については専門業者に撮影を委託した。

なお、本遺跡からは中国銭等の保存対象の遺物が多数出土している。これらの出土遺物の中で良品については保存処理作業を民間業者に委託した。

(参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会 2005 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 15 年度』
- 香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 冊 西末則遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 16 年度』
- 香川県教育委員会 2006 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 17 年度』
- 香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 2 冊 西末則遺跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 3 冊 西末則遺跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 冊 西末則遺跡Ⅳ』

第三章 C調査区の調査

第1節 C調査区の概要・基本層位

1. 概要

C調査区は、平成14年度に発掘調査を実施した、調査対象地の北端にあたる調査区である。末則丘陵の西側斜面部裾部から段丘面に至る地域で、西はG・H調査区、南はD調査区に接する調査区である。南北約180m、東西約100m程の調査区である。整理作業は平成18年度にC調査区北半部を実施し『西末則遺跡Ⅲ』で報告している。そのため、今回の整理作業ではC調査区南半部の整理作業を実施し報告する。

報告対象の調査区内の地区はA19、B17・B16、C20・C17、D15n区に分かれる。C調査区からは斜面の等高線に沿うように、南北方向の弥生時代後期後半～末、古代、中世等の多数の溝状遺構を確認した。弥生時代の溝跡の中には総延長約300mを測る大型の灌漑水路を検出した。また、斜面部からは、7世紀前半の方形竪穴建物や8世紀代の複数の建物を検出した。7～8世紀の住居はC調査区以外では確認できないことから、これらの住居の中には比較的大型の住居跡を含む点や、建物相互の関係で規格性を見出せる点などの特徴があり、貴重な成果になった。

2. 基本層位

調査地は、末則丘陵の西側裾部とその西側の平坦面（段丘面）にあたり、調査着手前の土地利用は水田である。丘陵裾部は53mほどの標高の平坦面から、54.4m、56.0m、56.8mの3段の水田に造成されている。地山上面は、調査区東端の55.3mから西へ19mで1.7m下る9%の傾斜面となっている。

古代の掘立柱建物は、柱穴の底を地表面の傾斜の方向に合わせてつなげると、地山面の傾斜よりも緩やかに下っている。斜面上側ほど残りがよく、下側で残りが悪い。また、3段の水田のうち上段で残りがよく、中段は悪い。また、下段では柱穴は検出されなかった。以上のことから、古代においては盛り土によって雛段状の造成がなされていたか、あるいは、上段は古代においては今よりも緩い斜面で、後代に西側が削平を受けたと考えられる。また、この部分に堆積する「赤茶」と調査時に呼称していた包含層は、奈良時代以降に形成されたものと考えられる。中段は、古代以降に古代の掘立柱建物の柱穴が消失する程の削平を受けたと考えられ、削平された土は下段を中心に堆積する「奈良包含層」と調査時に呼称していた堆積層に当たると考えられる。この包含層も奈良時代以降に形成されたものということになる。

第6図上段は、B17調査区の東壁の断面図である。地表面から遺構面まで50～120cmを測る。上部の1～4層は水田耕土、旧耕土である。団粒状構造をなさない痩せた土壌という印象を受ける。8層は、調査時に「包含層赤茶」と呼称していたものである。おもに奈良時代以前の遺物を包含する。なお、この断面図にはSDb09、15、SXb01などがかかっている。

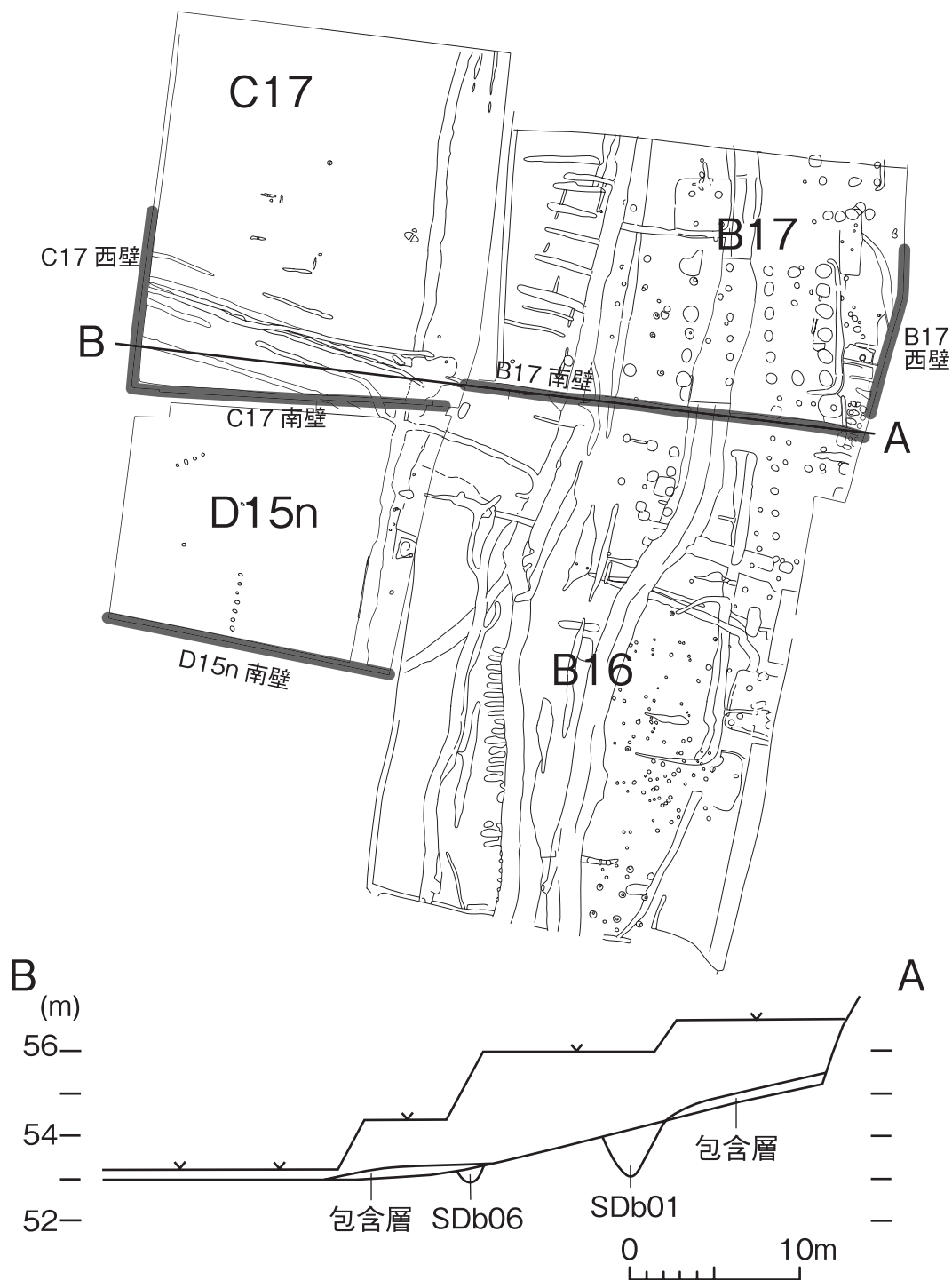
第6図下段は、B17調査区の南壁の断面図である。ここでは遺構面と直上の包含層までを図化している。緩やかに西側を下る斜面にSDb01が掘削されている。さらに西側にSDb06が掘削されるが、これより西側は地山面がほぼ水平となっている。なお、地山は粘性の強い明黄褐色粘質土である。また、

SDb06 の上面および西側に調査時には「奈良包含層」と略称していた包含層が堆積している。

第7図は C17 調査区の南壁および西壁の断面図である。C17 調査区では地山は水平に検出され、その上面に極細砂、細砂を主体とする淘汰された砂層が堆積している。地山面には凹凸が見られ耕作痕の可能性が考えられたが、平面的に検証することはできなかった。

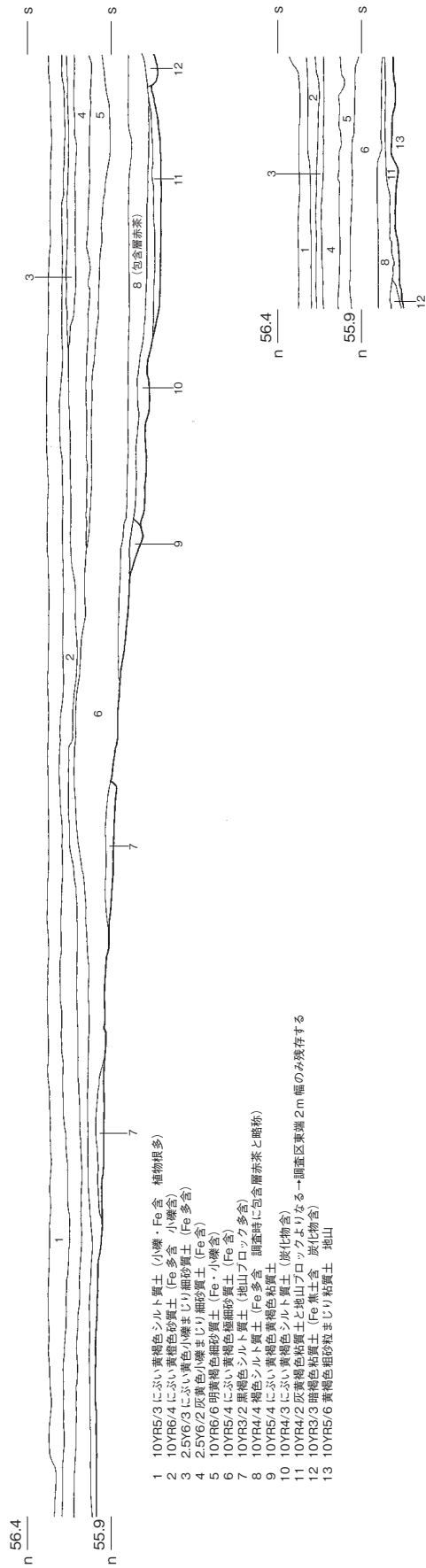
C17 調査区で検出された中世に属する溝状遺構は、地山上面に堆積する砂層の上面から掘り込まれている。

第8図は D15n 調査区の南壁の断面図である。堆積状況および遺構との関係は C17 調査区と同一である。

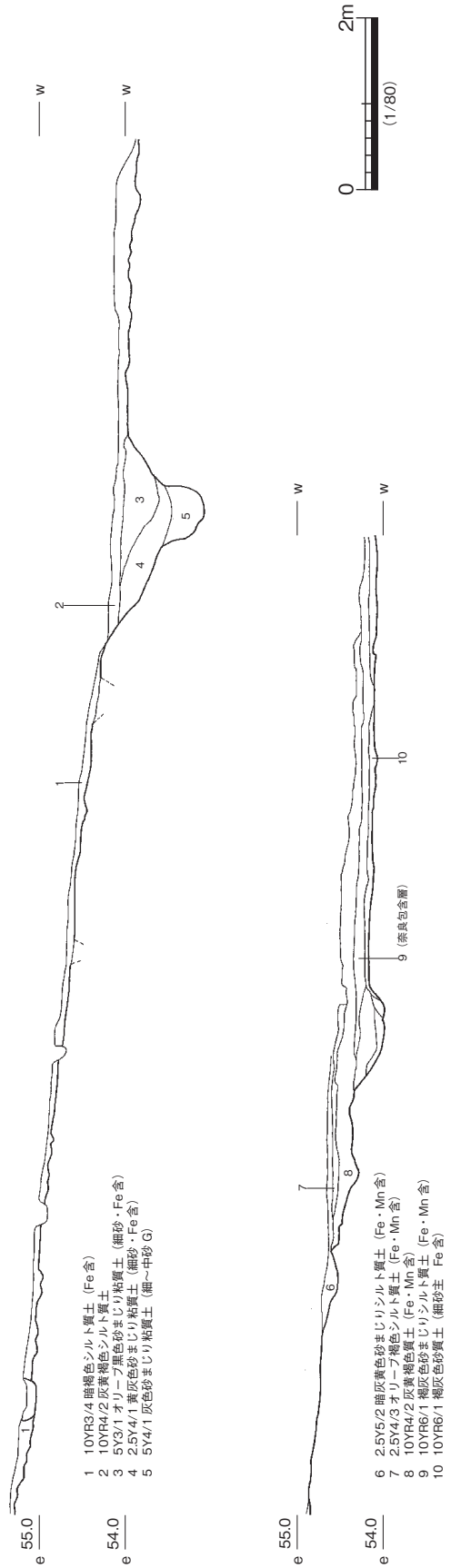


第5図 b地区土層断面図の取得位置・堆積状況模式図

東壁

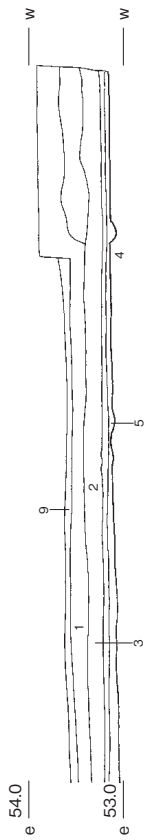
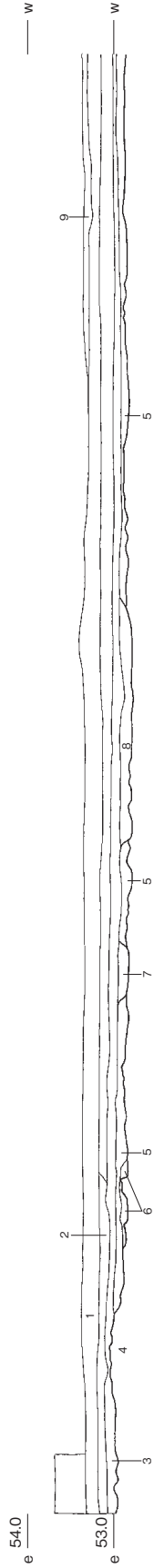


南壁



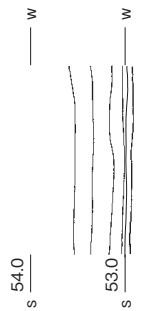
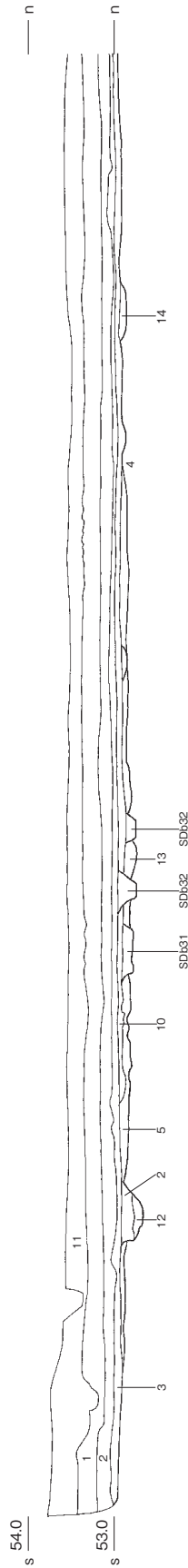
第6図土層断面図(1) (B17調査区)

南壁



- C17 壁
- 1 2.5Y6/4 にぶい 黄色砂質土 (細・中砂主 Fe・Mn 含)
 - 2 2.5Y6/3 にぶい 黄色シルト質土 (Fe・Mn 含)
 - 3 10YR6/2 暗黄褐色極細砂質土 (Fe・Mn 含)
 - 4 10YR6/6 明黄褐色粘質土 (Fe 含 地山)
 - 5 2.5Y5/3 黄褐色砂 (極細・細砂主 粗砂粒まばら含 SORT あり)
 - 6 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質土 (5 層より色調暗い 極細・細砂主 SORT あり)
 - 7 2.5Y7/3 淡黄色砂 (細砂主 Feわずかな含 粗砂粒含)
 - 8 2.5Y6/2 灰黄色粗砂まじり極細砂質土 (Fe 含 旧耕土)
 - 9 2.5Y6/4 にぶい 黄色砂質土 (細・中砂主 Fe・Mn 含)

西壁



- 10 2.5Y6/2 灰黄色小礫まじりシルト質土 (Fe 多含)
- 11 2.5Y6/2 暗灰黄色礫まじりシルト質土
- 12 2.5Y6/3 にぶい 黄色砂 (細砂主 SORT)
- 13 2.5Y6/2 灰黄色極細砂 (細砂主 SORT)
- 14 2.5Y5/2 灰黄色シルト質土 (Fe 含)

第7図 土層断面図 (2) (C17 調査区)

第2節 C調査区の遺構・遺物

1. 弥生時代の遺構・遺物

溝状遺構

SDb01 (第6図・9図)

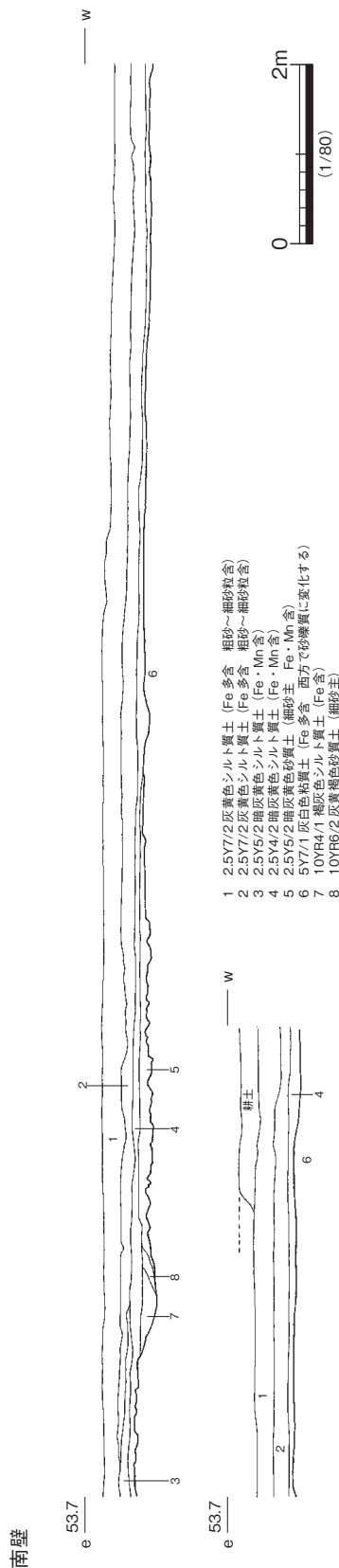
末則丘陵の西側斜面の縁辺に沿って北に流れる大規模な溝状遺構である。南はA8調査区で検出され(『西末則遺跡Ⅰ』SDa06)、北はC20調査区に至る(『西末則遺跡Ⅲ』SDd083)、総延長300mに及ぶものである。これまでの整理作業の過程で、埋土中に弥生時代中期後半から後期前半の遺物片が含まれるものの、最下層から出土した完形の遺物から弥生時代後期末の掘削と判断されること、また、上層には古墳時代後期の遺物を包含することが指摘されている。

本調査区における検出長は、延長60mを測るが、本調査区がもっとも遺存状況が良好なところである。断面形は東岸側では犬走り状の平坦面(もしくは緩斜面)を有し、2段の急斜面からなり、西岸側は急角度で掘り込まれている。溝幅は2.0~3.0m、深さ0.9mを測る。第9図の1、2層は上層として把握する層で黒褐色系の色調を呈し、小礫の混じるシルト質土、4、5層は下層として把握する層で褐灰色系の色調を呈する砂質土で埋積されている。4、5層の砂は淘汰され、級化層理が認められる。5層ではラミナも観察された。

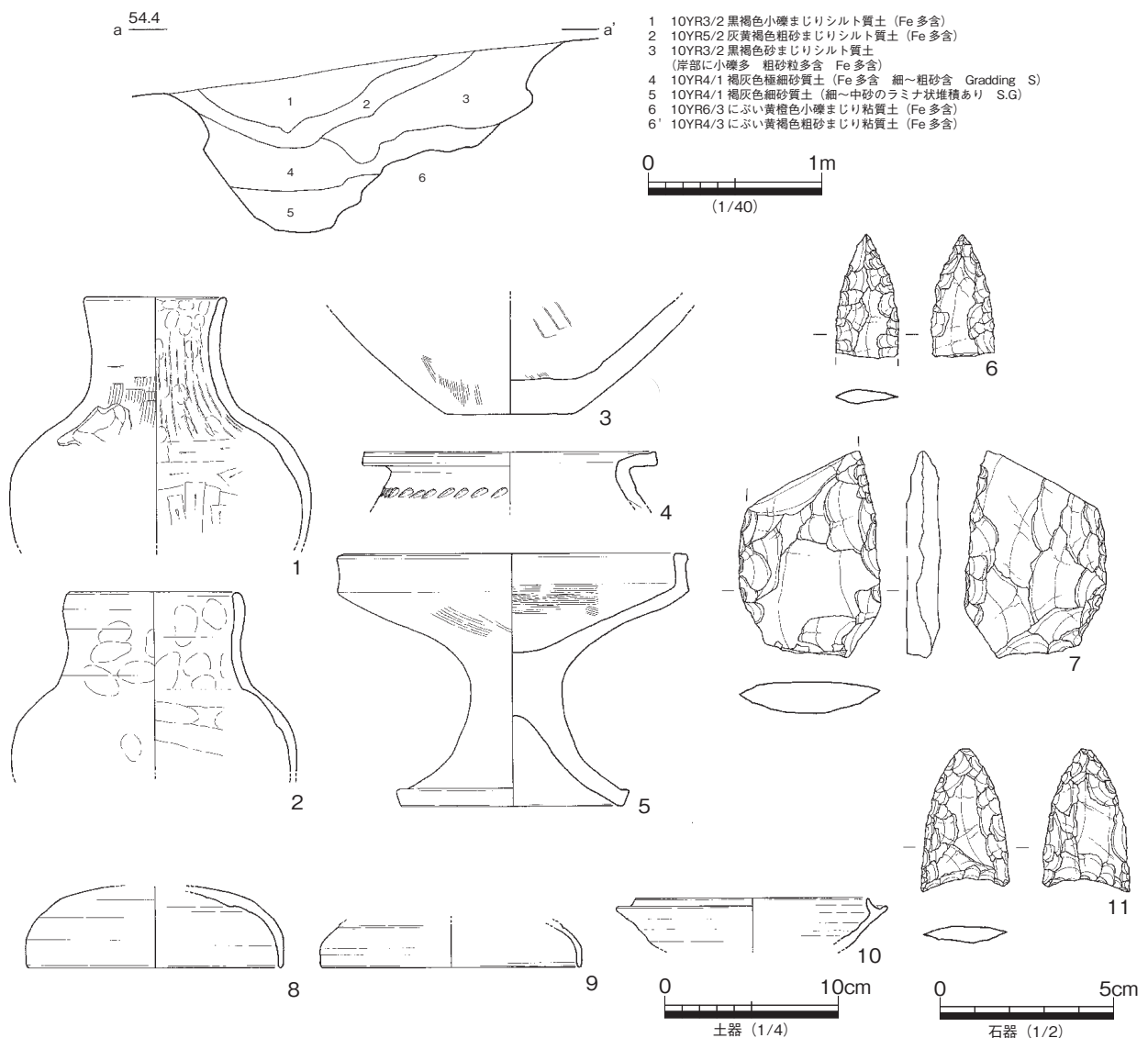
出土遺物は細片が多く、溝底に貼り付くように出土するなど、遺構の年代を推定し得るような出土状況のものは無かった。また、掘削土量の割りには遺物量は僅少である。第9図の1~7は、SDb01下層出土の遺物、8~11は上層出土の遺物実測図である。

1、2は弥生土器長頸壺である。頸部に凹線文は見られず弥生時代後期前半に属する。1には体部上半に焼成時に土器表面が剥離した部分が見られる。3は明瞭な平底をもつ弥生土器壺の底部、4は弥生土器甕である。口縁端部に拡張は見られず、面取りしている。頸部に刻み目の列点文を巡らせている。5は弥生土器高杯である。直線状に傾斜する杯部から垂直に立ち上がる口縁部で、端部を面取りしている。脚部の上半は中空にはならない。1~5は土器表面が摩滅している。6はサヌカイト製石鏃、7はサヌカイト製の槍先形石器と考えられる。

8は須恵器蓋、天井部の回転ヘラケズリの範囲は狭く、天井部から口縁部になだらかに移行する。口縁端部は丸くおさめる。



第8図 土層断面図(3) (D15n調査区)



第9図 SDb01 断面図, 出土遺物

9も須恵器蓋、口縁端部は丸くおさめている。口縁部と天井部の境界付近に1条のヘラ描き沈線を巡らしている。10は須恵器杯、立ち上がりは内傾し短い。受け部にはヘラによる凹線が1条巡っている。8、10の様相からTK209型式期に併行する時期である。11はサヌカイト製の平基式の石鏃である。

SDb01の下層は弥生時代後期前半、上層はTK209型式併行期の遺物が出土しているが、過年度報告済の調査区での様相は、弥生後期前半の遺物の出土が目立つもののそれに混じって弥生時代後期末の遺物が出土していることが知られている。このことから、SDb01の下層の年代も弥生時代後期末と考えるべきである。なお、土層断面から、上層は新たに掘り直されたと観察される。下層埋没後に微凹地として残存する部分を利用したものと考えられる。

SDb01以後、古代、中世を経て現在に至るまで、末則丘陵の西斜面の裾部を北上する水路が設置され、西末則遺跡およびその西側の沖積平野の灌漑水路として機能している。このことから、SDb01も灌漑用の水路として掘削されたと判断できる。



第10図 遺構配置図

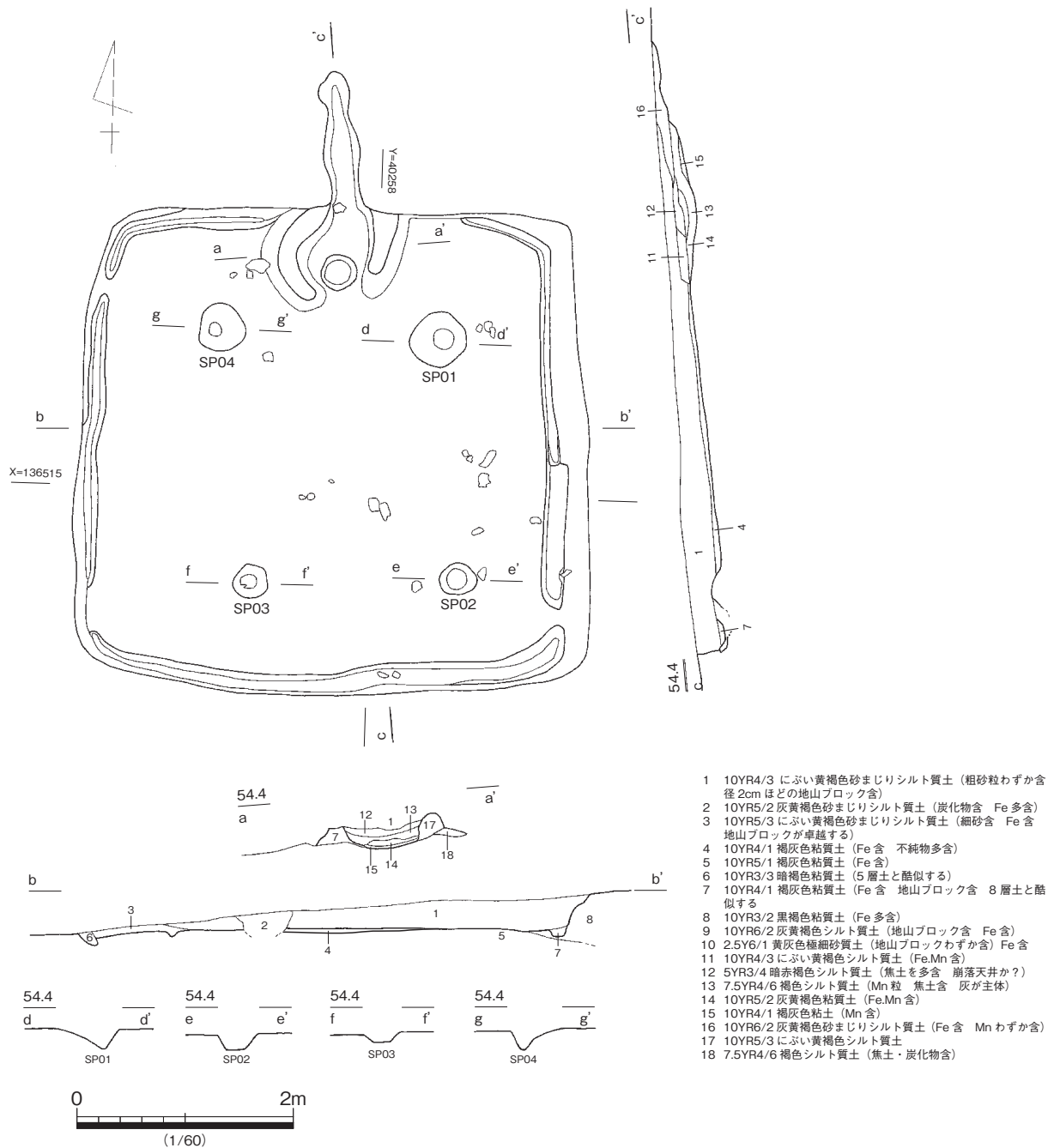
2. 古墳時代の遺構・遺物

竪穴建物

SHb01 (第11・13図)

B17 調査区で検出した方形の竪穴住居跡である。一辺 4.4 ～ 4.8 m で真北の方向に合わせたほぼ正方形の平面形である。四周に壁溝が巡り、4本の支柱穴からなる。北辺に造りつけの竈が設置されている。なお、南辺には壁溝の下に排水溝と考えられる溝状遺構 (SDb02) が掘られている。

検出面から掘り方底面までの深度は 34cm (最大) を測り、6cm内外の厚さの貼床層が見られる。壁溝は幅 0.1 ～ 0.25 m、深さ 0.05 ～ 0.1 m の規模である。支柱穴は径 0.3 ～ 0.5 m、深さは 0.2 m 以下と浅い。柱間寸法は 1.9 ～ 2.3 m で、ほぼ方形に配置される。造りつけの竈には、径 30、深さ 2 cm ほどの焚き口があり、住居北辺から 1.3 m の煙道が設けられている。

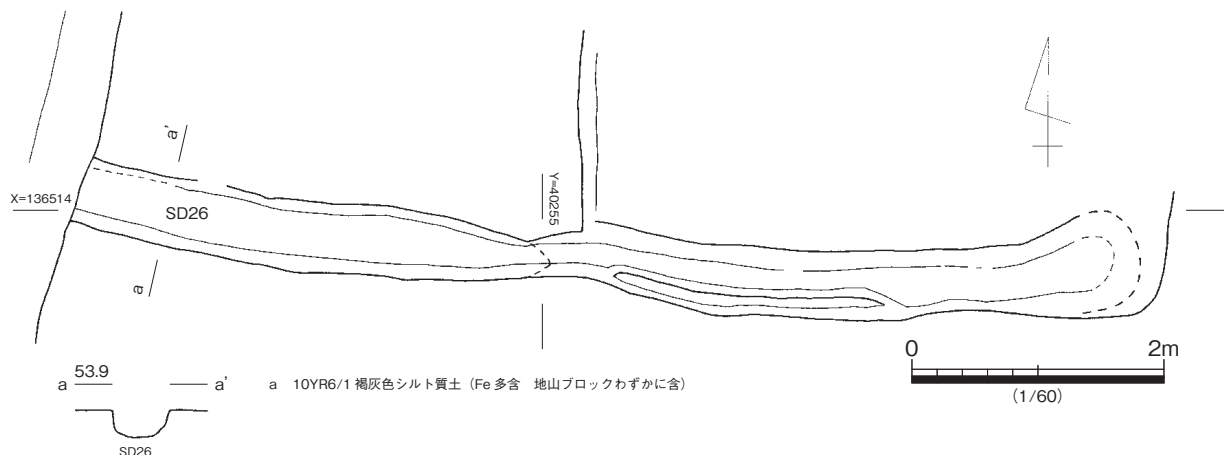


第11図 SHb01 平・断面図

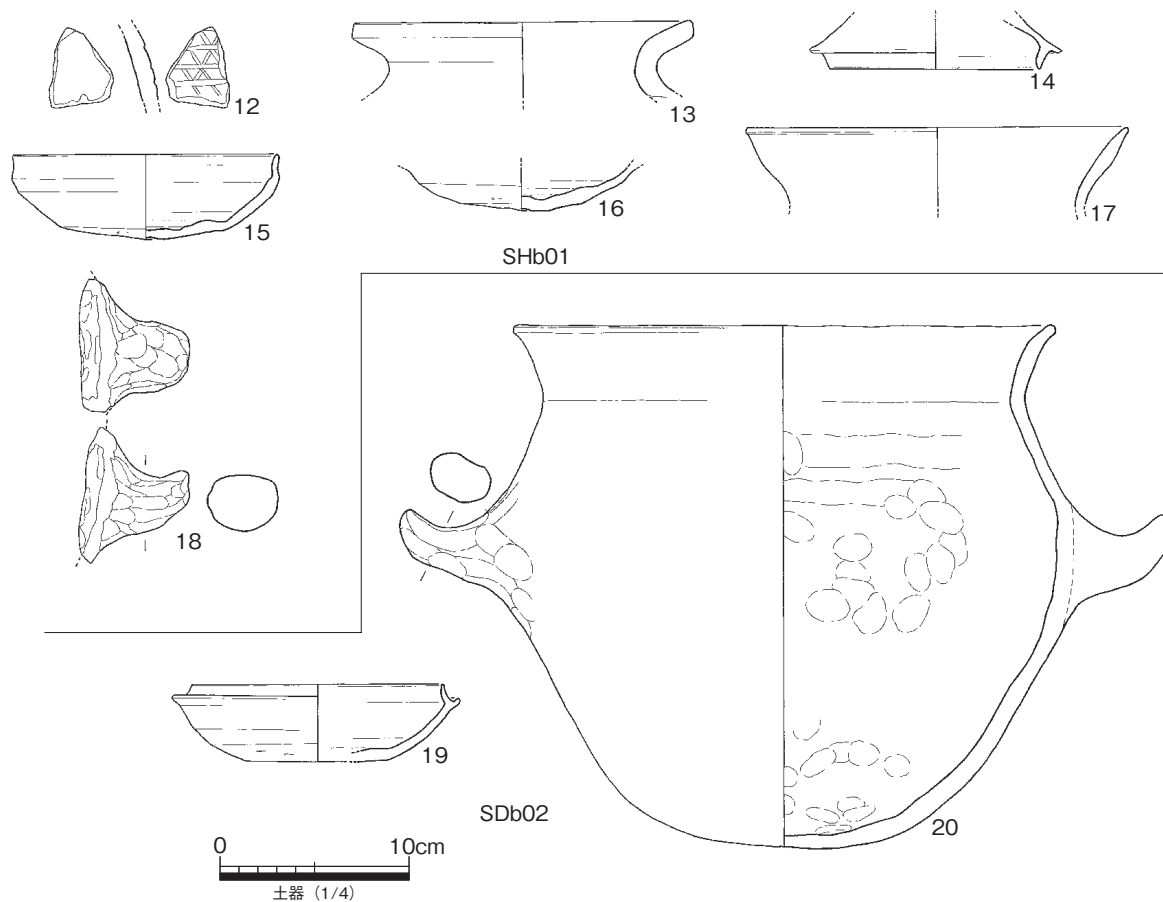
住居南辺には排水溝と考えられる溝が掘られている。住居の西に溝が延びているが、遺構検出時には、溝は住居手前で途切れて検出され、住居の貼床をはずす段階まで両者を一体のものと認識できなかった。途切れる部分は0.3mほどであり、この部分が暗渠となっていたものと考えられるが、検証することはできなかった。なお、この溝（SDb02）は、幅0.55m、深さ0.2mの規模である。

28リットル入りコンテナ2分の1程度の遺物細片が出土している。第13図の12～18はSHb01出土、19、20はSDb02出土の遺物実測図である。

12は弥生土器壺と考えられる細片である。表面にヘラ状工具による水平方向の沈線と斜格子文を施している。13は弥生土器甕の口縁部である。12、13は混入したものである。14は須恵器蓋、回転ヘラ

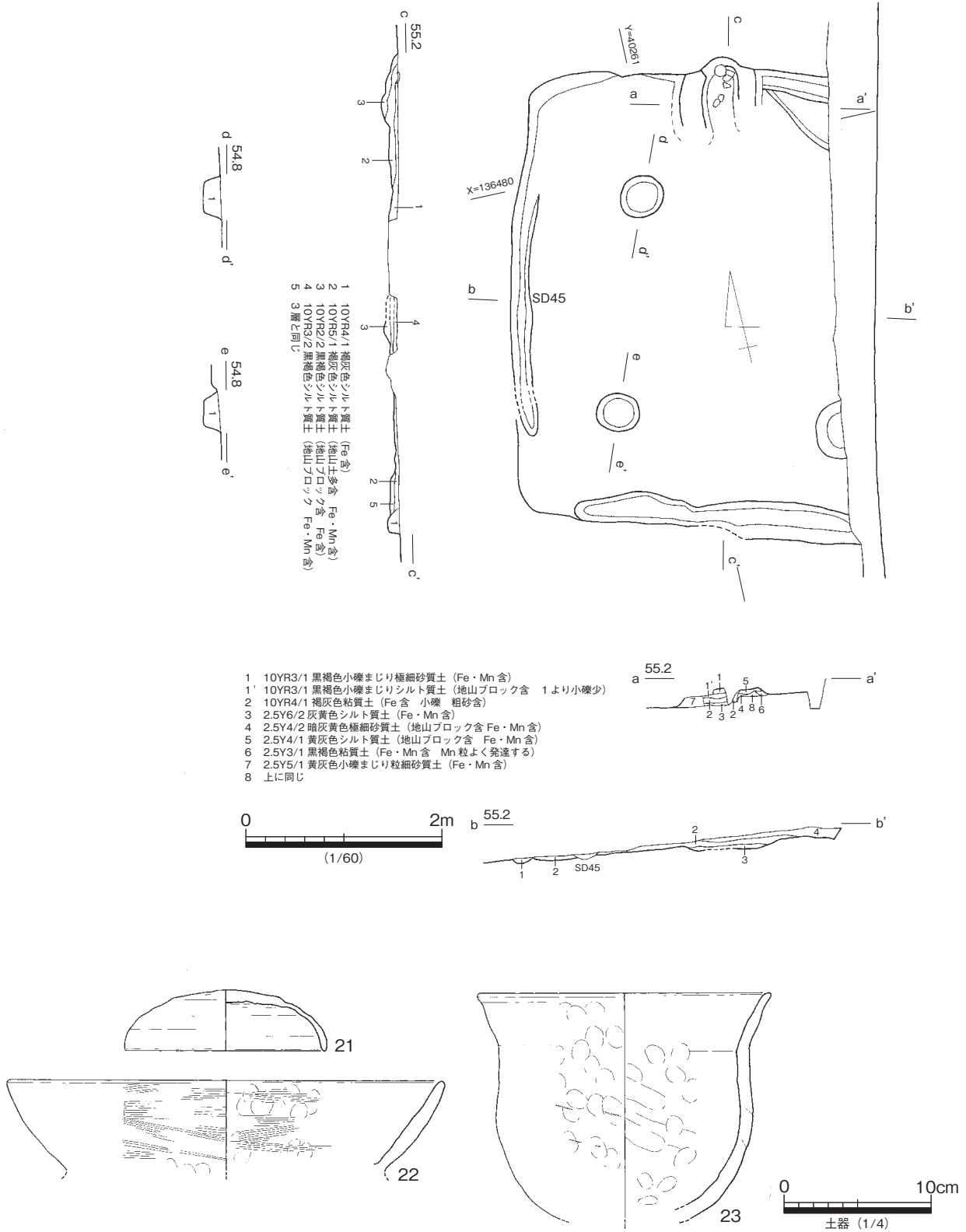


第12図 SDb02 平・断面図



第13図 SHb01・SDb02 出土遺物

ケズリを施す底部から斜めに下がり、垂直方向の口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめている。15は須恵器杯、10cmほどの口径と受部上面にヘラによる1条の凹線を施している。14、15はTK209型式併行期のものである。16は須恵器杯の底部、17は土師器甕、18は土師器の甕か甑の把手部分である。19は須恵器杯、TK209型式併行期のものである。20は土師器甕、8分の5程度が遺存していた。出土遺物の様相から、SHb01はTK209型式併行期のものである。



第 14 図 SHb02 平・断面図, 出土遺物

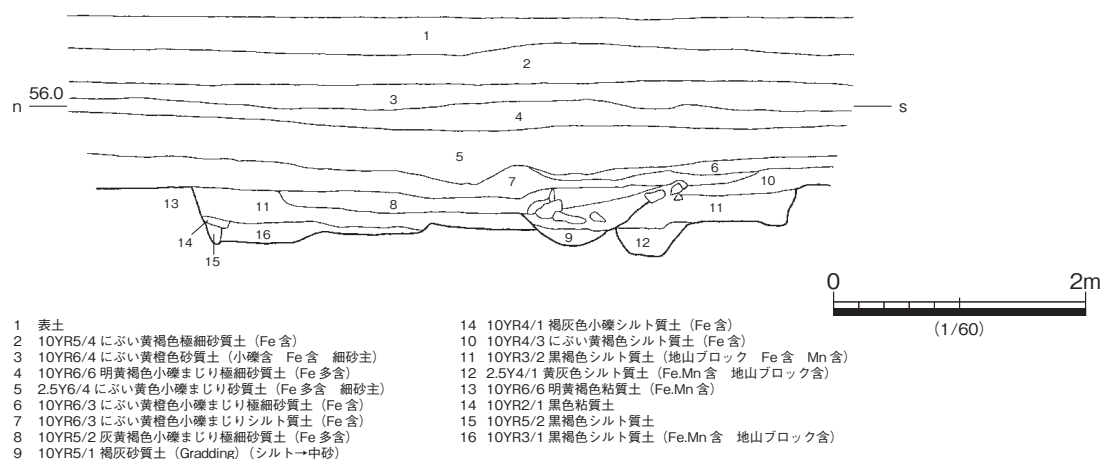
SHb02 (第 14・15 図)

B16 調査区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居の西半を検出し、東半は調査区外に延びる。一辺 4.5 m で座標北から 14° ほど東に振った方向をもつ。西および南辺の一部で壁溝を検出し、主柱穴は 3 穴を検出し 4 穴に復原される。北辺に造りつけの竈が設置されている。

検出面から掘り方底面までの深さは 10cm 以下、一部に貼床が認められた。主柱穴は径 0.45 ～ 0.6 m、深さは 0.2 m 以下である。柱間寸法のわかる西辺の長さは 2.25 m を測る。造りつけ竈の遺存状況は良好であるが、煙道は上面が削平されているため検出できなかった。

遺物は 30 点ほどの土器片と 1 点スラグが出土したのみである。21 は須恵器蓋。竈内から出土した。天井部と口縁部の境界に浅いくぼみがあり、端部は丸くおさめている。22、23 は土師器甕である。22 は壁溝、23 は竈内部から出土した。23 は指オサエとナデで整形し、わずかに屈曲させて口縁を作る粗雑なものである。

SHb02 は、21 の須恵器蓋が TK209 型式の特徴を示すことから TK209 型式併行期のものと判断される。なお、第 15 図は調査区東壁の断面図である。SHb02 のほか SDb11 (土層番号 14、9) が確認できる。ここでは「包含層赤茶」と仮称した包含層は見られない。



第 15 図 SHb02 付近土層断面図

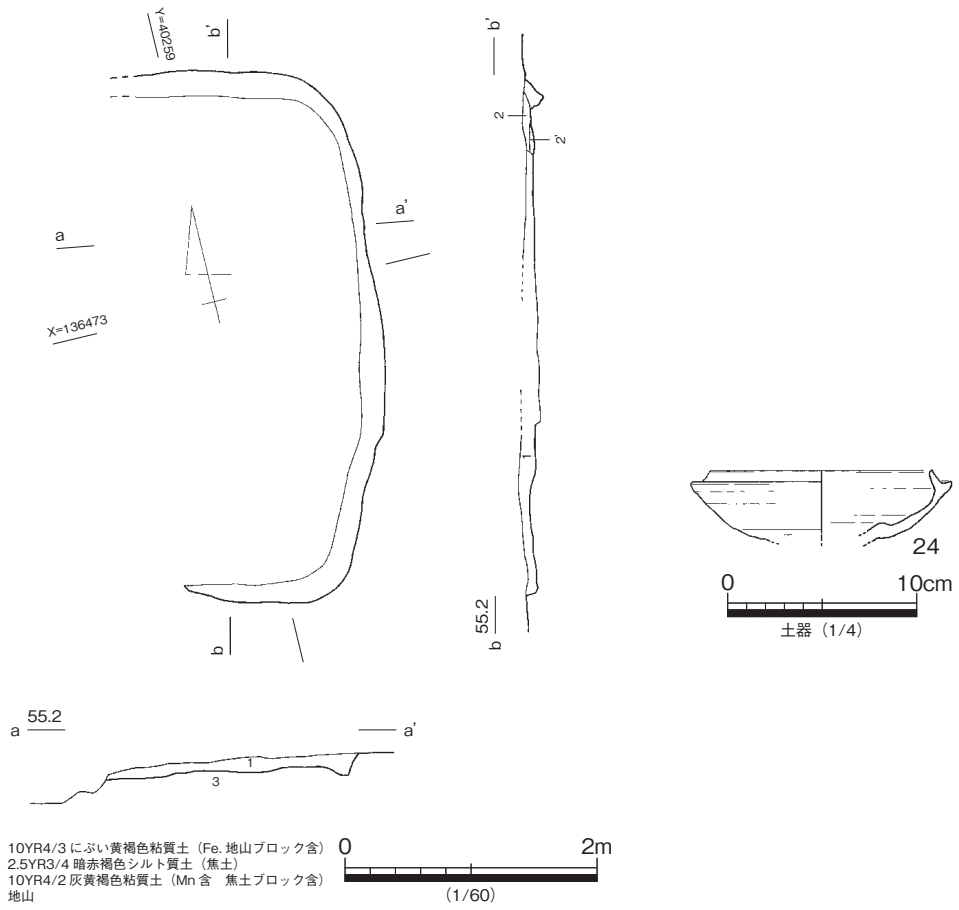
SHb03 (第 16 図)

SHb02 の南側で検出した方形を呈すると考えられる落ち込みである。東辺のみ検出し、西側は後世の掘削によって消滅している。本遺構からは壁溝、柱穴等の竪穴住居を示す遺構が検出されなかったが、SHb02 と同じ方向の N - 14° - E の方向を向き、一辺の長さが 4.2 m であることから竪穴住居跡と判断する。

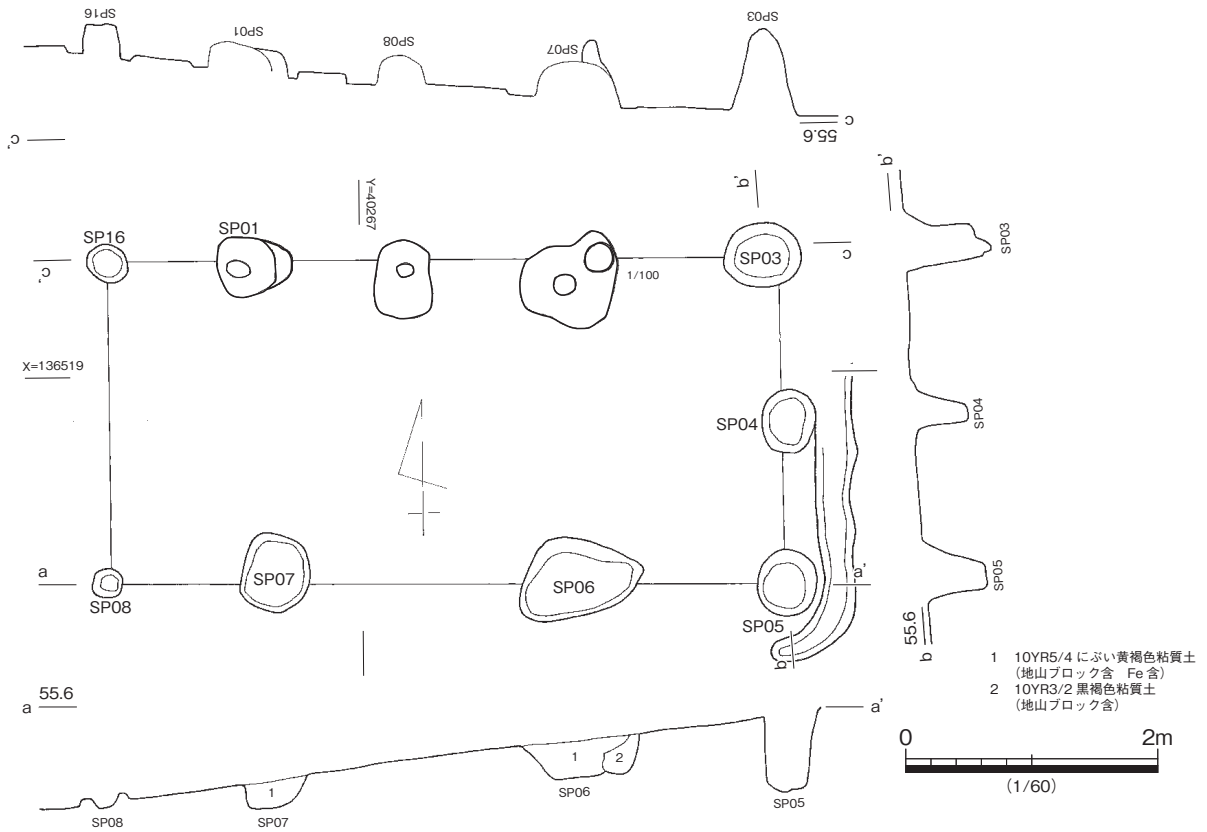
遺物は 30 点あまりの土器細片が出土した。24 は須恵器杯である。口径 13.6cm を測り、TK209 型式の特徴を備えている。このことから SHb03 も TK209 型式併行期のものと判断できる。

3. 古代の遺構・遺物

B16、17 調査区からは、過年度報告の SDb15 (『西末則遺跡Ⅲ』) を含めて古代の掘立柱建物 7 棟、基幹用水路と考えられる溝状遺構、道路に係わる波板状凹凸面を検出した。このうち掘立柱建物は、相互



第 16 図 SHb03 平・断面図, 出土遺物



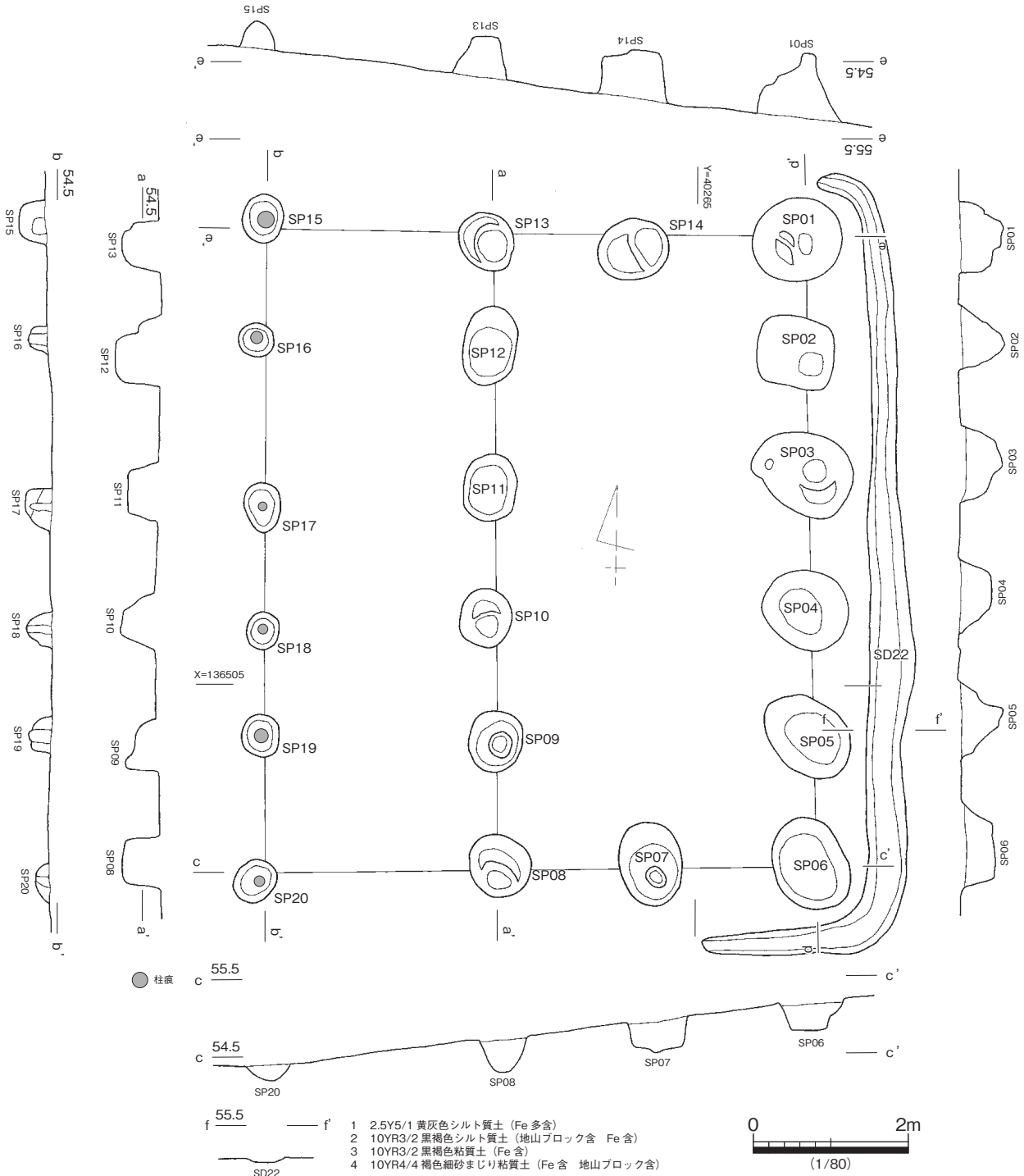
第 17 図 SBb01 平・断面図

に計画的に配置されていることが窺われ、大半を同一時期のものと考えることができる。

掘立柱建物

SBb01 (第17図)

梁行2間、桁行3間の東西方向の側柱建物である。北辺の2柱穴が北側のSBd15と重複し、切り合い関係よりSBd15よりも古い。SBd15の西辺を南に延長すると後述のSBb02の東辺に連続することから両者を同一時期の構築と考える。

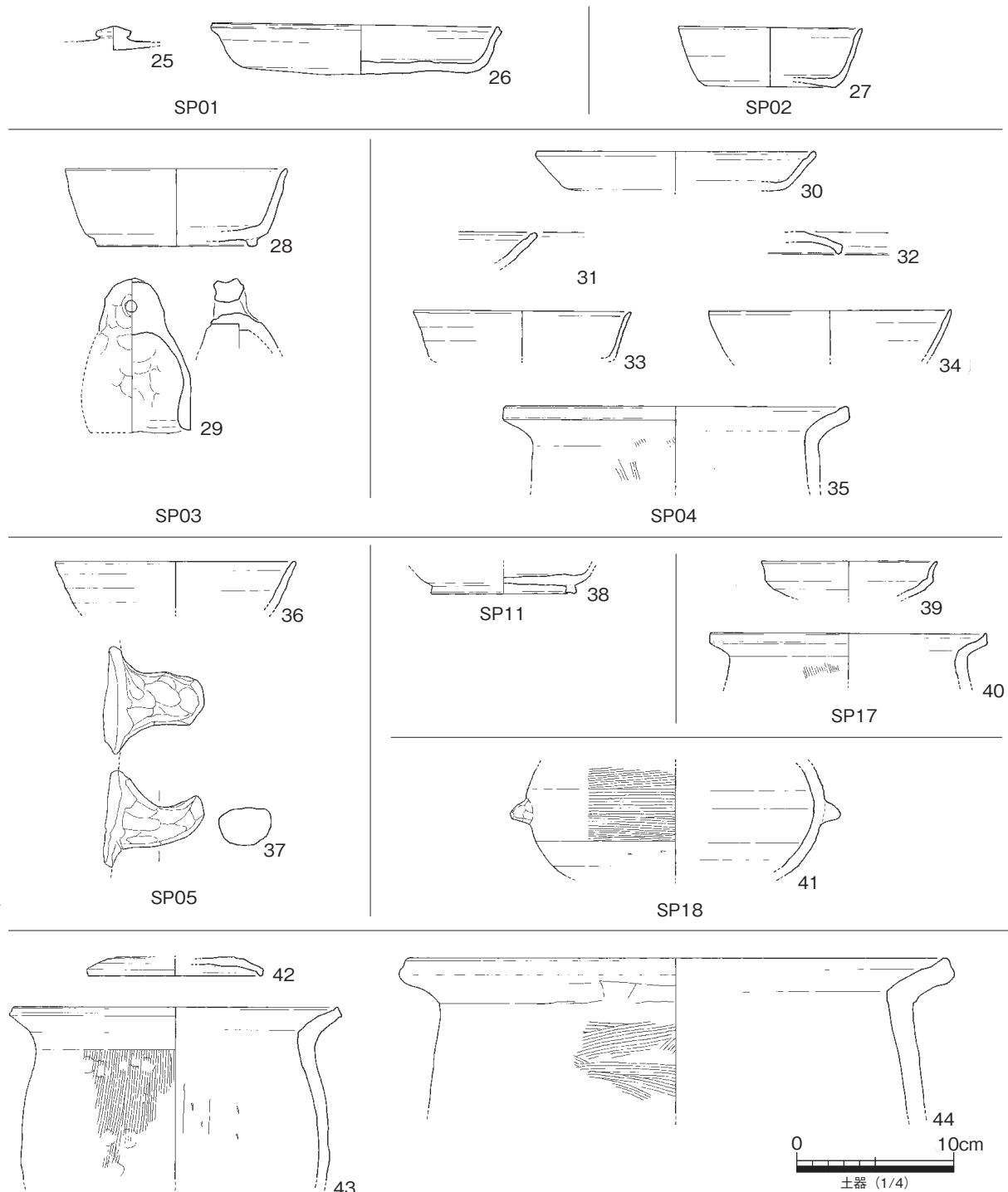


第18図 SBb02 平・断面図

SBb01 は、梁行 2.6、桁行 5.4 m の長方形で、主軸方位は座標北に直交する方向である。東辺に幅 30、深さ数 cm の雨落ち溝が柱穴に接する位置で検出されている。柱穴からの出土遺物は無かったが、他建築物との位置関係から 8 世紀代の建物と考えられる。

SBb02 (第 18・19 図)

B16、17 調査区の掘立柱建物群のなかで中心となる建物である。梁行 2、桁行 5 間の側柱建物で西側に庇をもつ。また、東辺には雨落ち溝 (SDb04) が遺存していた。東辺の延長線が SDd15 に連続する



SDb04
第 19 図 SBb02 出土遺物

ことは既述したが、身舎の西辺の南延長線はSBb05に連続する。また庇南端の柱穴はSBb03の南辺の延長線と交わる。

建物の主軸は座標北から2度西に振る真北方向を向き、身舎は梁行4.0m、桁行8.0mで、東西幅3.0mの庇がつく。また、東辺には幅0.3～0.6m、深さ0.05mほどの規模の雨落ち溝が遺存している。残りのよい東側桁行の柱穴は、径0.9～1.2mの円形または楕円形を呈し、深さは0.4～0.5mを測る。なお、庇部分の柱穴においては平断面において柱痕を検出できたが、身舎部分の柱穴では柱痕を検出することができなかった。柱穴を掘りあげた段階で底面に柱痕の存在を確認できたものが2穴あったが、それ以外の状況は不明である。

第19図はSBb02関連の遺構から出土した遺物実測図である。

25はSBb02 SP01から出土した宝珠形つまみをもつ須恵器蓋である。摩滅している。26は須恵器皿、8分の4遺存して出土した。歪みが大きい。口縁端部に1条の沈線、端部内面に凹線状の窪みがある。27は須恵器杯、SBb02 SP02から出土した。28、29はSBb02 SP03から出土したもので、28は土師器杯である。29は飯蛸壺、表面の一部が剥落するが、ほぼ完形で出土している。30～35はSBb02 SP04から出土した。30、31は土師器皿、口縁端部内面に沈線が1条巡る。32は須恵器蓋、33、34は須恵器杯、35は土師器甕である。36、37はSBb02 SP05から出土した須恵器杯(36)、土師器の甌か甕の把手部分(37)である。37はSBb02 SP05とSP03出土の破片が接合した。38はSBb02 SP11から出土した須恵器杯である。39、40は庇部分の柱穴であるSBb02 SP17から出土したものである。39は須恵器杯、外反する口縁部をもち、ほかの遺物よりも古い様相を示す。混入と考えられる。40は土師器甕の細片である。41はSBb02 SP18から出土した須恵器壺、体部に形骸化した把手が付される。42～44はSBb02の雨落ち溝であるSDb04から出土したものである。42は須恵器蓋、43、44は土師器甕である。

以上の出土土器は8世紀中ごろの様相を示すと見られ、SBb02の年代を示している。

SBb03 (第20図)

SBb02の西に位置する掘立柱建物である。南側の梁行を東に延長するとSBb02の西南の柱穴と交わる。また、南側に位置するSBb04と近似する規模で桁行が同一線上にある。なお、SBb04の北側梁行の延長線が後述するSBb05の西北隅の柱穴と交わることから、計画的な配置をとっていると判断される。

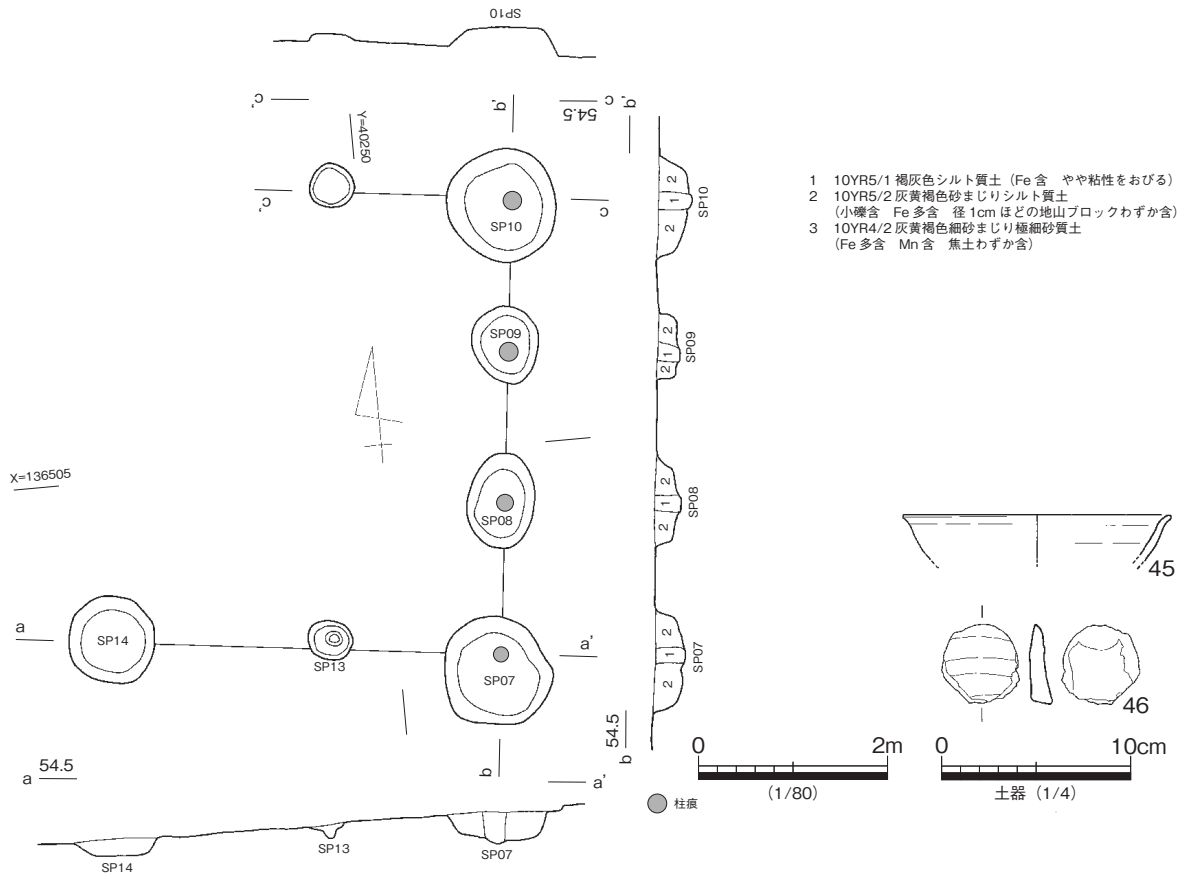
SBb03は、東側桁行の柱穴の遺存は良好であるが、それ以外は良くない。規模は、梁行2間(4.0m)、桁行3間(4.9m)で、SBb03では確認されないが、SBb04と同規模であることから東柱を伴っていた可能性が高い。建物方位は座標北から8度東に振る方向である。

15点ほどの土器細片が出土している。45はSBb03 SP10から出土した須恵器杯である。外反する口縁部を尖り気味におさめている。46は須恵器の壺か甕の体部破片の周囲を打ち欠いて円形に整形したものである。

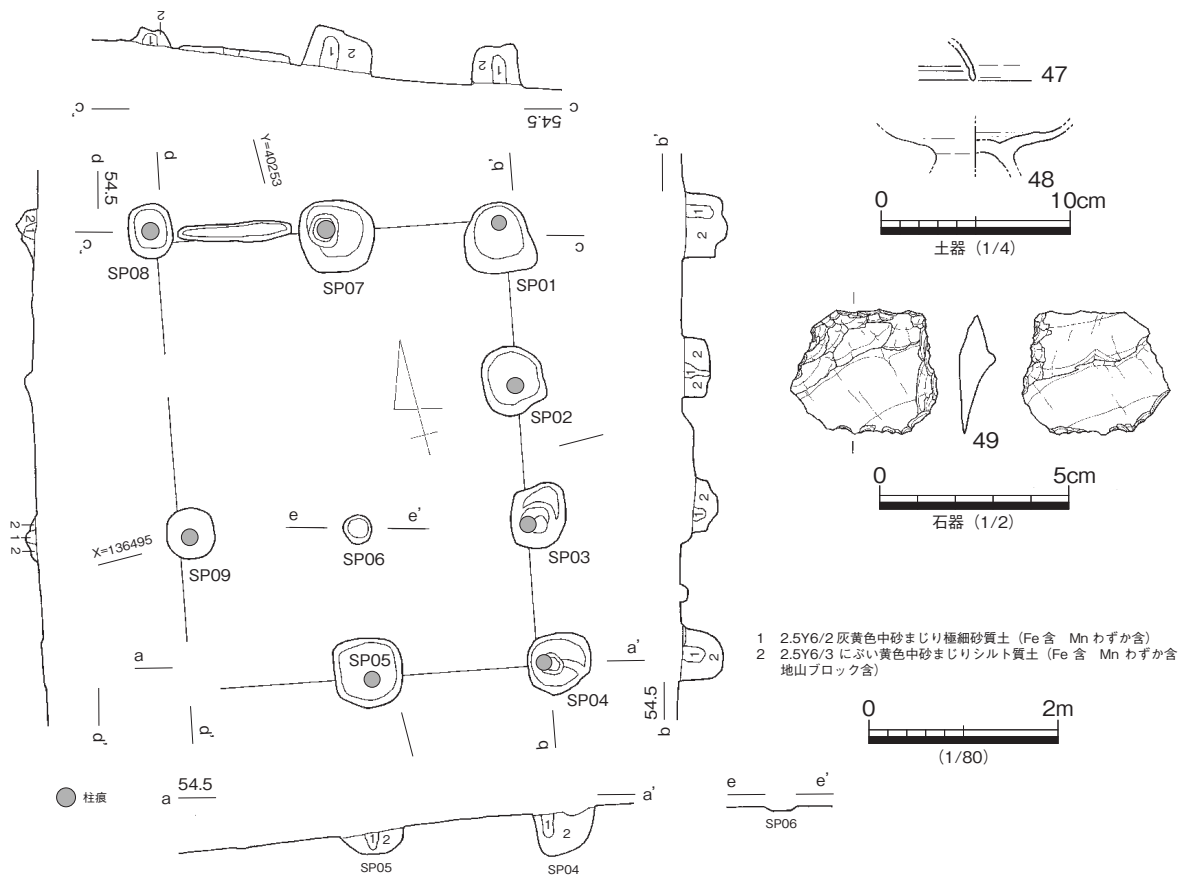
SBb04 (第21図)

SBb03の南に並列する掘立柱建物である。梁行2間(3.7m)、桁行3間(4.7m)で、東柱を伴うものと推定される。建物方位はSBb03と同一である。

20点余りの土器細片が出土している。47は須恵器蓋と考えた。口縁端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線が見られる。48は須恵器高杯である。このほかサヌカイトの2次加工のある剥片が出土している。



第20図 SBb03平・断面図, 出土遺物

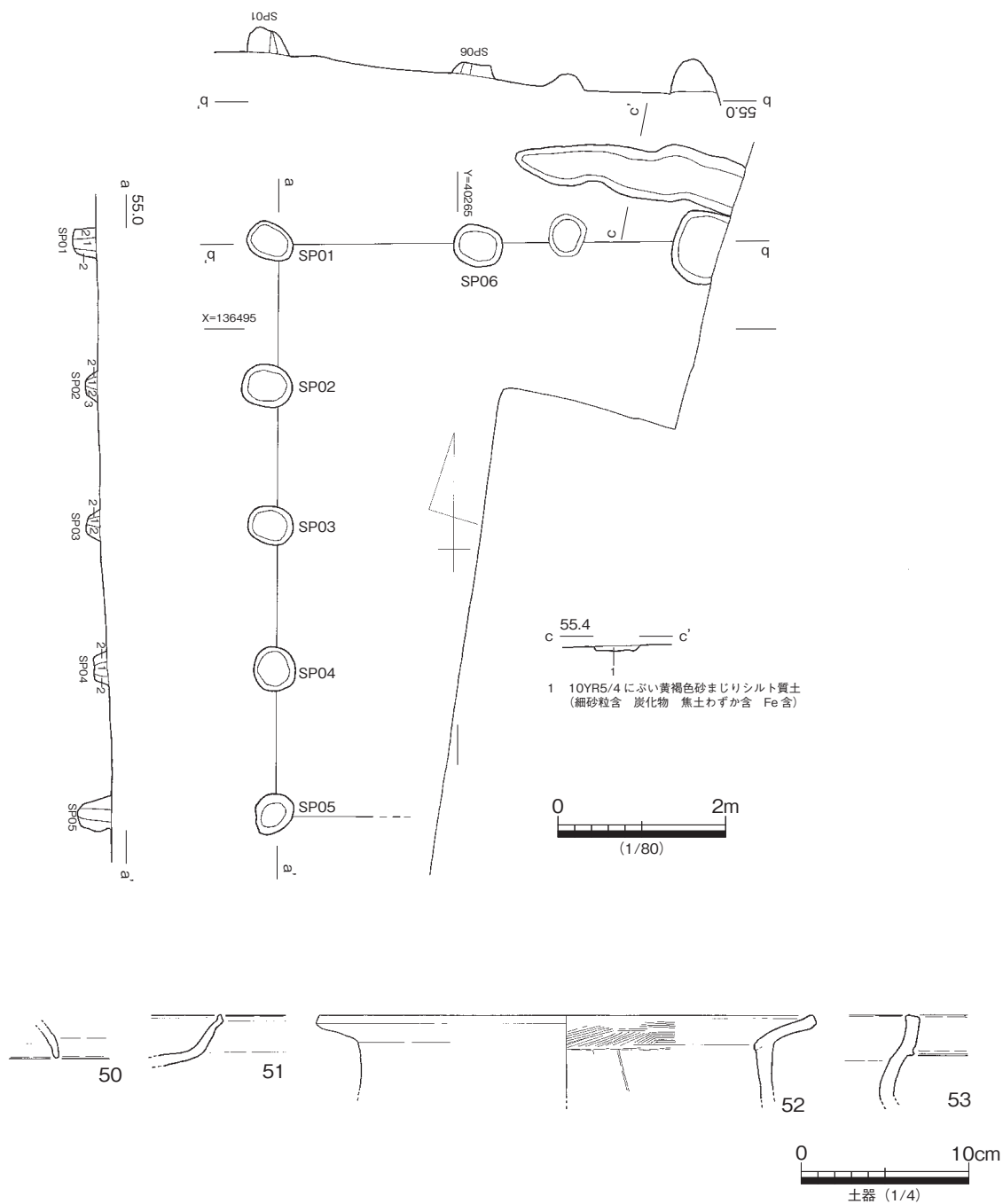


第21図 SBb04平・断面図, 出土遺物

SBb05 (第22図)

SBb02の身舎の西桁の延長線と合わせて建てられた側柱の掘立柱建物である。建物方位はほぼ真北方向に向く。東側は調査区外になるため、正確な平面規模は不明とせざるを得ないが、梁行2間(5.2m)、桁行4間(6.8m)と推定される。柱穴は径0.5mほどの円形もしくは楕円形のものが大半である。北辺に沿うSDb05(幅0.6m、深さ0.8m)は雨落ち溝と考えられる。

出土遺物は僅少で、10点ほどの土器細片が出土したのみである。50は細片である。須恵器蓋としたが杯である可能性もある。51の須恵器杯の口縁部はわずかに外反し端部は内側に丸くおさめている。



第22図 SBb05平・断面図, 出土遺物

52は土師器甕、53は口縁部の外側を肥厚させる須恵器甕の細片である。

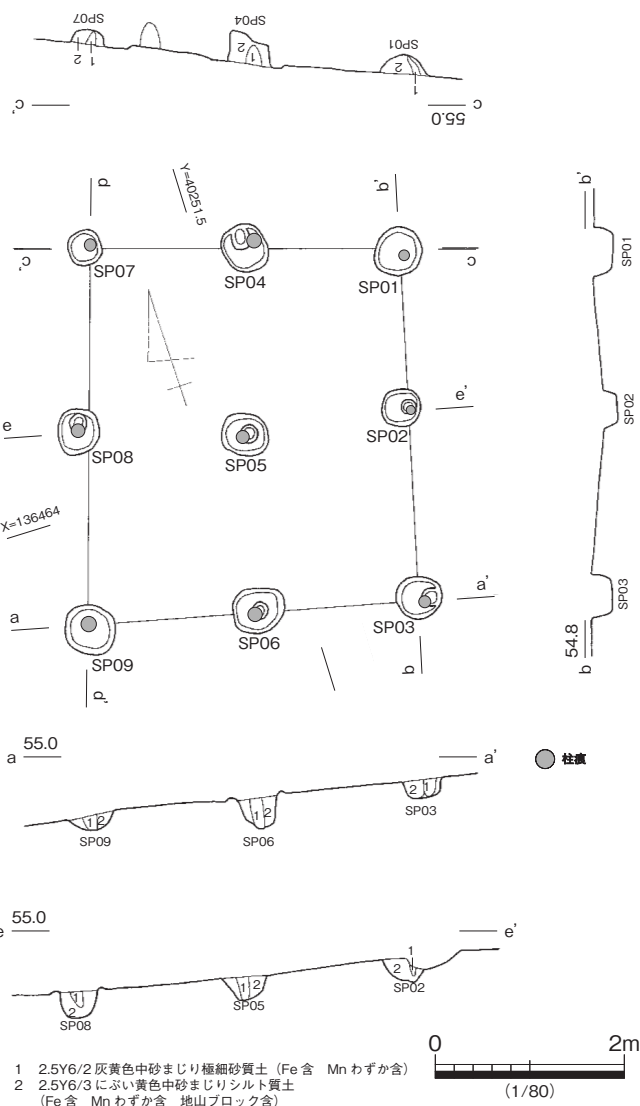
SBb06 (第23図)

2×2間の総柱の掘立柱建物である。建物方位は座標北から19度東に振る方向で、東西3.4m、南北4.0mを測る。柱穴は径0.5mほどの円形もしくは不整形円形を呈する。なお、建物の方向は西側に広がる条里地割の方向に近似する。

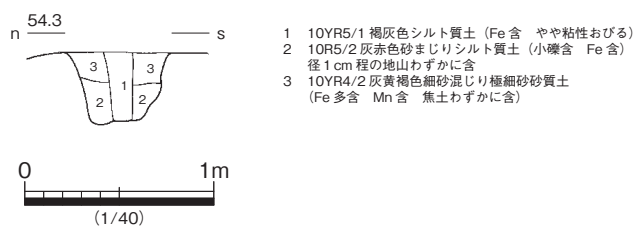
SBb06はほぼ正方形の平面形をもつ総柱建物であることから倉と考えられる。柱穴から出土した遺物は僅少で時期を推定することはできないが、北側の掘立柱建物群と柱穴の埋土の様相が共通していることから同一時期のものと判断する。なお、SBb06はSBb05から約25m離れているが、延暦10年2月12日の太政官符(『類聚三代格』卷十二所収)に類焼を防ぐために倉を十丈以上離すことと規定したものが注意される。時期的には前後するが、以前から屋と倉を意図的に離して建てる習慣があったのかもしれない。

その他の古代の柱穴 (第24図)

第24図のSPb01は建物に復原できなかったが柱痕をもつ柱穴である。須恵器の蓋および杯が出土している。



第23図 SBb06 平・断面図



第24図 その他の古代の柱穴断面図, 出土遺物

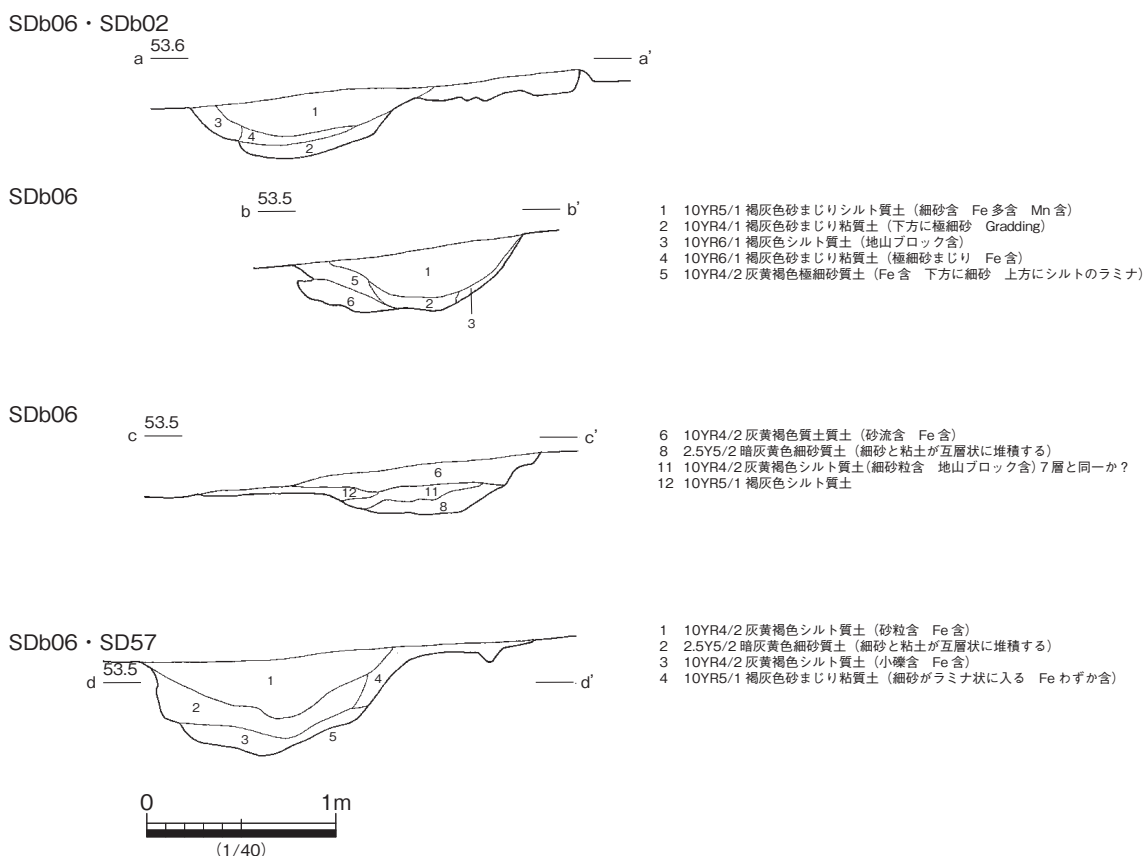
溝状遺構

SDb06 (第 25 ~ 27 図)

SDb02 の西側に平行して流れる溝状遺構である。流路から西側直角方向に数条の溝が分岐している。溝幅は 1.2 ~ 2.0 m、深さ 0.5 m ほどの規模で、断面形は椀状と呈する。堆積状況から 1 回以上の掘り直しがあったと観察される。断面図 1 の 1、4、2 層を上層、それ以外を下層として遺物を採集した。第 26 図の 56 ~ 63 は下層、64 ~ 71 は上層出土の遺物実測図である。また、第 27 図の 72 ~ 85 は SDb06 出土として遺物を取り上げたものであるが、SDb06 を埋める土の大半が上層に相当する部分が多かったことから、上層から出土したものが大半を占める。

下層からは、須恵器杯 (56)、須恵器壺 (57、58)、土師器の甕か甑の把手部分 (59) が出土している。いずれも細片である。また、サヌカイト製の石包丁 (60)、同製の削器 (61、62)、安山岩の石核 (63) が出土している。

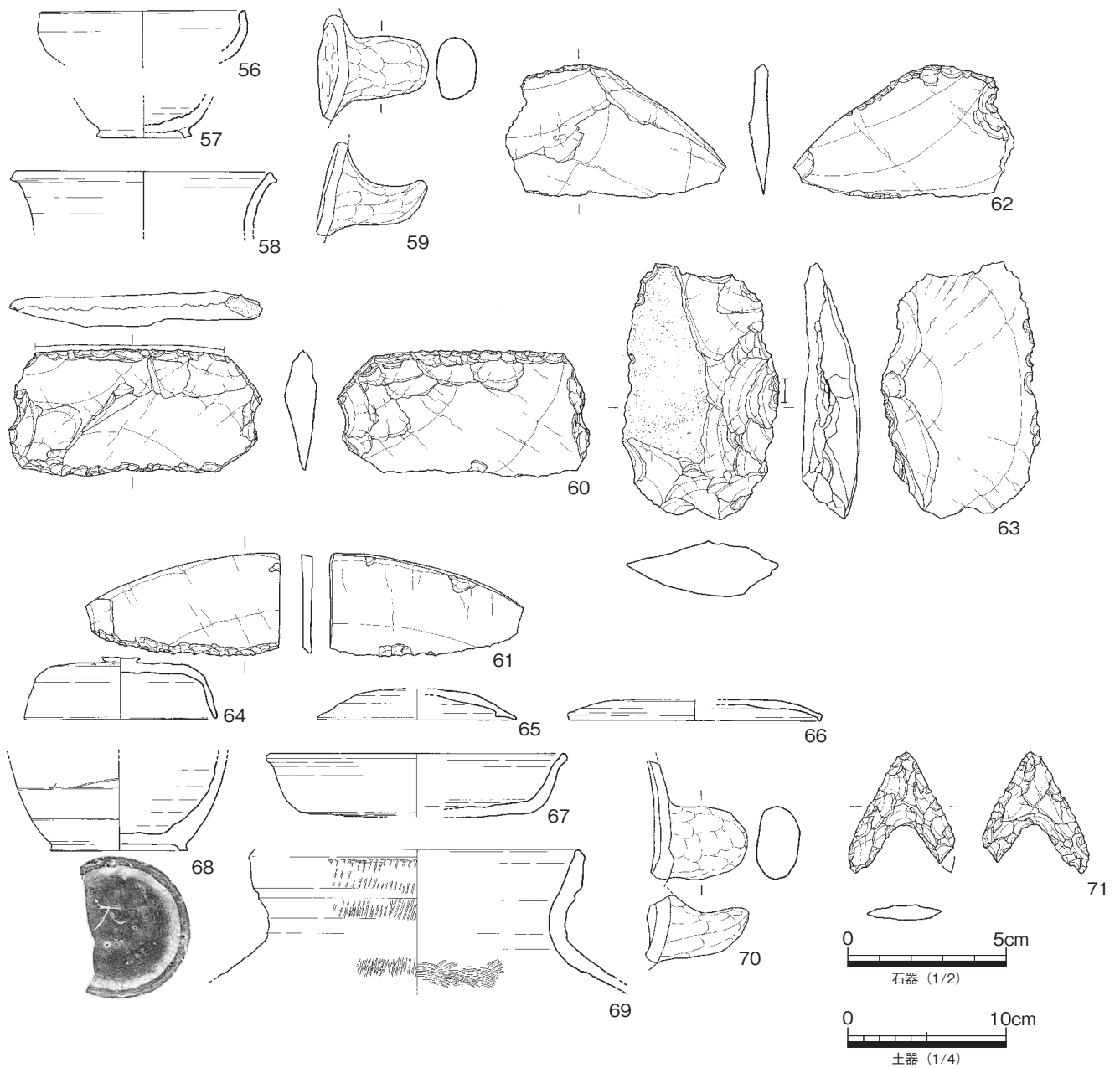
64 は須恵器蓋である。回転ヘラケズリした平らな天井部と高い口縁部をもち、天井部と口縁部の境に浅い窪みがあり、天井頂部に扁平な宝珠形つまみがつく。口縁端部は丸くおさめている。壺類の蓋である。65 も須恵器蓋、口縁部以下に突出しないかえりがつく。TK217 型式に併行する時期のものである。66 は須恵器蓋、67 は須恵器杯である。67 の口縁部内面には浅い沈線が巡っている。68 は須恵器壺である。底部外面にヘラ状工具による刻書が認められる。第 3 画が上にはねているが「大」と判読できる。69 は須恵器甕、70 は土師器の甕か甑の把手である。このほかにサヌカイト製の凹基式の石鏃 (71) が出土している。



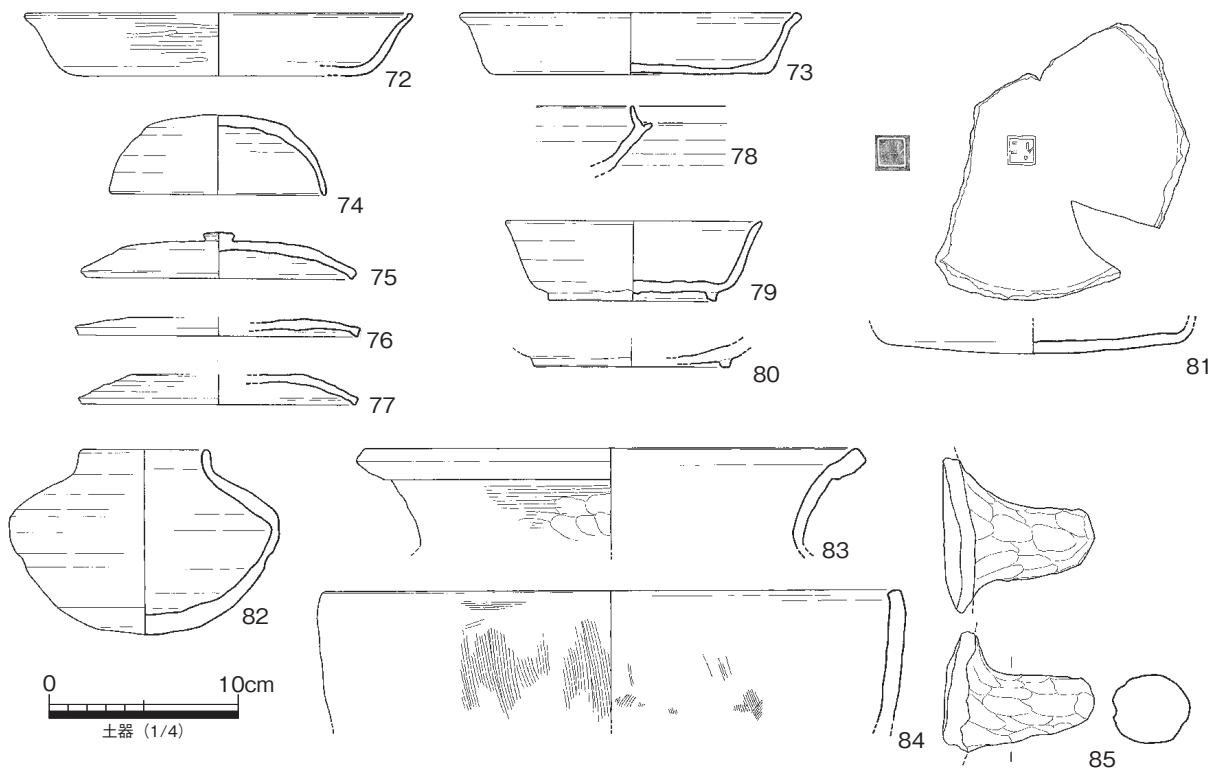
第 25 図 SDb06 断面図

72、73は土師器杯である。本調査区出土の土師器は表面が摩滅しているものが多いが、72の外表面には水平方向のヘラミガキが見られる。74～77は須恵器蓋。74は天井部と口縁部の境界に浅く広い窪みがあり、TK217 併行である。75～77は径14.0～14.7cmに復原され、口縁端部は下方にわずかに突出させている。稜は甘い。78は立ち上がりをもつ須恵器杯。受け部にヘラ状工具による凹線が見られる。79、80は須恵器杯、81は須恵器皿である。81の見込み中央付近には、一辺1.5cmの四角形の枠内部に人偏の一字からなる刻字が認められる。文字は判読できない。82は須恵器壺、83は須恵器甕、84は土師器甑、85は土師器の甕か甑の把手部分である。

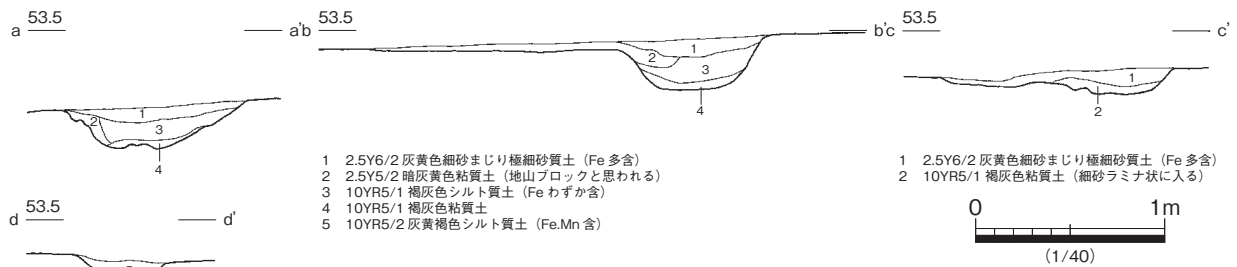
SDb06 出土の遺物は、TK209 型式から8世紀後半にかけての時期幅をもったものである。下層の年代については特定できないが、上層については8世紀後半に埋没したものと考えられる。



第26図 SDb06 出土遺物 (1)

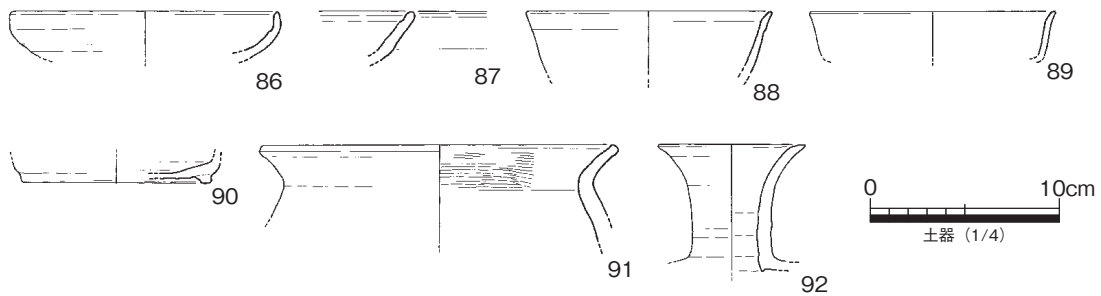


第 27 図 SDb06 出土遺物 (2)



- 1 2.5Y6/2 灰黄色細砂まじり極細砂質土 (Fe 多含)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (地山ブロックと思われる)
- 3 10YR5/1 褐灰色シルト質土 (Fe わずか含)
- 4 10YR5/1 褐灰色粘質土
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土 (Fe, Mn 含)

5 10YR5/2 灰黄褐色細砂まじり極細砂質土
(砂は SORT あり)



第 28 図 SDb07・SDb08 断面図, 出土遺物

SDb07・08 (第28図)

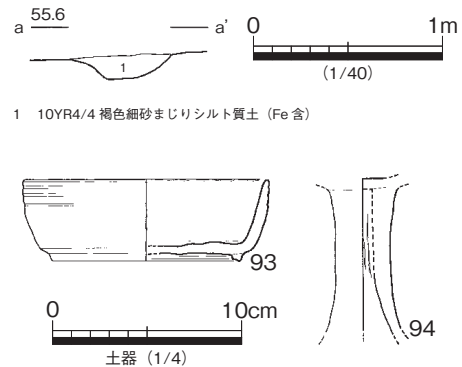
SDb06の西側に併行して流れる溝状遺構である。SDb07は本報告対象地域の南側に位置するC13調査区で発現し、B16調査区で消滅する。SDb06との前後関係は不明である。溝幅0.7～0.9m、深さ0.25mほどの規模で、西側にオーバーフローした堆積物が薄く溜まっている。断面形は椀状である。SDb08はSDb07の左岸から分岐し、さらに西方と北方に分岐する溝状遺構である。溝幅は0.4m、深さ0.1mほどの規模である。両溝から90点余りの土器細片が出土しているが、遺構の年代を明示するような出土状況のものはない。

第28図86～92はSDb07(86、87、92)、SDb08(88～91)から出土した遺物実測図である。いずれも細片である。86～90は須恵器杯と考える。91は土師器甕、92は須恵器壺である。出土遺物から遺構の時期を特定することは困難であるが、SDb06の埋土と類似することも合わせて8世紀代の溝状遺構と考える。

SDb09 (第29図)

B17調査区のSBb02の東側で検出した溝状遺構である。SXb01と切り合いがありSXb01より新しい。掘立柱建物の雨落ち溝と同様に斜面下部に向かう途中で消滅している。溝幅0.5m、深さ0.1mほどの規模で、断面形は椀状を呈する。

30点弱の遺物細片が出土しているが、年代を特定できるような出土状況のものはない。93は須恵器杯、94は焼成不良で土師質の焼き上がりの須恵器高杯である。94は断面円形で回転などが認められる。



第29図 SDb09 断面図, 出土遺物

その他の溝状遺構 (第30図)

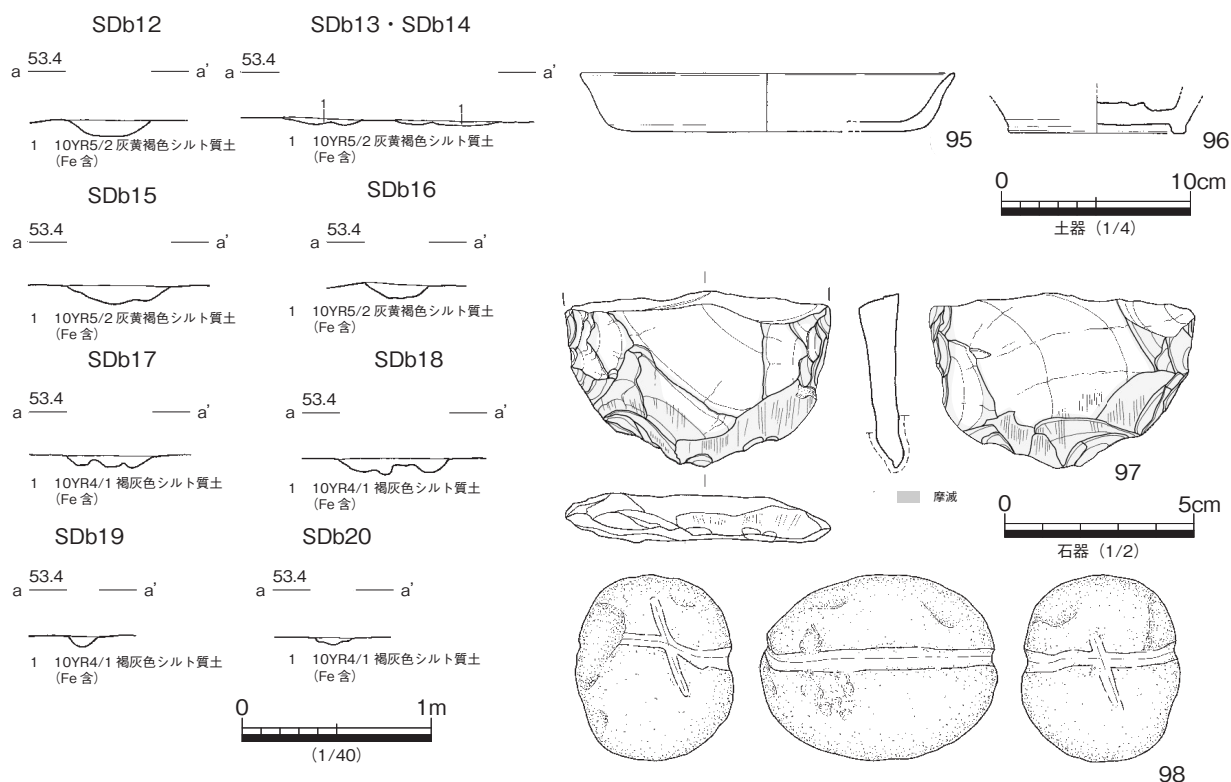
B17調査区のSDb06からは、西側に直交する方向で派生する小溝多数が検出されている。検出段階ではSDb06と切り合い関係が見られなかった。また、SDb06と交わらない小溝についても、埋土が共通することから同時期と考えられる。溝幅は0.15～0.5m、深さ0.05～0.1mを測る。溝と溝の間隔については、数グループに分類すると規格性があるようであるが詳細不明である。なお、後述の道路関連の波板状凹凸面(SXb02)の溝間よりも溝幅は広いが、共通する性格のものかもしれない。

第30図の95は須恵器杯である。重ね焼きの痕跡がある。96は須恵器壺、97はサヌカイト製の石鋏、98は砂岩製の石錘である。図化できない遺物片の知見や切り合い関係からSDb06と同時期の遺構と考えられる。

不整形遺構

SXb01 (第31図)

B17調査区の調査区東壁付近で検出した凹地である。遺構の性格はよくわからない。99は混入と考えられる須恵器蓋、100、101は須恵器杯、102は土師器甕、103は形態から土師器鍋と考える。



第 30 図 その他の溝状遺構断面図, 出土遺物

SXb02 (第 32 図)

B16 調査区の SDb06 の西側に接して検出した波板状凹凸面である。幅 0.4 m、深さ 0.05 ~ 0.1 m ほどの小溝が 0.25 ~ 0.3 m の間隔で並列する。溝長は最大で 1.4 m を測る。土器細片数点を検出したが時期を特定することはできない。SDb06 の最終埋没の埋土に切られるが、SDb06 の流路の湾曲に合致するように敷設されることから SDb06 と同じ時期の遺構と考える。このように小溝が並列する状況は道路の下部構造として把握されており、本例も道路遺構に係わるものと把握できる。しかし、道路幅や道路の経路については不明である。

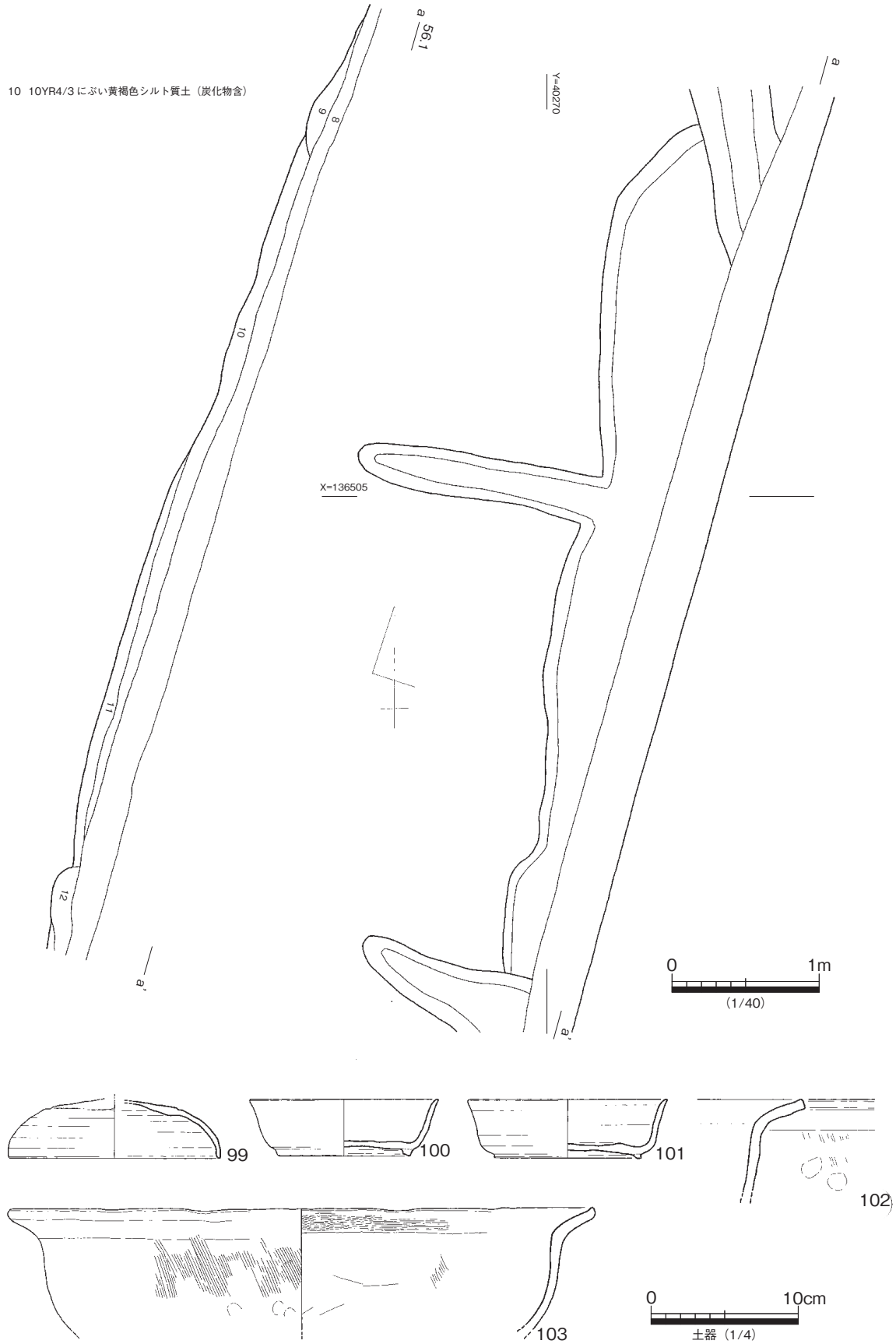
SKb01 (第 33 図)

SK の遺構番号を振ったが、南北幅 1.5 m、深さ 0.15 m ほどの平面および断面形ともに不定形の落ち込みである。規模の 20 点あまりの土器細片が出土している。104 は土師器杯の細片、105 は宝珠形つまみを付した須恵器蓋、106 はサヌカイト製の凹基無茎鏃である。

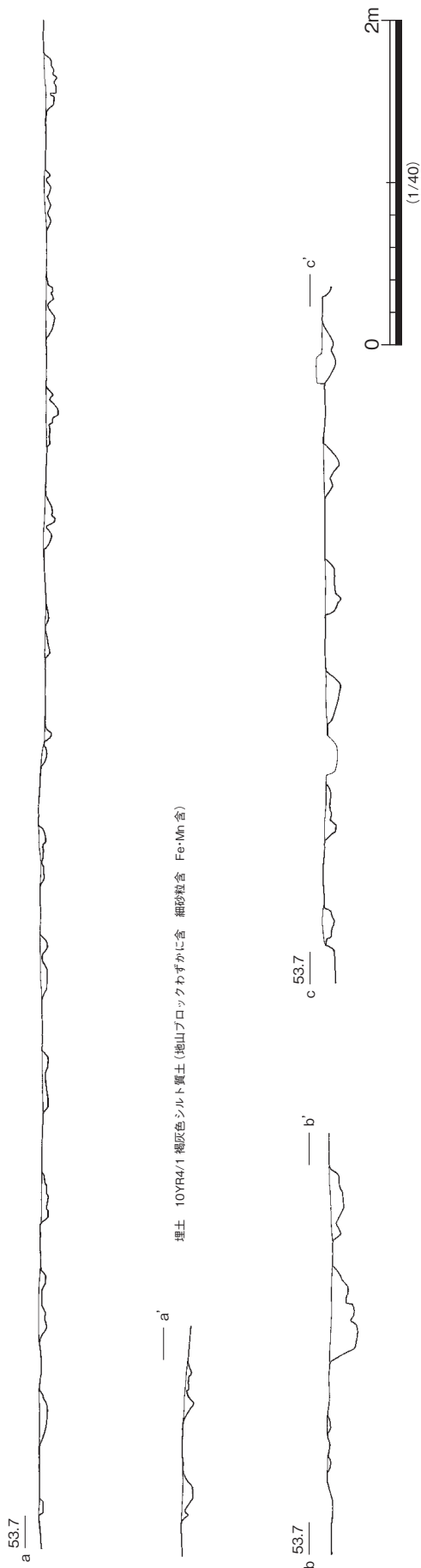
4. 中世の遺構・遺物

B16 調査区の SDb01 の東側を中心とする範囲に 0.2 m ほどの直径の柱穴が多数検出されている。遺物が出土した柱穴は少ないが、中世の土師質土器の細片が含まれており、埋土の共通性から中世の柱穴と考える。このうち長方形の柱穴配置になるものを掘立柱建物として報告する。

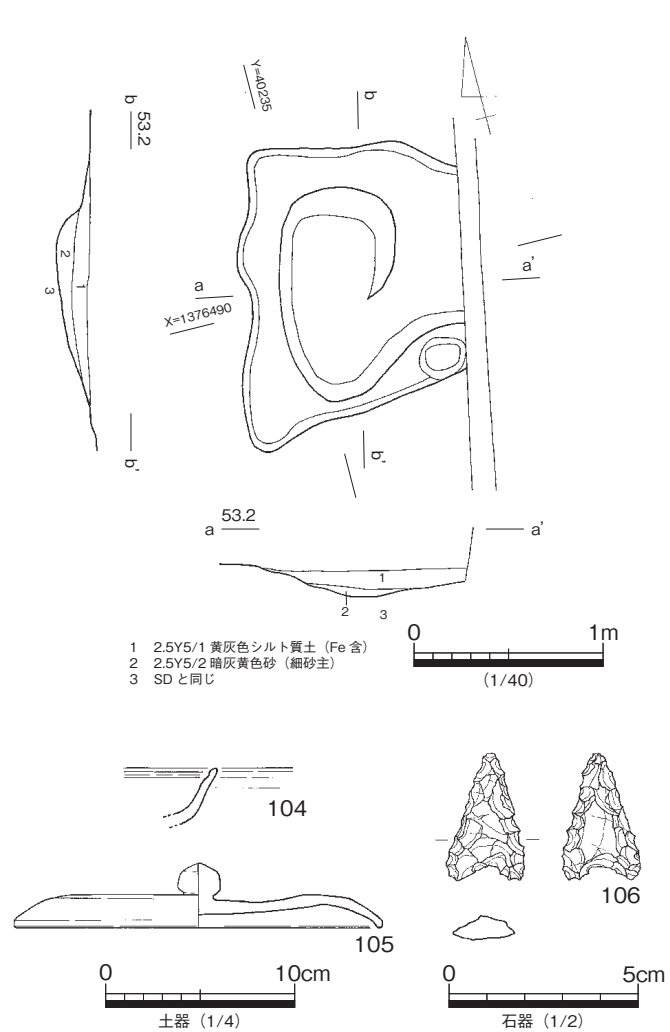
10 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質土 (炭化物含)



第 31 図 SXb01 平・断面図, 出土遺物



第 32 図 SXb02 断面図



第 33 図 SKb01 平・断面図, 出土遺物

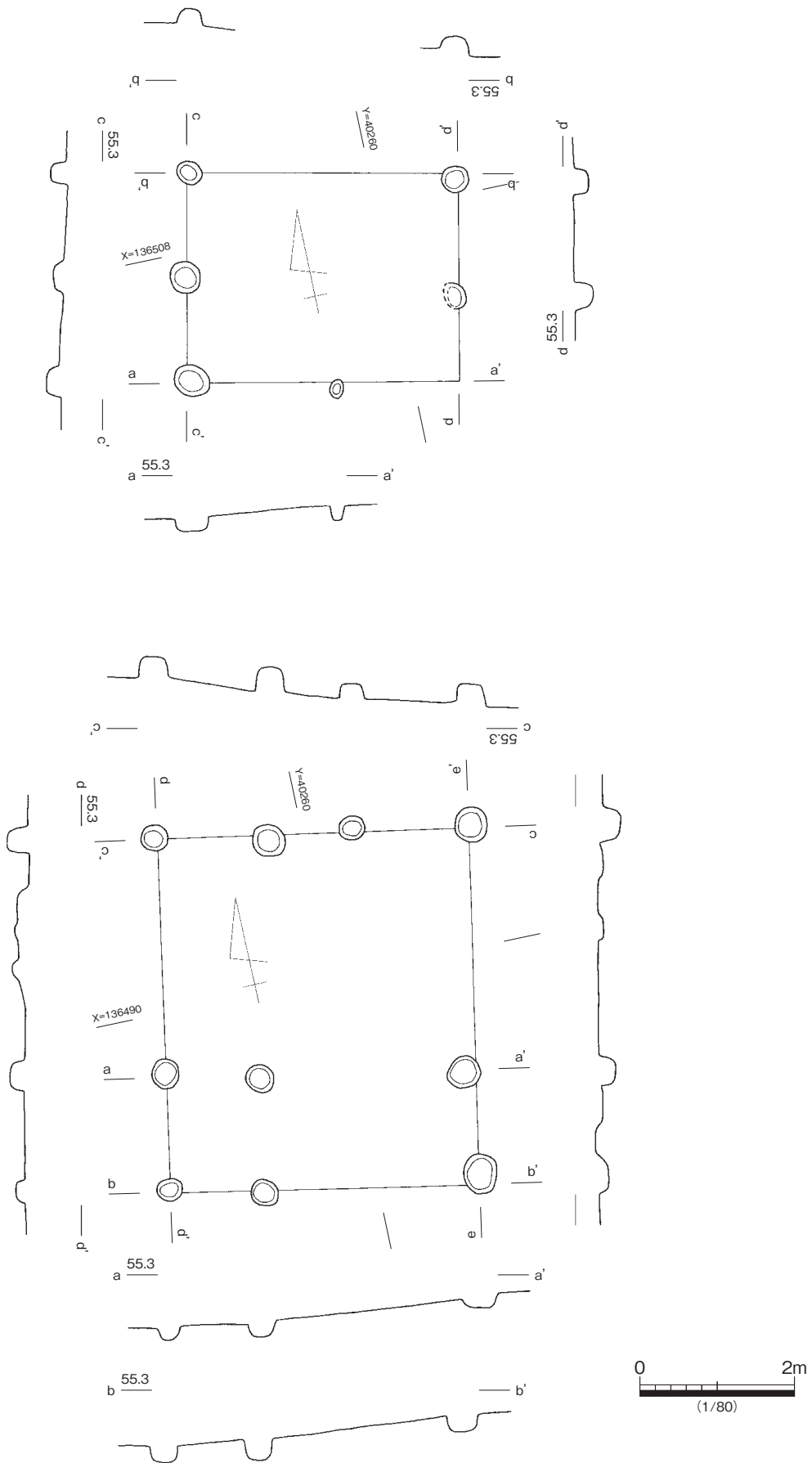
掘立柱建物

SBb07 (第 34 図)

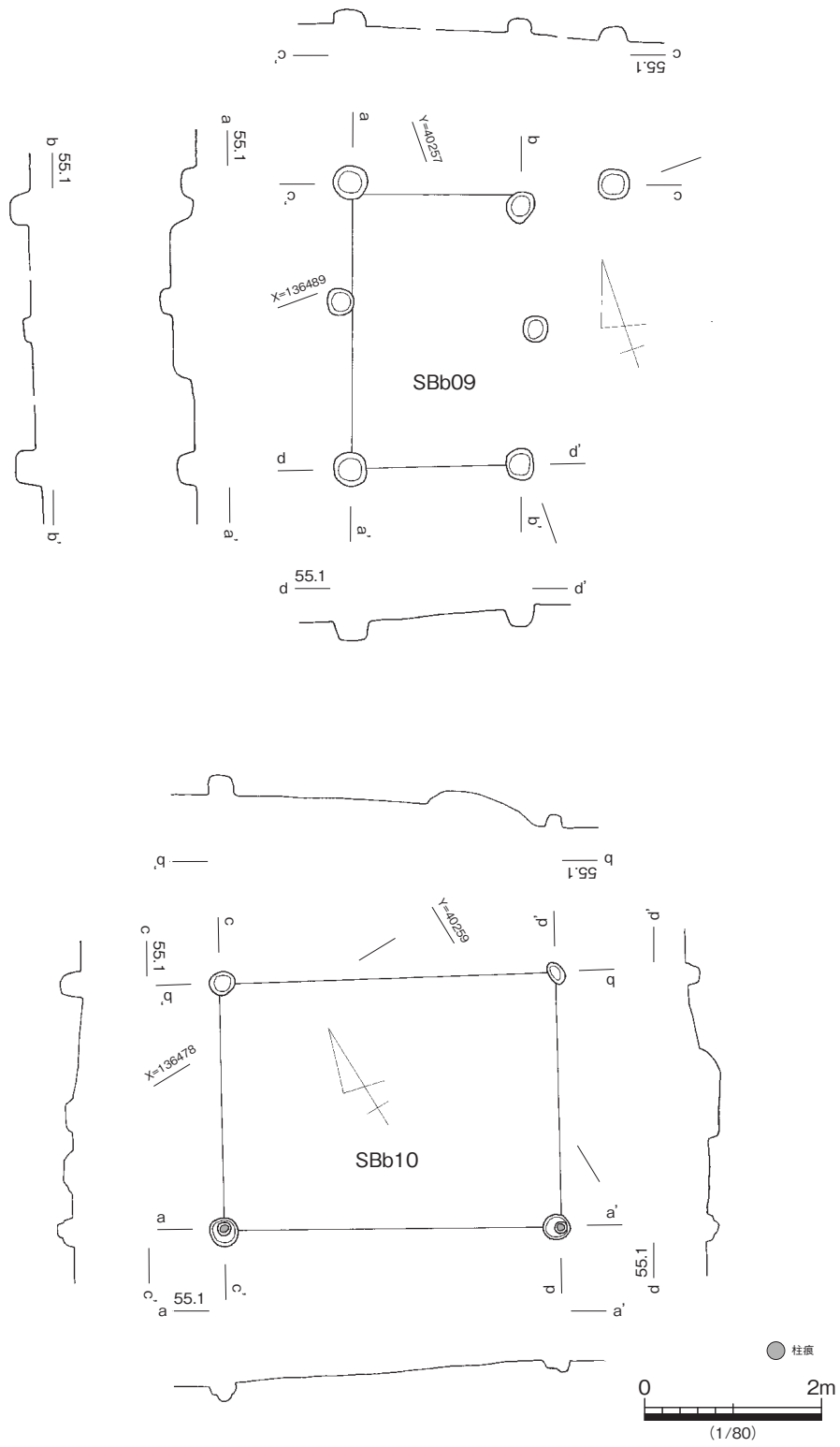
SBb02 と重複する位置に検出された掘立柱建物である。梁行 2 間 (2.7 m)、桁行 1 間 (3.5 m) で梁行の方向は座標北から 12 度東に振る。柱穴から時期を特定し得る遺物は出土していない。

SBb08 (第 34 図)

SBb02 と SBb05 の間で検出された掘立柱建物である。梁行 1 間 (3.0 m)、桁行 3 間 (4.0 m) で南辺に庇 (長さ 1.5 m) が付される。梁行は座標北から 11 度東に振った方向で、北側の SBb07 とほぼ同一方向を向く。遺物は出土していない。



第 34 图 SBb07 · SBb08 平 · 断面图



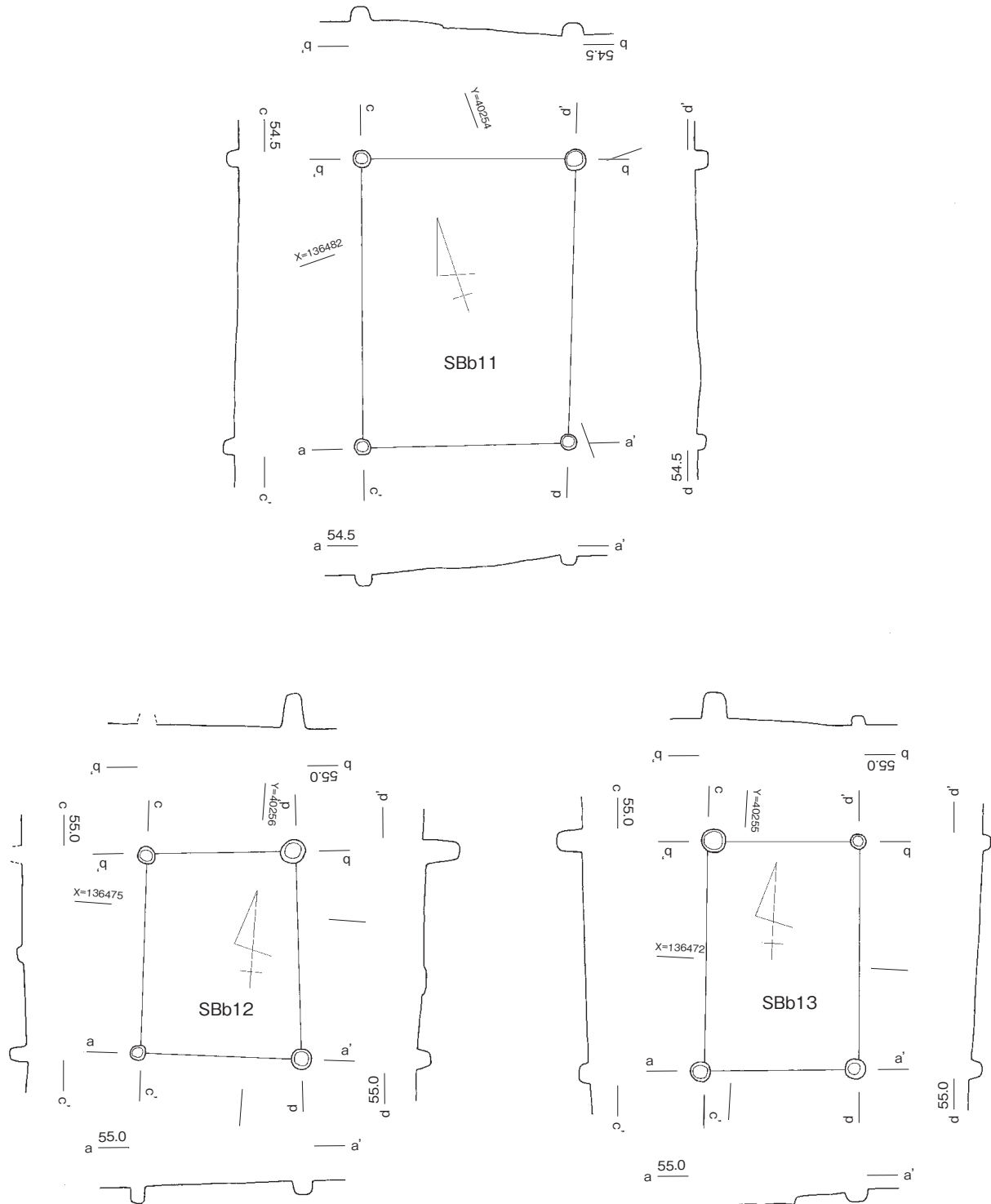
第 35 图 SBb09 · SBb10 平 · 断面图

SBb09 (第 35 図)

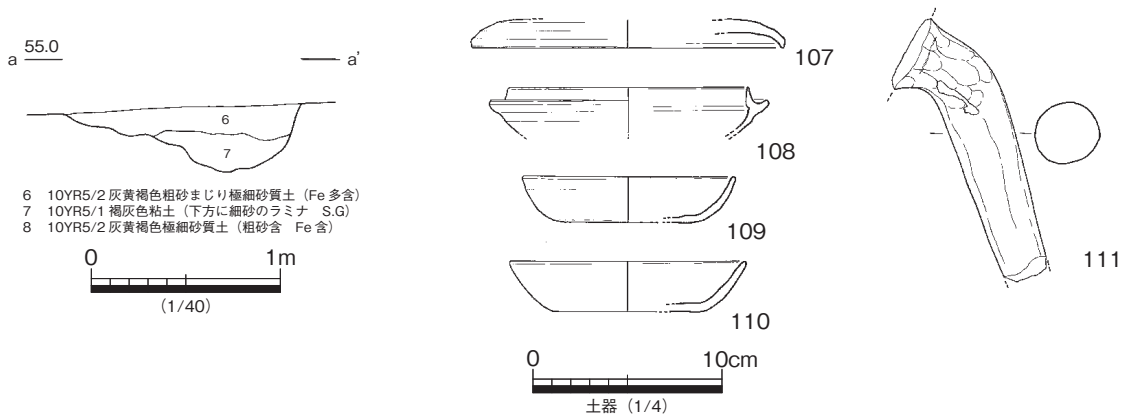
2 間 (3.0 m) × 2 間以上 (3.0 m) の束柱をもつ掘立柱建物である。東半は調査区外になる。建物方位は座標北から 18 度東に振る。遺物は出土していない。

SBb10 (第 35 図)

1 間 (2.8 m) × 1 間 (3.3 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 60 度西に振る。遺物は出土していない。



第 36 図 SBb11 ~ SBb13 平・断面図



第 37 図 SDb10 断面図, 出土遺物

SBb11 (第 36 図)

1 間 (2.7 m) × 1 間 (3.7 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 19 度東に振る。遺物は出土していない。

SBb12 (第 36 図)

1 間 (2.0 m) × 1 間 (2.5 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 3 度西に振る。遺物は出土していない。

SBb13 (第 36 図)

1 間 (1.9 m) × 1 間 (2.9 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 2 度西に振る。遺物は出土していない。なお、SBb12、13 付近は柱穴が集中しており、別の建物の復原案もあることを付記する。

溝状遺構

SDb10 (第 37 図)

B16、C17、D15n 調査区で中世の溝状遺構を検出している。SDb10 は B16 調査区で検出した直線の流路の溝で、検出長 11 m、SDb27 に壊される。西側に小溝が分岐する。溝の流向は座標北から 9 度東に振った方向で、溝幅 1.2、深さ 0.35 m ほどの規模である。

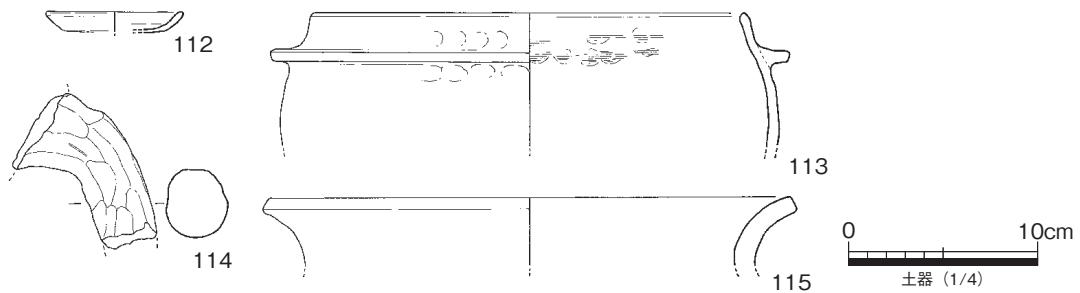
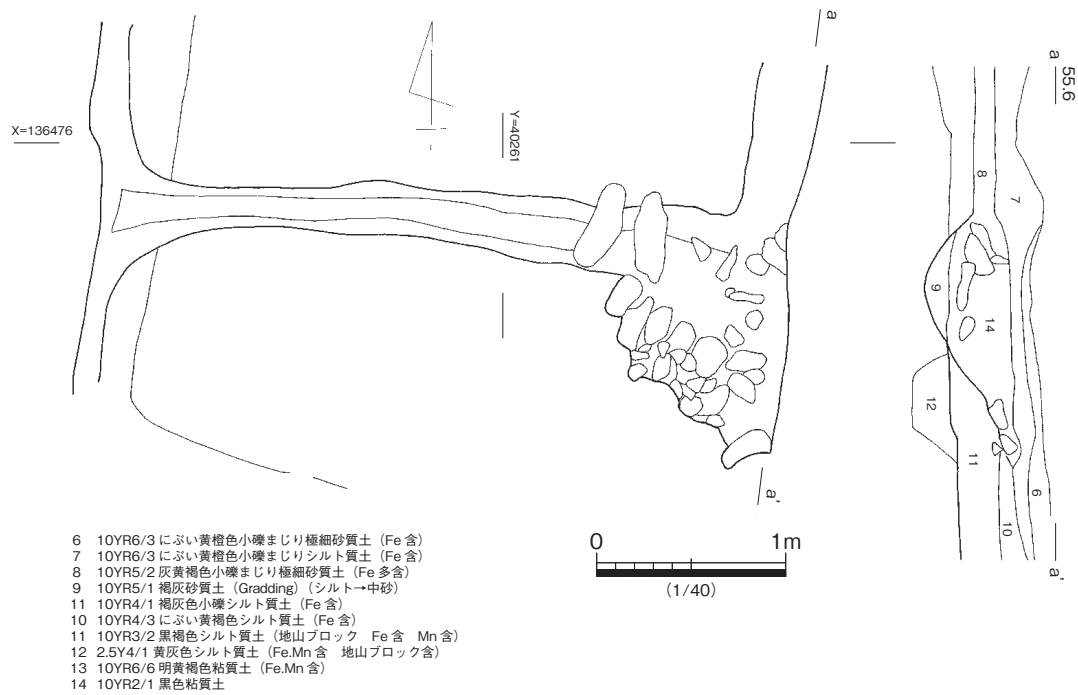
第 37 図 107 は須恵器蓋の細片、108 は須恵器杯の細片である。109、110 は土師質土器杯、111 は土師質土器足釜の脚部片である。

SDb10 は出土遺物から中世前半のものと考えられる。

SDb11 (第 38 図)

B16 調査区で検出した東西方向に流れる溝状遺構である。SHb02 を壊す。調査区東端付近では拳大から一抱えほどの大きさの自然石が多数出土しているが、積まれたような形跡は無く性格不明である。西側で SDb27 に合流する。溝幅は 0.3 m、深さ 0.3 m で、礫集中部で幅広となる。

おもに礫間から遺物が出土している。112 は土師質土器小皿、113、114 は土師質土器足釜、115 は亀山焼と考えられる甕小片である。



第 38 図 SDb11 平・断面図, 出土遺物

その他の溝状遺構 (第 39 図)

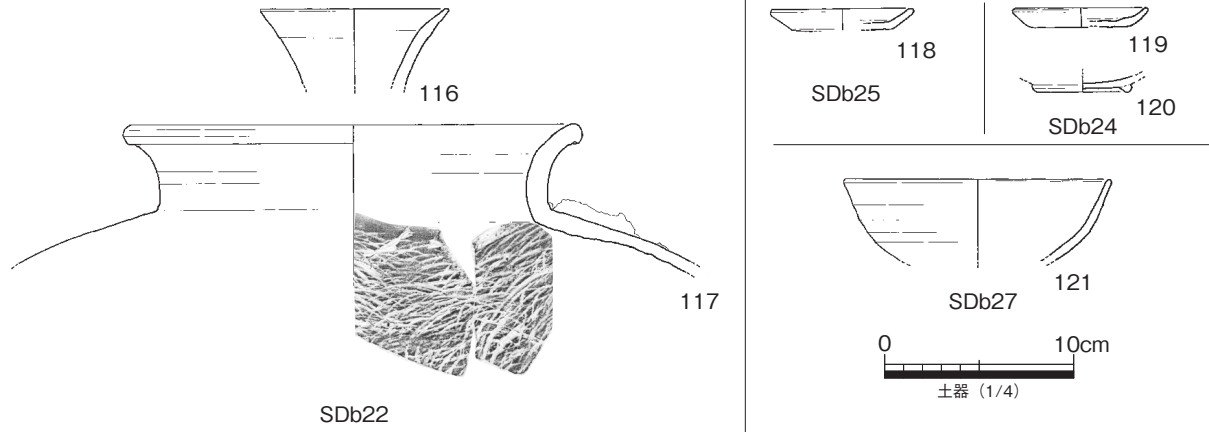
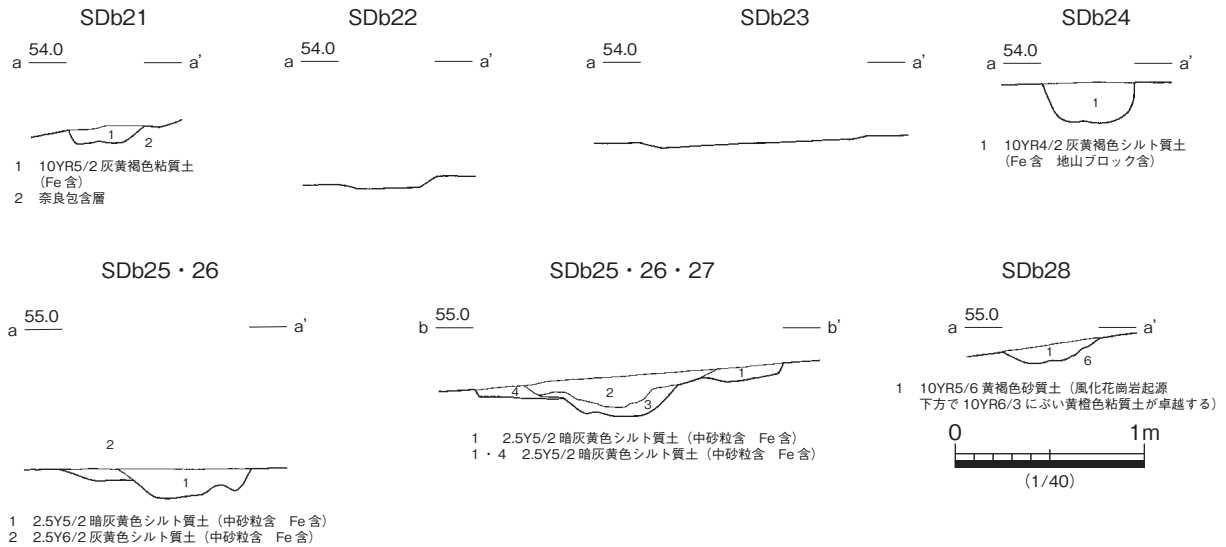
B16、17 調査区からは、上記のほかにも中世に属する溝状遺構が検出されている。

SDb21 は、SDb06 と SBb03 の間で検出された斜面の傾斜に直交する方向の溝状遺構である。溝幅 0.4 m、深さ 0.07 m で断面形は U 字状を呈する。直線状の流路で、座標北から 9 度東に振る方向に流れる。これは既述の SDb10 や後述の SDb29 などと同一の方向である。図化可能な遺物はないが、中世土師質土器の破片が出土している。

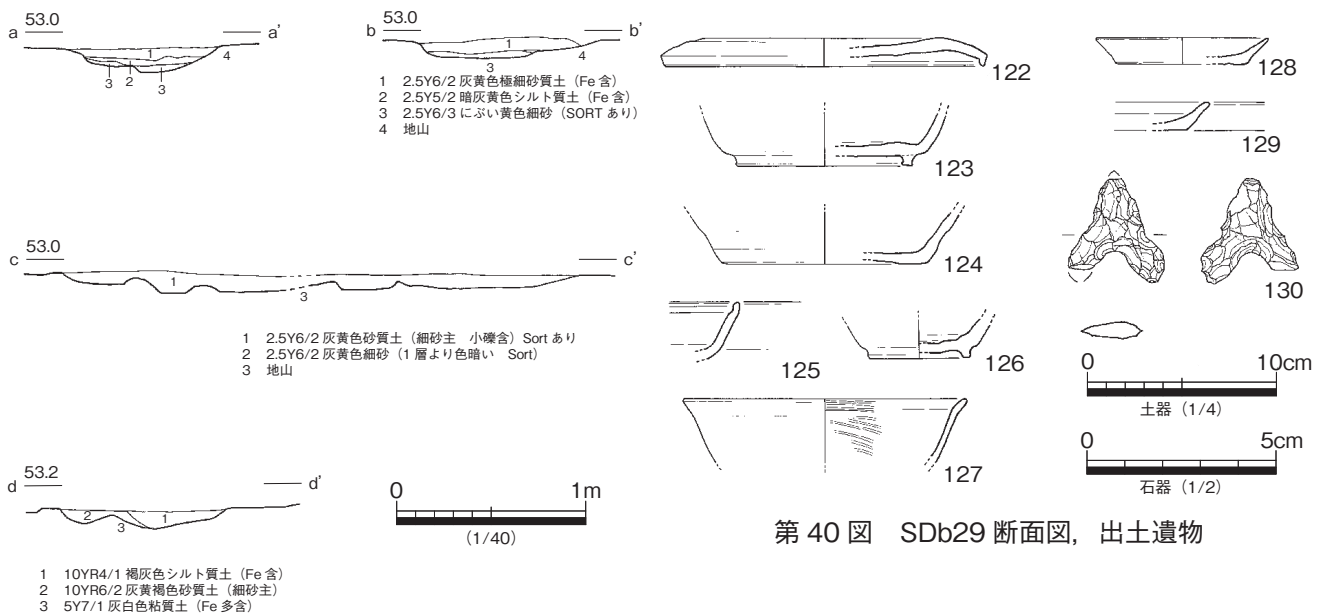
SDb22 は、SDb21 の西を流れる溝状遺構である。SDb06 と切り合い関係があり SDb06 よりも新しい。116 の須恵器壺、117 の須恵器甕が出土しているが混入と考えられ、埋土の共通性などから中世の遺構と考えられる。

SDb23 は、最大幅 1.1 m のさやえんどうのような平面形の溝状遺構である。図化可能遺物はないが、中世土師質土器片が出土している。

SDb24 は斜面の傾斜方向に流れる溝状遺構である。溝幅 0.5 m、深さ 0.2 m で U 字状の断面形を呈する。検出長は 3 m である。119、120 の土師質土器小皿、椀片が出土している。



第39図 その他の溝状遺構断面図, 出土遺物



第40図 SDb29断面図, 出土遺物

SDb25 は、SHb02 付近から北流し、緩やかに傾斜方向に屈曲し、西側に広がる条里地割と同じ方向で西に流れる。溝幅は 0.7 m、深さ 0.15 m を測る。118 の土師質土器小皿が遺構の年代を示す。

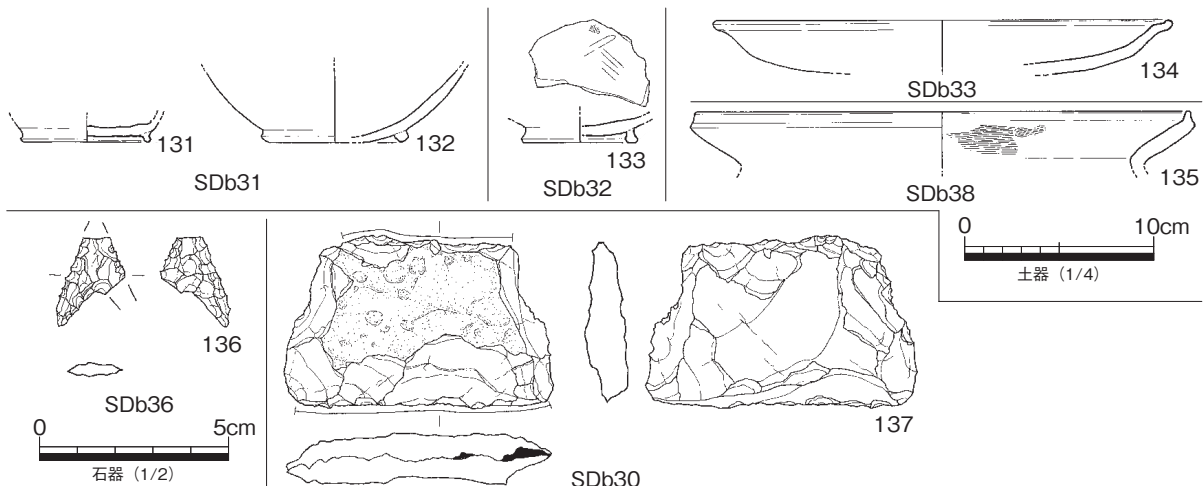
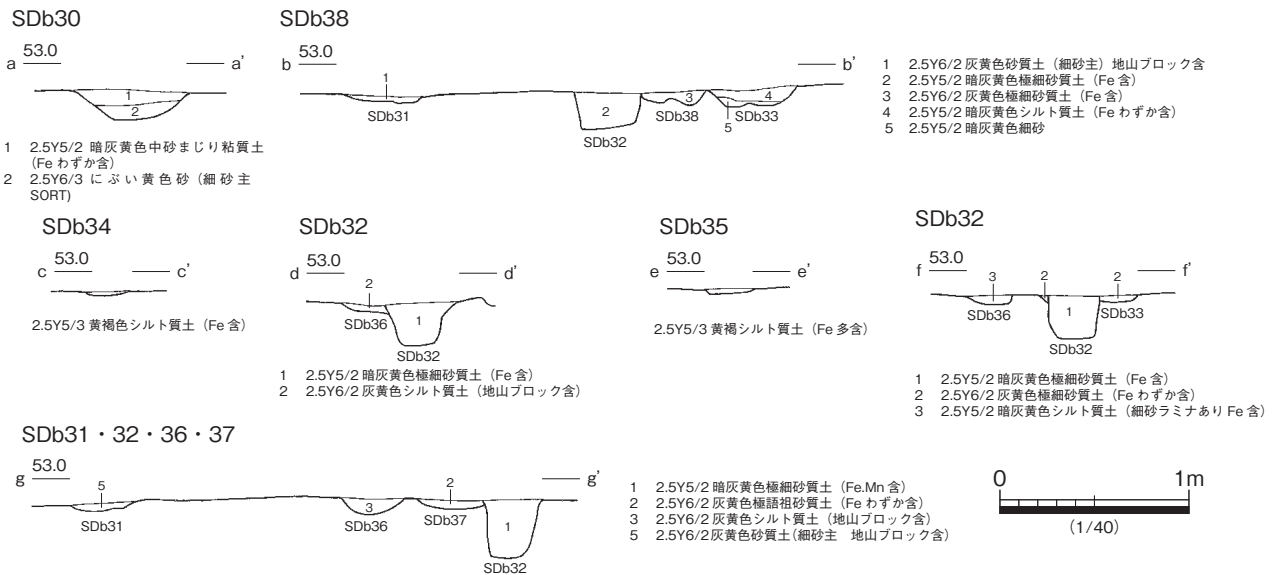
SDb26 は SDb25 の北側に平行して流れる溝状遺構である。SDb25 と切り合いがあり SDb25 より古い。図化遺物はないが埋土の共通性などから中世の遺構と考えられる。

SDb27 は SDb10 の南延長線上にあり、「コ」字状の平面形をもつ溝状遺構である。東寄りに深さ 0.2 m の椀状の断面形の溝があり、西側にオーバーフローした堆積物が浅く堆積する。溝幅は最大 1.3 m を測る。121 の須恵器椀の小片が出土しているが、切り合い関係などから中世に下る溝である。

SDb28 は SDb27 の南延長線上に位置する。溝幅 0.5 m、深さ 0.1 m ほどの規模である。図化遺物はないが、出土遺物に中世土師質土器小皿の小片が含まれる。

SDb29 (第 40 図)

C17、D15n 調査区で検出した溝状遺構である。東西方向に流れる後述の溝群 (SDb30 ~ 38) との交差付近で平面形が不明瞭となるが、座標北から 9 度東に振った方向に直線に流れる。北側の C18、C19 調査区 (『西末則遺跡 III』SDd082)、南側の C15s、D12 調査区の溝状遺構に連続する。溝幅 0.8 m、深さ 0.15



第 41 図 SDb30 ~ 38 断面図, 出土遺物

mで、浅い椀状の断面形を呈する。

遺物は時期幅をもった細片が出土している。第40図の122～126は須恵器の蓋、杯、壺、127は内面黒色の黒色土器椀の小片、128、129は土師質土器小皿である。128、129がSDB29の年代を示すと判断される。

SDb30～38（第41図）

C17調査区の南半では複数の溝が6mほどの幅のなかで同じ方向で切り合いながら検出された。座標北から73度西に振る方向は、西側に広がる条里地割の方向と一致する。溝の規模は、幅0.35m、深さ0.3mでU字形の断面のSDb32から、溝幅0.25m、深さ0.03mのSDb35まで多様である。

時期幅をもった遺物細片が出土している。131は須恵器杯、132は土師質土器椀、133は両面黒色の黒色土器椀である。134は土師器高杯とした。内外面に暗文やヘラミガキは認められない。135は土師器甕、136はサヌカイト製石鏃、137は楔形石器と考える。図化遺物の年代の上限は10世紀代と考えられるが、SDb29との切り合い関係を考慮するとSDb30～38は中世に所属すると考える。

5. 中世以降の遺構・遺物（第42図）

B16、17調査区（丘陵斜面）で複数の焼成遺構を検出している。底面が赤変し、埋土に炭化物を多く含む点で共通する。切り合い関係から中世より新しいことは明確であるが、正確な年代は不明である。

6. 遺構に伴わない遺物（第43・44・45・46図）

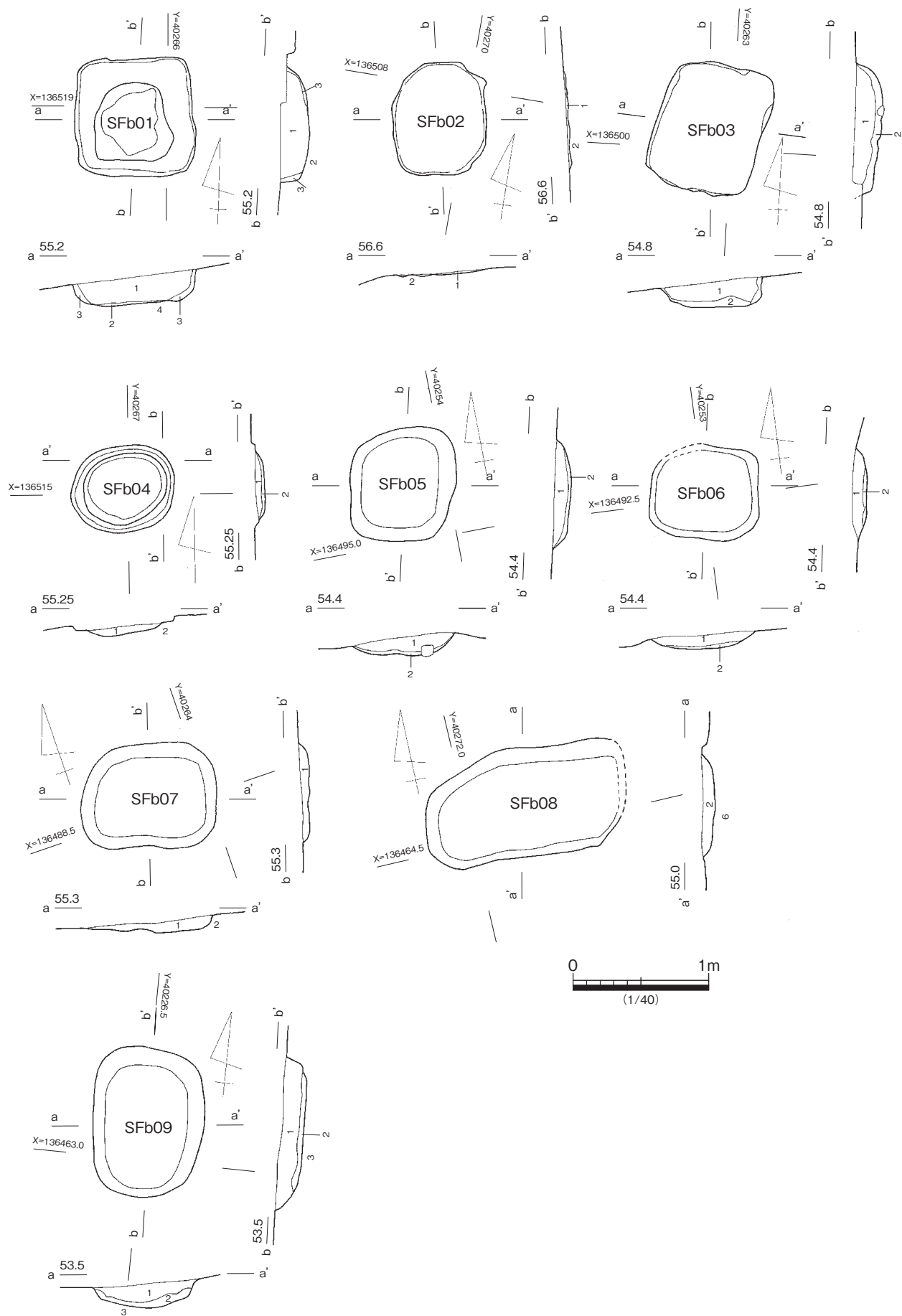
第43図は、調査時に包含層「赤茶」と仮称していた包含層出土の遺物である。包含層の層位や範囲は「第1節 層序」で述べたとおりである。この包含層を除去すると複数の掘立柱建物が検出されることは調査の早い段階で分かったため、遺物の出土位置と掘立柱建物の関係が検討できるように、2mグリッドの方眼を設けて遺物を取り上げた。しかし、中心となるSBb02の柱穴からは遺構の年代を検討しうる遺物が出土しているため、結果としてグリッドによる遺物取り上げは大きな意味を持たなかった。

出土遺物は弥生時代から古代までのもので、若干がTK209型式に併行する時期の竪穴住居と同時期のもの、大半が掘立柱建物群と同時期のもの、若干が掘立柱建物群より後出する時期のものからなる。古代の土器は、焼成不良であったり、形が大きく歪んでいるものが目立つ点が特徴である。なお、177は砂岩製の太型蛤刃石斧の先端部の破片である。

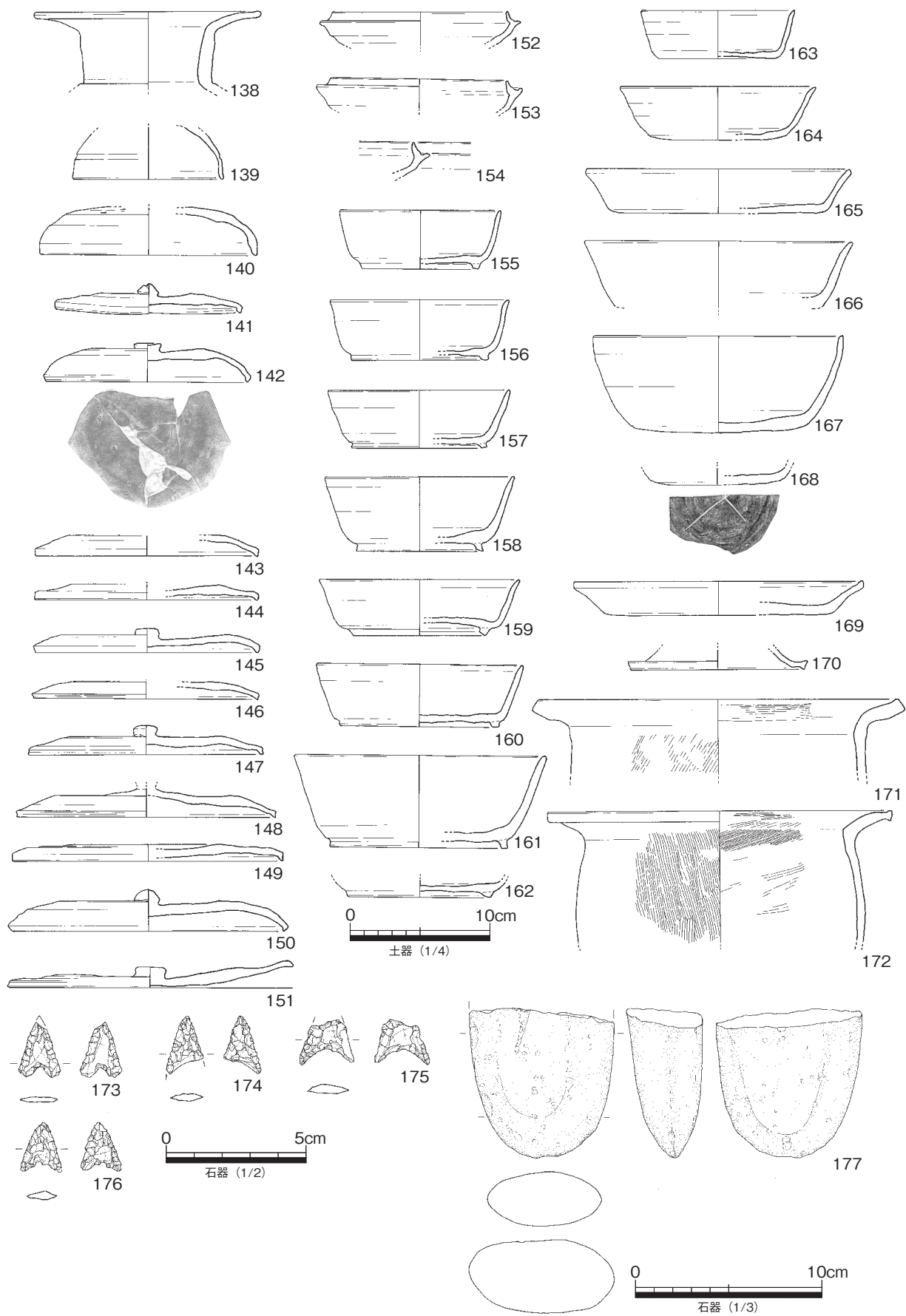
第44図は調査時に「奈良包含層」と仮称していた包含層である。層位や範囲は第1節に述べたとおりである。192は強いて径を復原すると24cmほどになり、須恵器盤と考える。

第45図は「包含層」として取り上げた遺物の実測図である。199は口径41.8cmを測る大型の甕で、口縁外面をヘラ描き沈線により水平方向に4分割し、上部3区画にヘラ描きによる縦方向の沈線を施している。また、最上部の区画にはさらに斜め方向の沈線を加えている。200は亀山焼の甕、202はサヌカイト製の槍先形石器の未製品と考える。

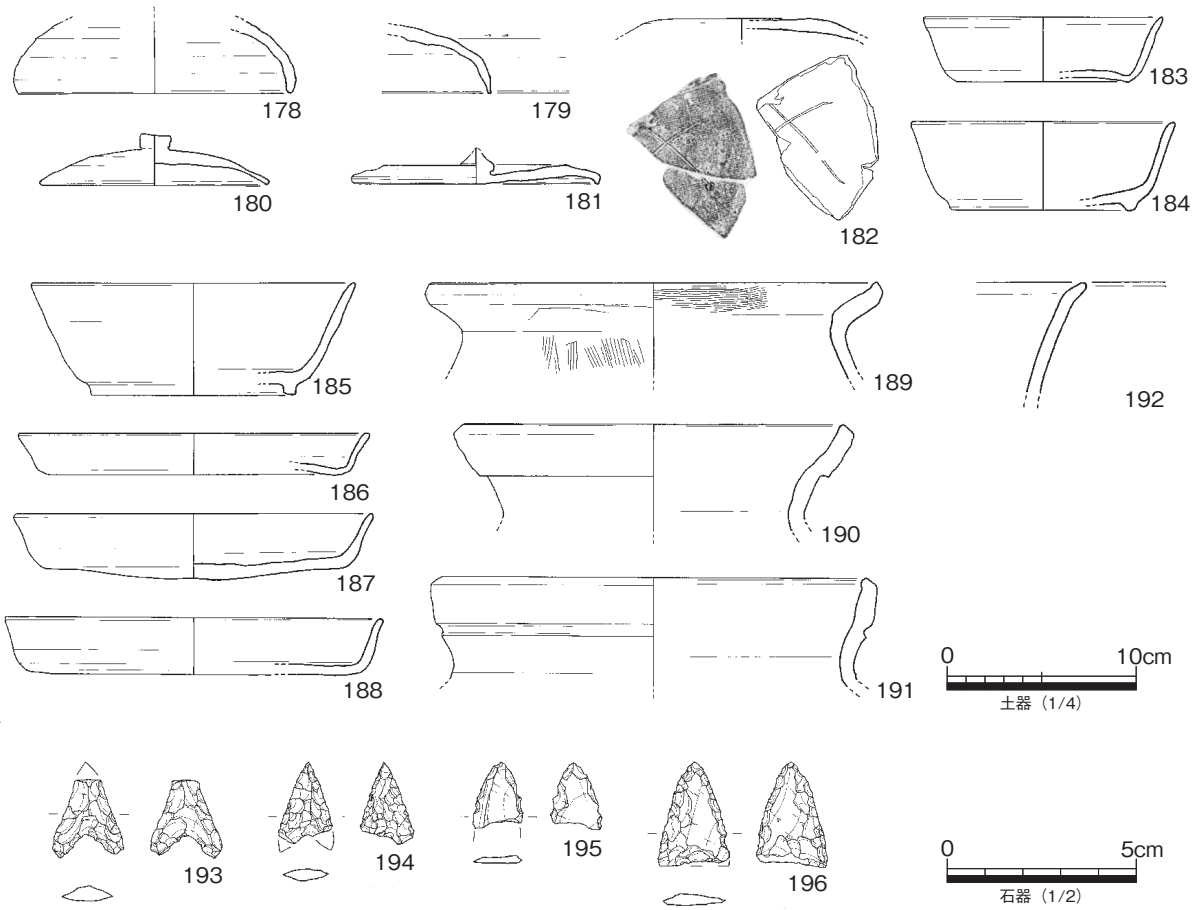
第46図は機械掘削や調査区外周の壁切り、遺構検出作業中に採集した遺物実測図である。209は小型の土錘である。



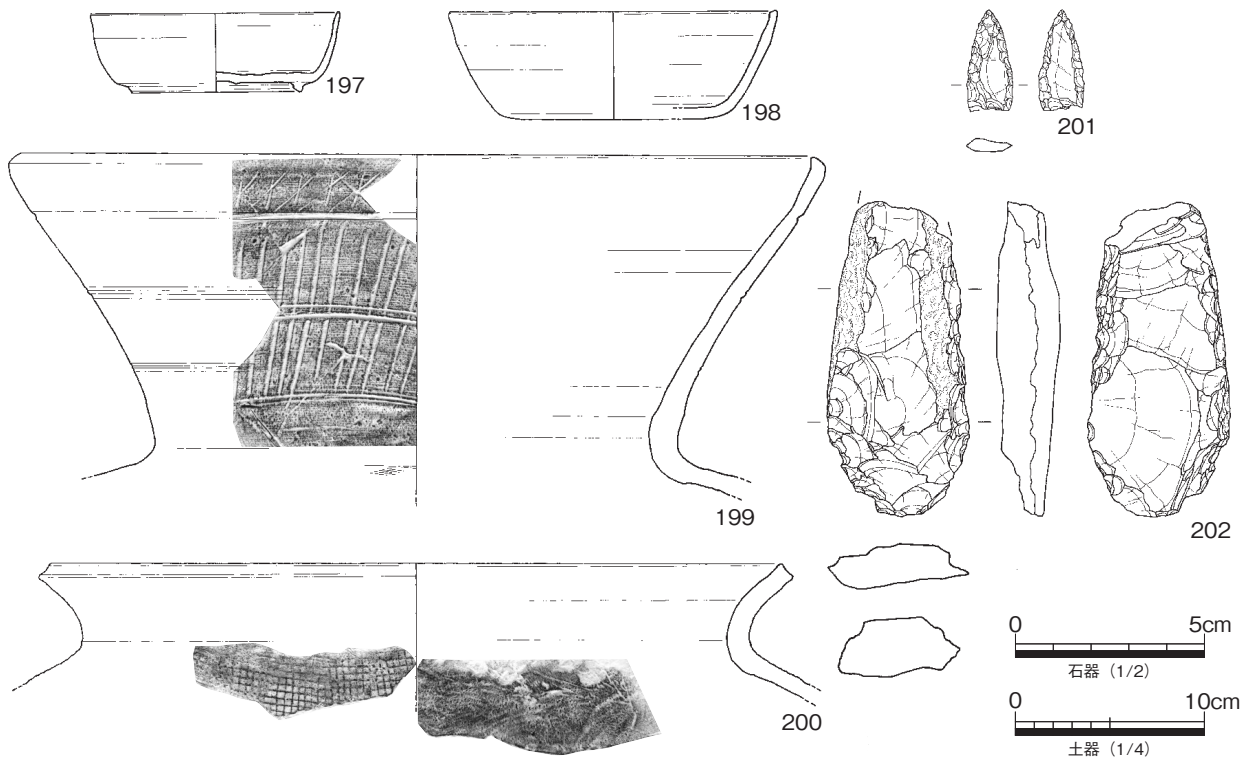
第 42 図 焼成遺構平・断面図



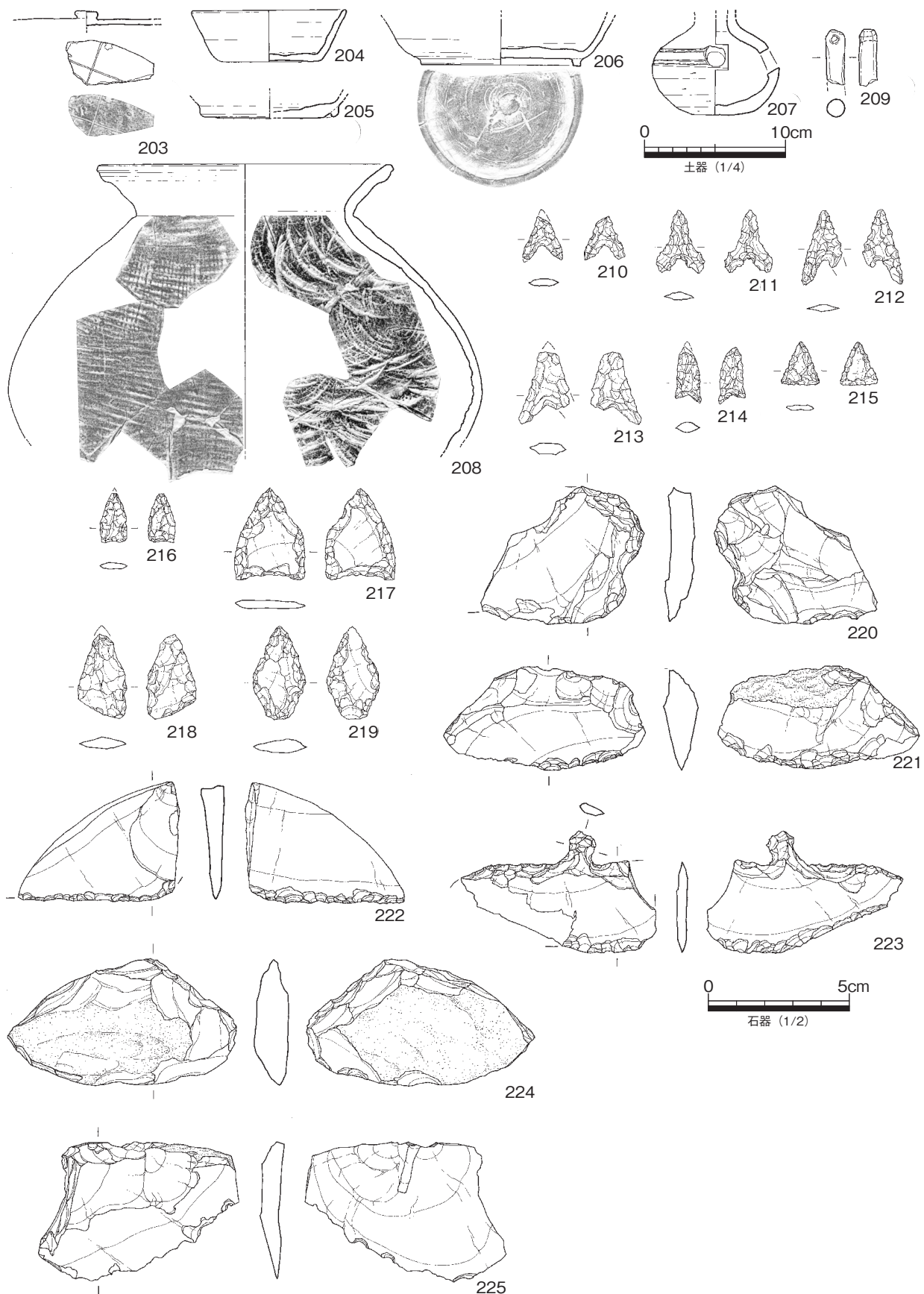
第 43 図 包含層出土遺物 (1)



第 44 図 包含層出土遺物 (2)



第 45 図 包含層出土遺物 (3)



第46図 そのほかの遺物

第Ⅳ章 D調査区の調査

第1節 D調査区の概要・基本層位

1. 概要

D調査区は、平成14年度に調査を実施した調査区である。末則丘陵の西側斜面裾部から段丘面上に至る地域で、北はC調査区、南はA・E調査区に挟まれた調査区である。南北約120m、東西約100m、を測る調査区である。調査区内を地区で分ければ、末則丘陵の西斜面部はA12・B11・C13区、丘陵裾部はD15s・D12区、丘陵裾部から北村用水までの段丘面上はE15・E14・E13・F12区に分かれる。報告の際には地形の状況を考慮して、丘陵斜面部から裾部のA12・B11・C13・D15s・D12の区域と、裾部から段丘面上のE15・E14・E13・F12区の区域の二つの区域に分けて報告する。

丘陵斜面部から裾部のA12・B11・C13・D15s・D12の区域からは、先述したC調査区同様、斜面の等高線に沿うように、弥生時代後期後半～末・古代・中世の多数の溝状遺構を確認した。また、丘陵裾部から段丘面上のE15・E14・E13・F12区からは中世～近世を中心にした遺構を検出した。特にE14区以南のE13・F12区からは、中世後半～近世初頭頃の堀で画された居住域を検出した。この地域は周辺の状況から、当地周辺で勢力をもつ中心的階層の屋敷地と考えられる。

屋敷地北限と東限は堀とも呼べる、L字形に屈曲した大溝SDe26と、南限と西限は東西方向と南北方向に二股に分かれた北村用水にあたるため、南北約48m、東西約53mの段丘面上の条里地割に向きを揃えた土地区画に立地する。この土地区画内には中世後半以降の柱穴が約2,537基検出した。

なお、この地域は、条里地割の坪境にも相当する東西方向と南北方向の北村用水が分離する交点にあたり、この交点を挟んだ南のE10区や西のJ4区にも柱穴群が広がるため、別単位の屋敷地が展開しているものと考えられる。E14・E13・F12区の屋敷地内には、柱穴が多数所在するため建物を復元するには注意を要したが、整理作業の際に大型建物を含む建物10棟を復元した。これらの建物は、先述したように規模的な点で、おそらく西末則集落の中心的階層の居住域と考えられる。

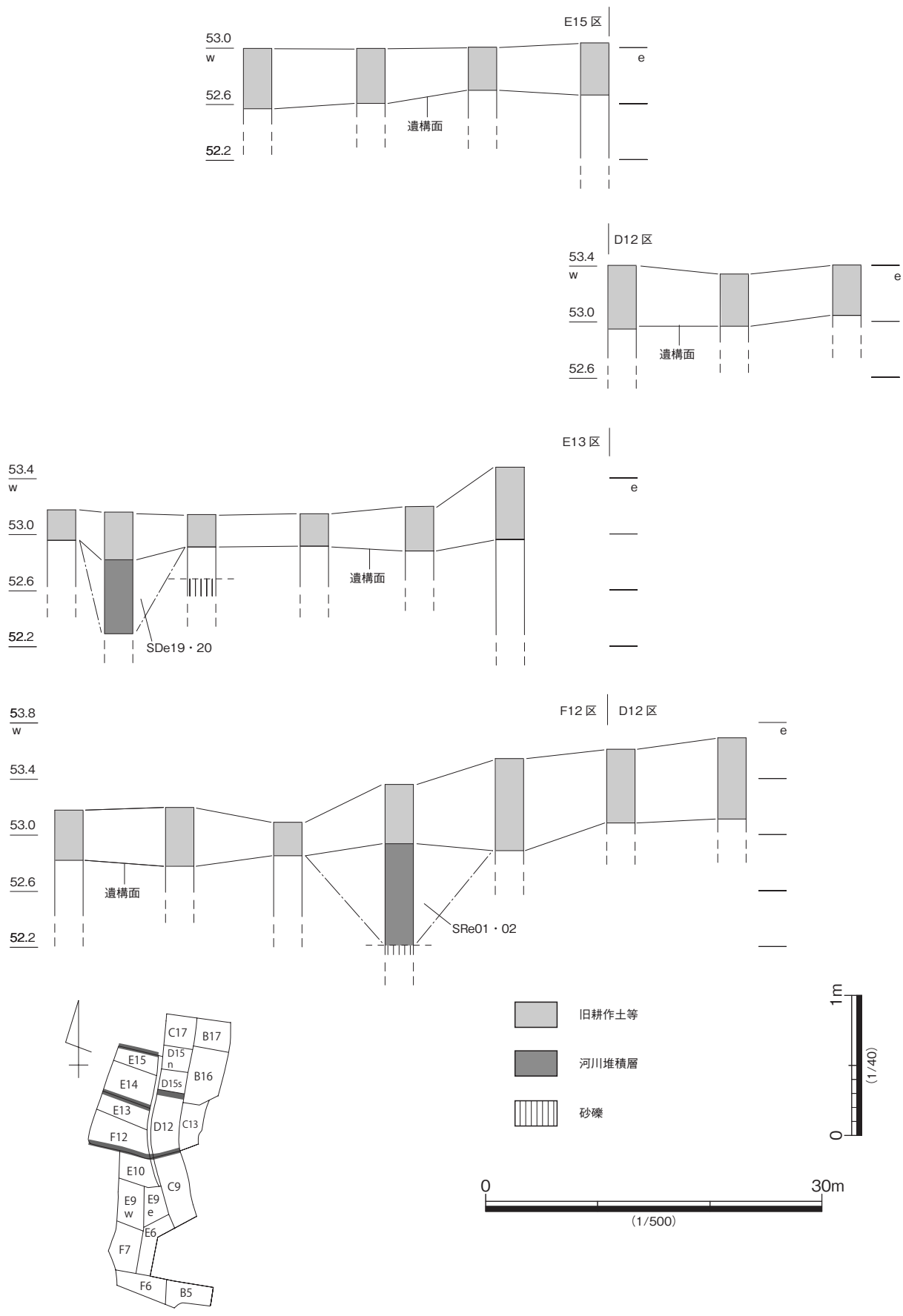
2. 基本層位

C13・D12区

末則丘陵の西斜面裾部から段丘の平坦地に至る傾斜変換地にあたる地域である。調査前の旧状は全面農地で、C13区の壁面の堆積層をみる限り、中世以降の数時期の農地造成が窺える地形である。C13区の最頂部の標高は約57.2m、D12区の段丘平坦地の地表面の標高は約53.4mを測る。ベースは丘陵裾部の頂部付近は花崗岩バイラン土を多量に含んだ暗茶褐色粘土、平坦地付近は淡黄褐色シルトからなる。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、C13区の丘陵裾部では53.5～57.0m、D12区の平坦地付近は約53.0mを測り西方へ顕著に傾斜している事が解る。

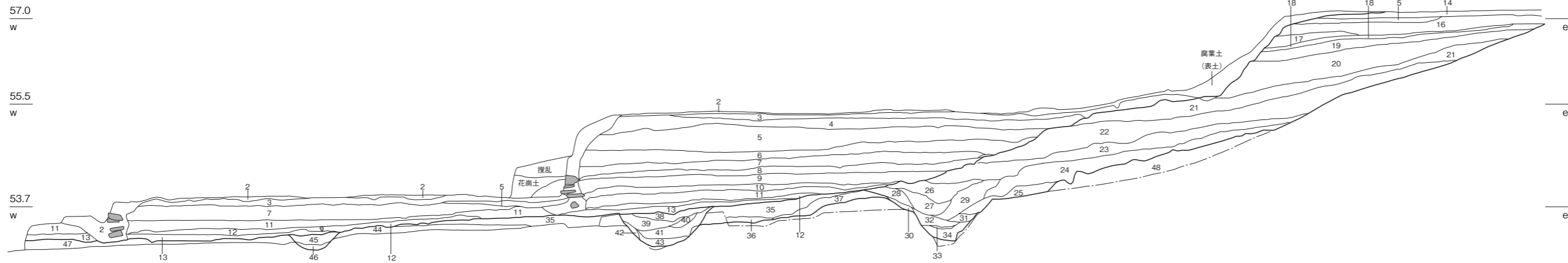
E15・E14・E13区、F12区

段丘の平坦地にあたる地域である。調査前の旧状は前面農地で、地表面の標高は北端のE15区で約53.0m、南端のF12区で約53.3mを測り、北へ僅かに傾斜していることが解る。ベースは堆積するレベルの違いにより3種類のベースを確認した。上位に黄灰色粘土、下位には淡黄緑色粘土、更にその下位には砂礫層が堆積する。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、北端のE15区では約52.6m、南端

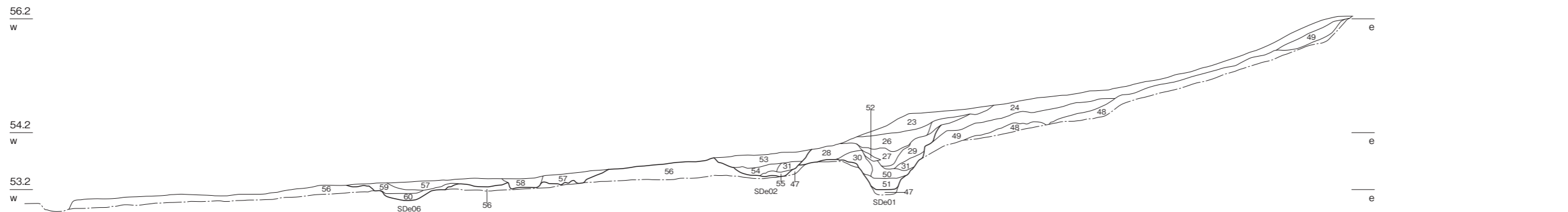


第 47 図 基本層位柱状図

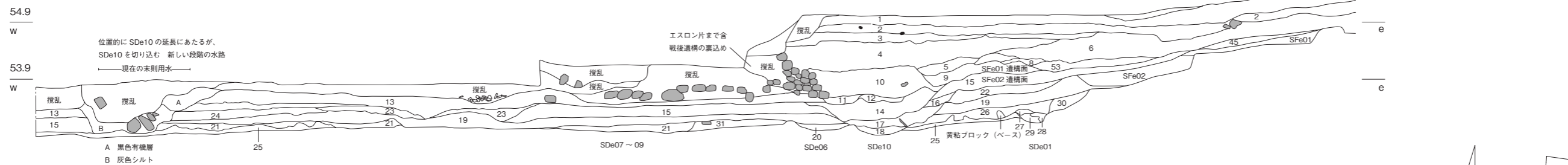
C13 北壁



C13 中央畦



C13 南壁

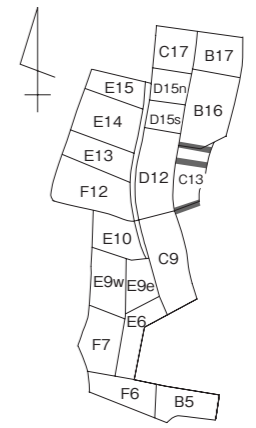
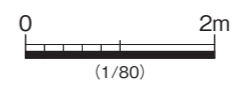


- 石
- 土器
- 木

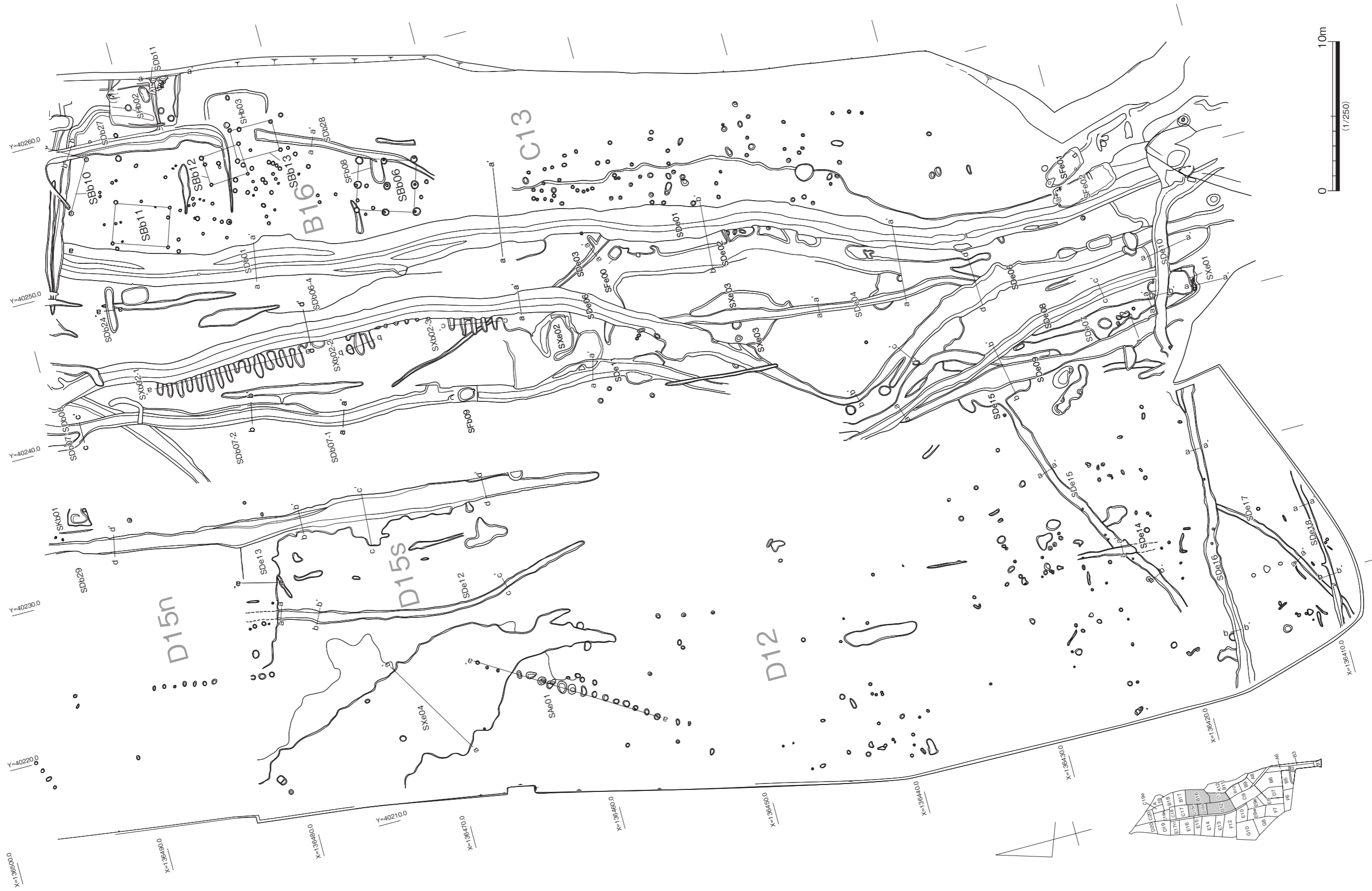
- 1 現耕作土
- 2 耕作土混じり灰茶色砂質土 (Mn 含 僅かに粘性 床土層)
- 3 淡黄灰青色砂質土 (花崗岩をダスト状に含 僅かに粘性 床土層)
- 4 淡黄灰褐色砂質土 (花崗岩をダスト状に含 僅かに粘性 3層に類似 旧耕作土か?)
- 5 淡茶灰青色砂質土 (僅かに粘性 4層に類似 4層より褐色強)
- 6 明灰褐色粘質土 (Mn 含 3層~5層に類似)
- 7 淡茶灰褐色粘質土 (Mn 含 6層に類似)
- 8 茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含)
- 9 暗茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含)
- 10 暗茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含 花崗岩のバイラン土を多量に含 9層に類似 9層より暗い)
- 11 淡茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含 花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 12 暗茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含 花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 13 暗茶灰褐色粘質土 (Mn 多く含)
- 14 暗茶褐色粗砂 (花崗岩バイラン土を含 床土層)
- 15 茶褐色粗砂 (花崗岩バイラン土を含 僅かに粘性)
- 16 淡茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含 黄土色)
- 17 茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を多量に含)
- 18 淡黄灰砂質土 (花崗岩バイラン土を含 グライ化している)
- 19 暗茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 20 暗黄灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含 黄土色)

- 21 暗茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 22 暗茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 23 暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含)
- 24 暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含 23層に類似 23層より暗い)
- 25 淡青色シルト混じり暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含)
- 26 暗黒褐色粘土 褐色粘質土・淡青灰色シルト (花崗岩バイラン土等小ブロック混じり 26層~34層=SDe01)
- 27 暗黒茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 28 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 29 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 30 淡茶青灰褐色粘質土 (淡青灰色シルトのベース中に茶褐色粘質土が混じる)
- 31 黄灰褐色粘質土 (ベースに類似 ベースブロックの下がり)
- 32 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 33 暗褐色粗砂
- 34 淡灰褐色シルト (花崗岩バイラン土を多量に含)
- 35 淡黒褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含 26層より淡い)
- 36 粗砂混じり暗灰色シルト
- 37 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含 (38層~43層=SDe06)
- 38 茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 39 淡灰褐色砂質土 (38層の小ブロック含)
- 40 灰茶褐色粘質土 (38層に類似)

- 41 暗灰褐色粘土 (シルト質強)
- 42 暗灰褐色粘土 (41層に類似 ベースの小ブロック混じり)
- 43 灰色シルト
- 44 淡黄褐色シルト (35層の小ブロック含 ベースに類似)
- 45 灰茶褐色粘土 (45層・46層=SDe11)
- 46 淡灰褐色粘土
- 47 淡黄褐色シルト (47層・48層=ベース)
- 48 暗茶褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)
- 49 暗茶褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)
- 50 暗木灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含 ベースに類似 50~52層=SDe01)
- 51 ベースブロック混じり暗灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)
- 52 粗砂混じり暗黒茶褐色粘土 (27層に類似)
- 53 暗黒茶褐色粘土 (28層に類似 53~55層=SDe02)
- 54 ベース混じり暗茶褐色粘土 (粗砂・花崗岩バイラン土を含)
- 56 黄褐色粘土 (Mn 点・粗砂含 ベース)
- 57 粗砂混じり淡黒茶褐色粘土
- 58 淡黒粘土 (溝埋土)
- 59 黄褐色粘土 (シルト質強)
- 60 灰色細砂 (シルト質強)



第 48 図 基本層位 C13 区



第 49 図 B16・C13・D15s・D12 区 遺構配置図

の F12 区では 52.8 ～ 53.1 m を測り、地表面同様北へ僅かに傾斜している事が解る。

第 2 節 D 調査区の遺構・遺物

1. C13・D15s・D12 区

(1) 弥生時代の遺構・遺物

溝状遺構

SDe01 (第 50・51 図)

末則丘陵西斜面部の C13 区の東半部で検出した、大型の灌漑用の溝と考えられる溝状遺構である。この溝跡は標高 54 m 前後の等高線に沿うように斜面部を南北方向に延びており、南端は A 調査区から D 調査区を経て C 調査区へ至る総延長約 300 m を測る大型溝である。複数の調査区を重複しているため、調査区や報告書単位で名称が異なる。南から A 調査区では SDa05、D 調査区では SDe01、C 調査区南半部では SDb01、C 調査区北半部では SDb83 に相当する溝状遺構である。SDe01 は SXa03・SFe02・SDe02・03 等と重複し、これらの遺構との前後関係では、SDb01 は SDe03 より後出し、SXA03・SFe02・SDe02 より先行する。D 調査区での検出長は約 44.0 m、幅 1.3 ～ 1.9 m、深さ 1.0 ～ 1.1 m を測る。断面は「V」字状に近い隅丸逆台形状を呈し底面は幅が狭い。断面の堆積状況から推定して 4 期程度の改修がなされたものと考えられる。埋土中にはベースとなる花崗岩バイラン土を多量に含んだ堆積層が多い。下層は花崗岩バイラン土を多量に含んだ暗灰色系粘土～淡灰褐色系のシルトが主体になる。上層は花崗岩バイラン土を多量に含んだ暗茶灰褐色粘質土～暗黒茶褐色系粘質土が主体となる。

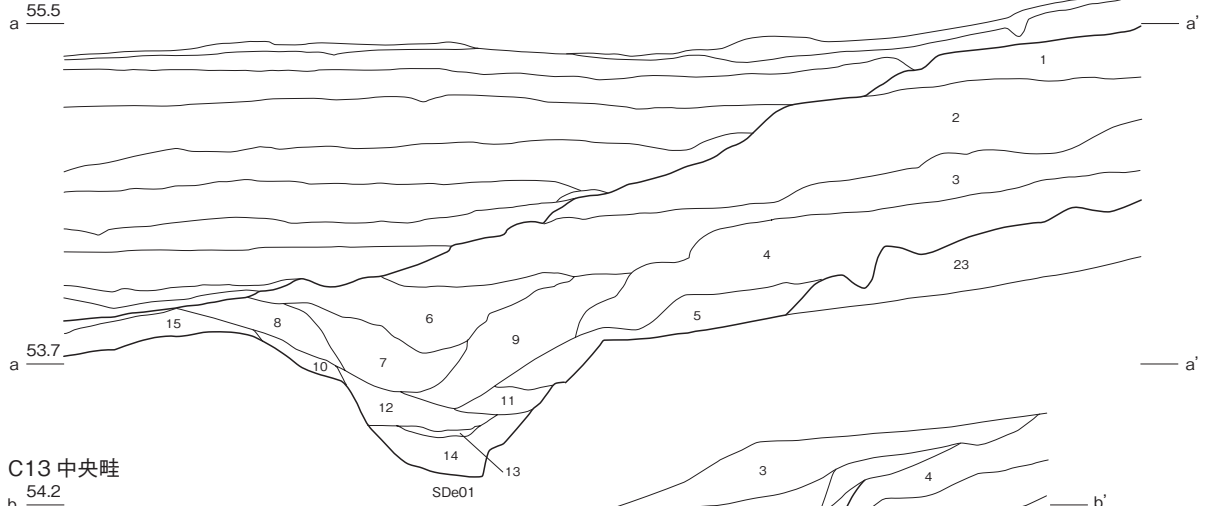
埋土からは弥生土器・須恵器・石器類等が少量出土した。238・239・241・242 は上層出土の古代前半の須恵器で、SDe01 の最終埋没時期を示す土器である。238 は 7 世紀中葉の杯蓋、239 は杯、241 は壺口縁部、242 は甕である。226 ～ 228・233 は上層出土の弥生時代後期前半頃の土器である。226・227 は口縁端部に凹線文を施した壺の口頸部で、228 は長頸壺の頸部である。229・230・232・234・237 は下層出土の弥生時代後期後半頃の土器で、この溝跡の掘削時期を示す資料になる。229 は壺底部、230 は甕上半部である。232・234 は甕の底部片、237 は高杯脚部片である。

243 ～ 250 はサヌカイト製の石器である。243 は平基式の石鏃、244 は槍先形石器である。欠損箇所がない希少な優品である。器面中央に素材面を残しており、肉厚な横長状の剥片を素材にしていることが解る。下半部のエッジには、装着痕と考えられる潰れ痕が認められる。245 は直刃状の刃部をもつ石庖丁である。器面中央に素材面を多く残しており、肉厚な横長状の剥片を素材にしていることが解る。246 ～ 249 は楔形石器の資料である。246 は形状から楔形石器の素材段階の資料と考えられる。250 は形状から石鏃に分類した。251 は縦長状の大型剥片である。

SDe02 (第 52 図)

C13 区東半部の SDe01 の西側で検出した大型の溝状遺構である。削平を受けたものか、場所により残存状況の差があり、中央では溝状を呈しているが、北半部と南半部では落ち込み状を呈し浅い。SDe01 に沿うように南北方向に延びており、SDe01 との前後関係を断面で見れば、SDe02 は SDe01 より後出する。なお、SDe01 と SDe02 間では一部繋がっている区域もあり両者は有機的な関係が推定される。検出長約 25.0 m、幅 0.9 ～ 1.7 m、深さ約 0.4 m を測る。断面は幅広な椀底状を呈し、埋土上層

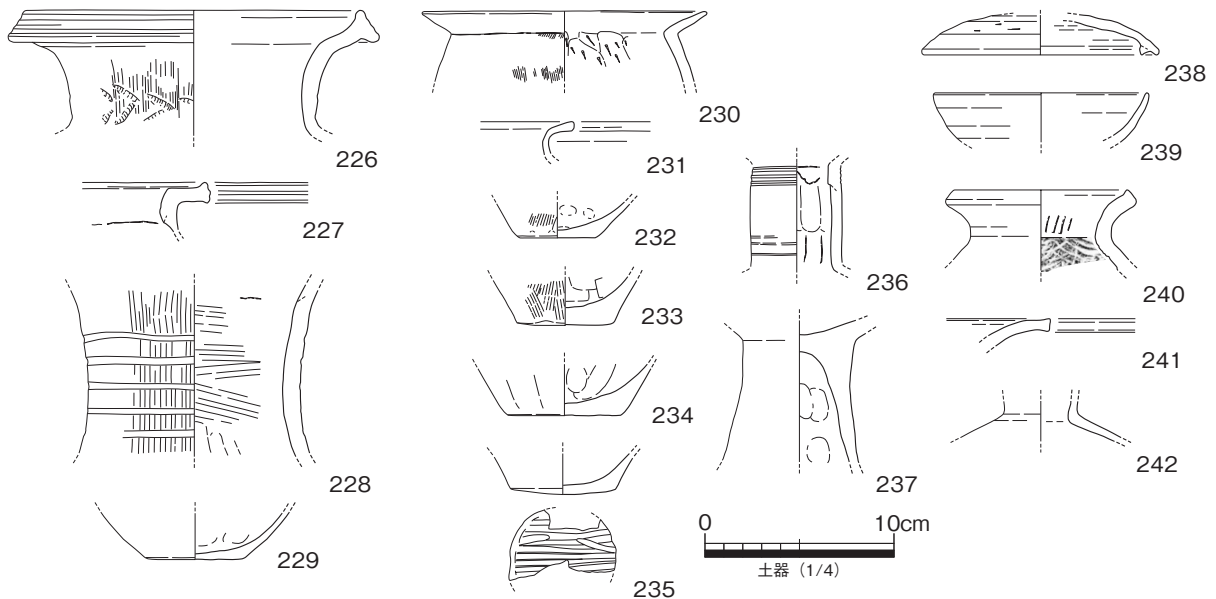
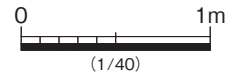
C13 北壁



C13 中央畦

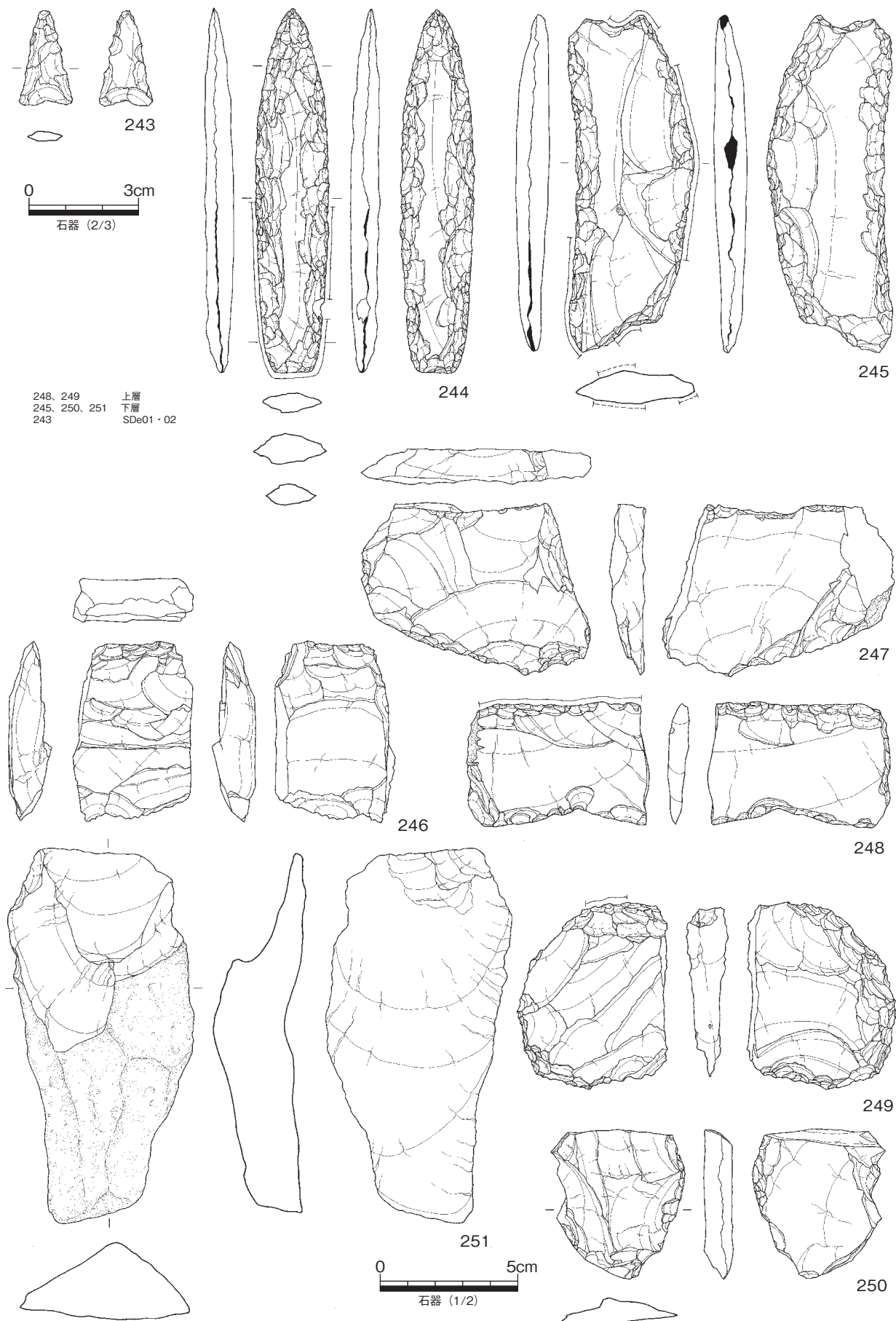


- | | |
|---|---|
| <p>1 暗灰茶色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>2 暗茶色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>3 暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>4 暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含ま 3層に類似 3層より暗い)</p> <p>5 淡青色シルト混じり暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>6 暗黒褐色粘土 褐色粘質土・淡青灰色シルト (花崗岩バイラン土等小ブロック混入) (6層~14層=SDe01)</p> <p>7 暗黒茶褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>8 暗灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>9 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>10 淡茶青灰褐色粘質土 (淡青灰色シルトのベース中に茶褐色粘質土を含ま)</p> <p>11 黄灰褐色粘質土 (ベースに類似 ベースブロックの下がり)</p> <p>12 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>13 暗褐色粗砂</p> | <p>14 淡灰褐色シルト (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>15 暗茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>16 粗砂混じり暗黒茶褐色粘土 (7層に類似)</p> <p>17 暗黄灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>ベースに類似 (17~16層=SDe01)</p> <p>18 ベースブロック混じり暗灰粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>19 暗黒茶褐色粘土 8層に類似 (19~21層=SDe02)</p> <p>20 ベース混じり暗茶褐色粘土 (粗砂・花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>21 暗茶灰褐色粘土 (花崗岩バイラン土を含ま)</p> <p>22 暗茶褐色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>23 暗茶黒色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>24 暗茶黒色粘土 (花崗岩バイラン土を多量に含)</p> <p>25 黄褐色粘土 (Mn点・粗砂含 (ベース))</p> |
|---|---|

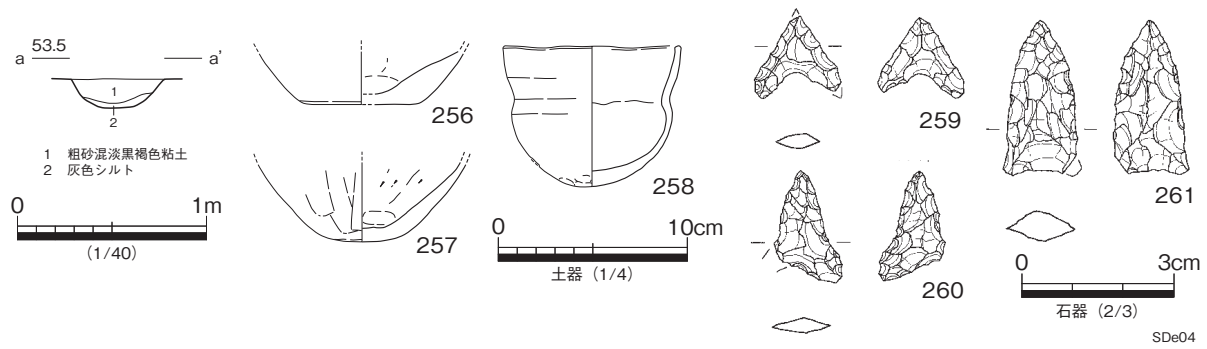
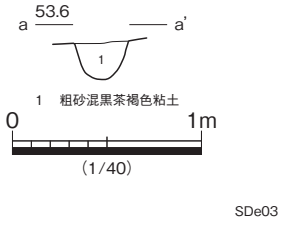
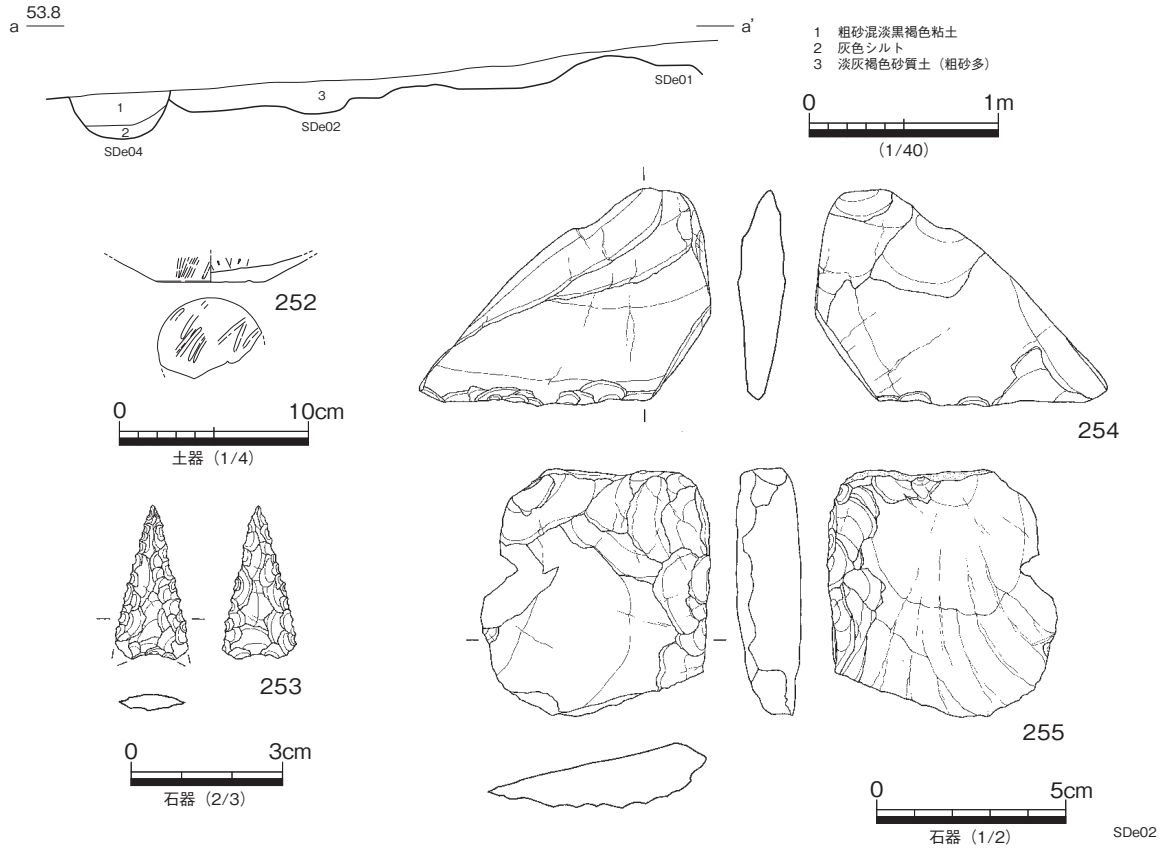


226、227、228、233、238、239、241、242 上層
 229、230、232、234、237 下層
 231、235 SDe01・39Tr

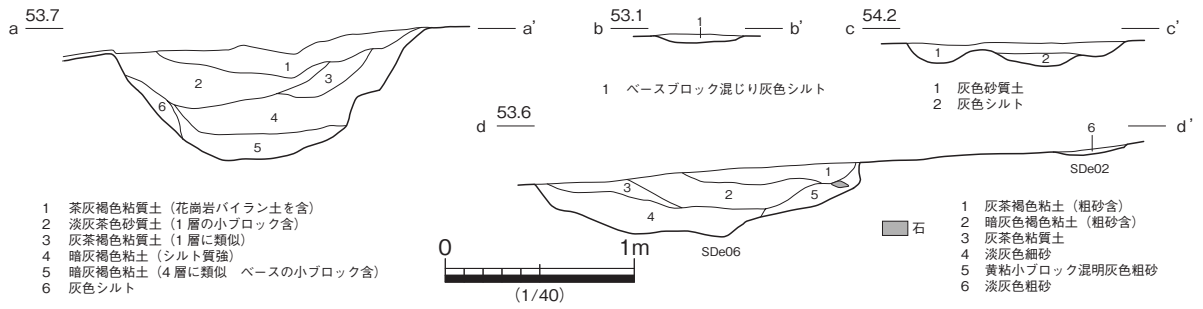
第 50 図 SDe01・02 断面図, 出土遺物



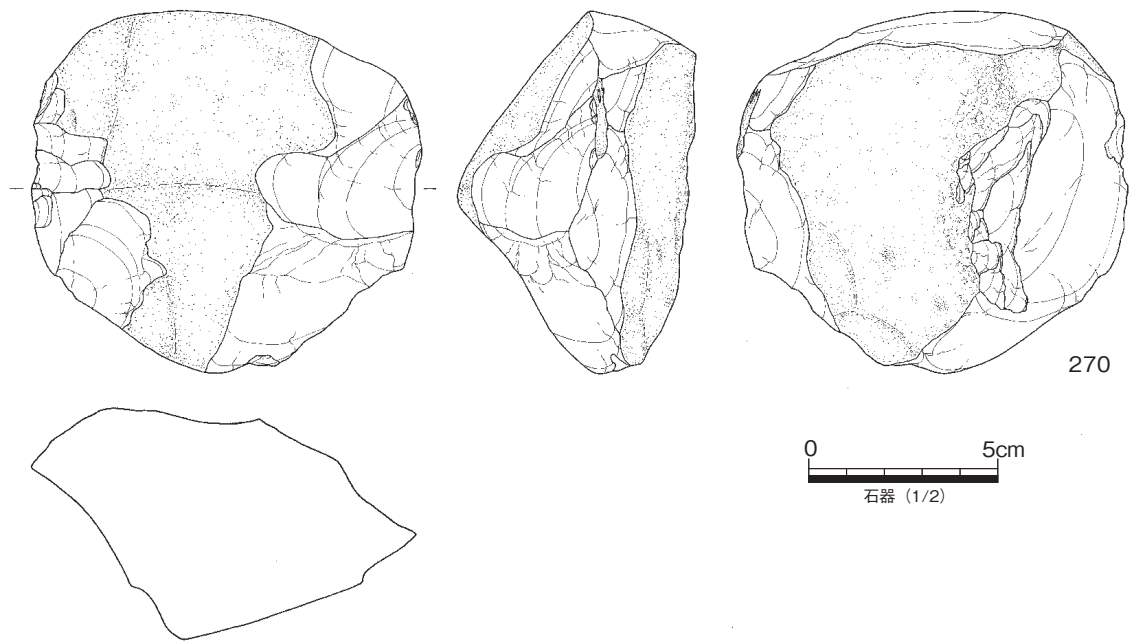
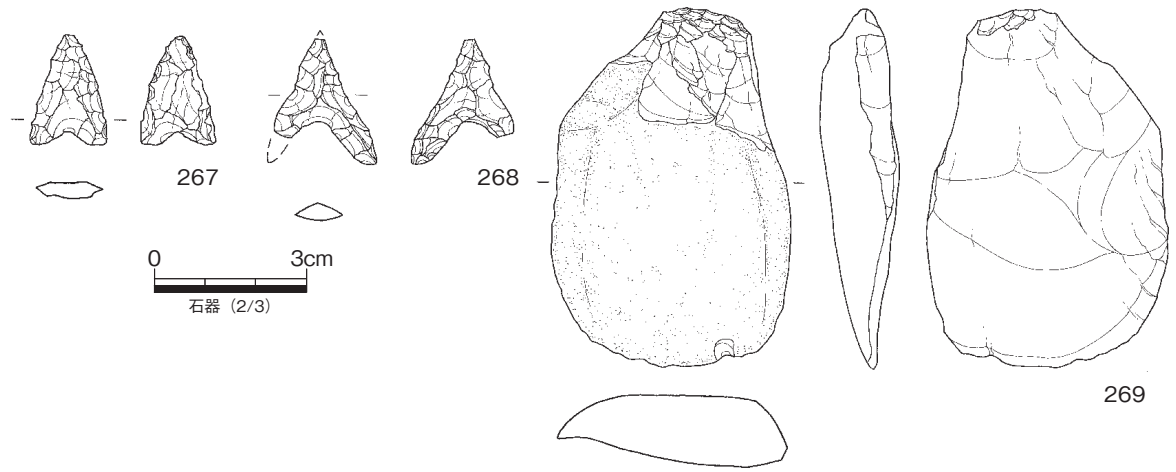
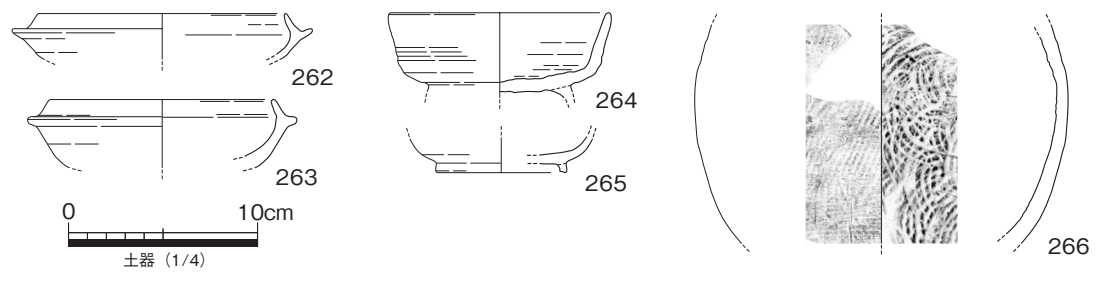
第51図 SDe01 出土遺物



第 52 図 SDe02 ~ 04 断面図, 出土遺物



- 1 茶灰褐色粘質土 (花崗岩バイラン土を含)
- 2 淡灰茶色砂質土 (1層の小ブロック含)
- 3 灰茶褐色粘質土 (1層に類似)
- 4 暗灰褐色粘土 (シルト質強)
- 5 暗灰褐色粘土 (4層に類似 ベースの小ブロック含)
- 6 灰色シルト



第 53 図 SDe06 断面図, 出土遺物

は暗黒茶褐色系の粘土、下層はベース（花崗岩バイラン土）混じりの暗茶褐色系の粘土が主体となる。埋土からは弥生土器・石器等が少数出土した。252は弥生時代後期後半新相頃の壺の底部片である。253はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。254は横長状の剥片を素材にした削器で、255は側縁部に調整を加えた二次加工ある剥片である。出土遺物から SDe02 は弥生時代後期後半新相以降に埋没を開始した溝跡と考えられる。

SDe03（第 52 図）

C13 区北東半部の SDe01 の西側で検出した北西方向に直線状に延びる溝状遺構である。この溝跡は SDe01・06 と重複し、それらの溝より先行する。なお、途中未検出であるが、C 区 SD40 に繋がるものと考えられる。検出長約 5.0 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は「U」字状を呈し、埋土は粗砂混じり黒茶褐色粘土からなる。SDe03 の埋土からは遺物が出土していないため、SDe03 の詳細な時期判断には無理があるが、SDe01・06 と重複し、それらの溝より先行することから弥生時代に含まれる可能性が高い。

SDe04（第 52 図）

C13 区中央部で検出した南北方向に直線状に延びる溝状遺構である。この溝跡は SDe05・SXE03 と重複し SDe05 より先行する。検出長約 8.5 m、幅約 0.5 m、深さ約 0.15 m を測る。断面は幅広な椀底状を呈し、埋土上層は粗砂混じり淡黒褐色粘土、下層は灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・石器等が少数出土した。256・257 は弥生時代後期後半新相頃の甕底部片である。258 は小型丸底壺である。259～261 はサヌカイト製の石鏃である。SDe04 は出土遺物と検出状況より、弥生時代後期後半新相以降に埋没した溝跡と考えられる。

（2）古代の遺構・遺物

溝状遺構

SDe06（第 53 図）

C13 区中央部を南北方向に延びるが、途中西方へ「ク」の字状に屈曲している溝状遺構である。なお、この溝跡は C 調査区 SDb06 に相当する溝状遺構である。この溝跡は SDe02・03・04・10 と重複し、前後関係では SDe06 は SDe10 より先行し、SDe02・03・04 より後出する。C13 区内の検出長は約 51.0 m、幅 0.4～1.7 m、深さ約 0.05～0.6 m を測る。断面は幅広な椀底状を呈し、埋土上層は灰茶色系の粘質土、下層は暗灰褐色系の粘土からなる。

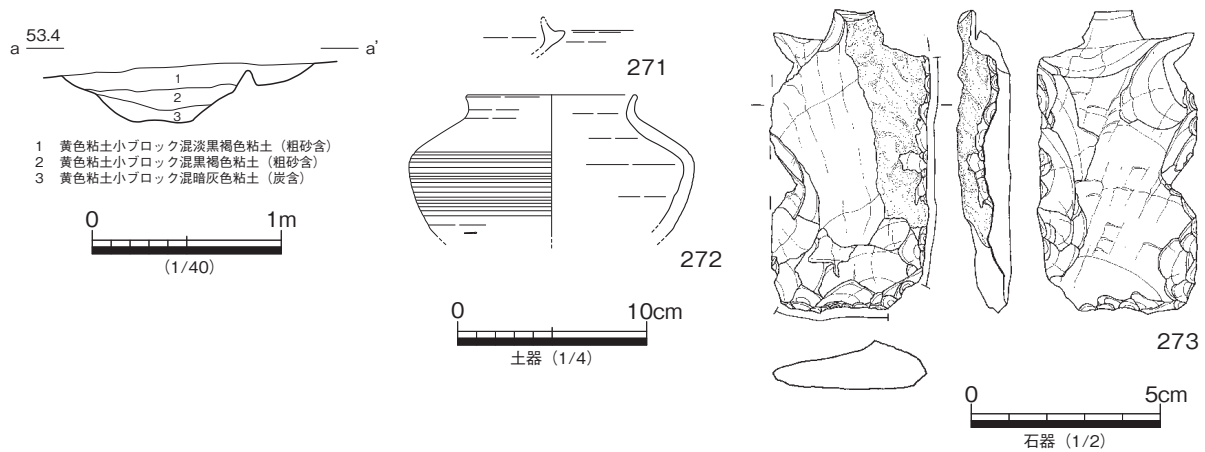
埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・石器等が少量出土した。262～266 は須恵器の資料である。262・263 は 6 世紀末頃の杯身、264・265 は 7 世紀末～8 世紀前半頃の杯である。267～270 は石器類である。267・268 はサヌカイトの石鏃である。268 は形状より縄文時代の石鏃の可能性が高い。269 は大型の縦長気味の剥片である。270 は礫の側縁部に打面調整を行い、剥片剥離開始して間もない石核である。出土遺物から SDe06 は 8 世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe11（第 54 図）

C13 区北半部、SDe05 の西側に位置し南北方向に延びる溝跡で、B16 区の SDb07 に続く溝跡である。

C13区内の検出長約14.0m、幅約0.9～1.3m、深さ約0.3mを測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土はベースの黄色粘土小ブロック混じり黒褐色粘土が主体を占める。埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土している。

271は須恵器杯身口縁部片である。272は底部を欠く須恵器短頸壺である。273はサヌカイト製の大型剥片を素材にした石庖丁である。出土遺物からSDe11は7世紀初頭以降に埋没した溝跡と考えられる。

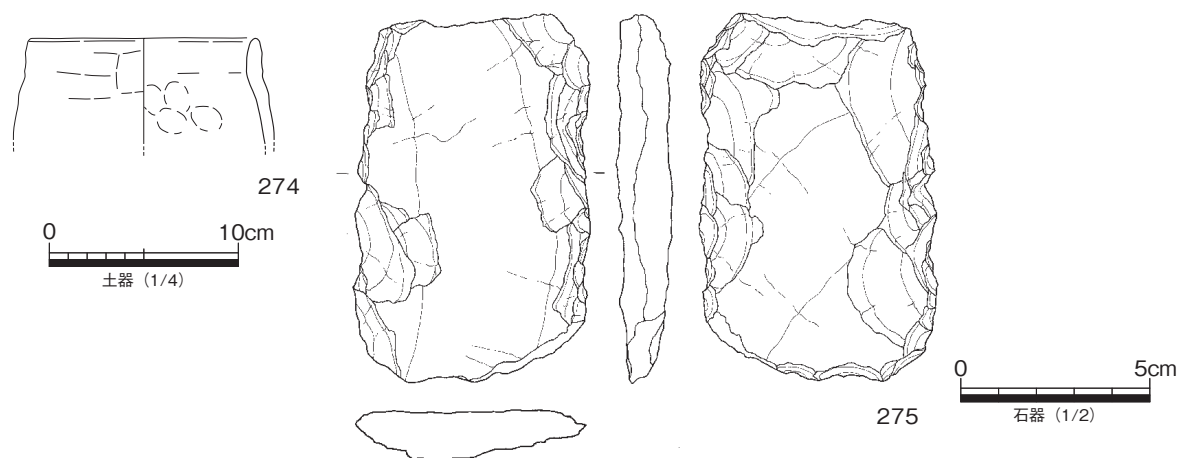


第54図 SDe11断面図, 出土遺物

不整形遺構

SXe03 (第55図)

C13区中央、SDe04の左右両岸部で検出した不整形な浅い落ち込み状の遺構で、SDe04の一部がオーバーフローした後の最終堆積層の可能性はある。検出長約7.0m、幅約3.7m、深さ約0.2～0.3mを測る。埋土からは弥生土器・土師器、石器等が数点出土した。274は6世紀頃の製塩土器の上半部である。275はサヌカイトの石鋏である。肉厚で大型の横長剥片を素材に用い、側縁から調整剥離を加えている。出土遺物からSXe03は6世紀以降に埋没した遺構と考えられる。



第55図 SXe03 出土遺物

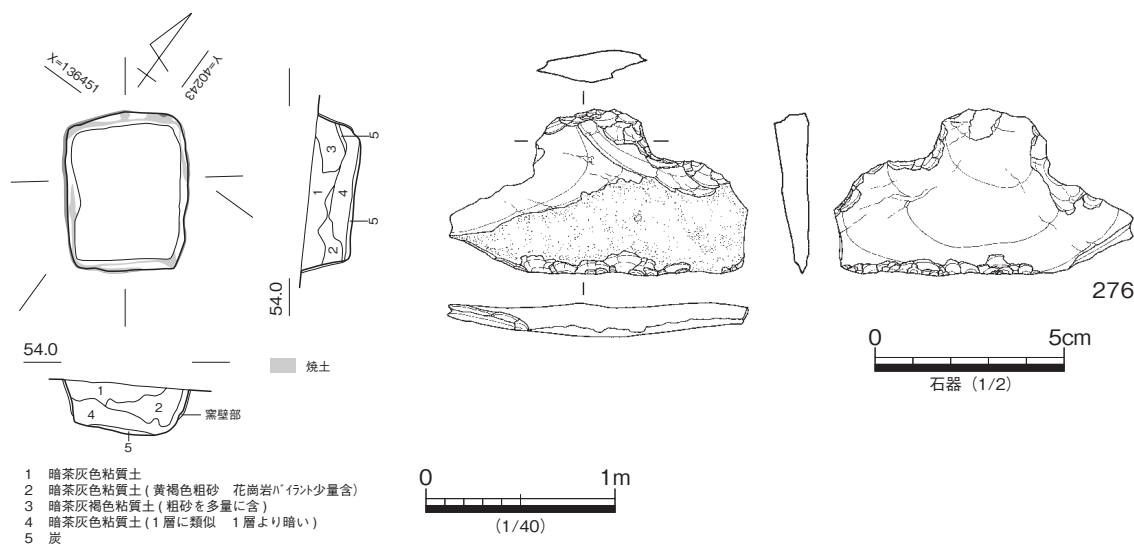
(3) 中世の遺構・遺物

焼成土坑・窯跡

SFe00 (第56図)

C13区北半部で検出した土坑である。SDe02と重複しSDe02を切り込んでいる。掘方周囲の壁面は焼土化が著しく、土坑最下層には炭が薄く堆積しており、内部で長期間火を焚いた痕跡と考えられる。平面は隅丸長方形、断面は逆台形状を呈する。長径1.70m、短径1.35m、深さ0.50m、主軸方位N36.5°Wを測る。埋土は暗茶灰色粘質土が主で、最下層に灰が薄く堆積している。検出状況からSKe01は近世以降の焼成土坑と考えられるが、何を目的とした土坑か詳細な点は今後の課題になる。

埋土からは石器が数点出土したが、出土状況から混入品と考えられる。276はサヌカイトの石匙である。横長状の剥片を素材に用いた横型の石匙で、側縁部には表裏両面からの調整剥離痕が認められ、素材剥片の打点周辺を摘みとして整形している。

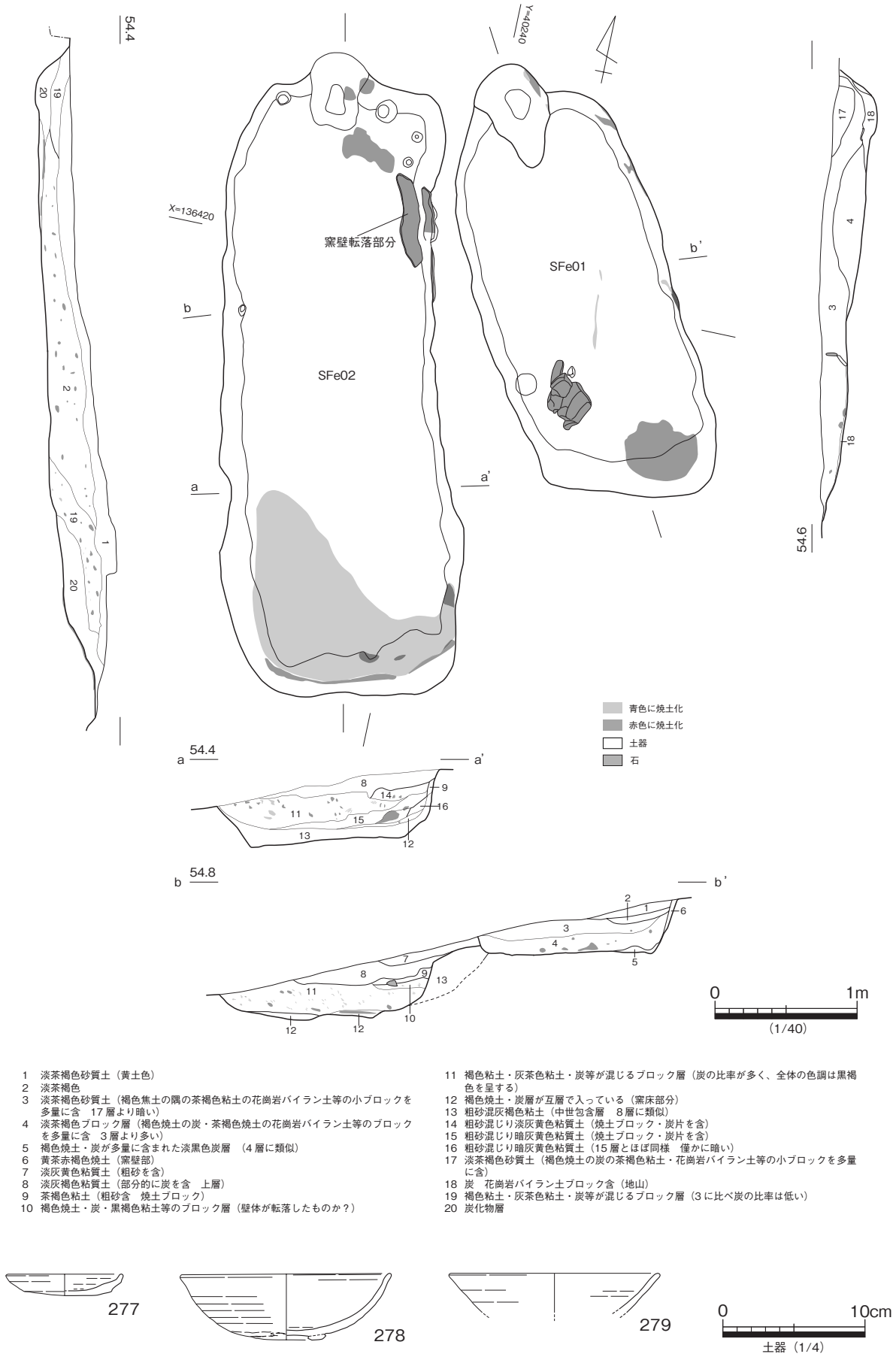


第56図 SFe00平・断面図, 出土遺物

SFe01 (第57図)

C13区南端部で検出した木炭窯である。西側にはSFe02が隣接しており、堆積状況から前後関係をみれば、SFe02が先行しSFe01が後出することが解る。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが北端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。長径3.3m、短径1.35m、深さ0.1～0.3m、主軸方位N31°Wを測る。埋土は褐色焼土や炭片、花崗岩バイラン土等を多量に含んだ淡茶褐色ブロック層が主体を占め、壁面及び焚口附近は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土の上層からは土師器、須恵器片が少量出土した。277は土師器小皿である。278は12世紀頃の須恵器椀である。なお、この土器はSXe02出土の土器と接合関係にある。出土遺物からSFe01は12世紀後半頃に廃絶した木炭窯と考えられる。



第 57 図 SFe01・02 平・断面図, 出土遺物

SFe02 (第 57 図)

C13 区南端部で検出した木炭窯である。東側には SFe01 が隣接しており、断面トレンチの堆積状況からみて、SFe02 が先行し SFe01 が後出することが解る。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが北端の短辺部に確認できる。断面形状は船底状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道付近の床面では 4 基の小ピットを検出した。長径 9.0 m、短径 3.1 m、深さ 0.5 ~ 0.8 m、主軸方位 N12° W を測る。埋土上層は淡灰褐色粘質土、中層は褐色粘土・灰茶色粘土・多量の炭等が混じるブロック層、下層では褐色焼土・炭層が互層で入る堆積層等が認められる。

埋土の上層からは中世の土師器片が少量出土した。279 は底部を欠く土師器杯である。出土遺物や検出状況から SFe02 は SFe01 より古い窯跡と考えられるが、大きな時期差があるものとは考えられない。

溝状遺構

SDe07 (第 58 図)

C13 区南半部の SDe08・09 間で検出した南北に直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe07 は SDe08・10 と重複し、前後関係では両溝より先行する。検出長約 11.5 m、幅約 0.5 m、深さ約 0.05 ~ 0.1 m、主軸方位は N2.0° W を測る。断面は凹凸のあるレンズ状を呈し、埋土は淡灰茶色粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。280 須恵器碗の底部、281 は土師器甕の口縁部片である。出土遺物が少なく、SDe07 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe08 (第 58 図)

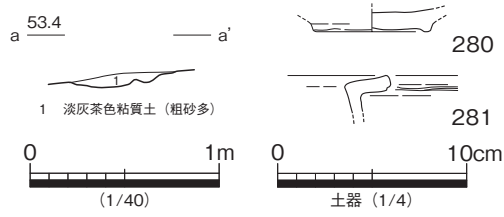
C13 区南半部 SDe05 の西側で検出した北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe07・09・10 と重複し、前後関係では SDe10 より先行し、SDe07・09 より後出する。検出長約 26.0 m、幅約 1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は凹凸のある皿状を呈し、埋土上層は暗灰色砂、下層は灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器片等が少量出土した。282 は須恵器杯の底部、283 は須恵器甕の体部片である。284 はサヌカイト製石鏃である。出土遺物及び検出状況から SDe08 は 12 世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

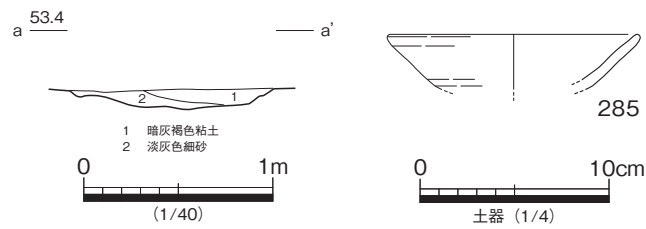
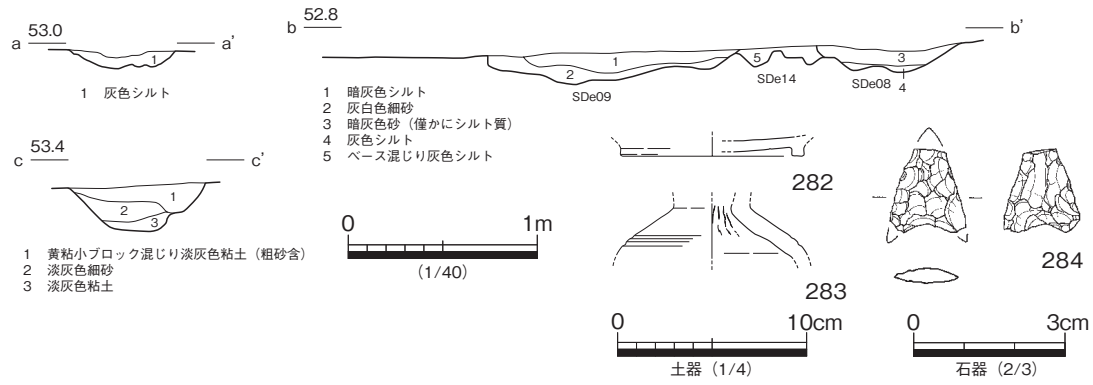
SDe09 (第 58 図)

C13 区南半部 SDe07 の西側で検出した北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe09 は SDe08・10 と重複し、前後関係では SDe08・10 より先行する。検出長約 20.5 m、幅約 1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土上層は暗灰褐色粘土、下層は淡灰色粗砂からなる。

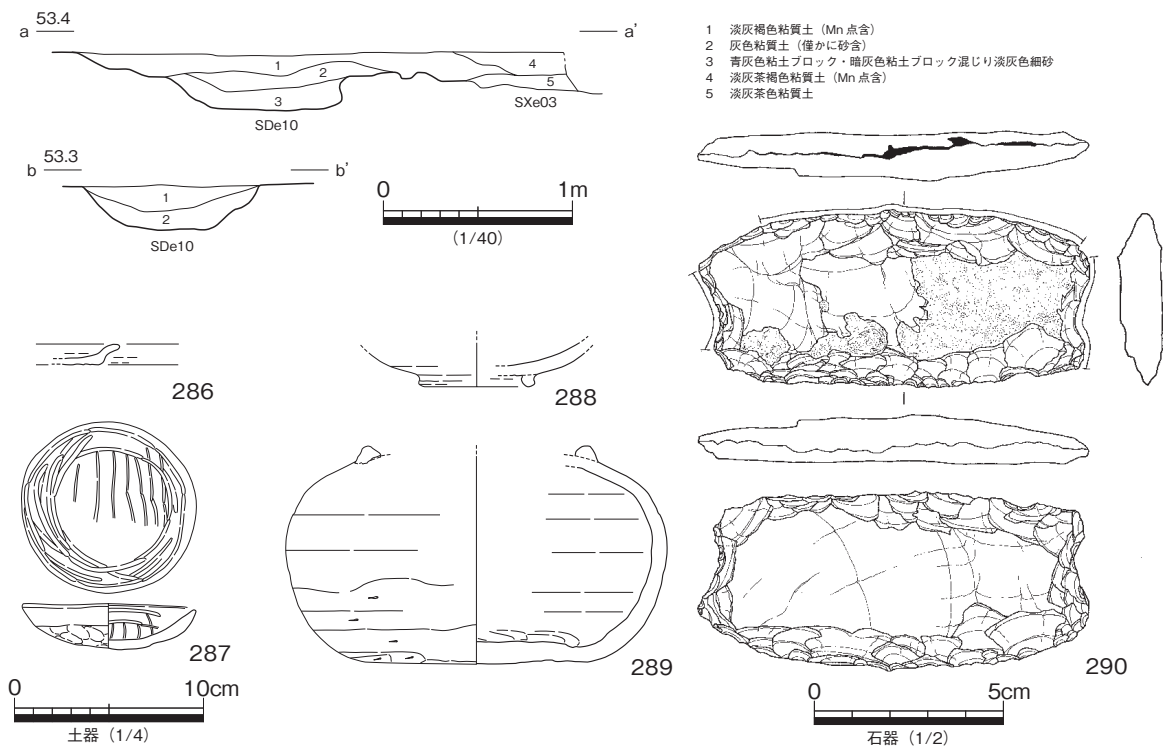
埋土からは土師器・須恵器等が少量出土した。285 は底部を欠く土師器杯である。出土遺物が少なく、SDe09 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。



SDe07



SDe09



第 58 図 SDe07 ~ 10 断面図, 出土遺物

SDe10 (第 58 図)

C13 区南端部、C13 区と B10 区の境界付近に所在する SXa03 の西側縁から、西方の D12 区方向に向けて延びる溝跡である。SXa03 は中世の水溜状の遺構であり、検出状況から SDe10 は SXa03 の排水溝の可能性が高い。検出長約 14.5 m、幅約 1.0 m、深さ約 0.25 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器片等が少量出土した。286 は土師器小皿片である。287 は 12 世紀以降の和泉型の瓦器小皿である。外面下半部にはオサエ、内面には並行する直線状の暗文が顕著に施している。288 は須恵器碗の底部である。289 は須恵器の提瓶に類似した異形土器である。形状はヤカン状を呈する土器である。底部は平底、外面には回転ヘラケズリ、体部肩部には小さな突起が付く。290 はサヌカイト製の石庖丁である。表裏面伴に素材面を大きく残し、素材が大型の横長剥片であることが解る。出土遺物や検出状況から SDe10 は 12～13 世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe12 (第 59 図)

D15s 区中央に位置し僅かに東に湾曲し南北方向に延びる溝状遺構である。SDe13 と重複し、この溝は SDe13 より先行する。検出長約 23.5 m、幅約 0.7 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は凹凸のある皿状を呈し、埋土上層は暗灰色系の粘質土、下層は淡灰色系砂質土からなる。

SDe12 の埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe13 (第 59 図)

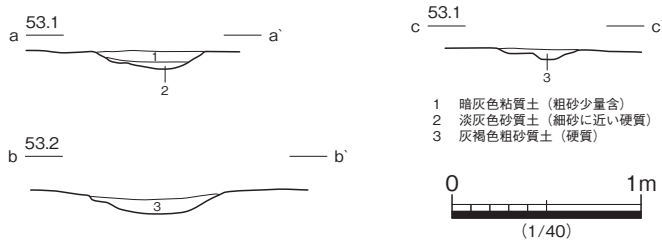
北端は C20 区に位置し調査区外に延びる。C19w・C18・C17・D15n 区を經由し、南端は D15s 区に至る。延長 143 m を測る長い溝状遺構である。SDe13 の北半部では、『西末則遺跡Ⅲ』で報告している SDd082 及び前章の C 調査区 SDb29 にあたる溝跡である。

D15s 区では、調査区際を南北方向に延びる溝状遺構である。調査区北端部では東西方向の幅広で浅い落ち込みが合流しているが、SDe13 と切り合いが認められないため、SDe13 と一連で同時期の遺構と考えられる。この落ち込みと SDe12 は重複し、SDe12 はこの溝より先行する。D15s 区の検出長約 25.0 m、幅 1.4～3.4 m、深さ 0.1～0.25 m、主軸方位は N6° E を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土上層は灰色系の砂質土、下層は灰色系シルトからなる。

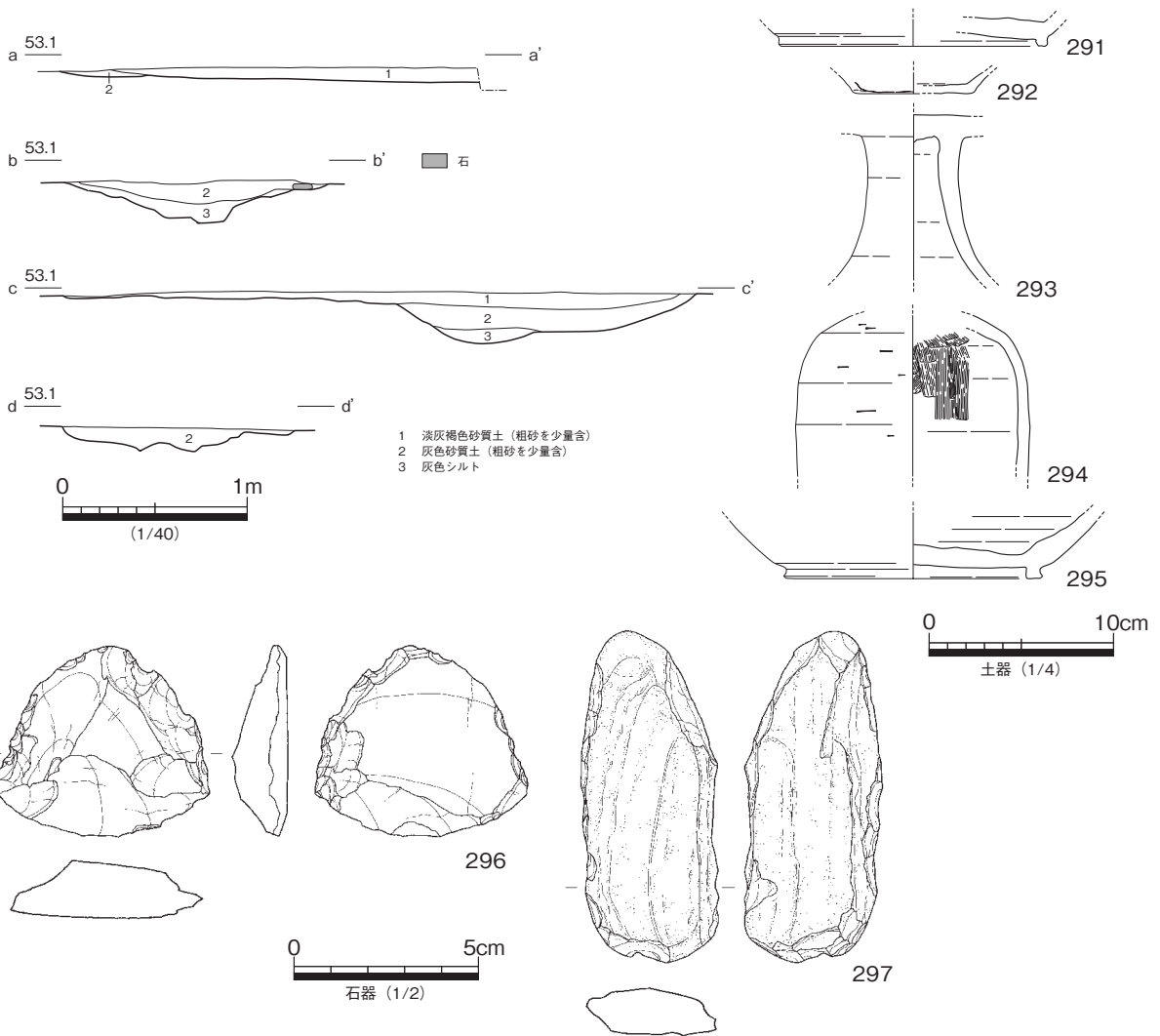
埋土からは土師器・須恵器、石器等が少量出土した。291～294 は須恵器である。291・292 は杯で、291 は高台杯の底部である。293 は高杯脚部、295 は瓶の底部に分類した。294 は類例が乏しいが瓶の上半部と推定される。296 はサヌカイトの二次加工ある剥片、297 は片岩製の二次加工を施した剥片である。出土遺物では古代後半頃の遺物が主体を占めるが、SDe13 の北半部にあたる C 調査区 SDb29 では中世前半頃の遺物を少量含むため、埋没期は中世前半以降の可能性はあるが、開削期については古代後半期の可能性が高い。

SDe15 (第 59 図)

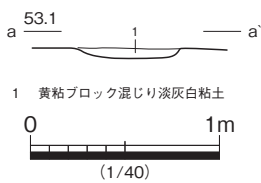
D12 区南半部で検出した北西方向から南西方向へ延びる直線状の溝跡である。東端部で SDe09 と重複し、この溝跡は SDe09 より先行する。検出長約 19.0 m、幅約 0.55 m、深さ約 0.1 m、主軸方位は



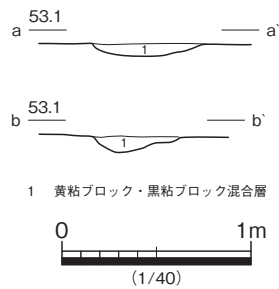
SDe12



SDe13



SDe14



SDe15

第 59 図 SDe12 ~ 15 断面図・出土遺物

N63° Eを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黄色・黒色粘土のブロック層からなる。埋土からは中世小皿片や須恵器片が少量出土したため、出土遺物から SDe15 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe16 (第 60 図)

D12 区南端部で検出した東西方向に延びる直線状の溝跡である。途中未検出の部分もあるが検出状況より、C13 区の SDe10 に連続する溝跡と考えられる。検出長約 21.0 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.15 m、主軸方位は N87° W (N3° E) を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系シルトが主体となる。

埋土からは土師器・須恵器、石器が少量出土した。298 は土師器杯である。299・300 はサヌカイトの石鎌である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDe16 と SDe10 との連続性から考えて、SDe16 は SDe10 同様の 12～13 世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe17 (第 60 図)

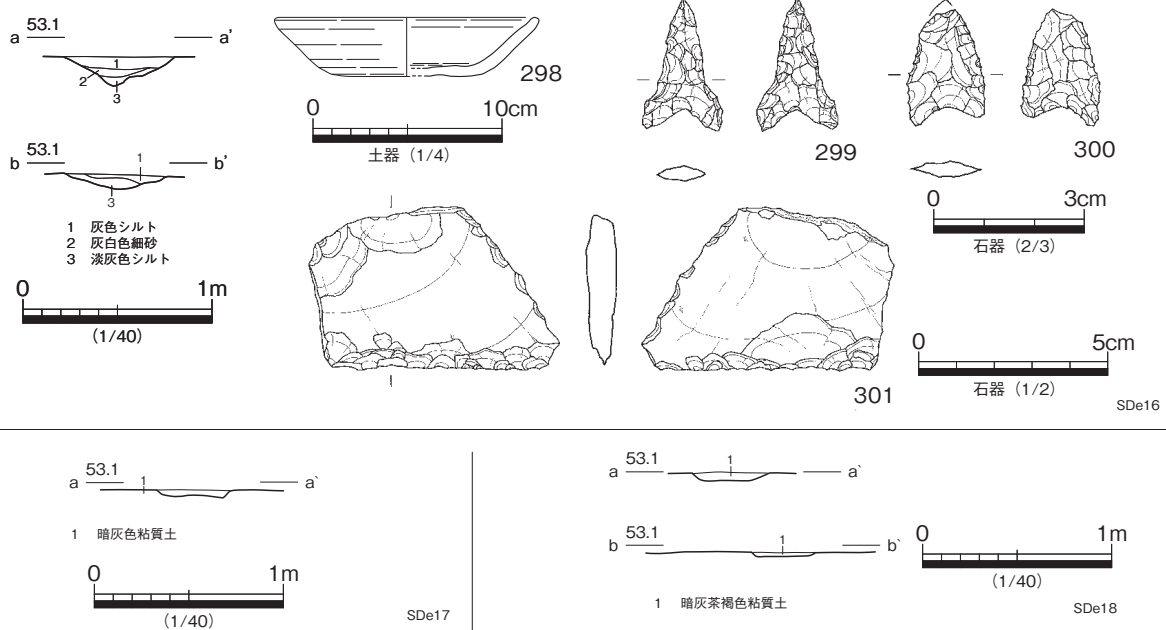
D12 区南端部で検出した湾曲気味に北東方向に延びる直線状の溝跡である。SDe16・18 と重複し、この溝跡は SDe16・18 より後出している。検出長約 12.3 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は暗灰色粘質土からなる。

埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SDe17 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

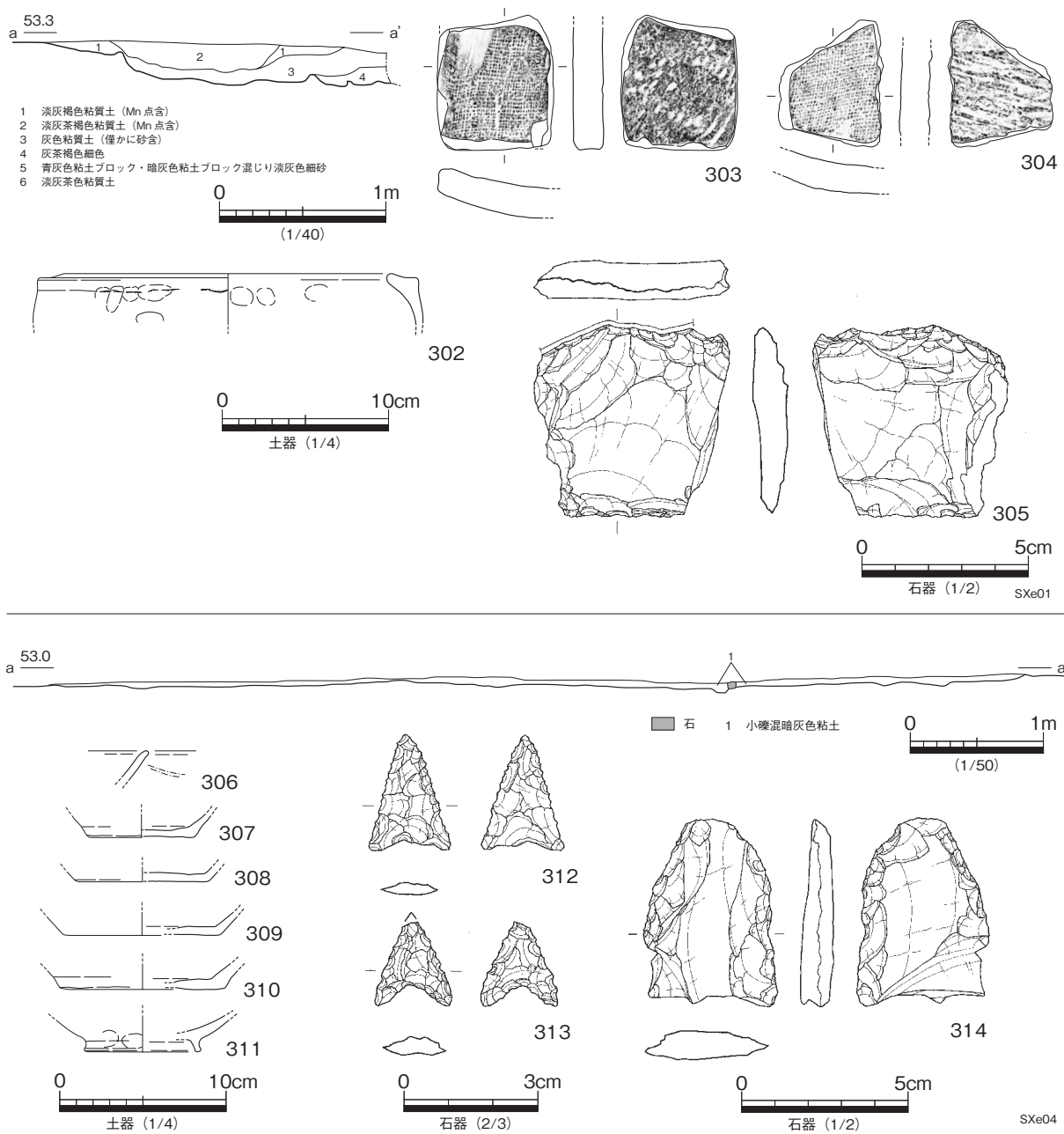
SDe18 (第 60 図)

D12 区南端部で検出した湾曲気味に東西方向に延びる直線状の溝跡である。SDe17 と重複し、この溝跡は SDe17 より後出している。検出長約 12.0 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は暗灰色粘質土からなる。

埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SDe18 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。



第 60 図 SDe16～18 断面図，出土遺物



第 61 図 SXe01・04 断面図，出土遺物

不整形遺構

SXe01 (第 61 図)

C13 区南端の SDe07～09 合流部の落ち込み状の遺構を指す。本来 3 条の溝の切り合いを平面上で確認後、順次掘り分けて調査を進める予定であったが、検出段階では切り合いが不明瞭で、掘り分けができなかった。幅 2.0 m 以上、深さ約 0.2 m を測る。埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは土師器、瓦、石器等が少量出土した。302 は土師器足釜の口縁部である。303・304 は平瓦片である。305 はサヌカイトの石庖丁未製品である。出土遺物が少なく、SXe01 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した遺構と考えられる。

SXe04 (第 61 図)

D15s 区の北半部で検出した不整形で浅い谷状の遺構で、自然地形の浅い窪みに包含層が堆積したものと考えられる。北西方向に向け「ハ」字状に開き、南端部は尖り気味に収束している。中間幅約 7.3 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は凹凸のある浅いレンズ状を呈し、埋土は小礫混灰色粘土からなる。

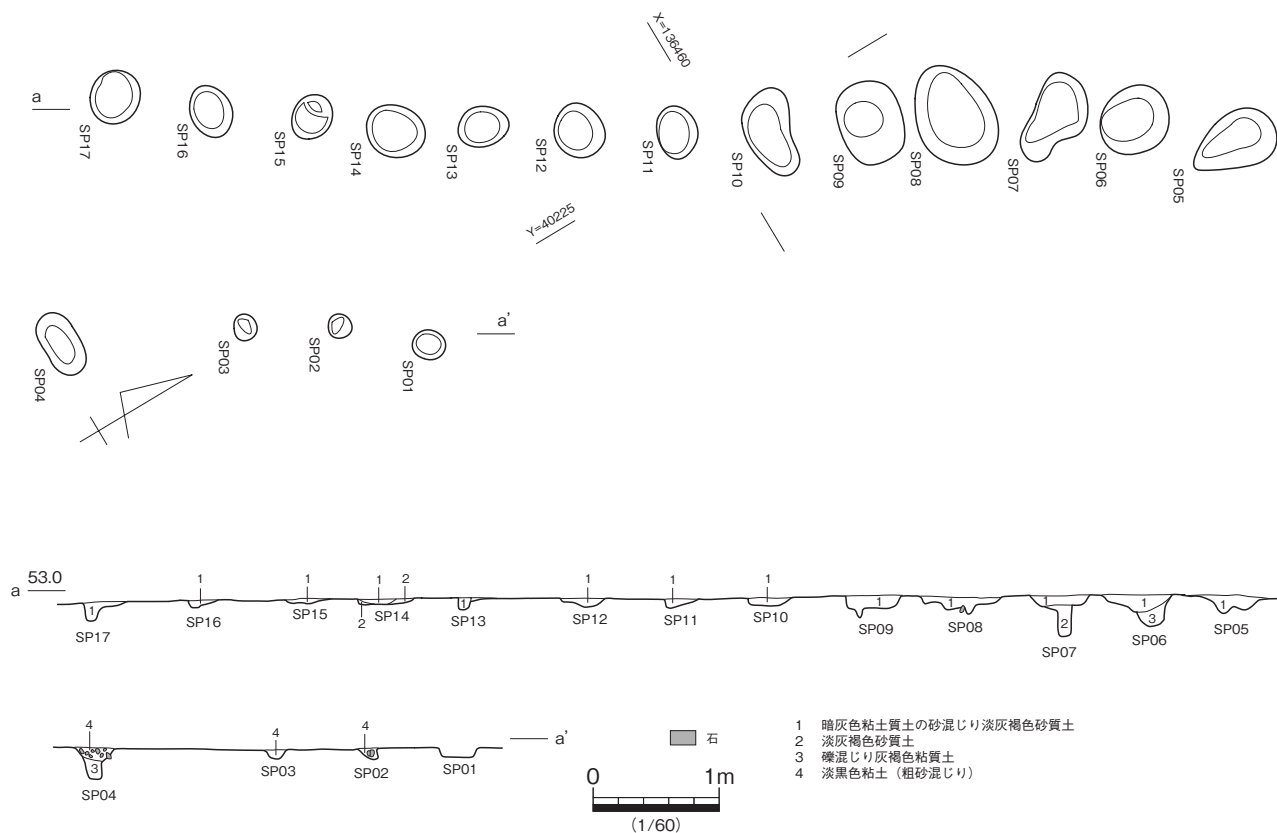
埋土から土師器・須恵器・黒色土器、石器等が少量出土した。306～310 は須恵器杯である。311 は黒色土器碗の底部である。312・313 はサヌカイトの凹基式の石鏃である。314 はサヌカイトの槍先形石器の未製品に分類したが、石斧ないし石鋏の可能性もある。出土遺物が少なく、SXe04 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から古代末～中世前半以降に埋没した遺構と考えられる。

(4) 時期不明の遺構

柵列

SAe01 (第 62 図)

C15s 区南半部で検出した柵列である。約 15.0 m の直線上に円～不整形形のピットが計 19 基確認した。ピットは削平を受けて残りが悪く不揃いである。径 0.2～0.8 m、深さ 0.1～0.3 m、主軸方位は N32° E を測る。埋土は灰色系の砂質土と黒色系の粘土からなる。形状から推定して、柵列とみるより、底面の凹凸が著しい溝跡が削平により底部の窪み部分が残存した可能性が高い。遺物が出土していないため、時期判断には問題を残す。

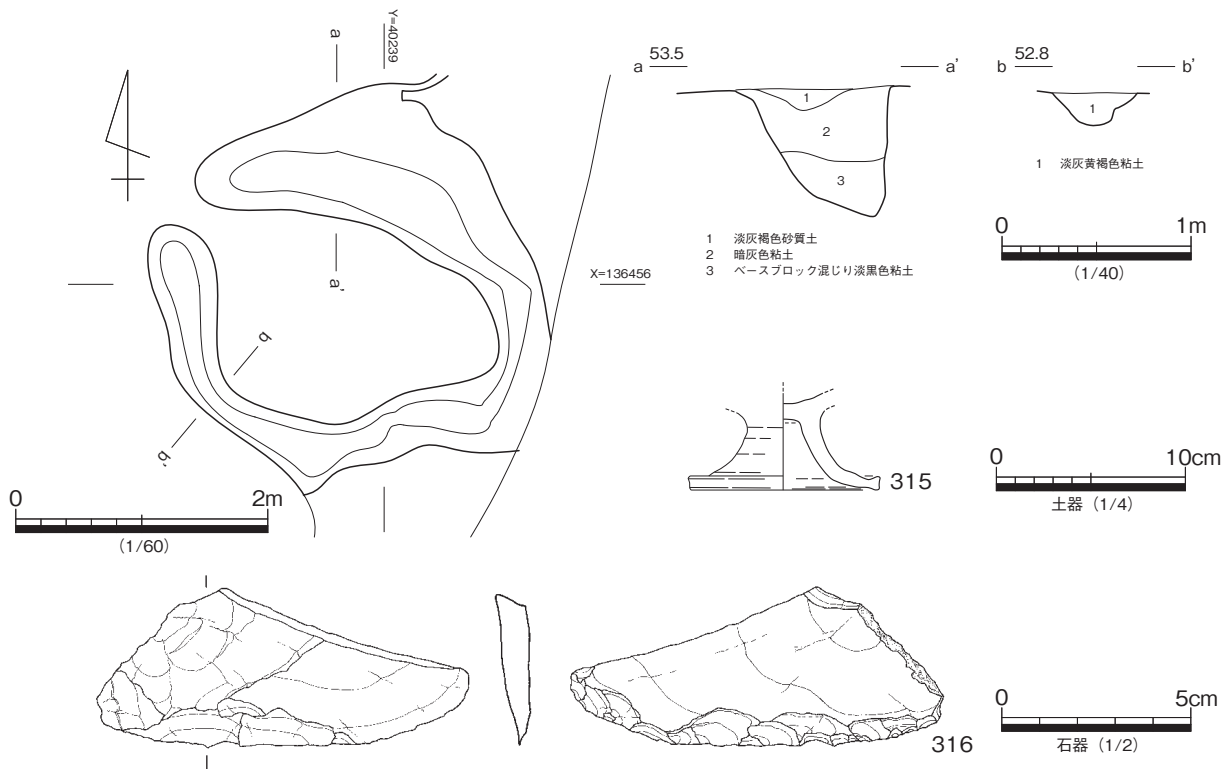


第 62 図 SAe01 平・断面図

SXe02 (第 63 図)

C13 区の北端部 SDe06 の西側で検出した不整形遺構である。馬蹄形状の形状を呈する溝状の遺構であるが、溝底の凹凸が著しく人為的な遺構とは考えられない。おそらく、古代以降の風倒木の跡と考えられる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等の遺物が出土した。315 は 7 世紀頃の須恵器高杯の杯部である。316 はサヌカイト製の横長剥片を素材とした削器で混入品であろう。



第 63 図 SXe02 平・断面図, 出土遺物

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第 64・66 図)

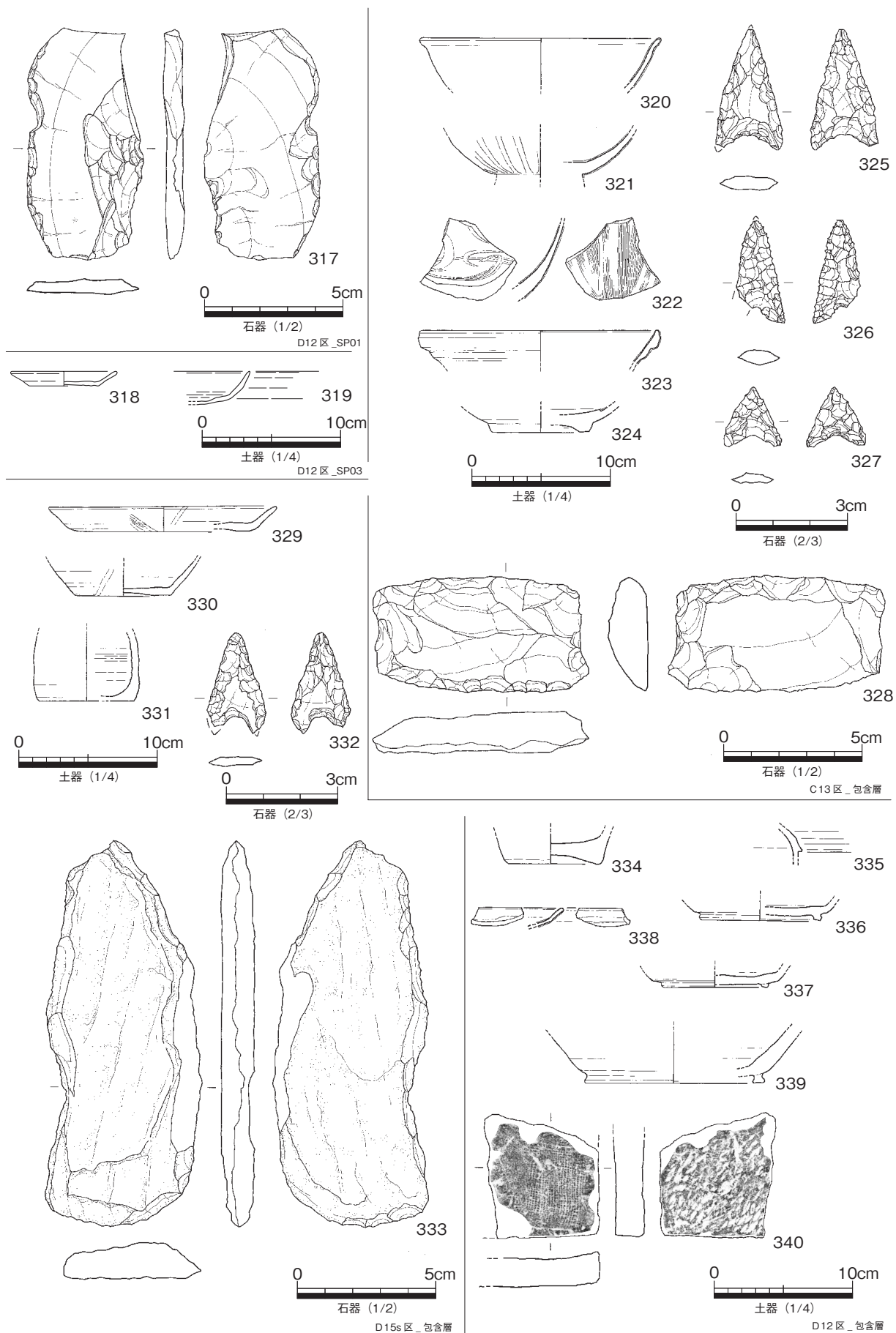
C13・D15s・D12 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

317～319 は D12 区の柱穴から出土した遺物である。317 は SP01 から出土したサヌカイトの横長剥片のエッジに調整を加えた削器である。318・319 は SP03 から出土した土師器杯である。

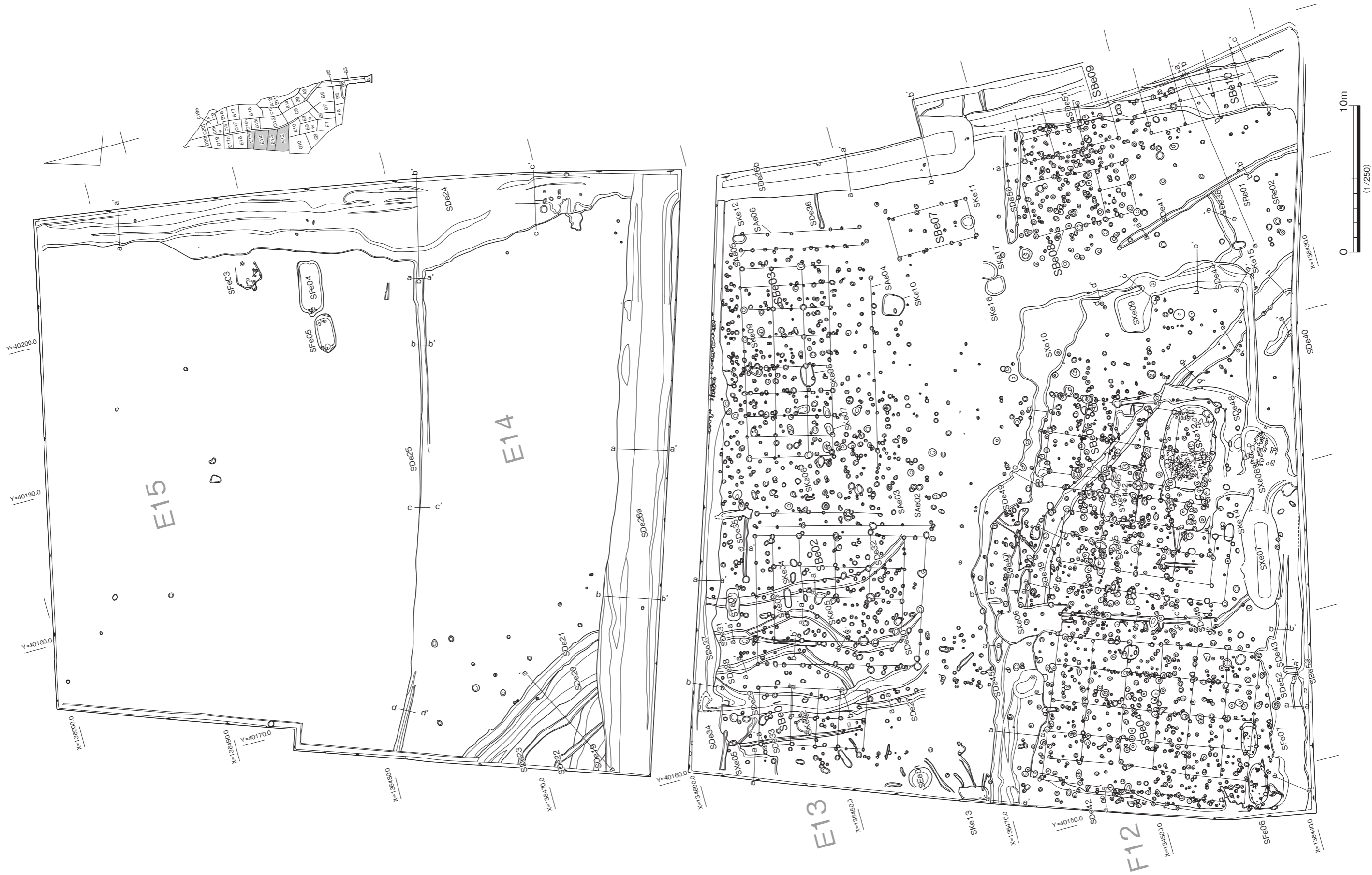
320～328 は C13 区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。320～324 は青白磁の資料で、320～322 は青磁椀、323・324 は白磁椀である。325～327 はサヌカイトの石鏃、328 は安山岩製の石庖丁である。安山岩製のものは非常に稀な資料である。

329～333 は D15s 区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。329・330・331 は須恵器の資料である。329 は皿、330 は杯、331 は瓶である。332 はサヌカイトの石鏃、333 は片岩製の比較的大型の剥片で、おそらく石庖丁等の磨製石器の素材であろう。

334～340 は D12 区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。334 は弥生時代前期頃の甕底部片、

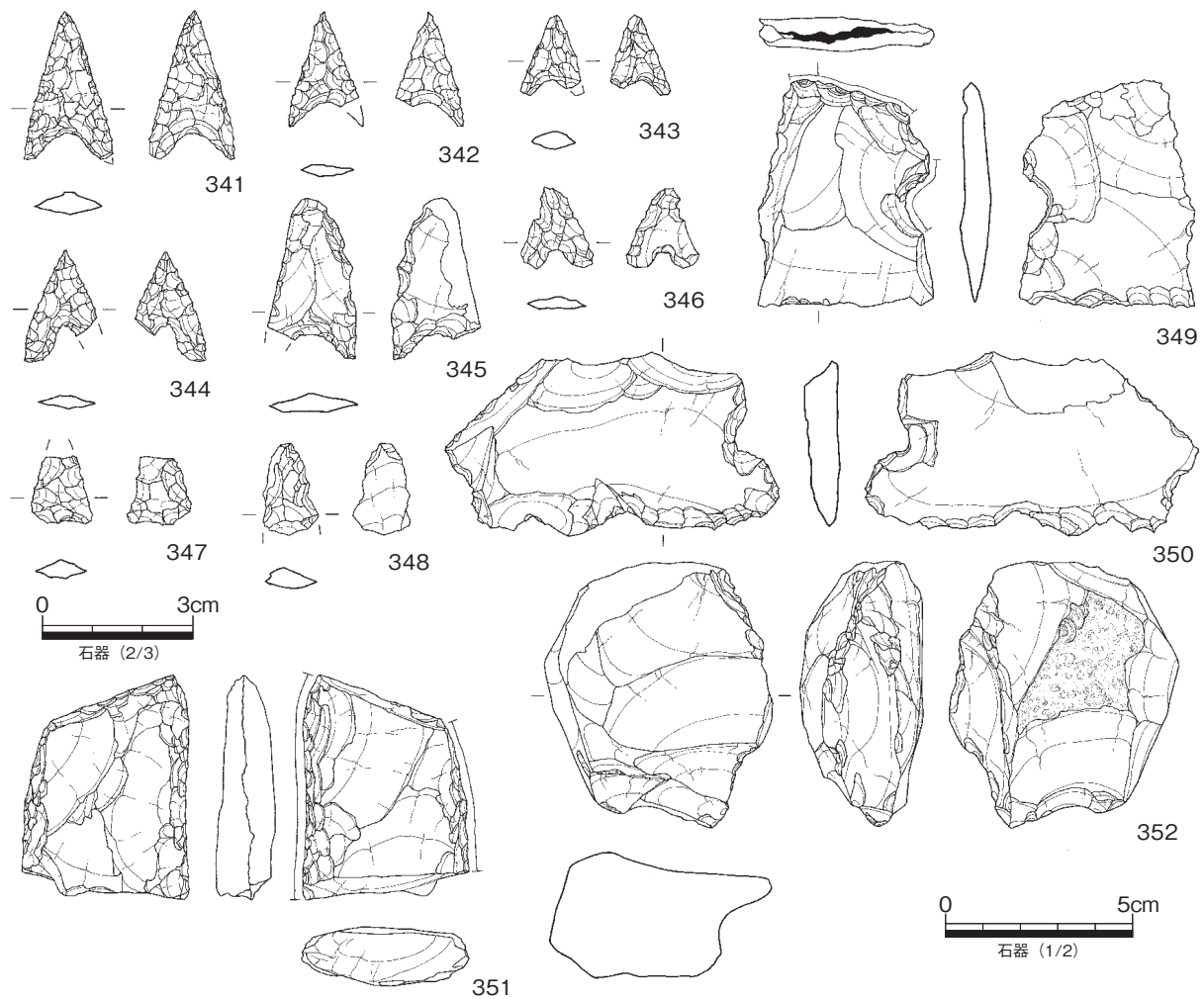


第 64 图 D12 区柱穴·C13·D15s·D12 区包含層出土遺物



第 65 図 E15・E14・E13・F12 区 遺構配置図

335～337・339は須恵器の資料である。335は杯蓋でTK47並行期頃の時期が考えられる。336・337は高台付杯の底部で8世紀中頃以降の土器である。339は壺の底部にしたが、瓶に分類すべき遺物かもしれない。338は緑釉陶器の皿である。340は布目と縄目を施した平瓦片である。341～352はサヌカイト製の石器類である。341～348は石鏃、349・350は形状から打製石庖丁の未製品に分類した。351はエッジの潰れ痕が顕著なため楔形石器にしたが、小型の石斧ないし石鋏の可能性もある。352は肉厚な剥片を素材にし、横長状の剥片を剥ぎ取った石核である。



第66図 D12区包含層出土遺物

2. E15・E14・E13・F12区

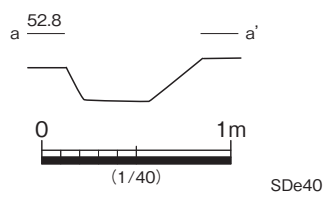
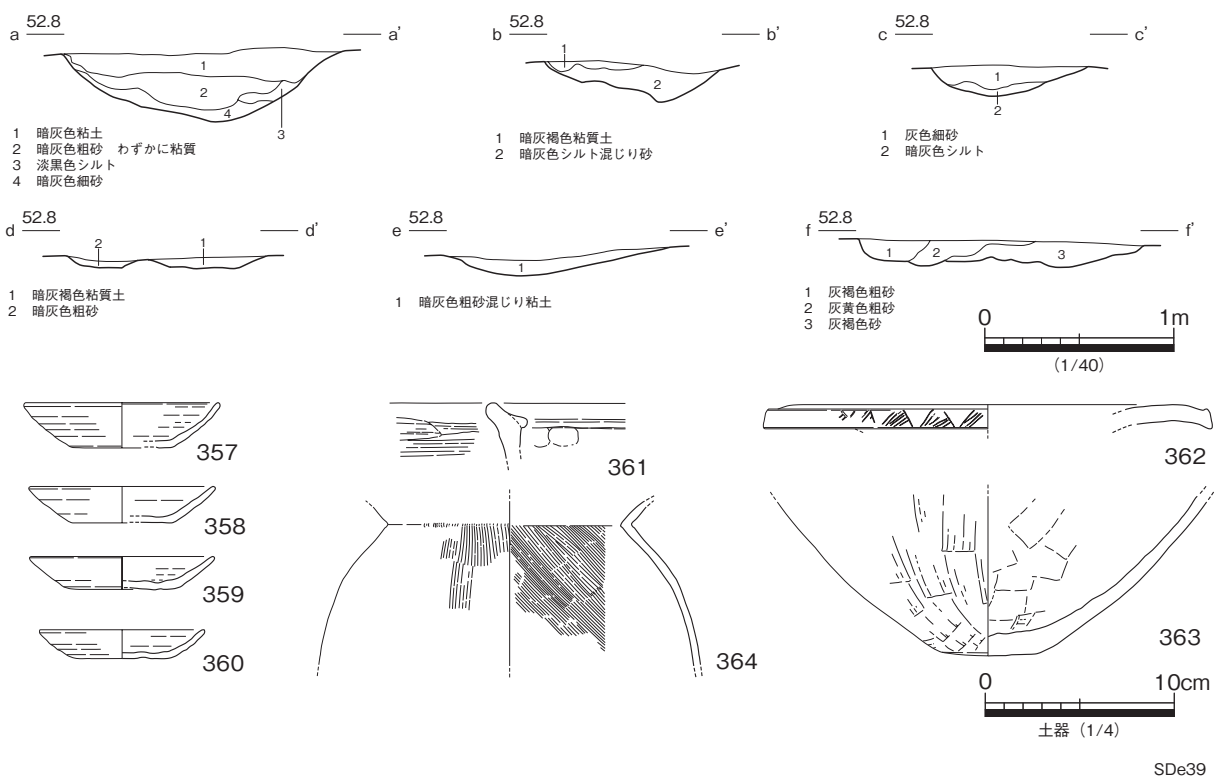
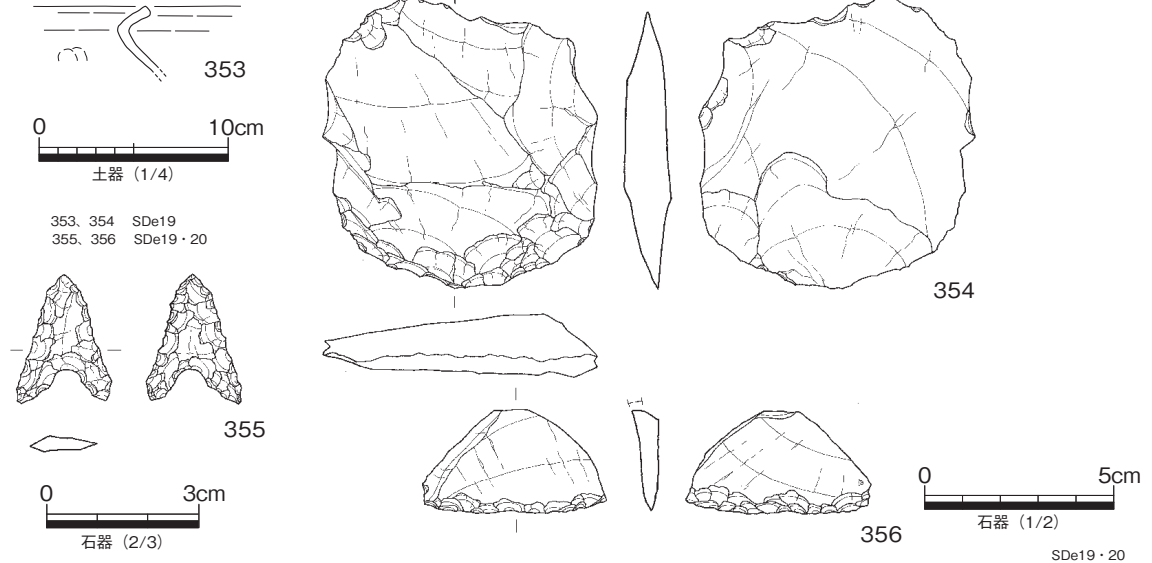
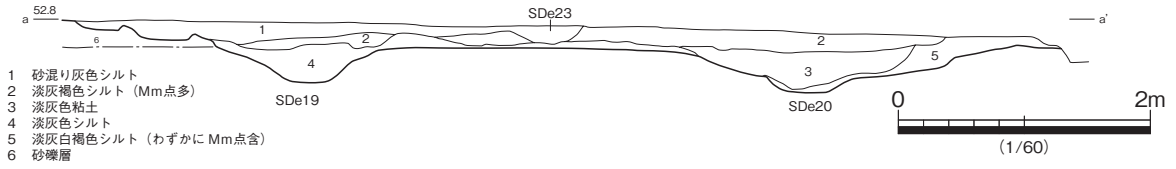
(1) 弥生時代の遺構・遺物

溝状遺構

SDe19 (第67図)

E14区南西端部で検出した東西方向に延びる溝跡である。SDe21やSDe19等により大部分が壊されており、残りが悪く遺構の実態は不明瞭である。検出長約5.0m、幅約2.0m、深さ約0.2mを測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は淡灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器、石器等が少量出土している。353は弥生土器甕口縁部片である。354は横長剥片を素材にしたサヌカイトの搔器である。355・356は出土地点が不明瞭ではあるが、SDe20ないし



第 67 図 SDe19・20・39・40 断面図，出土遺物

SDe21 から出土したサヌカイトの石鏃及び削器である。出土遺物より SDe19 は弥生時代後期後半以降の溝跡と考えられる。

SDe20 (第 67 図)

E14 区南西端部で検出した北西方向に延びる溝跡である。SDe21 や SDe19 等により大部分が壊されており、残りが悪く遺構の実態は不明瞭である。検出長約 12.5 m、幅 1.3 ～ 2.0 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は凹凸のある隅丸逆台形状を呈し、埋土は淡灰色粘土からなる。

埋土からは弥生土器、石器等が少量出土している。出土遺物より SDe20 は、SDe19 同様の弥生時代後期後半以降の溝跡と考えられる。

SDe39 (第 67 図)

F12 区南東辺から北西方向に向けて直線気味に延びる弥生時代の溝状遺構である。この溝跡は F12 区の多数の柱穴や溝跡に切り込まれ、全ての遺構に対して先行する。検出長約 31.5 m、幅約 0.8 ～ 1.55 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、直線気味の南半部の主軸方位は N30° W を測る。断面は場所により形状は異なるが、浅い皿～幅広な U 字状を呈し、埋土は主に灰色系の粘土～砂からなる。

埋土の上位層からは中世土器が混じるが、下位層からは弥生時代後期後半頃の土器が出土している。357 ～ 360 は土師器杯、361 は土師器足釜口縁部片であるが、おそらく混入品であろう。362 ～ 364 は弥生時代後期後半新相頃の資料で、362 は広口壺の口縁部で、口唇部には鋸齒文を施している 363 は壺体部の下半部である。364 は甕の上半部片である。SDe39 は上位層に中世土器が混入しているが、下位層の遺物より弥生時代後期後半新相以降に埋没した溝跡と考えられる。

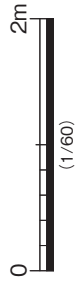
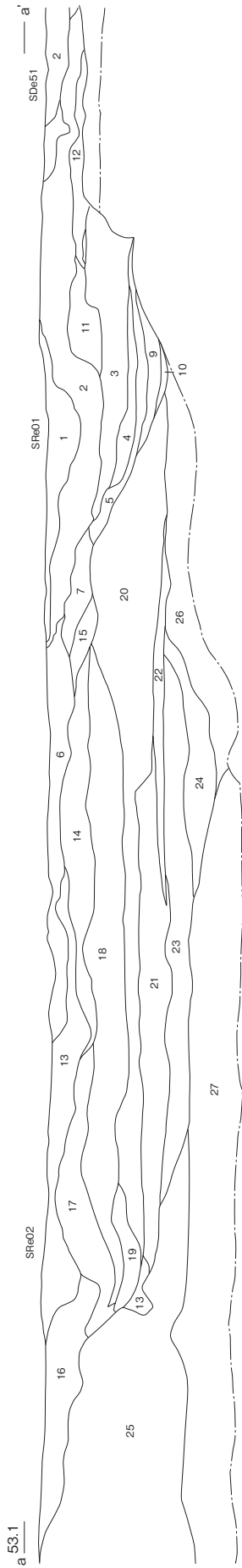
SDe40 (第 67 図)

F12 区南東辺から北西方向に向けて SDe39 と並行に短く直線気味に延びる溝状遺構である。検出長約 3.0 m、幅約 0.5 ～ 0.9 m、深さ約 0.2 m、南半部の主軸方位は N38° W を測る。埋土から遺物が出土していないため SDe40 の詳細な時期判断には無理があるが、配置等より SDe39 に類似した時期が考えられる。

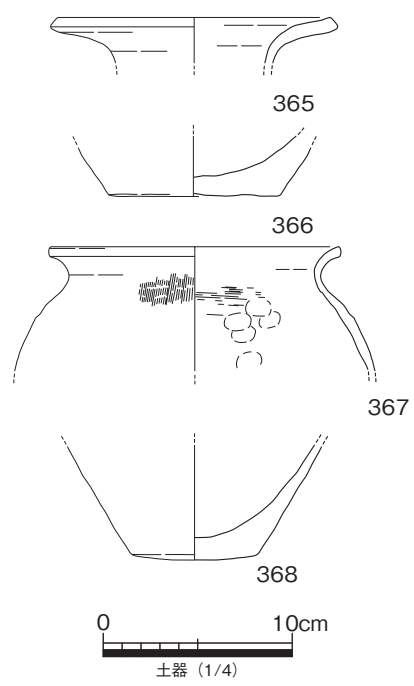
自然河川

SRe01・02 (第 68 図)

F12 区南東端部で確認した弥生時代後期後半以降の自然河川である。トレンチ調査で確認した河川のため、詳細な内容については不明瞭な点が多い。遺構面上面の検出状況からルートをとれば、F12 区南東端から E13 区の SDe29・30・32 周辺、E14 区の SDe20・21 周辺に延びて、北村用水を越え J・H 調査区の SRj01 に至る。また、南方では E 調査区の E10 区 SDe23 あたりに連続する可能性がある。F12・E13・E14 区を合わせた検出長約 70.0 m、幅 SRe01 約 9.7 m 以上、SRe02 約 11.0 m、深さ SRe01 約 1.2 m、SRe02 約 1.8 m を測る。SRe01 の断面形状は幅広 V 字状、SRe02 の断面は幅広逆台形状を呈する。トレンチの堆積層中からは、弥生時代後期後半以降の土器が数点出土した。365 は広口壺の口頸部で、366 は壺の底部片である。367 は甕の上半部、368 は甕の底部片である。



- SRe01**
- 1 淡紫灰色シルト
 - 2 淡紫褐色粘質土 (粗砂を含む)
 - 3 灰色細砂
 - 4 淡紫色粘土
 - 5 淡黒色砂
 - 6 淡紫灰色粘質土
 - 7 淡紫褐色粘質土
 - 8 18層と同様
 - 9 19層と同様
 - 10 19層と同様
 - 11 灰色砂混じり粘土
 - 12 灰色粗砂混じり灰色粘質土
- SRe02**
- 13 淡灰色細砂
 - 14 淡灰褐色細砂 (Mn点含)
 - 15 淡灰褐色粘質土
 - 16 黄色粘土ブロック混じり淡黒色粘土
 - 17 灰色細砂 (14層と類似、僅かにMn点含)
 - 18 淡紫褐色細砂 (14・17層に類似)
 - 19 暗灰色粗砂
 - 20 暗灰色砂 (粗砂・19層のラミナを部分的に含)
 - 21 淡紫褐色細砂
 - 22 淡紫褐色砂礫 (21・23層間にラミナ状に入る)
 - 23 灰色砂・暗灰色粗砂混じり淡黒色粘土 (有機質を多量に含)
 - 24 淡紫褐色砂礫 (礫は小礫)
 - 25 黄灰色粘土
 - 26 淡紫褐色粘土
 - 27 砂礫 (25～27層山層)



第 68 図 SRe01・02 断面図, 出土遺物

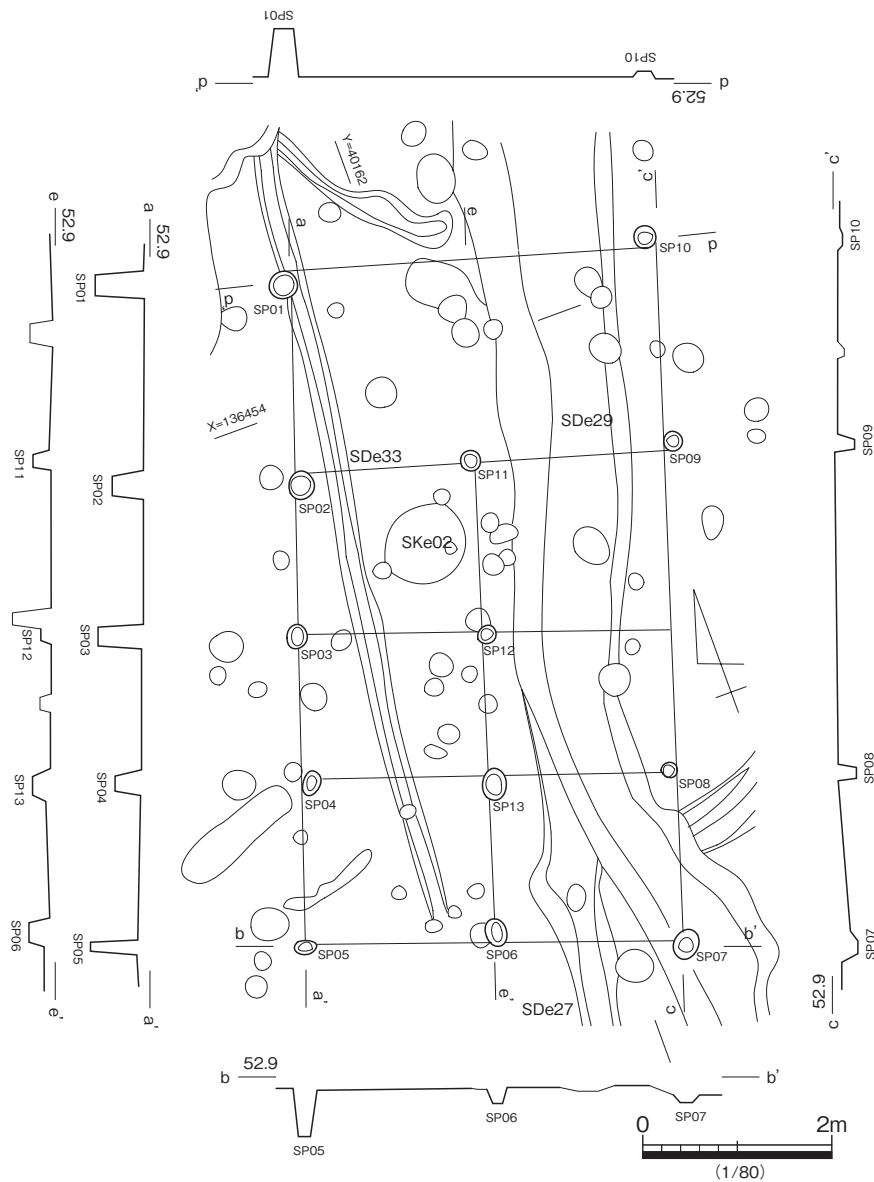
(2) 中世～近世初頭の遺構・遺物

掘立柱建物

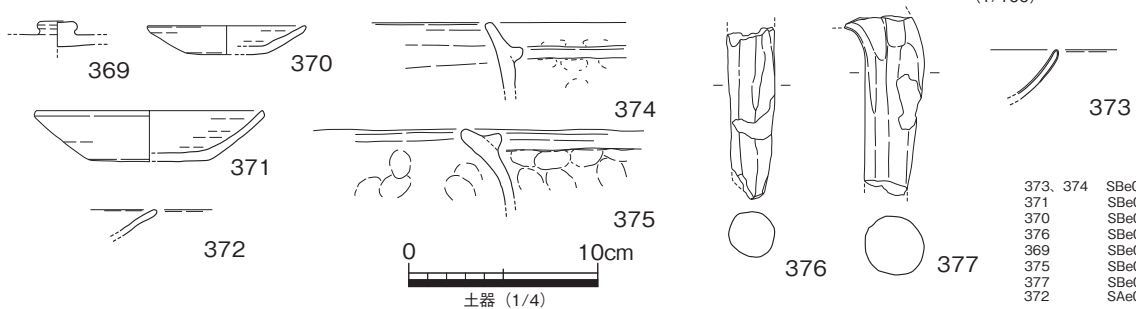
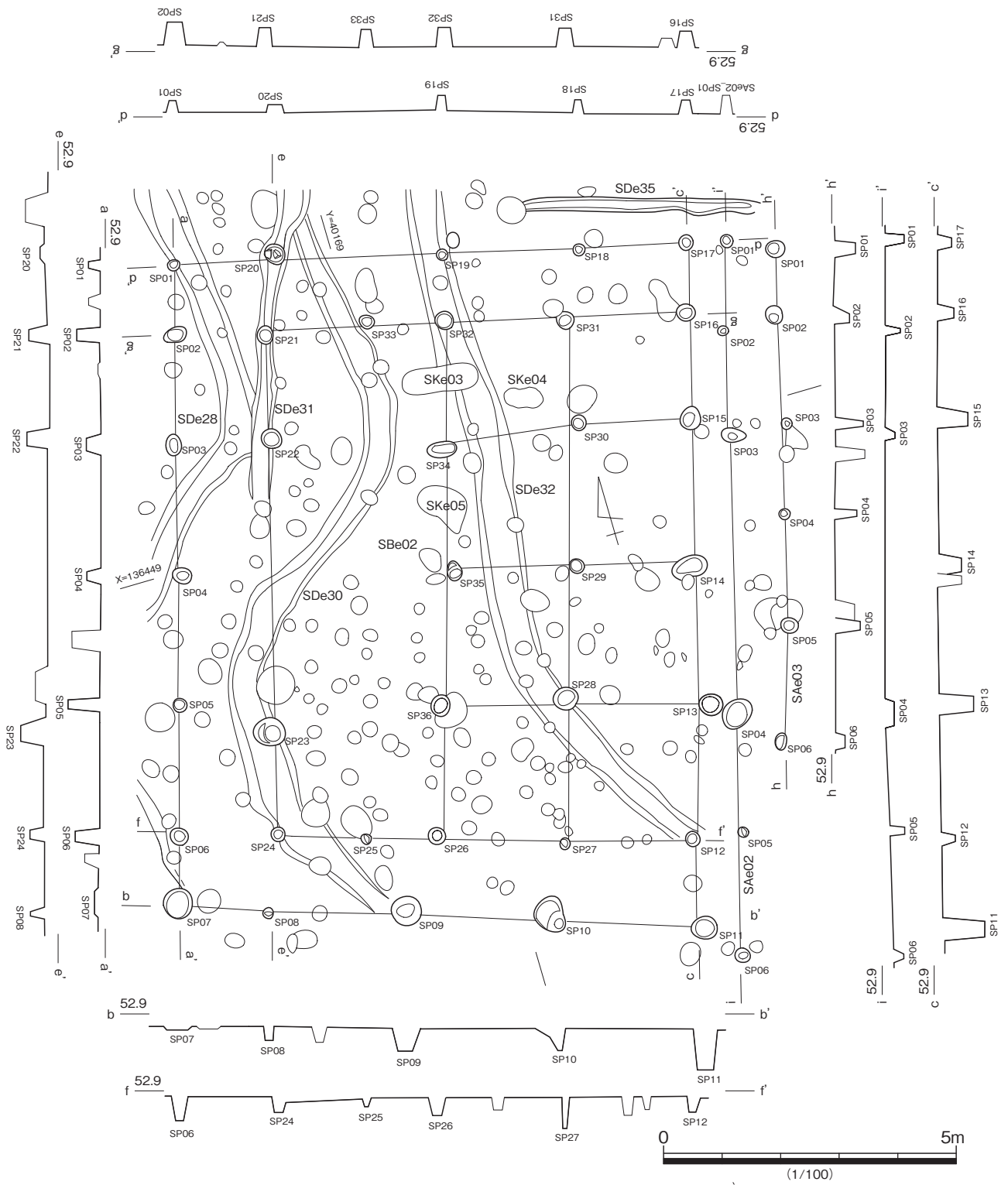
SBe01 (第69図)

E 13 区西端部で検出した梁間 2 間・桁行 4 間の南北棟の総柱建物である。西側には SBe02 が向きを揃えて隣接する事から、SBe02 は関連する建物と考えられる。SBe01 は SDe29 と重複し、前後関係では、この建物は SDe29 より後出する。(2 間 4.0 m) × 4 間 (7.5 m)、面積 30.0㎡、主軸方位 N18° E を測る。柱間は梁間 2.0 m、桁行 1.5 ～ 2.2 m を測る。柱穴掘方は円形～楕円形状を呈し、柱穴径は 0.05 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.35 m を測り、かなり不揃いである。

柱穴からは土師器細片が少量出土した。出土遺物が少なく SBe01 の詳細な時期判断には無理があるが、SBe02 との関係から概ね中世末以降の建物と考えられる。

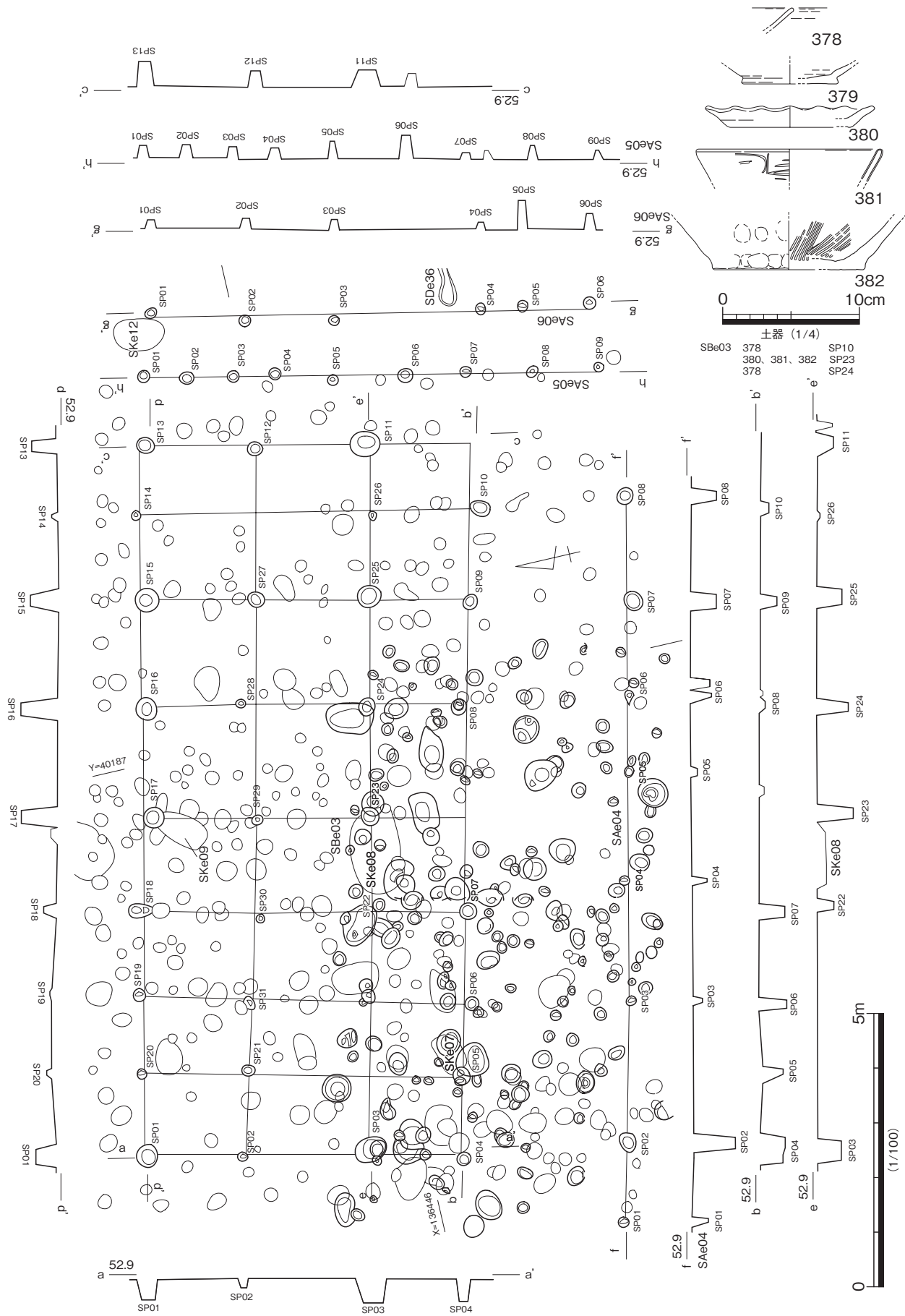


第 69 図 SBe01 平・断面図

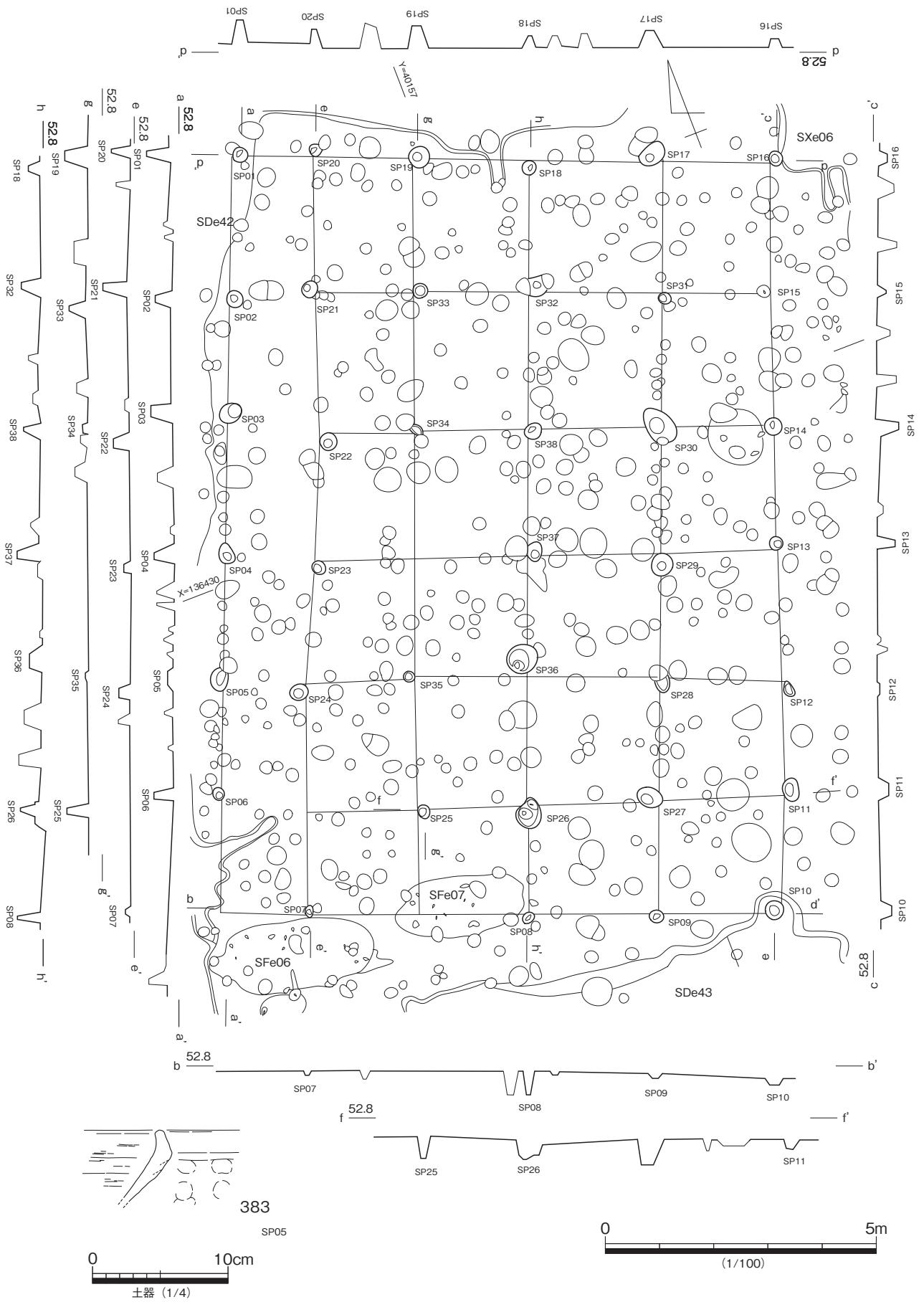


- 373, 374 SBe02_SP14
- 371 SBe02_SP31
- 370 SBe02_SP29
- 376 SBe02_SP28
- 369 SBe02_SP03
- 375 SBe02_SP11
- 377 SBe02_SP10
- 372 SAe03_SP03

第70図 SBe02 · SAe02 · 03平・断面図, 出土遺物



第 71 図 SBe03・SAe04～06 平・断面図，出土遺物



第72図 SBe04平・断面図，出土遺物

SBe02 (第70図)

E 13区西半部で検出した西をSBe01、東をSBe03に挟まれた中間に配置する建物で、密集する柱穴群の中からの南北棟の大型建物跡を整理作業の段階で確認した。E 13区のSBe02を含めたSBe01～03の3棟の建物は北辺を直線状に揃えていることで、配置の規格的性がみられることから、同時期に営まれた建物の可能性が高い。SBe02はSDe28～32と重複し、前後関係ではSBe02はこれらの溝跡より後出する。なお、北辺に隣接するSDe35はSBe02の雨落溝と考えられる。身舎は梁間4間・桁行4間、南・北・西面の3面には廂ないしは回廊が1間分付設するものと考えられる。身舎の東半部の床には東柱が備わることから、一部高床構造の建物と考えられる。

身舎は4間(7.3m)×4間(8.9m)、面積64.7㎡、主軸方位N14.0°Eを測る。柱間は梁間1.4～2.1m、桁行1.8～2.5mを測る。柱穴掘方は円形～不整円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.5m、深さ0.3～0.6mを測り、かなり不揃いである。廂ないし回廊部分を含めた構造では、5間(8.8m)×6間(11.5m)、面積101.2㎡、主軸方位N14°Eを測る。

柱穴からは須恵器・土師器・陶器等が少量出土した。369は8～9世紀頃の須恵器杯蓋である。370・371は土師器杯、374・375は土師器足釜口縁部、376・377は土師器足釜脚部片、373はSP14から出土した陶器碗の口縁部片である。SBe02は出土遺物や検出状況等から、中世末以降の建物と考えられる。

SBe03 (第71図)

E 13区東半部で検出した。SBe01・02の東側に位置し、密集する柱穴群の中からの梁間3間・桁行8間の東西棟で大型建物跡を確認した。先述したように、SBe03を含めたSBe01～03の3棟の建物は北辺を直線状に揃えていることで、配置の規格的性がみられることから、同時期に営まれた建物の可能性が高い。SBe03はSKe07・08・13等と重複し、前後関係ではSBe03はこれらの土坑より後出する。床面には一部未検出ではあるが、東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。3間(6.0m)×8間(13.0m)、面積78.0㎡、主軸方位N76°W(N14°E)を測る。柱間は梁間1.9～2.2m、桁行1.4～2.0mを測る。柱穴掘方は円形～不整円形状を呈し、柱穴径は0.1～0.5m、深さ0.05～0.6mを測り、かなり不揃いである。

柱穴からは土師器・須恵器・陶磁器等が少量出土した。378は土師器杯でSP10、379は須恵器杯でSP24から出土した。380～382はSP23から出土した資料で、380は近世初頭頃の陶器皿、381は青磁碗、382は土師器播鉢である。SBe03は出土遺物や検出状況等から、17世紀前半の近世初頭頃の建物と考えられる。

SBe04 (第72図)

F12区西半部で検出した西面に廂を備えた大型の南北棟である。床面には東柱が全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。建物の周囲にはSDe42・43・45・46等の雨落溝が囲っている。SBe04はSFe06・07等と重複し、前後関係では不明瞭な点があるが、出土遺物からSBe04はこれらの窯跡より後出する。身舎は4間(8.6m)×6間(14.0m)、面積120.4㎡を測る。主軸方位N20.5°Eを測る。柱間は梁間1.8～2.5m、桁行2.0～2.3mを測る。西面の廂は身舎の西側柱列から1.5m程隔てた位置に配され、雨落溝SDe42に接している。廂を含めた構造は、5間(10.1m)×6間(14.0m)、面積141.4㎡を測る。柱穴掘方は円形～不整円形状を呈し、柱穴径は0.1～0.6m、深さ0.1～0.4mを

測り不揃いである。

柱穴からは土師器・須恵器・青磁片が少量出土した。出土遺物が少なく SBe04 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物であろう。

SBe05 (第 73 図)

F12 区中央で検出した西面と南面に廂を備えた南北棟の総柱建物である。東辺を除く三辺には建物の周囲を囲う SDe46・47、SXe07・08 等の雨落溝や雨落溝に係わる水溜状遺構が配されている。東西両側には SBe04・06 が所在する。なお、F12 区の SBe05 を含めた SBe04～06 の 3 棟の建物は南北棟の構造で、向きを揃え配置に規格性が認められることや雨落ち溝を共有する点など、同時期に営まれた建物の可能性が高い。また、SBe05 は SXe11・12 等と重複するが切り合い関係では不明瞭な点がある。身舎は 2 間 (3.5 m) × 4 間 (10.2 m)、面積 35.7㎡を測る。主軸方位 N25° E を測る。柱間は梁間 1.5～2.0 m、桁行 2.5～2.7 m を測る。柱穴掘方は円形～不整円形状を呈し、柱穴径は 0.1～0.4 m、深さ 0.1～0.6 m を測り不揃いである。西面・南面の廂は身舎から 1.0～1.5 m 程隔てた位置に配されている。廂を含めた構造は、3 間 (4.8 m) × 5 間 (11.5 m)、面積 55.2㎡を測る。

柱穴からは土師器・瓦質土器・磁器等が出土した。384～391 は柱穴から出土した土師器杯の資料である。387 は SP03、388・386・390・391 は SP12、389 は SP14、385 は SP16、384 は SP17 から出土した。392 は SP09 から出土した青磁碗の底部、393 は SP16 から出土した瓦質の亀山焼の甕片である。SBe05 は出土遺物や検出状況等から、14～15 世紀頃の建物と考えられる。

SBe06 (第 74・75 図)

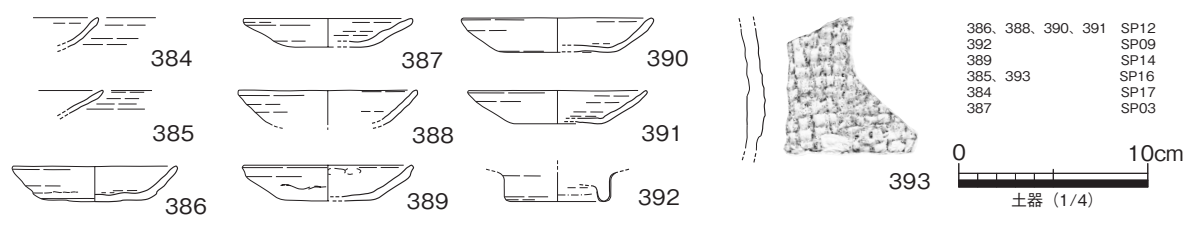
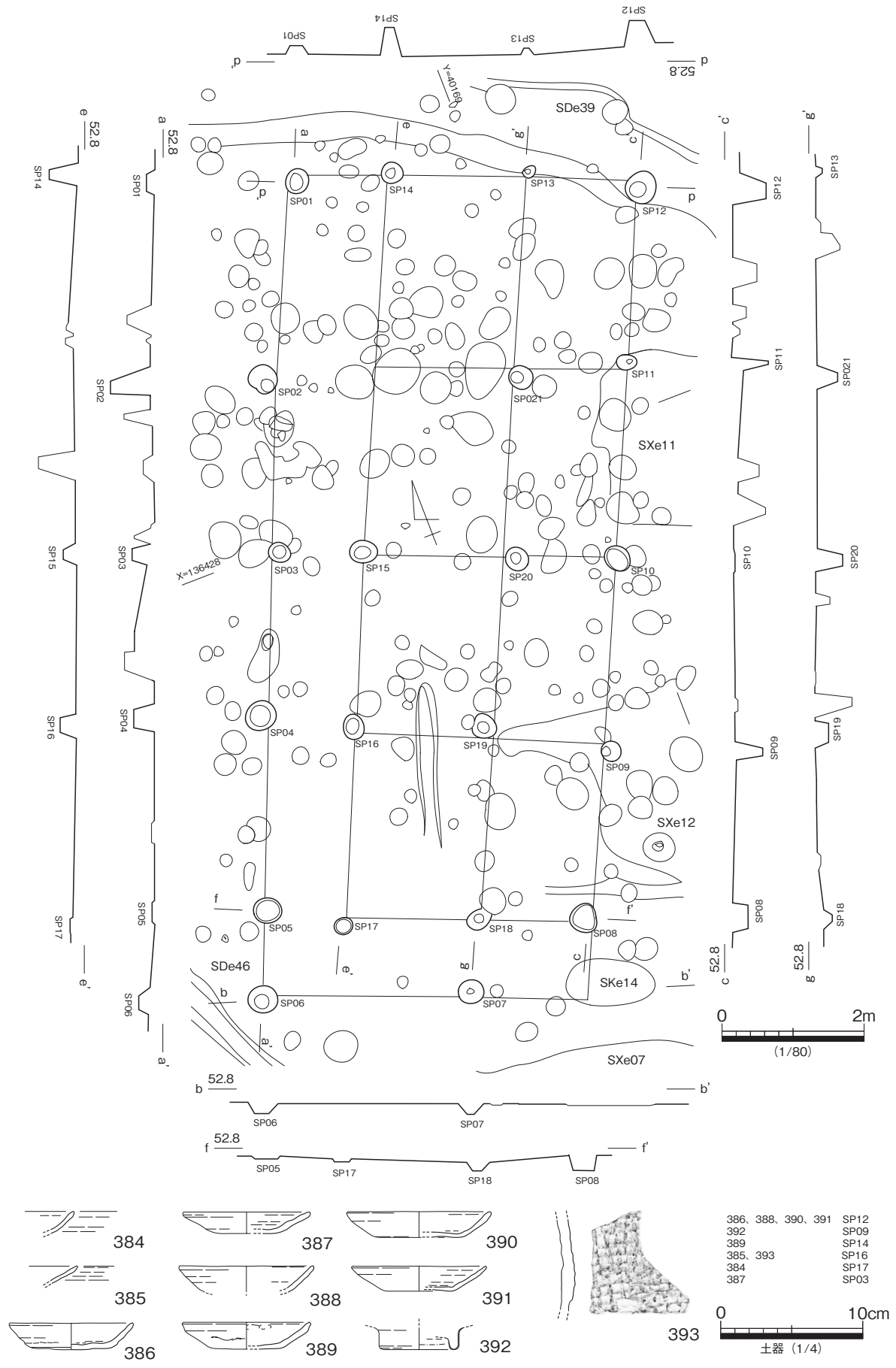
F12 区中央で検出した西面に廂を備えた南北棟の建物である。床面には束柱が全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。西辺を除く三辺には建物の周囲を囲う SDe48・49、SXe10 等の雨落溝や雨落溝に係わる水溜状遺構が配されており、西側には SBe04・05 が所在する。なお、先述したように SBe06 を含めた SBe04～06 の 3 棟の建物は南北棟の構造で、向きを揃え配置に規格性がみられることや雨落ち溝を共有する点など、同時期に営まれた建物の可能性が高い。また、SBe06 は、SDe39、SXe12 等と重複する。前後関係では SDe39 より後出し、SXe12 より先行する。

身舎は 2 間 (5.2 m) × 5 間 (11.0 m)、面積 57.2㎡を測る。主軸方位 N22° E を測る。柱間は梁間 2.5～2.7 m、桁行 2.0～2.4 m を測る。柱穴掘方は円形～不整円形状を呈し、柱穴径は 0.2～0.6 m、深さ 0.4～0.8 m を測り不揃いである。西面の廂は身舎から 1.0 m 程隔てた位置に配されている。廂を含めた構造は、3 間 (6.2 m) × 5 間 (11.0 m)、面積 68.2㎡を測る。

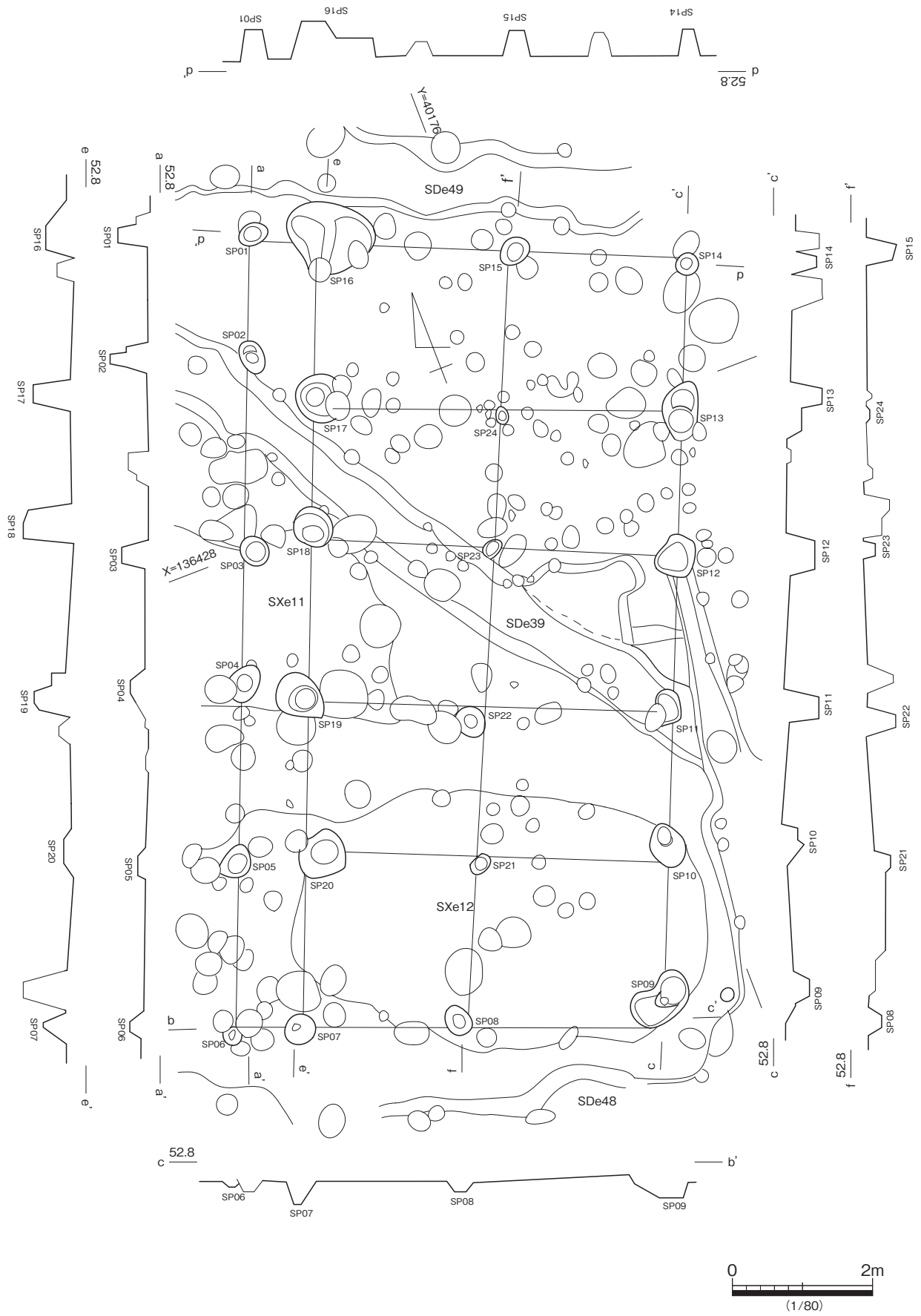
柱穴からは土師器・瓦質土器・磁器等が出土した。394～411 は柱穴から出土した土師器杯の資料である。412 は須恵器杯、413 は須恵器甕口縁部である。414・415 は土師器播鉢片で、414 は片口播鉢片である。416 は円盤状の川原石の一端に敲打を加えた敲石である。417 は棒状の敲石で、先端の敲打痕は失われている。418 は石英製の火打石である。SBe06 は出土遺物や検出状況等から、14 世紀後半～15 世紀前半頃の建物と考えられる。

SBe07 (第 76 図)

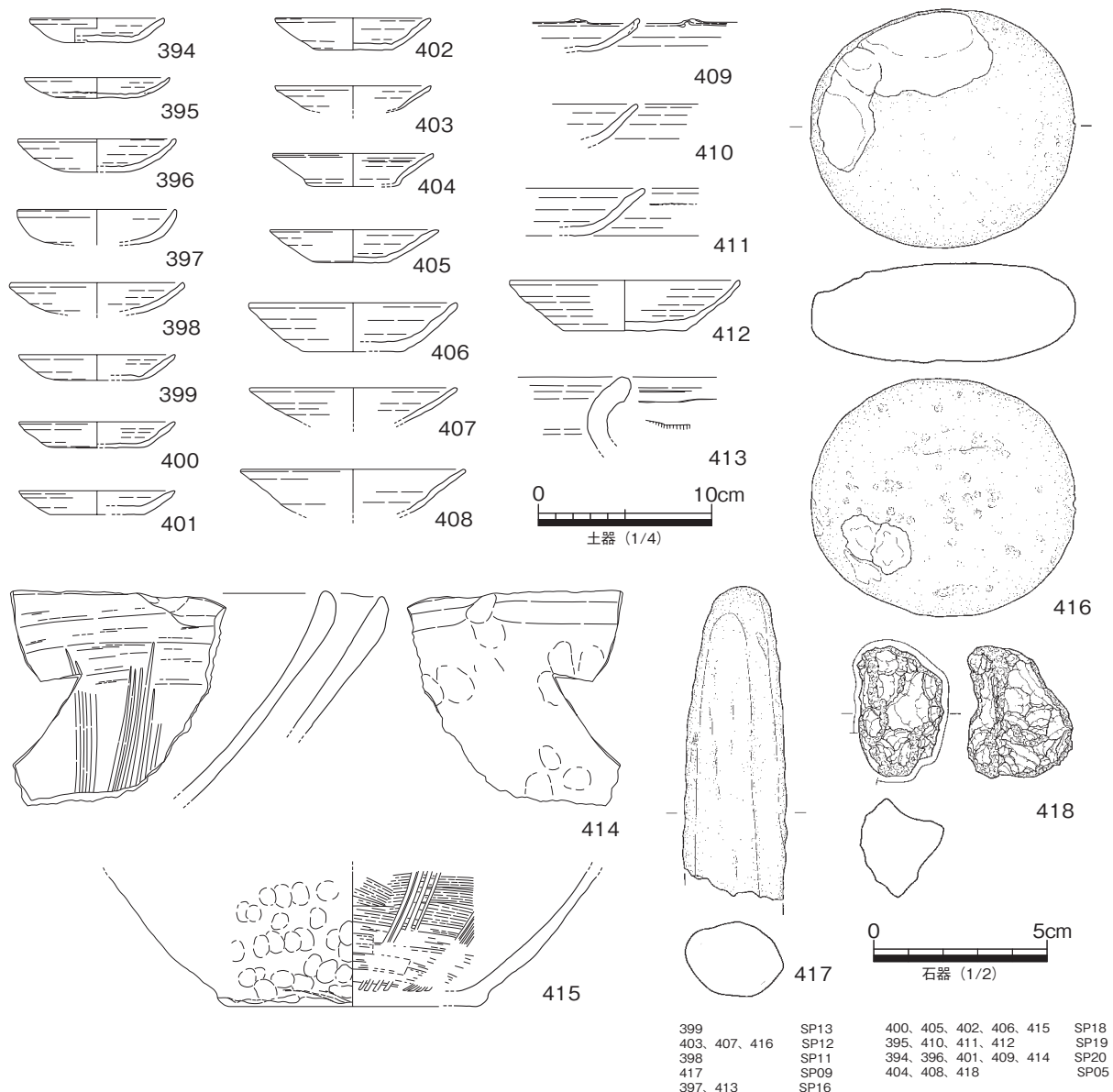
E 13 区南東端部で検出した梁間 1 間、桁行 3 間の南北棟である。東に SDe19b、南に SBe08～10 等



第73図 SBe05平・断面図



第 74 图 SBe06 平·断面图



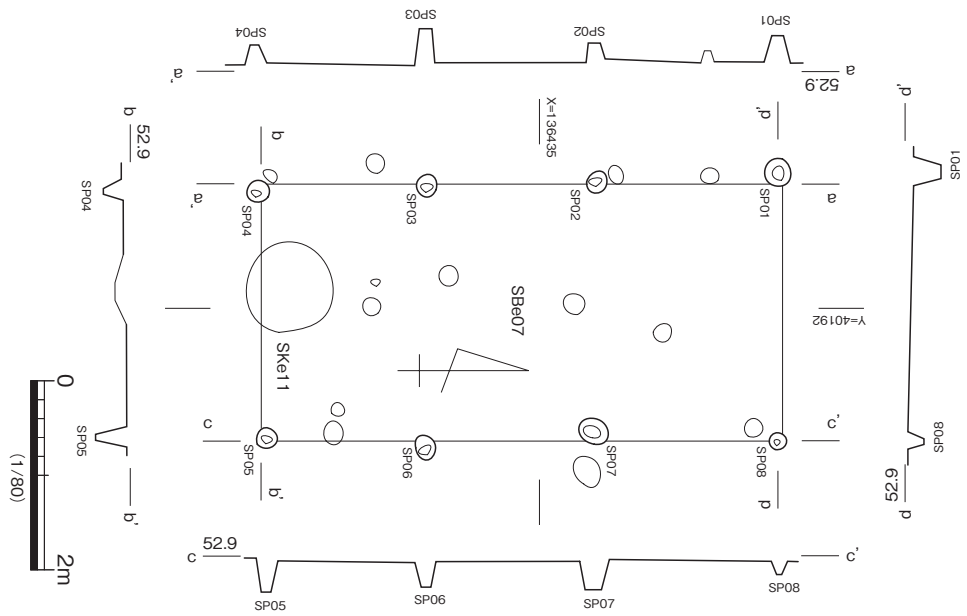
第 75 図 SBe06 出土遺物

が隣接し、SBe07 はこれらの建物と向きを揃えており、類似した時期的が考えられる。また、SBe07 は SKe11 と重複するが、柱穴と切り合わないため、前後関係は不明である。1 間 (2.7 m) × 3 間 (5.7 m)、面積 15.39㎡、主軸方位 N0.5° W を測る。柱間は梁間 2.7 m、桁行 1.7 ~ 2.0 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。

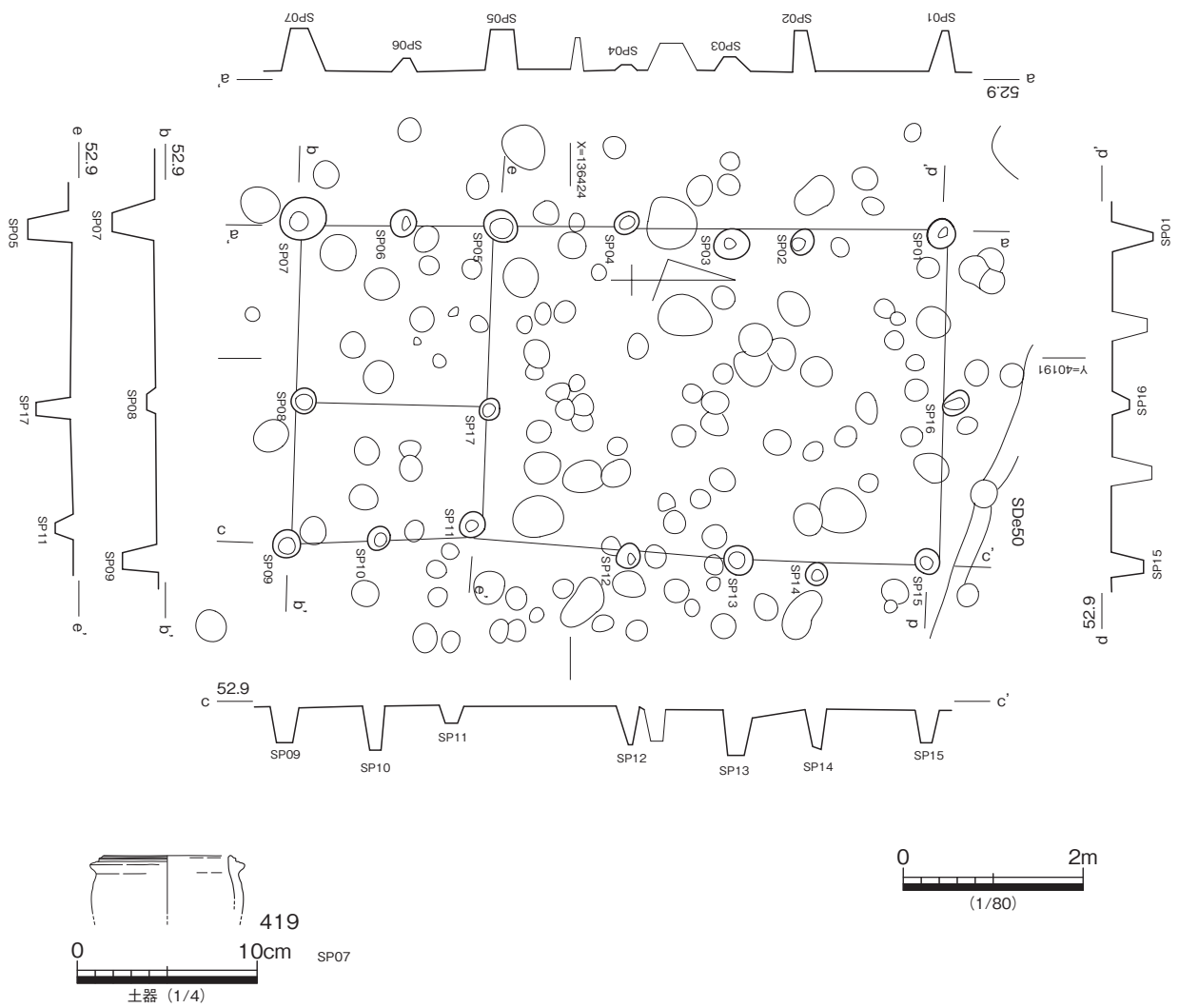
柱穴からは土師器の小片が数点出土した。出土遺物が少なく SBe07 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

SBe08 (第 77 図)

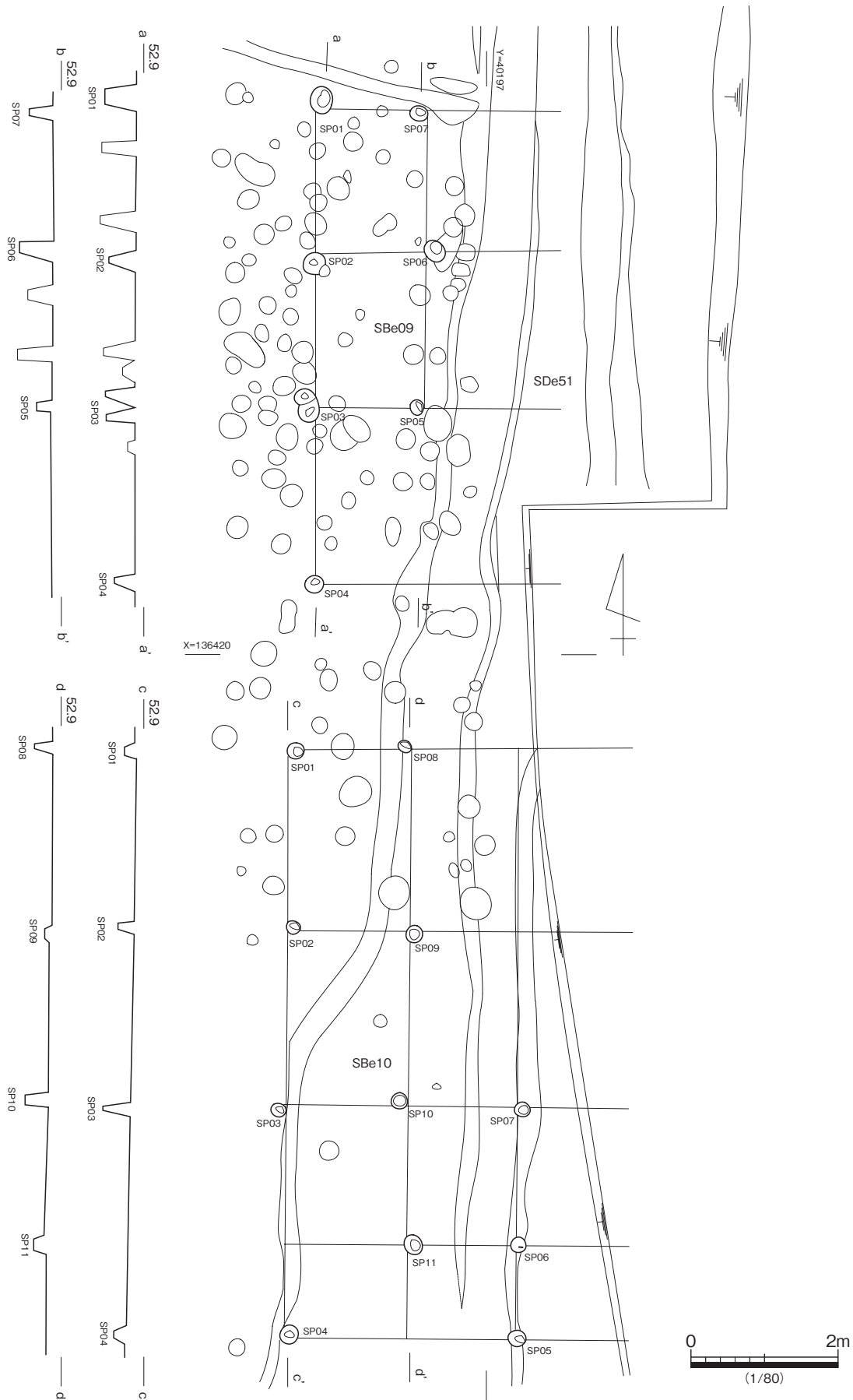
F12 区北東端部で検出した梁間 2 間、桁行 6 間の南北棟である。東に SBe09、南に SBe10 等が隣接し、SBe08 はこれらの建物と向きを揃えており、類似した時期的が考えられる。2 間 (3.7 m) × 6 間 (7.1 m)、面積 26.27㎡、主軸方位 N1.0° E を測る。柱間は梁間 1.4 ~ 2.0 m、桁行 1.0 ~ 1.6 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ~ 0.5 m、深さ 0.2 ~ 0.5 m を測る。



第76図 SBe07平・断面図



第77図 SBe08平・断面図，出土遺物



第 78 图 SBe09・10 平・断面图

柱穴からは土師器小皿・杯・土鍋・足釜、須恵器杯等が数点出土した。419はSP07から出土した土師器の鉢である。出土遺物が少なくSBe08の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

SBe09 (第78図)

F12区北東端部で検出した梁間1間以上、桁行3間の南北棟である。東半部はSDe51により削平されたためか、失われている。南と西には向きを揃えたSBe08・10、北にはSBe07等が隣接しており、類似した時期が考えられる。床面には一部未検出ではあるが東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。1間以上(1.4m以上)×3間(6.5m)、面積9.1㎡以上を測る。主軸方位N1.0°Eを測る。柱間は梁間1.4m、桁行2.0～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.3～0.4mを測る。

柱穴からは須恵器壺、瓦質土器播鉢・捏鉢及び土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSBe09の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

SBe10 (第78図)

F12区南東端部で検出した梁間2間以上、桁行4間の南北棟である。この建物は東端部に位置するSDe51が埋没した後の堆積層上面から切り込んでおり、前後関係としては、SBe10はSDe51に対し後出する。北と西には向きを揃えたSBe08・09が隣接しており、関係が注目される。床面には一部未検出ではあるが、東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。2間以上(3.2m以上)×4間(8.0m)、面積25.6㎡以上を測る。主軸方位N1.0°Eを測る。柱間は梁間1.4～1.8m、桁行1.3～2.3mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSBe10の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世末以降の建物と考えられる。

柵列

SAe02 (第70図)

E13区中央部、SBe02の東側柱列から東へ約0.7m離れ、柱列に並行して配された柵列である。南北方向の柵列で、柱間は1.5～4.8mを測り、かなり不揃いであるが、未検出の柱穴が中間に所在する公算が高い。SBe02の東側柱列に隣接し並行して配されていることより、当初SBe02の廂と考えたが、距離的に近すぎるため別遺構と考えた。南北5間、検出長12.3m、柱間は1.1～2.0mを測り不揃いである。柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N14.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SAe02の詳細な時期判断には無理があるが、他遺構との係わりや検出状況等から概ね中世末以降の柵列と考えられる。

SAe03 (第70図)

E13区中央部、SAe02の柱穴列から東へ約0.9m、SBe02の東側柱列から東へ約1.5m離れ、柱列に並行して配された柵列である。南北方向の柵列であるが、一穴を欠き本来は6間分の柵列と考えられる。SBe02の東側柱列に隣接し並行して配されていることより、当初SBe02の廂の可能性も考えたが、東

側柱列の中間までしか確認できない点から別遺構と考えた。なお、この柵列より東約 4.0 m に位置する SBe03 周辺には、SBe03 を中心にして SAe03 ～ 06 の 4 条の柵列が建物の北辺を除く三辺を画しており、SAe03 は SBe03 を中心とした居住域の西辺を区画する柵列と考えられる。南北 5 間、検出長 12.2 m、柱間は 1.1 ～ 2.0 m を測り不揃いである。柱穴径約 0.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m、主軸方位 N14.0° E を測る。

柱穴からは中世後半の土師器小皿・鍋片等が少量出土した。372 は SP03 から出土した土師器杯口縁部片である。出土遺物が少なく SAe03 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世末以降の柵列と考えられる。

SAe04 (第 71 図)

E 13 区東半部、SBe03 の南側柱列から南へ約 3.0 m 離れ、SBe03 の側柱列に並行に配された柵列である。先述したように SBe03 周辺の SAe03 ～ 06 は SBe03 を区画する柵列と考えられる。SAe04 は南辺を画する東西延長 7 間の柵列で、検出長 14.0 m、柱間は 1.5 ～ 2.5 m を測り不揃いである。柱穴径 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.2 ～ 0.7 m、主軸方位 N77.0° W (N13.0° E) を測る。

柱穴からは中世後半の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SAe04 の時期判断には無理があるが、概ね SBe03 と類似する時期と考えられる。

SAe05 (第 71 図)

E 13 区東端部、SBe03 の東辺梁間から東へ約 1.3 m 離れ、梁間の柱列に並行して配された柵列である。位置的な点から当初 SBe03 の廂とも考えたが、柱間が揃っていないため別遺構と考えた。なお、先述したように SAe03 ～ 06 は SBe03 を区画する柵列と考えられ、SAe05 は SBe03 を中心とした居住域の東辺を区画する柵列と考えられる。南北 8 間、検出長 8.2 m、柱間 0.9 ～ 1.2 m を測り比較的短い。柱穴径約 0.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m、主軸方位 N12.0° E を測る。

柱穴からは中世後半の土師器が少量出土した。出土遺物が少なく SAe05 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね SBe03 と類似する時期と考えられる。

SAe06 (第 71 図)

E 13 区東端部、SBe03 の東辺梁間に隣接する柵列 SAe05 より更に東に約 1.1 m 隔てた位置に梁間の柱列に並行して配された柵列である。なお、先述したように SAe03 ～ 06 は SBe03 を区画する柵列と考えられ、SAe06 は SAe05 同様 SBe03 を中心とした居住域の東辺を区画する柵列と考えられるが、おそらく、SAe06 と SAe05 は時期差が表れているものと考えられる。南北 8 間、検出長 8.2 m、柱間 0.9 ～ 2.5 m を測り比較的揃いである。おそらく、未検出の柱穴が存在していたものと考えられる。柱穴径約 0.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m、主軸方位 N12.0° E を測る。

柱穴からは中世後半の土師器が少量出土した。出土遺物が少なく SAe06 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね SBe03 と類似する時期と考えられる。

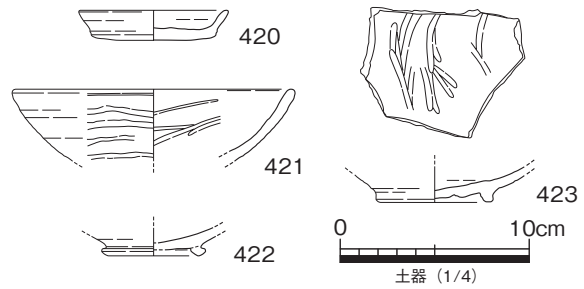
井戸・土坑・墓跡

SEe01 (第 79 図)

E13 区と F12 区の境界の西端部に位置する井戸であるが、調査途上で崩落し精緻な調査ができてい

ない。平面は円形状を呈し径約 1.6 m、深さ約 1.0 m 以上を測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器等が数点出土した。420 は土師器の小皿、421・423 須恵器碗、422 は黒色土器碗の底部である。出土遺物から SEe01 は 12 世紀以降に埋没した遺構と考えられる。



第 79 図 SEe01 出土遺物

SKe02 (第 80 図)

E13 区西端部で検出した小型土坑である。平面は円形状、断面は不整形で浅い逆台形状を呈する。径約 0.8 ～ 0.9 m、深さ約 0.2 m を測る。埋土上層は淡灰褐色砂質土、下層は灰褐色砂質土からなる。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SKe02 は中世後半以降の土坑と考えられる。

SKe03 (第 80 図)

E13 区西半部で検出した小型土坑である。SDe32 と重複し、SKe03 は SDe32 より後出する。平面は長楕円形状、断面は浅い逆台形状を呈する。長径約 1.3 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N78° W (N12° E) を測る。埋土下層には暗灰色砂質土が堆積し、西半部には焼土・炭ブロック混じり暗灰色粘質土が、その上位に堆積している。

埋土からは土師器・磁器等が数点出土した。424 は 15 世紀頃の中世の土師器の杯、425 は 12 世紀以降の青磁碗の口縁部片である。出土遺物から SKe03 は 15 世紀以降の中世後半頃の土坑と考えられる。

SKe04 (第 80 図)

E13 区西半部、SKe03 の東側で検出した小型土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径約 0.7 m、短径約 0.35 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N74° W (N16° E) を測る。

床面からは土師器、銭の一括資料が出土した。426 ～ 434 は 14 ～ 15 世紀頃の土師器杯、436 ～ 438 は中国銭である。436 は元豊通宝 (1078 ～ 1085 年)、437 は聖宋元宝 (1101 年)、438 は聖宋元宝 (1101 年) である。435 は不明鉄製品である。出土遺物から SKe04 は 14 ～ 15 世紀の中世後半以降に埋没した土坑と考えられる。

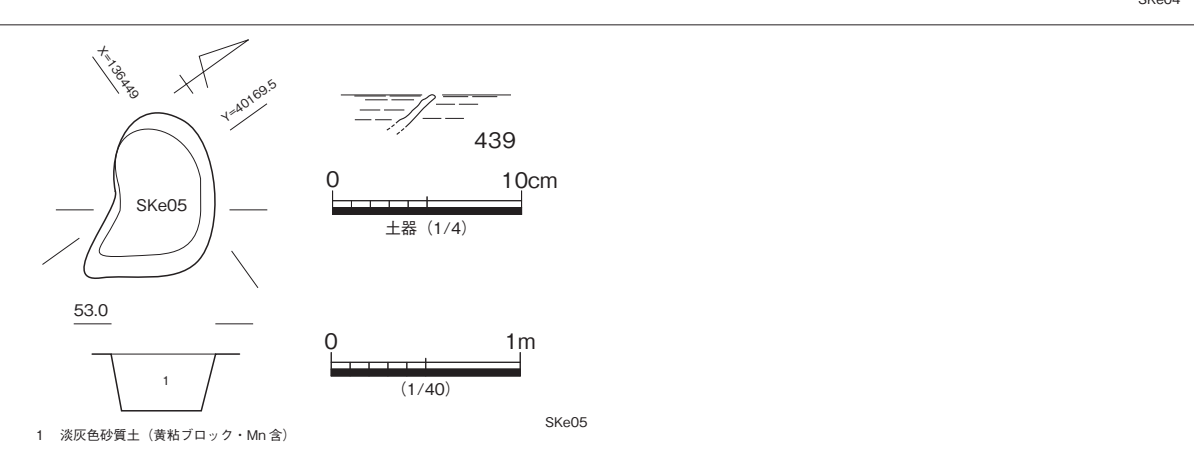
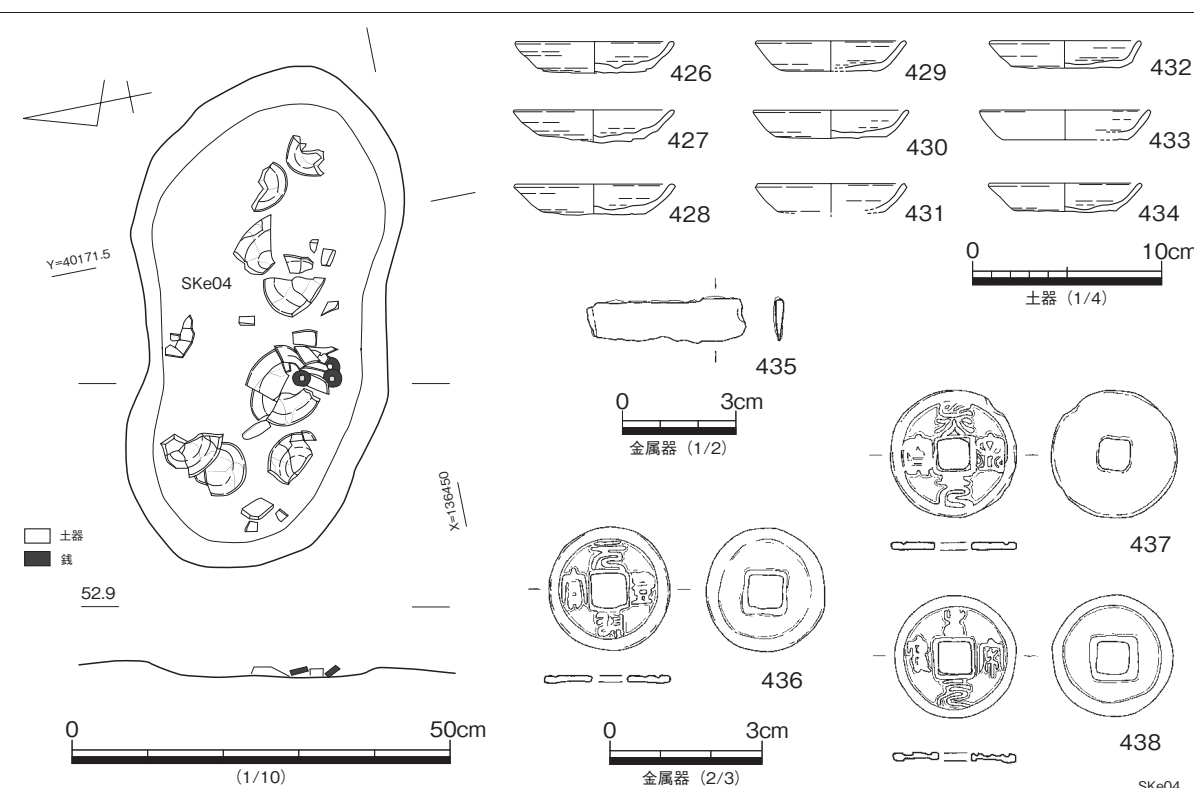
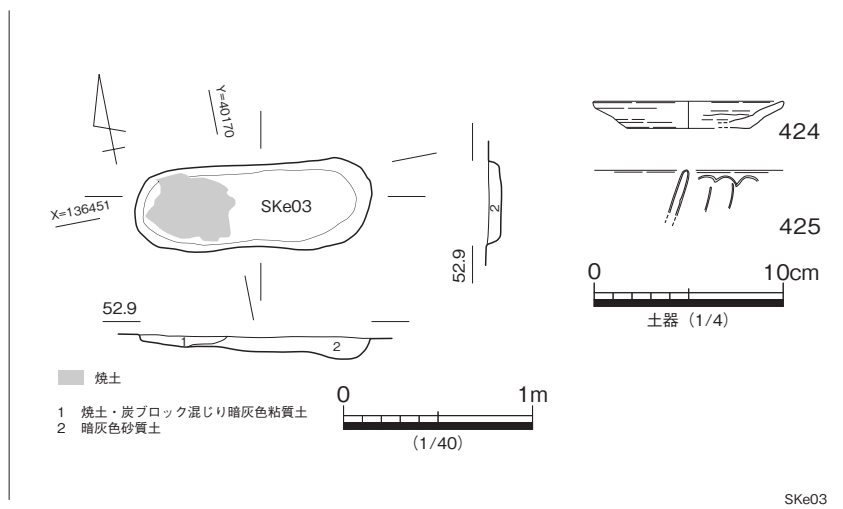
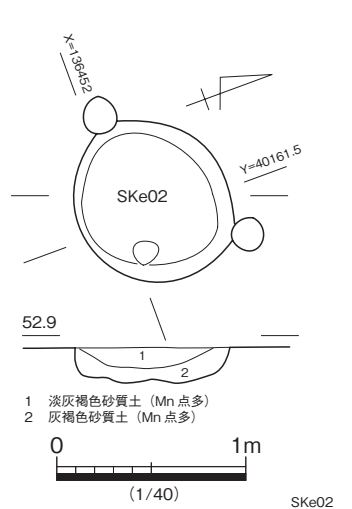
SKe05 (第 80 図)

E13 区西半部、SKe03 の南側、SDe32 の西側で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は比較的深い。長径約 0.85 m、短径約 0.55 m、深さ約 0.3 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

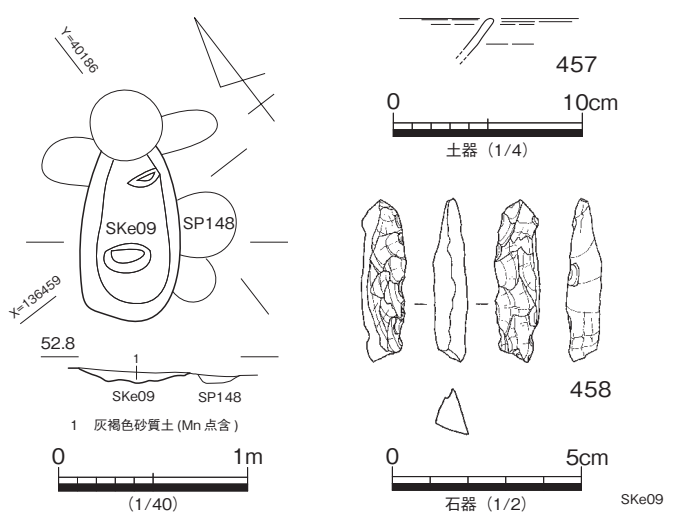
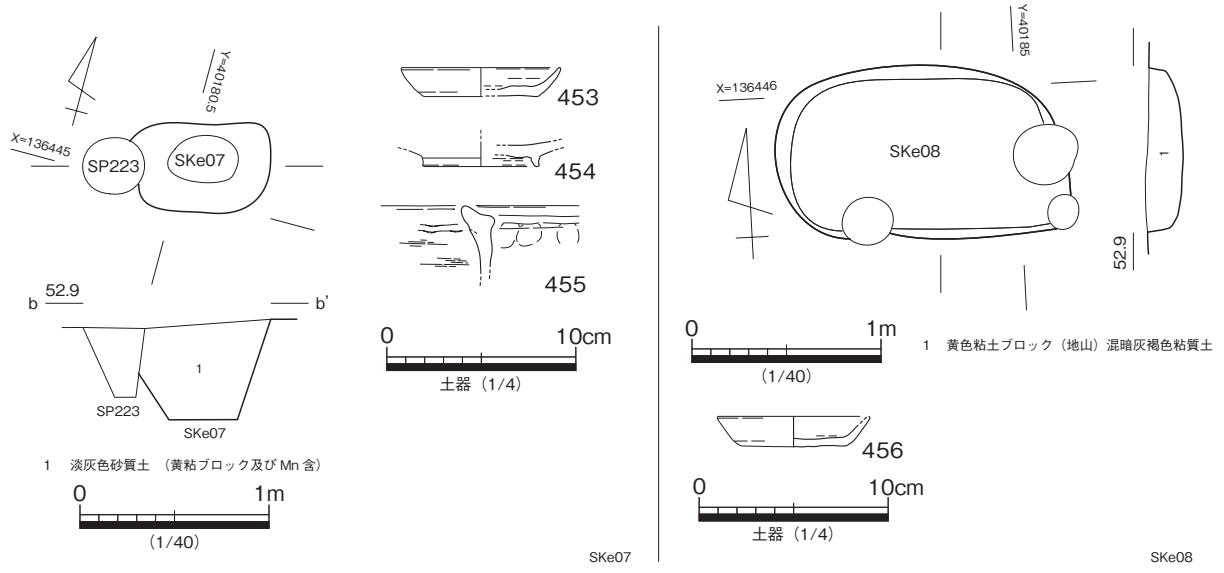
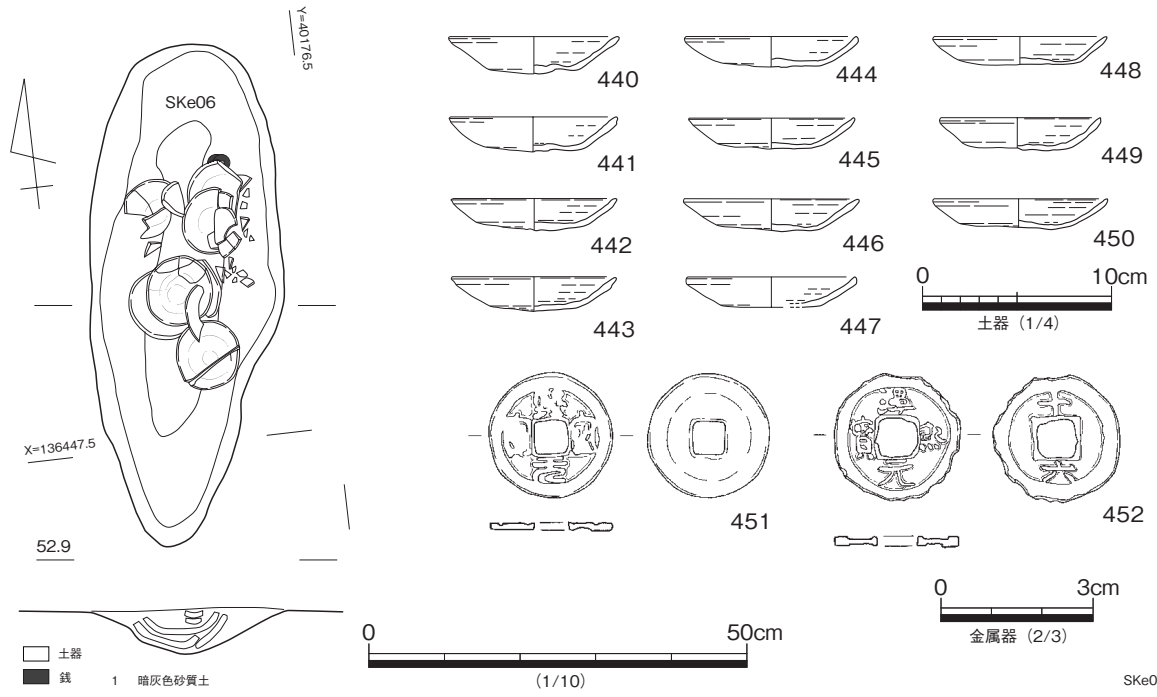
埋土からは土師器細片が数点出土した。439 は土師器杯の口縁部片である。出土遺物が少なく SKe05 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

SKe06 (第 81 図)

E13 区中央で検出した土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面



第 80 図 Ske02 ~ 05 平・断面図, 出土遺物



第 81 図 SKe06 ~ 09 平・断面図, 出土遺物

は浅い椀底状を呈する。長径約 0.65 m、短径約 0.25 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N9° E を測る。床面からは土師器、銭の一括資料が出土した。

440～450 は 14 世紀後半～15 世紀初頭頃の土師器杯、451・452 は中国銭で、451 は聖宋元宝(1101 年)、452 は淳熙元宝(1174～1189 年)である。出土遺物から SKe06 は 14 世紀後半～15 世紀初頭以降の土坑と考えられる。

SKe07 (第 81 図)

E13 区東半部中央で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径約 1.5 m、短径約 0.9 m、深さ約 1.1 m、主軸方位 N76° E (N14° W) を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。453 は土師器杯、454 は須恵器椀の底部片である。455 は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物から SKe07 は 15～16 世紀頃に埋没した土坑と考えられる。

SKe08 (第 81 図)

E13 区東半部中央の地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。長径約 1.1 m、短径約 0.85 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N90° E (N0°) を測る。埋土は黄粘ブロック混じり暗灰色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が少量出土した。456 は土師器杯である。出土遺物が少なく SKe08 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね 11～12 世紀の中世前半に埋没した土坑と考えられる。

SKe09 (第 81 図)

E13 区東半部北寄りの地点で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。長径約 0.9 m 以上、短径約 0.55 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N37° E を測る。埋土は灰褐色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等が少量出土した。457 は須恵器杯口縁部片である。458 はスポール状のサヌカイト楔形石器削片に分類した。優品ではあるが混入品であろう。出土遺物が少なく SKe09 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の土坑と考えられる。

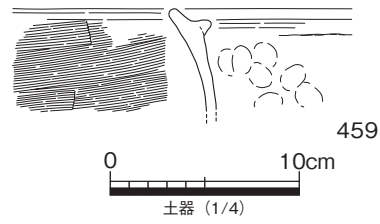
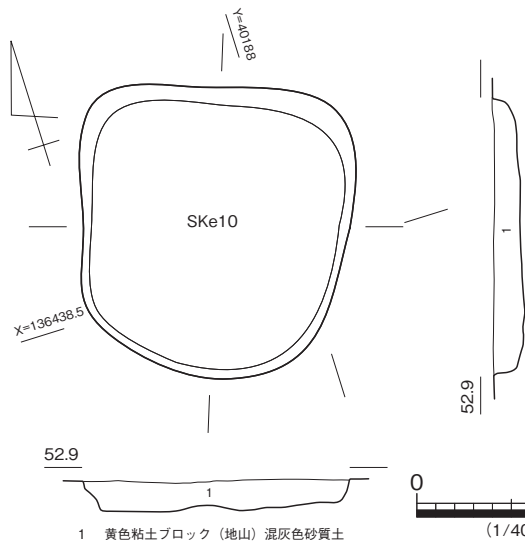
SKe10 (第 82 図)

E13 区東半部南寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な隅丸逆台形状を呈する。長径約 1.55 m、短径約 1.4 m、深さ約 0.15 m、主軸方位 N20° W を測る。埋土は黄色粘土ブロック混灰色砂質土からなる。

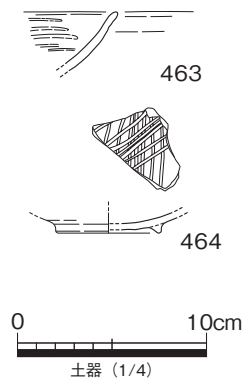
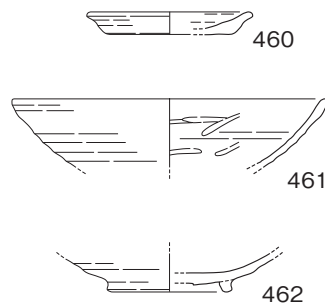
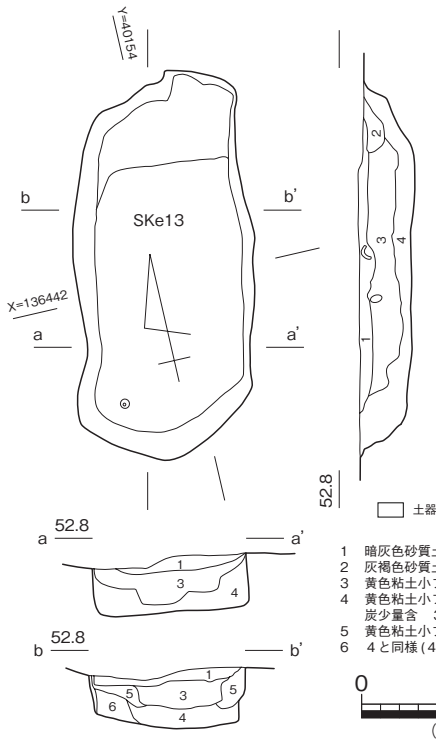
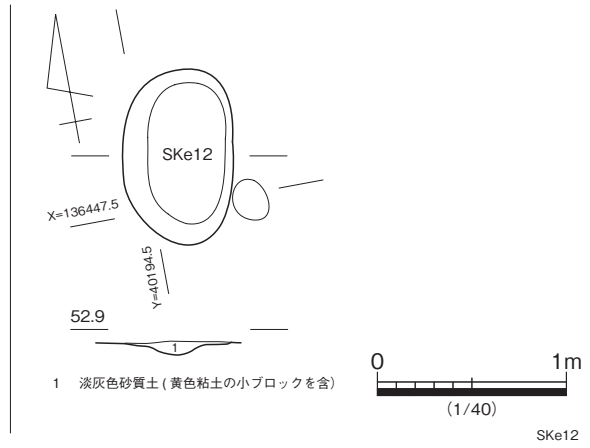
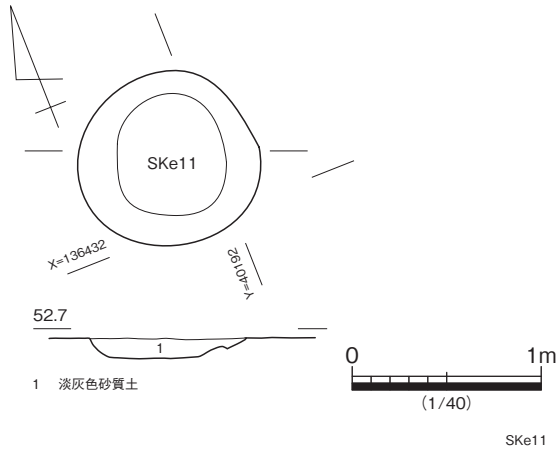
埋土からは土師器片が少量出土した。459 は土師器足釜の上半部である。出土遺物が少なく SKe10 の詳細な時期判断には無理があるが、13 世紀以降の土坑の可能性が高い。

SKe11 (第 82 図)

13 区東半部南東寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。径約 1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。



SKe10



SKe13

第 82 図 SKe10 ~ 13 平・断面図, 出土遺物

埋土からは中世の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SKe11 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

SKe12 (第 82 図)

13 区東半部北東寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な椀底状を呈する。長径約 0.95 m、短径約 0.6 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

埋土からは中世の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため SKe12 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

SKe13 (第 82 図)

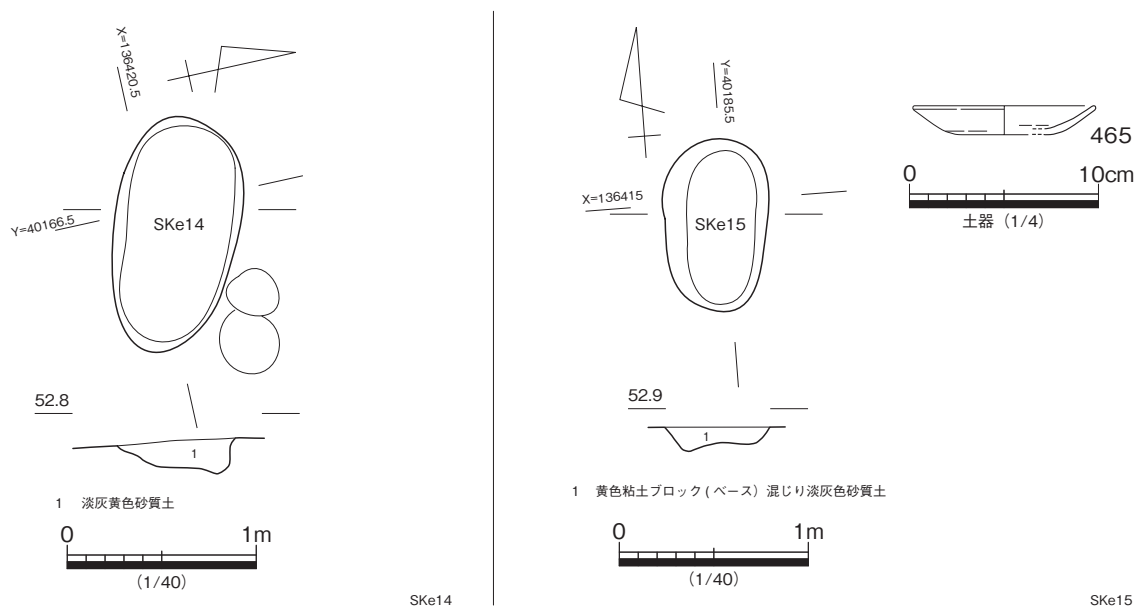
F12 区西半部北西地点で検出した土坑である。平面は不整形な長方形形状を呈し、断面は幅広な隅丸逆台形状を呈する。長径約 2.1 m、短径 0.8 ~ 1.0 m、深さ約 0.3 m、主軸方位 N13° E を測る。埋土はベースの黄色粘土ブロックを多量に含んだ黒色粘質土や灰色砂質土などが主で、その状況からこの土坑の埋土は、埋め戻し土が主体を占めているものと考えられる。

埋土からは土師器片が少量出土した。460 は土師器小皿、461・462 は須恵器椀、463・464 は瓦器椀片である。出土遺物から SKe13 は 13 世紀前半頃に埋没した土坑と考えられる。

SKe14 (第 83 図)

F12 区南半部中央、SXe07 の北側で検出した土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は不整形な逆台形状を呈する。長径約 1.3 m、短径 0.65 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N70° W (N20° E) を測る。埋土は淡灰黄色砂質土からなる。

埋土からは中世土師器片が少量出土した。出土遺物が少ないため SKe14 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。



第 83 図 SKe14・15 平・断面図, 出土遺物

SKe15 (第 83 図)

F12 区東半部南東地点で検出した小型土坑である。SDe38 と重複し、SKe15 は溝跡より後出する。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は不整形な隅丸逆台形状を呈する。長径約 0.95 m、短径 0.55 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N4° E を測る。埋土はベースの黄色粘土ブロックを多量に含んだ淡灰色砂質土などが主で、その状況からこの土坑は埋め戻されたものと考えられる。

埋土からは土師器片が少量出土した。465 は中世後半頃の土師器杯である。出土遺物が少ないため、SKe15 の詳細な時期判断には無理があるが、14 世紀後半～15 世紀前半頃に埋没した土坑の可能性が高い。

SKe16 (第 84 図)

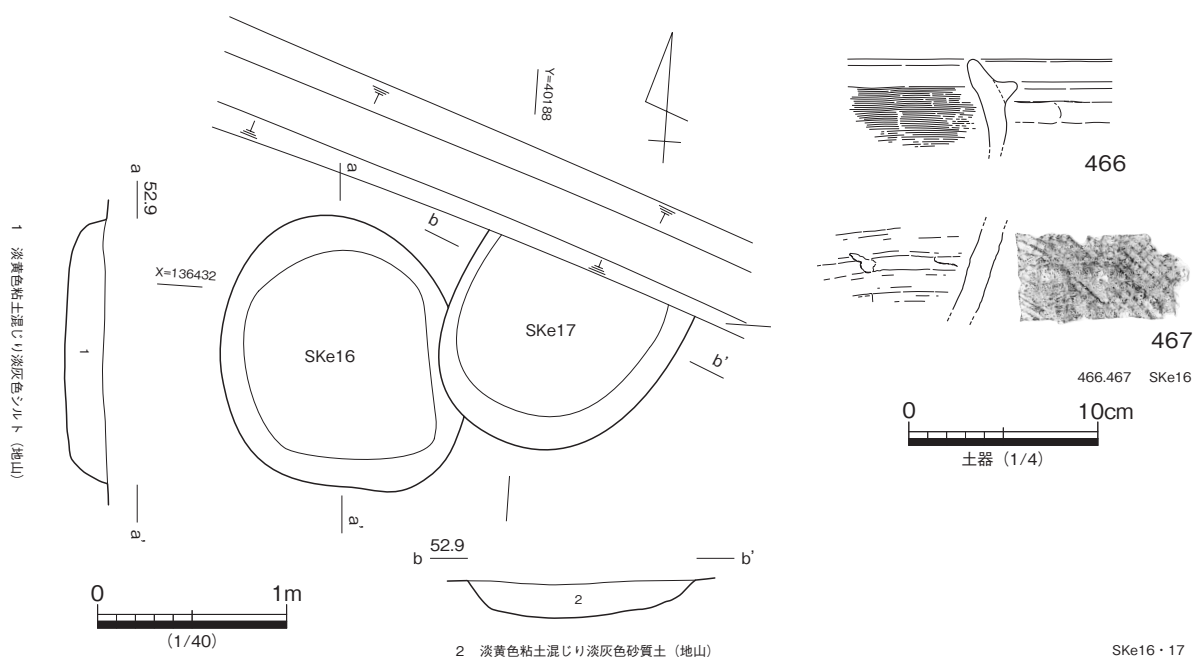
F12 区東半部 E13 区との境界付近で検出した土坑である。同規模の SKe17 と重複し、この土坑は SKe17 より先行する。平面は円形状を呈し、断面は幅広 U 字状を呈する。長径約 1.4 m、短径 1.3 m、深さ約 0.2 m を測る。埋土はベースの淡黄色粘土ブロックを含んだ淡灰色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。466 は土師器足釜片で、467 は外面に格子タタキを施しており、十瓶焼壺の底部片と考えられる。出土遺物が少ないため SKe16 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世後半以降と考えられる。

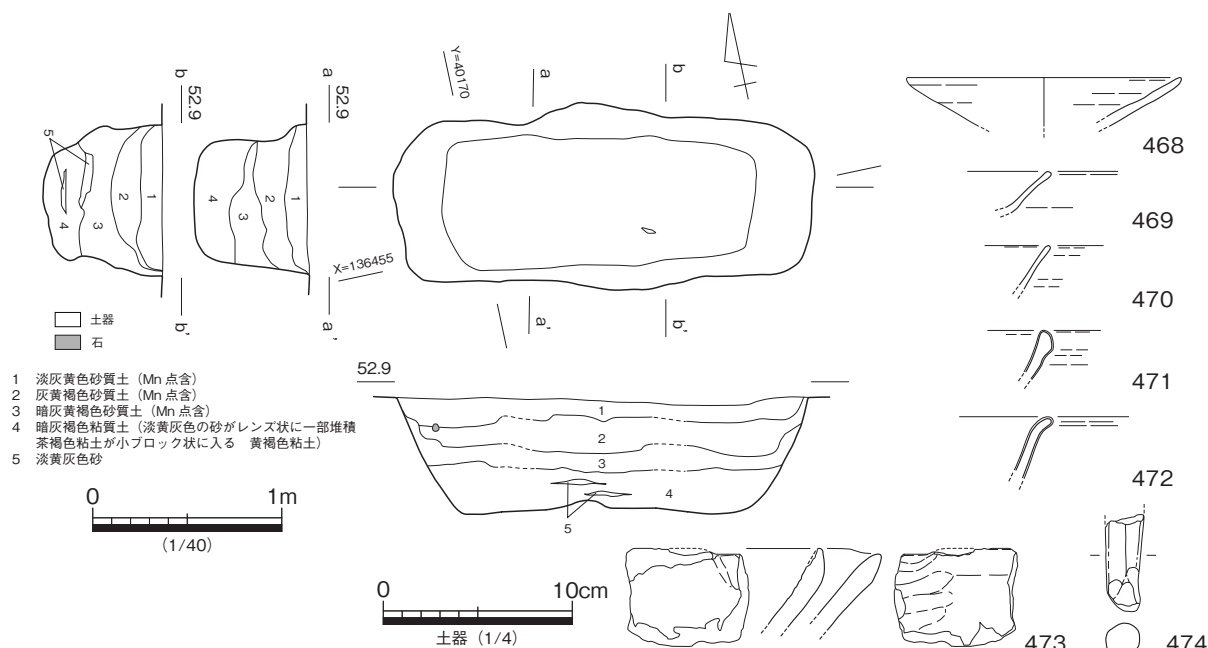
SKe17 (第 84 図)

F12 区東半部 E13 区との境界付近で検出した土坑である。先述した SKe16 と重複し、この土坑は SKe16 より後出する。北半部が調査区より外れるため約 1/2 検出した。平面は円形状を呈し、断面は幅広 U 字状を呈する。長径 1.1 m 以上、短径 1.2 m、深さ約 0.15 m を測る。埋土はベースの淡黄色粘土ブロックを含んだ淡灰色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少ないため SKe17 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世後半以降と考えられる。



第 84 図 SKe16・17 平・断面図, 出土遺物



第 85 図 STe01 平・断面図, 出土遺物

STe01 (第 85 図)

E13 区西半部の北寄りで検出した形状から墓の可能性を有する土坑である。SDe32 と重複し、この溝跡より後出する。平面は不整形な隅丸長形状を呈し、断面は隅丸逆台形状を呈する。長径約 2.2 m、短径約 0.25 m、深さ約 1.0 m、主軸方位 N77.5° W (N125° E) を測る。埋土は数層に分かれるが、木棺痕跡などは確認できなかった。また、遺物の出土状況においても墓特有の状況も認められないため、墓跡の確証が掴めなかった。

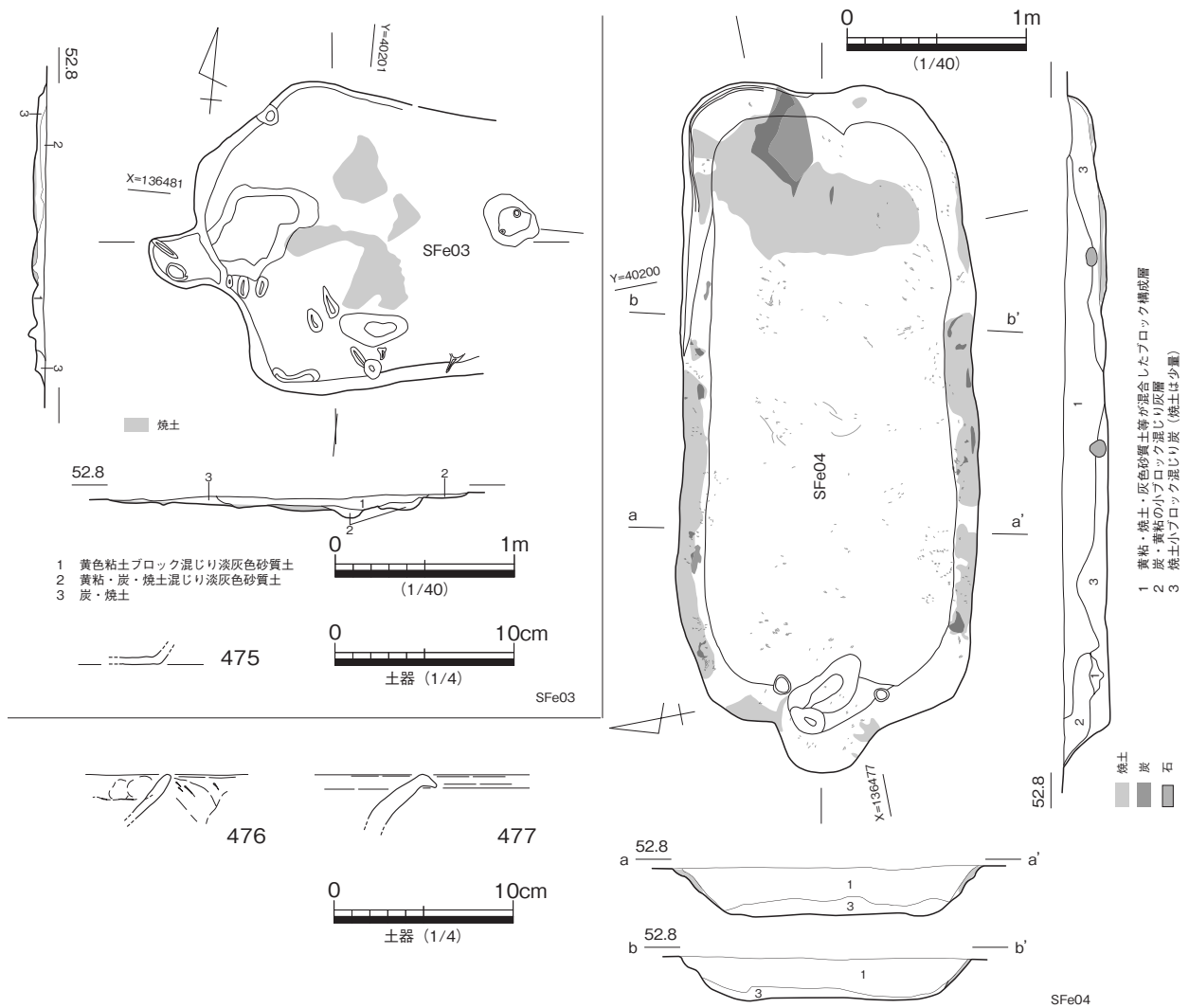
埋土からは土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・磁器等が少量出土した。468～470 は土師器杯、471 は白磁碗である。473 は瓦質土器の片口鉢、474 は土師器足釜の脚部である。STe01 は出土遺物より中世後半の 14 世紀後半～15 世紀頃に埋没した遺構と考えられる。

窯跡

SFe03 (第 86 図)

E15 区東半部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯で、位置的にみて SDe25 と重複しているが、検出状況から前後関係は導き出せない。なお、南には SF04・05 が隣接している。削平を受け天井部は全て失われ下半部の西半部のみを残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は部分的に凹凸があるが比較的平坦である。長径 2.0 m 以上、短径 1.65 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N84° E (N6° W) を測る。埋土は黄色粘土ブロックが混じった淡灰色砂質土、炭・焼土混じり淡灰色砂質土等からなり、床面及び焚口附近は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。475 は中世の須恵器杯片である。出土遺物が少なく SFe03 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世前半以降に埋没した窯跡と考えられる。



第 86 図 SFe03・04 平・断面図，出土遺物

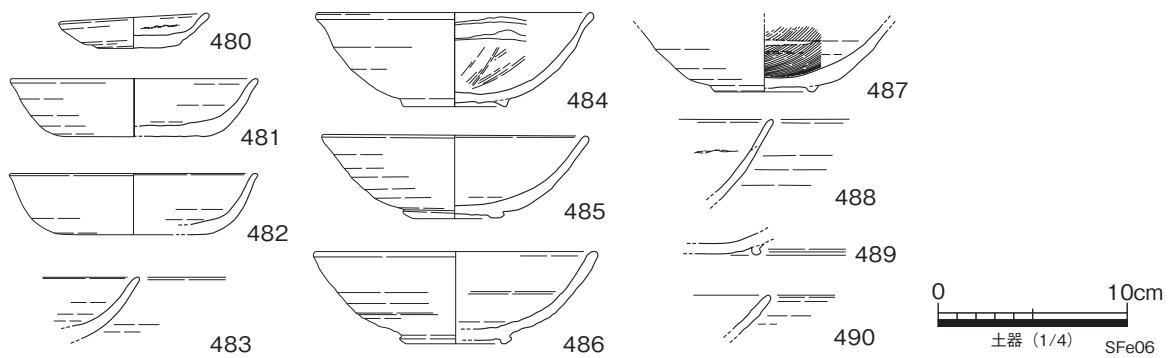
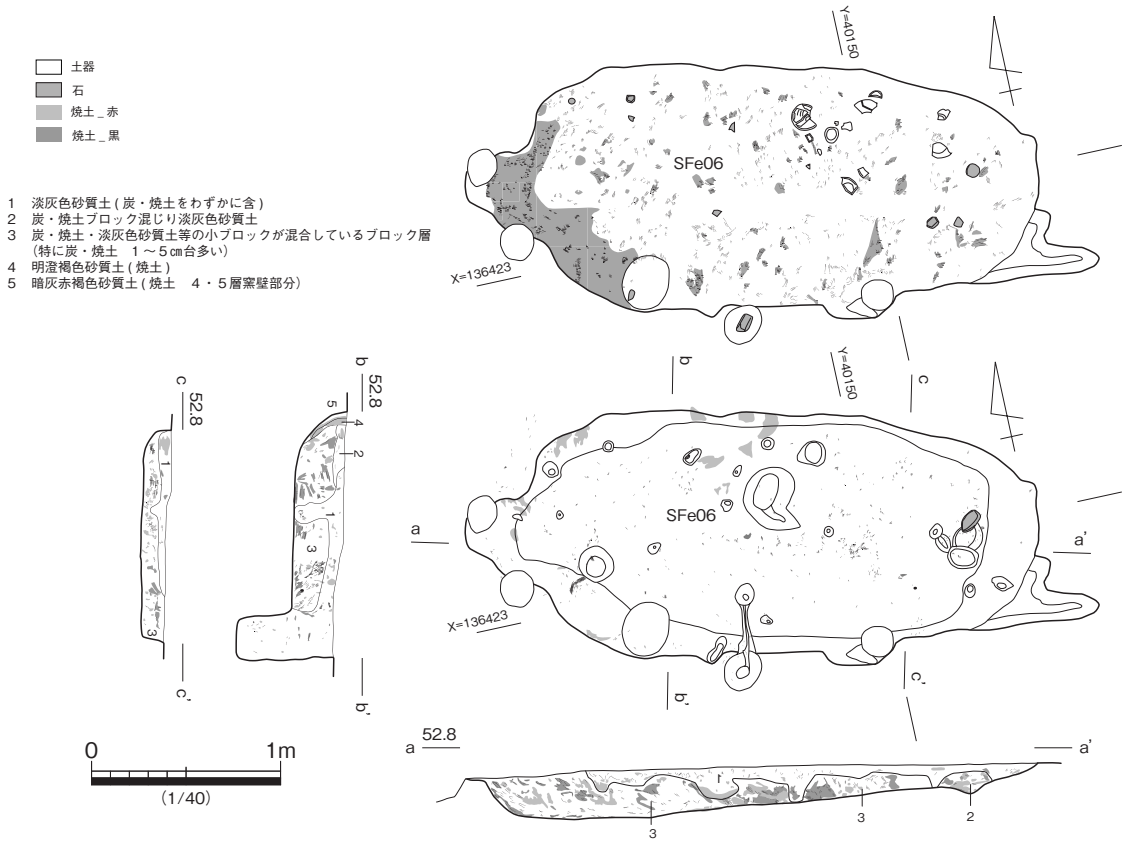
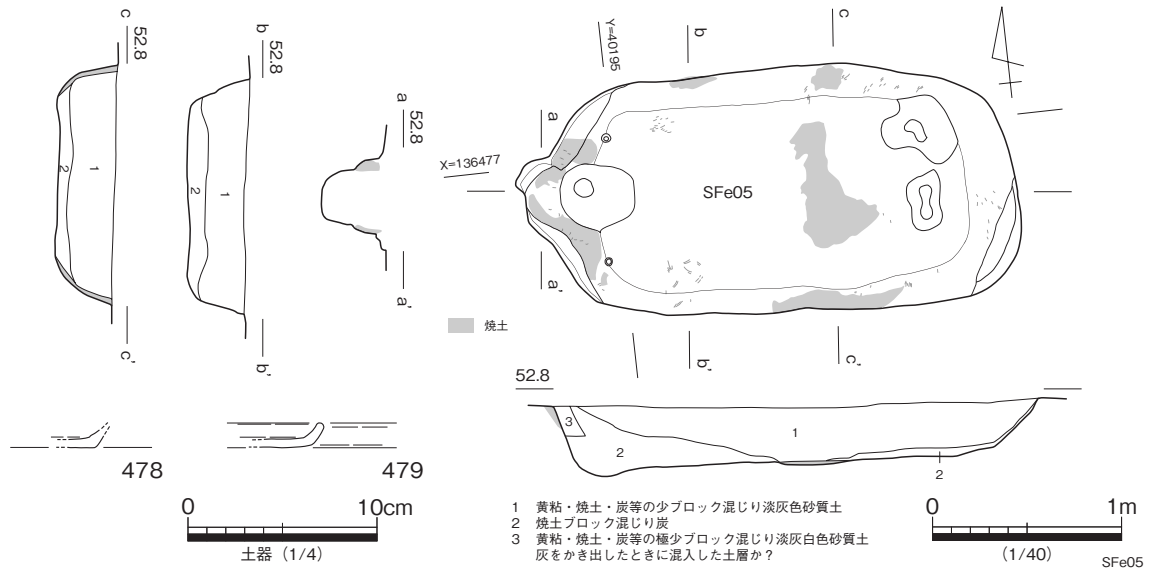
SFe04 (第 86 図)

E15 区南東端部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯である。なお、西には SF05 が隣接しており、前後関係が考えられるが、切りあわない為検出状況から前後関係は導き出せない。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道を挟んだ南北の床面では 2 基の小ピットを検出した。長径 3.8 m、短径約 1.7 m、深さ 0.2 ~ 0.25 m、主軸方位 N79° W (N11° E) を測る。埋土は黄色粘土・灰色砂質土・焼土・炭等のブロックが混ざった混合層が主体を占める。壁面及び焚口付近の床面は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。476 は土師器鉢の口縁部片、477 は須恵器の大型壺の口縁部片である。出土遺物が少なく SFe04 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世前半以降に埋没した窯跡の可能性はある。

SFe05 (第 87 図)

E15 区南東端部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯である。なお、東には SF04 が隣接しており、前後関係が考えられるが、切りあわない為検出状況から前後関係は導き出せない。



第 87 図 SFe05・06 平・断面図, 出土遺物

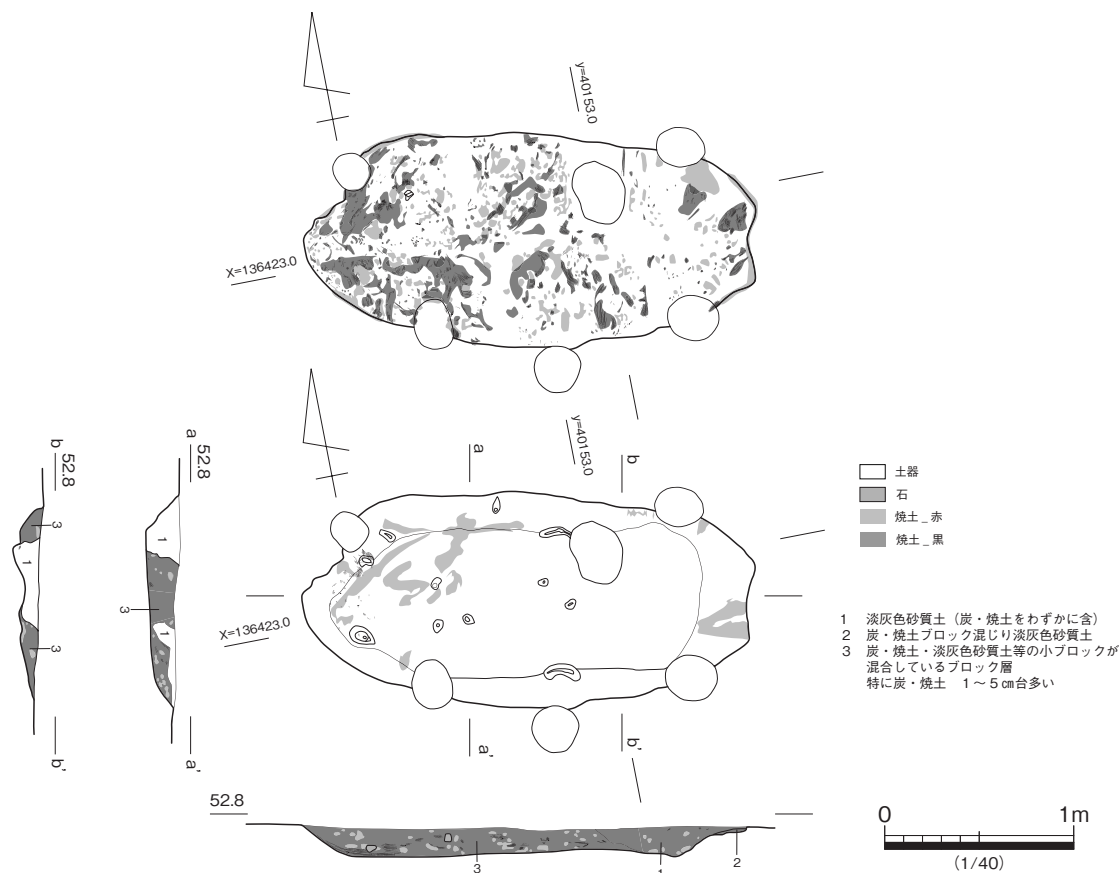
削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道を挟んだ南北の床面では2基の小ピットを検出した。長径約2.6m、短径約1.3m、深さ0.3～0.35m、主軸方位N84°W (N6°E)を測る。

埋土は黄色粘土・灰色砂質土・焼土・炭等のブロックが多量に混ざった淡灰色砂質土が主体を占める。壁面及び煙道、焚口付近の床面は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。478は土師器杯、479は須恵器皿片である。SFe05は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世前半以降に埋没した窯跡の可能性はある。

SFe06 (第87図)

F12区南西端部のSDe42・43に隣接し、SFe07と直列気味に並んだ状態で検出した木炭窯である。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は不整形な長楕円形状を呈し、煙道と考えられる突出部が西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。底面には側面に沿って径数cmの小ピットを数基検出した。長径約3.1m、短径約1.3m、深さ0.1～0.25m、主軸方位N77°W (N13°E)を測る。埋土上層は炭・焼土を含む淡灰色砂質土、下層は多量の炭化材・焼土や上層の淡灰色砂質土等のブロックが混在しているブロック層からなる。また、西半部の窯壁を中心に赤褐色に焼土化している箇所がある。



検出面上からは土師器杯、須恵器杯・椀等の一括資料が出土した。480～483は土師器杯、484～488は須恵器椀である。489は黒色土器椀の底部片、490は瓦器椀の口縁部片である。出土遺物からSFe06は12世紀後半以降に埋没した窯跡と考えられる。

SFe07 (第88図)

F12区南西端部のSDe42・43に隣接し、SFe06と直列気味に並んだ状態で検出した木炭窯である。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は不整形な長楕円形状を呈し、煙道が西端の短辺部に付くものと考えられるが不明瞭である。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は西方に向けて緩やかに傾斜している。底面には径数cmの小ピットを数基検出した。長径約2.9m、短径約1.1m、深さ約0.15m、主軸方位N78°W(N12°E)を測る。埋土は淡灰色砂質土をベースにして、多量の炭化材・焼土のブロックが混在しているブロック層からなる。また、壁面の窯壁を中心に赤褐色に焼土化している箇所がある。

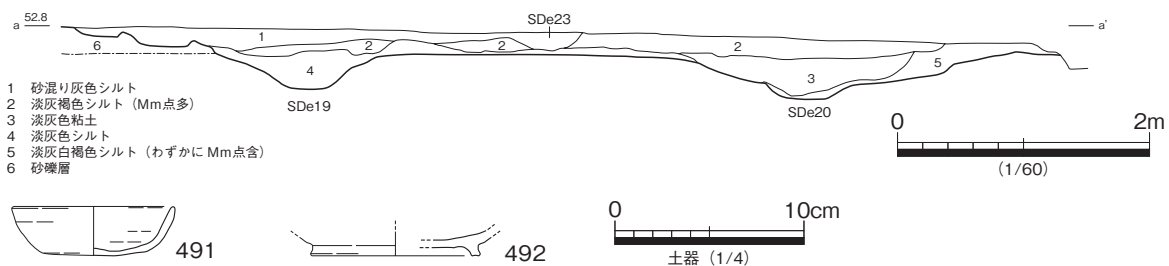
埋土からは遺物が出土していないのでSFe07の時期判断には課題を残すが、おそらく隣接するSFe06と類似する時期が考えられる。

溝状遺構

SDe23 (第89図)

E14区南西端部で検出した北西方向に延びる小溝跡である。SDe21とSDe19の中間に位置する。検出長約7.0m、幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。断面は椀底状を呈し、埋土は灰色シルトからなる。

埋土からは須恵器が少量出土している。491は土師器杯、492は8世紀後半頃の須恵器杯であり、この溝跡の時期を示す遺物になる可能性もあるが、周辺に同時期の遺構が見当たらないことから今後の課題にしたい。

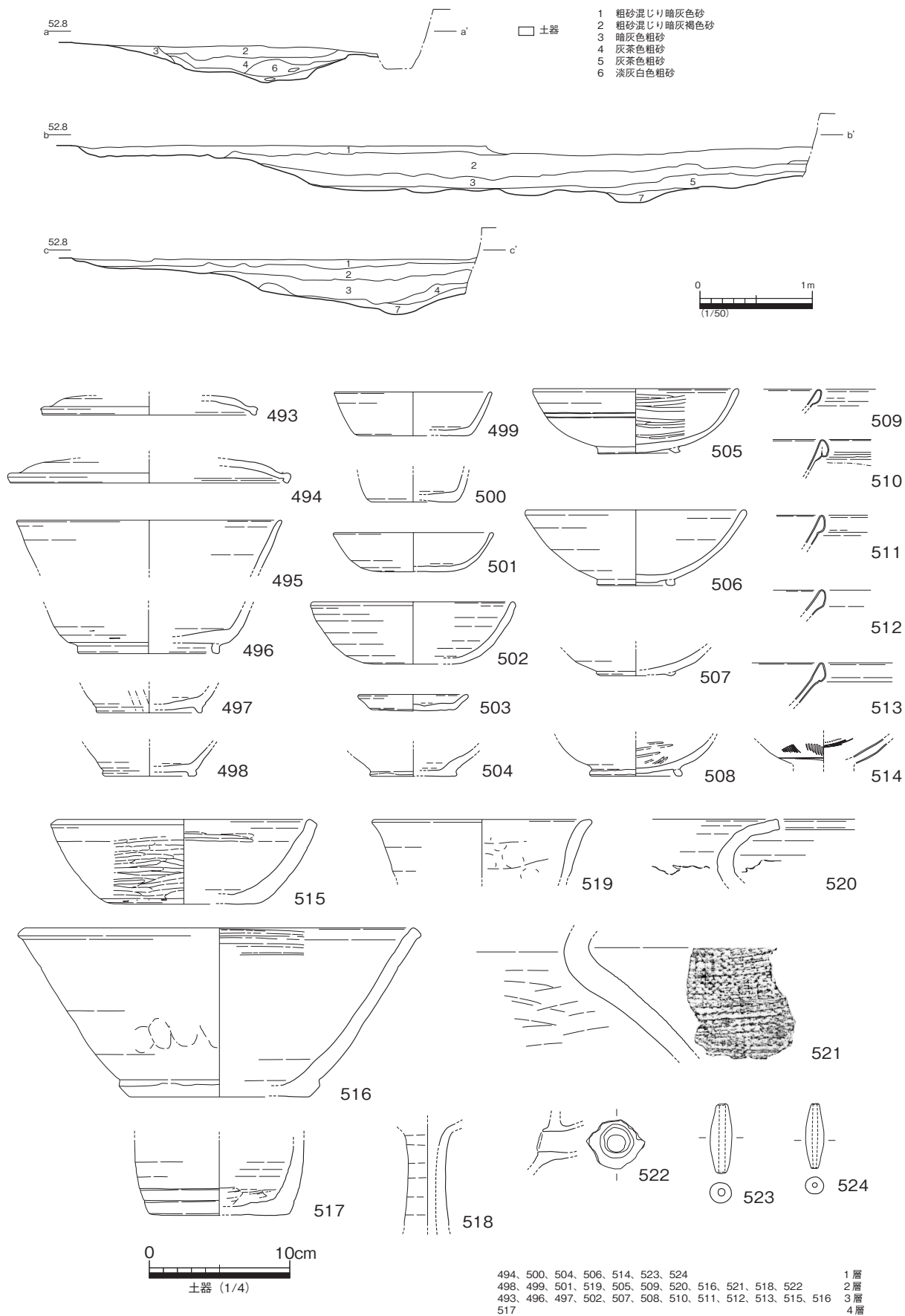


第89図 SDe23断面図, 出土遺物

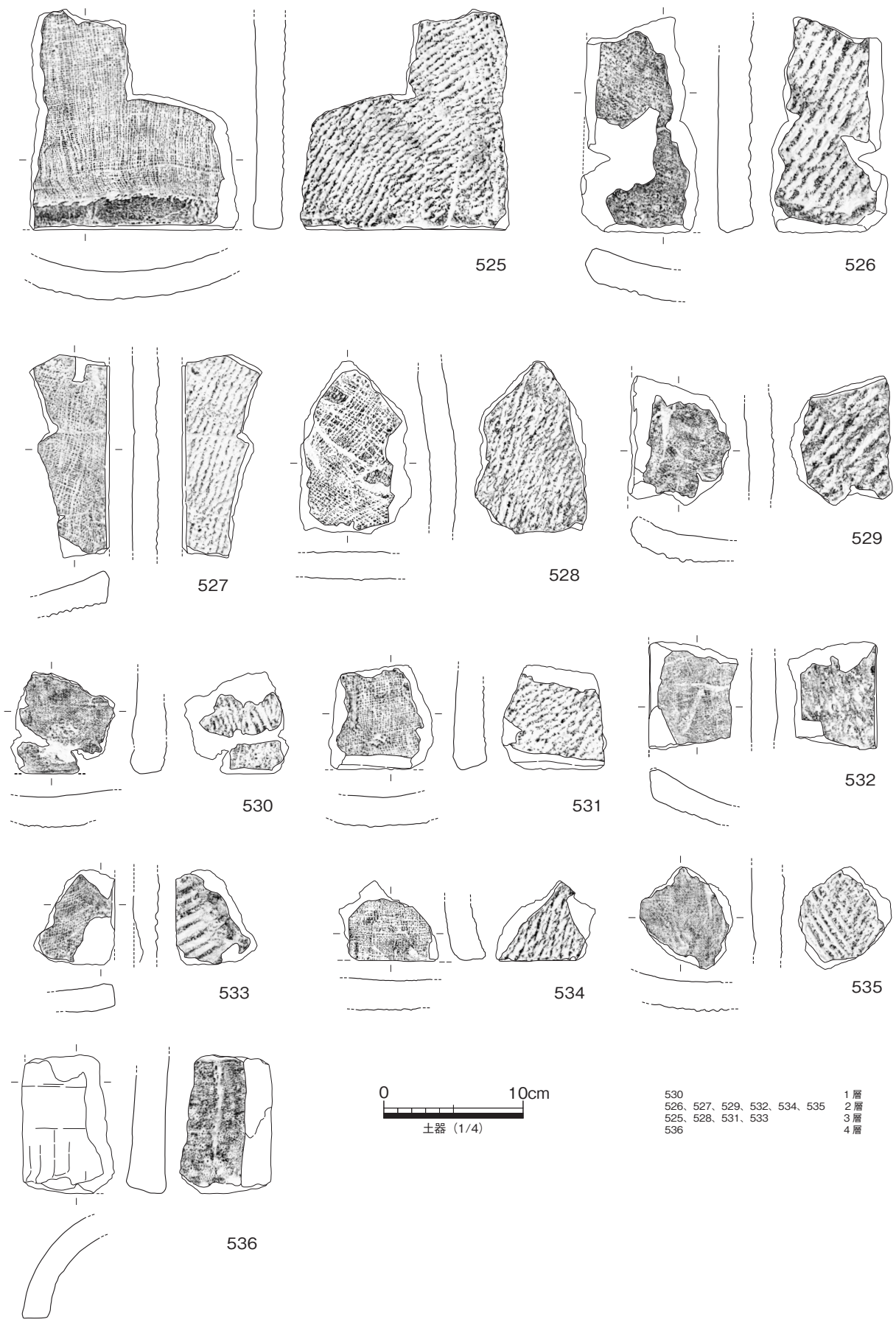
SDe24 (第90～92図)

E14・15区東壁沿を南北方向に延びる長い水路で、北半部のC調査区ではSDd46、D調査区のE14区ではSDe25、F12区では途中SDe19に切られるが、南半部のSDe51に繋がる溝状遺構と考えられる。南北方向に延びる北村用水が東西方向に曲がる屈曲地点から、現在の南北用水に沿いに、現状の地割りに沿う形で、南北約110m連続する水路であり、北端では調査区外へ更に延びる。平面は不整形で凹凸が著しく、南半部では東西溝のSDe26が分岐している。E14区検出長約41.0m、幅約2.0～6.2m、深さは北端で約0.3m、南端で約0.5mを測り南半部で深さが増す。主軸方位はN9°Eを測る。断面は幅広で不整形な逆台形状を呈し、底面は比較的平坦である。埋土上層は主に暗灰色系砂、下層は灰茶色系

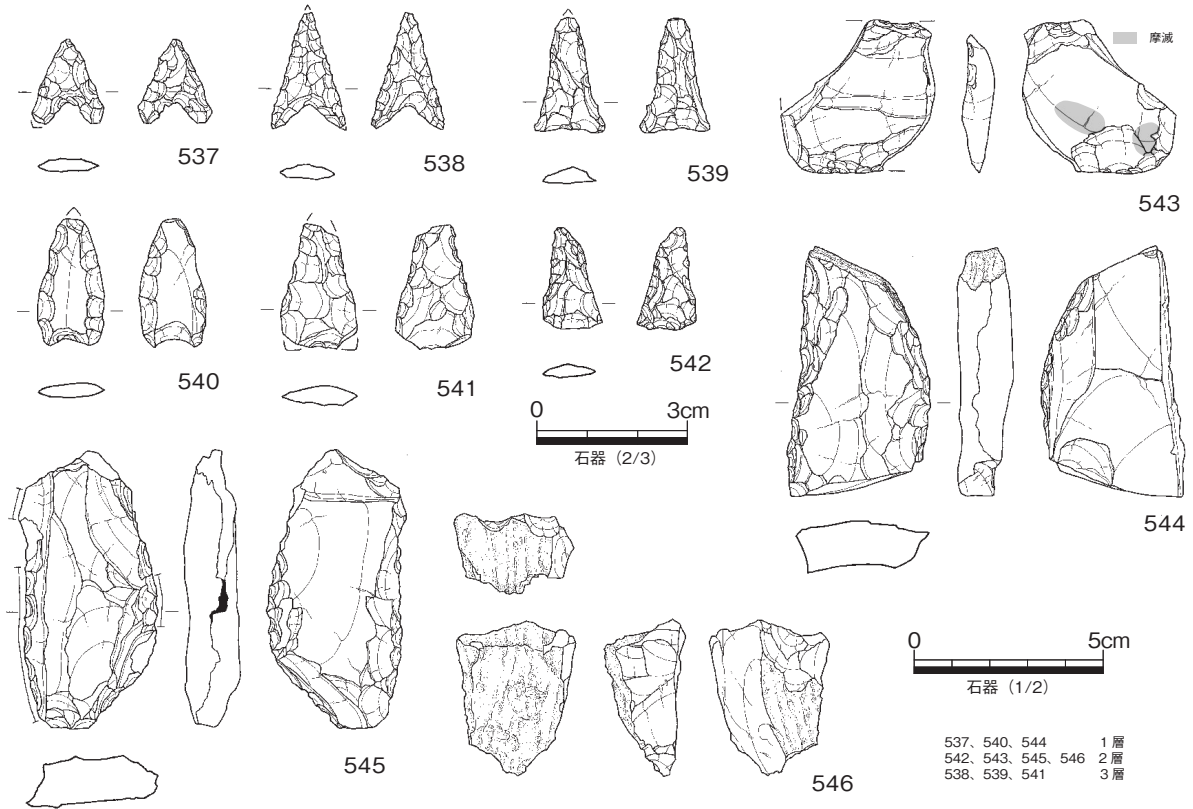
粗砂が主体を占める。



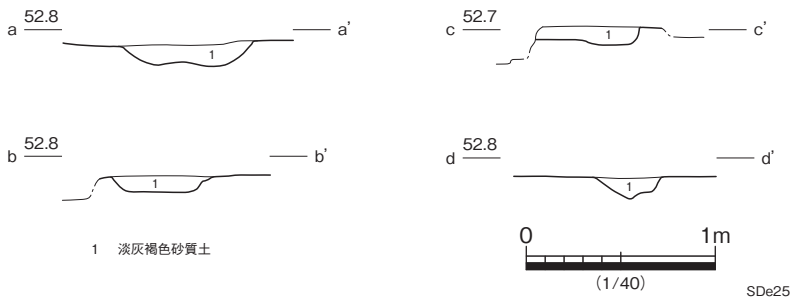
第90図 SDe24 断面図, 出土遺物



第 91 図 SDe24 出土遺物



SDe24



SDe25

第92図 SDe24・25断面図, 出土遺物

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・磁器、石器等が出土した。特に注目できる遺物としては平瓦が一定量出土しており、周辺に瓦葺きの建物が想定される。

493～500は須恵器杯である。493・494は杯蓋、495～498は高台付の杯である。503は土師器小皿、501・502は土師器杯、504～507は須恵器椀、508は上半部を欠く黒色土器の椀である。509～513は貿易陶磁器の白磁椀、514は青磁椀底部で、11世紀後半～12世紀前半頃の遺物であろう。517は備前焼瓶の底部、518は須恵器水瓶の頸部片と考えられる。515・516は須恵器鉢、520・521は須恵器甕、523・524は土師質土錘である。525～536は瓦の資料である。平瓦が主であるが、少量丸瓦を含む。内外面の調整痕は、縄目タタキ及び布目圧痕を残す。

537～546はサヌカイトの石器資料で混入遺物と考えられる。537～542は石鏃である。543は裁断面が認められる点から楔形石器に分類した。544・545は未製品ないし石核であろう。546は小型石器を目的とした石核である。

SDe24 の出土遺物を概観すれば、8 世紀後半～9 世紀頃の遺物と 12～13 世紀前半頃の遺物とに大別できる。これらの状況からこの溝跡の開削時期は、古代まで遡る可能性もあるが、埋没時期は 12～13 世紀以降に埋没したものと考えられる。

SDe25 (第 92 図)

E14 区の南半部から東西方向へ分岐する小規模な溝跡である。検出長約 33.0 m、幅 0.4～0.7 m、深さは約 0.1 m、主軸方位は N72.5° W (N17.5° E) を測る。断面は幅広で不整形な逆台形状を呈し、埋土は SDe24 と類似する淡灰褐色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土しただけで SDe25 の時期判断には問題を残すが、検出状況から推定して SDe24 と同時期の溝状遺構と考えられる。

SDe26a (第 93・94 図)

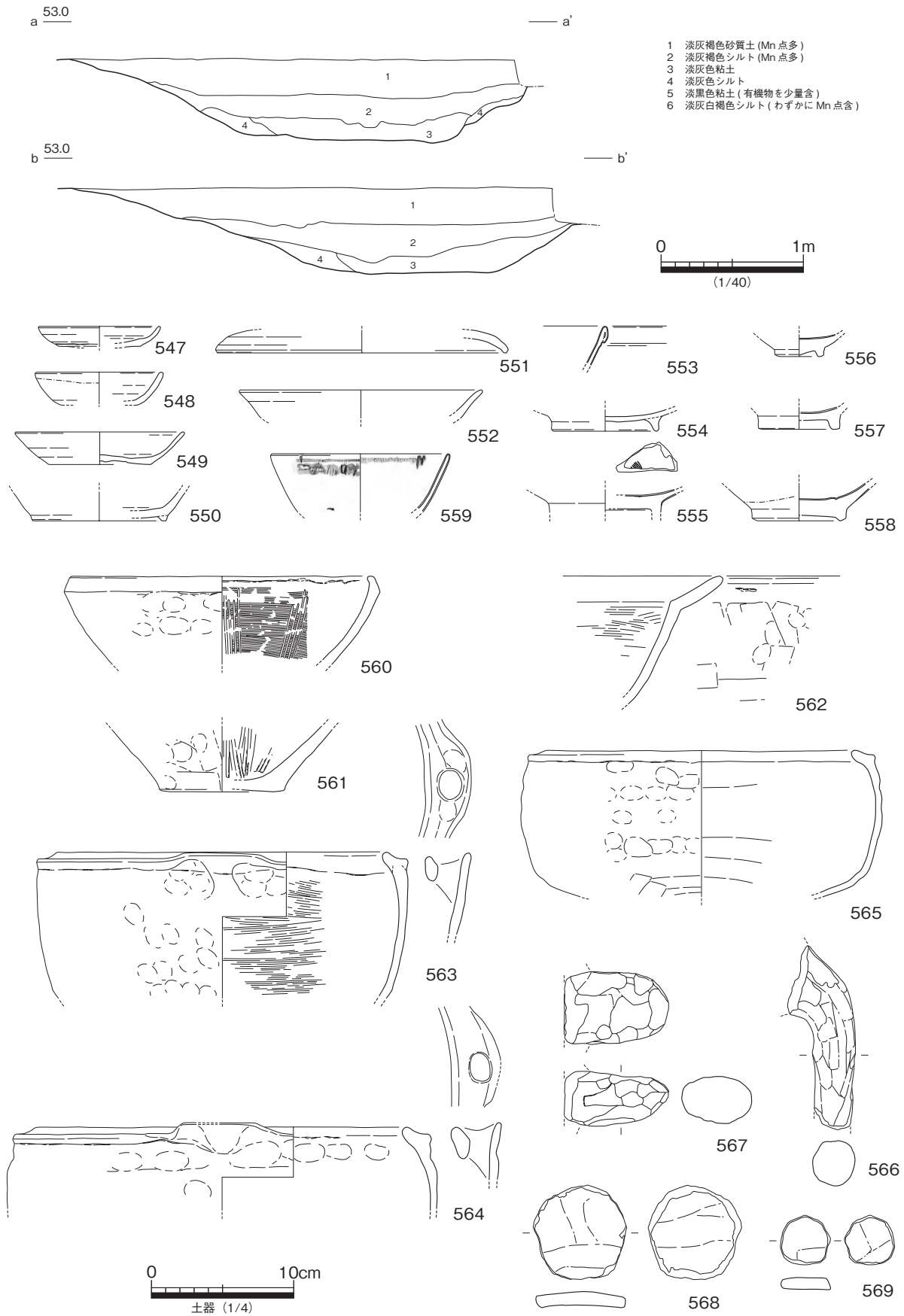
E14・13 区の末則用水と北村用水の分岐点で確認された、中世後半の屋敷地北辺と東辺を「L」字状に画する堀状の大型溝で、北辺の東西方向の溝跡を SDe26a、東辺の南北方向の溝跡を SDe26b と仮称し報告する。SDe26a は E14 の南辺に沿うように直線状に東西方向に延びる溝跡である。西端部では未検出であるが、北村用水に合流し、東端部では末則用水に沿う様に南北方向に屈曲し止まる。西端部で SDe19～23、東端部で SDe24 と重複し、これらの溝跡より後出する。検出長 41.5 m、幅約 3.8 m、深さ約 0.6 m、主軸方位 N71° W (N19° E) を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は概ね 3 層に分かれ、上層は淡灰褐色砂質土、中層は淡灰褐色シルト、下層は淡灰褐色粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器、瓦、石器等の 15～16 世紀を中心とした遺物と、少量の 8～9、12～13 世紀頃の土器が出土している。547～550 は杯の資料である。547・549 は土師器杯、548 は陶器杯、550 は 9 世紀頃の口縁部を欠く高台付杯である。551・552 は 8～9 須恵器杯蓋と皿である。553～559 は椀の資料である。553・555～558 は輸入陶磁器で、553・556～558 は白磁椀、559 は青磁椀の資料で概ね 12 世紀前後の時期が考えられる。554 は黒色土器椀の底部である。560・561 は土師器播鉢、562 は土師器鍋、563・564 は把手付鍋、565 は底部を欠く土師器鍋、566 は土師器足釜の脚部である。568・569 は備前焼と土師器の円盤状土製品である。570 は丸瓦、571 はタタキ及び布目圧痕を残す平瓦片である。

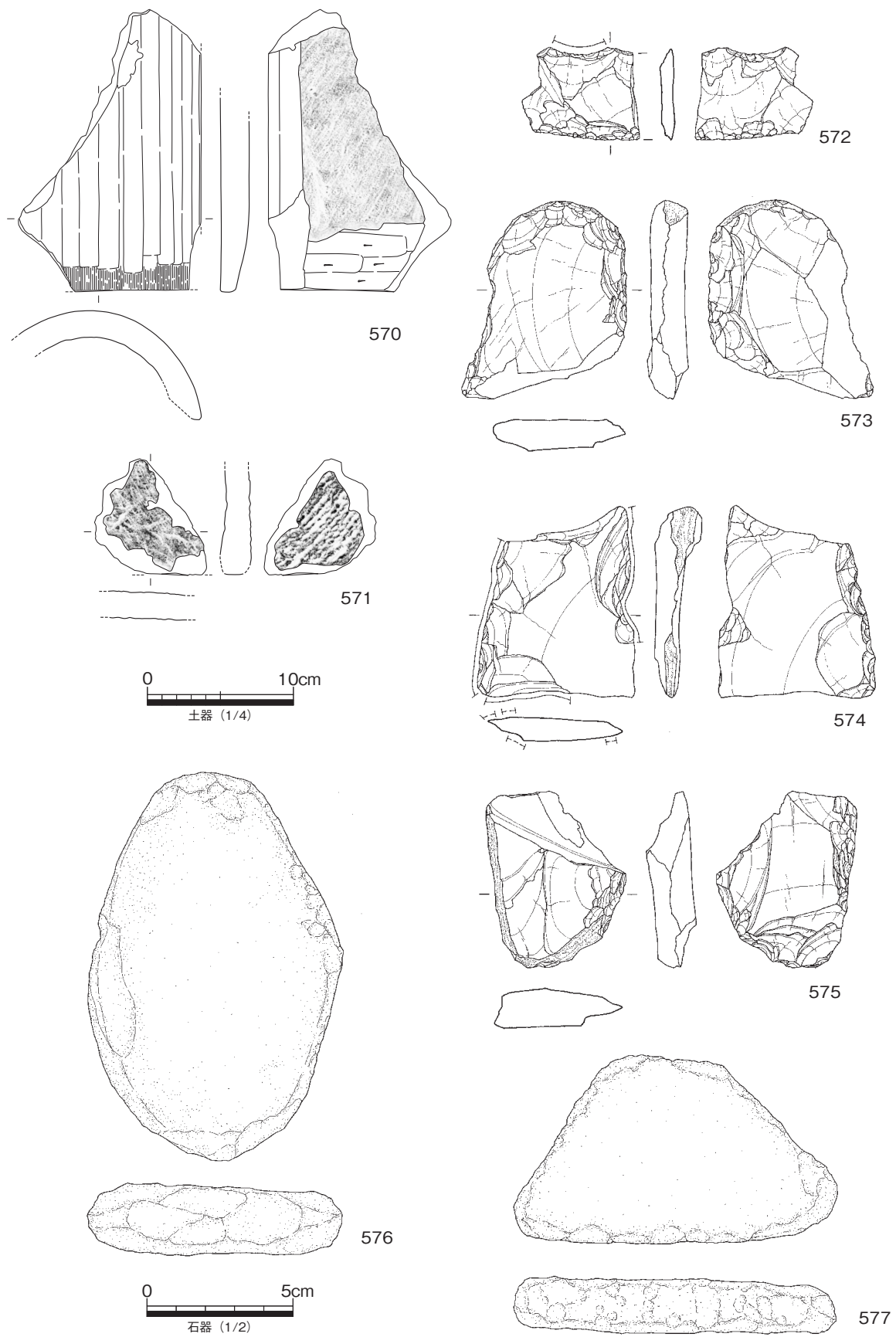
572～577 は出土した石器類である。572 はサヌカイトの楔形石器である。573・574 はサヌカイトの削器に分類したが未製品の可能性もある。575 はサヌカイト製で交互剥離の石核である。576・577 は砂岩の扁平な川原石を用いた敲石である。

SDe26b (第 95・96 図)

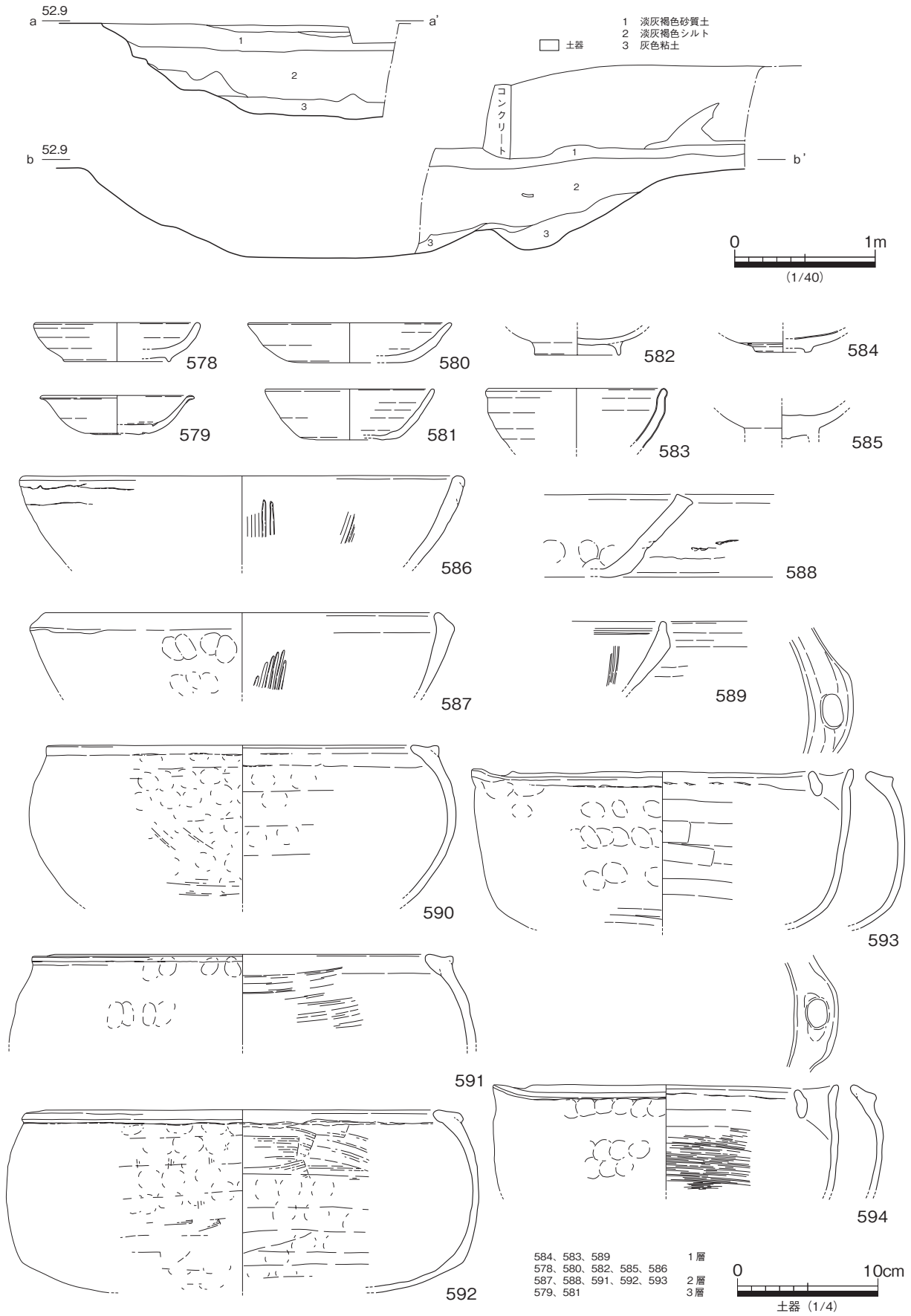
先述したように E14・13 区の末則用水と北村用水の分岐点で確認された、中世後半の屋敷地北辺と東辺を「L」字状に画する堀状の大型溝のうち東辺を、南北方向に延びる溝跡を SDe26b と仮称し報告する。SDe26b は E13 区の東辺に沿うように直線状に東西方向に延びる溝跡であるが、屋敷地の東辺全てを画する溝跡ではなく、東辺の北半分の地点で途切れている。南端部で SDe51 と重複し、SDe26b はこの溝跡より後出する。なお、SDe51 は先述した SDe24 と一連の溝跡と考えられる。検出長 20.5 m、幅約 4.2 m、深さ約 0.65 m、主軸方位 N9° E を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は SDe26a 同様



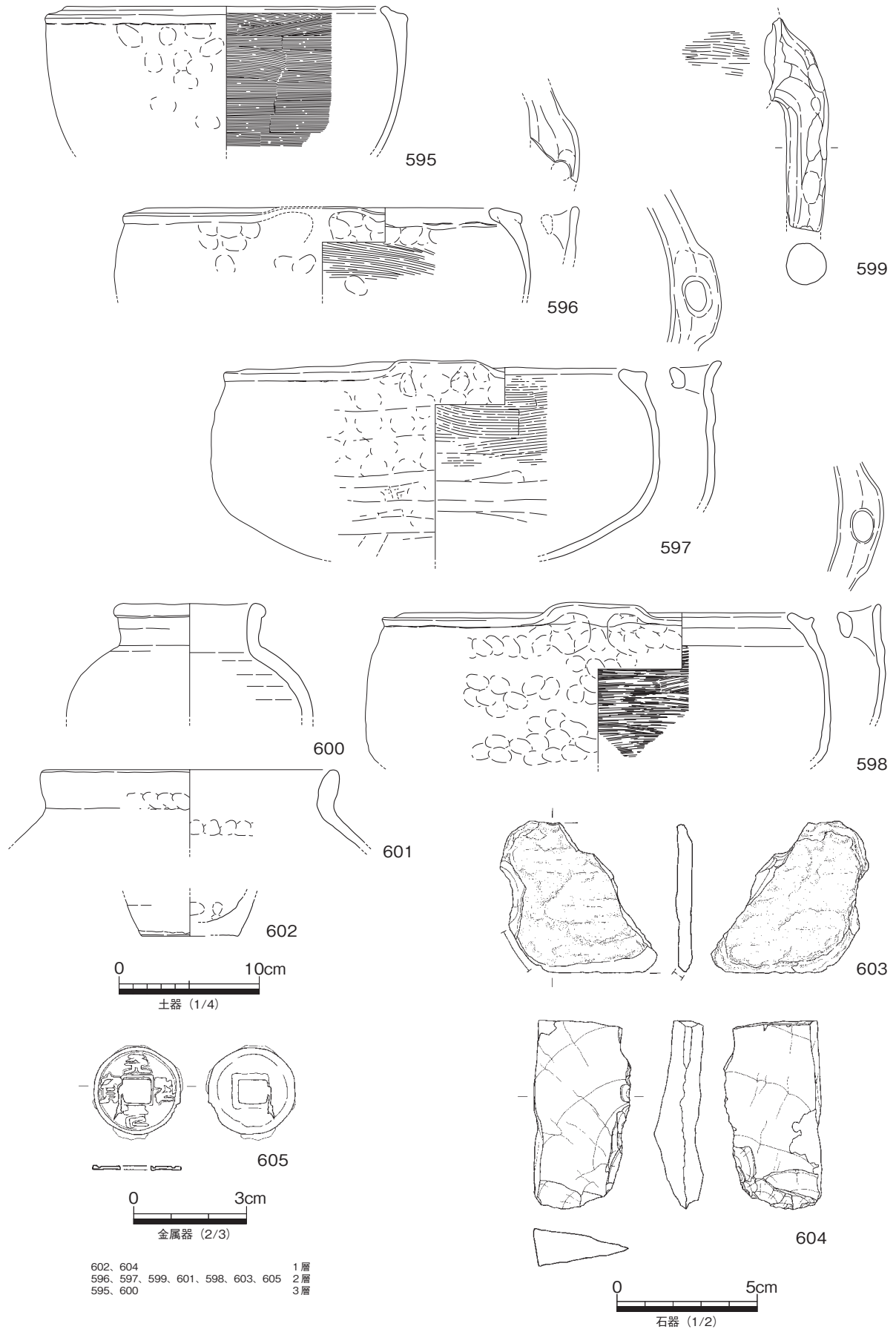
第 93 図 SDe26a 断面図, 出土遺物



第94図 SDe26a 出土遺物

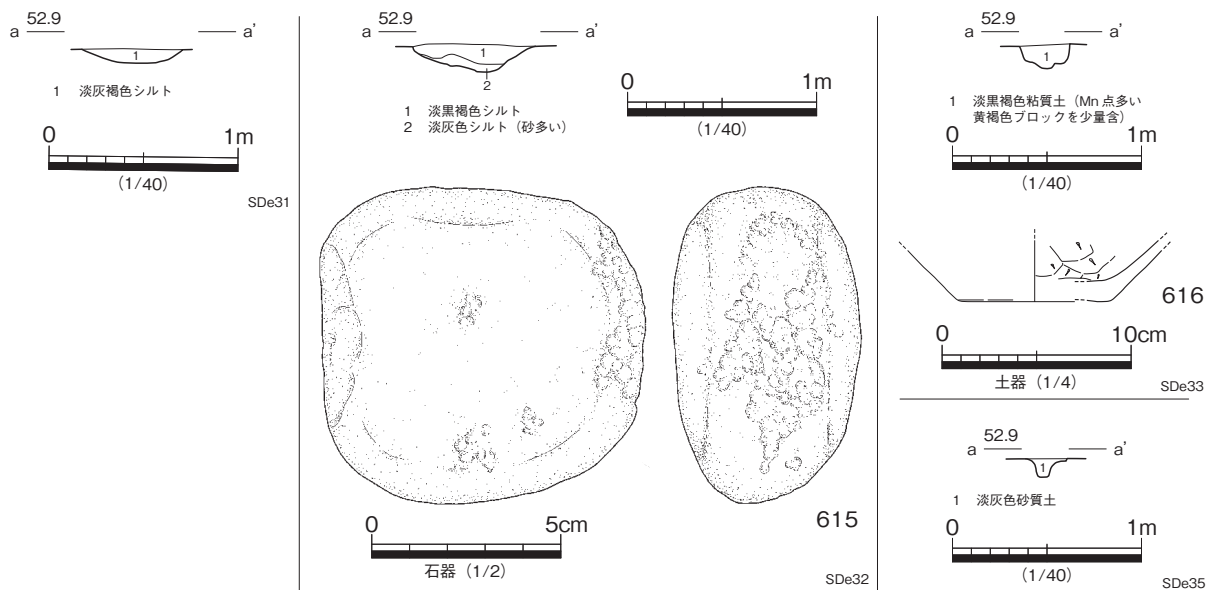
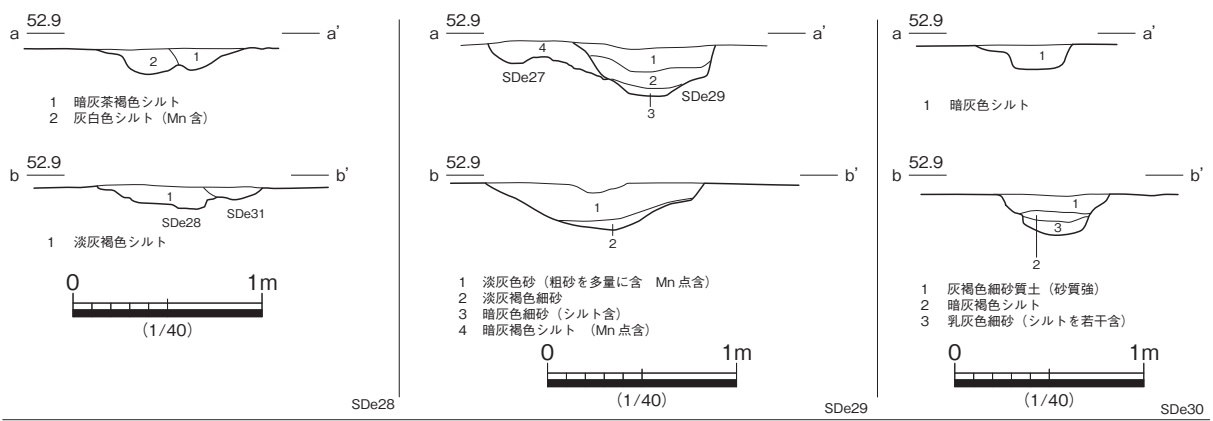
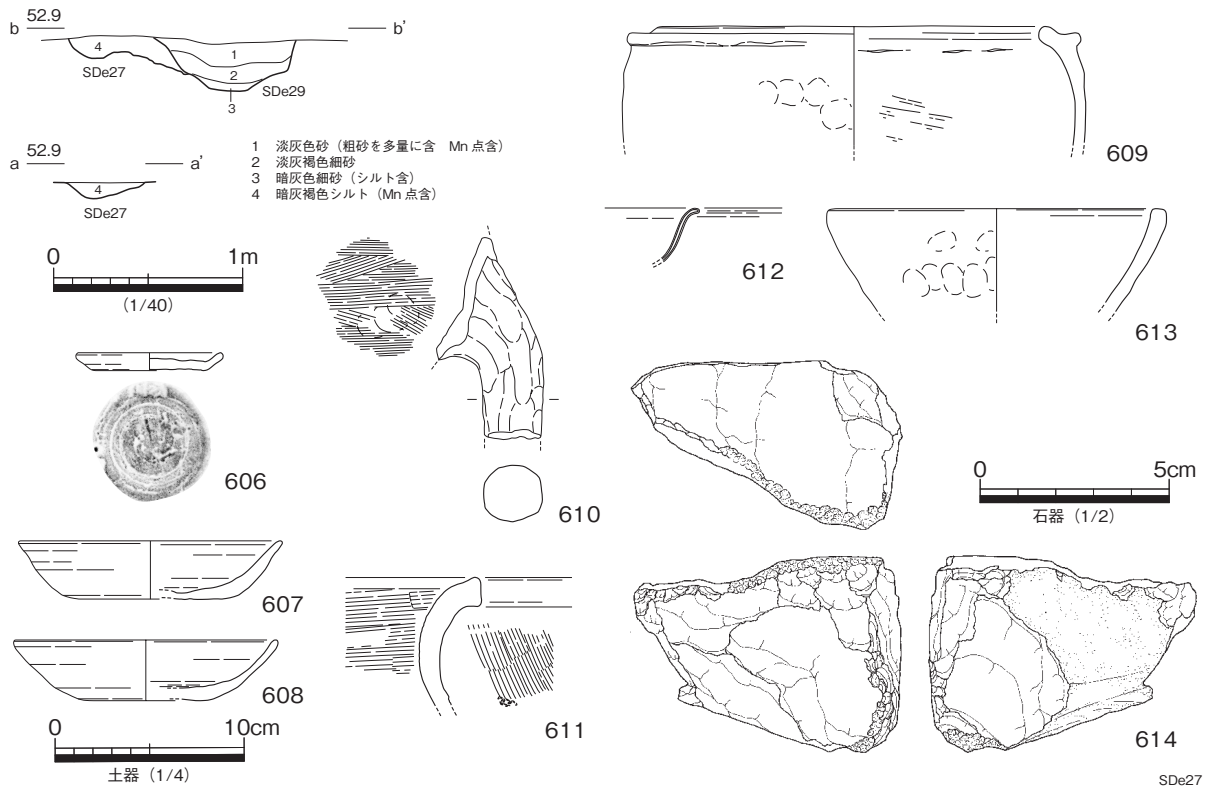


第95図 SDe26b 断面図, 出土遺物



602, 604 1層
596, 597, 599, 601, 598, 603, 605 2層
595, 600 3層

第 96 図 SDe26b 出土遺物



第 97 図 SDe27 ~ 33・35 断面図, 出土遺物

で概ね3層に分かれ、上層は淡灰褐色砂質土、中層は淡灰褐色シルト、下層は灰色粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器、石器、銭等が出土した。578・579は17世紀前半頃の陶器と白磁皿である。580・581は土師器と須恵器の杯、582は黒色土器碗の底部である。583～585は陶器碗で、583等は17世紀前半頃の遺物である。586・587は土師器播鉢、590～592は底部を欠く土師器鍋である。588は土師器捏鉢、589は須恵器播鉢、593・594・596～598は土師器把手付鍋、595は土師器鍋、599は土師器足釜、600は陶器壺、601は土師器壺の上半部である。

603は片岩製の石庖丁の未製品、604はエッジに調整を加えたサヌカイト製の削器である。605は中国銭の「天聖元宝」(1023～1032年)である。先述したSDe26aの状況を踏まえ、出土遺物を概観すれば、SDe26a・bは16～17世紀前半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

SDe27 (第97図)

E13区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北半部ではSDe29と重複し、南半部ではSDe29から分岐する小規模な溝状遺構である。SDe29との前後関係は、SDe27が先行しSDe29が後出する。検出長約6.6m、幅約0.5m、深さは約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は暗灰褐色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器・陶磁器、石器等が出土した。613は弥生時代後期後半の鉢で混入品である。606は土師器小皿、607・608は土師器杯、612は白磁碗、611は陶器甕口縁部片、609・610は土師器足釜である。614は石英製の石核で、周囲にはツブレ痕が顕著に認められ、おそらく火打石の材料であろう。出土遺物からSDe27は中世後半以降の溝跡と考えられる。

SDe28 (第97図)

E13区の西半部に位置し東へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。南半部ではSDe29、北端でSDe37、中央ではSDe31と重複し、これらの溝跡との前後関係は、SDe28が全ての溝跡に先行し、重複する他の溝跡が後出する。検出長約10.0m、幅約0.7m、深さは約0.15mを測る。断面は浅い不整形な皿状を呈し、埋土は灰色系のシルトからなる。埋土からは中世後半の土師器片が少量出土した。

SDe29 (第97図)

E13区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。SDe27と重複し、この溝跡はSDe27より後出する。南半部ではSDe27はこの溝跡から分岐する。検出長約15.0m、幅約1.2m、深さは約0.6mを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は淡灰色系砂～細砂からなる。

埋土からは遺物が出土していないためこの溝跡の詳細な時期は不明であるが、SDe27との前後関係から中世以降の溝跡の可能性が高い。

SDe30 (第97図)

E13区の西半部SDe28の東に位置し、SDe28と向きを揃えS字状に湾曲し南北方向に延びる溝状遺構である。北端でSDe31と重複し、この溝跡はSDe31より先行する。検出長約15.5m、幅約0.4～0.9m、深さは約0.2mを測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は灰色系のシルト～細砂からなる。埋土からは中世後半の土師器・須恵器片が少量出土した。

SDe31 (第 97 図)

E13 区の西半部に位置し南北方向に延びる溝状遺構である。SDe30 と重複し、この溝跡は SDe30 より後出する。検出長約 7.0 m、幅約 0.55 m、深さは約 0.1 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は淡灰褐色シルトからなる。埋土からは中世後半の土師器小皿・椀等が少量出土した。

SDe32 (第 97 図)

E13 区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北端部で SDe37、STe01、中央で SKe03 と重複し、SDe32 はこれらの遺構に切り込まれている。検出長約 15.0 m、幅約 0.65 m、深さは約 0.15 を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上下 2 層に分かれ、上層は淡黒褐色シルト、下層は淡灰色シルトからなる。

埋土からは中世後半の土師器片、石器類が少量出土した。615 は川原石を使用した敲石である。上下両端部には敲打痕が顕著に認められる。

SDe33 (第 97 図)

E13 区の西端部に位置し直線気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北端部で SXe05 と重複し、SDe33 はこの遺構より先行する。検出長約 8.5 m、幅約 0.25 m、深さは約 0.1、主軸方位 N8° E を測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は淡黒褐色粘質土からなる。

埋土からは弥生土器片が 1 点出土した。616 は弥生時代後期後半の壺底部片である。検出状況からの溝跡は、中世以降の溝跡の可能性はある。

SDe35 (第 97 図)

E13 区中央の北辺に位置し直線気味に東西方向に延びる溝状遺構で、南に SBe02 が隣接することから SBe02 の雨落ち溝の可能性が高い。検出長約 3.8 m、幅約 0.2 m、深さは約 0.1、主軸方位 N73° W (N17° E) を測る。断面は U 字形状を呈し、埋土は淡黒色砂質土からなる。埋土からは中世後半の土師器・須恵器が数点出土した。

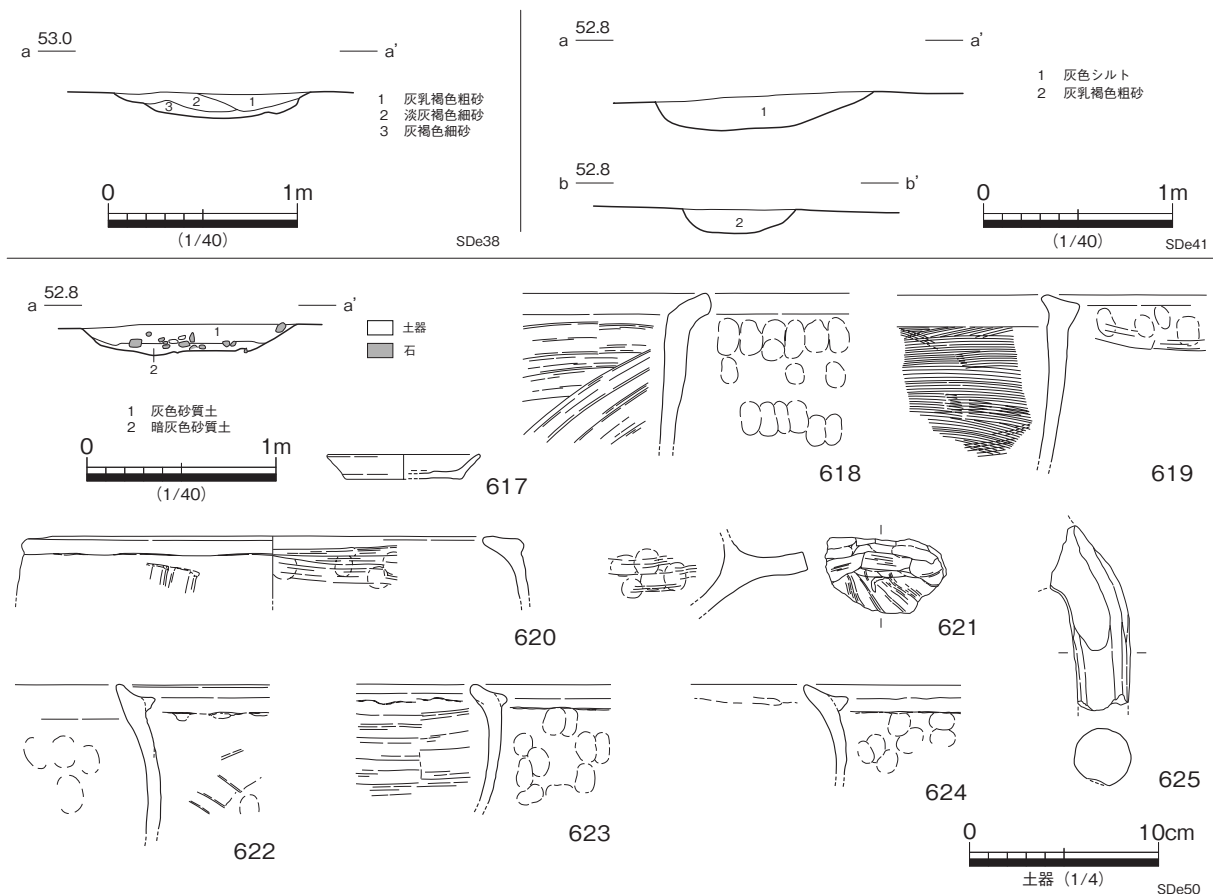
SDe38 (第 98 図)

F12 区南東辺に位置し、SDe41・44 と重複し、これらの溝跡に切られている。屈曲し東西方向に延びる小規模な溝跡である。検出長約 6.0 m、幅約 0.5 ~ 1.0 m、深さは約 0.3 m、主軸方位 N73° W を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系の細砂からなる。埋土から遺物が出土していないため SDe38 の時期判断には無理があるが、中世の溝跡の可能性が高い。

SDe41 (第 98 図)

F12 区南東辺から北西方向に向けて SDe39 と並行に短く直線気味に延びる溝状遺構である。検出長約 14.5 m、幅約 0.6 ~ 1.2 m、深さ約 0.15 m、主軸方位は N14° W を測る。断面は幅広で浅い U 字状を呈し、埋土は灰色系のシルト～粗砂からなる。

埋土からは遺物が出土していないため SDe41 の詳細な時期判断には無理があるが、主軸方位などから E14 区の SDe21 ~ 23 等と類似する時期の溝跡の可能性もある。



第98図 SDe38・41・50断面図，出土遺物

SDe50 (第98図)

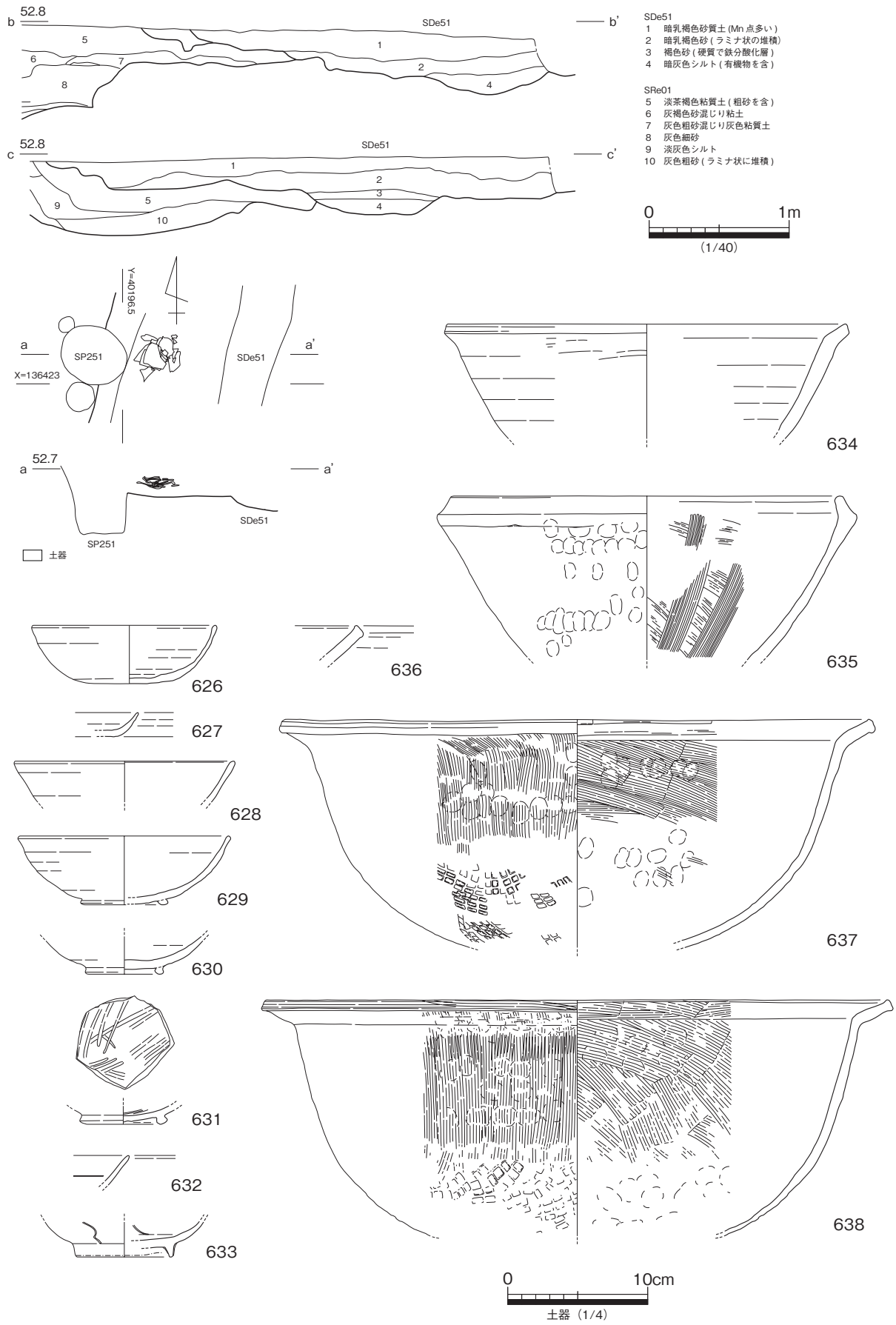
F12区東端部の南北溝SDe51の北端部から西へ短く派生する溝跡である。検出長約7.5m、幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。断面は幅広で隅丸逆台形状を呈している。埋土上層は灰色砂質土、下層は暗灰色砂質土からなる。

埋土からは中世の土師器が少量出土した。617は土師器杯、618～620は土師器鍋である。621は土師器焙烙把手片、622～624は土師器鍋の口縁部で、625は足釜脚部片である。出土遺物からSDe50の埋没時期は15～16世紀以降が考えられる。

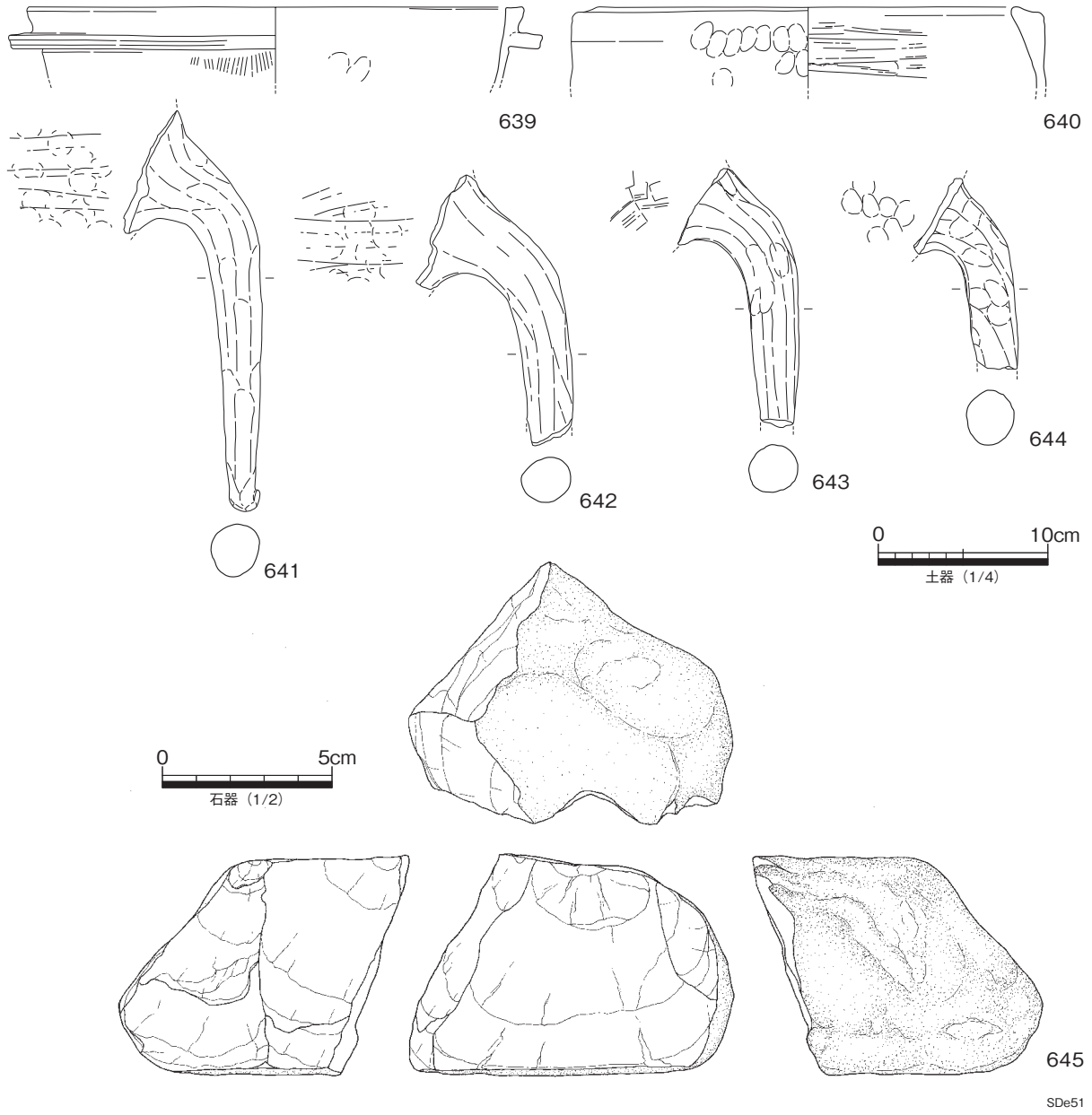
SDe51 (第99・100図)

F12区東端部に位置する南北方向の溝跡で、東方に所在する末則用水に隣接する溝跡である。北端部はSDe26bと重複し、この溝跡に切り込まれている。SDe51はSDe26bをはさんで、E14・15区のSDe24と連続している。検出長約23.0m、幅約2.0～5.0m、深さ約0.2mを測る。断面は幅広で不整形な隅丸逆台形状を呈している。埋土は複数層に分かれ、C断面等で上下で2時期に分けられ、下層にあたるのがSDe24に相当する堆積層と考えられる。なお、SDe51は埋没が終了し上面が平坦化した後には多数の柱穴が切り込み、集落域が拡大している状況が窺える。

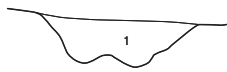
埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦質土器・磁器片等の12～13世紀前半のものと、少量16世紀頃の遺物が出土したが、16世紀頃の遺物は混入遺物と考えられる。626・627は土師器杯、628は須恵器杯、629・630は須恵器碗、631は黒色土器碗底部、632・633は青磁碗片である。634は瓦質の捏鉢、635は土師器搗鉢、637・638は底部を欠く土師器鍋、641～644は土師器足釜の脚部片である。



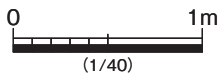
第 99 図 SDe51 断面図, 出土遺物



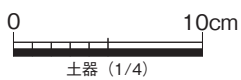
a $\frac{52.8}{a}$ — a'



1 淡灰色砂質土

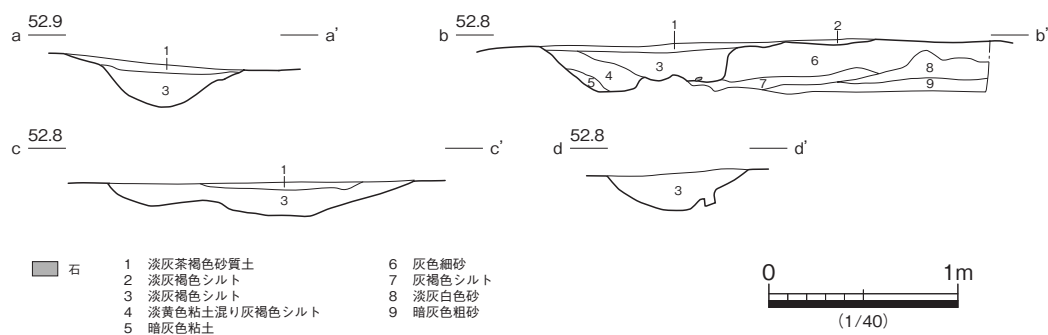
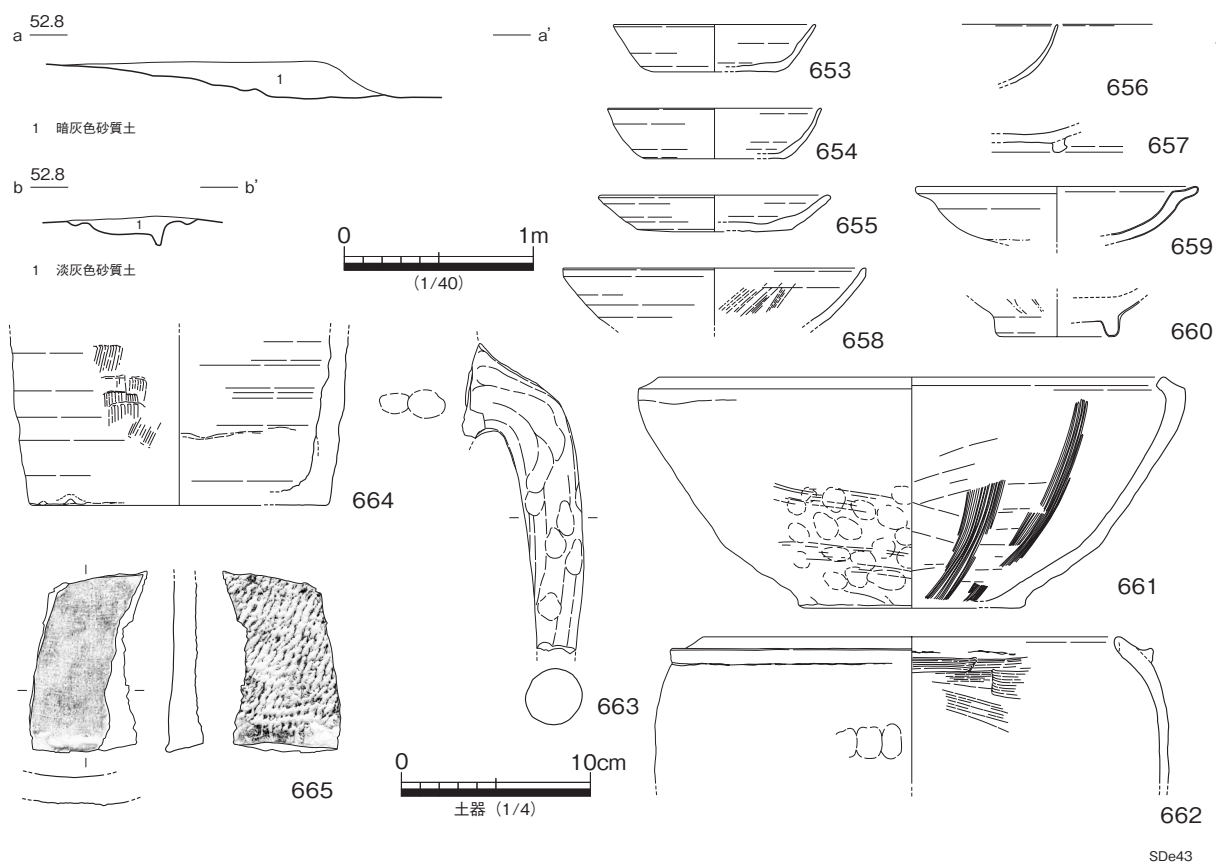
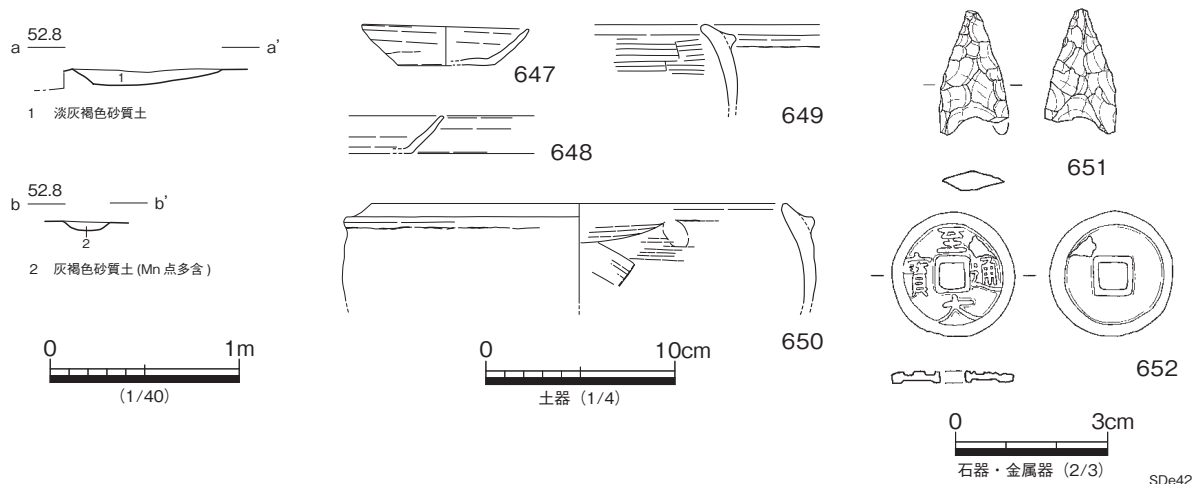


646



SDe52

第 100 图 SDe51 · 52 断面图, 出土遗物



第 101 図 SDe42 ~ 44 断面図, 出土遺物

645 は比較的大型の石英の石核で、おそらく火打石の素材となる剥片を剥ぎ取った石核であろう。出土遺物から SDe51 は 13 世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDe52 (第 100 図)

F12 区の南壁際に所在する SDe43 の溝底で検出した南北方向の小規模な溝跡である。おそらく、北村用水に水を落とすための溝であろう。南端部を SDe53 に切り込まれている。検出長約 1.2 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は幅広で凹凸のある逆台形状を呈し、埋土は淡灰色砂質土からなる。埋土からは中世後半の土師器鍋の口縁部片 646 が出土した。

建物に伴う雨落溝

SDe42 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe04 の西辺を画する雨落溝としての性格と、北村用水の裏込めとしての性格があるものと考えられる溝跡である。検出長約 19.0 m、幅約 0.3 ~ 2.5 m、深さ約 0.1 m、主軸方位は N20° E を測る。断面は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器、石器、金属器等が出土した。647・648 は土師器杯、649・650 は土師器足釜の上半部である。651 はサヌカイトの凹基式石鏃である。652 は中国銭の至大通宝 (1310 ~ 1311) である。出土遺物から SDe42 は、15 ~ 16 世紀頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

SDe43 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe04 南辺を画する雨落溝である。SDe53、SXe07 等と錯綜しており、形状を掴みきれていない点がある。また、西辺を画する SDe42 との切り合いは認められない。検出長約 17.5 m、幅約 0.7 ~ 1.7 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N72.5° W (N17.5E) を測る。断面は幅広で凹凸のある浅い皿状を呈し、埋土は暗灰色 ~ 淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器、瓦片等が少量出土した。653 ~ 655 は土師器杯、656・657 は土師器椀、658 は須恵器椀、659・660 は青磁皿と椀である。

661 は土師器播鉢、662・663 は土師器足釜である。664 は陶器壺底部、665 は平瓦片である。出土遺物から SDe43 は、SDe42 同様に 15 ~ 16 世紀頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

SDe44 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe05・06 の外周を巡るのは、SDe44・46・47・48・49 等の溝で、SDe44 は南辺と東辺を画する溝跡である。また、SDe44 と西辺を画する SDe46 間には、SXe07・08 等の落ち込み状の遺構が取り付いている。調査の際に、溝と落ち込み状の遺構が明瞭に区別できずに遺構掘削を行なったため遺物が分け切れていない点がある。溝跡から出土した遺物は少量で、時期的にも同時期と考えられるため、遺物は SXe07・08 で一緒に報告することにする。

東西方向の南辺部は比較直線気味で、検出長約 10.0 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N77° W (N13° E) を測る。断面の形状は幅広な椀底状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土 ~ シルトからなる。南北方向の東辺部は、凹凸のある不整形な平面形状を呈し、検出長約 11.5 m、幅約 0.2 ~ 2.0 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N8° E を測る。断面の形状は凹凸のある不整形な椀底状を呈し、埋土は淡灰

褐色系のシルトからなる。

SDe45 (第 102 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe04 の西辺を画する SDe42 から、東へ屈曲し北辺を画する雨落溝である。西端部は調査区外の北村用水に、東端部は SXe06 により切り込まれている。この溝の SXe06 に隣接する地点からは、SBe05・06 の北辺の雨落ち溝 SDe49 が東へ向けて分岐している。なお、この溝からは少量ではあるが弥生土器が出土している。また検出状況から SDe45 は、弥生時代の溝 SDe39 の延長線上に位置するため、SDe45 は本来弥生時代の溝で、中世後半に雨落溝として改修された可能性が高い。検出長約 11.0 m、幅約 3.5 m、深さ約 0.7 m、主軸方位は N71° W (N19° E) を測る。断面は幅広で二重掘方の形状を呈する。

埋土は複数層にわかれ、埋土からは弥生土器・土師器・陶器、瓦、砥石、鉄製品等が出土した。666～689 は土師器杯である。口縁部が外上方へ直線状に延びるタイプと、口縁部が内湾気味に延びるタイプとに分かれる。外上方に延びるタイプは 14 世紀代の杯と考えられる。690 は陶器碗の口縁部である。691 は底部を欠く土師器挿鉢、692 は土師器捏鉢である。693～696 は土師器足釜である。697・698 は弥生時代後期後半の弥生土器壺と鉢片である。699・700 は瓦片、701 は砥石片である。702 は袋状の鉄斧先端部である。主体となる中世土器には 14～16 世紀頃までの時期幅があり、この溝跡の埋没時期は 15～16 世紀頃に推定される。

SDe46 ((第 103 図))

F12 区に所在する屋敷地内の SBe05 の西辺を画する雨落溝と考えられる南北方向の溝跡である。北端部は SXe06、南端部は SXe07 に繋がる。検出長約 14.0 m、幅約 0.2～0.7 m、深さ約 0.1～0.2 m、主軸方位は N17.5° E を測る。断面は幅広で不整形で浅い U 状を呈し、埋土は淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・瓦器が少量出土した。703 は瓦器碗口縁部片、704 は土師器捏鉢、705・706 は土師器足釜である。出土遺物から SDe46 は SDe42・43 等と同一時期の可能性が高い。

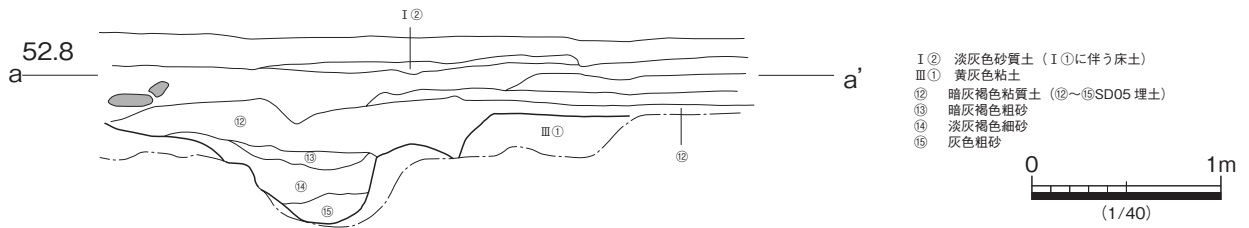
SDe47 (第 103 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe05 の北辺を画する雨落溝と考えられる東西方向の溝跡である。西端部は SXe06 を始点として東方の SDe49 方向へ延び、本来は同溝へ合流していたものと考えられるが、合流部分は削平を受け不明瞭である。検出長約 7.0 m、幅約 0.2～0.5 m、深さ約 0.1 m、主軸方位は N68° W (N22° E) を測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土からなる。

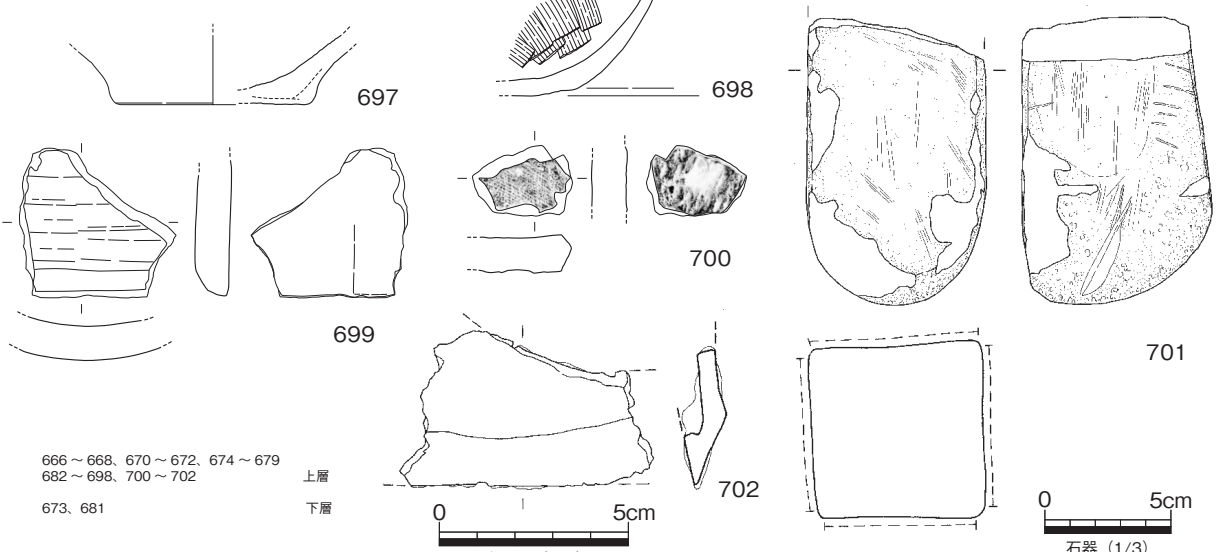
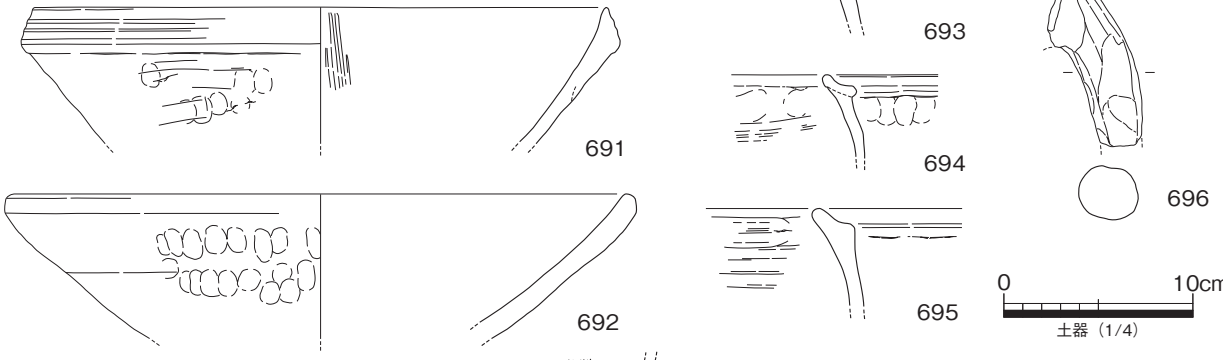
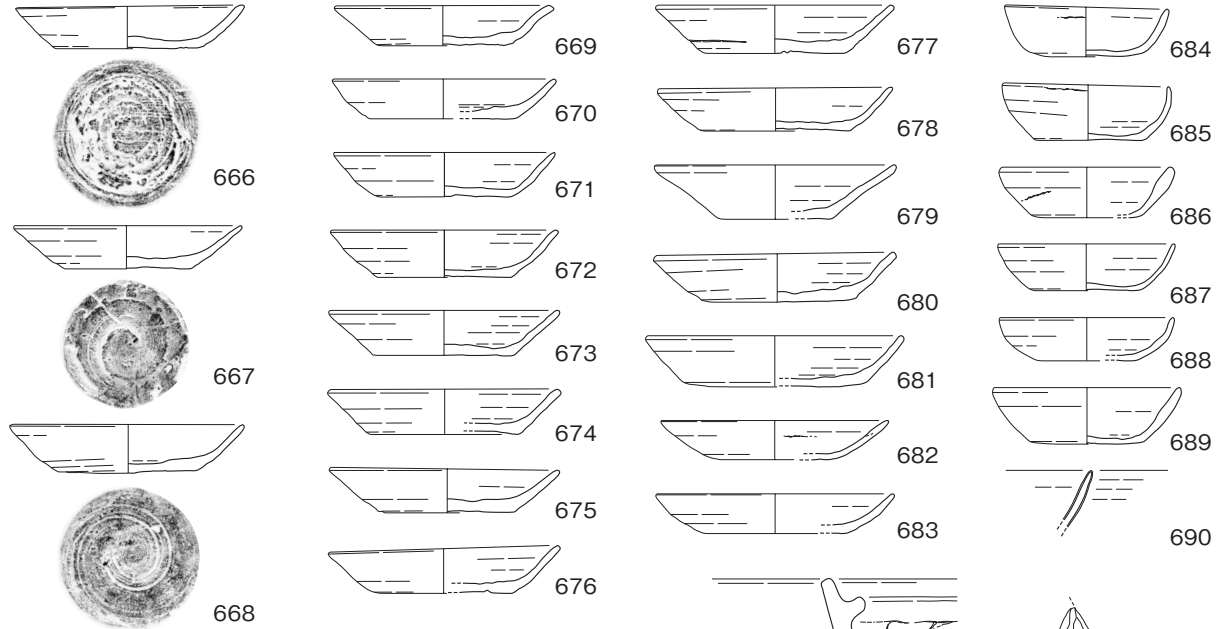
埋土からは土師器片が数点出土した。707 は土師器杯、708 は土師器鍋の口縁部片である。

SDe48 (第 103 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe06 の南辺から東辺を画する雨落溝と考えられる溝跡である。削平を受け残りが悪い。不整形な形状を呈し西端部は SXe08 辺りに繋がる。検出長約 13.5 m、幅約 0.3～1.3 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は幅広で不整形で浅い皿状を呈し、埋土は淡黒褐色系のシルトないし砂質土からなる。

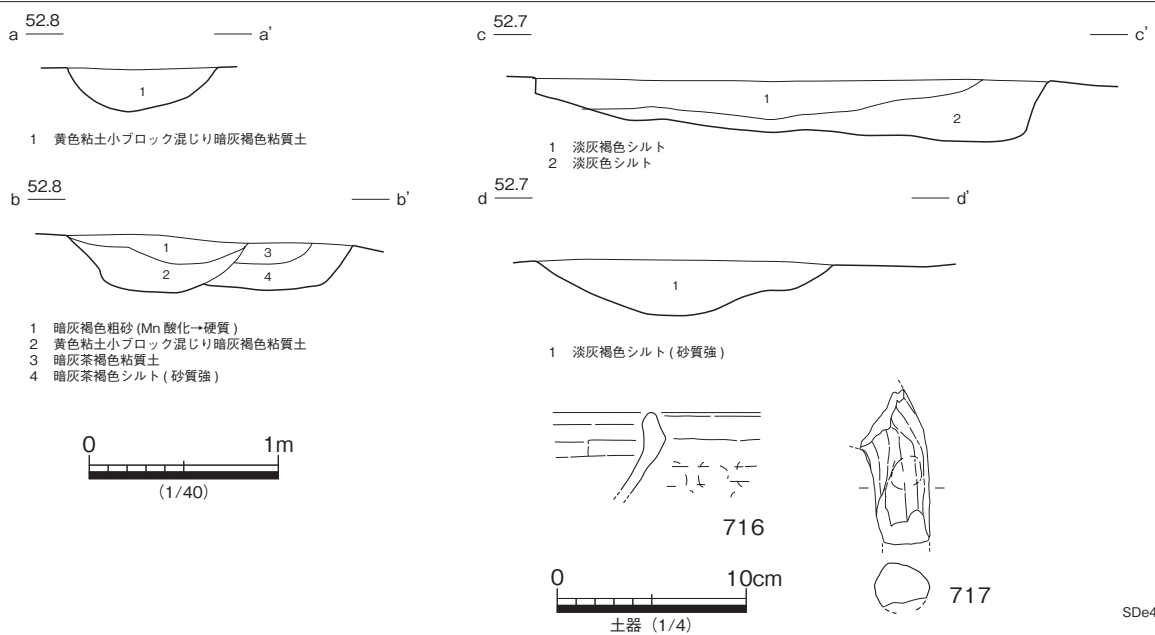
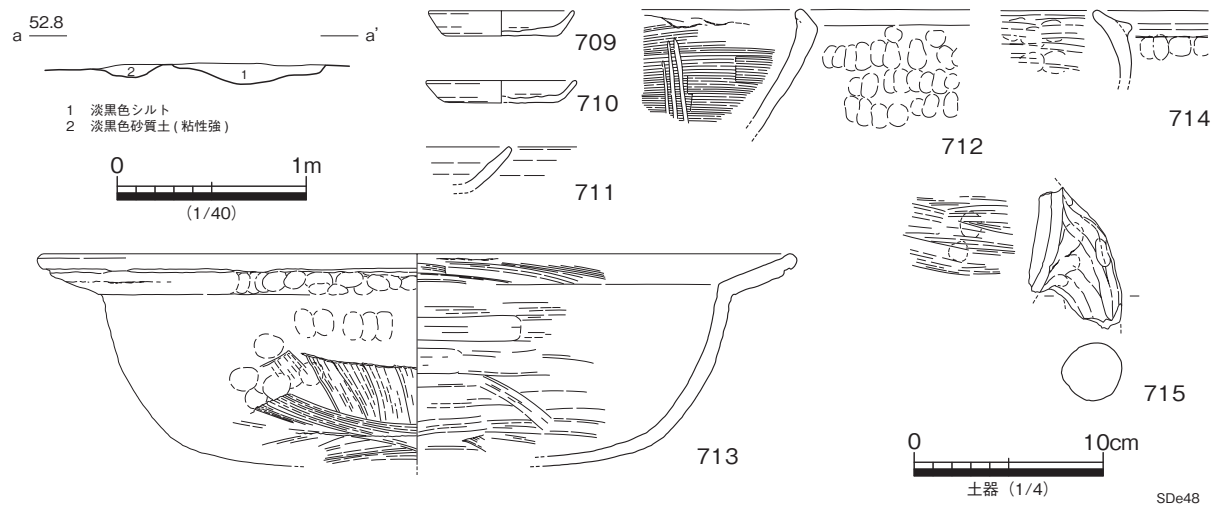
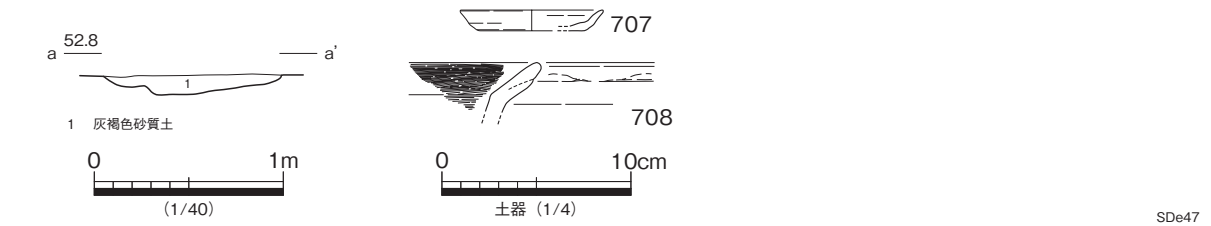
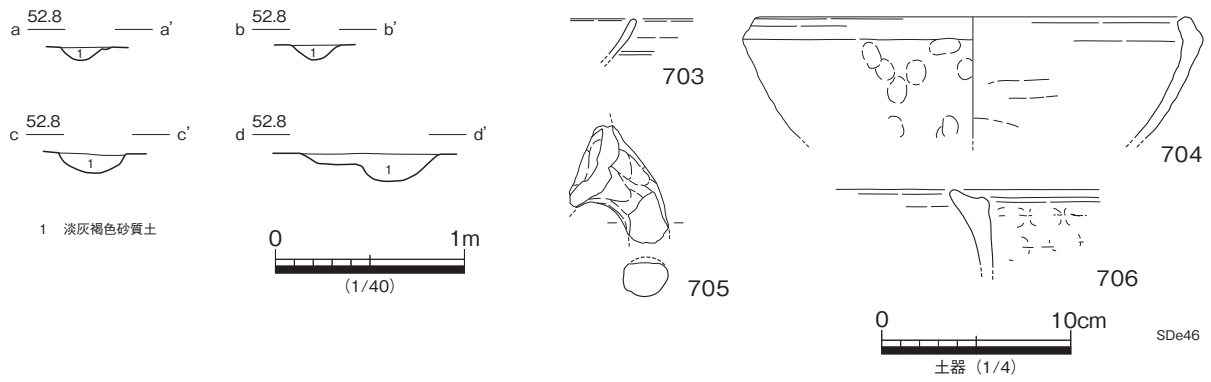


- I ② 淡灰色砂質土 (I ①に伴う床土)
- III ① 黄灰色粘土
- ② 暗灰褐色粘質土 (②~⑤SD05埋土)
- ③ 暗灰褐色粗砂
- ④ 淡灰褐色細砂
- ⑤ 灰色粗砂



666 ~ 668, 670 ~ 672, 674 ~ 679
 682 ~ 698, 700 ~ 702 上層
 673, 681 下層

第 102 図 SDe45 断面図, 出土遺物



第 103 図 SDe46 ~ 49 断面図, 出土遺物

埋土からは中世後半の土師器が少量出土した。709～711は土師器杯、712は土師器播鉢片である。713は土師器鍋で、714・715は土師器足釜の口縁部と脚部片である。出土遺物からSDe48は15～16世紀頃に埋没した溝跡と考えられる。

SDe49 (第103図)

F12区に所在する屋敷地内のSBe06の北辺を画する雨落溝と考えられる東西方向の溝跡である。西端部はSDe45、東端部はSXe10に続く。その後南に屈曲しSDe44へと続き、結果的にSBe04・05・06の外周を囲うように巡る。平面は凹凸が著しい不整形な形状を呈し、検出長約20.0m、幅約0.7～2.0m、深さ約0.3mを測る。断面は不整形で地点により異なるが、幅広U字状ないし逆台形状を呈している。埋土は地点により異なるが、主体を占るのは灰褐色シルトである。

埋土からは中世後半の土師器片が数点出土した。716は土師器の播鉢ないし捏鉢の口縁部片である。717は土師器足釜の脚部片である。

雨落溝に伴う水溜状遺構

SXe06 (第104図)

F12区中央、SBe05・06の外周を画する雨落溝SDe46・47・48・49等のうち、SBe05の西辺と北辺に沿うように配された、SDe46・47間の水溜状の不整形な落ち込みである。SDe39・45と重複し両溝より後出する。平面は南北方向で不整形な幅広な楕円形状を呈し、SDe46・47とは切りあわず連続するため一連の遺構と考えられる。検出長約5.0m、幅約2.3m、深さ約0.2mを測る。断面は不整形で凹凸が顕著な浅い皿状を呈している。埋土は暗灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器が少量出土した。718・719は土師器杯、720は白磁碗の底部片、721は土師器足釜上半部片である。

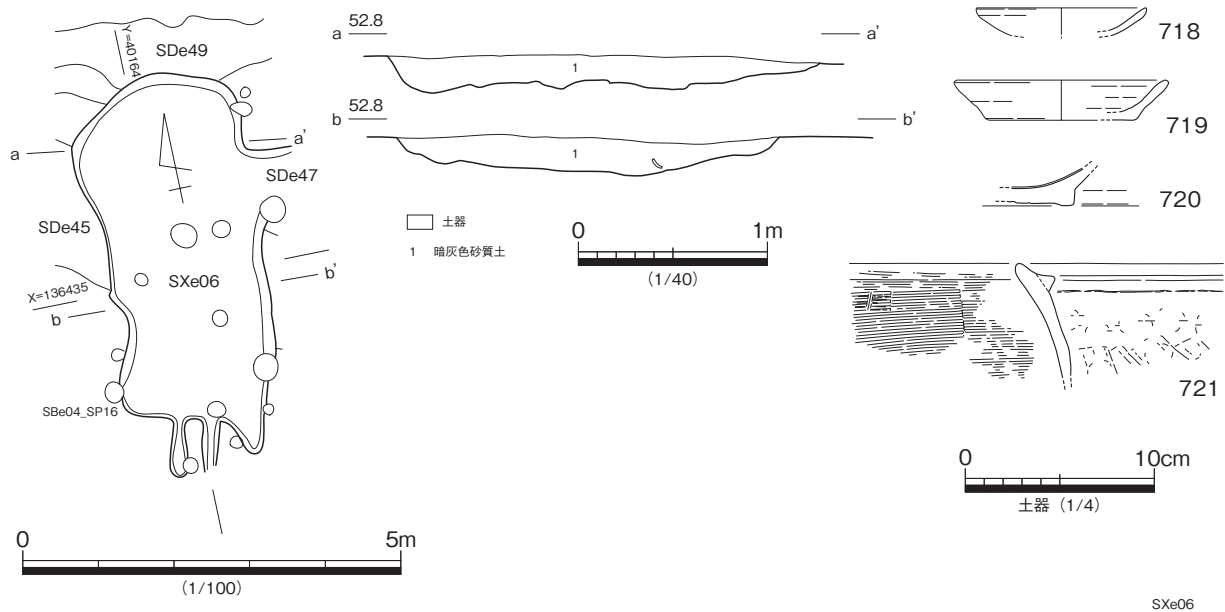
SXe07・08 (第104～109図)

F12区中央、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、西辺を画するSDe46と南辺・東辺を画すSDe44の交点部分、詳細に言えば南辺溝に当たるSDe44の西半部で検出した。なお、SXe07とSXe08は東西で隣りあわせて検出した。切り合い等がみられない点より一連の遺構と考えられる。

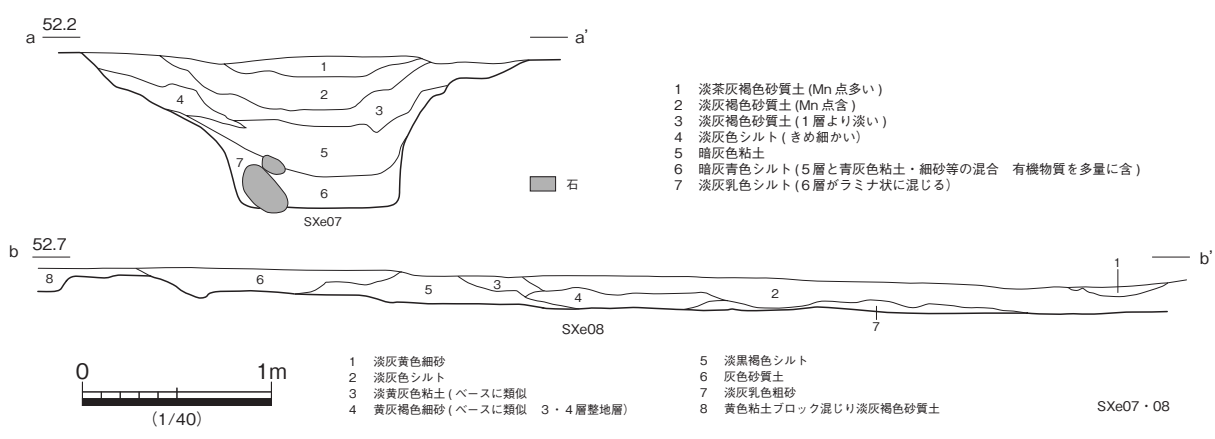
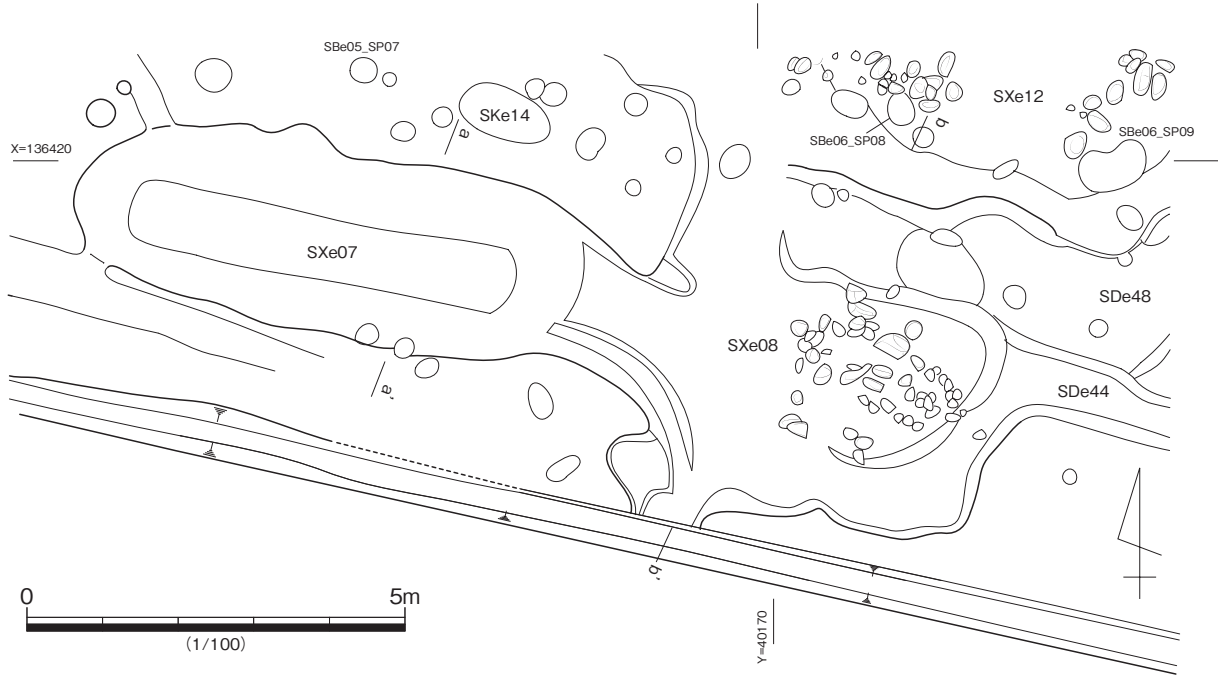
SXe07はSDe46とSXe08に挟まれた水溜状の遺構である。平面は東西に長い長楕円形状を呈し、検出長約6.9m、幅約2.5m、深さ約0.8m、主軸方位はSDe44同様のN77°W(N13°E)を測る。断面の形状は幅広で逆台形状を呈し、埋土は数層に別れるが、概ね上層は灰色系砂質土、下層は暗灰色系シルト～粘土からなる。規模的な点で、水溜状遺構の中で最も容量の大きな遺構で、おそらく南に近接して所在していたと考えられる。北村用水に水を落とすための調整池としての機能が考えられる。

SXe08は先述したSXe07とSDe44に挟まれた水溜状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある形状を呈し、南にはおそらく北村用水に水を落とす小溝が延びる。また北はSXe12と接するが、その境は不明瞭である。底面からは円礫が多量に出土した。おそらく、周辺で出土したものを廃棄したものであろう。長径約5.7m、短径約3.3m、深さ約0.15mを測る。断面の形状は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は数層に別れるが、主に淡灰色系シルトからなる。

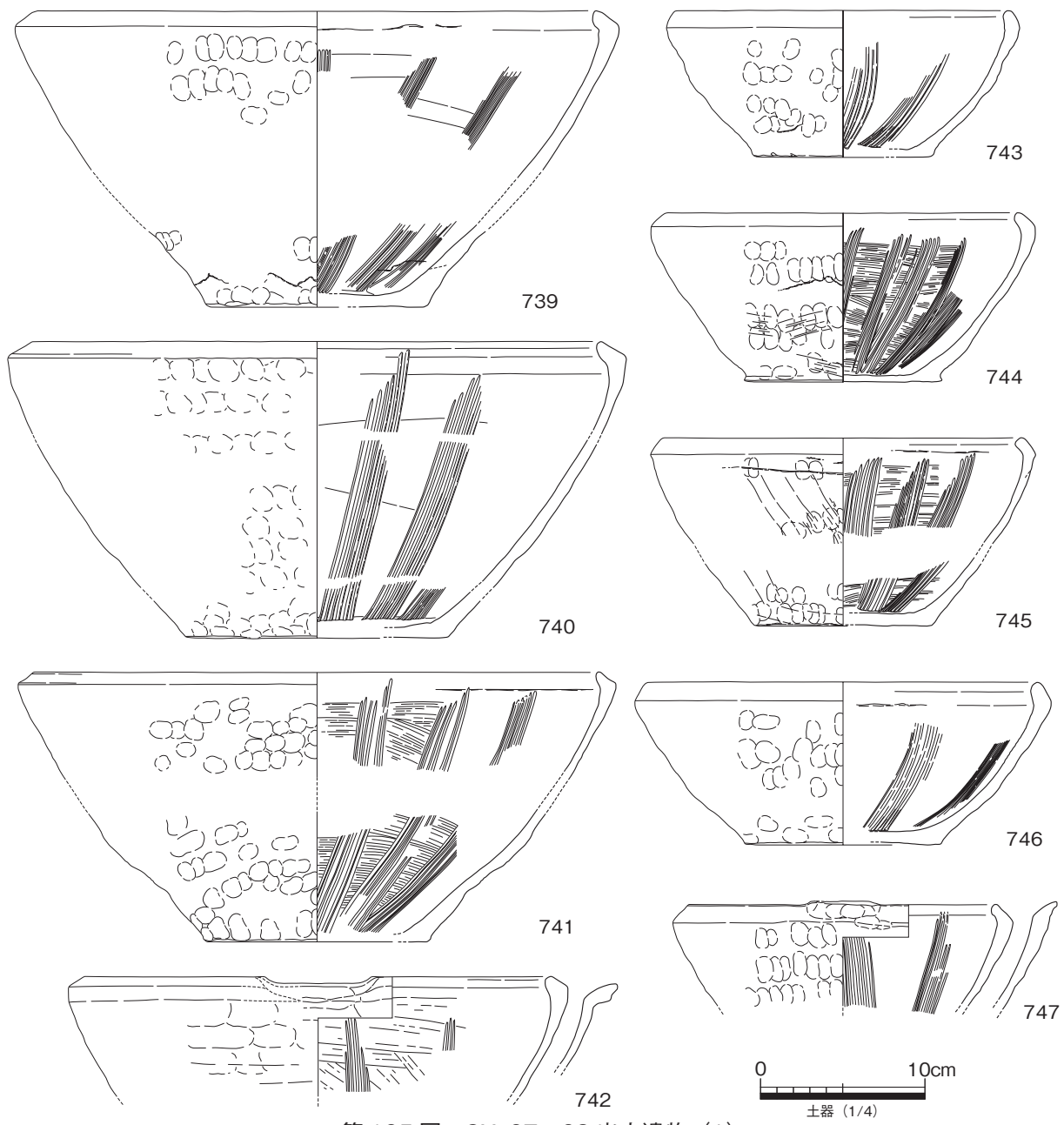
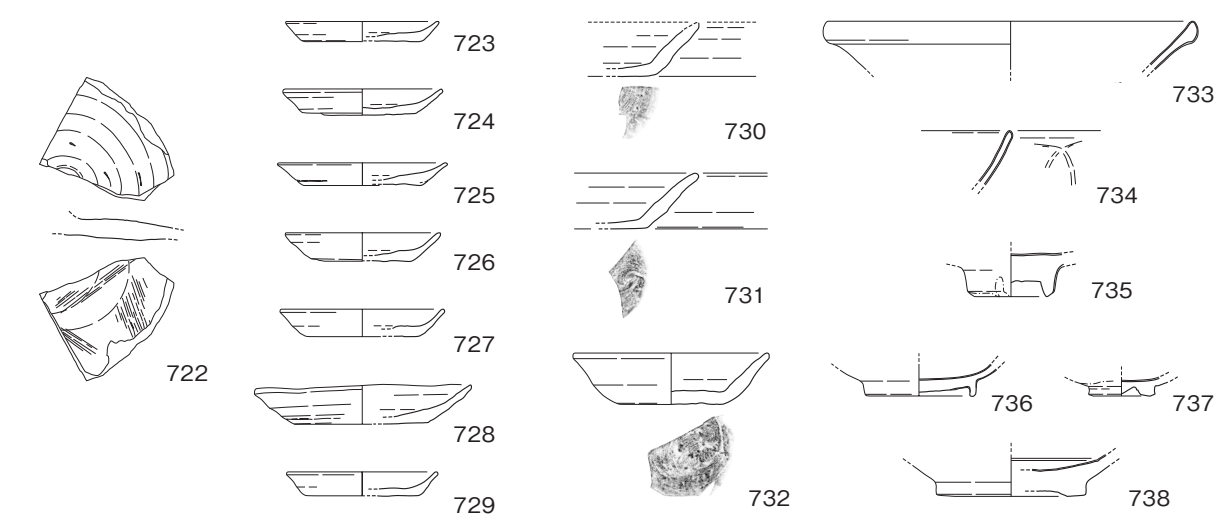
SDe44、SXe07・08からは多量の中世土器が出土しているが、調査時においては遺構を小区画で区分



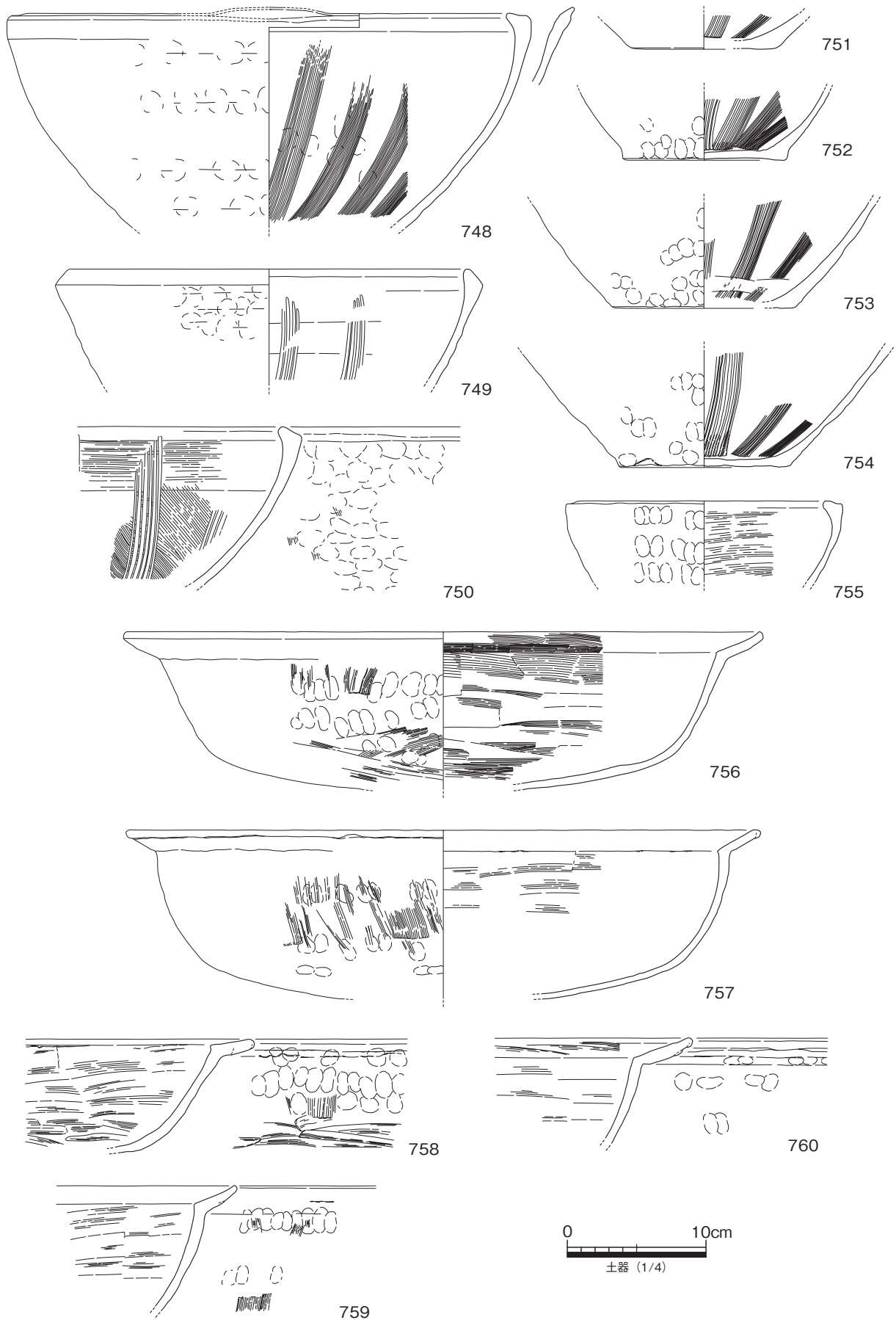
SXe06



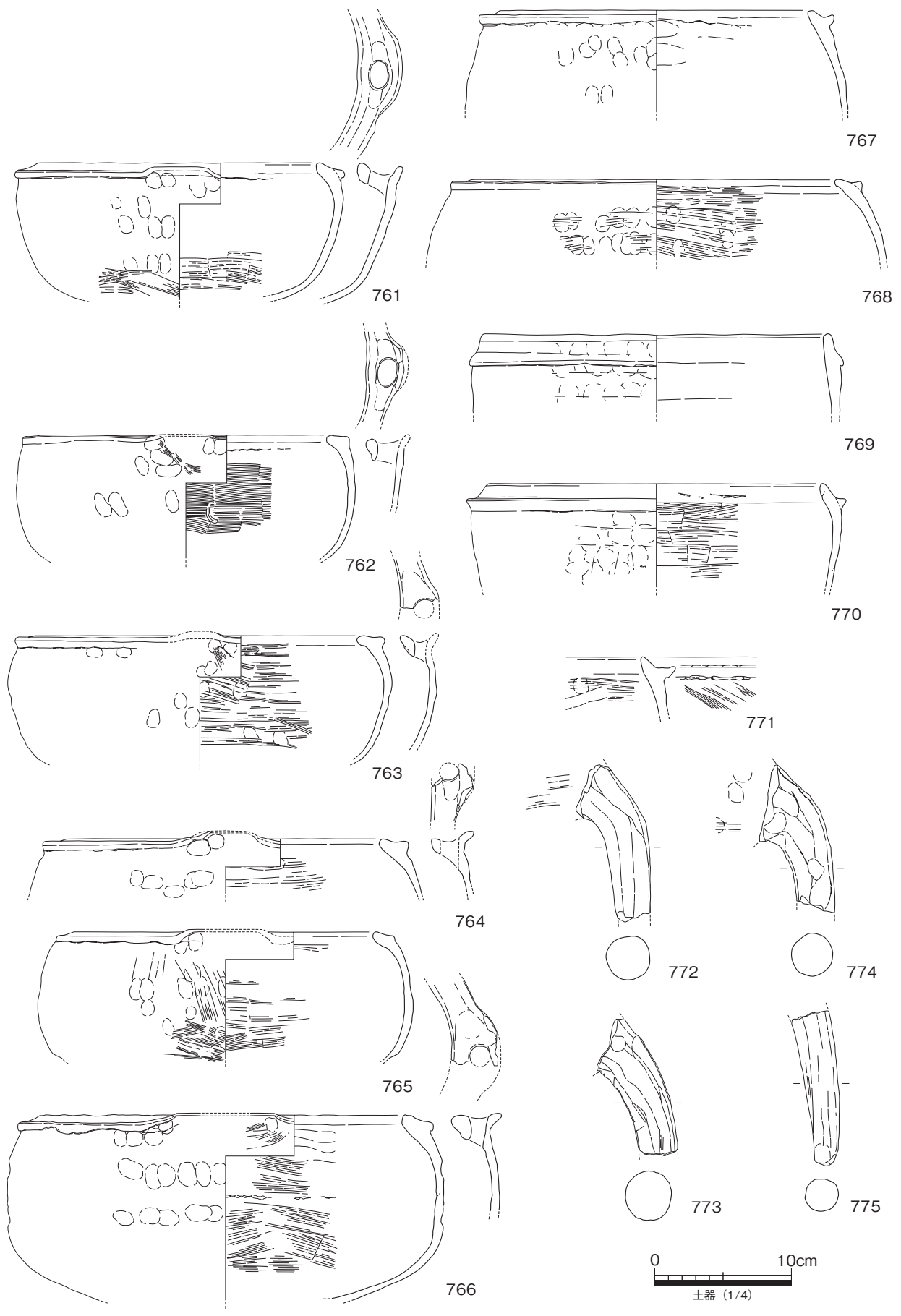
第 104 図 SXe06 ~ 08 平・断面図, 出土遺物



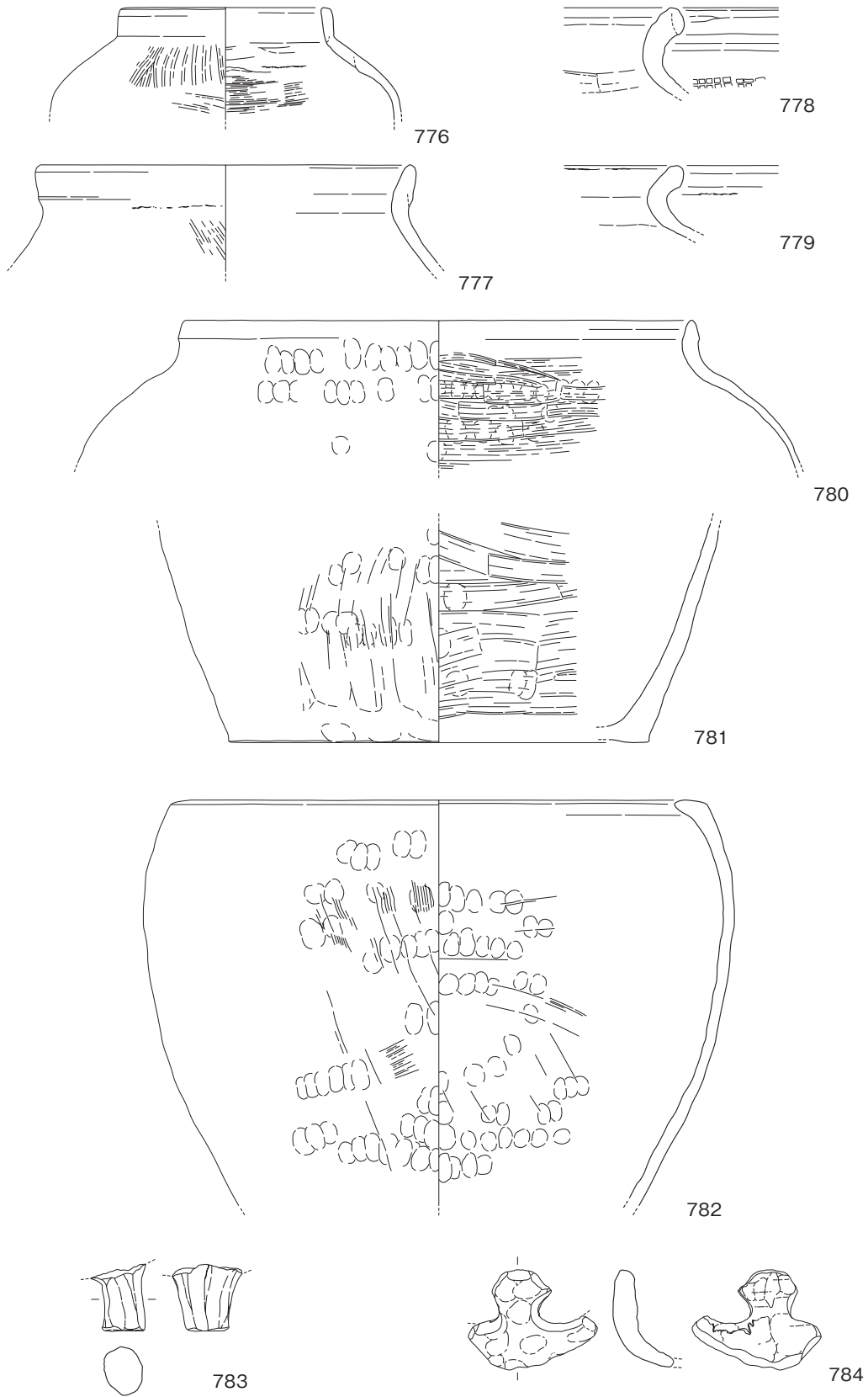
第 105 図 SXe07・08 出土遺物 (1)



第 106 図 SXe07・08 出土遺物 (2)

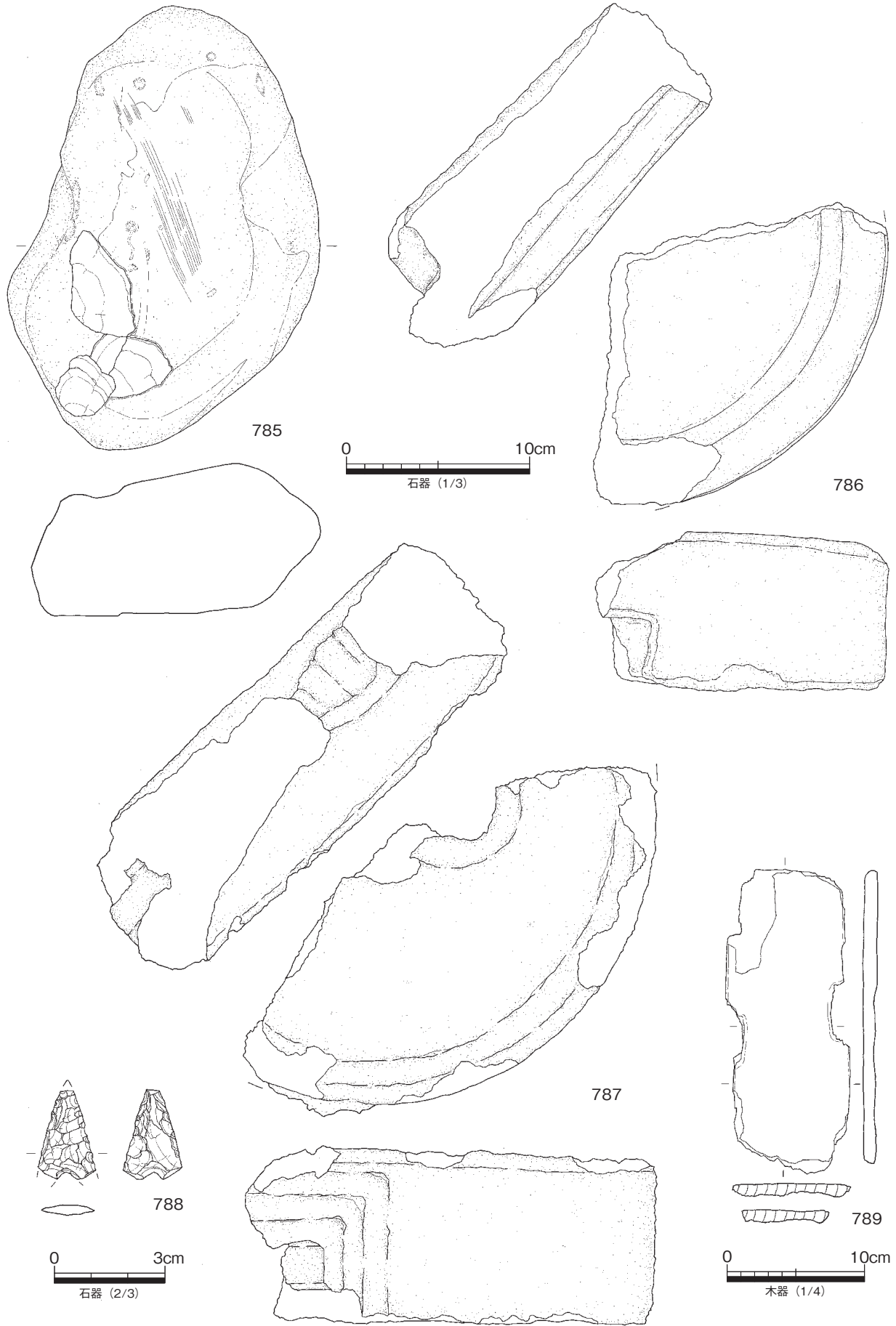


第 107 図 SXe07・08 出土遺物 (3)



0 10cm
土器 (1/4)

第 108 図 SXe07・08 出土遺物 (4)



第 109 図 SXe07・08 出土遺物 (5)

し取り上げたのであるが、調査後にその記録となる図面が紛失したため、三遺構のうち出土遺構が不明瞭な遺物がある。そのため、SDe44、SXe07・08の出土遺物はまとめて報告することにする。なお、これらの遺構の中でSXe07からの出土遺物が最も多く、全体の約8割近くを占めている。

722は須恵器杯蓋片で混入品である。723～729は土師器杯、730は須恵器杯、731・732は陶器の杯である。733～738は青・白磁の椀の資料である。739～750・752～754は土師器播鉢の資料である。742・747・748は片口の播鉢である。756～760は土師器鍋、761～766は土師器把手付鍋である。767～771は土師器足釜の資料で、767～771は足釜上半部、772～775は足釜脚部である。776～779は土師器壺の上半部及び口縁部である。780は土師器大甕上半部である。781は備前焼甕の底部である。782は底部を欠く土師器大型火鉢である。783は土師器火鉢の底部に取り付く脚部片である。

785～788は石製品ないしは石器である。785は砥石、786・787は凝灰岩製の石臼片である。788はサヌカイトの石鎌で混入品であろう。789は板状の木製品である。出土遺物からSXe07・08は15～16世紀以降に埋没した遺構と考えられる。

SXe09 (第110図)

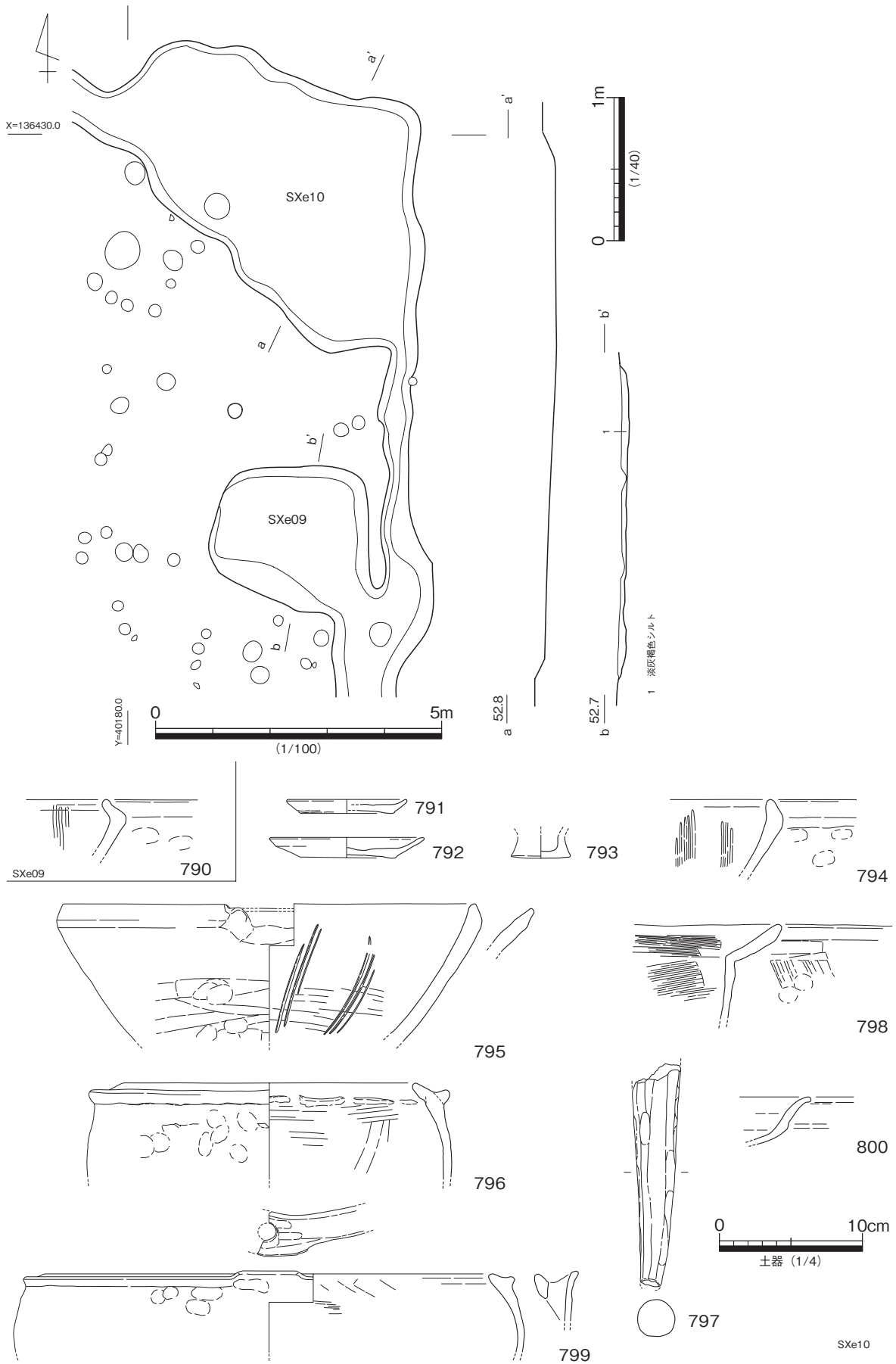
F12区東半部、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、東辺を画するSDe48の更に東方に位置するSDe44のほぼ中央で検出した、削平を受け残りがかなり悪い水溜状の不整形な落ち込みである。SDe44とは重複するが、切りあわずに連続するため一連の遺構と考えられる。平面は不整形な略方形状を呈し、長径約2.9m、短径約2.5m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は淡灰褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。790は土師器播鉢の口縁部片である。

SXe10 (第110図)

F12区東半部、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、北辺を画するSDe49と東辺を画するSDe44の交点で検出した、削平を受け残りがかなり悪い水溜状の不整形な落ち込みである。SDe49・44とは重複するが、切りあわずに連続するため一連の遺構と考えられる。平面は不整形な略台形状を呈し、長径約6.5m、短径約3.8m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は主に淡灰褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器が出土した。791は土師器小皿、792は土師器杯である。793は土師器托、794は土師器播鉢、795は須恵器片口の播鉢である。796・797は土師器足釜、798は土師器鍋の口縁部片、799は土師器把手付鍋の上半部である。800は弥生時代後期後半の高杯杯部片で混入品である。出土遺物からこの遺構は15～16世紀頃に埋没した遺構と考えられる。



第110図 SXe09・10平・断面図，出土遺物

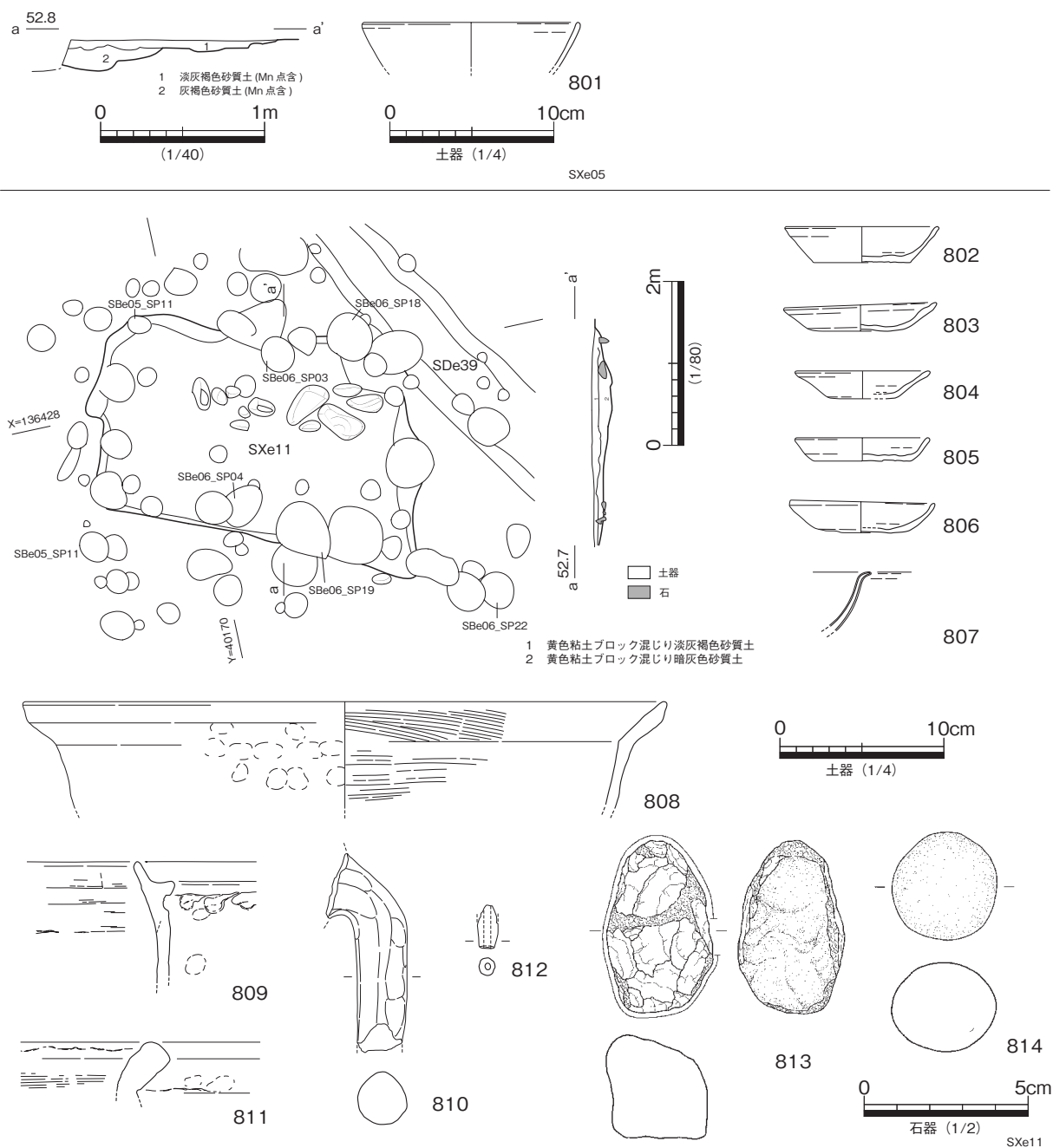
不整形遺構

SXe05 (第 111 図)

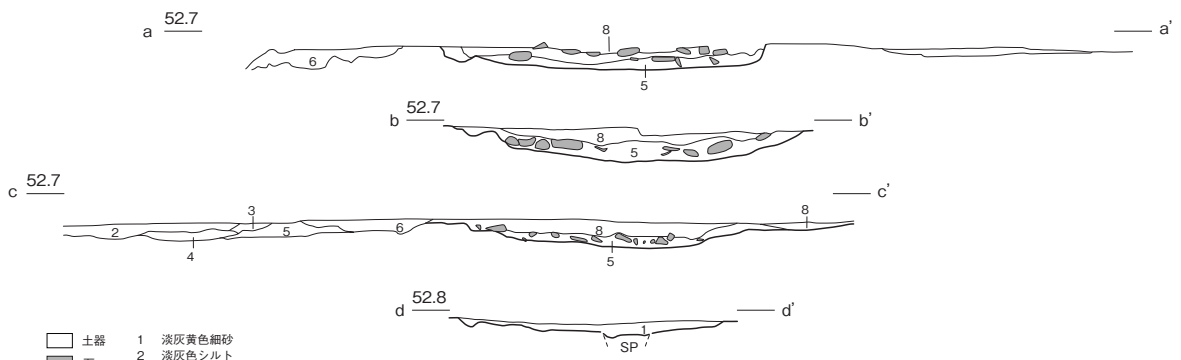
E13 区の西端部で検出した不整形な落ち込み状遺構である。SDe33・34・37 等の遺構と重複し、SDe33 より後出し SDe34 より先行する。平面は不整形な方形状を呈し、検出長約 4.0 m、幅 1.5 ~ 2.5 m、深さ約 0.2 m を測る。断面の底面は、西に向かって緩やかに傾斜する。埋土は淡灰褐色砂質土からなる。埋土から土師器が数点出土した。801 は土師器杯の上半部である。

SXe11 (第 111 図)

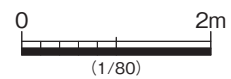
F12 区の中央に位置し、SXe12 の北側に所在する不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある略方形状を呈する。また、この遺構の上には SBe05・06 が重複しており、SBe 前後関係



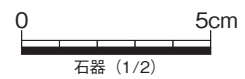
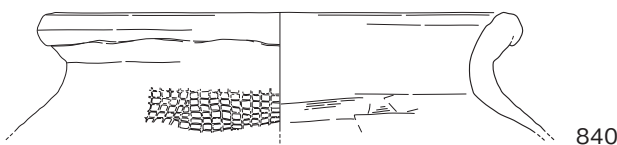
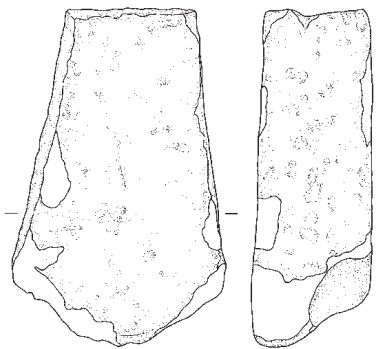
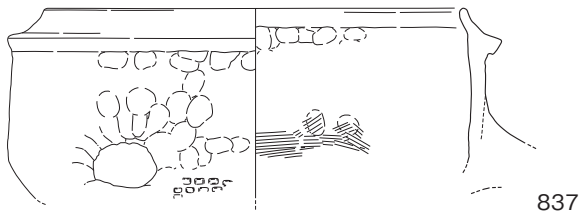
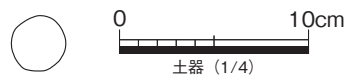
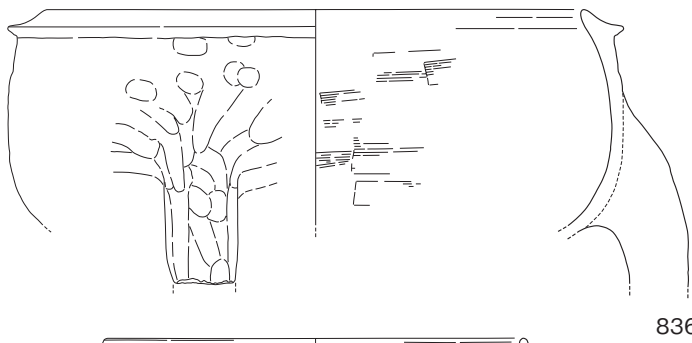
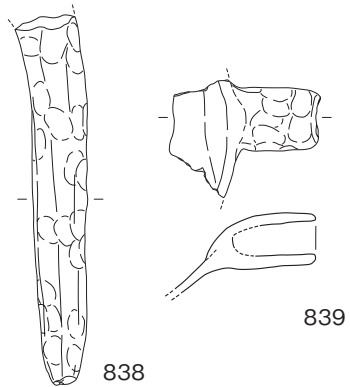
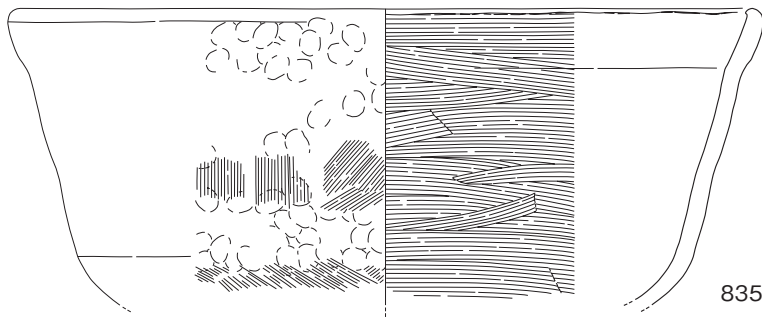
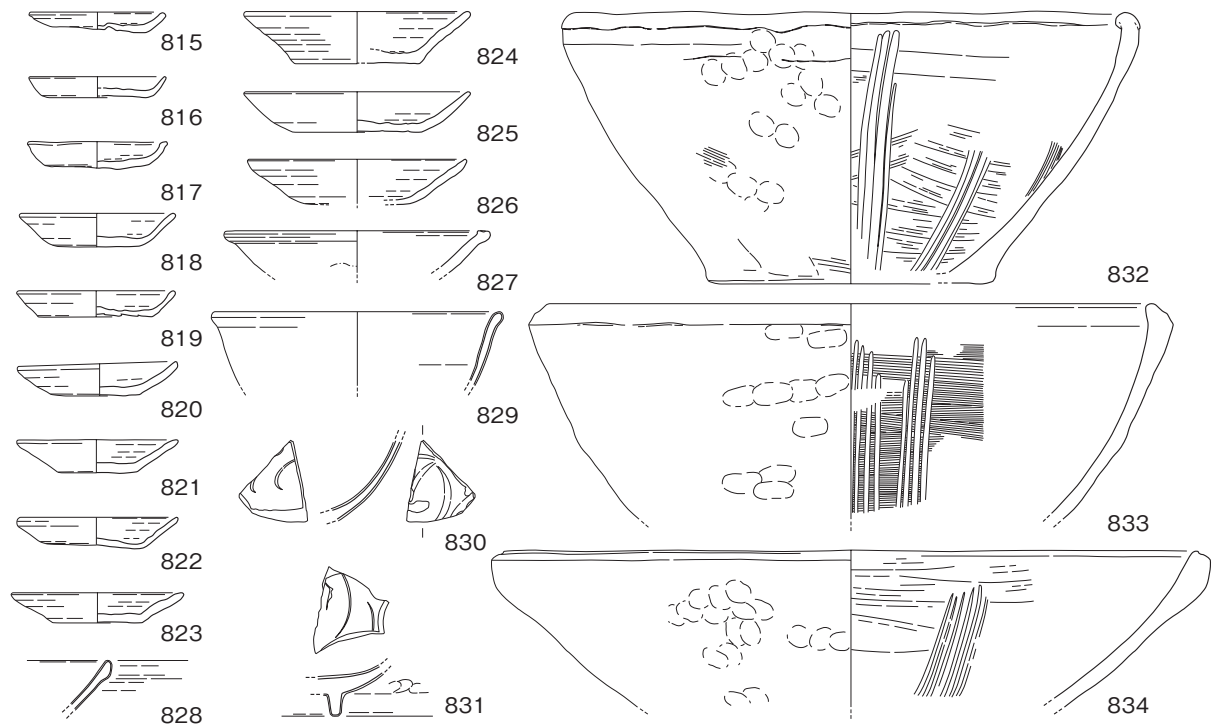
第 111 図 SXe05・11 平・断面図, 出土遺物



- | | | | |
|---|----|---|-------------------------|
| □ | 土器 | 1 | 淡灰黄色細砂 |
| ■ | 石 | 2 | 淡灰色シルト |
| | | 3 | 淡黄灰色粘土 (ベースに類似) |
| | | 4 | 黄灰褐色細砂 (ベースに類似 3・4層整地層) |
| | | 5 | 淡黒褐色シルト |
| | | 6 | 灰色砂質土 |
| | | 7 | 淡灰乳色粗砂 |
| | | 8 | 黄色粘土ブロック混じり淡灰褐色砂質土 |



第 112 図 SXe12 平・断面図



第 113 図 SXe12 出土遺物

は05・06が後出し、SXe11が先行する。SXe08同様、底面からは円礫が多数出土した。周辺で出土したものを廃棄したものであろう。長径約4.5 m、短径約2.4 m、深さ約0.3 mを測る。断面の形状は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は黄色粘土ブロック混じり淡灰褐色砂質土、下層は黄色粘土ブロック混じり暗灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器・陶磁器、石製品などが出土した。802～806は土師器杯、807は青磁椀ないし鉢である。808は土師器鍋、809・810は土師器足釜、811は陶器甕の口縁部片、812は須恵質の土錘片、813は石英製の火打石である。外周の潰れ痕が顕著である。814は丸石で投弾の可能性がある。

SXe12 (第112・113図)

F12区の南半部中央に位置し、SXe08の北側に所在する不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある長楕円形状を呈するが、遺構際の端部は不明瞭である。南にSXe08と接するがその境も不明瞭である。また、この遺構の上面にはSBe06が重複しており、前後関係はSBe06が先行し、SXe12が後出するようである。SXe08同様、底面からは円礫が多量に出土した。周辺で出土したものを廃棄したものであろう。なお、円礫中からは、石英の原石・石核・剥片等が多量に出土しており、おそらく周辺域で石英を原材料にして火打石を生産していたものと考えられる。長径約5.8～8.5 m、短径約3.8 m、深さ約0.3 mを測る。断面の形状は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は黄色粘土ブロック混じり淡灰褐色砂質土、下層は淡黒褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器、石製品等が出土した。815～817は土師器小皿、818～826は土師器杯である。827は陶器皿、828～831は青白磁の椀である。832～834は土師器播鉢、835は底部を欠く土師器鍋、836～838は土師器足釜である。839は土師器焙烙の把手、840は須恵質甕口縁部片である。841は直方体状の砥石である。出土遺物からこの遺構は15～16世紀頃に埋没した遺構と考えられる。

(3) 近世前半以降の遺構・遺物

SDe37 (第114図)

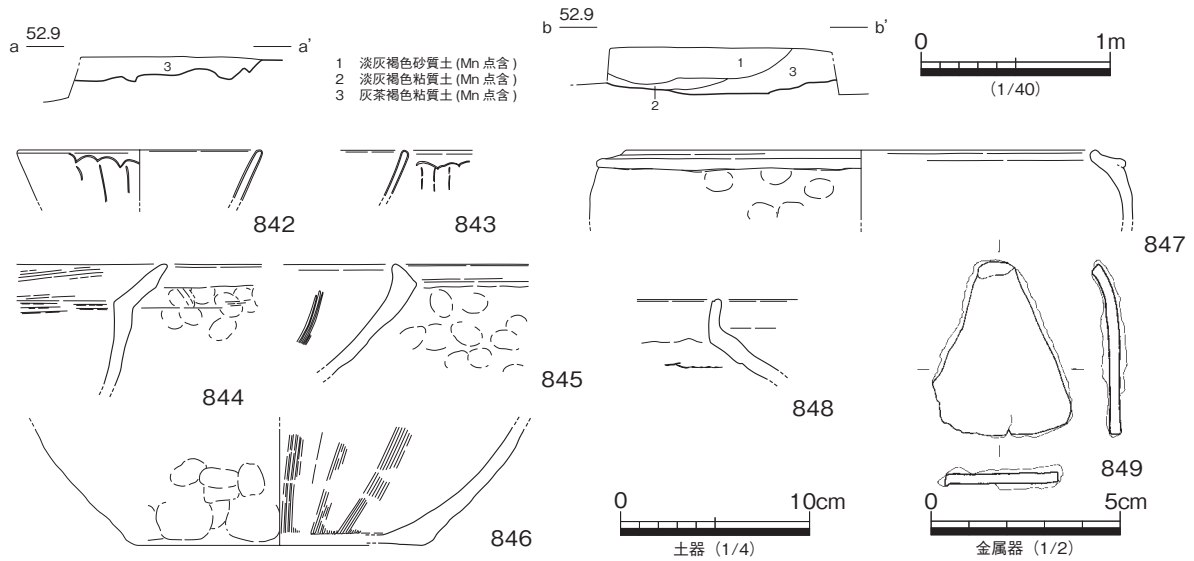
E13区北辺の現用水路の南際に配されていた東西方向の溝跡で、検出状況から近世以降の用水路の裏込め部分と考えられる。検出長約27.0 m、幅約1.2 m以上、深さは0.1～0.3 m、主軸方位N73° W (N17° E)を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器等が多数出土した。842・843は青磁椀の上半部である。844は土師器鍋、845・846は土師器播鉢、847は土師器足釜、848は土師器壺の口縁部である。849は板状の不明金属器片である。

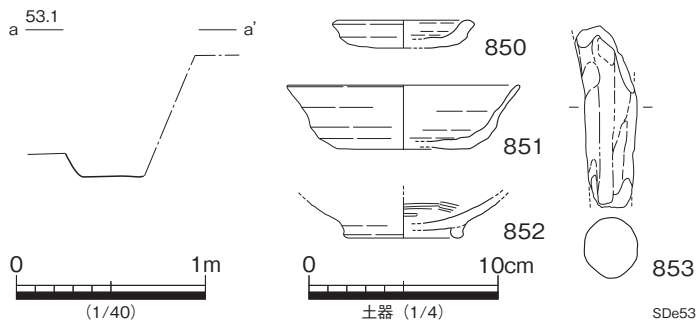
SDe53 (第114図)

F12区南辺の現用水路の北辺際に配されていた東西方向の溝跡で、近世以降の北村用水の北岸の裏込め部分にあたる。検出長約18.0 m以上、幅0.4～0.8 m、深さ約0.2 m、主軸方位N77.0° W (N13.0° E)を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈する。

埋土からは中近世の遺物が出土した。残りが良い代表的な遺物を図化した。850は土師器小皿、851は土師器杯である。852は黒色土器椀底部、853は土師器足釜の脚部片である。



SDe37



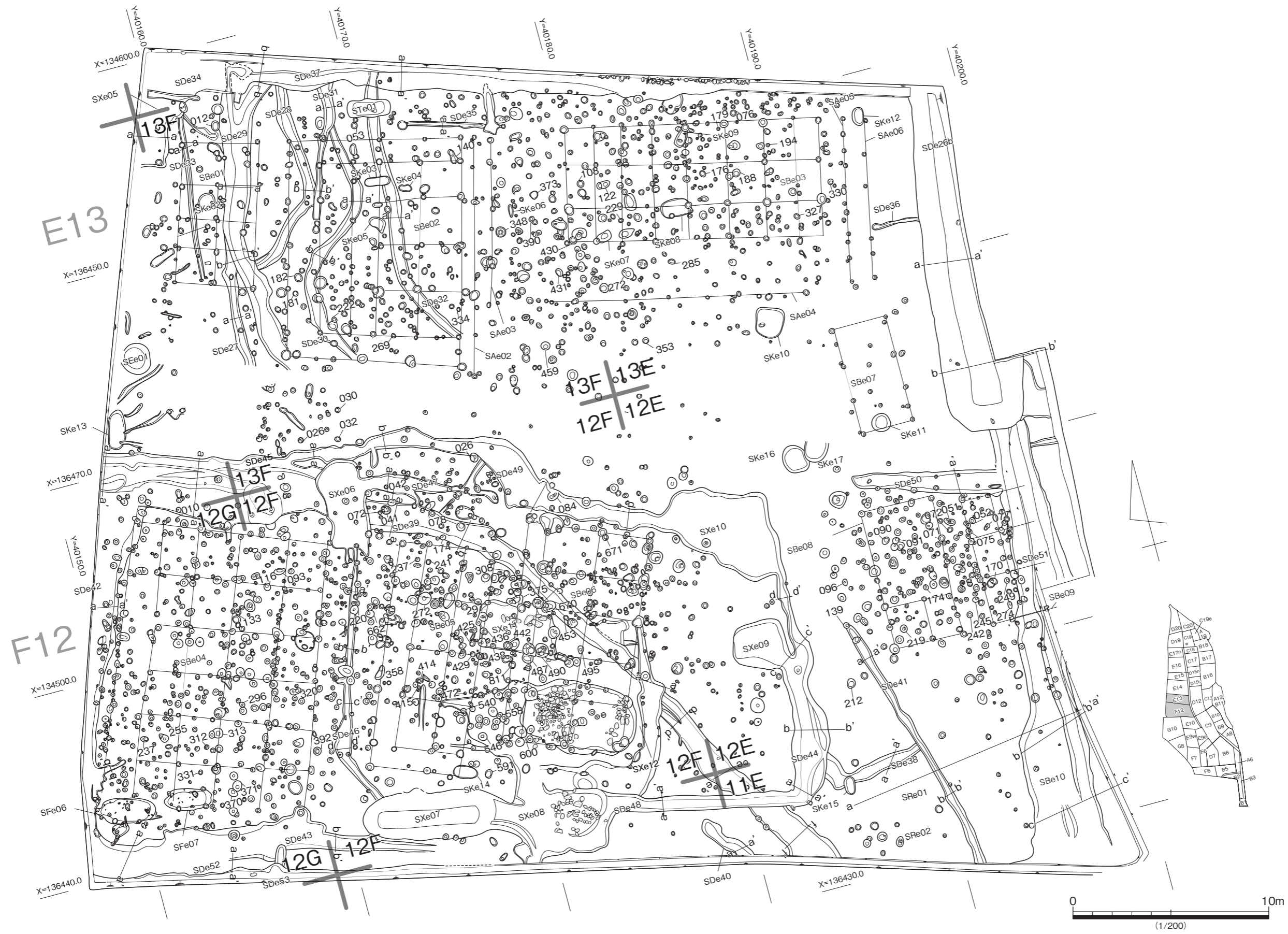
第 114 図 SDe37・53 断面図, 出土遺物

(4) 柱穴出土遺物 (第 116 ~ 120 図)

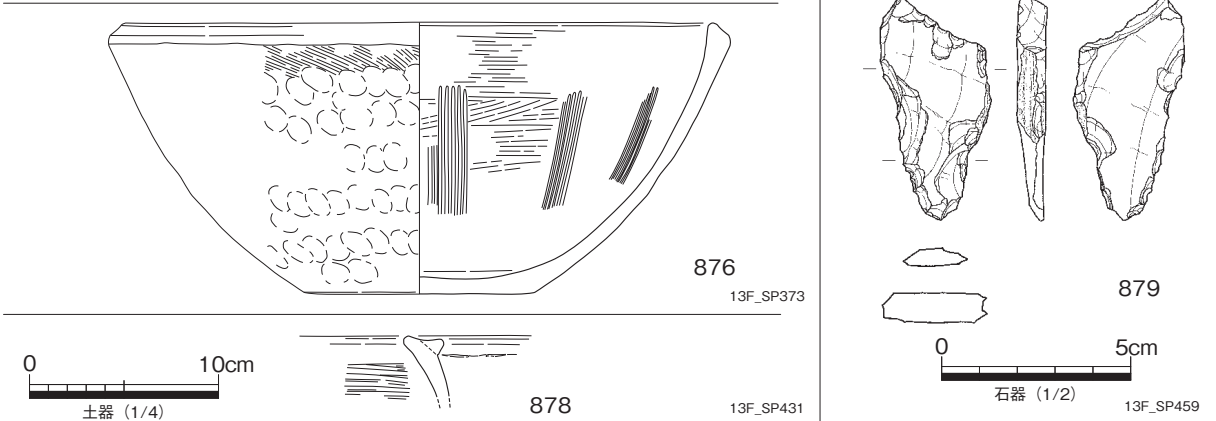
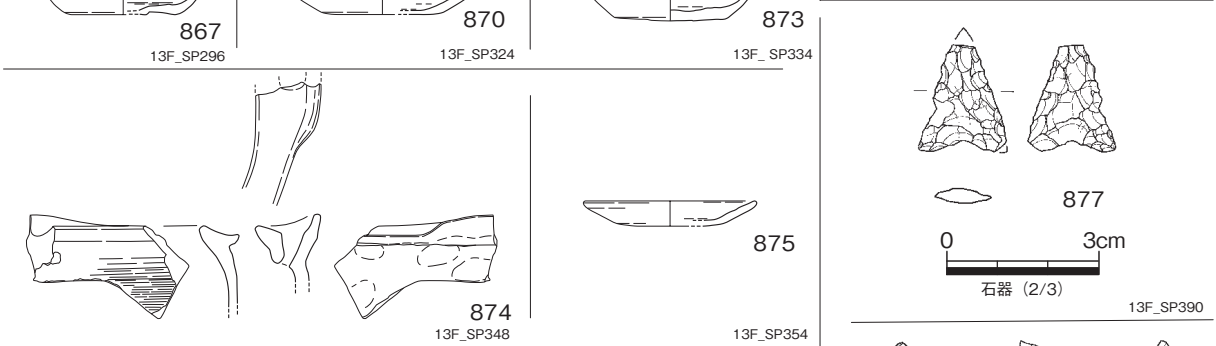
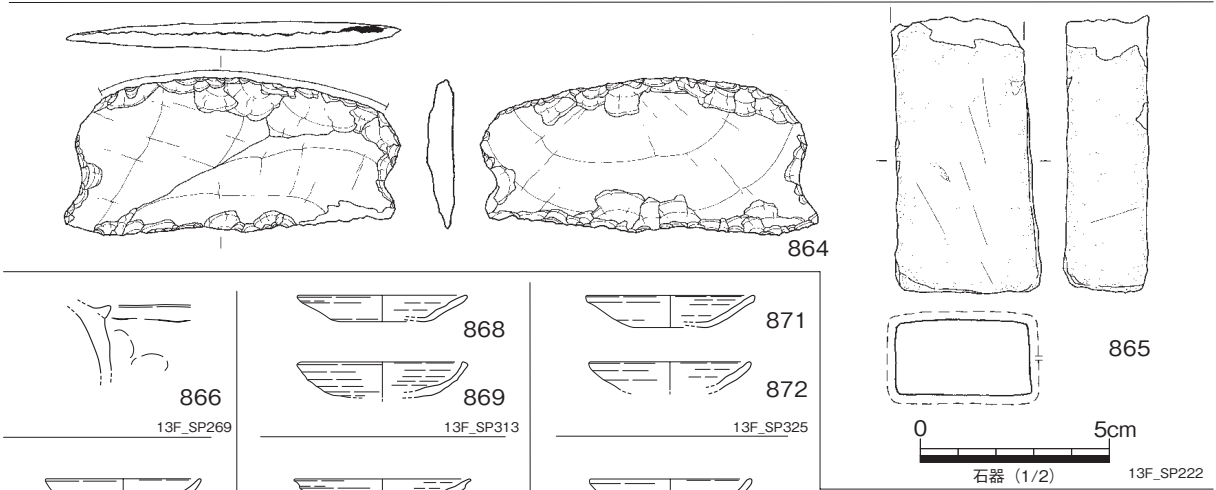
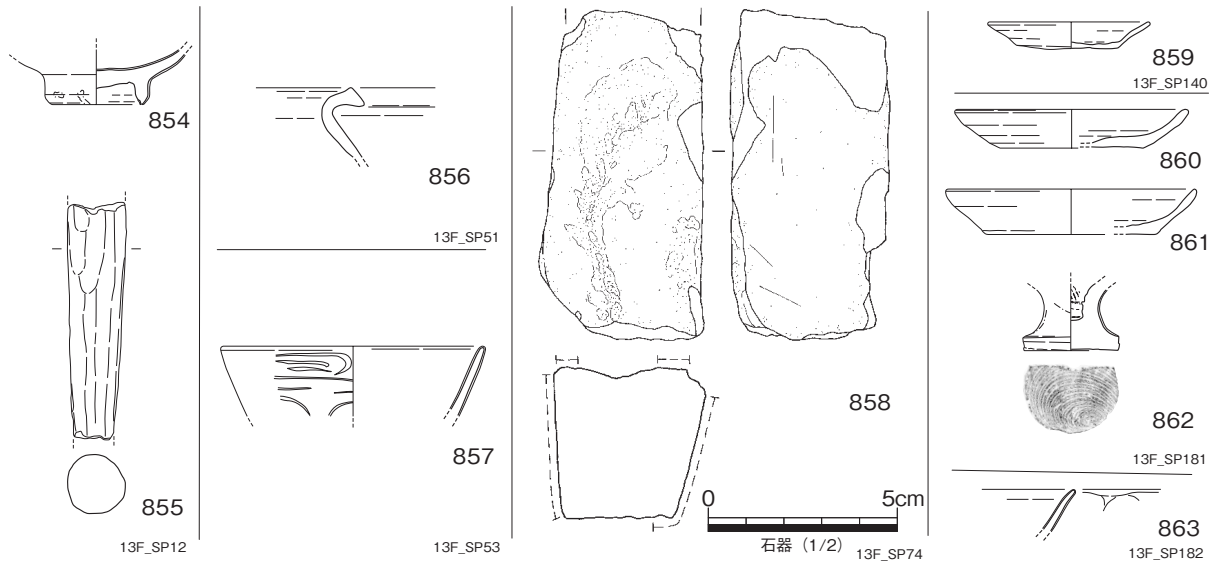
E15・E14・E13・F 12 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物を報告する。柱穴を多数検出し遺物が多量に出土しているのは、中世後半の屋敷地が所在する E13・F 12 区の柱穴である。E13・F 12 区からは足の踏み場もない程の高密度で柱穴を確認した。その数は、面積 2,544m²を測る E13・F 12 区で合計 2,537 基確認した。柱穴の密度が高いため、柱穴番号が混乱する可能性が出てきた。そのため、調査区内に設定しているグリッド単位に 01 から始まる柱穴番号を付すことにした。出土遺物からそのほとんどは中世以降の柱穴と考えられる。図化遺物の抽出に際しては、建物遺構の再検討の必要性を考慮して、可能な限り多めに抽出し報告することにした。

854 ~ 892 は E13 区の柱穴出土遺物である。出土した遺物をグリッドで細分すれば、854 ~ 879 は 13F グリッド、880 ~ 892 は 13E グリッドから出土した遺物である。E13 区の柱穴出土遺物は、少量弥生時代の土器及び石器や、中世前半 (12 世紀頃) に遡る資料も含まれるが、中世後半頃の資料が主体を占める。856 は弥生時代後期の甕、864・877・879 はサヌカイトの石庖丁・石鎌・石錐である。857・863・891 は青白磁の椀の資料で、863・891 は 12 ~ 13 世紀頃と考えられる。

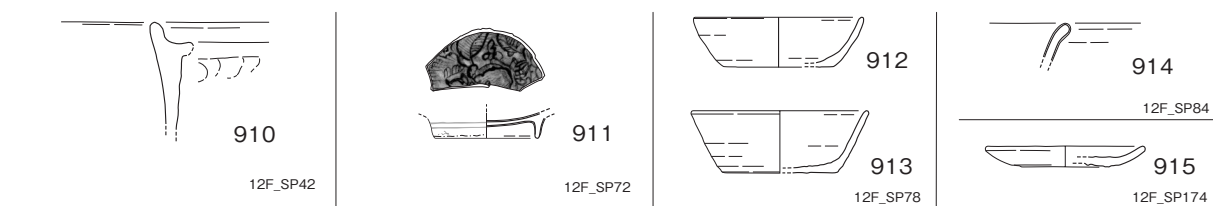
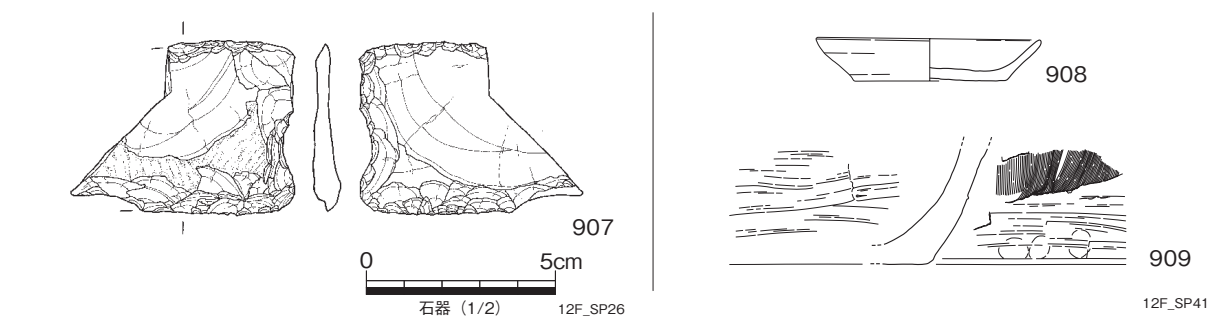
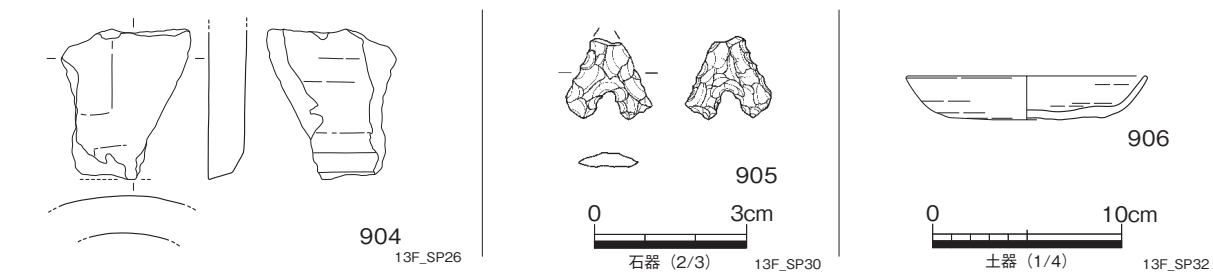
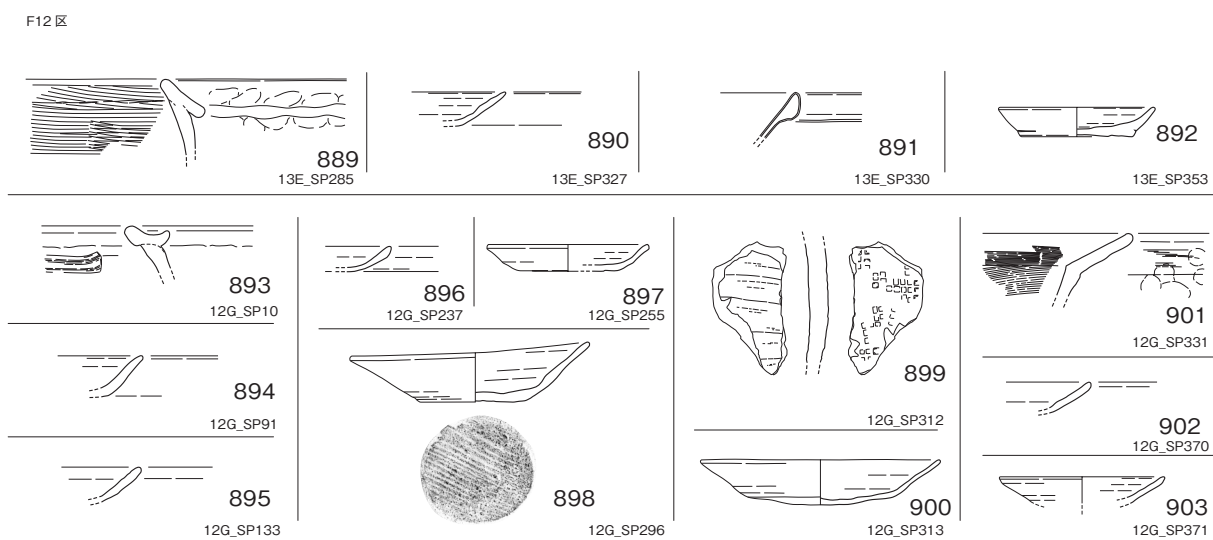
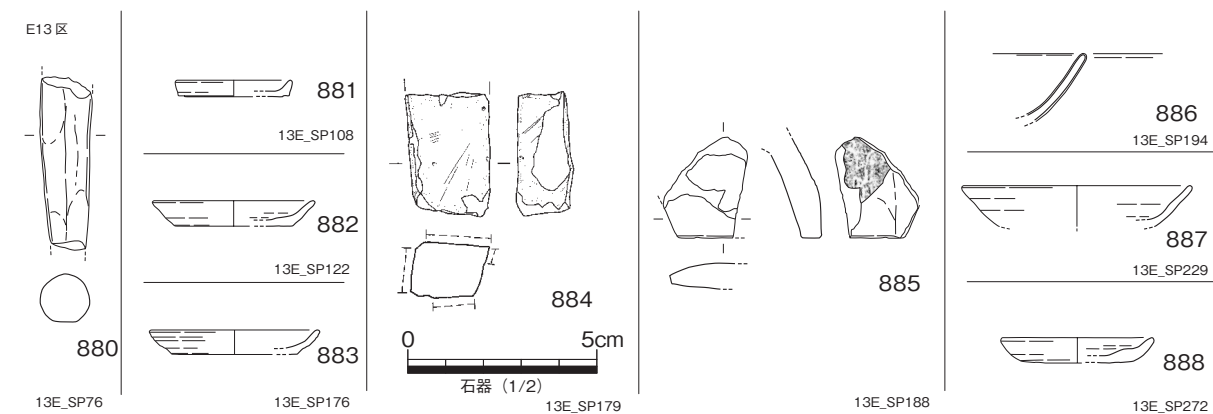
893 ~ 989 は F12 区の柱穴出土遺物である。出土した遺物をグリッドで細分すれば、893 ~ 903 は 12G グリッド、904 ~ 906 は 13F グリッド、907 ~ 960 は 12F グリッド、961 ~ 989 は 12 E グリッドの柱穴出土遺物である。F12 区の柱穴出土遺物は E 13 区同様、少量弥生時代の土器及び石器や中世前半



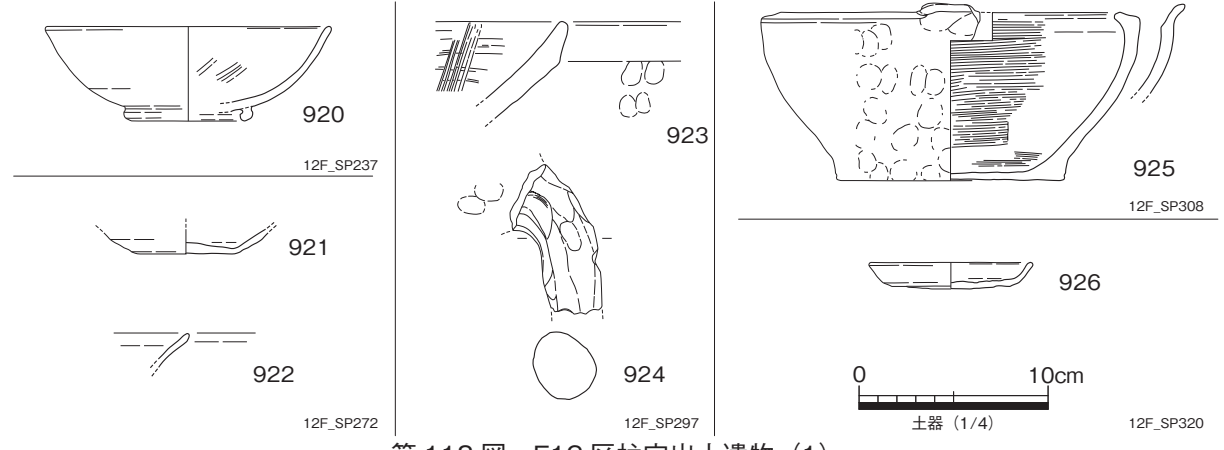
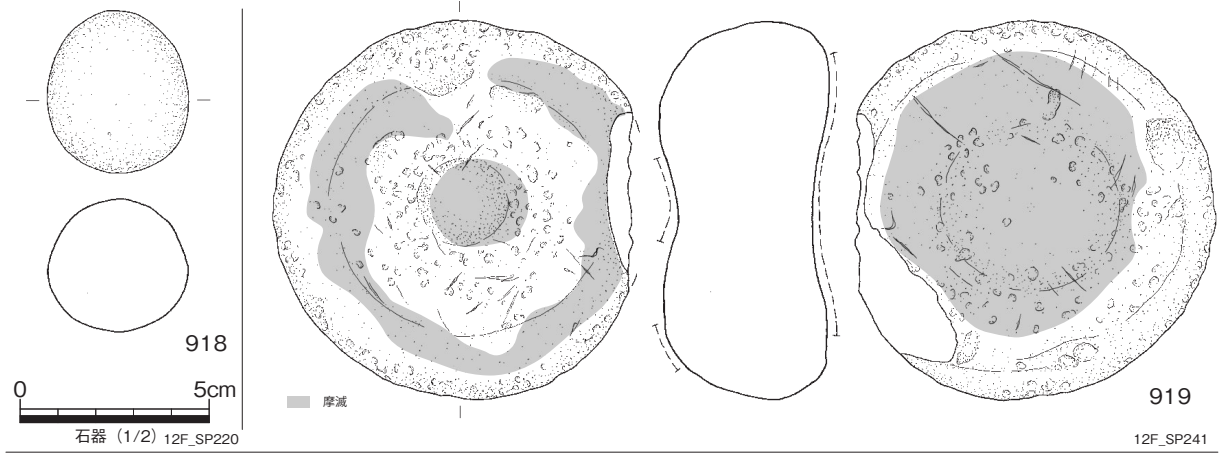
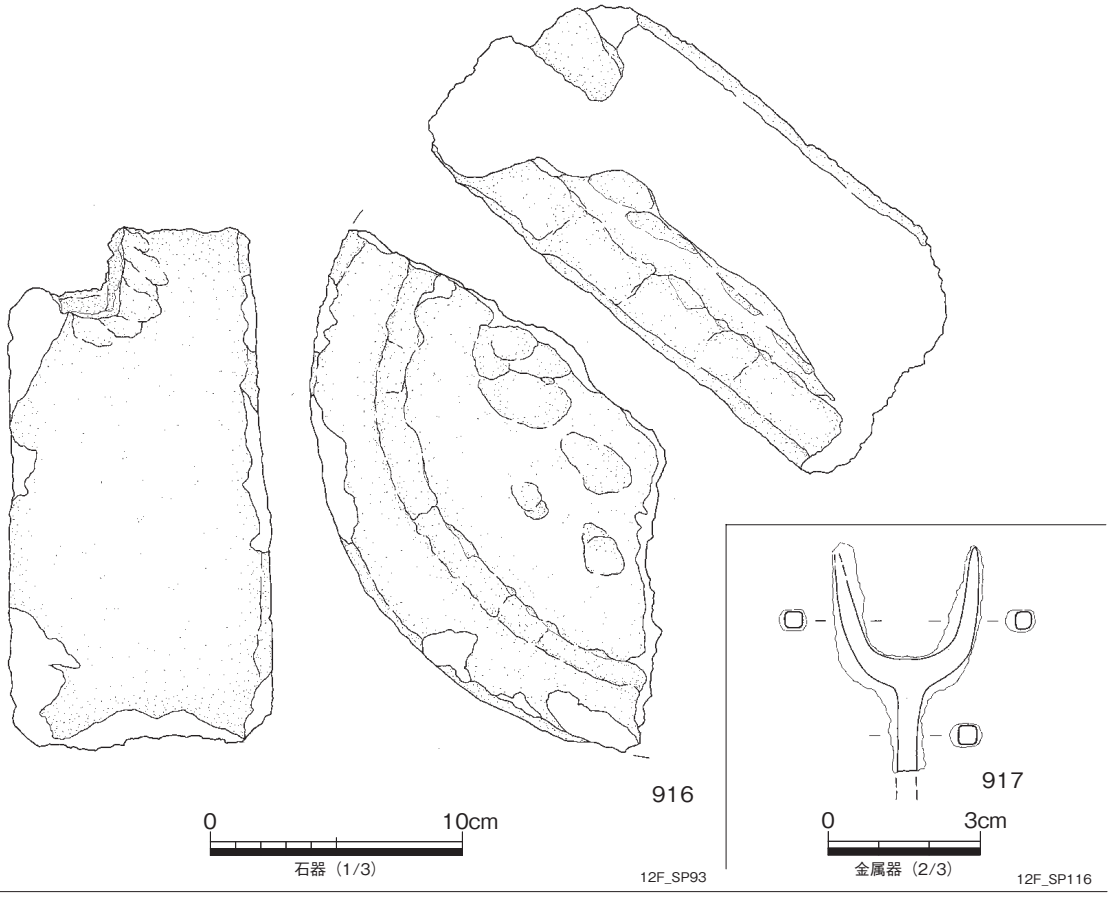
第 115 図 E13・F12 区遺構配置図



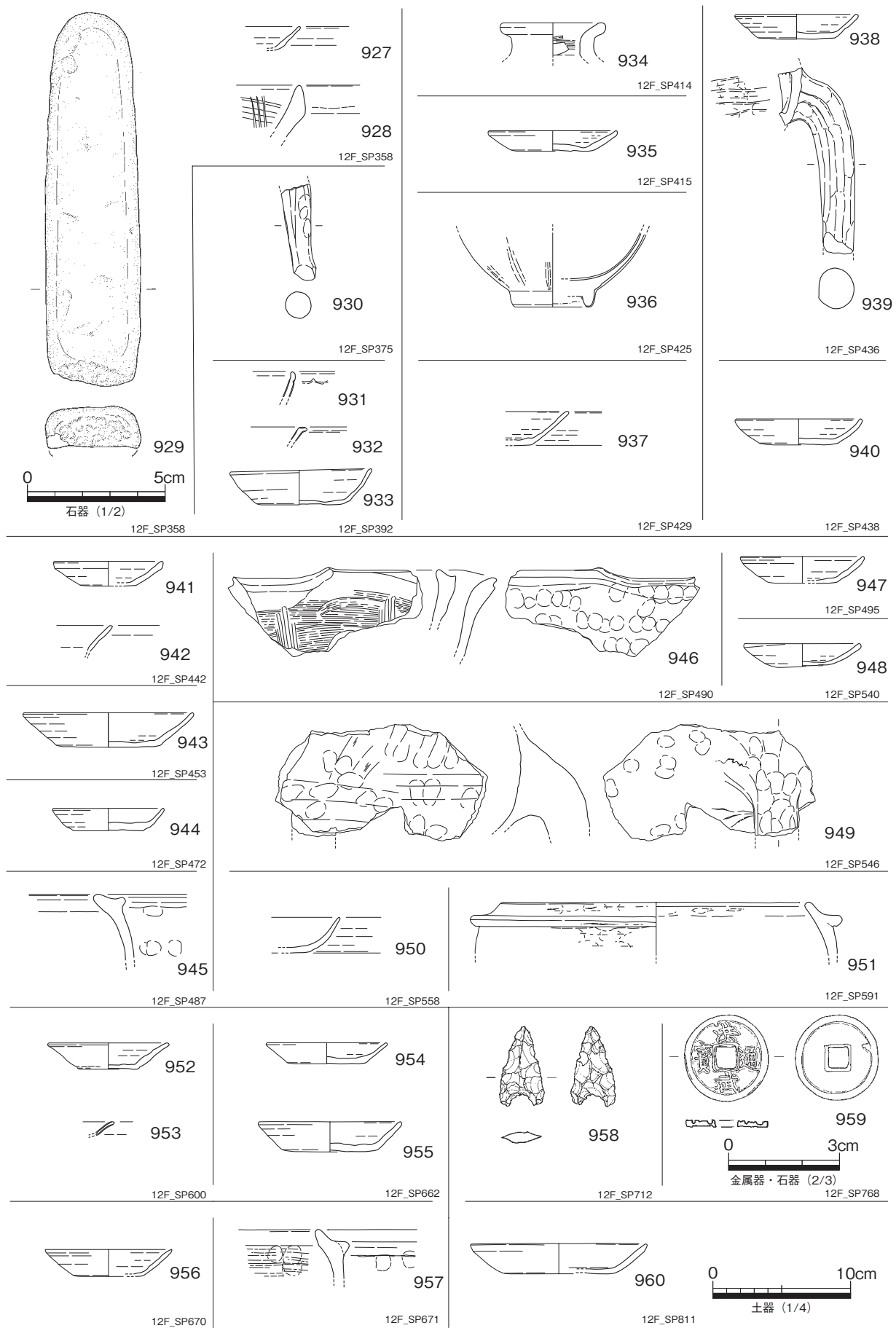
第 116 图 E13 区柱穴出土遺物



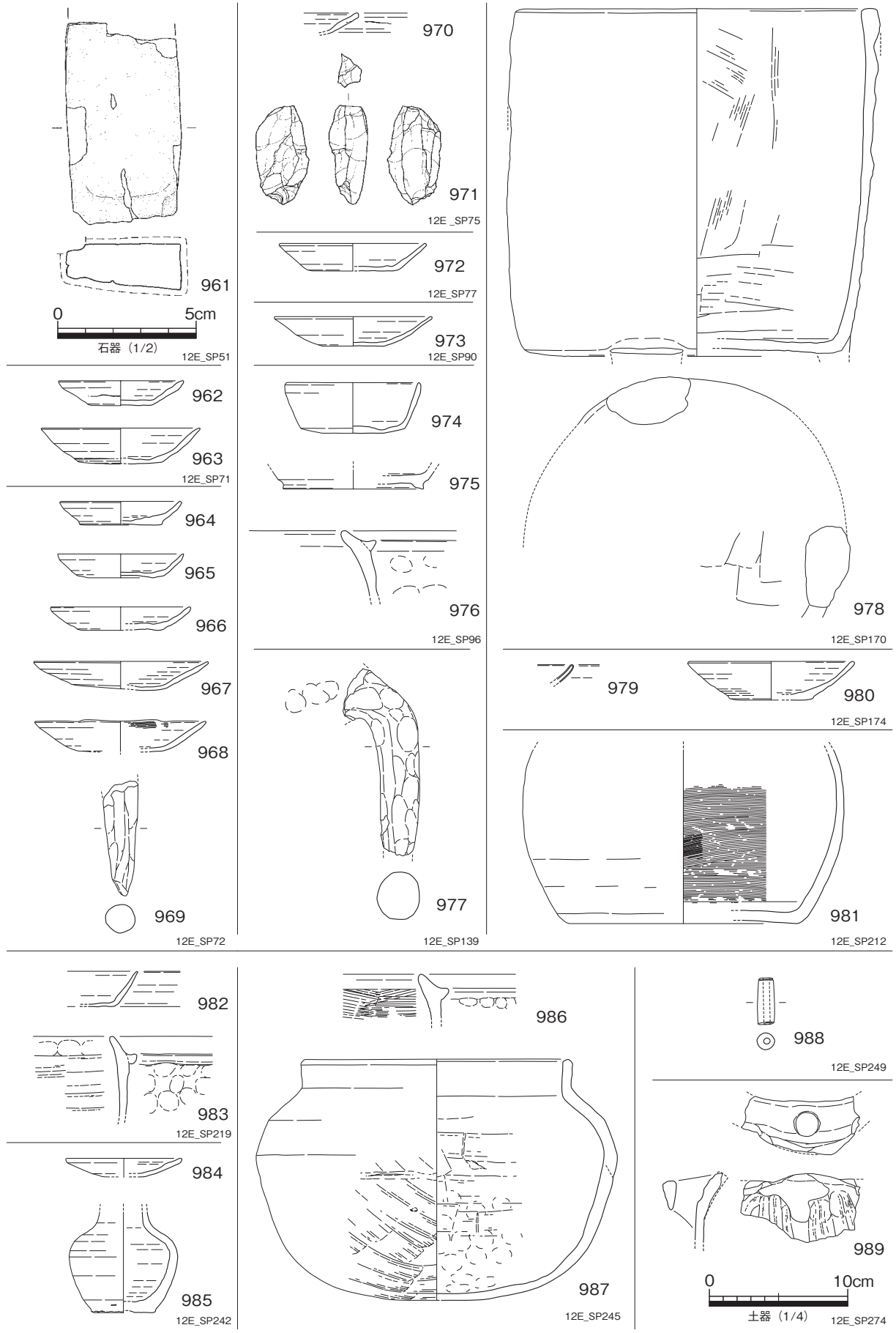
第117図 E13・F12区柱穴出土遺物



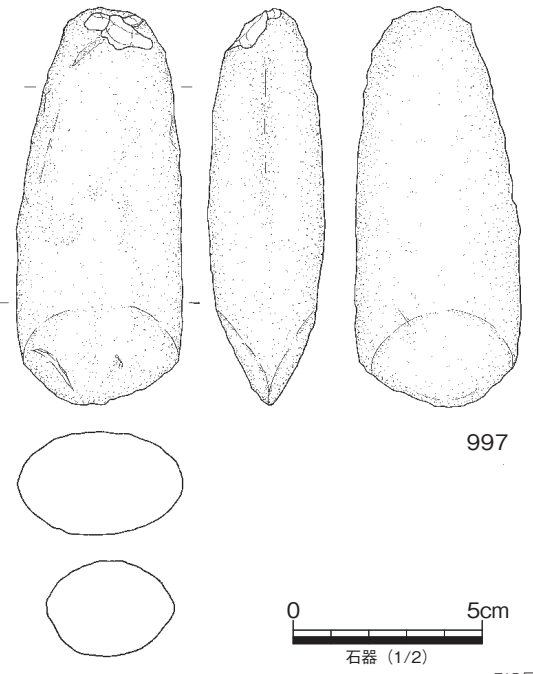
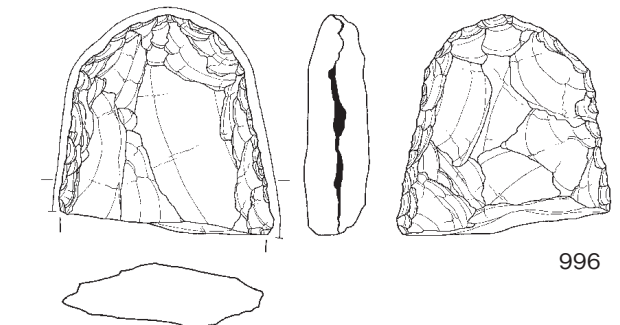
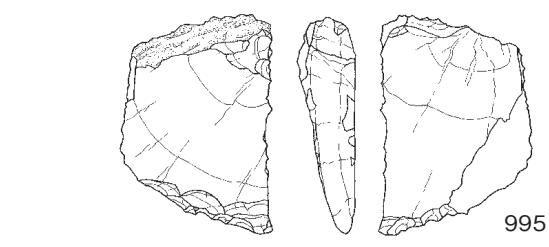
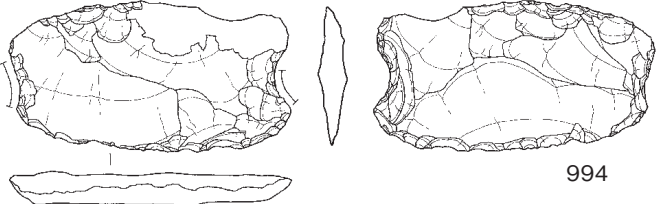
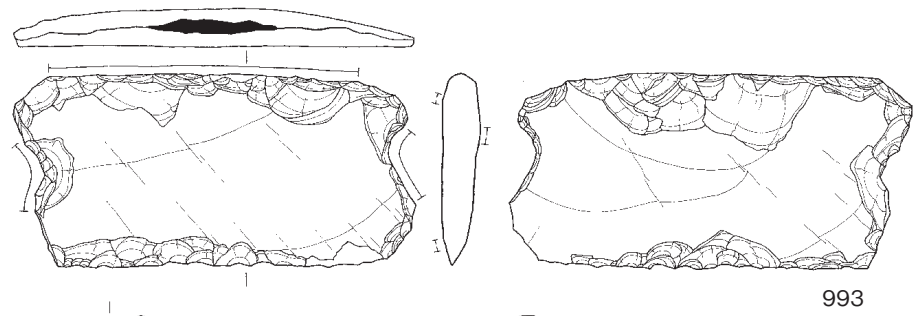
第 118 図 F12 区柱穴出土遺物 (1)



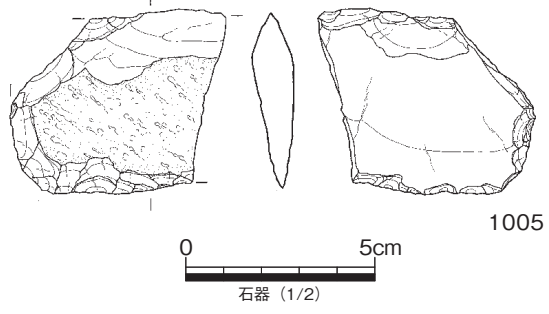
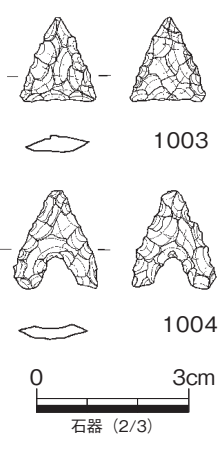
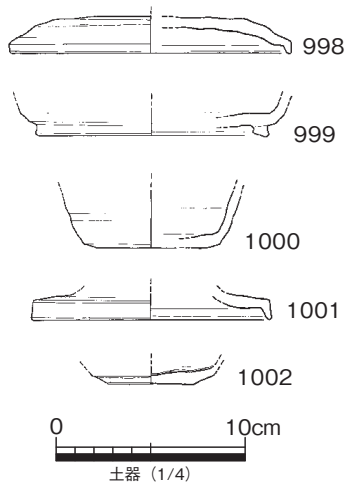
第 119 图 F12 区柱穴出土遗物 (2)



第 120 図 F12 区柱穴出土遺物 (3)

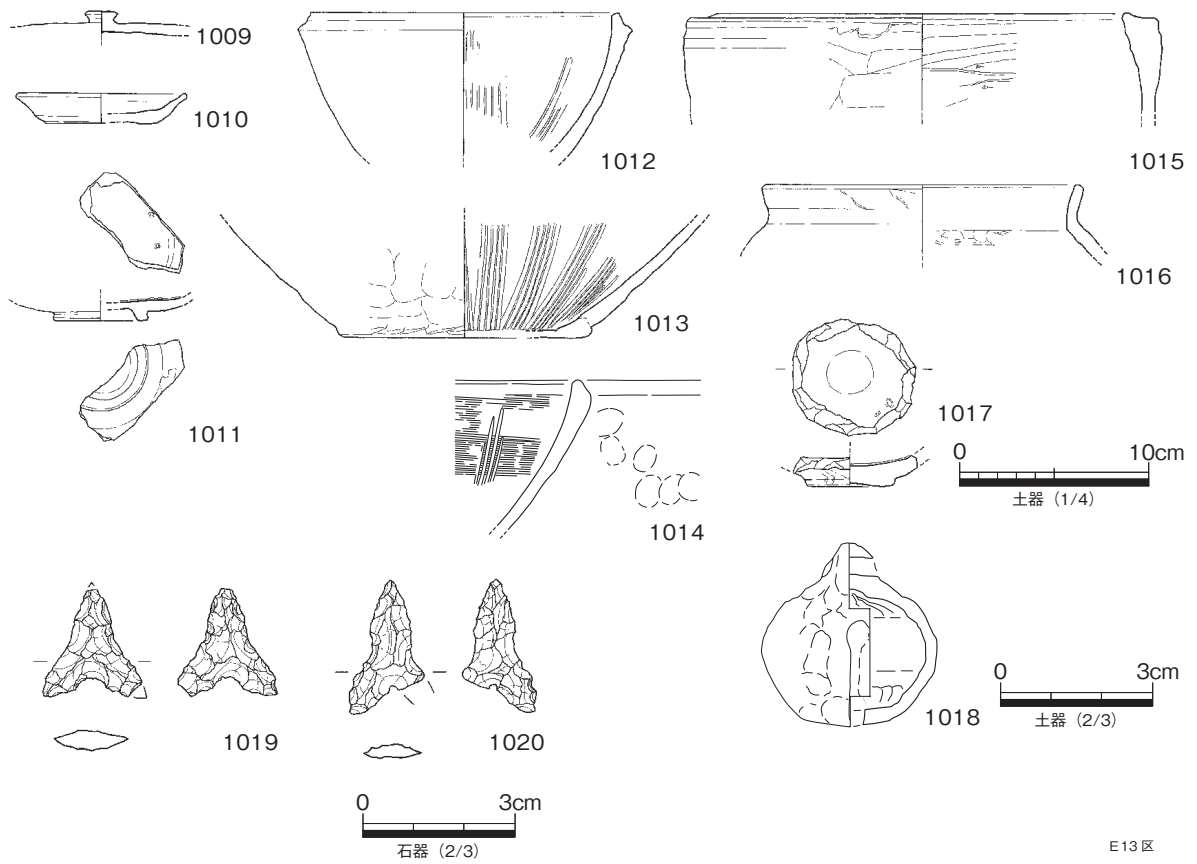
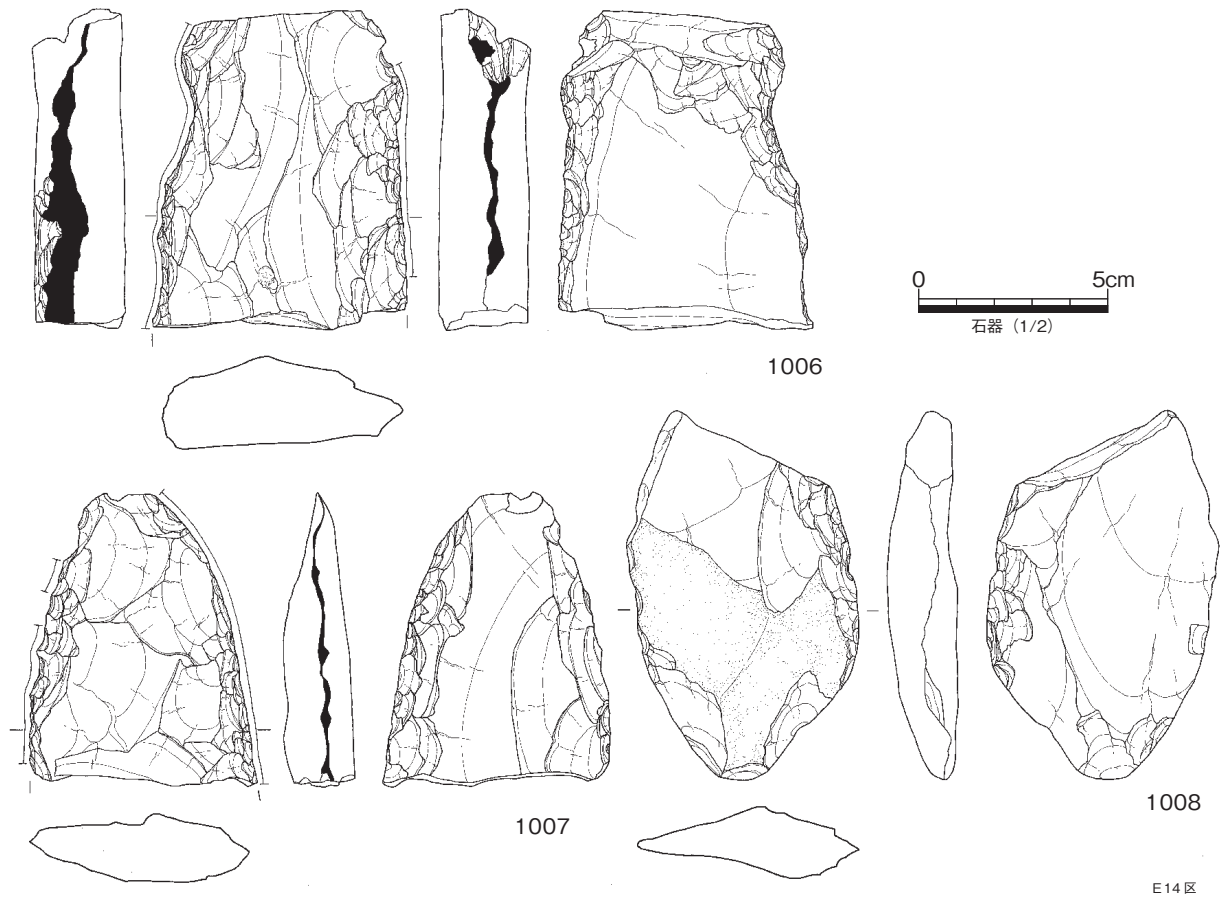


E15区

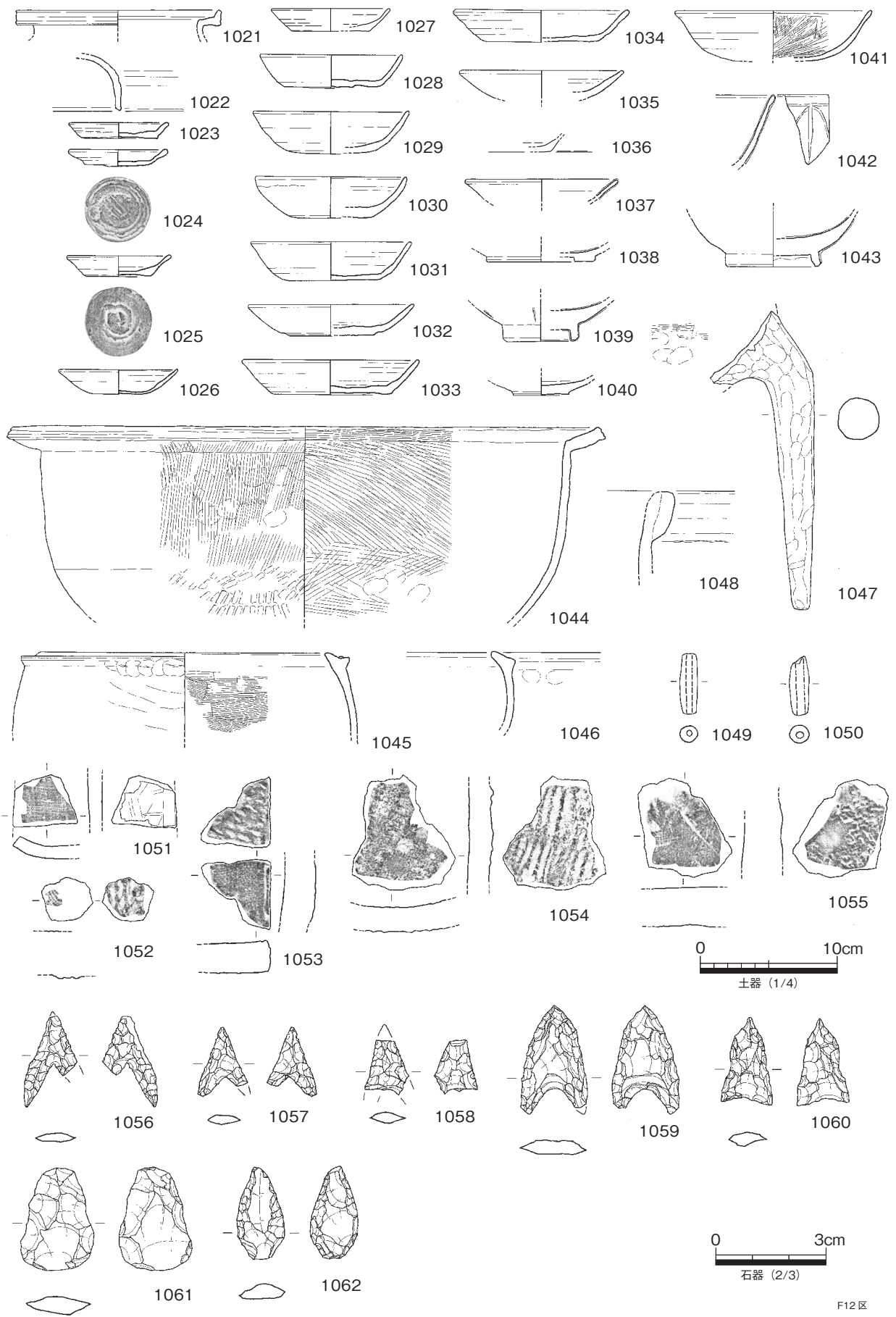


E14区

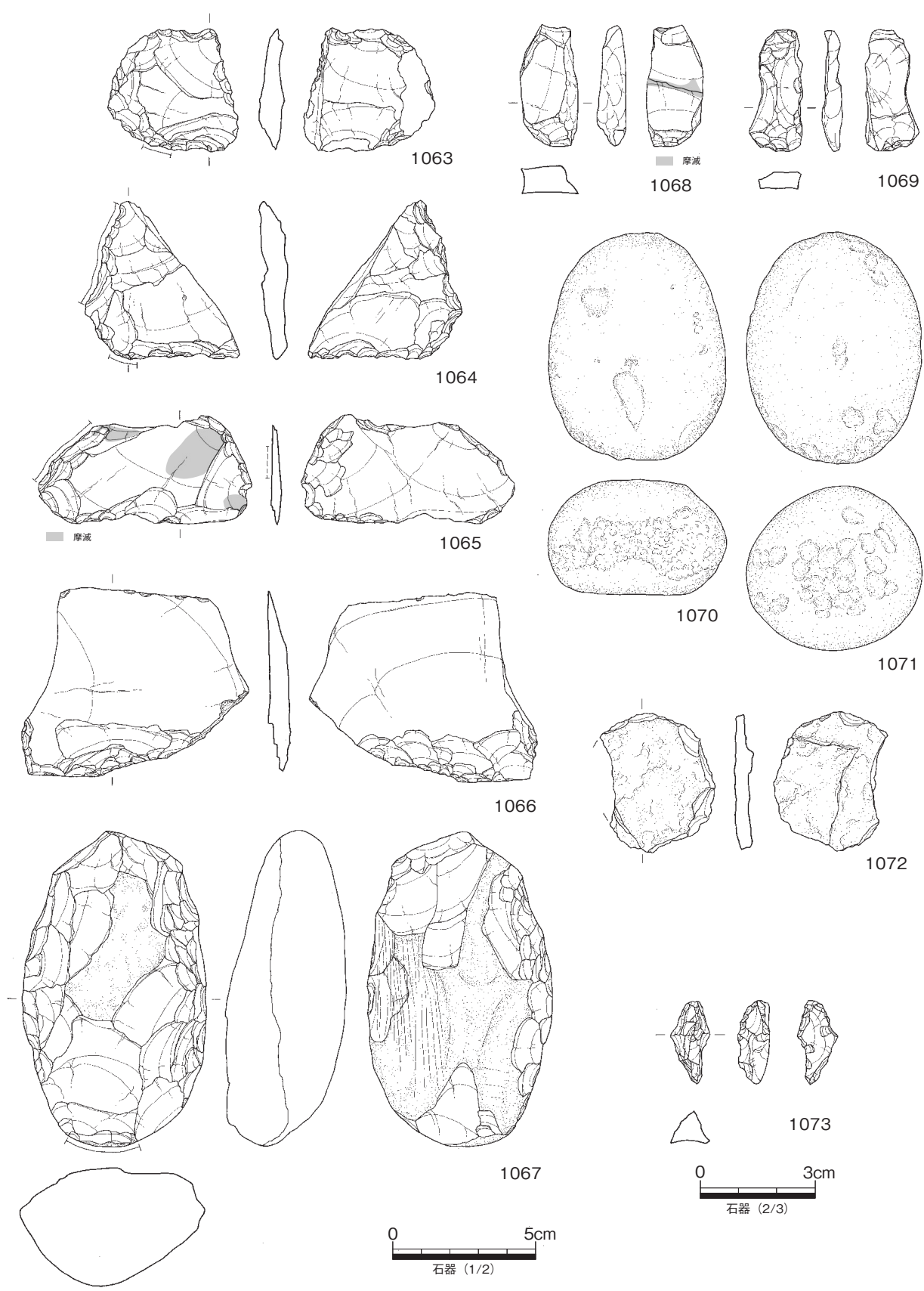
第 121 図 E15・E14 区包含層出土遺物



第 122 图 E14·E13 区包含層出土遺物



第123图 F12区包含层出土遗物(1)



F12区

第124图 F12区包含層出土遺物(2)

(12世紀頃)に遡る資料も含まれが、中世後半～近世初頭頃の資料が主体を占める。905・907・958はサヌカイトの石鎌・石庖丁である。959は輸入銭貨で「洪武通宝」である。971は長石の楔形石器、916は凝灰岩製の石臼である。920は12世紀頃の黒色土器の椀で中世前半の資料である。

(5) 包含層出土遺物 (第121～124図)

E15・E14・E13・F12区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

990～997はE15区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。990は土師器杯、991は須恵器杯、992は須恵器壺の高台付底部である。993～997は石器の資料である。993・994はサヌカイト打製石庖丁である。995は横長剥片のエッジを刃部にした削器である。996は打製の石鎌の基部にあたり、エッジには潰れ痕が顕著に認められる。997は砂岩製で小型の大型蛤刃石斧である。

998～1008はE14区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。998～1001は須恵器の資料である。998・999は8世紀頃の杯蓋及び高台付杯の底部である。1001は7世紀頃の高杯脚部片である。1002は青磁皿である。1003～1008はサヌカイトの石器の資料である。1003・1004は石鎌である。1005は石庖丁片である。横長剥片を素材に用い、側縁に調整を加え長方形状に仕上げたものである。1006・1007は石鎌ないし石斧である。肉厚な大型剥片を素材に用い、側縁部から調整を加えているが、素材の分割面を広く残しており、その形状から素材が横長状の剥片であることが解る。エッジには潰れ痕を顕著に残している。1008は横長状の大型剥片に調整を加えた石器であるが、形状から未製品と考えられるため、二次加工ある剥片に分類した。

1009～1020はE13区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1009は8世紀頃の須恵器杯蓋である。1010は土師器杯、1011は緑釉の皿である。1012～1014土師器播鉢、1015は土師器土釜の口縁部、1016は土師器壺の上半部である。1018は土師質の土鈴である。出土例が少なく希少な遺物である。1019・1020はサヌカイトの石鎌である。

1021～1073はF12区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1021は弥生時代後期後半以降の甕口縁部である。直立気味の口唇部外面には退化凹線が二条認められる。1022はTK10並行期頃の須恵器杯蓋片である。1023・1024は土師器小皿、1025～1036は土師器杯である。1037～1040は施釉陶器の皿と椀である。1041は高台部を欠く須恵器椀、1042・1043は青磁椀である。

1044～1046は底部を欠く土師器鍋、1047は土師器足釜の脚部である。1049・1050は土師質管状土錘、1051～1055は平瓦の小片である。消耗しているが、表裏面ともに布目・縄目のタタキ痕を残している。1056～1062はサヌカイトの石鎌の資料である。1056～1059・1062は凹基式で、1056は形状から縄文時代の石鎌と考えられる。1061は形状から石鎌の未製品と考えられる。1063～1066はサヌカイトの削器である。いずれも横長剥片を素材に用いた削器で、1063・1064等は破損品である。1065には摩滅痕が部分的に認められる。1066は削器にしたが、交互剥離状の剥離痕が認められ石核の可能性もある。1068・1069は形状から楔形石器の削片に分類した。1067は安山岩の円礫を素材にした石斧である。表面には使用痕と考えられる直線状の痕跡が複数認められる。1070・1071は花崗岩と砂岩の円礫を素材にした敲石である。上下両端部には敲打痕が認められる。1072は結晶片岩を素材にした円盤状石製品である。1073は緑色頁岩の二次加工ある剥片であるが、本来は何らかの石器の調整剥片と考えられる。

(参考文献)

- 田辺 昭三 1966「陶邑古窯址群Ⅰ」平安学園考古学クラブ
- 香川県教育委員会 1976『末則古墳調査概要』
- 菅原康夫 1991「遺物をもたない遺構 ―伏焼木炭窯に関する予察―」『徳島県埋蔵文化財センター年報 V o l . 2』財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 中世土器研究会 1995『概説 中世土器・陶磁器』真陽社
- 松本和彦 2001「第4節炭焼き窯について」『国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会 2005「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』
- 香川県教育委員会 2007『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末則遺跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末則遺跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末則遺跡Ⅳ』

第V章 E調査区の調査

第1節 E調査区の概要・基本層位

1. 概要

E調査区は平成14・16・17年度に発掘調査を実施した西末則遺跡の南半部にあたる調査区である。調査区は東辺の末則丘陵から南西方向に広がる段丘面上に立地し、南北約120m、東西約100mを測る調査区である。E調査区の整理作業は平成16・25年度に部分的に実施した。平成16年度はD7・B6区の整理作業を実施し、A・B調査区の調査成果を含め『西末則遺跡Ⅰ』として報告した。平成24年度はG10・G8区の整理作業を実施し『西末則遺跡Ⅳ』として報告している。

今回の整理作業ではE調査区の残された地区の整理を実施したが、対象地はかなり広いため報告の都合上、北半部と南半部に分けて報告することにした。北半部はC9・E10・E9e・E9w区、南半部はF7・E6・F6・B5区にあたる。

段丘面上には綾川から派生する弥生時代後期後半～古墳時代前期、古代以降の複数の小流路と、末則丘陵方面から流下する谷状の小流路が交差しており、それらの流路が埋没し平坦化した後に河川周辺や上面に集落の居住域が広がる。

縄文～弥生時代のものは河川中からの出土遺物と大型土坑等の資料があるが、住居等はみられず、この時期の集落の中心は周辺域に広がるものと考えられる。

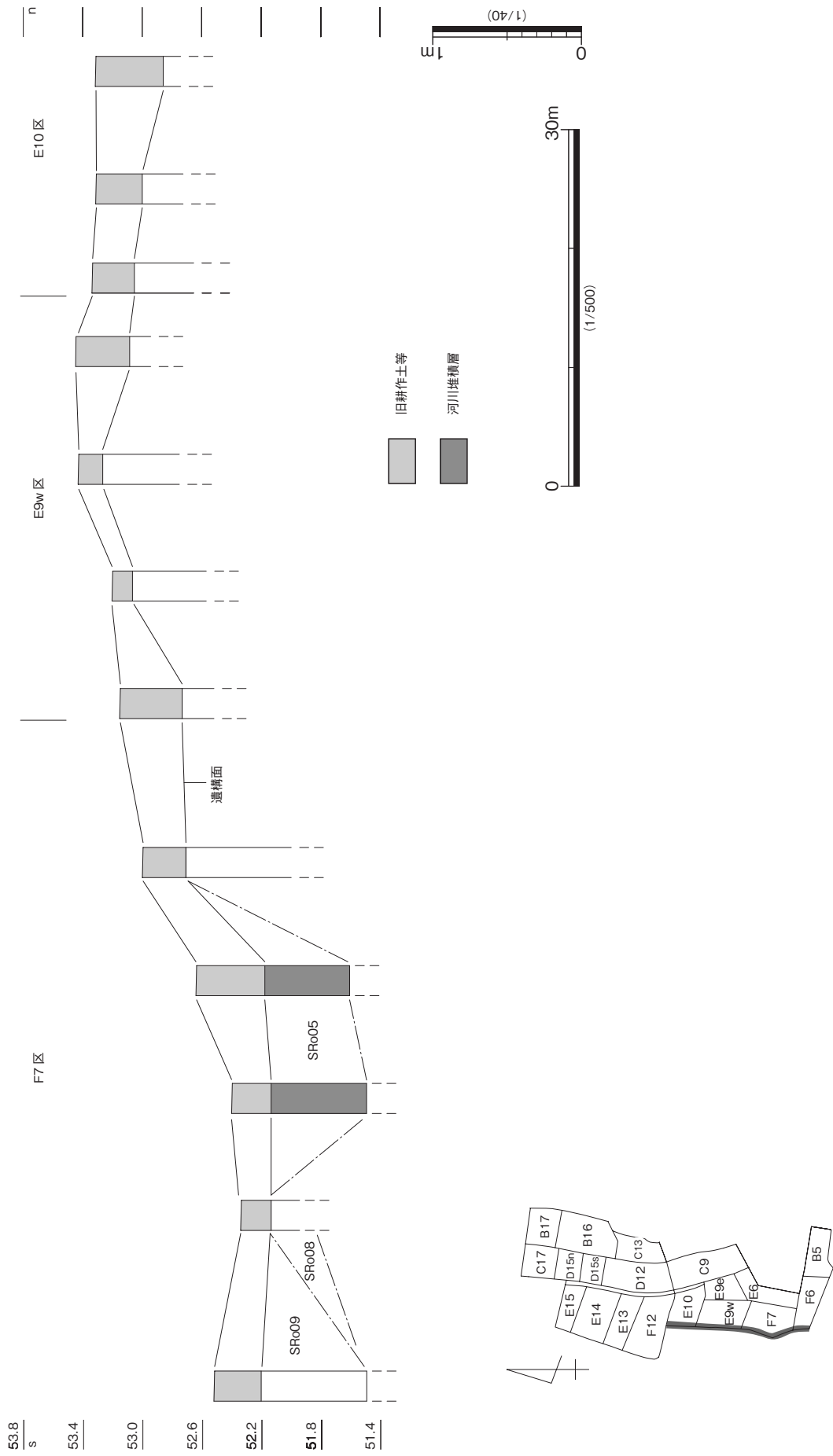
古代の主な遺構としては建物、土坑、溝状遺構が少数分布するが、段丘を東西に横断する幅広の河川からは古代の遺物が比較的多量に出土している。注目できる出土遺物として、E6区出土の陶印があげられる。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり、県下でも事例はあるが希少な資料である。なお、既に先の報告書で紹介しているが（註1）、周辺からは帯金具や蔵骨器が出土しており、西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になっている。

中世以降の遺構・遺物はほぼ全域から検出しているが、特に北半部のE10、南半部のF6区からは中世後半～近世初頭頃の集落域を検出した。E10区は比較的柱穴の密度が高く、北村用水を挟んで北に位置するF12区や西のJ4区同様に居住域の中心地にあたるものと考えられる。

2. 基本層位

E調査区は末則丘陵裾部から西方へ続く段丘面上に位置する調査区である。調査区内には弥生時代～古代に至る複数の河川を検出し、その河川間の微高地や河川が埋没した後の河川上面に古代～中・近世の集落が広がる。

E10・E9w・F7・F6区の西壁をもとに、南北方向の基本層位の柱状図を作図した。調査前の旧状は全面農地で、北端にあたるE10区の地表面の標高は約53.3m、E9w区北半部53.5m、E9w区の南半部からは地表は下がり、F7・F6区52.5～53.1mを測り、南に向けて傾斜している事が解る。ベースは北半部のE10・E9w区周辺は礫混じりの黄褐色系粘質土～シルト、南半部のF7・F6区周辺は河川堆積層をベースにしているため、暗褐色系の細砂～粘性細砂等がベースになる。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、北端にあたるE10区の遺構面の標高は約53.0m、E9w区北半部53.2m、E9w区の南半



第 125 図 F7・E6・D7 区遺構配置図

部からは、自然河川 SRo04・05 が東西方向に流下するため遺構面は下がり、F7・F6 区 52.7～52.2 m を測り、地表面同様、南に傾斜している事が解る。なお、南端部の F6 区の自然河川上面では比高差 0.2 m 程ではあるが遺構面を 2 面確認し上層遺構面を第 1 遺構面、下層遺構面を第 2 遺構面と呼ぶ。

第 2 節 E 調査区の遺構・遺物

1. C9・E10・E9e・E9w 区

(1) 縄文時代～弥生時代の遺構・遺物

土坑

SKo06 (第 127 図)

E9e 区南東端部で検出した大型土坑である。南壁沿いで約 1/2 を検出した。平面は不整形円形状を呈し、長径 3.8 m、短径 1.0 m 以上、深さ約 0.5 m を測る。埋土上層は淡黒褐色粘質土、下層は暗灰褐色粘質土からなる。

埋土からは弥生時代後期後半以降の弥生土器及び石器等の資料が比較的まとまって出土した。1074・1075 は甕で体部は長胴気味で平底を僅かに残す。口縁部は「ハ」の字状に開き、端部は丸く仕上げている。1076・1077・1078 は鉢、1079 は台付鉢の底部である。1080 はサヌカイトの大型剥片を素材に用い、側縁部に調整を施した削器である。出土遺物から SKo06 は弥生時代後期後半新相以降に埋没した大型土坑と考えられる。

溝状遺構

SDo00 (第 128 図)

C9 区南端部で検出した概ね北西方向へ延びる溝状遺構で、SDo01 と並走しており、北半部では SRo01 と合流するが、明瞭な切り合いは認められない。なお、この溝状遺構は B6 区の SDa13 と連続する溝状遺構である。検出長約 9.5 m、幅約 4.0 m 以上、深さ約 0.35 m を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土上層は灰黄褐色砂質土、下層は暗灰黄色砂礫からなる。

埋土からは弥生時代中期中葉、後期初頭、後期前半頃の弥生土器が少量出土した。1081・1082 は後期前半頃の広口壺の口縁部と高杯脚部の上半部である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断はできないが、この遺構は概ね後期前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

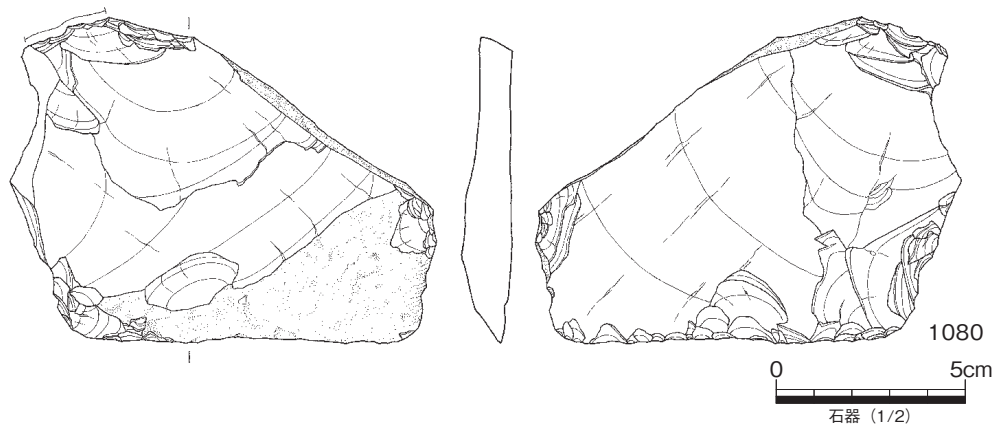
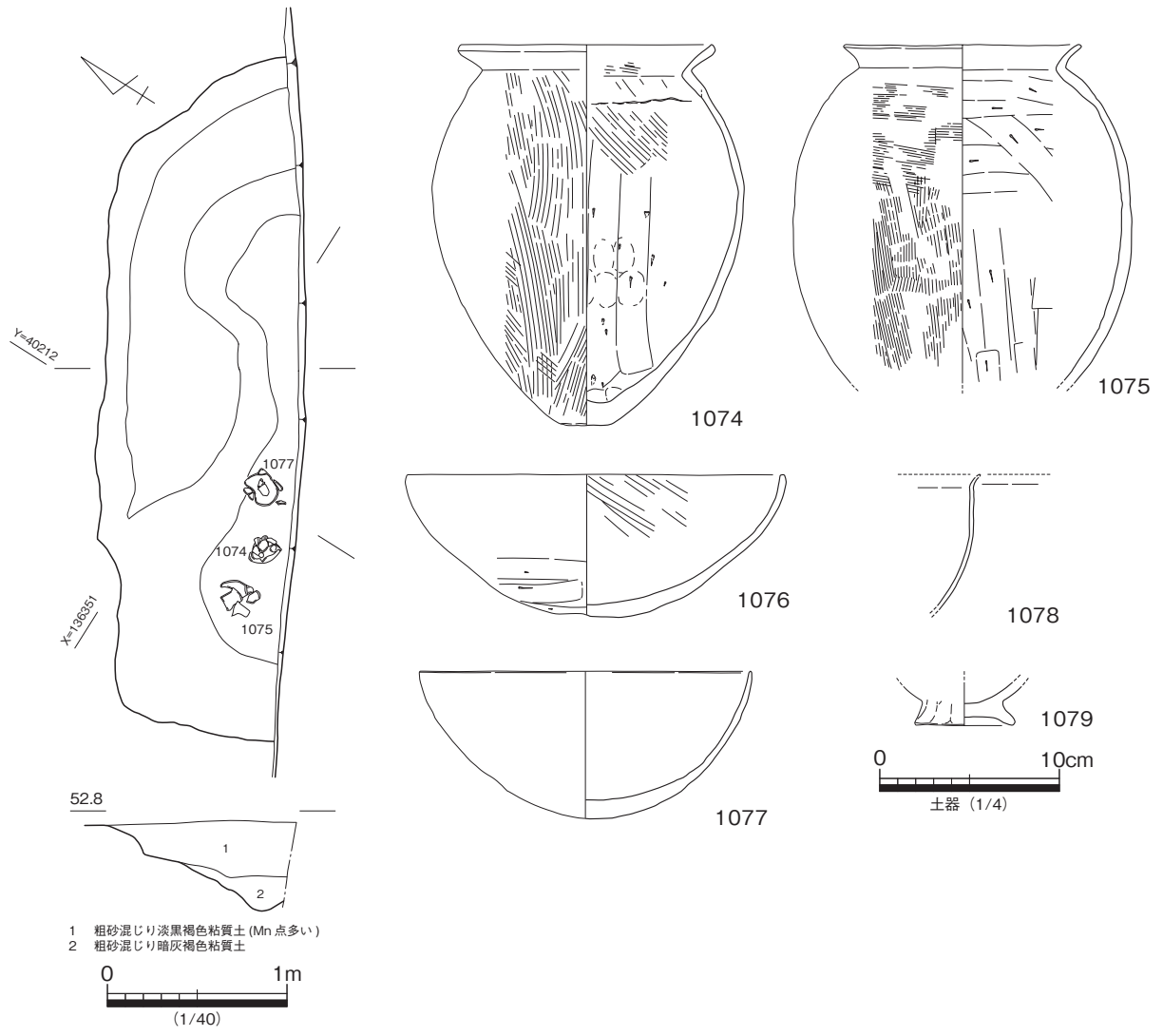
SDo01 (第 128 図)

C9 区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の溝状遺構である。SRo01 と重複し、前後関係としてはこの溝は SRo01 より後出する。検出長約 11.0 m、幅約 2.5 m、深さ約 0.4 m、主軸方位 N58° W を測る。断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈し、上層は褐灰・黒褐・黄灰色等の砂混じり粘土、下層は灰色砂礫層からなる。

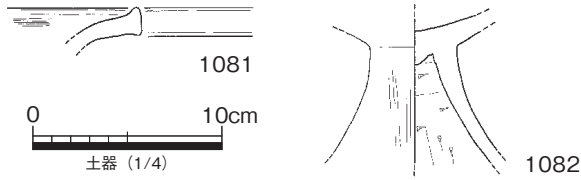
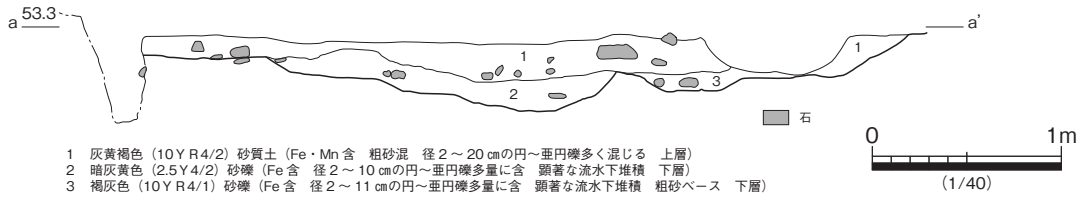
埋土からは弥生土器、石器が出土した。1083～1098 は弥生時代後期前半の土器で、1083・1084 は長頸壺、1085～1088 は広口壺である。1092・1093 は鉢の底部であるが、1093 は壺の可能性もある。1094～1096 は高杯の杯部と脚部片である。1097 はサヌカイトの石鏃で、1098 はサヌカイトの横長状の剥片である。出土遺物から SDo01 は弥生時代後期前半新相～後期後半古相以降に埋没した溝状遺構と考えら



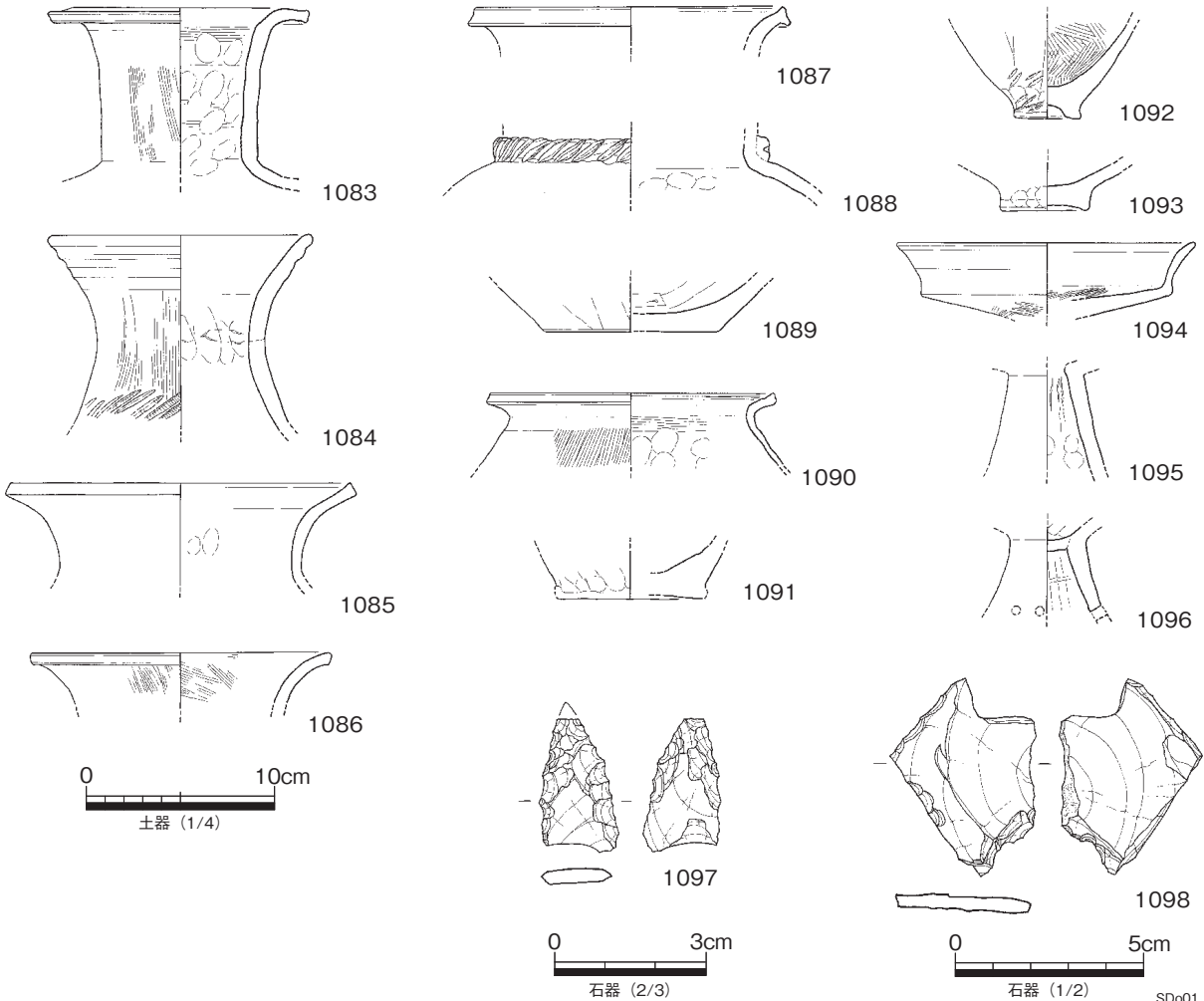
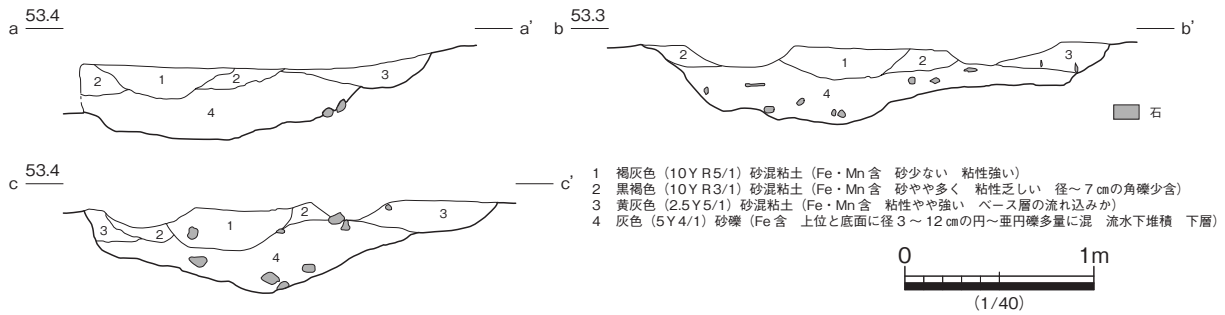
第 126 図 C9・E10・E9e・E9w 区遺構配置図



第 127 図 SKo06 平・断面図, 出土遺物

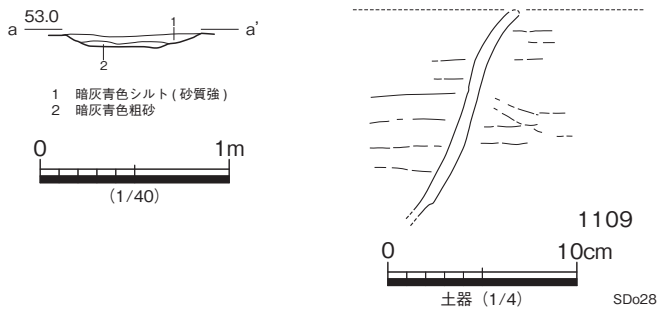
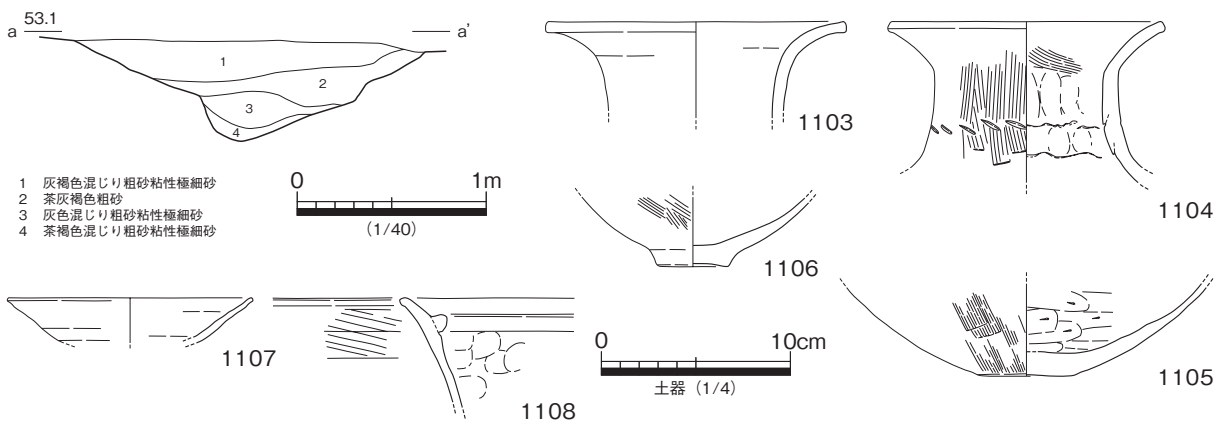
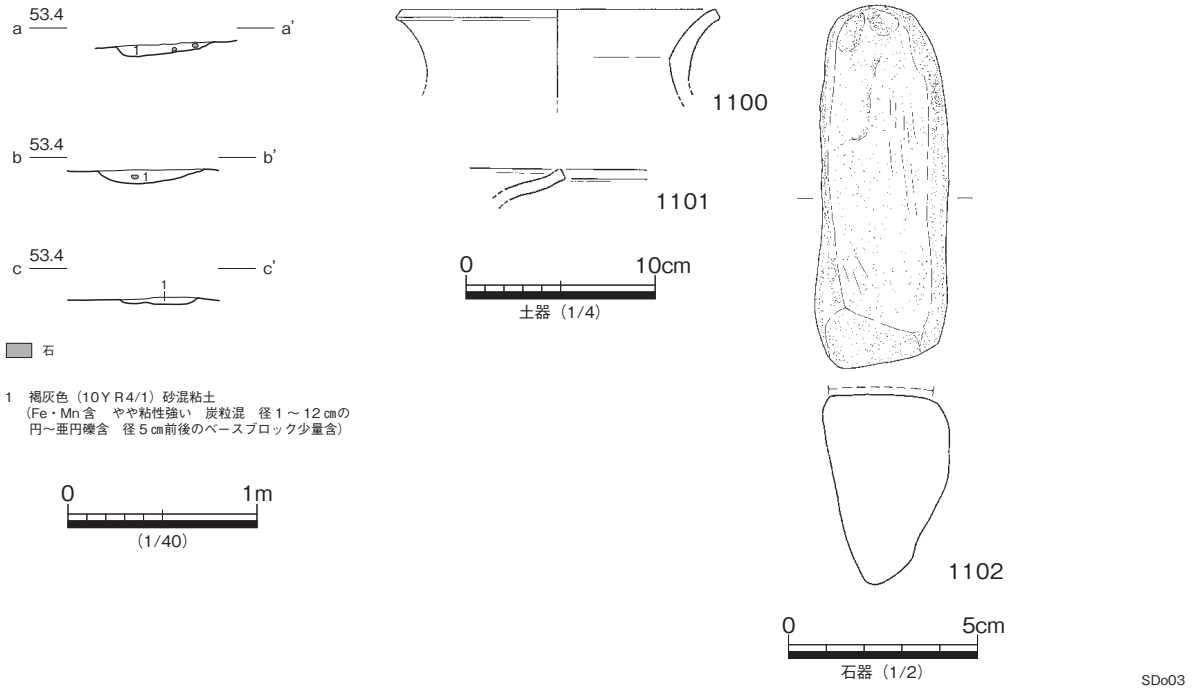
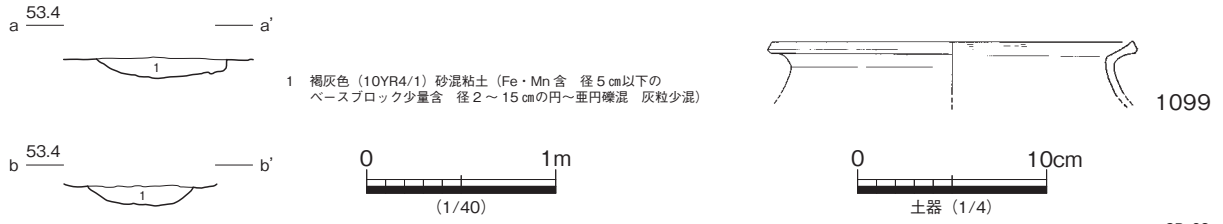


SDo00



SDo01

第128図 SDo00・01 断面図, 出土遺物



第 129 図 SDo02・03・14・28 断面図, 出土遺物

れる。

SDo02 (第 129 図)

C9 区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SDo01 の上面で検出した 2 条の小溝の一つで、検出状況から SDo01 より後出する。検出長約 13.0 m、幅 0.6 ～ 0.7 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N60° W を測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは弥生時代後期前半頃の土器片が少量出土した。1099 は甕の口縁部片である。

SDo03 (第 129 図)

C9 区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SDo01 の上面で検出した 2 条の小溝の一つで、検出状況から SDo01 より後出する。検出長約 16.3 m、幅 0.4 ～ 0.6 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N59° W を測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは弥生時代後期前半頃の土器片が少量出土した。1100 は直口壺の口頸部、1101 は甕口縁部片である。1102 は棒状の砥石である。出土遺物が少なく SDo03 の詳細な時期については問題を残すが、SDo01 同様弥生時代後期以降に埋没した溝状遺構の可能性が高い。

SDo14 (第 129 図)

E10 区中央、概ね南北方向であるが僅かに西に振る溝状遺構である。SDo15・17・20・24 と重複し、全ての溝より先行する。検出状況から F12 区の SDe39、E9e 区 SDo29、C9 区の SDo00・01 等と連続する溝状遺構の可能性が高い。検出長約 18.0 m、幅 1.0 ～ 1.7 m、深さ約 0.5 m を測る。断面は凹凸のある不整形な V 字状を呈し、埋土は灰褐色～茶褐色系の細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器等が出土した。上下層とも弥生時代後期後半新相頃の土器が主体を占めるが、中世の土師器・須恵器が混じるということは、弥生時代に溝を掘削し埋没した後に、中世頃に改修された可能性がある。1103～1106 は弥生土器壺である。1103・1104 は広口壺の口頸部である。1105 は壺底部で僅かに平底を残す。1107 は底部を欠く土師器杯、1108 は土師器足釜の口縁部片である。

SDo28 (第 129 図)

E9e 区中央、SRo03 と SDo29 が重複する地点付近に位置する。SRo03 の東岸へ合流する短い溝状遺構である。検出長約 6.5 m、幅約 0.7 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土上層は暗灰青色シルト、下層は暗灰青色粗砂からなる。

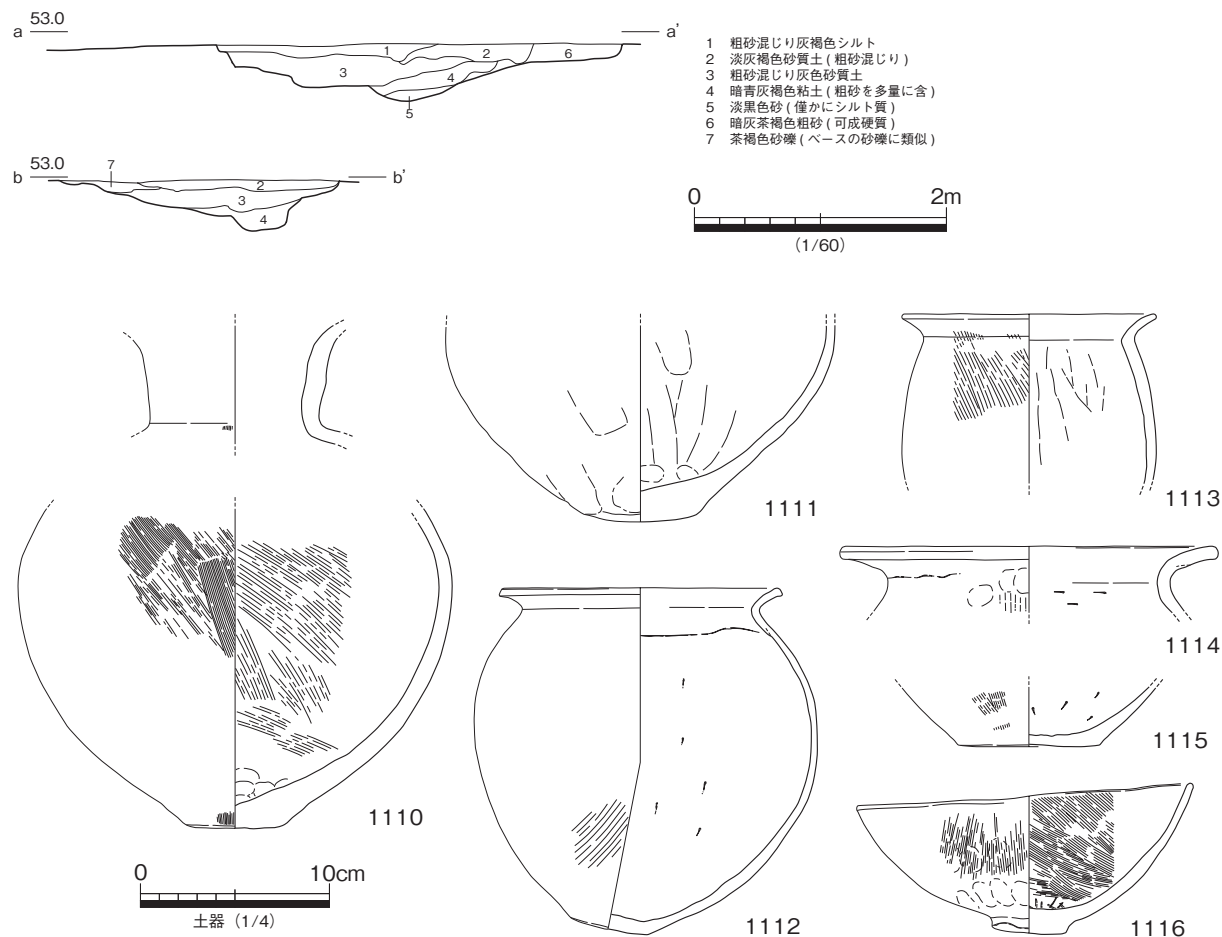
埋土からは縄文時代晩期頃の浅鉢片が出土している。1109 は浅鉢片である。磨滅が著しいが、条痕文が僅かに認められる。

SDo29 (第 130 図)

E9e 区北半部、SRo03 を切り込んで北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。この溝跡はかなり広範囲で確認している溝状遺構で、南端から北端にかけての繋がりでは、C9 区の SDo01 ないし SDo00 → E9e 区 SDo29 → E10 区 SDo14 → F12 区 SDe39・45 等の連続が推定できる。断面は幅広で凹凸のある不整形な落ち込み状を呈する。埋土は複数層に分かれ、概ね上層は淡灰褐色砂質土・粗砂混じ

り灰色砂質土、下層は暗青灰褐色粘土等からなる。

埋土からは弥生時代後期後半頃の弥生土器が出土した。1110・1111は壺の資料である。1110は広口壺の頸部と体部で、1111は体部下半部である。1112～1115は甕の資料である。口縁部は「ハ」字状に外上方に開き、端部は平坦ないし丸く仕上げている。1112の体部内面にはヘラケズリが顕著に認められる。



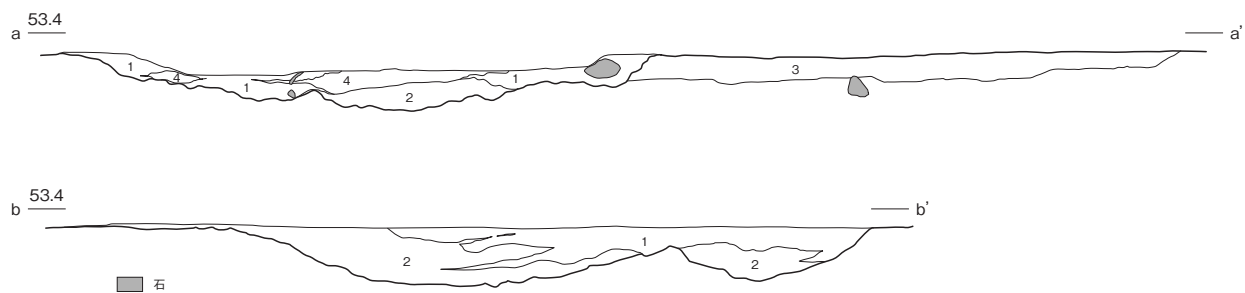
第130図 SDo29断面図, 出土遺物

自然河川

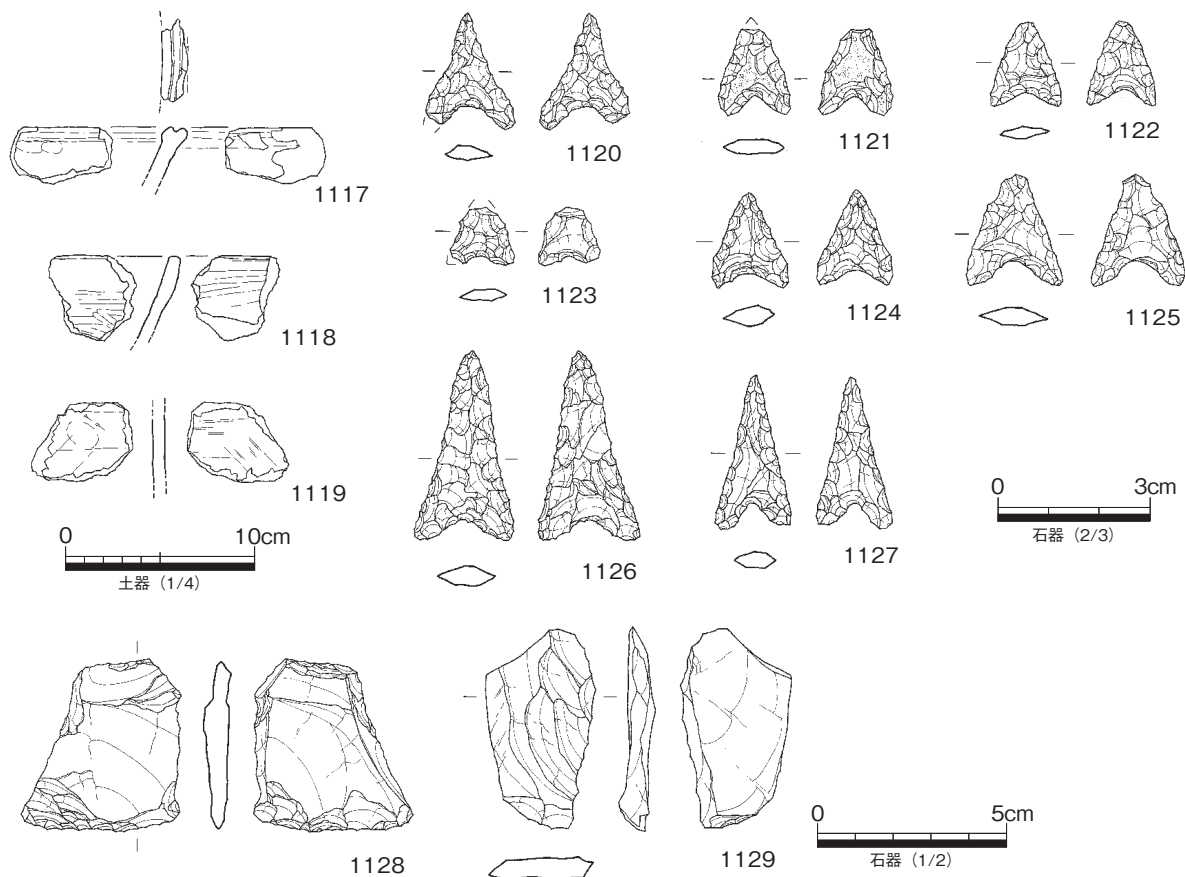
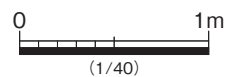
SRo01 (第131図)

C9区南端部で検出した概ね東西方向へ蛇行する河川で、西端の西壁際ではSRo02と合流する。削平を受け残りは悪い。周囲の状況から推定して、東に隣接するA調査区のB9・A9区の東方に所在する谷間から延びている小河川と考えられる。検出長約21.0m、幅2.8～4.7m、深さ約0.3mを測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は灰オリーブ色砂混粘土、灰～暗灰黄色砂等からなる。

埋土からは縄文時代晩期頃の土器と弥生土器の細片、石器が混在した状態で出土した。1117～1119は縄文土器の浅鉢口縁部片と考えられる。1120～1127はサヌカイトの凹基式石鏃である。1128はサヌカイトの横長剥片のエッジに調整を施した削器である。1129はサヌカイトの剥片で、形状や風化度から旧石器時代の翼状剥片に分類できる。旧石器の資料は数が少なく貴重な資料になる。



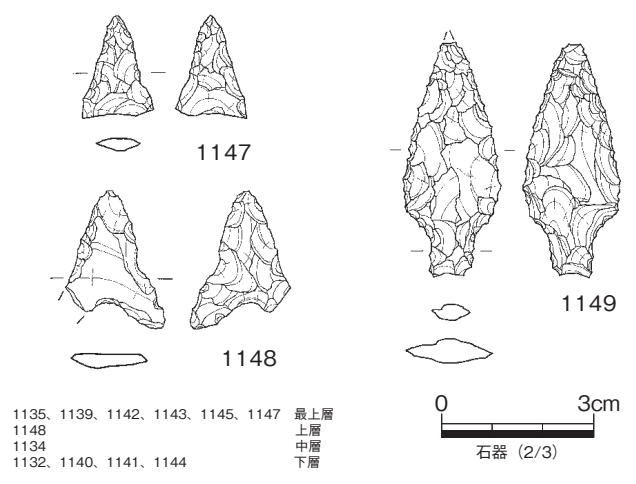
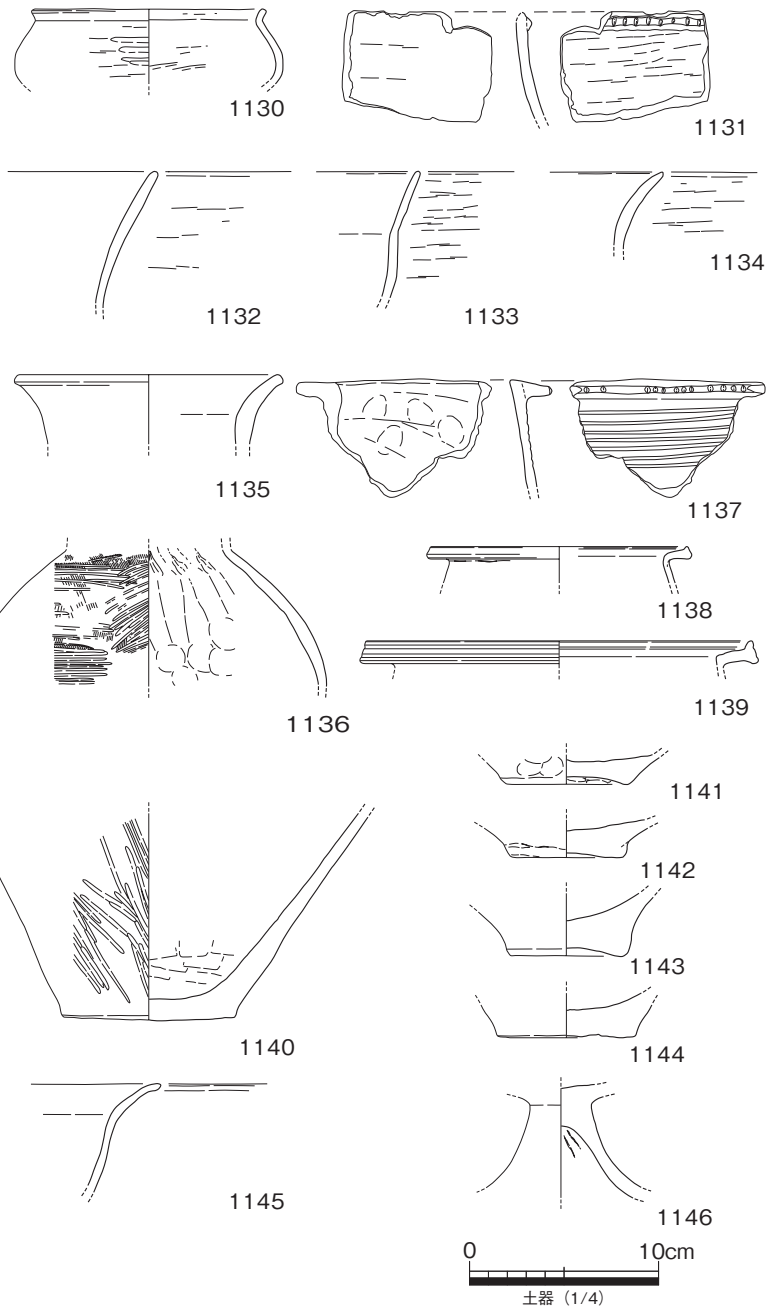
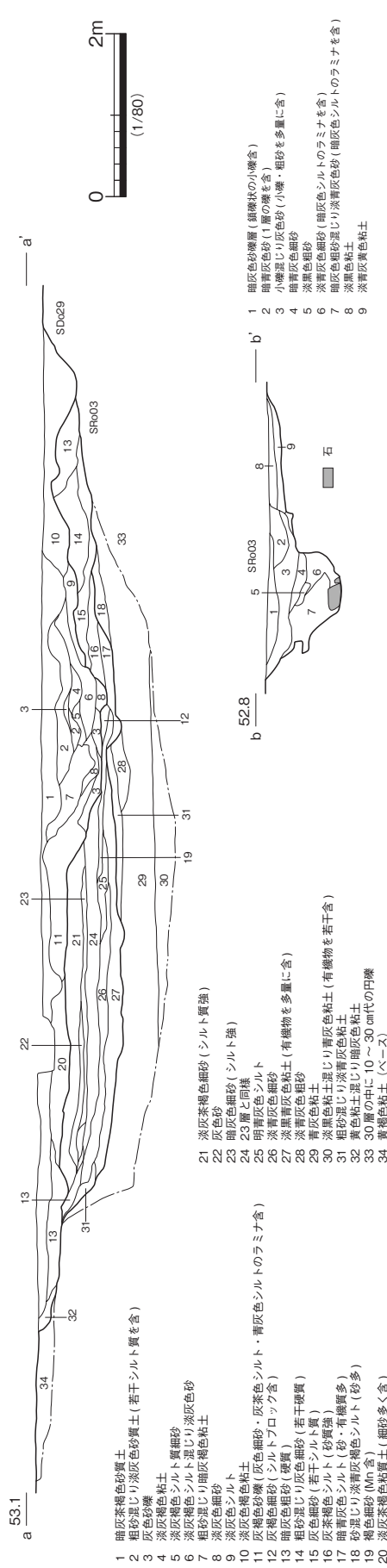
- 1 灰オリブ色 (7.5Y6/2) 砂混粘土 (Fe・Mn 含 粘性やや強い ラミナ状に粗砂薄層たまる)
- 2 灰色 (7.5Y6/1) ~ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 中~粗砂 (Fe・Mn 含 径 3 ~ 12 cm の円~亜円礫含 下面の Fe 沈着)
- 3 灰色 (10Y6/1) 砂混粘土 (Fe 顕著 径 2 ~ 10 cm の円~亜円礫混じる ベース層に極似 ベース層の可能性高い)
- 4 粗砂



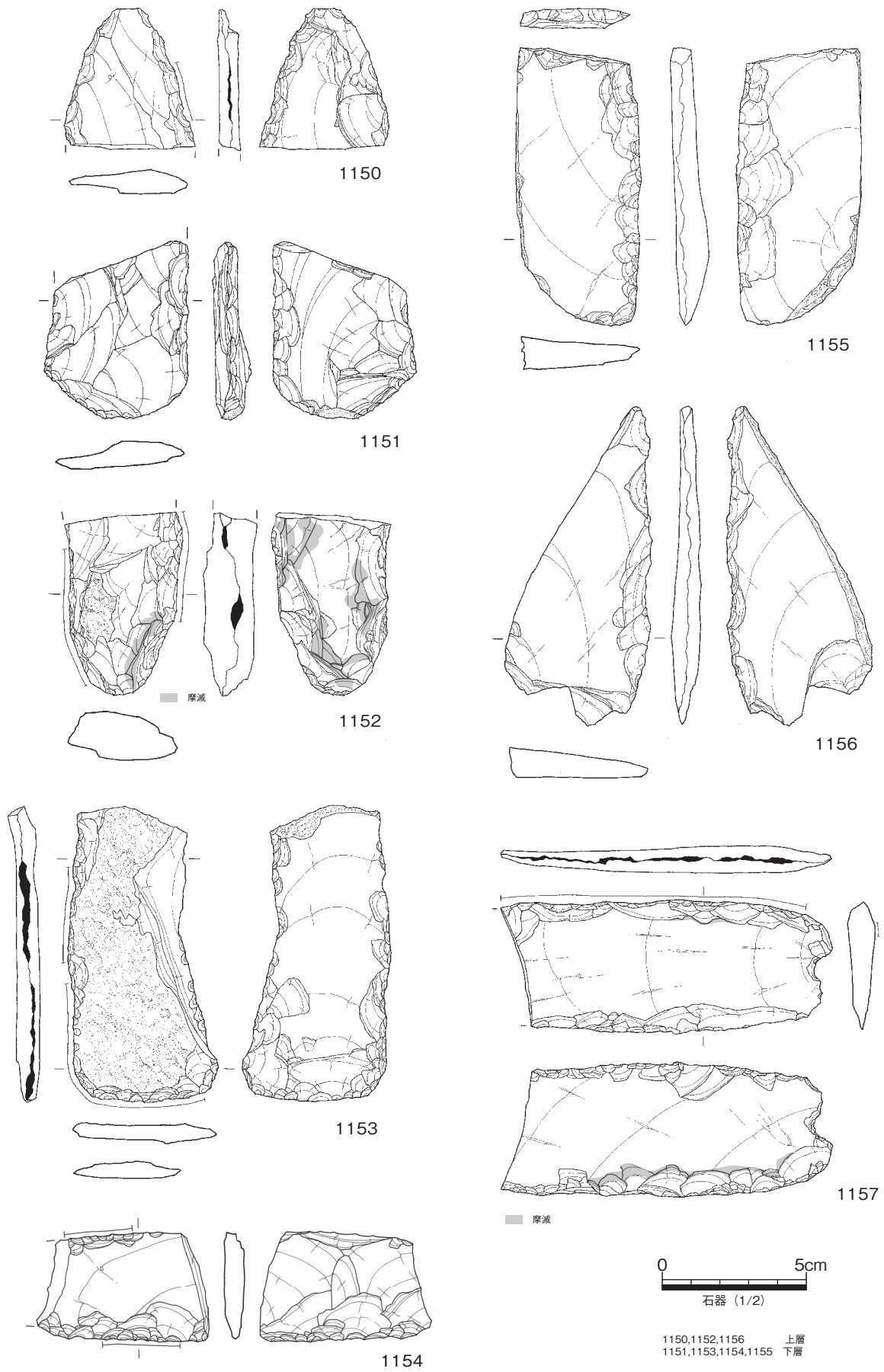
第 131 図 SRo01 断面図, 出土遺物

SRo03 (第 132 ~ 135 図)

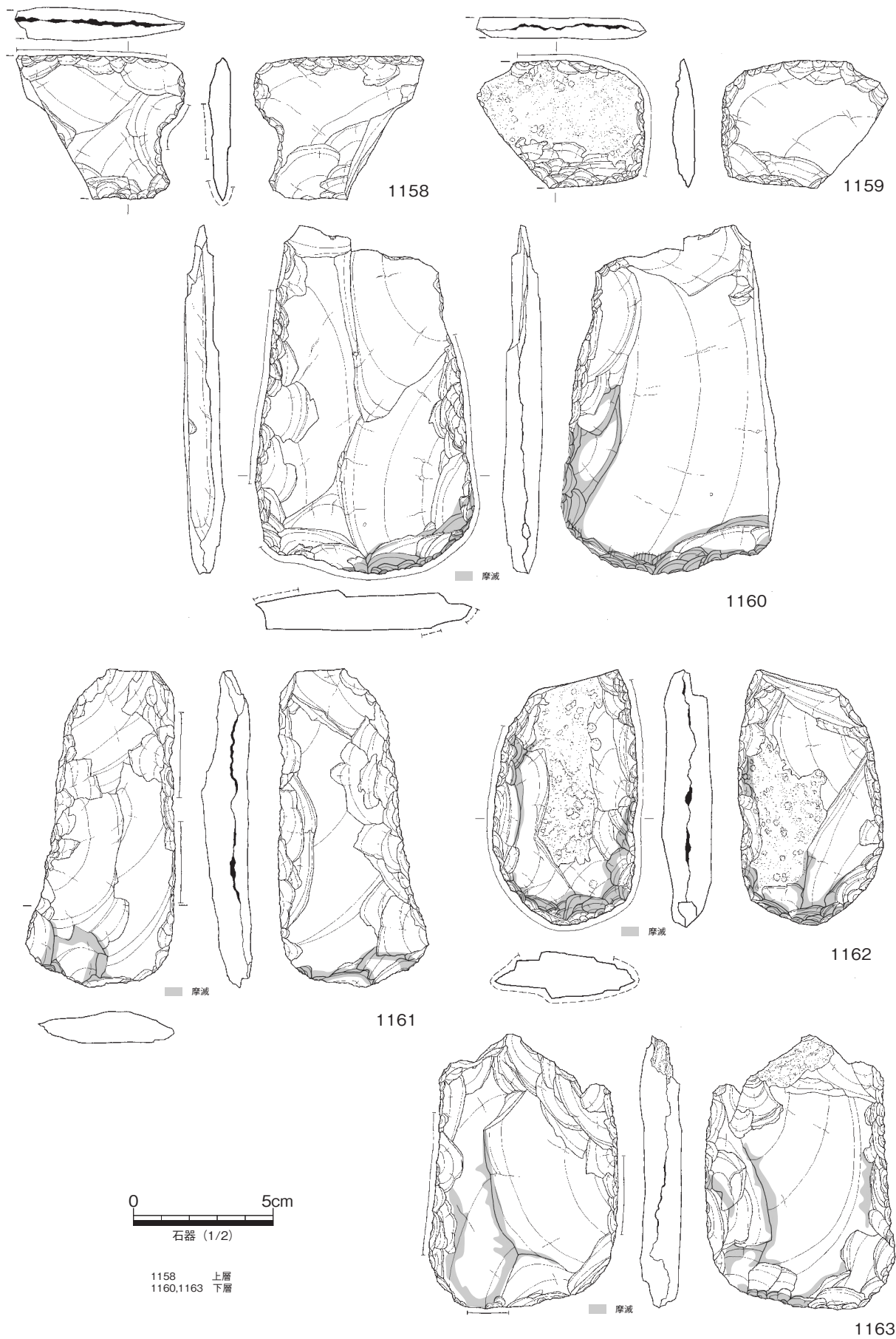
E9e 区の西半部を南北方向に延びる自然河川で、E6 区から E9e 区を經由し E10 区方向へ延びるが、詳細な経路については不明な点が多い。E9e 区南端では幅が狭いが、北半部では幅広になる。SDo29 ~ 32、SXo06・07・08、SRo04 と重複し、SRo03 は全ての遺構より先行する。検出長約 40.0 m、幅 2.5 ~ 10.0 m、深さ約 1.0 m を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は複数層に分かれる。埋土からは縄文土器・弥生土器、石器が比較的多数出土した。おそらく、縄文時代晩期と弥生時代の複数の流路が重複しているものと考えられる。



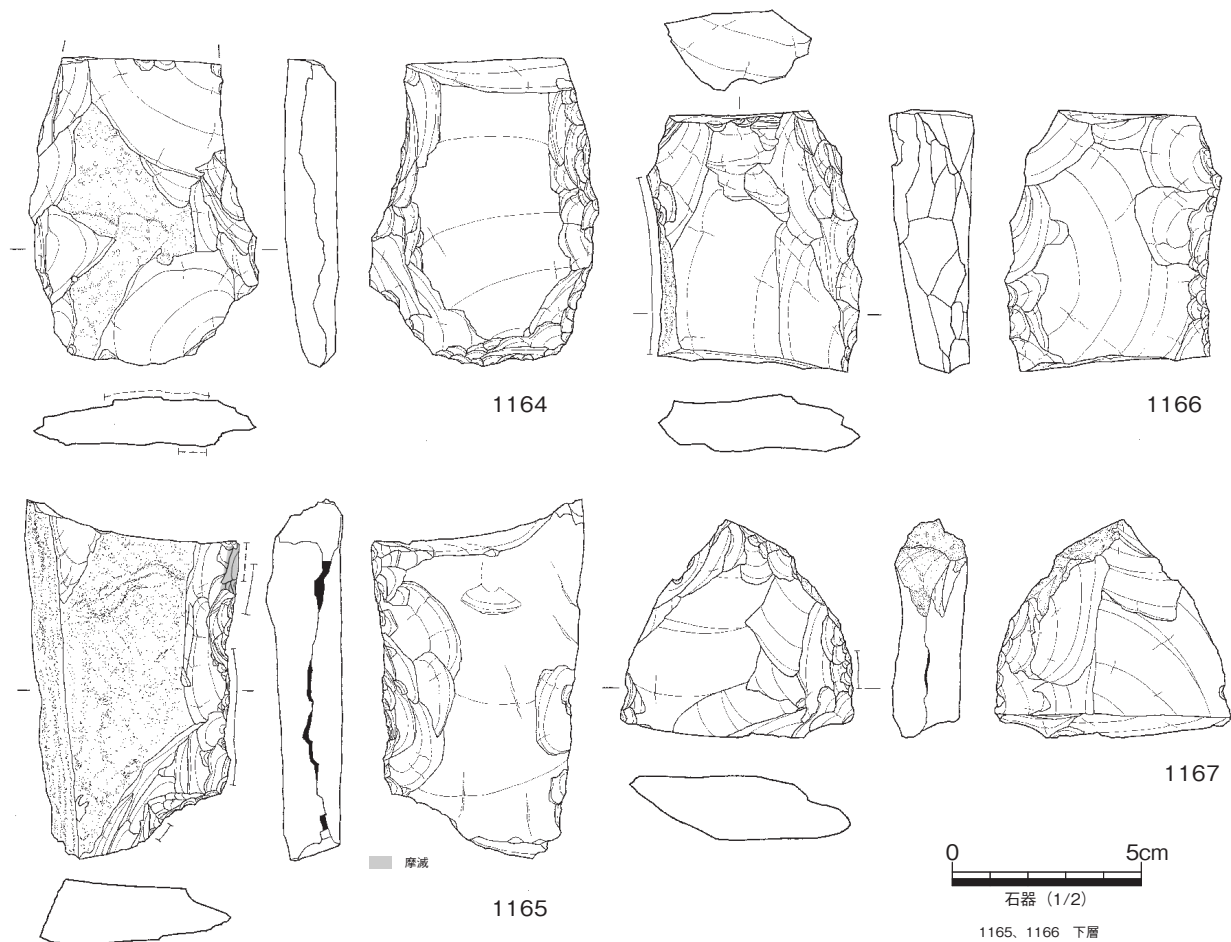
第132図 SRo03断面図, 出土遺物



第133図 SRO03 出土遺物 (1)



第 134 図 SRo03 出土遺物 (2)



第 135 図 SRe03 出土遺物 (3)

1130～1134は縄文時代晩期頃の資料である。1135～1146は弥生時代前期末、後期前半、後期後半頃の資料である。1147～1167はサヌカイトの石器である。1147～1149は石鏃である。1150～1152は槍先形石器の未製品ないしは欠損品に分類したが、石核の可能性もある。1153～1156は横長状の剥片に刃部を付した削器であるが、1153は小型の石鏃とも考えられる。1157～1159は打製石庖丁片である。1160～1164は打製石鏃に分類した。1165～1167は肉厚な剥片を素材にした石核と考えられる。いずれも側縁部を作業面にあて、交互剥離を多用し剥片剥離を行なっている石核である。

(2) 古代の遺構・遺物

掘立柱建物

SBo13 (第 136 図)

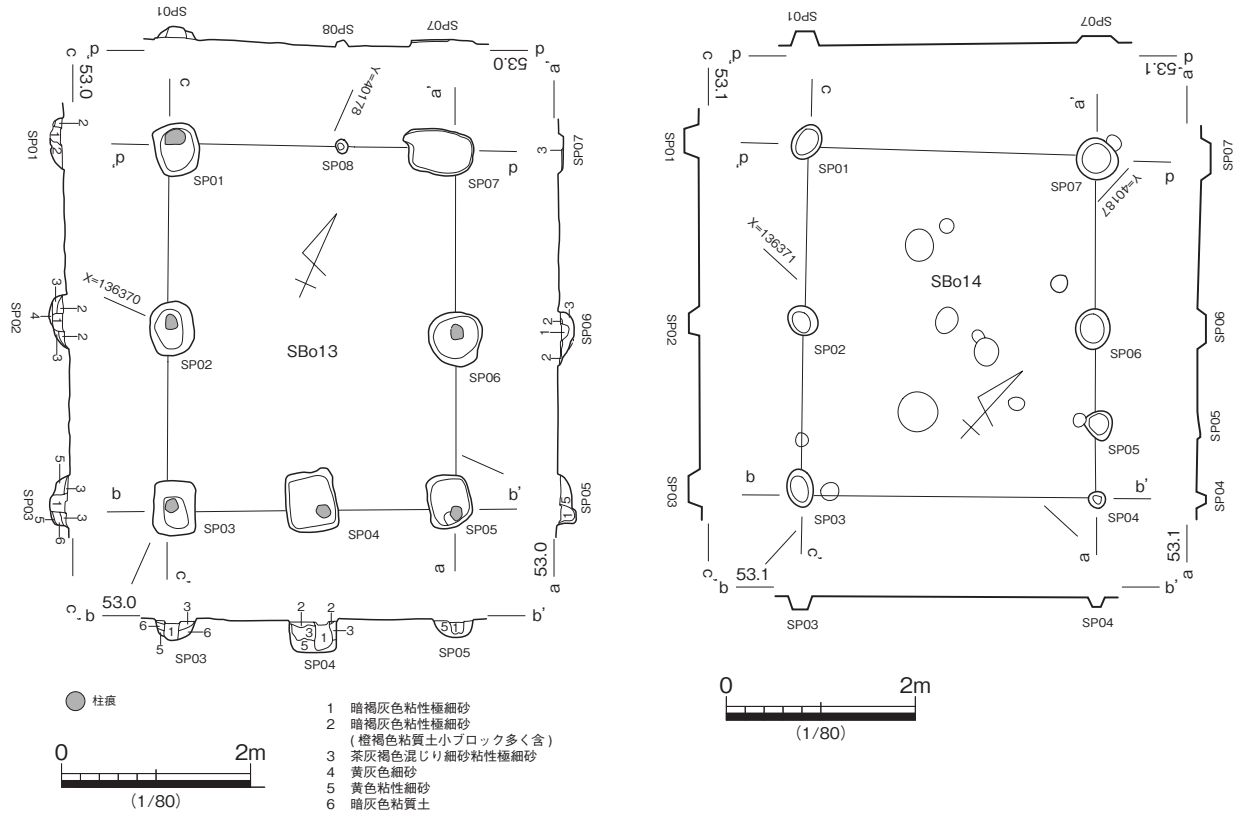
E9w 区の西半部中央で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の南北棟である。削平を受けた柱穴の残りが悪く柱穴の一部を欠く。なお、あと桁行 1 間分ほど北に延びる可能性があるが不明瞭である。2 間 (3.0 m) × 2 間 (3.9 m)、面積 11.7㎡、主軸方位 N23.5° W、柱間は梁間 1.4～1.6 m、桁行 1.9～2.0 m を測る。

柱穴掘方は方形を呈し、6 柱穴で柱痕を確認した。柱穴径 0.5～0.6 m、深さ 0.05～0.4 m を測る。柱穴 SP04 からは弥生土器の甕底部が 1 点だけ出土しているが混入であろう。出土遺物が少なく SBo13 の詳細な時期判断には無理があるが、柱穴の形状等から古代の建物の可能性がある。

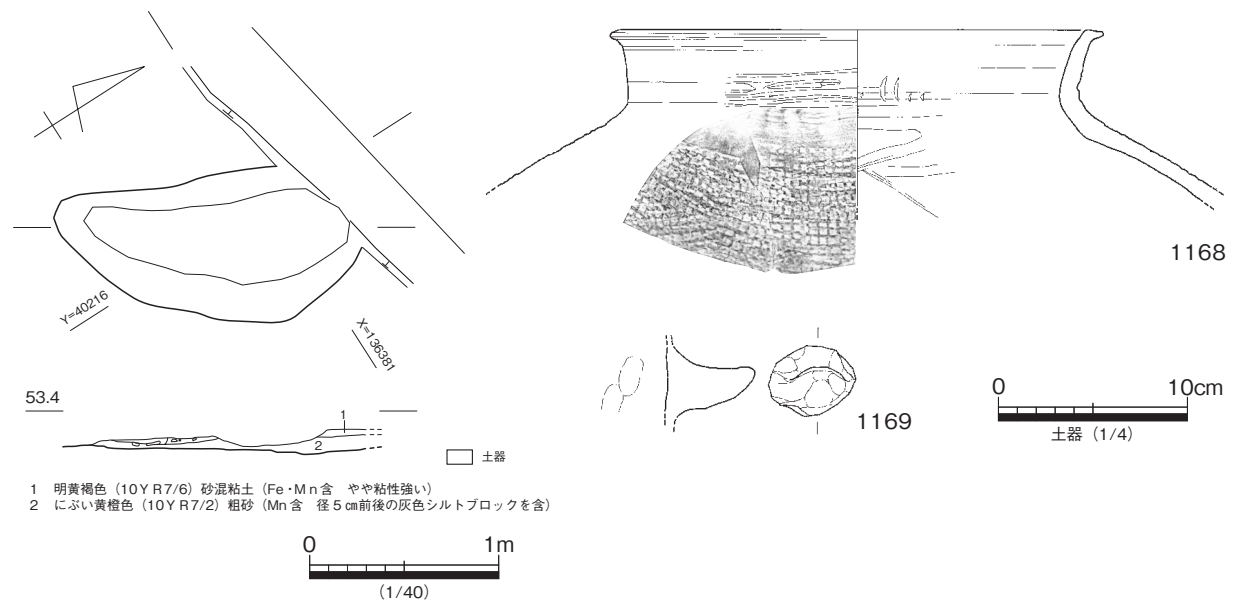
SBo14 (第136図)

E9W区の中央で検出した梁間1間、桁行2間の方形に近い南北棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。1間(3.1m)×2間(3.6m)、面積11.16㎡、主軸方位N40.5°W、柱間は梁間3.0~3.1m、桁行1.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.2~0.5m、深さ0.1~0.2mを測る。

柱穴からは遺物が出土していないためSBo14時期判断には無理があるが、配置や検出状況から隣接するSBo13に類似する時期の可能性はある。



第136図 SBo13・14平・断面図



第137図 SBo02平・断面図, 出土遺物

土坑跡

SKo02 (第 137 図)

C9 区北半部南寄りで検出した不整形な土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広で浅い皿状を呈する。長径 1.6 m 以上、短径約 0.8 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は上下 2 層に分かれ、上層は明黄褐色砂混粘土、下層はにぶい黄燈色粗砂を呈し、人為的な埋め戻し土の可能性はある。

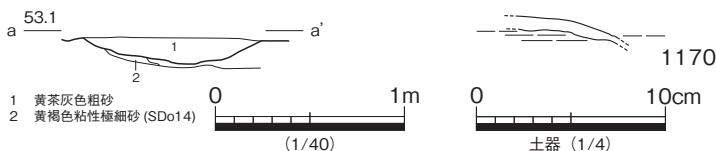
埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1168 は須恵器甕の上半部である。1169 は土師器甑の把手片である。出土遺物が少ないためこの土坑の詳細な時期判断には無理があるが、SKo02 は概ね古代の土坑と考えられる。

溝状遺構

SDo15 (第 138 図)

E10 区中央、SDo14 の西側に位置する溝跡で、途中で屈曲しているが概ね南北方向に延びる。SDo14・17・20 と重複する。切合いからこの溝跡は SDo14 より後出し、SDo17・20 より先行する。検出長約 15.0 m、幅 0.5 ～ 1.3 m、深さ約 0.4 m を測る。断面は皿状を呈し、埋土は黄茶灰色粗砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器が極少量出土した。1170 は須恵器杯蓋の天井部である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や切り合い関係から SDo15 は古代以降に埋没した溝跡と考えられる。



第 138 図 SDo15 断面図, 出土遺物

(3) 中世の遺構・遺物

掘立柱建物

SBo01 (第 139 図)

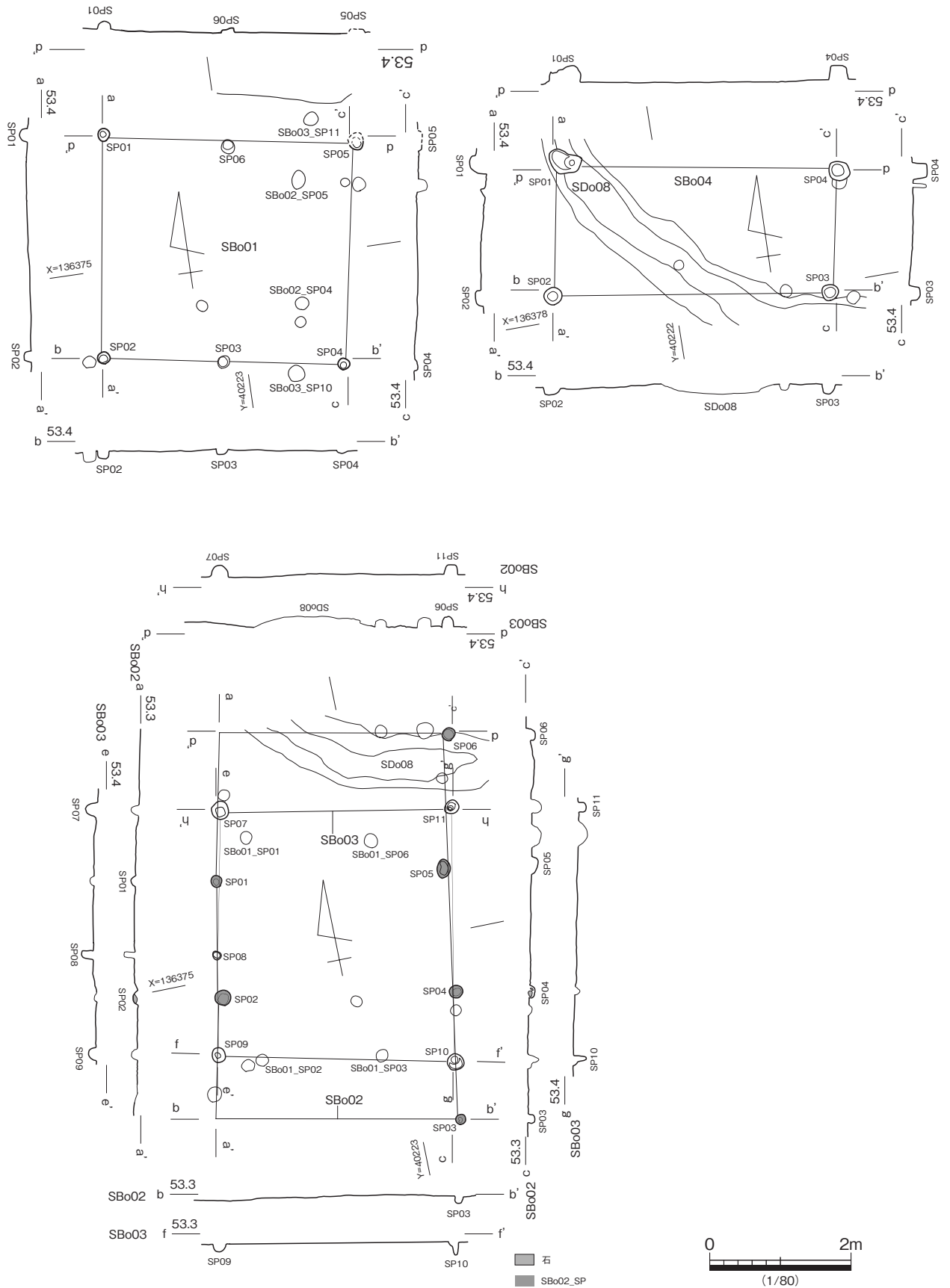
C9 区北半部南よりで検出した梁間 1 間、桁行 2 間の方形に近い東西棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo02・03 と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係は不明である。1 間 (3.2 m) × 2 間 (3.4 m)、面積 10.88㎡、主軸方位 N8.0° E、柱間は梁間 3.2 m、桁行 1.6 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SBo01 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の建物と考えられる。

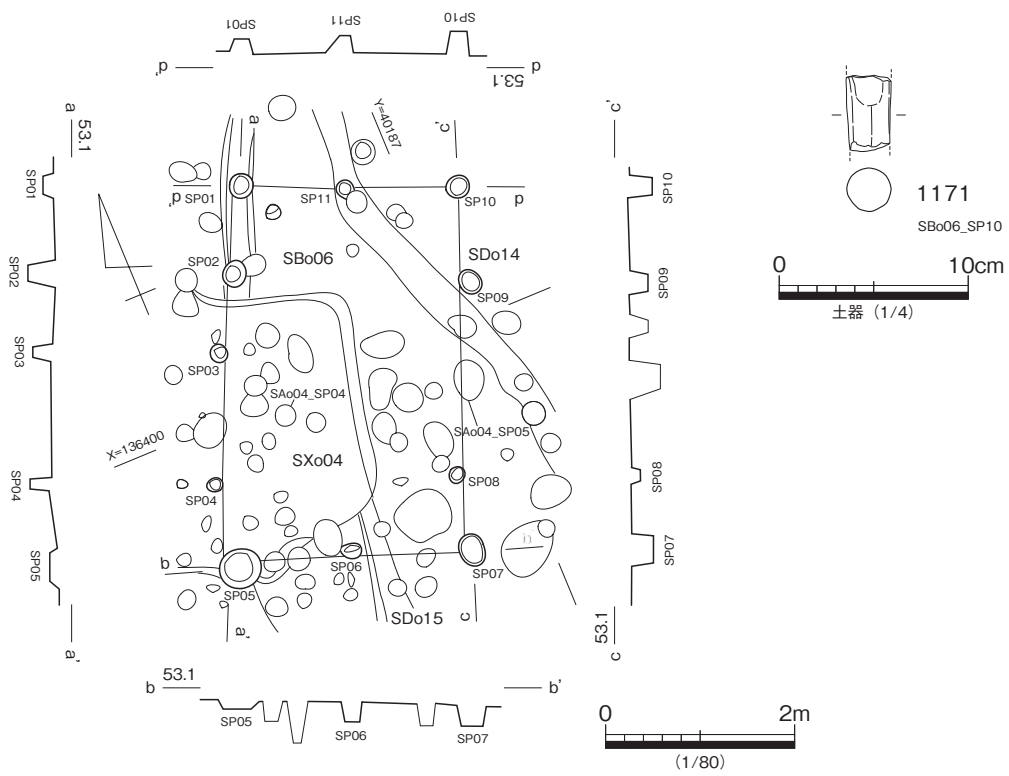
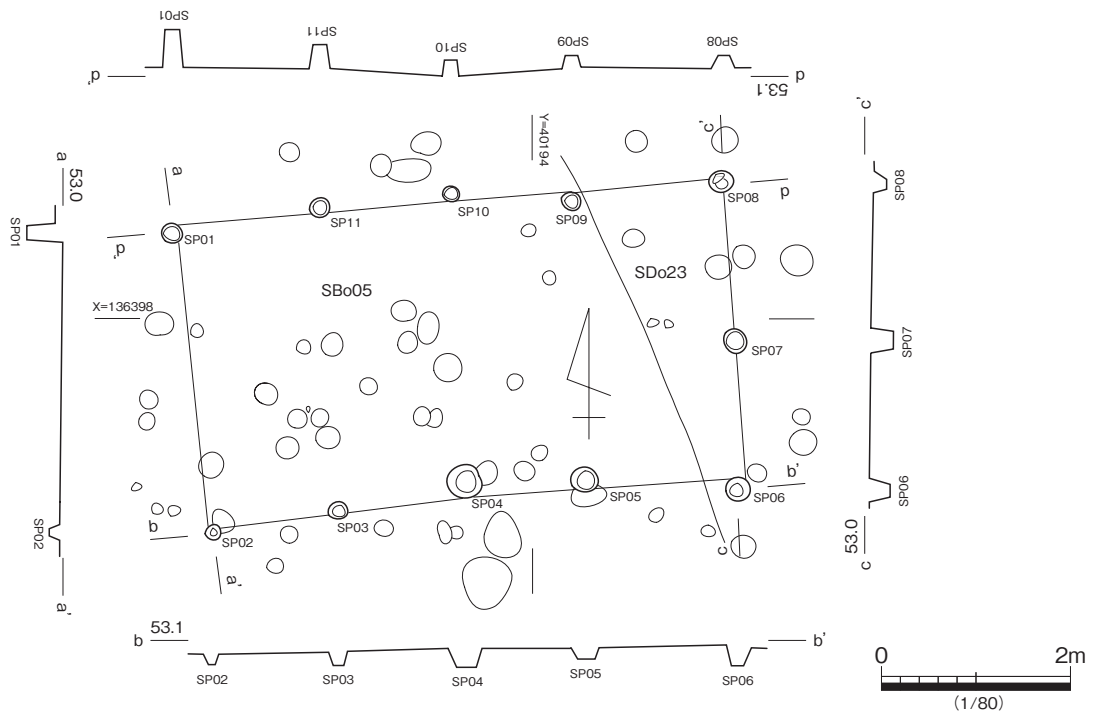
SBo02 (第 139 図)

C9 区北半部南よりで検出した梁間 1 間、桁行 3 間の南北棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo01・03 と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係は不明である。1 間 (3.3 m) × 3 間 (5.5 m)、面積 18.15㎡、主軸方位 N10.0° E、柱間は梁間 3.3 m、桁行 1.8 ～ 2.0 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物から SBo02 は中世以降の建物と考えられる。



第 139 图 SB001 ~ SB004 平・断面图



第 140 図 SB05・06 平・断面図, 出土遺物

SB003 (第 139 図)

C9 区北半部南よりで検出した梁間 1 間、桁行 2 間以上の方形に近い南北棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが極端に悪い。そのため柱列の柱穴の一部を欠く。SB001・02 と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため、前後関係は不明である。1 間 (3.3 m) × 2 間 (3.4 m)、面積 11.22㎡、主軸方位 N10.0° E、柱間は梁間 3.3 m、桁行 1.4 ~ 2.0 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物から SB003 は中世以降の建物と考えられる。

SB004 (第 139 図)

C9 区北半部南よりで検出した梁間 1 間、桁行 1 間以上の東西棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが極端に悪い。そのため側柱列の柱穴の一部を欠く。SB002 と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため、前後関係は不明である。1 間 (1.8 m) × 1 間 (3.9 m)、面積 7.02㎡、主軸方位 N10.0° E、柱間は梁間 1.8 m、桁行 3.9 m を測る。柱穴掘方は円形~不整円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物から SB004 は中世以降の建物と考えられる。

SB005 (第 140 図)

E10 区の北東部の SDo23 の上面で検出した梁間 2 間、桁行 4 間の東西棟である。2 間 (3.2 m) × 4 間 (5.8 m)、面積 18.56㎡、主軸方位 N86.0° E (N4.0° W)、柱間は梁間 1.4 ~ 1.6 m、桁行 1.4 ~ 1.6 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SB005 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の建物と考えられる。

SB006 (第 140 図)

E10 区の北半部中央で検出した梁間 2 間、桁行 4 間の小型の南北棟である。SDo14・15、SX004 等と重複し、切り合い関係より SB006 はこれらの遺構より後出する。2 間 (2.4 m) × 4 間 (3.9 m)、面積 9.36 ㎡、主軸方位 N21° E、柱間は梁間 1.2 m、桁行 0.8 ~ 1.2 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ~ 0.4 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1171 は SP10 から出土した土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なく SB006 の詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物から中世の建物と考えられる。

SB007 (第 141 図)

E10 区の中央で検出した梁間 1 間、桁行 4 間の東西棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが極端に悪い。そのため、側柱列の柱穴の一部を欠く。SB009・08、SDo15・16 等と重複し、切り合い関係から SB007 はこれらの遺構より後出する。1 間 (3.0 m) × 4 間 (7.3 m)、面積 21.9㎡、主軸方位 N85.0° W (N5.0

° E)、柱間は梁間 2.8 ～ 3.2 m、桁行 1.2 ～ 3.2 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m を測る。

柱穴からは土師器、石器等が少量出土した。1172 は SP02 から出土したサヌカイトの石鏃で混入品であろう。出土遺物が少なく SBo07 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

SBo08 (第 141 図)

E10 区の中央で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の東西棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo07・09、SDo15・16 等と重複し、SDo15・16 とは切り合うため、SBo08 が後出することが解るが、他とは切りあわないため不明瞭である。2 間 (2.8 m) × 3 間 (5.0 m)、面積 14.0m²、主軸方位 N74.0° W (N16.0° E)、柱間は梁間 1.2 ～ 1.6 m、桁行 1.4 ～ 1.8 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ～ 0.25 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SBo08 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

SBo09 (第 142 図)

E10 区の中央で検出した梁間 2 間、桁行 5 間の東西棟で、E10 区で最も大型の建物である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo07・08、SDo15・16 等と重複するが、切り合い関係からこの建物は SDo15 より先行し、SDo16 より後出する。2 間 (4.0 m) × 3 間 (9.5 m)、面積 38.0m²、主軸方位 N77.0° W (N13° E)、柱間は梁間 1.9 ～ 2.1 m、桁行 1.4 ～ 2.4 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.3 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1173 は SP04 から出土した土師器片口の播鉢片で、1174 は土師器鍋口縁部片である。出土遺物より SBo09 は中世後半～末頃の建物と考えられる。

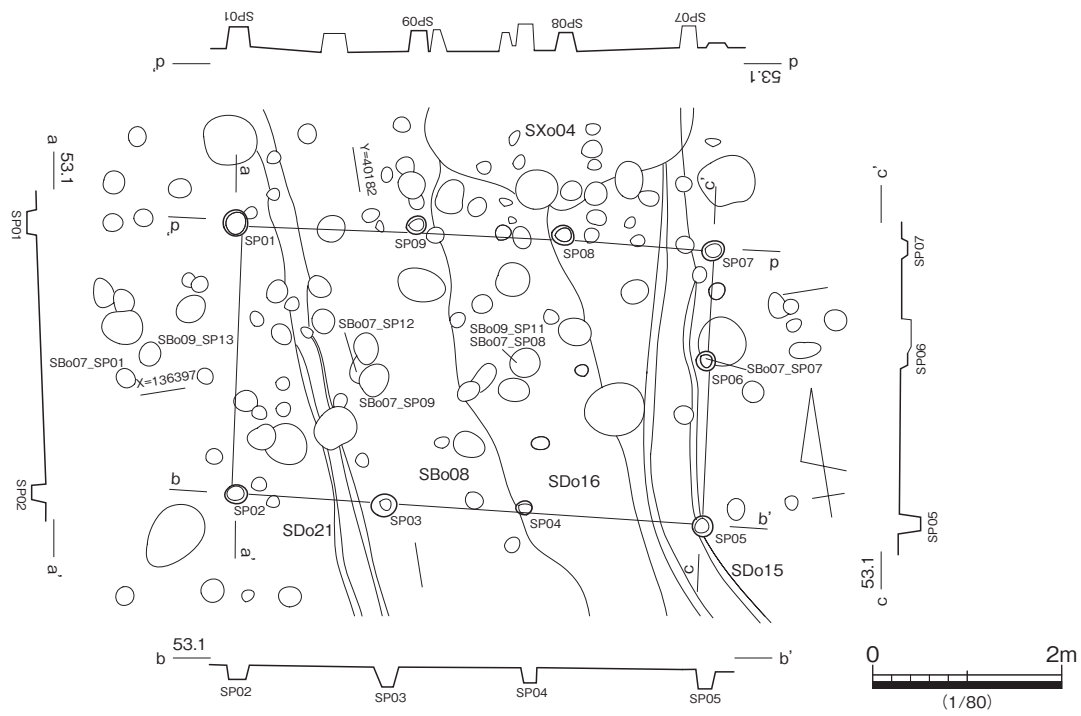
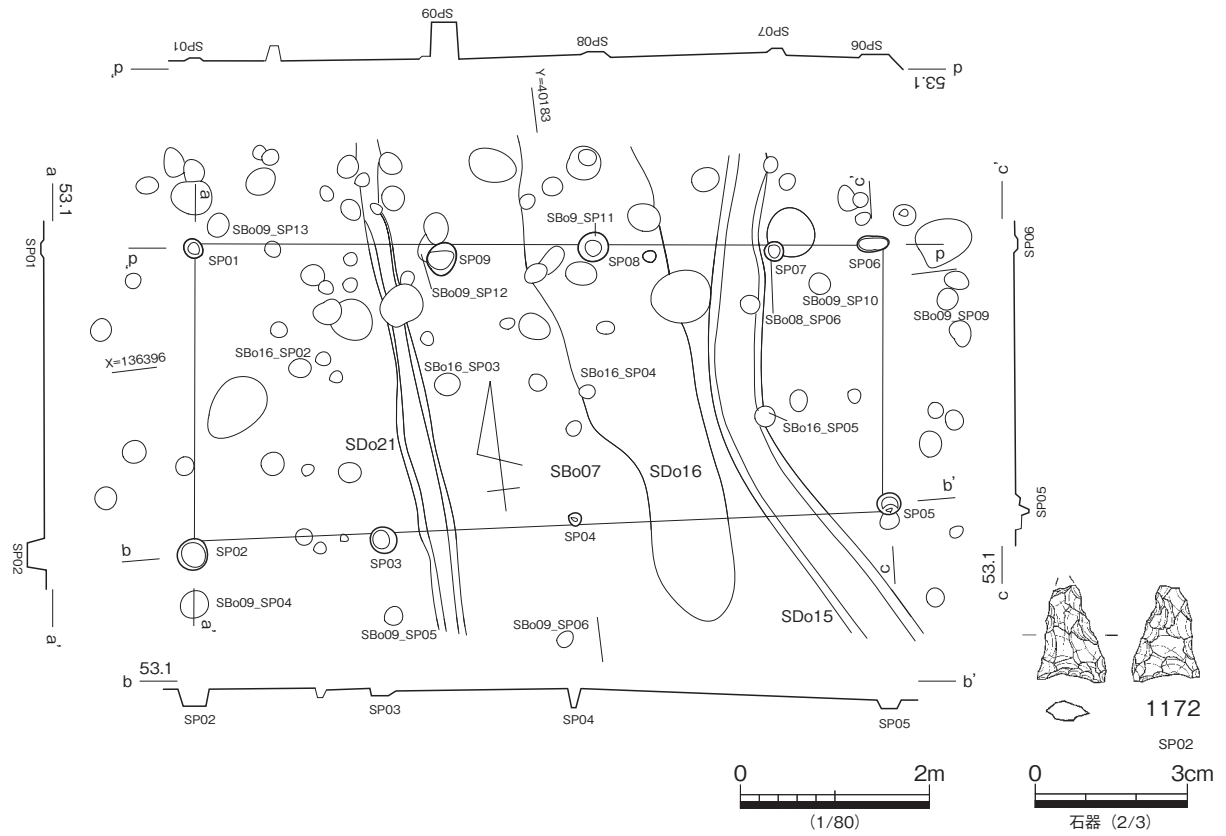
SBo10 (第 143 図)

E10 区の北西部で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の南北棟で小型建物である。SBo11 の東、SBo08 の北に隣接して位置する。2 間 (3.4 m) × 3 間 (4.4 m)、面積 14.96m²、主軸方位 N15.0° E、柱間は梁間 1.6 ～ 1.8 m、桁行 1.4 ～ 1.6 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ～ 0.38 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m を測る。

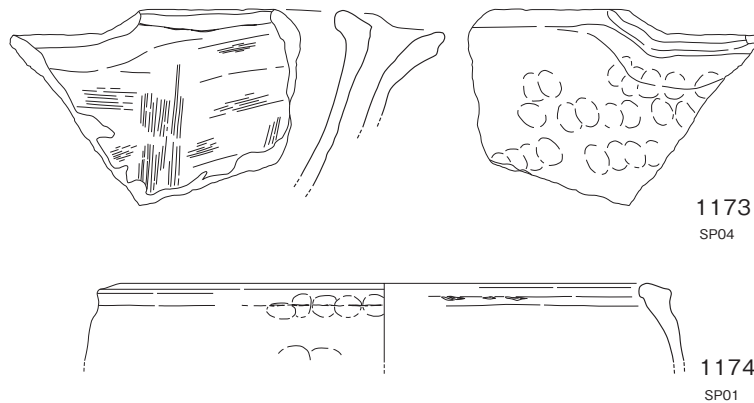
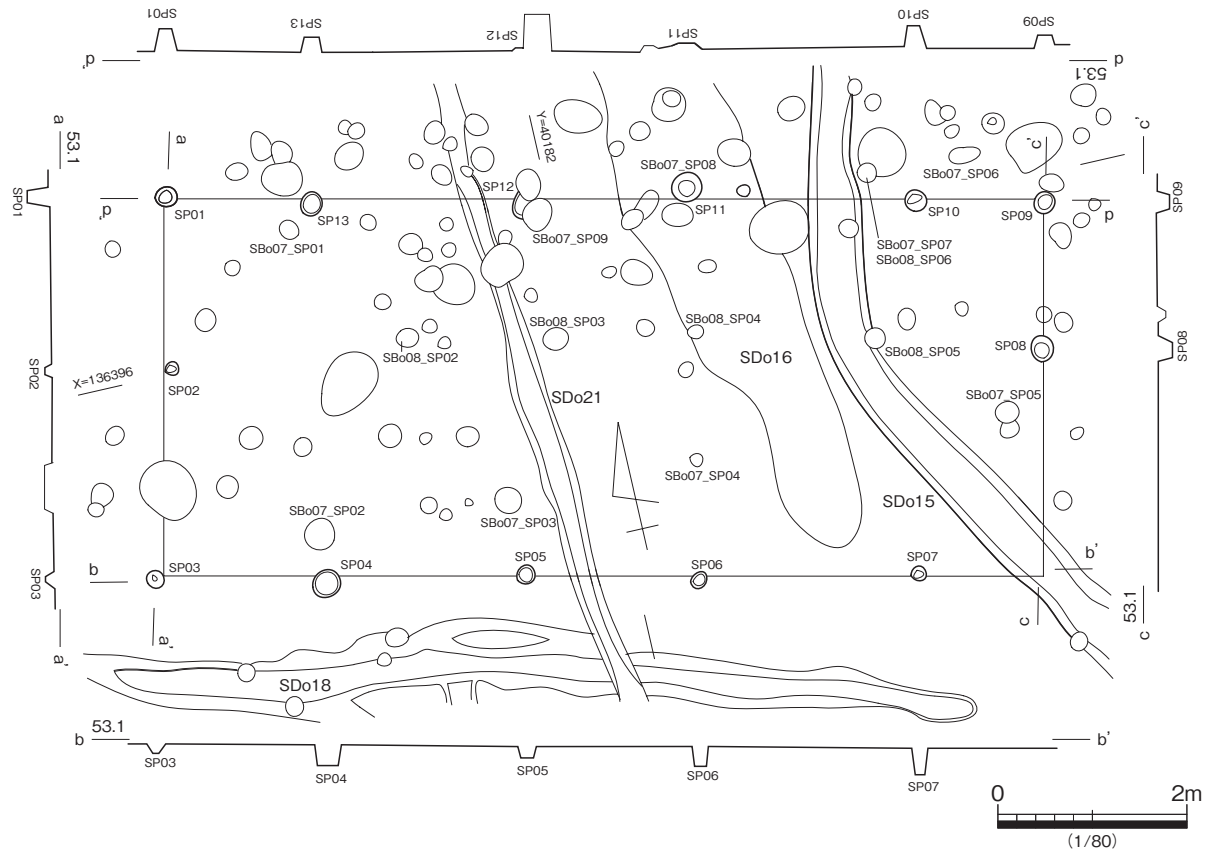
柱穴からは土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SBo10 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

SBo11・SAo00 (第 143 図)

E10 区の西半部中央で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の南北棟で小型建物である。SBo10 の南西、SBo08・09 の西に隣接して位置する。2 間 (2.1 m) × 2 間 (2.7 m)、面積 5.67m²、主軸方位 N15.0° E、柱間は梁間 1.0 ～ 1.1 m、桁行 1.2 ～ 1.5 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.3 m を測る。なお、西側柱列の南端からは、南へ 3 間分の柵列 SAo00 が付設されている。SBo11・SAo00 は区画溝 SDo25 に隣接することや、周辺の SBo08 ～ 11 と配置等で類似する点が多く、これらの建物グループに含まれ、グループの西限を画する遺構の可能性が高い。



第 141 図 SB07・08 平・断面図，出土遺物



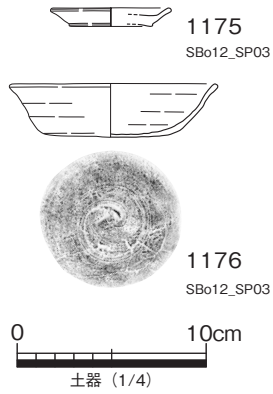
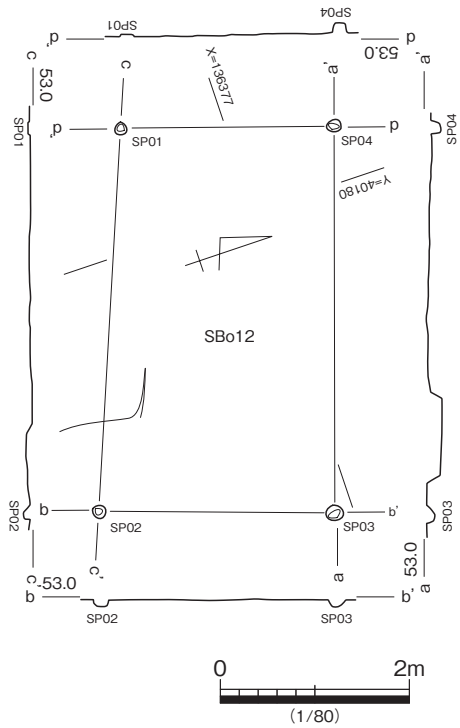
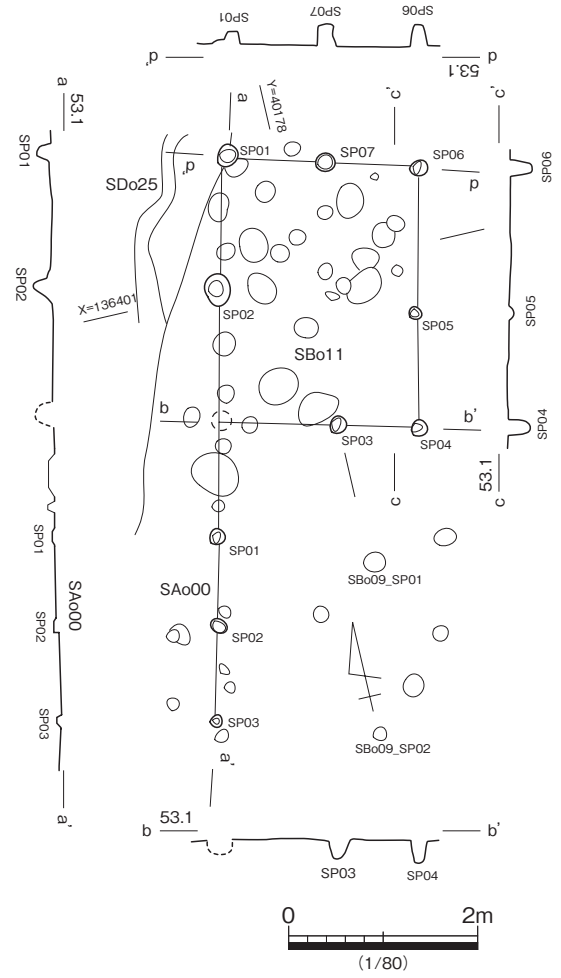
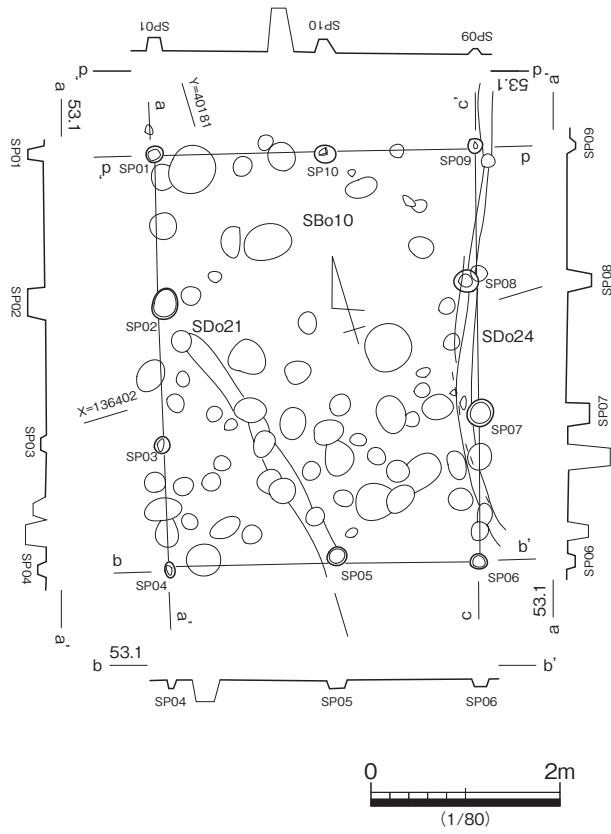
第 142 図 SBo09 平・断面図, 出土遺物

柱穴からは遺物が出土していないため SBo11・SAo00 の時期判断には無理があるが、配置や検出状況から SBo08～11 に類似する時期の可能性はある。

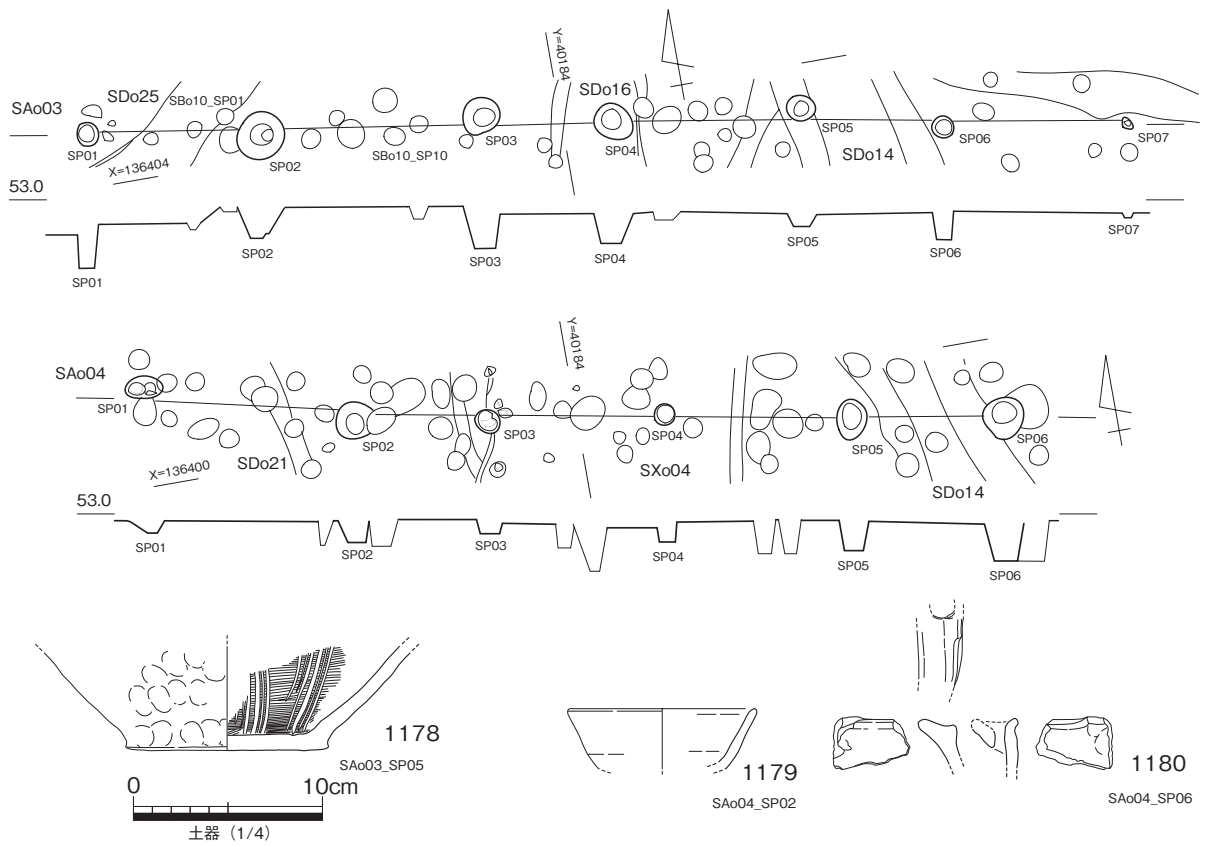
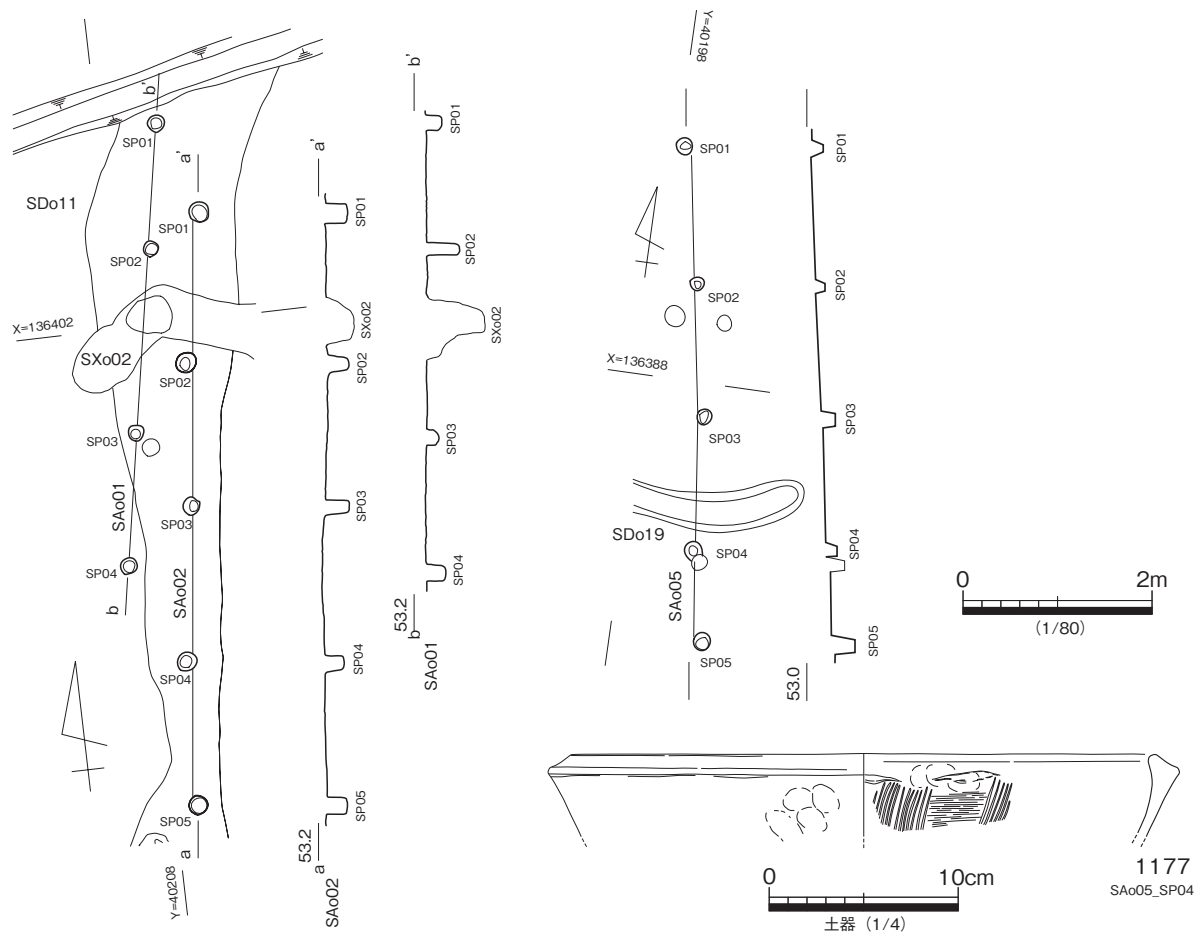
SBo12 (第 143 図)

E9W 区の中央で検出した梁間 1 間、桁行 1 間の南北棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。そのため、側柱列の柱穴の一部を欠く。1 間 (2.4 m) × 1 間 (4.1 m)、面積 9.84m²、主軸方位 N68.0° W (N22.0° E)、柱間は梁間 2.3～2.4 m、桁行 4.1 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1～0.2 m、深さ 0.05～0.1 m を測る。

柱穴からは土師器が少量出土した。1175・1176 は SP03 から出土した土師器小皿及びび杯である。出土遺物から SBo12 は、13～14 世紀前半以降の建物と考えられる。



第 143 図 SBo10・11・12・SAo00 平・断面図，出土遺物



第144図 SAo01～05平・断面図，出土遺物

柵列

SAo01 (第 144 図)

C9 区北西端部、SDo11 の東肩部で検出した南北方向の柵列で、西には同方向の SAo02 が隣接して並走している。柱間 3 間、検出長 4.8 m、柱間は 1.5 ～ 2.0 m、柱穴径約 0.1 m、深さ 0.2 ～ 0.4 m、主軸方位 N10.5° E を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。出土遺物が少なく SAe03 の詳細な時期判断には無理があるが、SAo01 は概ね中世以降の柵列であろう。

SAo02 (第 144 図)

C9 区北西端部、SDo11 の東肩部で検出した南北方向の柵列で、東には同方向の SAo01 が隣接して並走している。柱間 4 間、検出長 6.3 m、柱間 1.5 ～ 1.6 m、柱穴径約 0.15 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N8.5° E を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。出土遺物が少なく SAe02 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね SBe01 と類似する時期と考えられる。

SAo03 (第 144 図)

E10 区北半部で検出した東西方向の柵列で、南には同方向の SAo04 が約 4 m 隔てて並走しており、当初両者を含めて建物として検討した。柱間が不揃いのため別遺構と考えたが、再考の余地もある。柱間 6 間、検出長 19.0 m、柱間 1.5 ～ 2.0 m、柱穴径 0.1 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、主軸方位 N81.0° W (N9.0° E) を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1178 は土師器播鉢の下半部である。出土遺物が少なく、SAe03 の詳細な時期判断には無理があるが、SAo03 は概ね中世後半以降の時期と考えられる。

SAo04 (第 144 図)

E10 区北半部で検出した東西方向の柵列で、先述したように北には同方向の SAo03 が約 4 m 隔てて並走しており、当初両者を含めて建物として検討した。柱間が不揃いのため別遺構と考えたが、再考の余地もある。柱間 5 間、検出長 9.0 m、柱間 1.5 ～ 2.0 m、柱穴径 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.2 ～ 0.4 m、主軸方位 N 79.0° W (N11.0° E) を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1180 は土師器把手付鍋の把手部分である。出土遺物が少なく、SAe03 の詳細な時期判断には無理があるが、SAo04 は概ね中世後半～末以降の時期と考えられる。

SAo05 (第 144 図)

E10 区南東端部の東西方向の柵列で、柱間 4 間、検出長 5.3 m、柱間 1.0 ～ 1.5 m、柱穴径約 0.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m、主軸方位 N4.0° W を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1177 は土師器播鉢の上半部である。出土遺物が少なく、SAe05 の詳細な時期判断には無理があるが、SAo05 は概ね中世後半以降の時期と考えられる。

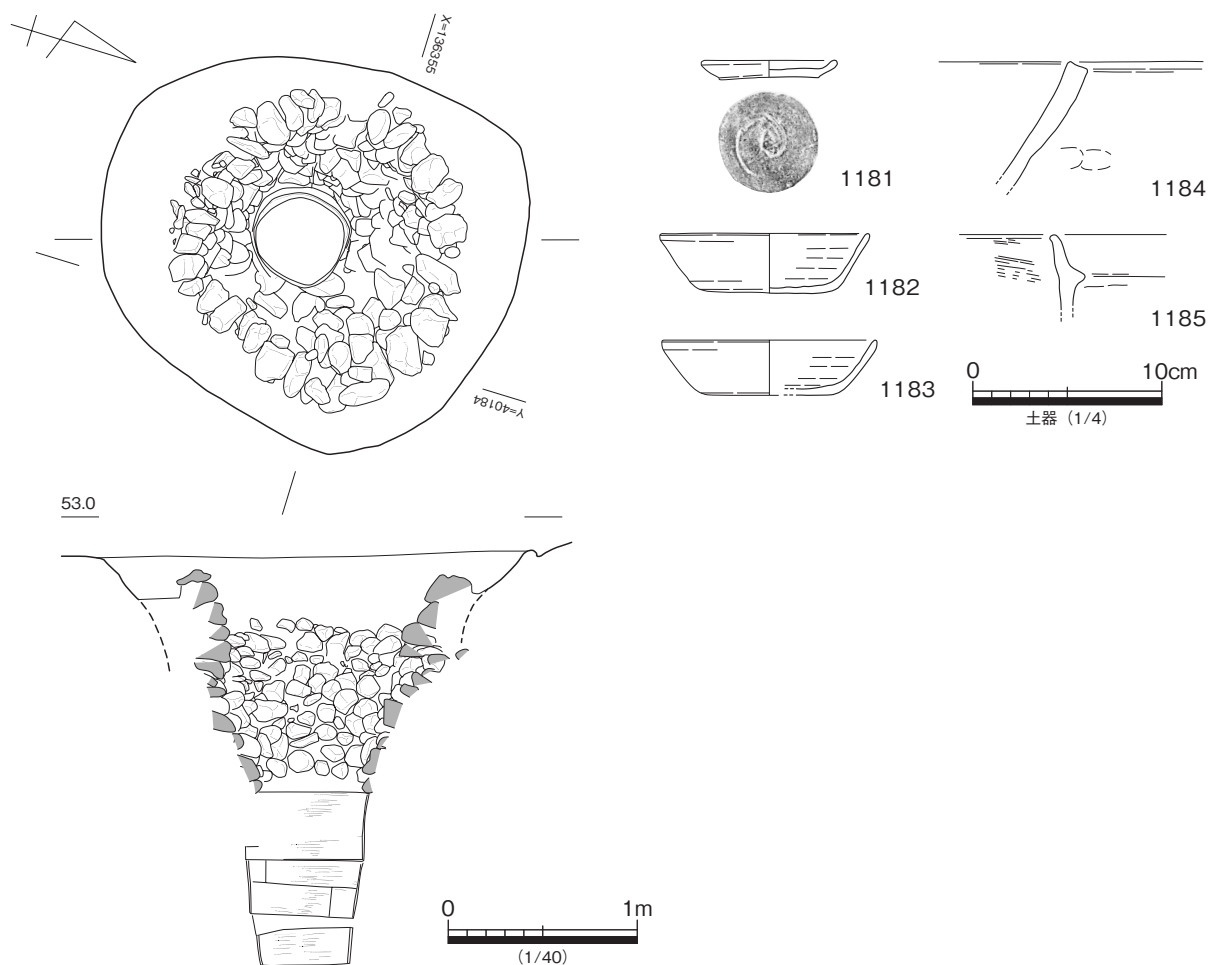
井戸・土坑跡

SEo01 (第 145 図)

E9W 区南半部の SRo04 の北肩部で検出した石組み井戸である。平面は楕円形状を呈し、断面は地表から約 2.5 m 掘り下げており、その上半部 (1.30 m) が石組みで、下半部 (1.20 m) は曲げ物井戸枠を 4～5 段積みで組み上げる構造である。掘方上面の長径 2.25 m、短径 2.00 m、深さ約 2.5 m を測る。

埋土は複数層にわかれ、土師器・須恵器が出土した。

1181 は土師器小皿、1182・1183 は 14 世紀前半頃の土師器杯である。1184 は須恵器捏鉢、1185 は 14 世紀頃の土師器足釜片である。出土遺物から推定して SEo01 は 14 世紀以降に埋没した井戸であろう。

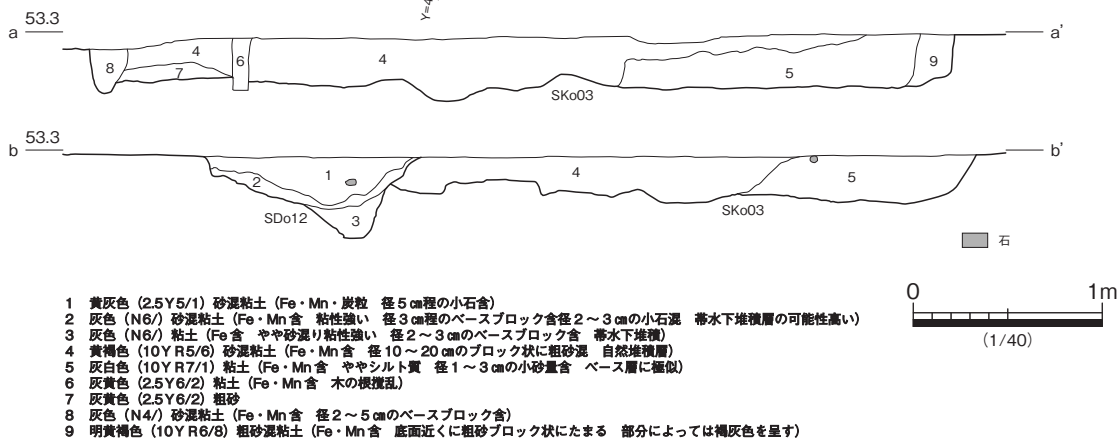
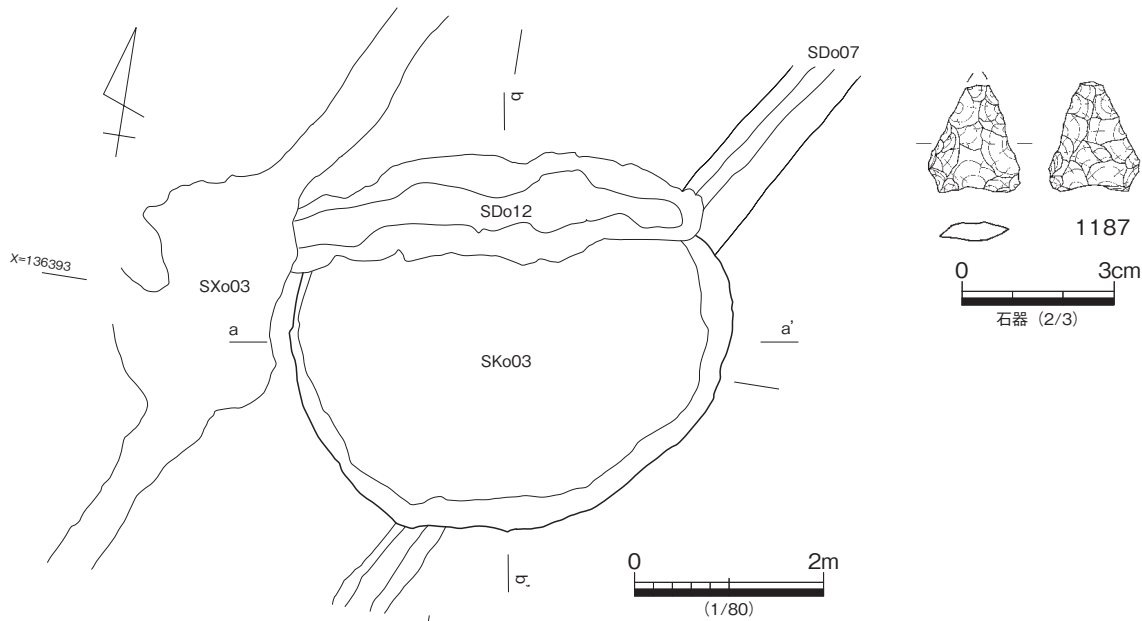
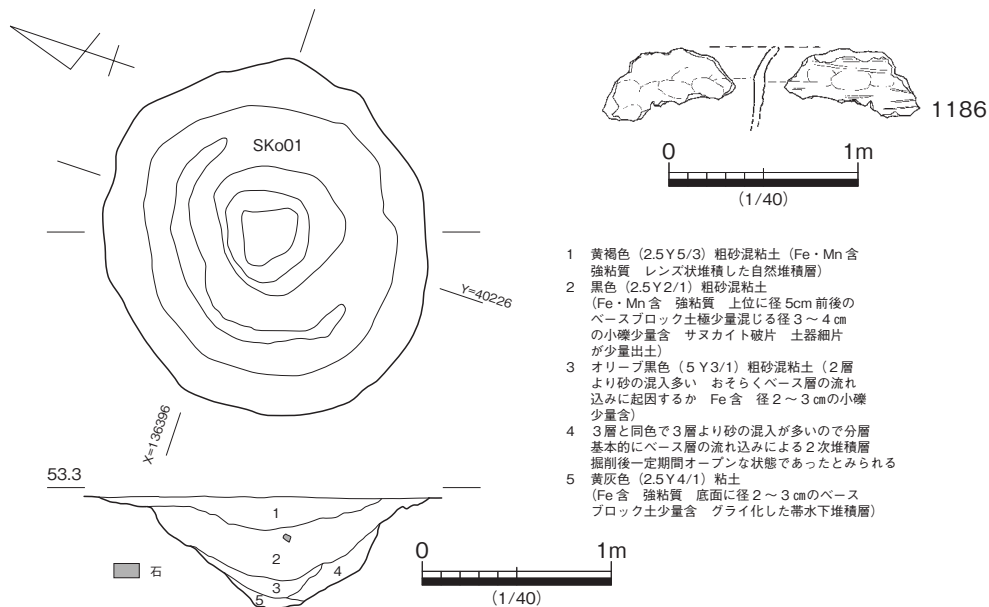


第 145 図 SEo01 平・断面図, 出土遺物

SKo01 (第 146 図)

C9 区北半部の東壁際で検出した土坑である。平面は凹凸のある円形状、断面は幅広 V 字状を呈する。長径 1.9 m、短径 1.7 m、深さ約 0.6 m を測る。埋土は複数層にわかれ、埋土からは縄文土器・土師器・須恵器片が少量出土した。

1186 は縄文土器の浅鉢片で混入品である。出土遺物が少ないためこの土坑の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑であろう。



第146図 SKo01・03平・断面図, 出土遺物

SKo03 (第 146 図)

C9区北半部で検出した浅い土坑である。SDo07・12と重複し、SDo12より先行し、SDo07より後出する。平面は不整円形状、断面は幅広で皿状を呈する。長径4.7m、短径3.0m以上、深さ約0.25mを測る。埋土上層は黄橙色砂混粘土、下層は灰白色粘土等からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器、石器等が少量出土した。1187はサヌカイトの石鏃で混入品である。出土遺物が少なくSKo03の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。

SKo04 (第 147 図)

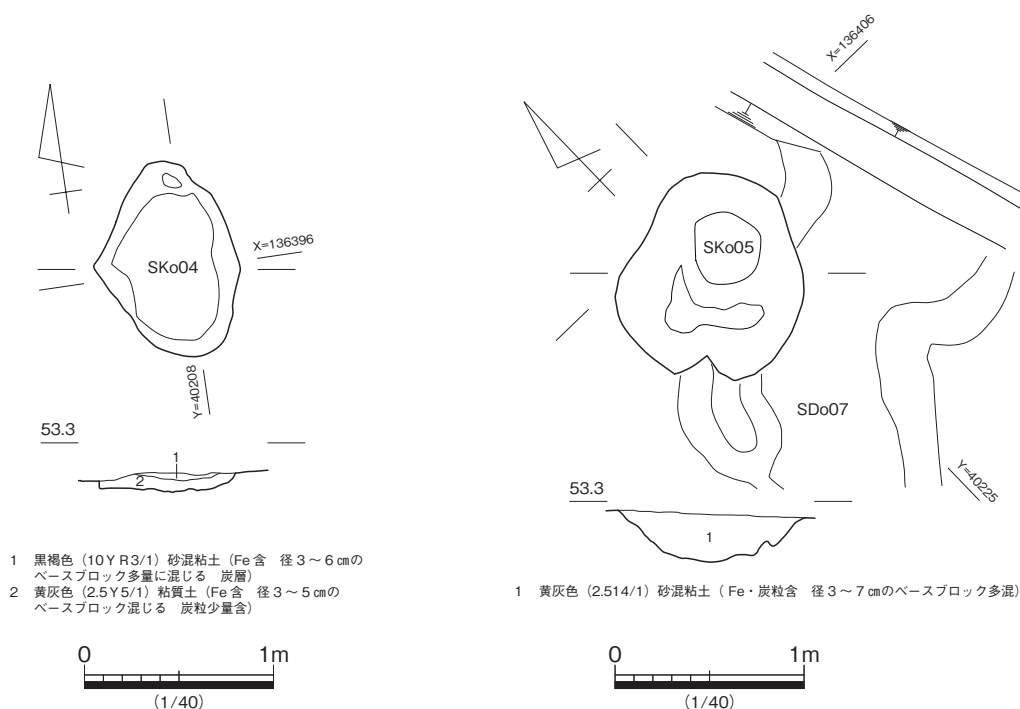
C9区北半部のSDo11の肩で検出した浅い土坑である。平面は不整円形状、断面は幅広で皿状を呈する。長径1.05m、短径0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土上層は黒褐色砂混粘土、下層は黄灰色粘質土等からなる。

埋土からは中世頃の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なくSKo04の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。

SKo05 (第 147 図)

C9区北半部北東隅で検出した土坑である。SDo05と重複し、SDo05より後出する。平面は不整円形状、断面は椀底状を呈する。長径1.1m、短径0.9m、深さ約0.25mを測る。埋土は黄灰色砂混粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。出土遺物が少なくSKo05の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。



第 147 図 SKo04・05 平・断面図

溝状遺構

SDo04 (第 148 図)

C9 区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SRo02 の上面で検出した溝跡で、検出状況から SRo02 より後出する。検出長約 9.5 m、幅 0.6 ～ 1.2 m、深さ約 0.18 m、主軸方位 N46.5° W を測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、黄灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶器等が少量出土した。1188 は 11 世紀頃の土師器羽釜の上半部である。出土遺物から SDo04 は中世後半以降の溝跡と考えられる。

SDo05 (第 148 図)

C9 区北半部中央で検出した東西方向へ延びる直線気味の溝状遺構である。SDo05 は SDo06・08 と重複しこれらの溝跡より後出する。検出長約 18.5 m、幅 0.8 ～ 1.0 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N72.5° E (N17.5° W) を測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し数層に分かれる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦質土器・陶器等が出土した。1189・1190 は土師器小皿、1191 は土師器杯、1192 は須恵器椀、1193 は瓦質鉢、1194 は土師器鍋、1195 は土師器足釜、1196 は須恵器壺の上半部、1198 は須恵器甕上半部である。出土遺物や他遺構との関係から、SDo05 は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

SDo06 (第 148 図)

C9 区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の 3 条の溝のうち東側の細い溝状遺構である。北半部中央で SDo05 と重複し、SDo05 より先行する。検出長約 14.0 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N36° E を測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1199 は土師器鍋口縁部である。出土遺物から、SDo06 は中世後半以降の溝跡と考えられる。

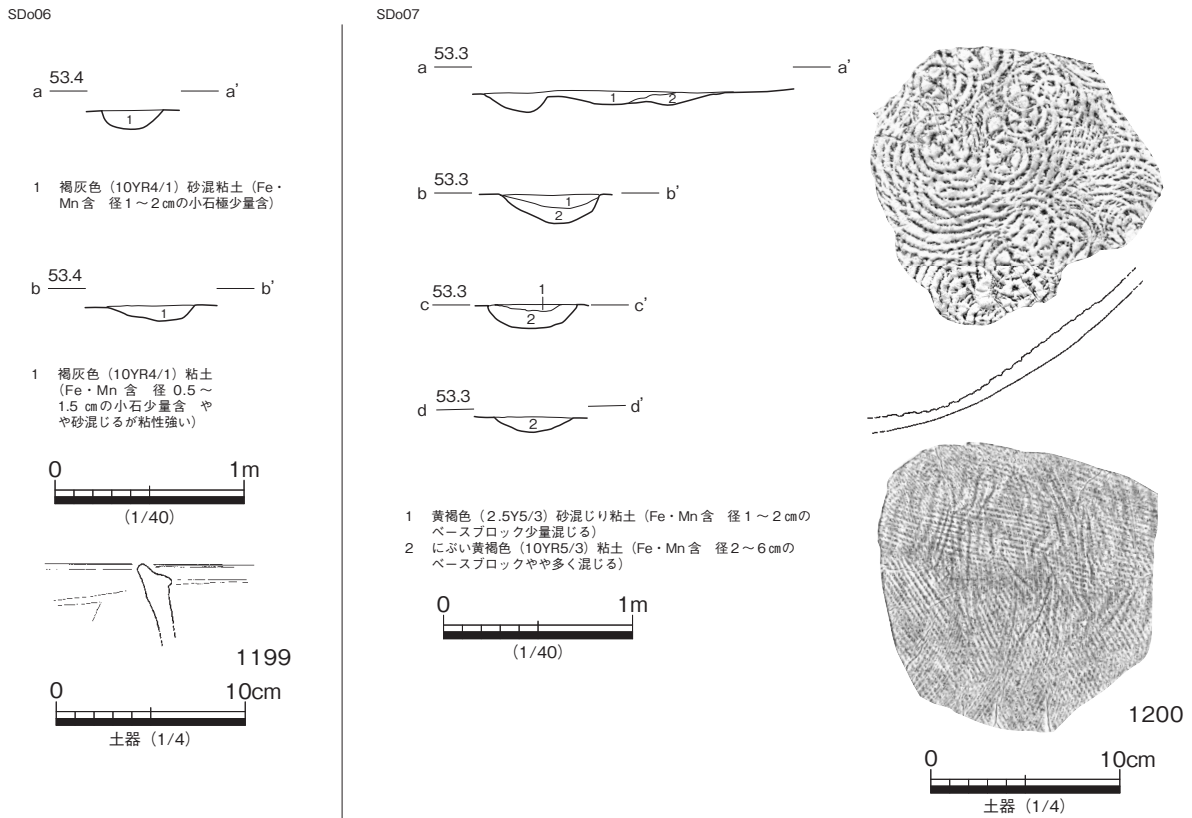
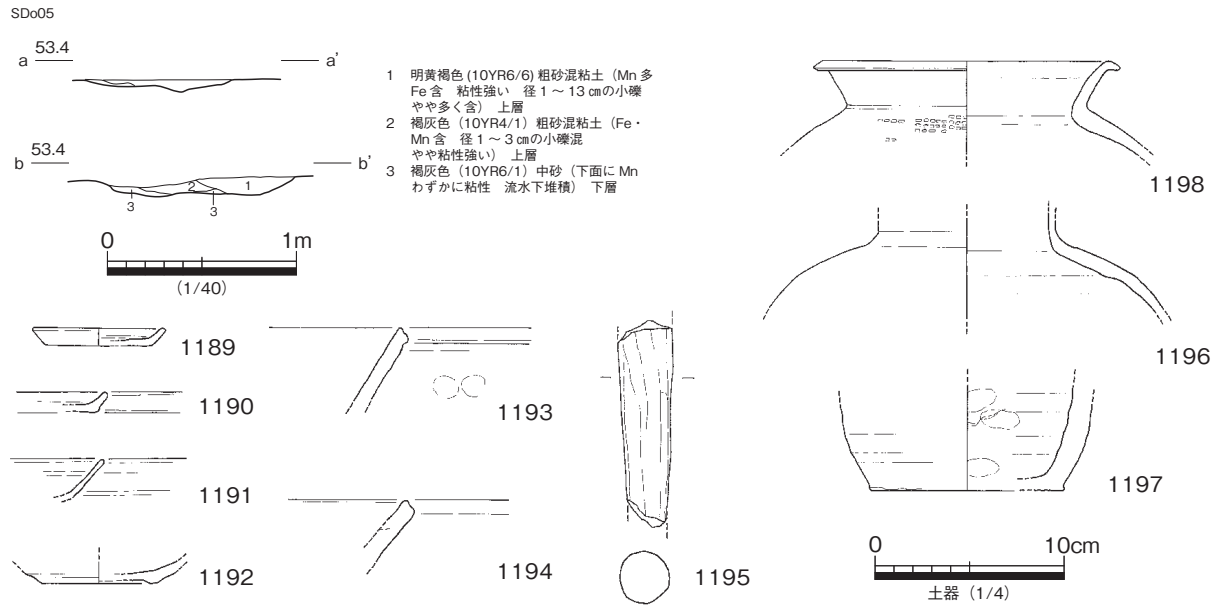
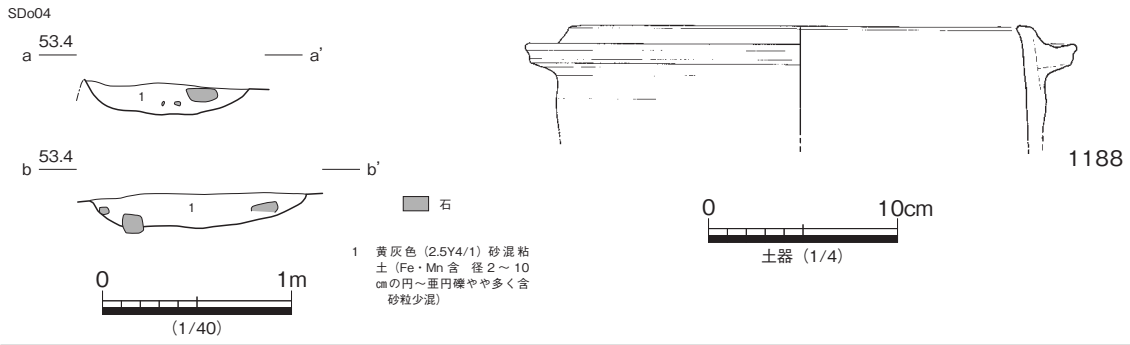
SDo07 (第 148 図)

C9 区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の 3 条の溝のうち中央の細い溝状遺構である。北半部中央で SKo03・05・12 と重複し、SKo03・05・12 より先行する。また、北東端部で SXo01 に合流する。検出長約 25.0 m、幅 0.6 ～ 1.3 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N36° E を測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は明黄褐色や褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

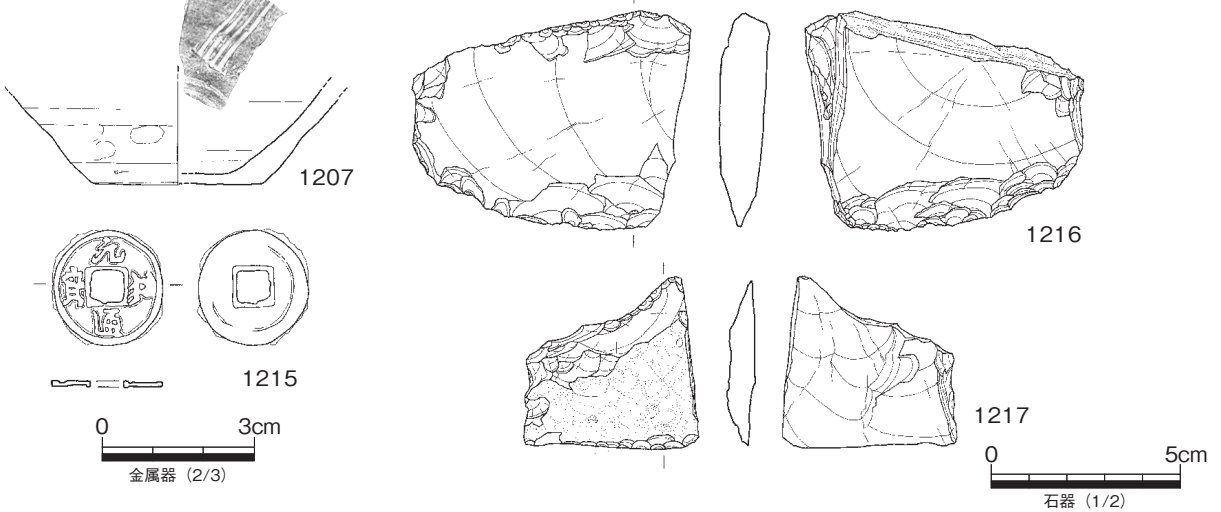
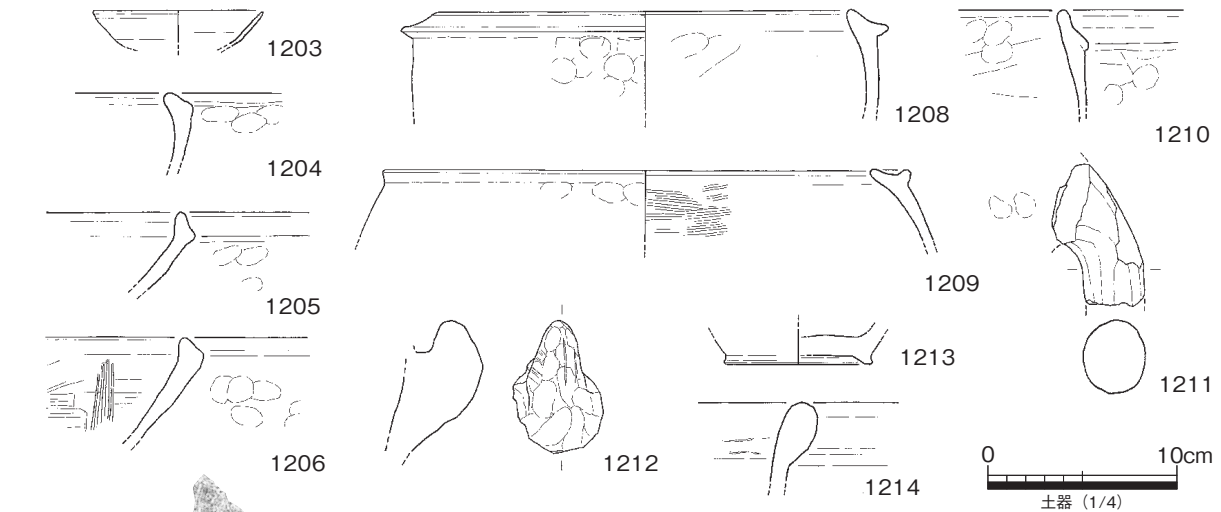
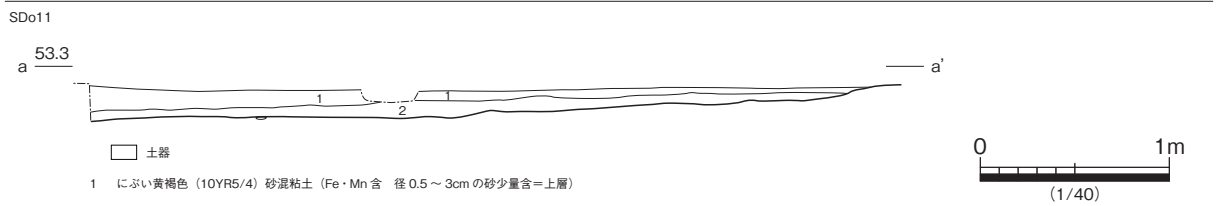
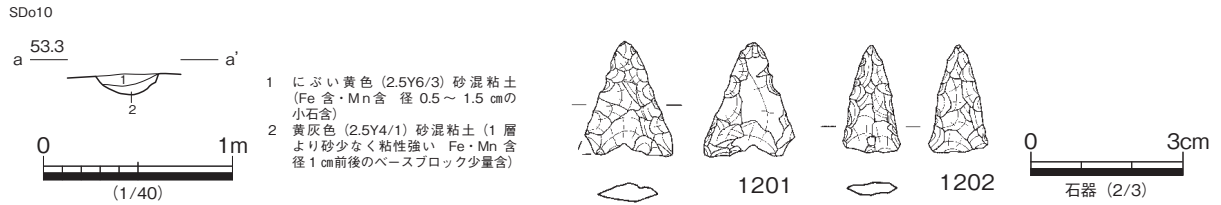
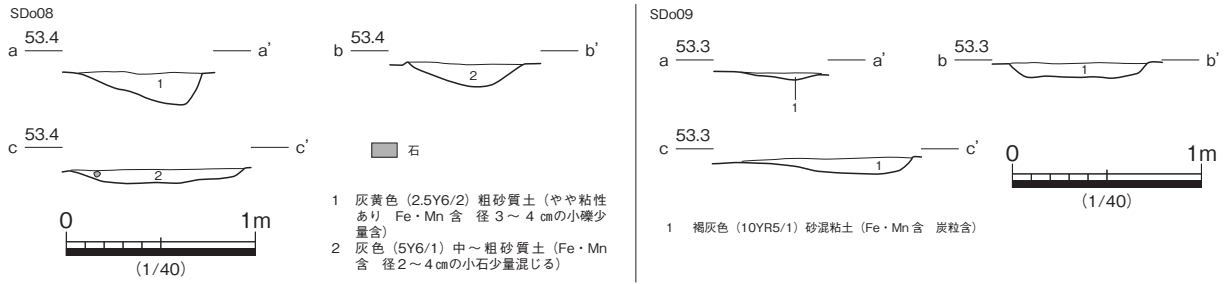
埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1200 は須恵器甕の体部片である。出土遺物や他遺構との関係から SDo07 は中世後半以降の溝跡と考えられる。

SDo08 (第 149 図)

C9 区北半部南よりで検出した北西～北東方向へ湾曲気味に延びる直線状の細い溝状遺構である。SBo02・04、SDo05 と重複し、これらの遺構より先行する。検出長約 15.5 m、幅 0.6 ～ 0.9 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m を測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿～略 V 字状を呈し、埋土は灰黄色・灰色系の粗砂質土からなる。



第148図 SDo04・05・06・07 断面図, 出土遺物



第 149 図 SDo08・09・10・11 断面図, 出土遺物

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo08 は概ね中世以降の溝跡と考えられる。

SDo09 (第 149 図)

C9 区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の 3 条の細い溝跡のうち西側の溝状遺構である。南半部では SDo10 が北西方向に向けて分岐する。SDo12 と重複し、SDo12 より後出する。検出長約 22.0 m、幅 0.4 ～ 1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが他遺構と関係から、SDo09 は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

SDo10 (第 149 図)

C9 区北半部で検出した SDo09・SXo03 から北西方向へ分岐する溝状遺構である。北端部では SDo11 と重複し、この溝より先行する可能性が高い。検出長約 5.0 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は不整形で浅い碗底状を呈する。

埋土からは土師器細片、石器が少量出土した。1201・1202 はサヌカイトの石鏃で、混入品と考えられる。SDo10 は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、他遺構との関係から SDo10 は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

SDo11 (第 149 図)

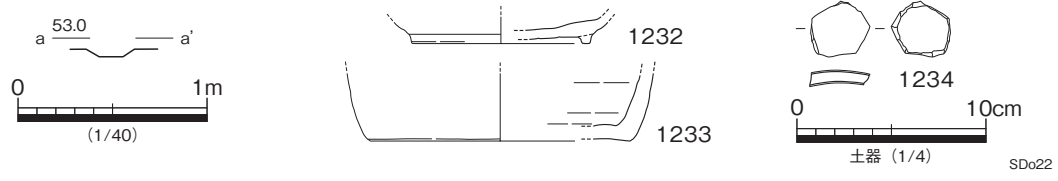
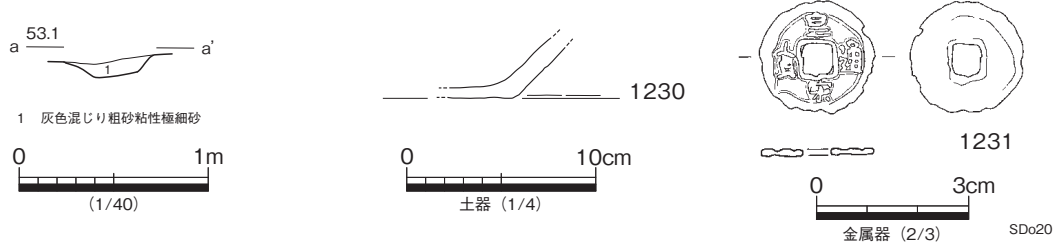
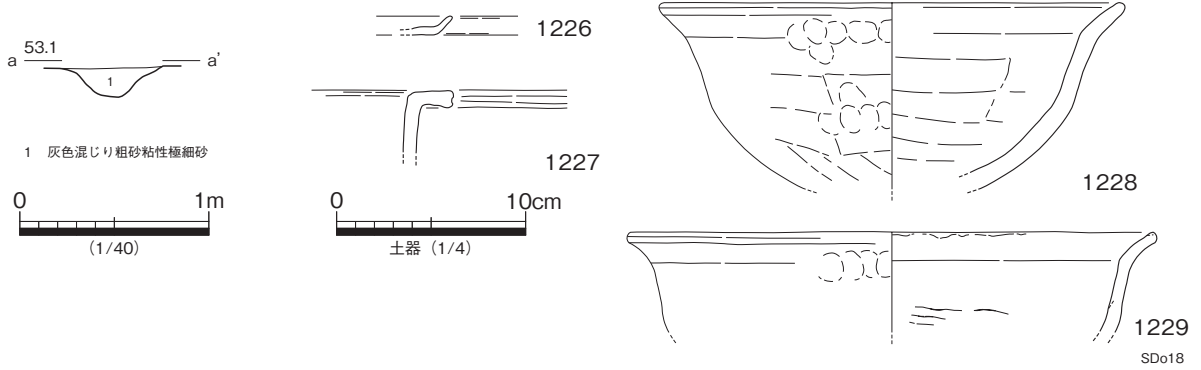
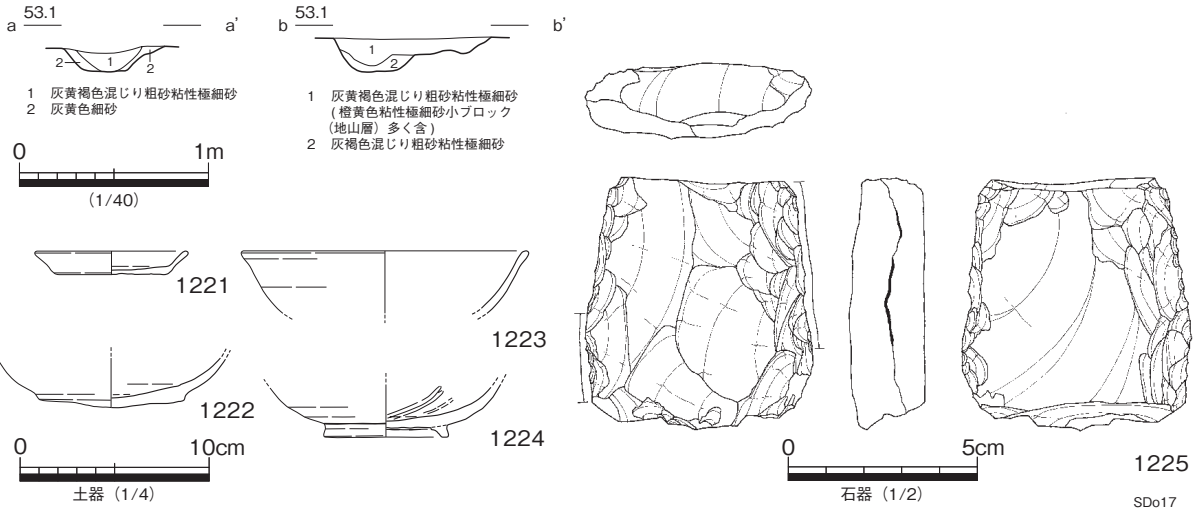
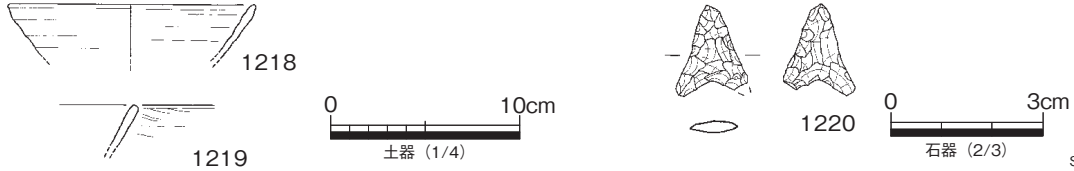
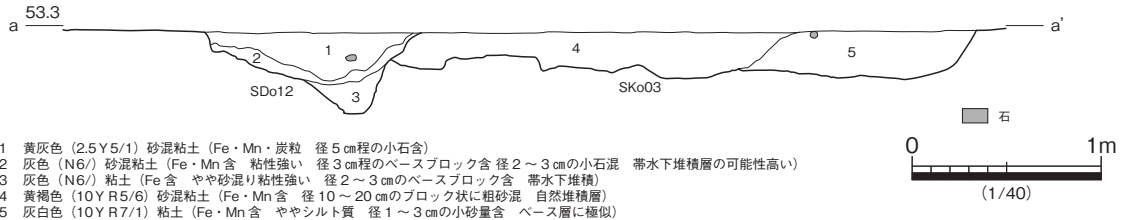
C9 区北西端部で検出した幅広の溝状遺構で、検出状況から F12 区の SDe51・E10 区 SDo23 等の地境溝と同様の溝状遺構である。調査区の問題で東肩の部分調査になった。検出長約 12.0 m、幅 4.5 m 以上、深さ約 0.2 m 以上を測る。断面は浅い落ち込み状を呈し、埋土はにぶい黄燈色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶器、銭貨、石器等が出土した。1203 は土師器杯、1204・1205 は土師器捏鉢、1206 は土師器播鉢片である。1207 は陶器の播鉢である。1208・1210・1211 は 14 ～ 15 世紀頃の土師器足釜、1209 は土師器鍋、1212 は土師器甑の把手部である。1215 は中国銭で「元祐通宝」(1086 ～ 1094 年)である。1216・1217 は横長剥片を素材にし、エッジに調整を施したサヌカイトの削器である。出土遺物や他遺構との関係から、SDo11 は 15 ～ 16 世紀頃の中世末以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDo12 (第 150 図)

C9 区北半部で検出した東西方向へ短く延びる溝状遺構である。SDo12 は SDo05・09、SKo03 と重複する溝状遺構で、切り合い関係より、この溝より先行するのは SDo05、SKo03、後出するのは SDo09 である。検出長約 4.4 m、幅 1.05 m、深さ約 0.4 m を測る。断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈し、埋土は黄灰色～灰色系の砂混り粘土・粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等が出土した。1218 は底部を欠く土師器杯、1219 は須恵器碗、1220 はサヌカイトの石鏃で混入品であろう。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や他遺構との係わりから SDo12 は中世以降の溝跡と考えられる。



第150図 SDo12・17・18・20・22 断面図, 出土遺物

SDo17 (第 150 図)

E10 区南西隅付近に位置する南壁から西壁に向けて延びる不整形な溝跡である。南壁際から調査区外へ延びる。その延長には E9W 区の SDo30～32 が位置することから、それらの溝跡に連続している可能性が高い。また、この溝跡は SDo14・15・20 等の溝跡と重複する。前後関係では SDo17 は、先述した全ての溝跡より後出する。検出長約 19.0 m、幅 0.5～0.8 m、深さ 0.1～0.2 m を測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰黄褐色～灰褐色系の細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器が少量出土した。1221・1222 は土師器杯である。1223 は底部を欠く土師器碗、1224 は口縁部を欠く黒色土器碗である。1225 はサヌカイトの石斧であるが、短辺に裁断面が認められることから石斧転用の楔形石器に分類した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や他遺構との係わりから SDo17 は概ね 12 世紀頃の中世前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDo18 (第 150 図)

E10 区南西隅付近に位置し SDo17 から東方向へ二股に分岐する小溝である。この溝の延長に所在する SDo19 は本来同一の溝状遺構と考えられる。SDo21・25 と重複するが、切り合い関係から SDo18 はこれらの溝より先行する。検出長約 9.0 m、幅 0.5 m、深さ 0.15 m を測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。1226 は土師器小皿、1227 は土師器甕の口縁部片である。1228・1229 は弥生土器で底部を欠く鉢である。

SDo20 (第 150 図)

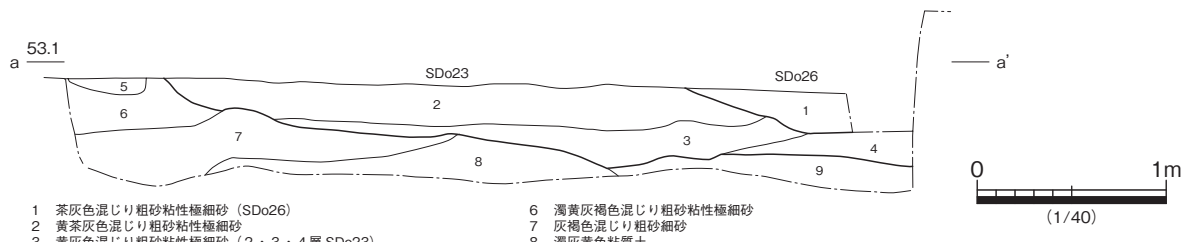
E10 区の南壁際を東西方向へ延びる溝状遺構である。SDo14・15・17、SXo05 と重複するが、切り合い関係から SDo20 はこれらの溝より後出する。検出長約 28.5 m、幅 0.4～1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1230 は土師器鉢底部片、1231 は中国銭で「皇栄通宝」(1038～1040 年) である。出土遺物や検出状況から SDo20 は中世前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

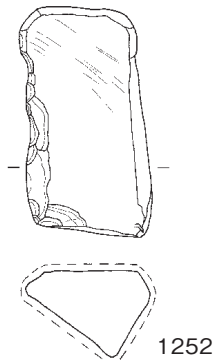
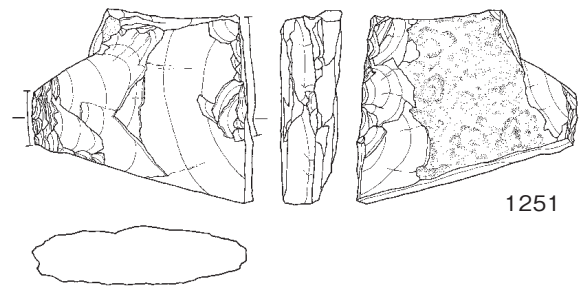
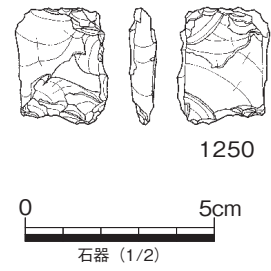
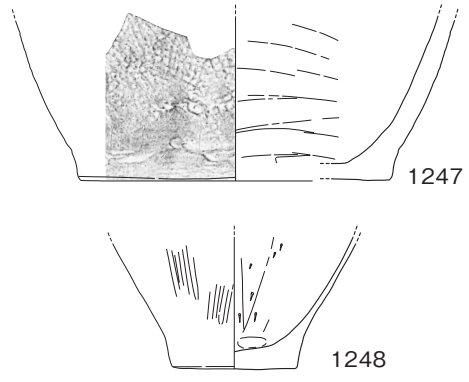
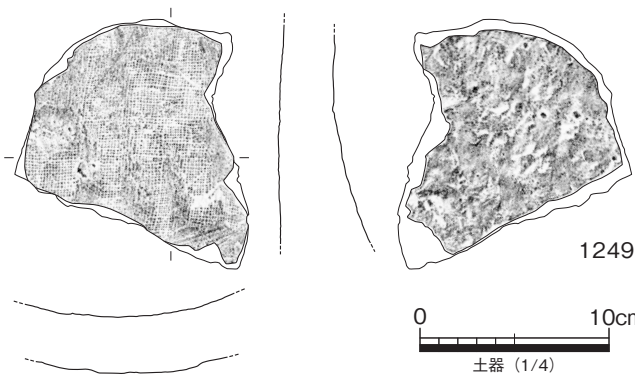
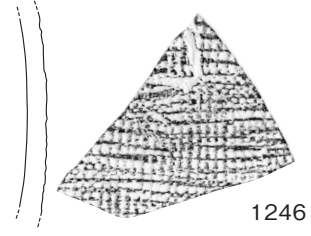
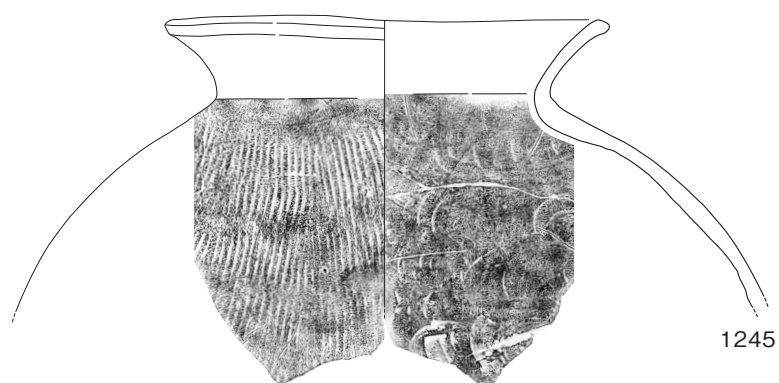
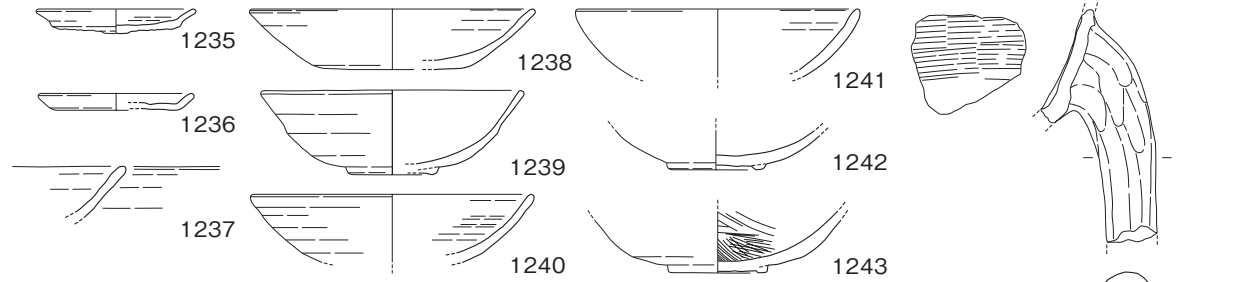
SDo22 (第 150 図)

E10 区南西隅付近に位置する南北方向の、SDo18 から SDo20 の方向へ延びる小溝である。SDo17・18・20 等と重複し、SDo17 を切り込み SDo20 に切られていることから、前後関係としては、SDo20 より先行し、SDo17 より後出する。検出長約 4.0 m、幅 0.6 m、深さ 0.05 m を測る。

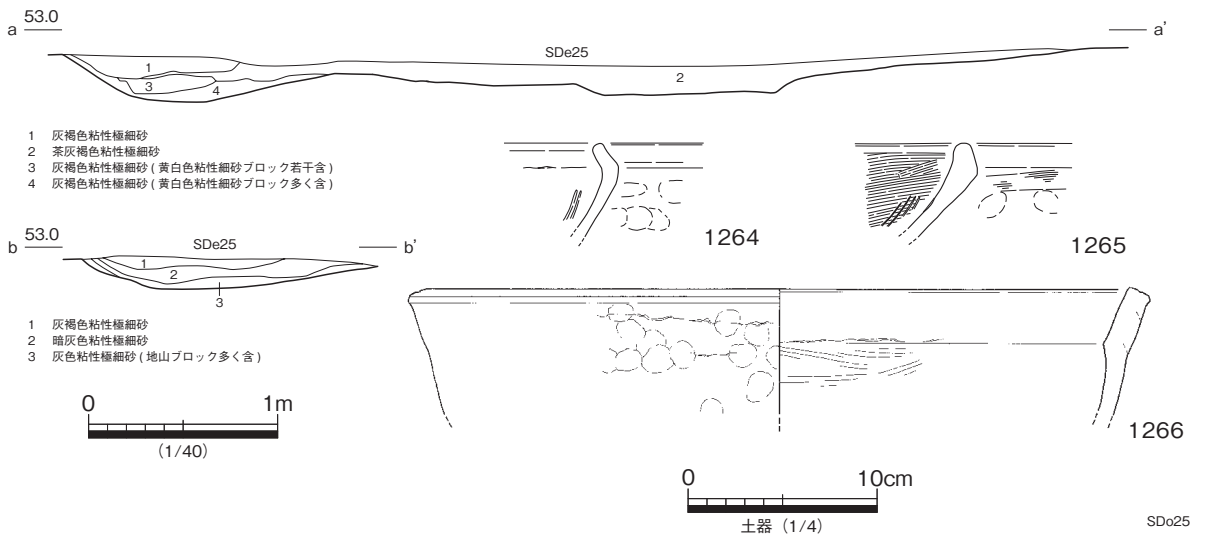
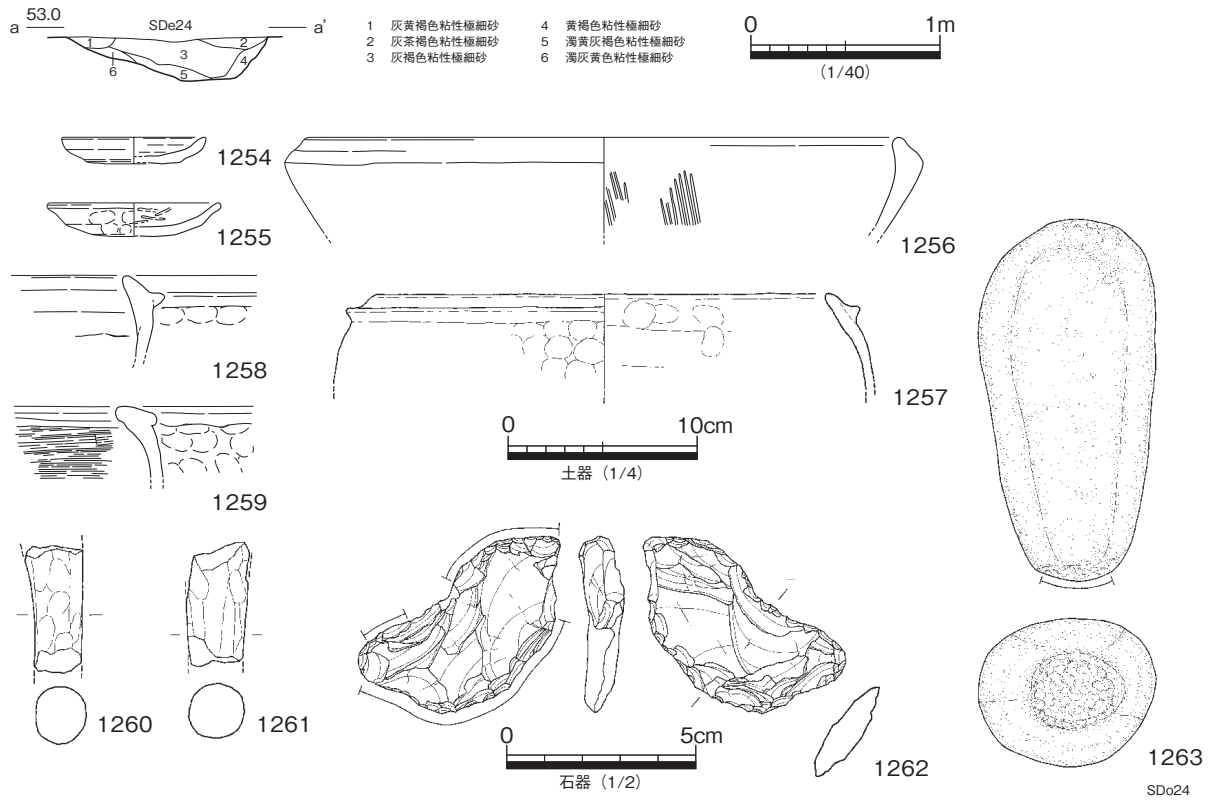
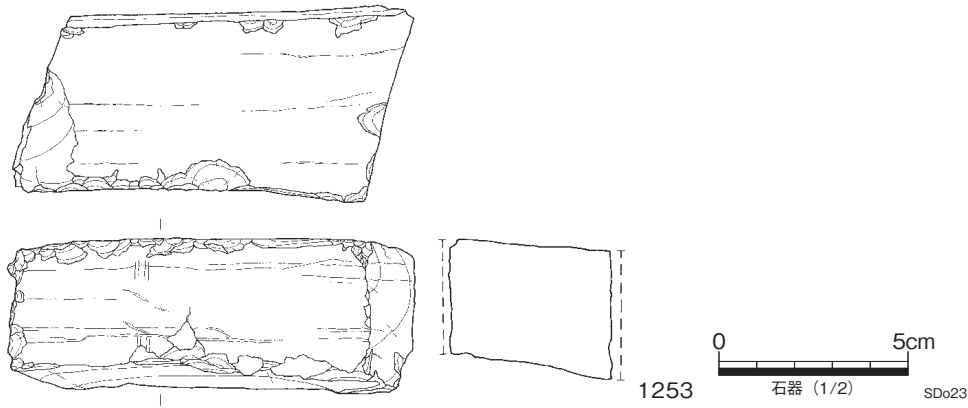
埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・磁器が少量出土した。1232 は須恵器杯の底部である。1233 は須恵器壺底部片である。1234 は青磁片転用の円盤状土製品である。全体的に須恵器片が比較的多い。8～9 世紀代の遺物が出土しているが混入遺物と考えられ、SDo22 は中世前半以降の溝跡の可能性が高い。



- 1 茶灰色混じり粗砂粘性極細砂 (SDo26)
- 2 黄茶灰色混じり粗砂粘性極細砂
- 3 黄灰色混じり粗砂粘性極細砂 (2・3・4層 SDo23)
- 4 暗褐色粘性極細砂
- 5 灰黄褐色混じり粗砂粘性極細砂
- 6 濁黄灰褐色混じり粗砂粘性極細砂
- 7 灰褐色混じり粗砂細砂
- 8 濁黄灰色粘質土
- 9 濁黄茶灰色混じり粗砂細砂 (6~9層 SR)



第 151 図 SDo23 断面図, 出土遺物



第152図 SDo23～25 断面図，出土遺物

SDo23 (第 151・152 図)

E10 区東辺で検出した幅広の溝状遺構である。幅広の形状を呈するが、調査区の関係で西肩部だけを確認した。SB05、SDo24・26 等と重複し、切り合いより全ての遺構より先行する。なお、この溝跡より下位には、F12 区から連続する SRe01 の可能性が高い細砂層を主体にした堆積層を確認しているが、トレンチの断面で確認しているだけのため詳細な点は不明瞭である。検出長約 15.5 m 以上、幅約 4.0 m 以上、深さ約 0.4 m を測る。断面は浅い落ち込み状を呈し、埋土上層は黄茶灰色混じり粗砂粘性極細砂、下層は黄灰色～暗褐色粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、石器等が出土した。1235・1236 は土師器小皿、1237 は土師器杯、1238 須恵器杯、1239～1243 は 13 世紀前半頃の須恵器椀、1244 は土師器足釜脚部、1245 は須恵器甕の上半部、1247 は須恵器甕の下半部である。1248 は弥生後期前半古相頃の弥生土器の甕で混入品であろう。1250 はサヌカイトの剥片を素材に使い、短辺に裁断面が認められることから楔形石器に分類した。1251 は肉厚なサヌカイトの剥片を素材に用いた石核である。1252・1253 は砥石である。SDo23 は 13 世紀前半以降の中世前半に埋没した溝跡と考えられる。

SDo24 (第 152 図)

E10 区北辺で検出した幅広の溝状遺構で、西辺の SDo25 から連続する地境溝である。検出長約 18.5 m、幅 1.0～3.0 m、深さ約 0.5 m を測る。断面は不整形な椀底状を呈し、埋土は灰褐色粘性極細砂が主体を占める。

埋土からは弥生土器・土師器・瓦器、石器等が出土した。1254 は土師器小皿、1255 は瓦器小皿である。1256 は土師器播鉢上半部、1257・1258・1260・1261 は土師器足釜、1259 は土師器鍋の資料である。1262 はサヌカイト製の石器で、外周の潰れ痕が顕著なため楔形石器に分類した。1263 は円礫を素材にした敲石である。出土遺物から SDo24 は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDo25 (第 152・153 図)

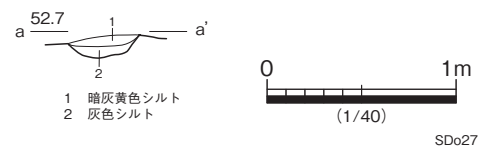
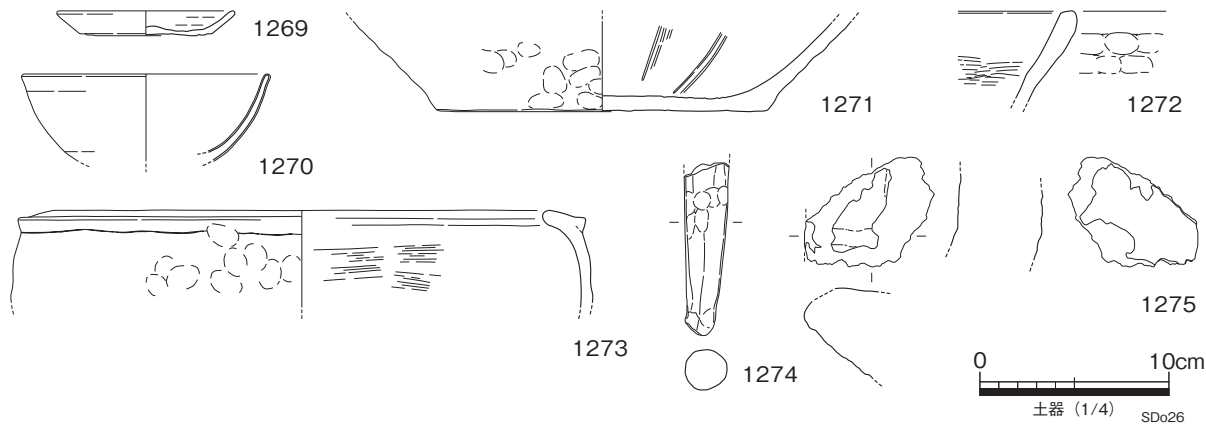
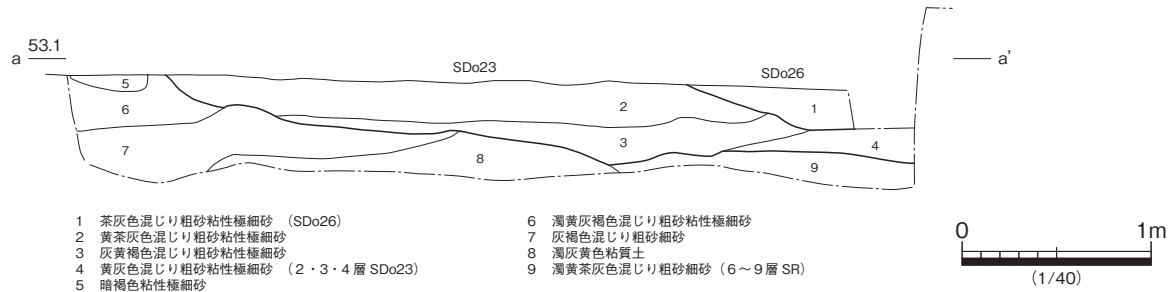
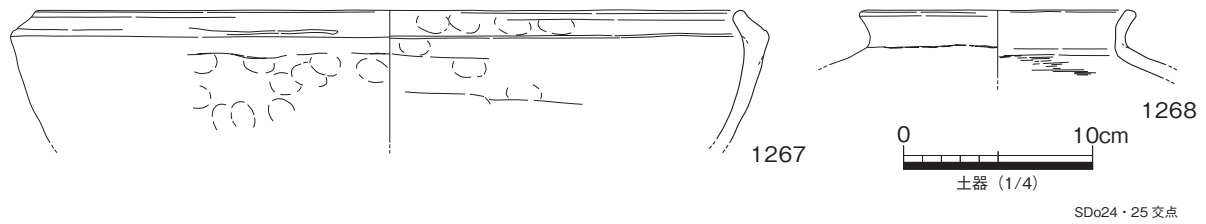
E10 区西辺で検出した幅広の溝状遺構で、北辺の SDo24 から連続する地境溝である。検出長約 13.0 m、幅 0.6～4.0 m、深さ約 0.25 m を測る。西端部の断面は浅い椀底状、他は浅い落ち込み状を呈する。埋土は灰褐色～茶灰褐色の細砂が主体を占める。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。1264・1265 は土師器播鉢、1266 は土師器鍋上半部である。なお、1267・1268 は SDo24 と 25 の交点付近で出土した土師器捏鉢と壺の上半部である。出土遺物から SDo25 は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。

SDo26 (第 153 図)

E10 区東辺で検出した溝状遺構で、北辺の SDo24 や西辺の SDo25 と同様の地境溝である。北辺の SDo24 とは重複し、切り合いからこの溝跡は SDo24 より後出する。検出長約 31.0 m、幅 1.1～1.2 m 以上、深さ約 0.2 m を測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は茶灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器等が少量出土した。1269 は土師器杯、1270 は底部を欠く青磁椀、1271 は土師器播鉢底部、1272・1273 は土師器鍋、1274 は土師器足釜、1275 は軒平瓦片である。出土遺物から SDo26 は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。



第 153 図 SDo24 ~ 27・30 ~ 32 断面図, 出土遺物

SDo27 (第 153 図)

E9e 区南端部で検出した東西方向の小溝である。北に向けて僅かに湾曲し、E6 区方面にまで続く。SRo03 と重複し、切り合いから SDo27 は SRo03 より後出する。検出長約 15.0 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は碗底状を呈し、埋土は灰色系シルトからなる。

埋土からは土器器・須恵器・瓦器片が極少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo27 は概ね 13 世紀後半～14 世紀頃の時期が考えられる。

SDo30～32 (第153図)

E9E・W区のSRo03の上面で確認した3条の小溝群である。配置からSDo31・32等はE10のSDo15・17に繋がる可能性が高い。削平を受けており残りが極めて悪い。SDo30:検出長3.5m、幅約0.4m、深さ0.05m、SDo31:検出長9.0m、幅約0.4m、深さ0.05m、SDo32:検出長9.5m、幅約0.5m、深さ0.05mを測る。

埋土からは土師器・須恵器の細片が数点出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、これらの溝跡はSDo15・17と連続する可能性が高いことから中世前半以降の溝跡の可能性が高い。

不整形遺構

SXo02 (第154図)

C9区北西端部で検出したSDo11の東肩の斜面部で検出した、不整形で短い溝状遺構である。SDo11との前後関係については不明瞭であるが、SXo02が先行する可能性が高い。検出長約3.0m、幅0.5～1.1m、深さ約0.6mを測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等が少量出土した。1276は12世紀後半頃の口縁部を欠く黒色土器碗の資料である。出土遺物からSXo02は12世紀後半以降に埋没した遺構と考えられる。

SXo03 (第154図)

C9区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の溝状遺構SDo09とSDo10との分岐点に所在する、不整形で幅広な落ち込み状の遺構である。長径約2.8m、短径約1.7m、深さ0.1mを測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器片が少量出土した。SXo03は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世前半以降の遺構と考えられる。

SXo04 (第154図)

E10区北半部中央よりで検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは極めて悪い。この遺構はSDo15・16と重複し、これらの遺構より後出する。平面は隅丸形状、断面は浅い皿状を呈する。埋土上層は褐灰色粘性極細砂、下層は濁灰黄褐色粘性粗砂からなる。

埋土からは土師器・陶器片が極少量出土した。1277は陶器の壺口縁部片である。

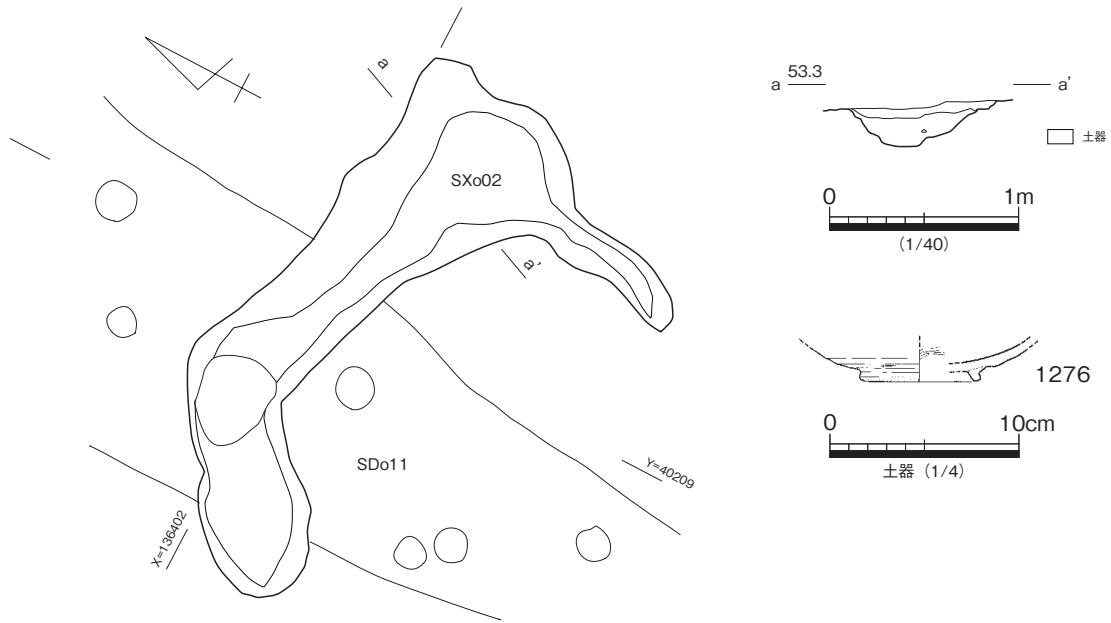
SXo05 (第155図)

E10区南西辺で検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは悪い。この遺構はSDo20・25と重複し、これらの遺構より後出する。平面は円形状、断面は浅い皿状を呈する。

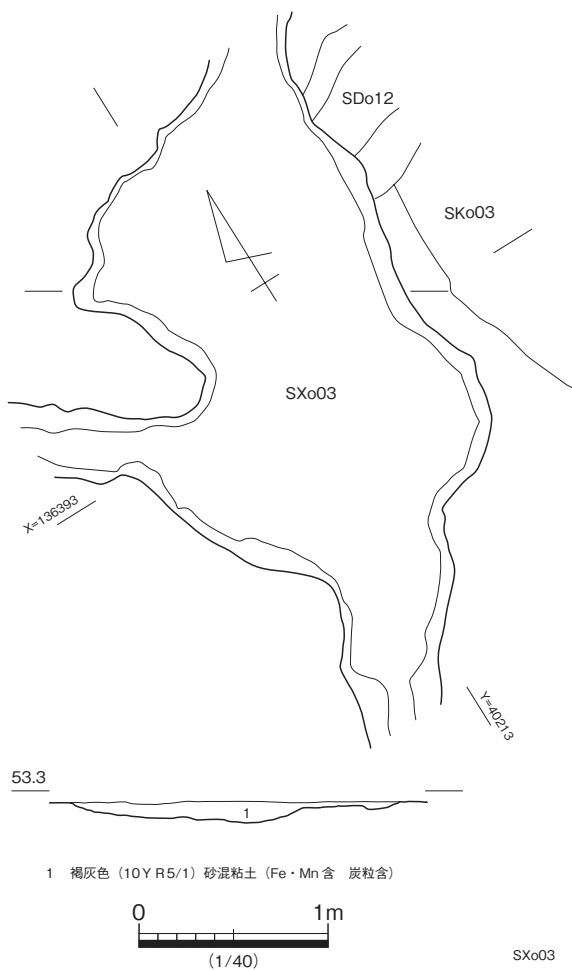
埋土からは土師器・須恵器及び染付片が少量出土している。1278は土師器播鉢、1279は土師器捏鉢、1280は土師器足釜の脚部片である。出土遺物からSXo05は中世末以降の時期が考えられる

SXo07 (第155図)

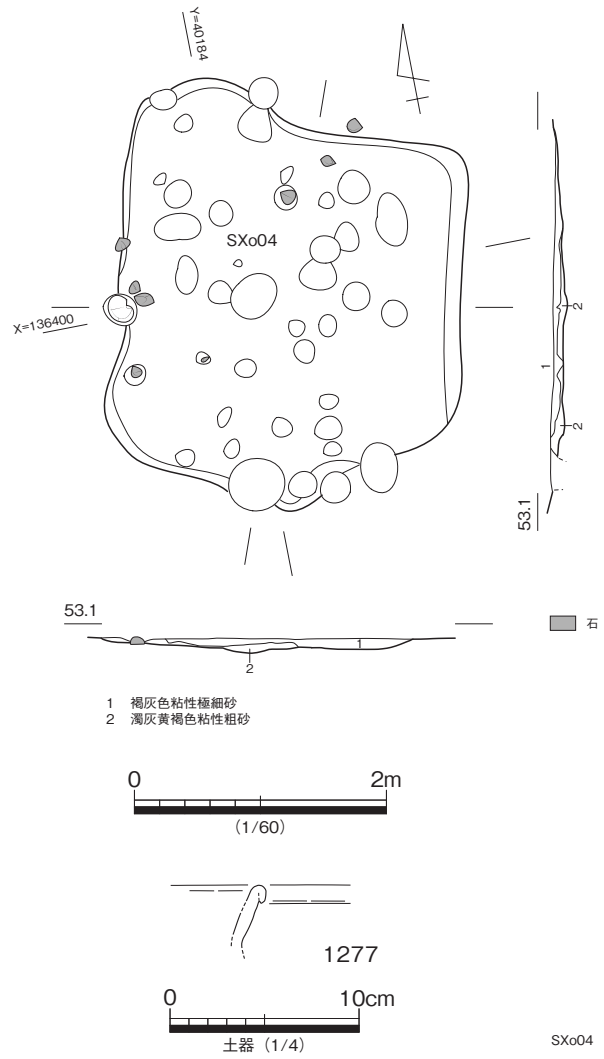
E9W区中央東壁際で検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは極めて悪い。この遺構はSRo03の上面を切り込んでいることから、前後関係ではSRo03より後出する。平面は隅丸長形状、



SXo02



SXo03

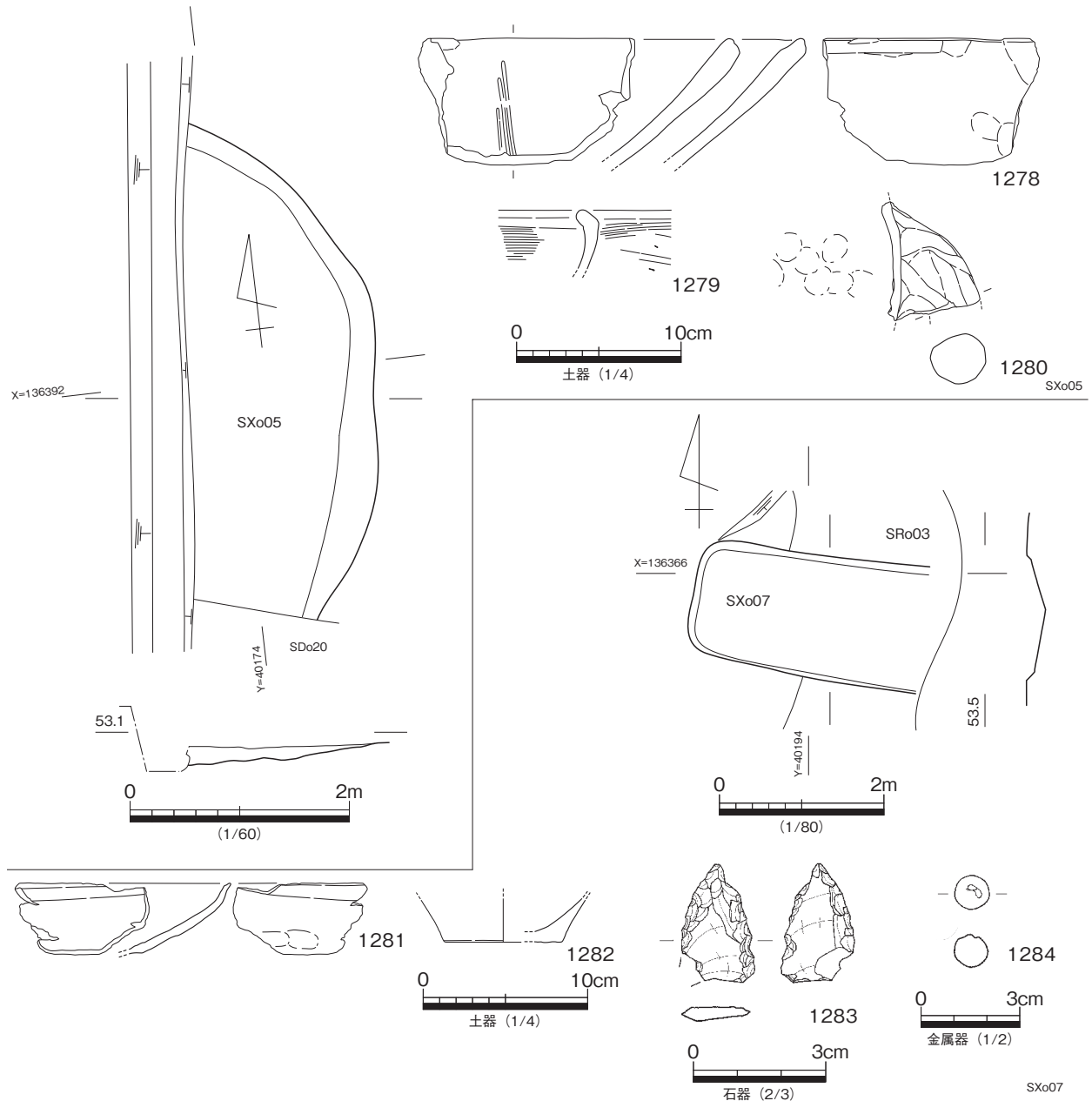


SXo04

第 154 图 SXo02 ~ 04 平·断面图, 出土遺物

断面は浅い皿状を呈する。長径 3.0 m 以上、短径約 1.6 m、深さ約 0.2 m を測る。

埋土からは縄文土器・弥生土器・土師器、金属器、石器等が少量出土した。1281 は縄文土器の浅鉢片である。1282 は弥生時代後期前半頃の甕底部片である。1283 はサヌカイトの石鏃である。1284 は鉛製の丸玉で、形状より火縄銃の弾丸の可能性が高い。なお、出土した縄文土器や弥生土器等はこの遺構の下位に存在する SRo03 から混入した遺物と考えられ、SXo07 は中世後半～近世以降の時期の可能性が高い。



第 155 図 SXo05・07 平・断面図，出土遺物

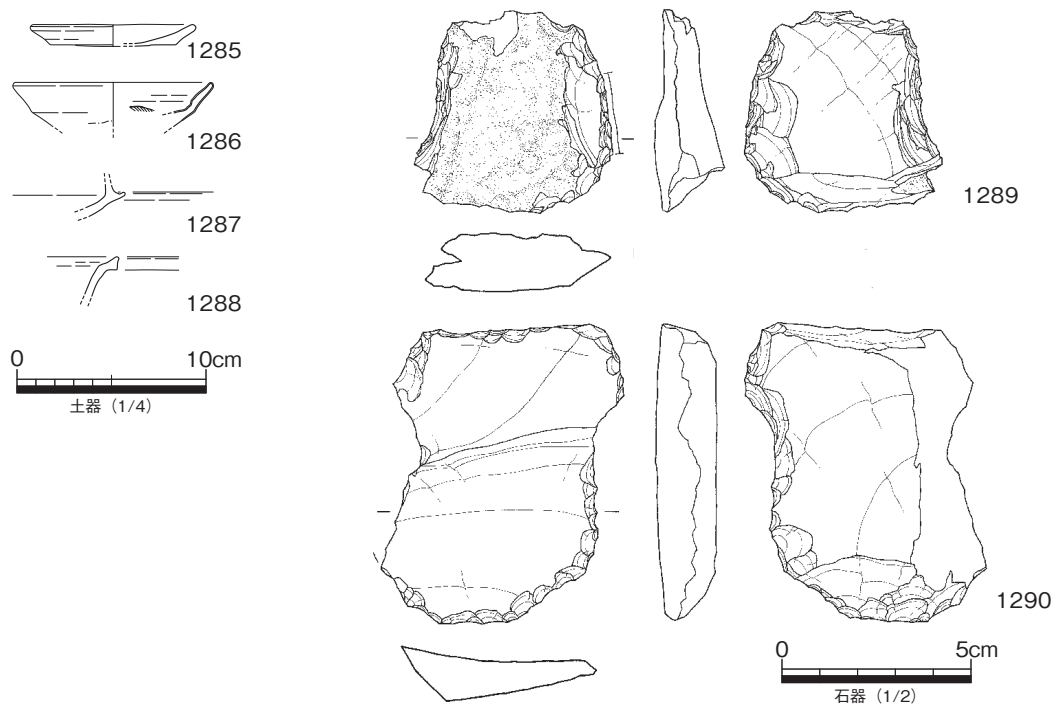
自然河川

SRo04 (第 156 図)

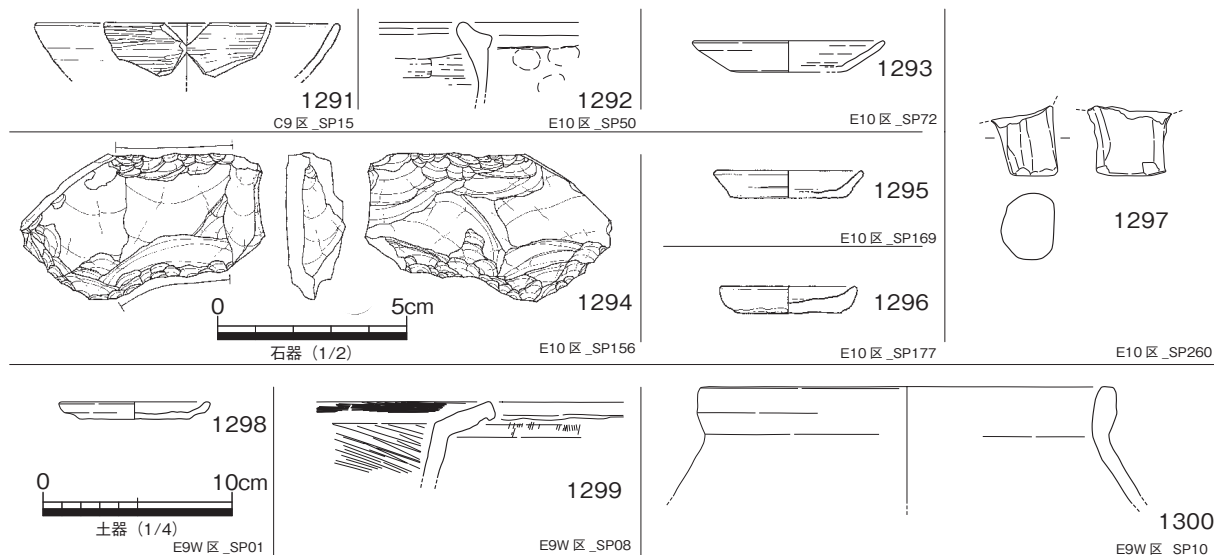
E9w 区の南半部に位置する。F7 区で検出した自然河川 SRo05 とほぼ同一の河川で、SRo04 は本来 SRo05 の北斜面にあたるものと考えられ緩い傾斜面からなる。SRo05 は弥生時代後期後半から埋没が

開始し最終的には古代の段階で平坦化するが、SRo04はSRo05の最上層にあたるためか、出土遺物の中に弥生土器を含まない代わりに混入品として中世遺物を含んでいるため、中世の範疇で報告することにする。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦質土器・磁器、石器等が出土している。1285は土師器小皿、1286は青磁皿、1287は須恵器杯身、1288は須恵器壺の口縁部片である。1289・1290はサヌカイトの石楯である。



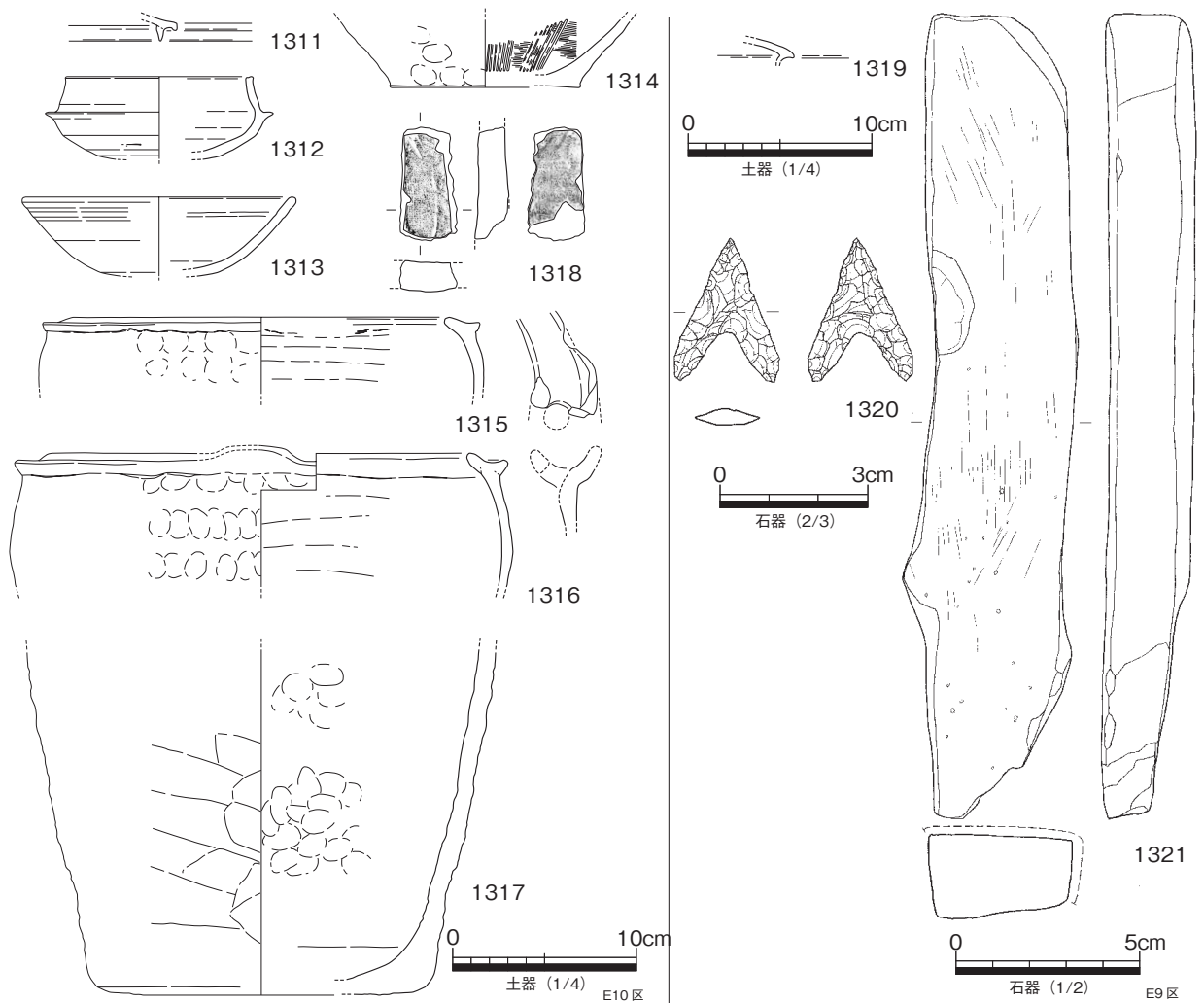
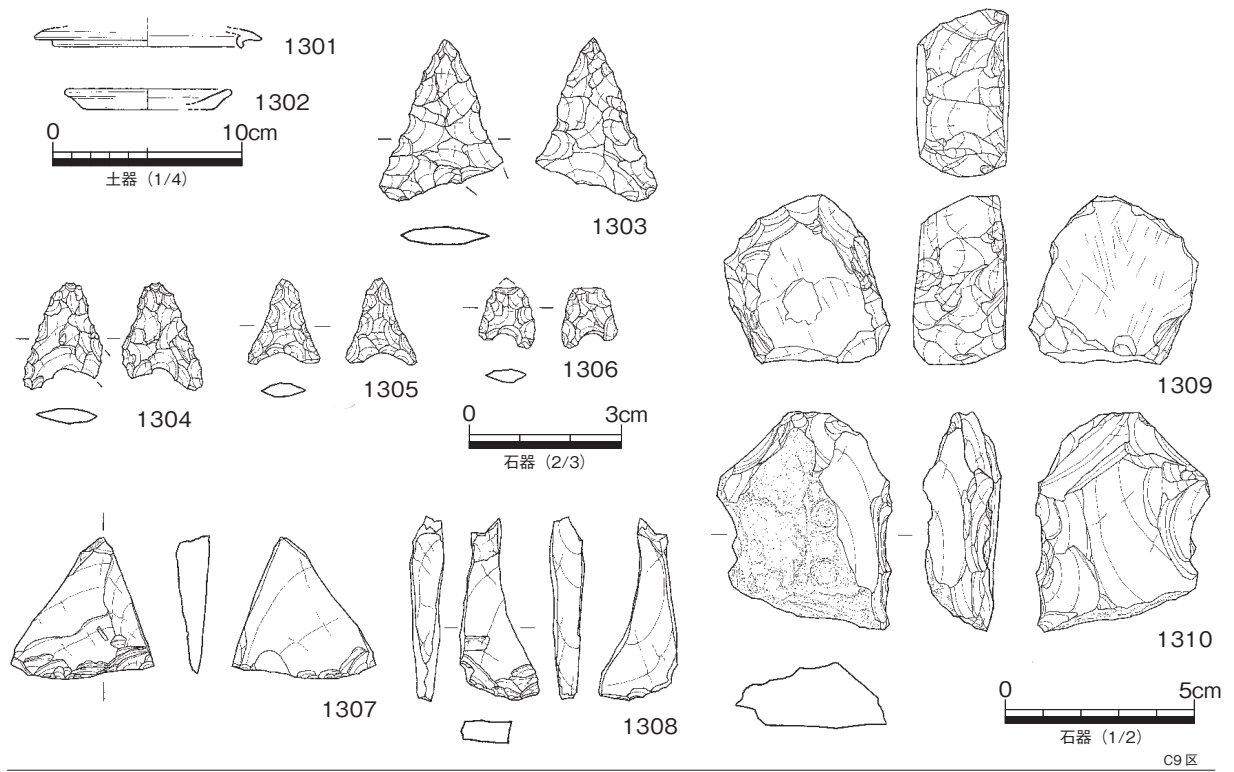
第156図 SRo04出土遺物



第157区 C9・E10・E9w区柱穴出土遺物

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第157・158図)

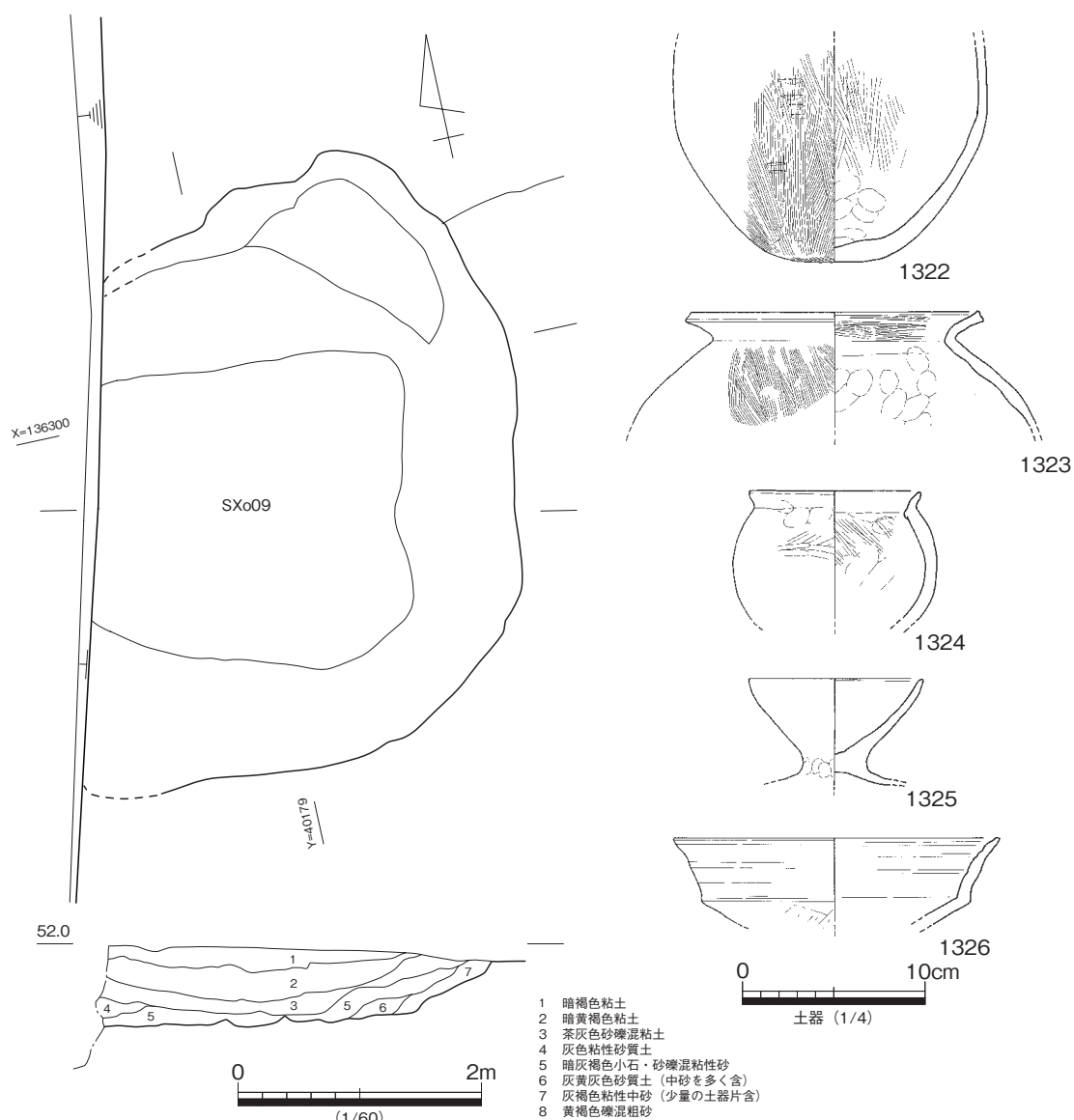
C9・E10・E9w・E9e区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。



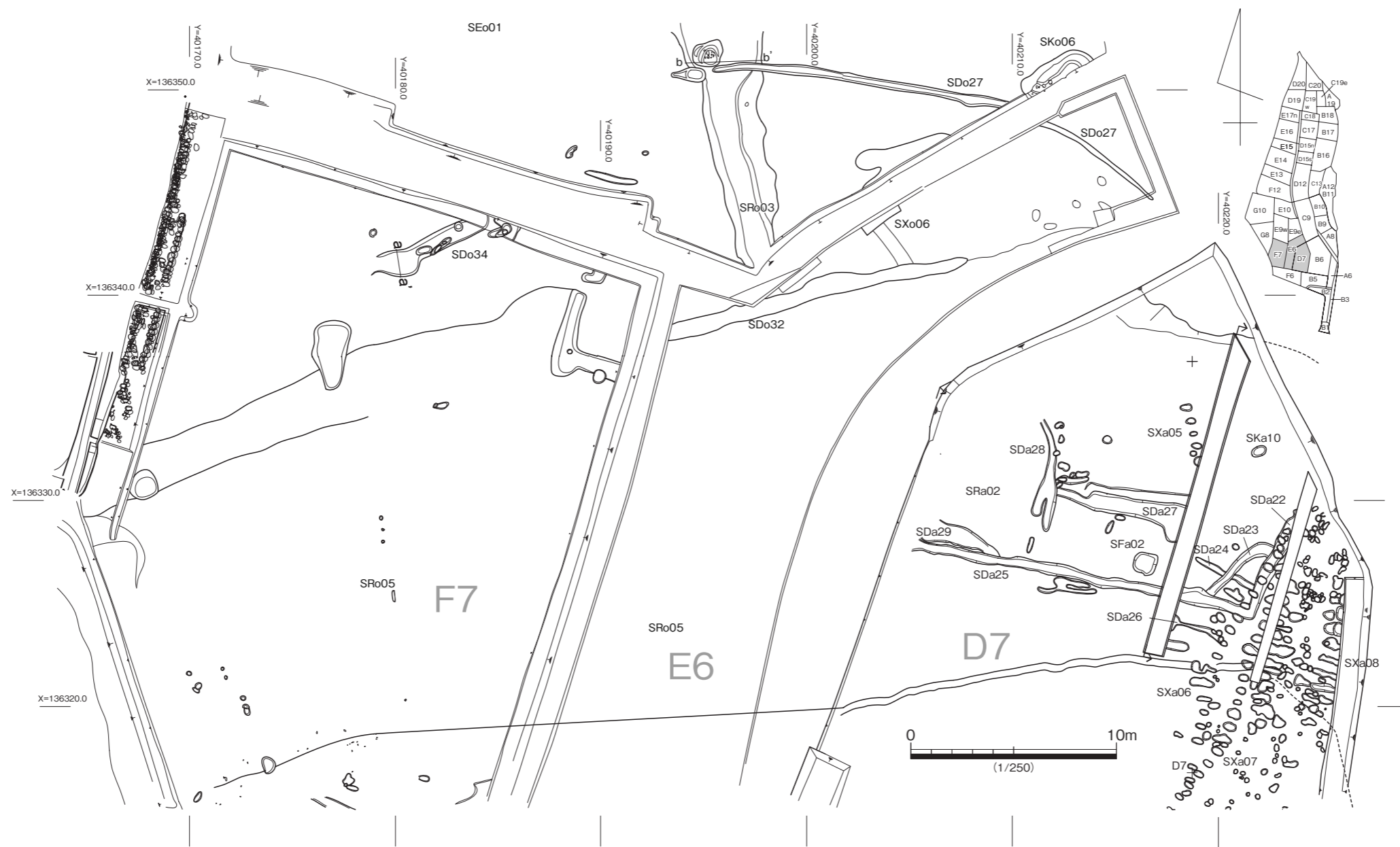
第158图 C9·E10·E9区包含层出土遗物

1291～1300は柱穴出土遺物である。1291はC9区、1292～1297はE10区、1298～1300はE9w区の柱穴出土遺物である。1291は瓦器椀上半部、1292は土師器鍋口縁部片、1293・1295は土師器杯、1297は土師器火鉢の支脚、1296・1298は土師器小皿、1299は土師器鍋口縁部片、1300は土師器壺上半部である。

1301～1310はC9区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1301は須恵器杯蓋、1302は土師器小皿、1303～1306はサヌカイトの石鏃、1307はサヌカイトの削器、1308はサヌカイトの楔形石器の削片、1310はサヌカイトの石核である。1311～1318はE10区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1311～1313は須恵器杯で、1311は7世紀前半の杯蓋、1312は5世紀末の杯身である。1314は土師器播鉢、1315・1316は土師器把手付鍋である。1319～1321はE9e区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1319は7世紀前半の須恵器杯蓋、1320はサヌカイトの石鏃で、形状から縄文時代の石鏃の可能性が高い。1321は棒状の砥石で、おそらく中世以降の遺物であろう。



第159図 SXo09 平・断面図, 出土遺物



第160図 F7・E6区 遺構配置図

2. F7・E6・F6・B5区

(1) 弥生時代の遺構・遺物

不整形遺構

SXo09 (第159図)

F6区西半部の第2遺構面上で検出した不整形な落ち込みである。この遺構はSRo08・09の上面を切り込んでいることから、前後関係ではSXo09はこれらの河川より後出する。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸のある椀状を呈する。長径5.5m、短径3.5m以上、深さ約0.7mを測る。

埋土からは弥生時代後期前半・後期後半新相頃の弥生土器が出土した。1322は壺の下半部、1323は甕の上半部である。1325は台付鉢である。1326は弥生時代後期前半新相頃の髙杯の杯部である。出土遺物よりSXo09は弥生時代後期後半新相以降に埋没した遺構と考えられる。

自然河川

SRo05 (第162・163図)

F7・E6区の中央を東西方向に延びる自然河川で、A6区を東端とし、B6・D7区を経由しE6・F7区へ延びる幅広な大型の自然河川である。SRo05は綾川の一時期の支流と考えられ、調査対象地より南東方向にある綾川の氾濫原より末則丘陵の南裾を通りA6・B6・D7区を経由し、最終的には調査区外の段丘崖へと抜けることが予想される。なお、この河川の東半部にあたるA6・B6・D7区の区間については平成17年度に刊行した「西末則I」で報告しているので参照していただきたい。また、河川の名称については同書ではSRa02と標記している。

検出長約68.0m、幅12.0m～27.0m、深さ0.6～1.2mを測る。断面の形状は隅丸逆台形状～浅い皿状を呈し、堆積層は複数層に分かれ、色調は灰色～黒褐色系、土質は粘質土～砂質土が主体を占める。堆積状況は地点により異なるが、概ね水平に堆積している箇所が主である。

調査に際しては堆積層中に予想された水田跡の検出に努めたが、遺構検出までには至らなかった。そのため、D7区の堆積層の中から数点プラント・オパール分析を実施し、プラント・オパールを抽出しており、河川の埋没が終了し河道内が概ね平坦化した頃に広範囲に水田化されたことは確実視されるが、その具体的な時期については問題を残している。

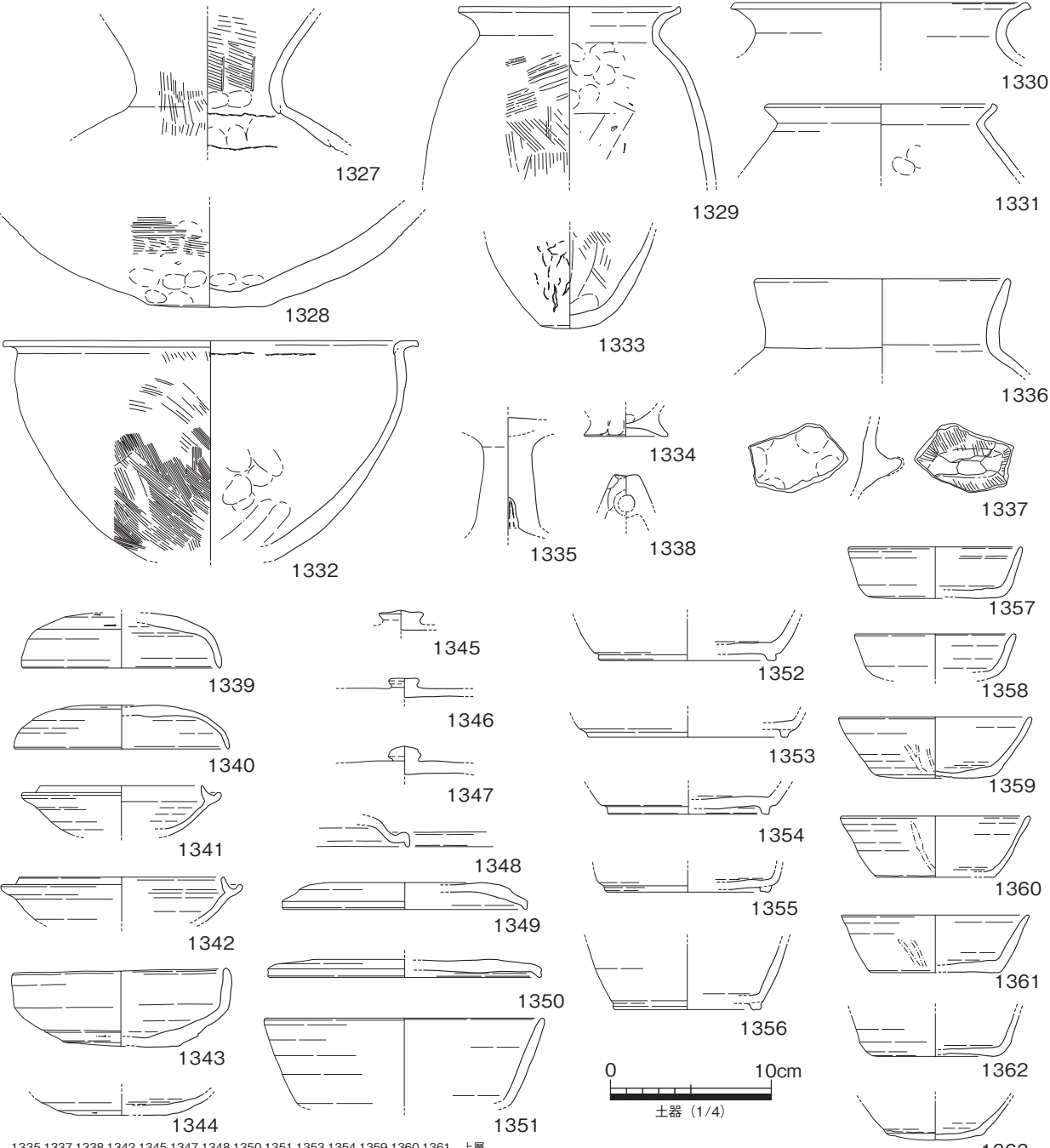
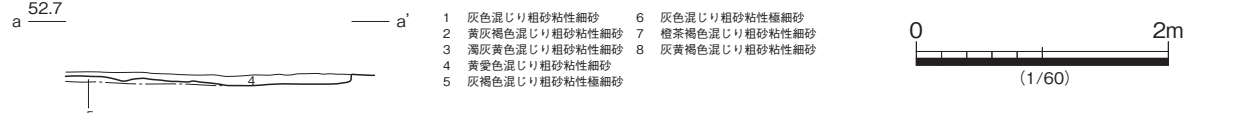
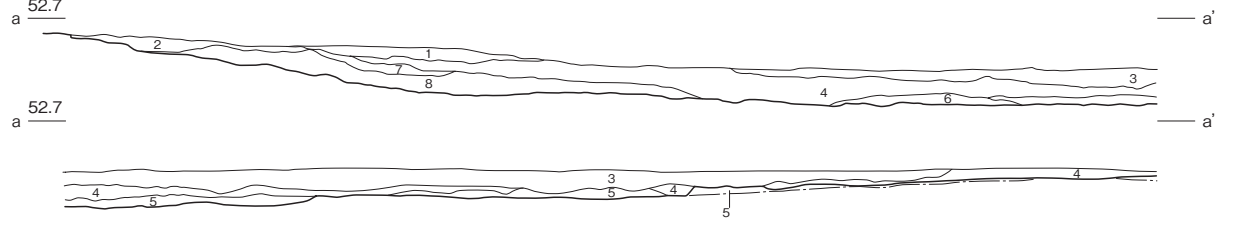
堆積層からは弥生土器・須恵器、石器等が比較的多数に出土した。1327～1335は弥生時代後期後半新相頃の弥生土器の資料である。1327・1328は壺の上半部と底部である。底部は僅かに平底を残してはいるが、終末期に含める選択肢もある。1329～1331は甕の上半部である。

1336～1338は古代の土師器や土製品である。1339～1379は7～9世紀頃の須恵器である。1339～1344は7世紀初頭～第2四半期頃の杯である。1345～1362は8～9世紀前半頃の杯である。1369・1370は6世紀後半と7世紀頃の髙杯脚部片である。1371・1372は平瓶の口縁部と把手部片で、1373はハソウの体部である。1374は大型の盤の底部で、1375は横瓶の体部片である。1376～1379は壺と甕の口縁部片である。

1380・1381は土師器杯、1382は黒色土器椀底部片、1383・1384は緑釉陶器の皿と椀である。1385は土師器羽釜の口縁部片、1386は土師器小皿である。

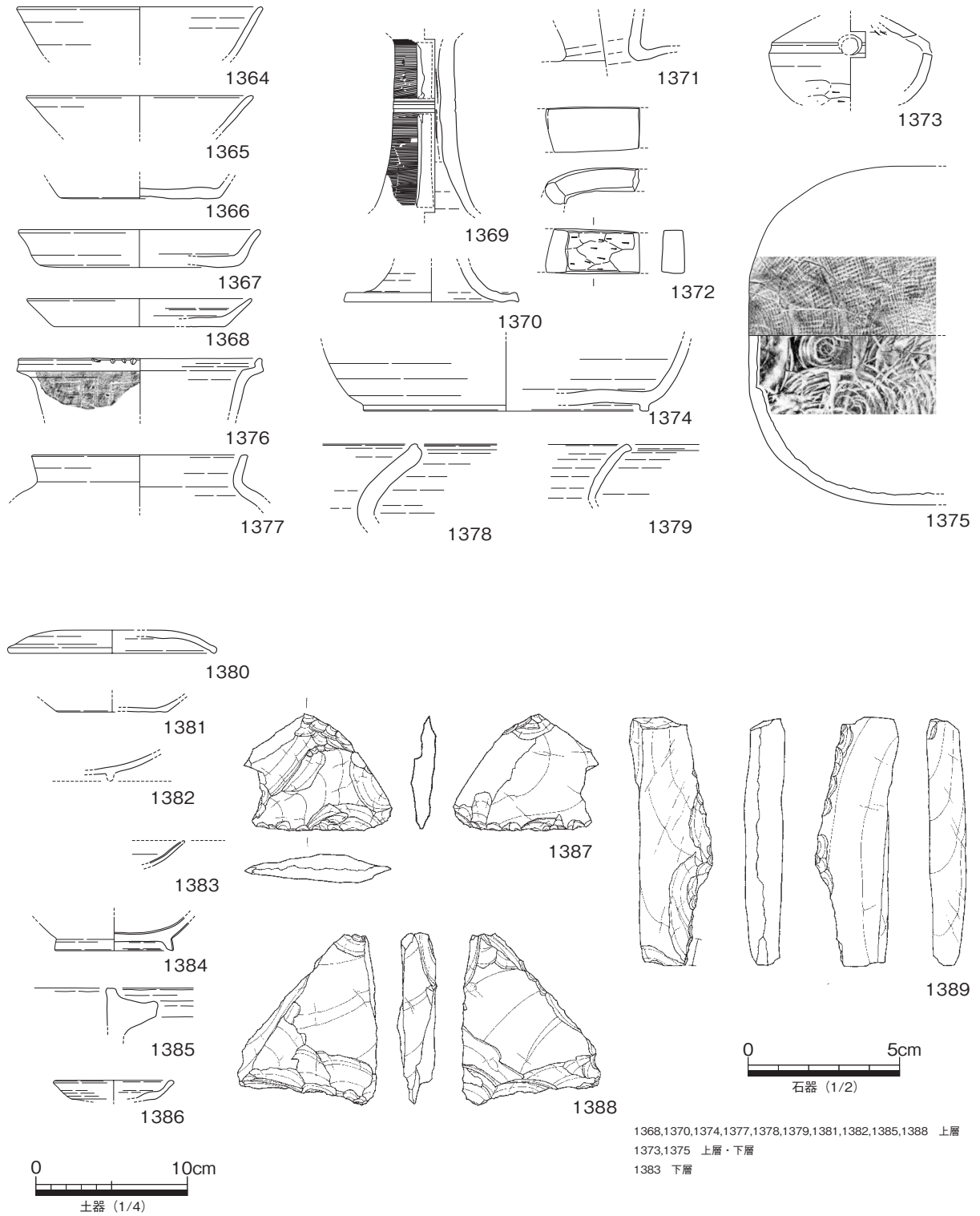
1387～1389はサヌカイトの石器である。1387は石庖丁片、1388は裁断面が認められる点から楔形石器に分類した。1389は形状から楔形石器の削片と考えられる。

F7_SR05 畦



1335,1337,1338,1342,1345,1347,1348,1350,1351,1353,1354,1359,1360,1361 上層
 1334 上・中層
 1336,1341,1343,1349 下層

第 162 図 SR05 断面図, 出土遺物



第 163 図 SRo05 出土遺物

SRo06

B5 区で検出した SRo07・09 より下位に所在する自然河川であるため、B5 区や F6 区で最も古い河川と考えられるが、トレンチの断面で確認した河川のため、規模・方向等不明瞭な河川である。また、出土遺物が採集できていないため時期判断には問題を残す。幅約 7.5 m 以上、深さ約 1.0 m を測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈する。

SRo07 (第 164 図)

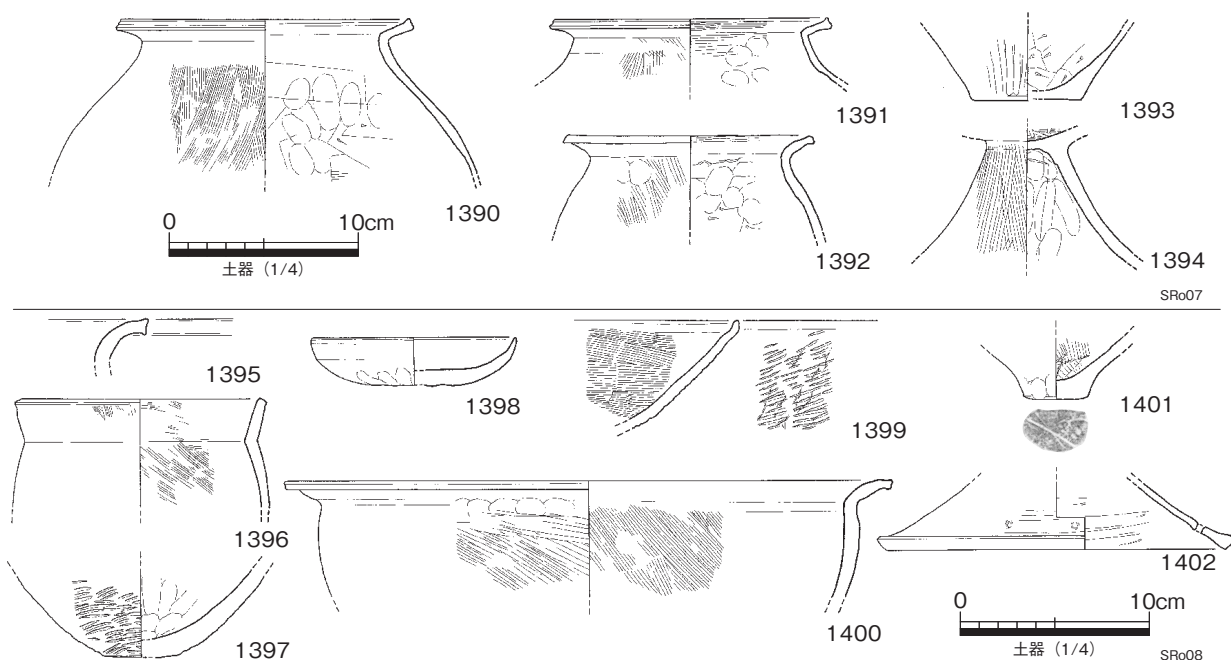
B5 区で検出した幅の狭い自然河川で、平成 17 年度に刊行した「西末則 I」で報告している B2 区の SRa03 と連続する可能性が高いが、SRo09 も SRa03 との連続する可能性が高いため、おそらく B5 区と B2 区間の未調査区域でこれらの河川は切り合うものと考えられる。この河川は SRo06・09 と重複するが、土層断面の切り合い関係から SRo06 より後出し、SRo09 より先行する。検出長約 28.0 m 以上、幅約 4.5 m 以上、深さ約 0.7 m を測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈する。複数の堆積層に分かれる。

堆積層からは弥生時代後期後半の土器が少量出土した。1390～1392 は甕の上半部で、1390・1391 は後期前半新相～後期後半古相頃の時期が考えられる。1393 は甕の底部片で、1390・1391 等のタイプの甕上半部に付くものと考えられる。1394 は高杯脚部の上半部である。

SRo08 (第 164 図)

F6 区の西端部で検出した不明瞭な河川で、平成 17 年度に刊行した「西末則 I」で報告している D7 区の SRa02 ないし B2 区の SRa03 と連続する可能性があるが、D7 区では上面検出だけの部分調査で終わっているため、河川の繋がりについては不明である。SRo09 と重複し、切り合い関係から SRo08 は SRo09 より先行する。検出長約 25.0 m 以上、幅約 12.0 m 以上、深さ約 0.7 m を測る。断面の形状は皿状を呈する。

堆積層からは弥生時代後期後半の土器が少量出土した。1395 は壺口縁部片である。1396・1397 は後期後半新相頃の甕の資料である。1398・1399・1400・1401 は鉢の資料である。1402 は高杯脚部の下半部である。



第 164 図 SRo07・08 出土遺物



第 165 図 F6・F7・E6・D7 河川配置図

SRo09・SXo13 (第 169～173 図)

F6・B5区で検出した幅広い自然河川で、平成17年度に刊行した「西末則I」で報告しているB2区のSRa03ないしSRa04を東限とし、F6・B5区の南半部を東西に横断する自然河川である。この河川はB5区ではSRo06・07、F6区ではSRo08と重複するが、土層断面の切り合い関係からSRo09はこれらの河川より後出する。検出長約65.0m以上、幅約15.0m以上、深さ約0.8mを測る。断面の形状は皿状を呈する。なお、SRo09の河床面上で1面(第3遺構面)、最終埋没面上で2面(第1・2遺構面)、合せて3面の遺構面を検出した。F6区第2遺構面前後からは弥生時代後期後半の土器溜りSXo13を検出した。土器溜りSXo13は長径7.6m、短径6.8mの楕円形状の形状を呈し、河川の埋没がほぼ終了した段階で、同一レベルの遺構面上に1405・1406・1408・1409・1414～1416・1420・1422・1423・1426・1429・1431・1432・1435・1441・1446・1447・1450・1451・1455・1456・1460・1462・1464・1466・1467・1472・1473・1485・1486・1489・1490等の多量の弥生土器が廃棄されていた。次に土器溜りSXo13の出土遺物を含め、堆積層中の出土遺物を順次報告する。

1403は縄文晩期の深鉢口縁部片で、唯一の縄文土器の資料である。1404～1433は壺の資料である。1405～1408は複合口縁の壺上半部である。1405・1407は鋸歯文が口縁部を巡る。1409～1413は広口壺の口縁部である。1414～1418は口縁部を欠く広口壺の頸部である。1420～1425は頸部の短い広口壺である。口縁部は「ハ」の字状に開き端部は平坦に仕上げる土器が主体を占める。1428は底部を欠く小型丸底壺である。

1434～1483は甕の資料である。1434～1463は甕上半部、1464～1483は体部～底部である。総体的な点で、口縁部は「ハ」字状に短く開くものと直立気味に短く延びる口縁とがある。体部は球体気味で外面にタタキを残すものと、タタキをハケでナデ消す土器とに分かれる。底部は少量丸底もあるが、僅かに平底を残している土器が主体を占める。

1485～1490は鉢の資料で、丸底でボール状のタイプと、口縁部を屈曲させるものに分かれる。1491は台付鉢、1492は高杯の脚部である。1493は器台の口縁部片で、外面には鋸歯文が巡る。1494はミニチュアの鉢、1495は製塩土器の脚台部で、形状から弥生後期後半新相頃の製塩土器と考えられる。1496はサヌカイトの大型剥片の側縁に調整を加えた削器である。1497は板状の片岩に調整を加えた剥片で、おそらく石庖丁等の磨製石器の未製品の可能性が高い。

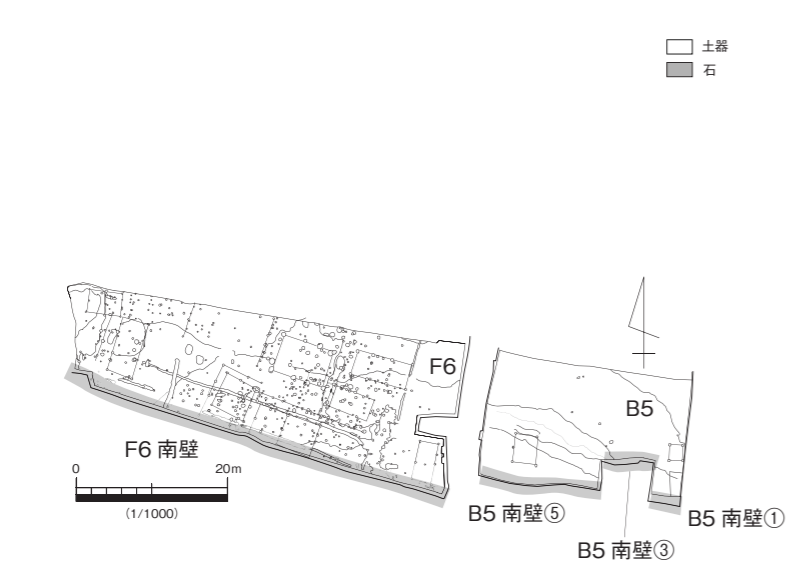
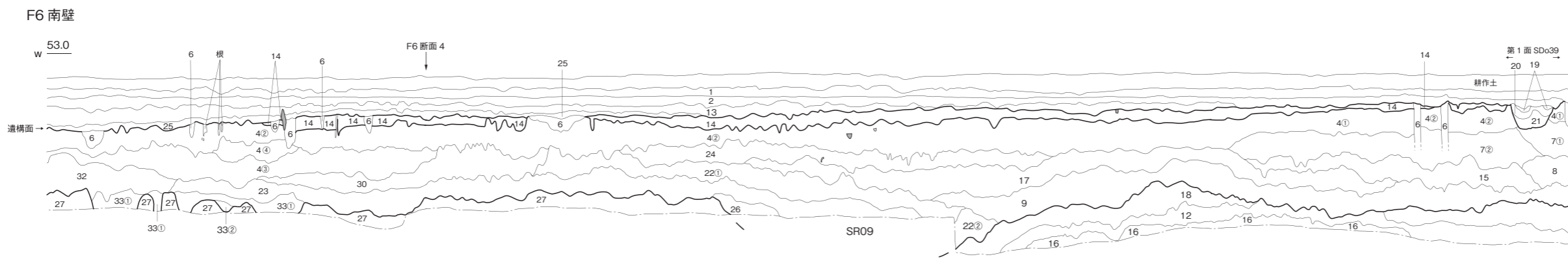
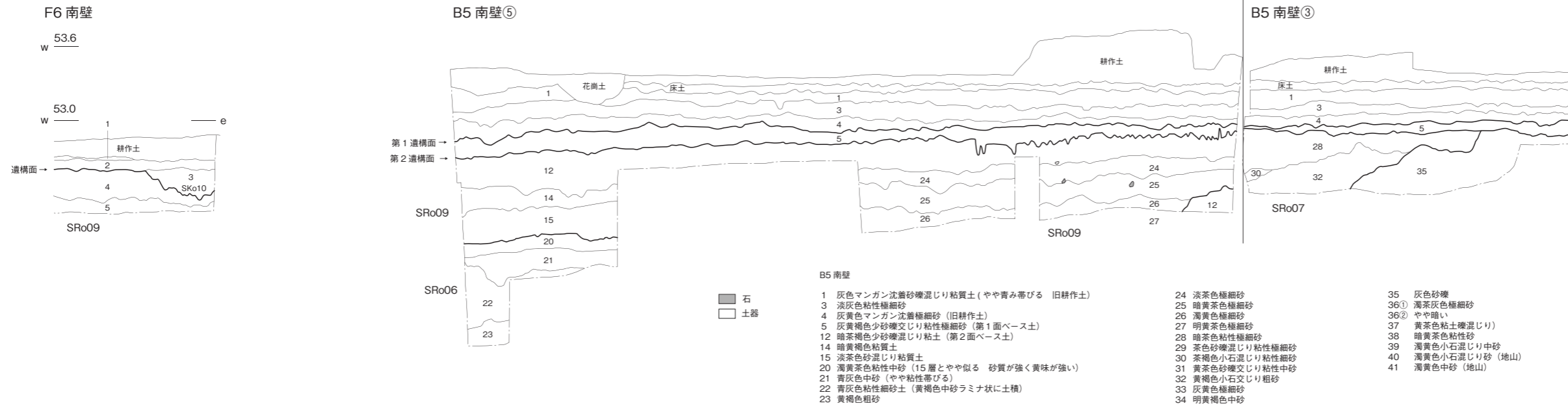
SRo10 (第 174・175 図)

B5区で検出した自然河川で、平成17年度に刊行した「西末則I」で報告しているB2区のSRa03を東限とし、B5区の北東隅を北西方向へに延びて、B6区に至る自然河川である。B6区では明瞭にプランが把握できていないが、おそらくSRa02方向へ延びて同河川と交わるものと考えられる。

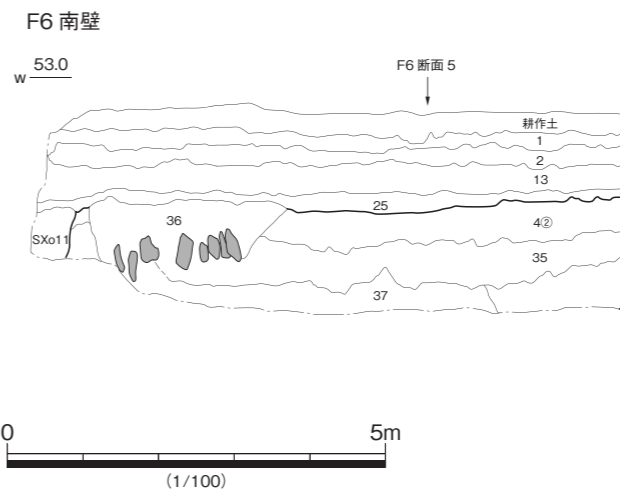
B2区まで含めた検出長約25.0m、幅約6.0m以上、深さ約1.0mを測る。断面の形状は皿状を呈し、堆積層は灰色～黒褐色系、土質は粘質土・砂質土・砂礫層からなる。

堆積層からは弥生時代後期後半新相頃の弥生土器や石器が比較的多数出土した。特に南半部では弥生土器が土器溜り状に出土し、それをSXo14とした。SXo14からは1499・1500・1502～1507・1509～1513・1515・1517・1519・1520の弥生土器が出土した。次に土器溜りSXo14の出土遺物を含め、堆積層中の出土遺物を順次報告する。

1498～1509は甕の資料である。体部の球体化が進み底部には平底を僅かに残す後期後半新相頃の土

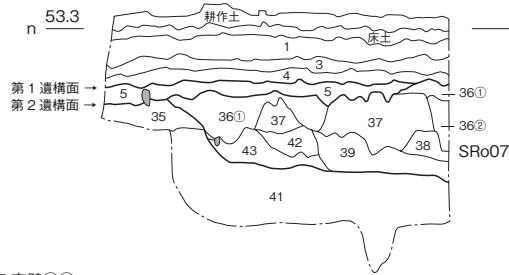


- F6南壁**
- 1 淡灰色砂礫混粘質土 (旧耕作土)
 - 2 黄灰色マンガン沈着粘質土 (旧床土)
 - 3 暗茶褐色砂礫混粘質土
 - 4① 茶褐色砂混粘質土
 - 4② 茶褐色砂混粘質土 (砂礫を多く含)
 - 4③ 茶褐色砂混粘質土 (やや暗く砂礫を含)
 - 4④ 茶褐色砂混粘質土 (やや暗い)
 - 5 茶色小石混粘質土
 - 6 灰褐色粘質土 (ビット)
 - 7① 灰色粘性極細砂
 - 7② 灰色粘性極細砂 (やや砂を含)
 - 8 灰茶褐色砂礫混粘質土
 - 9 淡灰茶色極細砂
 - 10 灰色粘性中砂 (やや青みがかる)
 - 11 黄灰色粘性極細砂 (マンガン沈着)
 - 12 淡灰色粘性砂
 - 13 黄灰色砂礫混粘質土
 - 14 灰黄褐色砂礫混粘質土 (第1ベース土 古代の遺物倉)
 - 15 茶灰色粘性細砂
 - 16 黄褐色マンガン沈着粗砂
 - 17 灰色粘性細砂 (やや茶味がかる)
 - 18 淡茶灰色砂
 - 19 灰白色砂質土 (SDo39)
 - 20 灰色粘土 (SDo39 やや青味帯びる)
 - 21 灰褐色砂混粘質土 (SDo39)
 - 22① 淡茶褐色極細砂
 - 22② 淡茶褐色極細砂 (やや青味がかる)
 - 23 灰色マンガン沈着細砂
 - 24 茶灰色微砂混粘質土
 - 25 明黄色粘性極細砂
 - 26 灰色砂+砂礫
 - 27 黄褐色粗砂
 - 30 暗灰褐色マンガン沈着粘土
 - 32 茶褐色砂礫混粘質土
 - 33① 茶色砂礫
 - 33② やや暗い
 - 34 青灰色粘性砂
 - 35 淡灰色粘性極細砂
 - 36 淡茶色粘質土 (第1面の遺構)
 - 37 茶灰色粘性極細砂

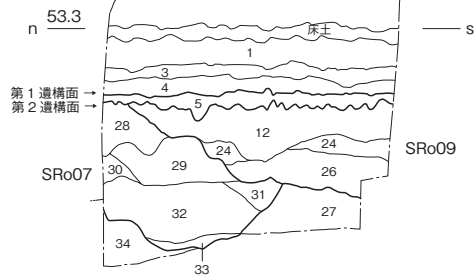


第166図 F6・B5区南壁断面図

B5 南壁②



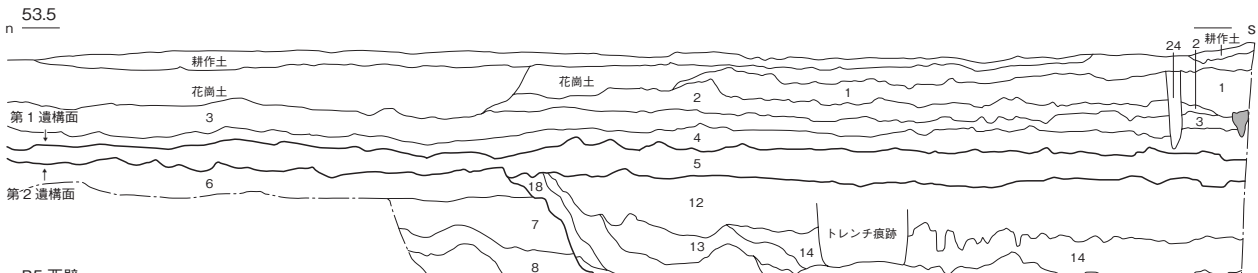
B5 南壁④



B5 南壁④②

- | | | | |
|---------------------------------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 1 灰色マンガン沈着砂礫粘質土(やや青み帯る 旧耕作土) | 27 明黄色極細砂 | 34 明黄褐色中砂 | 40 濁黄色小石混じり砂(地山) |
| 3 淡灰色粘性極細砂(旧耕作土) | 28 暗茶色粘性極細砂 | 35 灰色砂礫 | 41 濁黄色中砂(地山) |
| 4 黄灰色マンガン沈着極細砂(旧耕作土) | 29 茶色砂礫混じり粘性極細砂 | 36① 濁茶灰色極細砂 | 42 黄褐色粘性砂 |
| 5 灰黄褐色少砂礫混じり粘性極細砂(第1面ベース土 旧耕作土) | 30 茶褐色小石混じり粘性細砂 | 36② 濁茶灰色極細砂(やや暗い) | 43 茶色粘性砂礫(少量の礫を含) |
| 12 暗茶褐色少砂礫混じり粘土(第2面ベース土) | 31 黄褐色砂礫交じり粘性中砂 | 37 黄褐色粘土混じり砂礫 | |
| 24 淡茶色極細砂 | 32 黄褐色小石交じり粗砂 | 38 暗黄褐色粘性砂 | |
| 25 暗黄褐色極細砂 | 33 灰黄色極細砂 | 39 濁黄色小石混じり中砂 | |

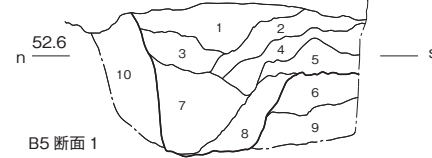
B5 西壁



B5 西壁

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 灰色マンガン沈着砂礫混じり粘質土(やや青み帯びる) | 16 茶褐色砂質土 |
| 2 黄灰色マンガン沈着砂礫混じり粘質土 | 17 茶褐色砂礫混じり粘質土 |
| 3 淡灰色粘性極細砂 | 18 暗茶色砂質土(砂礫が多い) |
| 4 黄灰色マンガン沈着極細砂(1~4層旧耕作土?) | 19 黄褐色粘性砂質土 |
| 5 灰黄褐色少砂礫混じり粘性極細砂(第1面ベース土) | 20 濁黄褐色粘性中砂 |
| 6 灰褐色砂礫(第2面ベース土) | 21 青灰色中砂(やや粘性帯びる) |
| 7 暗黄褐色粗砂(小石を多く含) | 22 青灰色粘性細砂+黄褐色中砂ラミナ状に堆積 |
| 8 暗黄褐色粘性粗砂 | 23 黄褐色粗砂 |
| 9 黄褐色小石混じり粗砂(5~10cmの小石を多く含) | 24 青灰色粘質土 |
| 10 黄褐色小混じり砂礫 | |
| 11 淡黄色中砂 | |
| 12 暗茶褐色少砂礫混じり粘土 | |
| 13 暗黄褐色茶色砂礫混じり粘質土(第2面のベース土) | |
| 14 暗黄褐色粘質土 | |
| 15 淡茶色砂混じり粘質土 | |

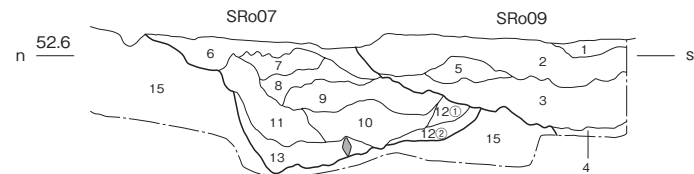
B5 断面 1



B5 断面 1

- | |
|-------------------|
| 1 濁茶灰色 |
| 2 黄褐色(粘土少量混)砂礫 |
| 3 暗黄褐色細砂 |
| 4 暗黄褐色茶色粘性細砂(礫少量) |
| 5 濁黄色小石混中砂 |
| 6 濁黄色小石混砂 |
| 7 濁黄色砂礫 |
| 8 黄褐色砂礫 |
| 9 濁黄色中砂 |
| 10 灰色砂礫 |

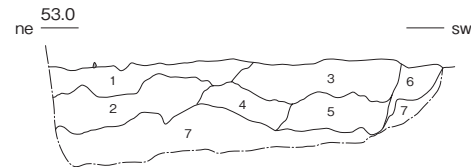
B5 断面 2



B5 断面 2

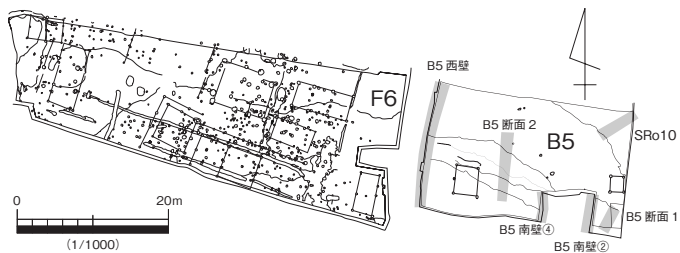
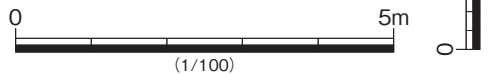
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗茶褐色少砂礫混じり粘土(砂を多く含) | 9 暗黄褐色中砂(部分的に茶色細砂を含) |
| 2 淡茶色極細砂(粘性高い) | 10 黄褐色粗砂 |
| 3 暗黄褐色極細砂(粘性帯びる) | 11 茶色小石混じり砂礫 |
| 4 濁黄色極細砂 | 12① 暗黄褐色極細砂 |
| 5 茶色砂質土(多量の砂礫を含) | 12② 暗黄褐色極細砂(やや暗い) |
| 6 茶色極細砂 | 13 灰黄色極細砂 |
| 7 茶緑色粗砂(弱く粘性帯びる) | 15 明黄褐色細砂 |
| 8 黄褐色粘性細砂 | |

SRo10



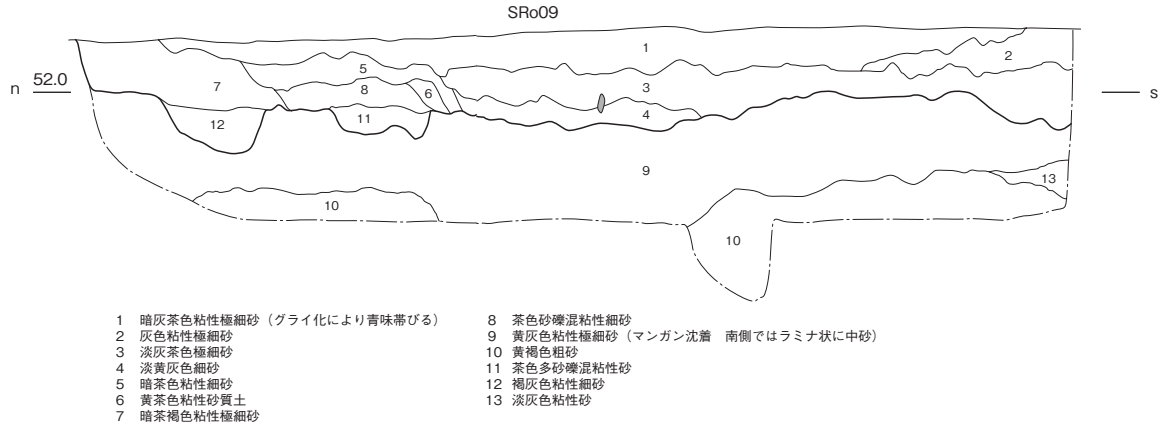
SRo08

- | |
|--------------|
| 1 暗茶色砂礫混粘質土 |
| 2 暗黄褐色砂質土 |
| 3 濁茶灰色粘性極細砂 |
| 4 灰茶色砂質土 |
| 5 灰茶色粘性細砂 |
| 6 暗黄褐色小石混中砂 |
| 7 淡黄褐色粗砂(地山) |

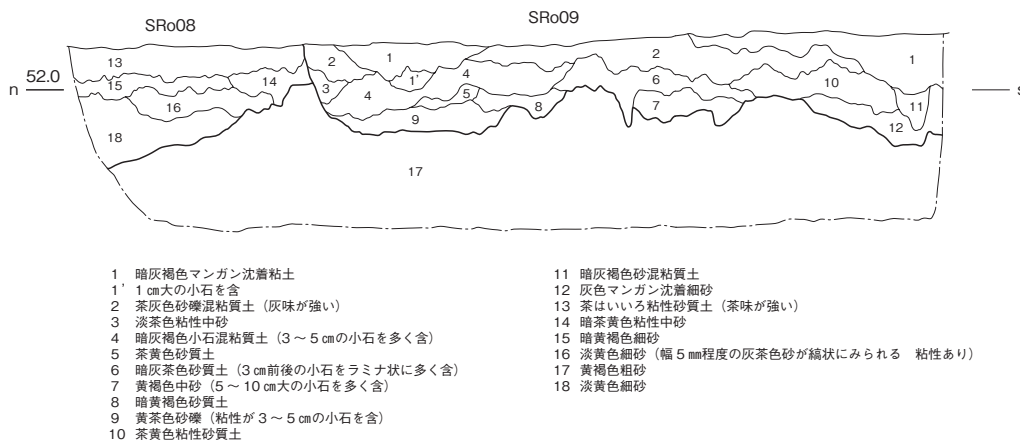


第 167 図 F6・B5 区南壁・西壁断面図

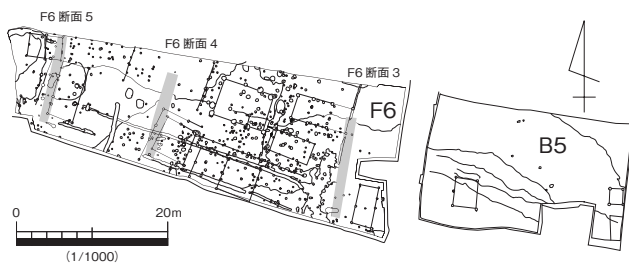
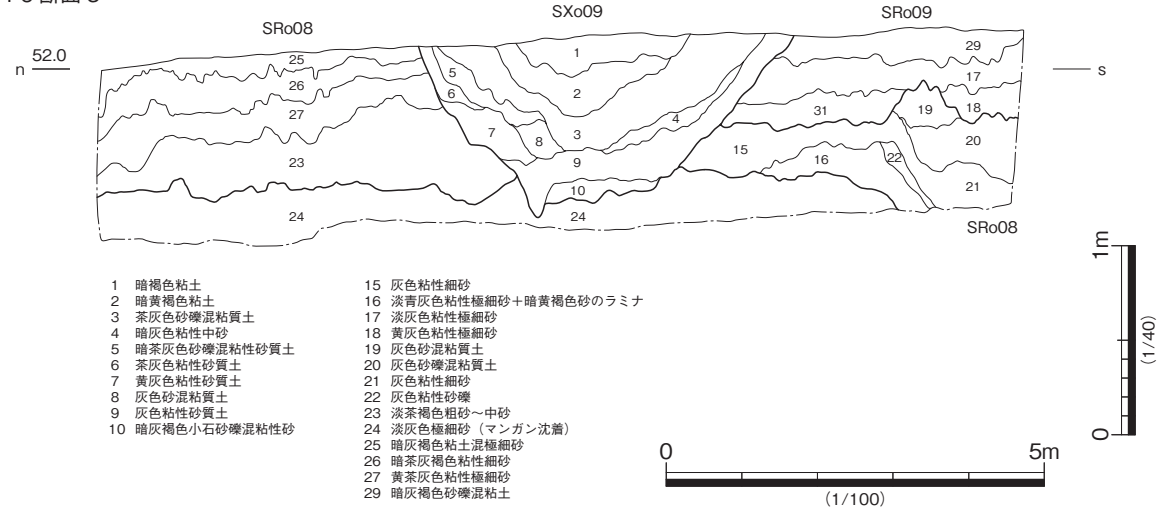
F6 断面 3



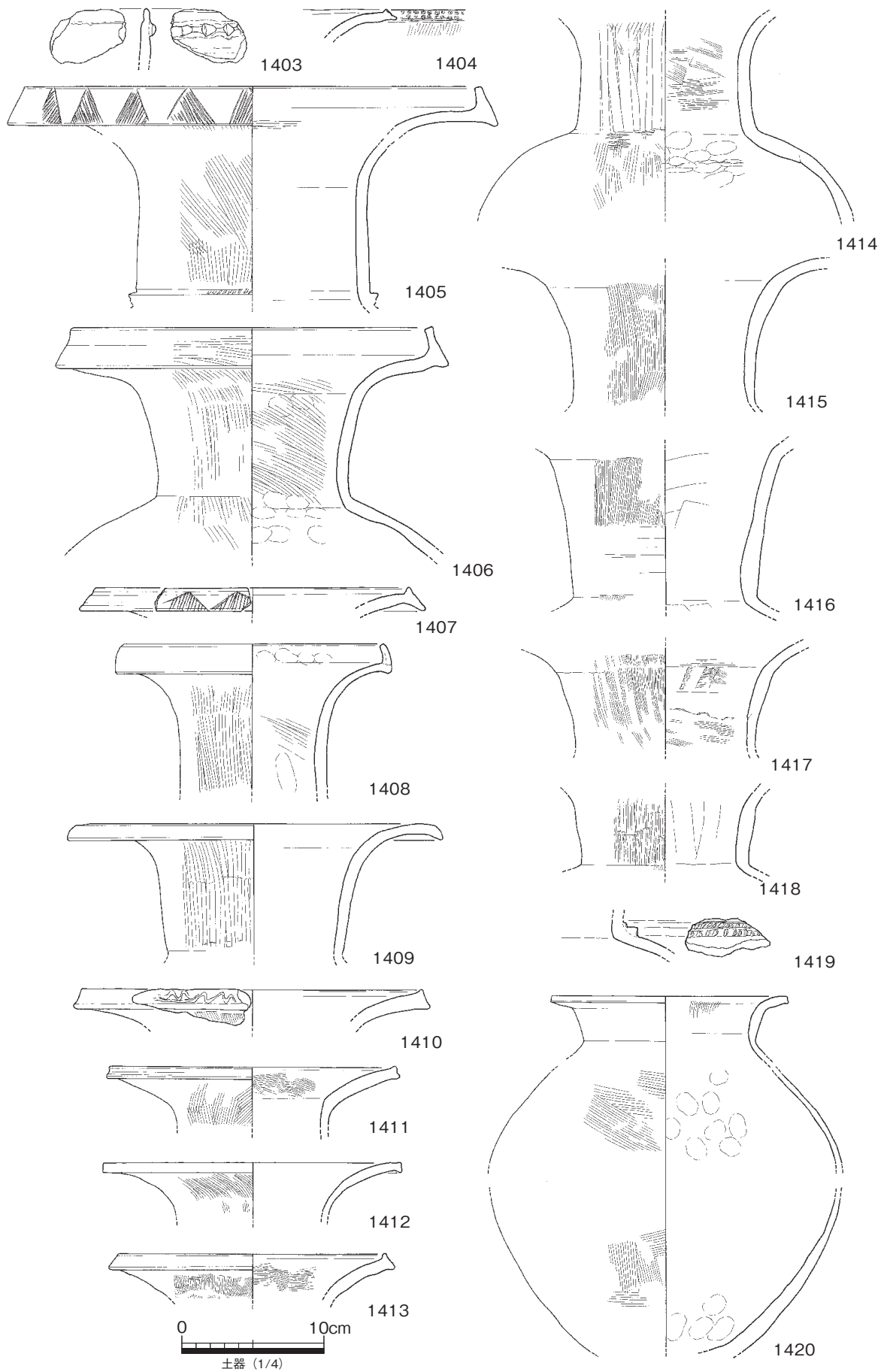
F6 断面 4



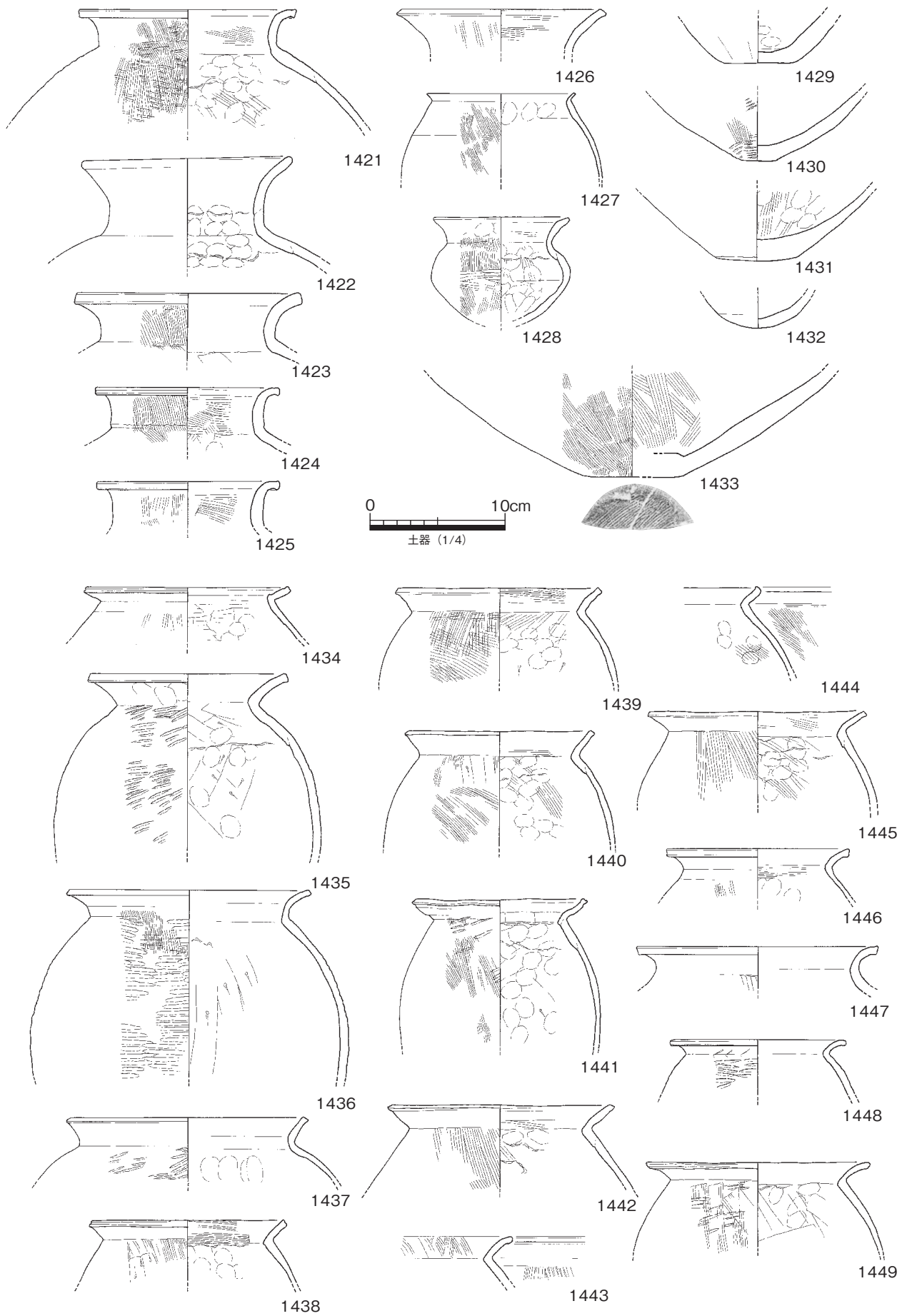
F6 断面 5



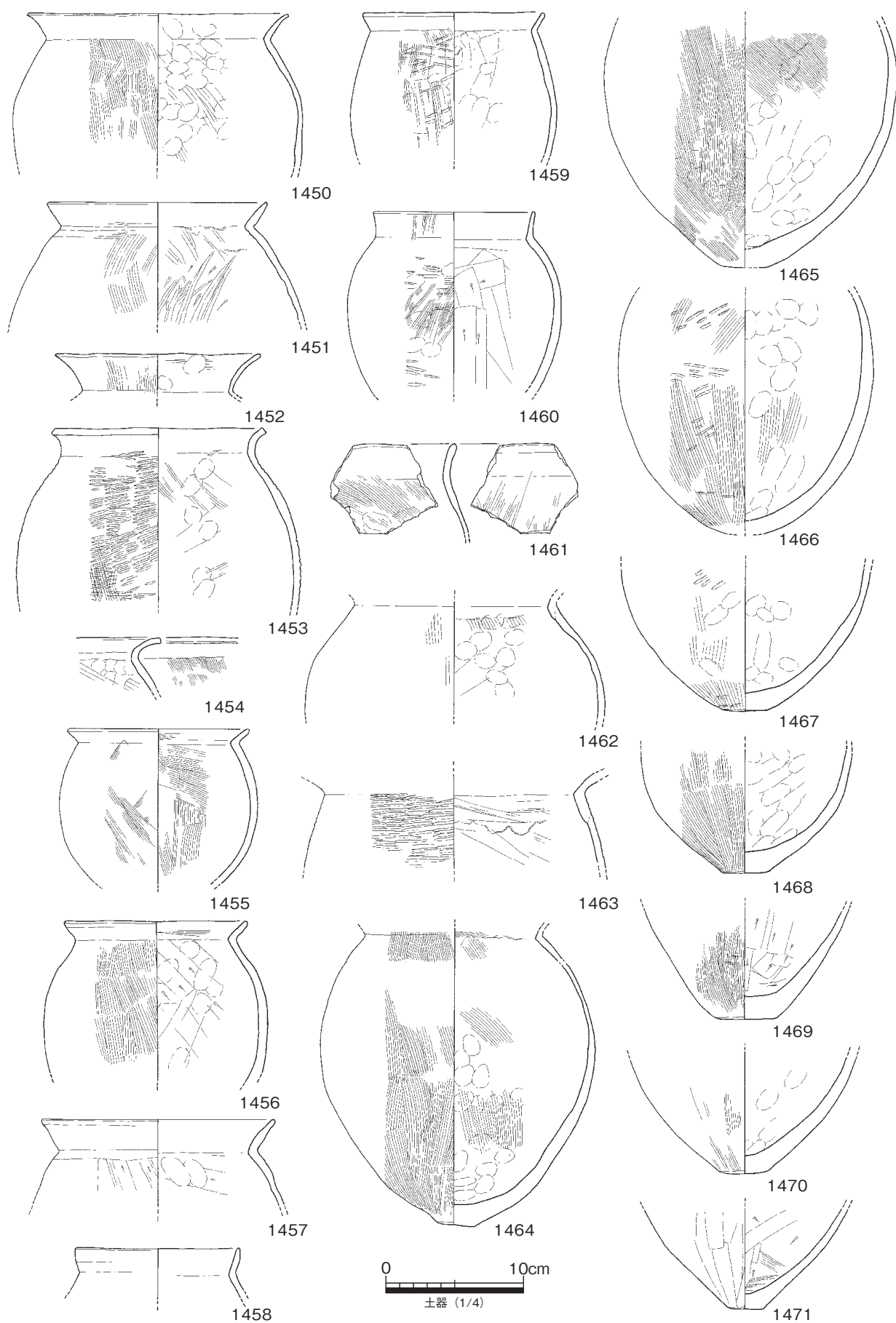
第 168 図 F6・B5 区断面図



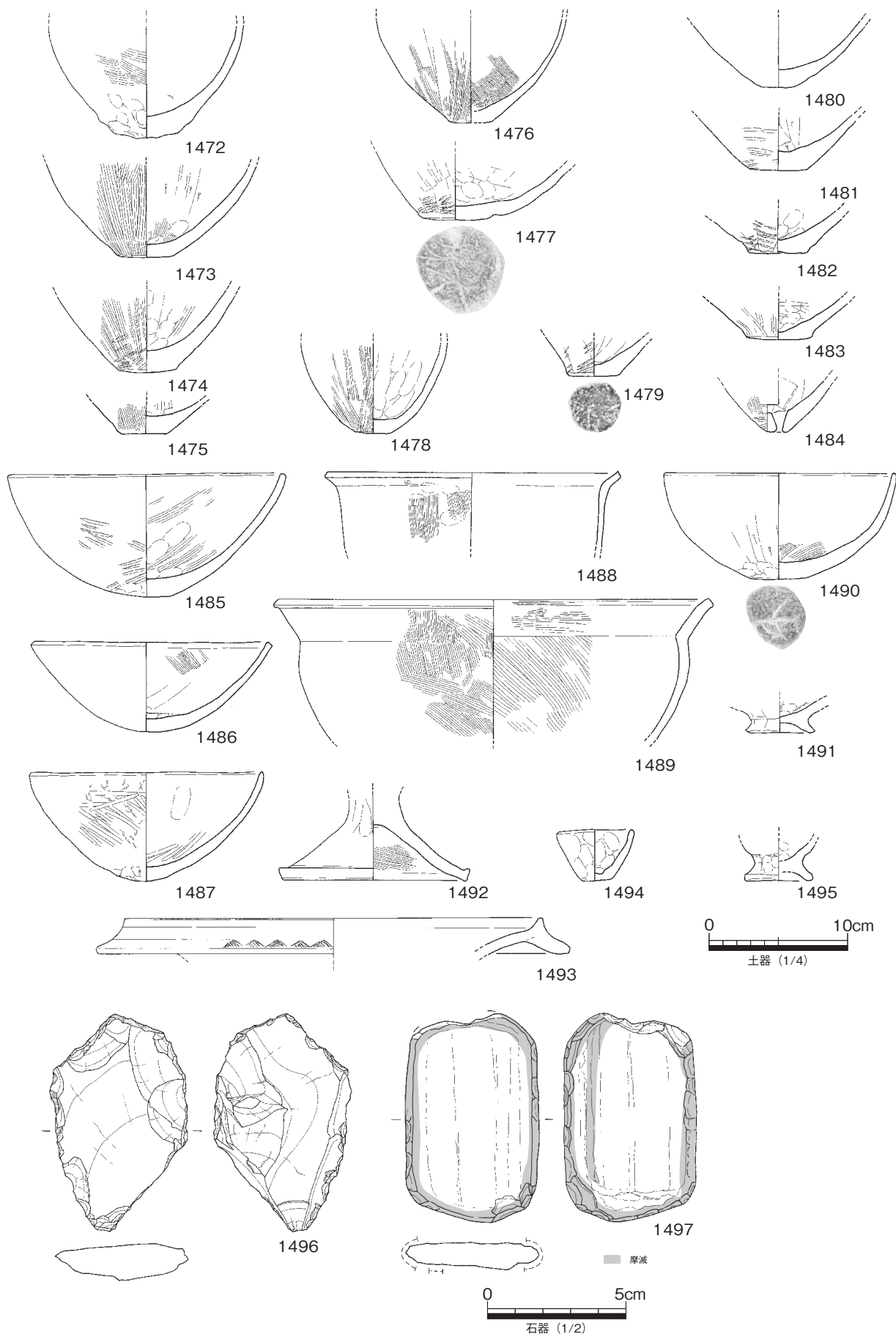
第 169 図 SRo09 出土遺物 (1)



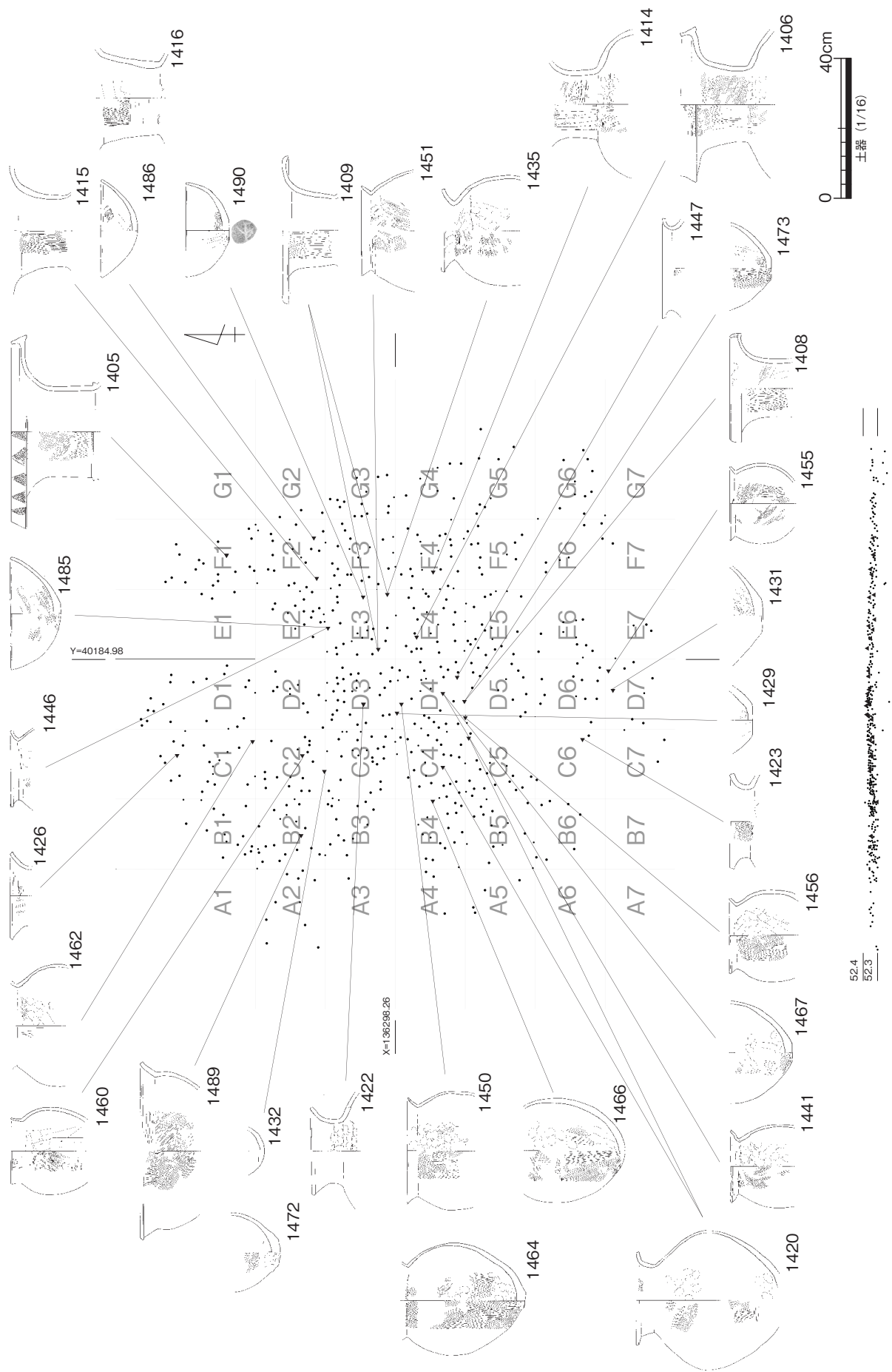
第 170 図 SRo09 出土遺物 (2)



第 171 図 SRo09 出土遺物 (3)

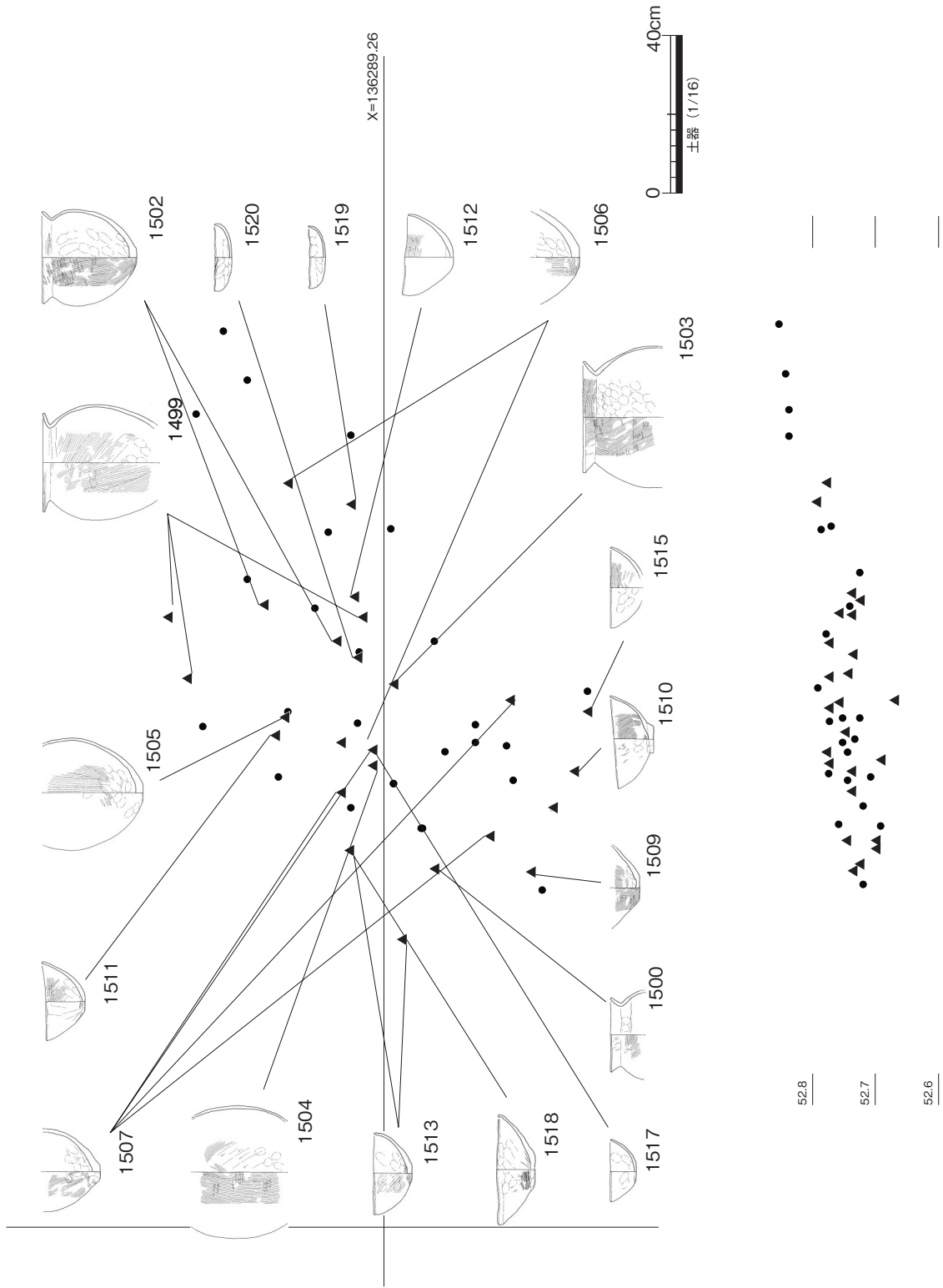


第 172 図 SRo09 出土遺物 (4)

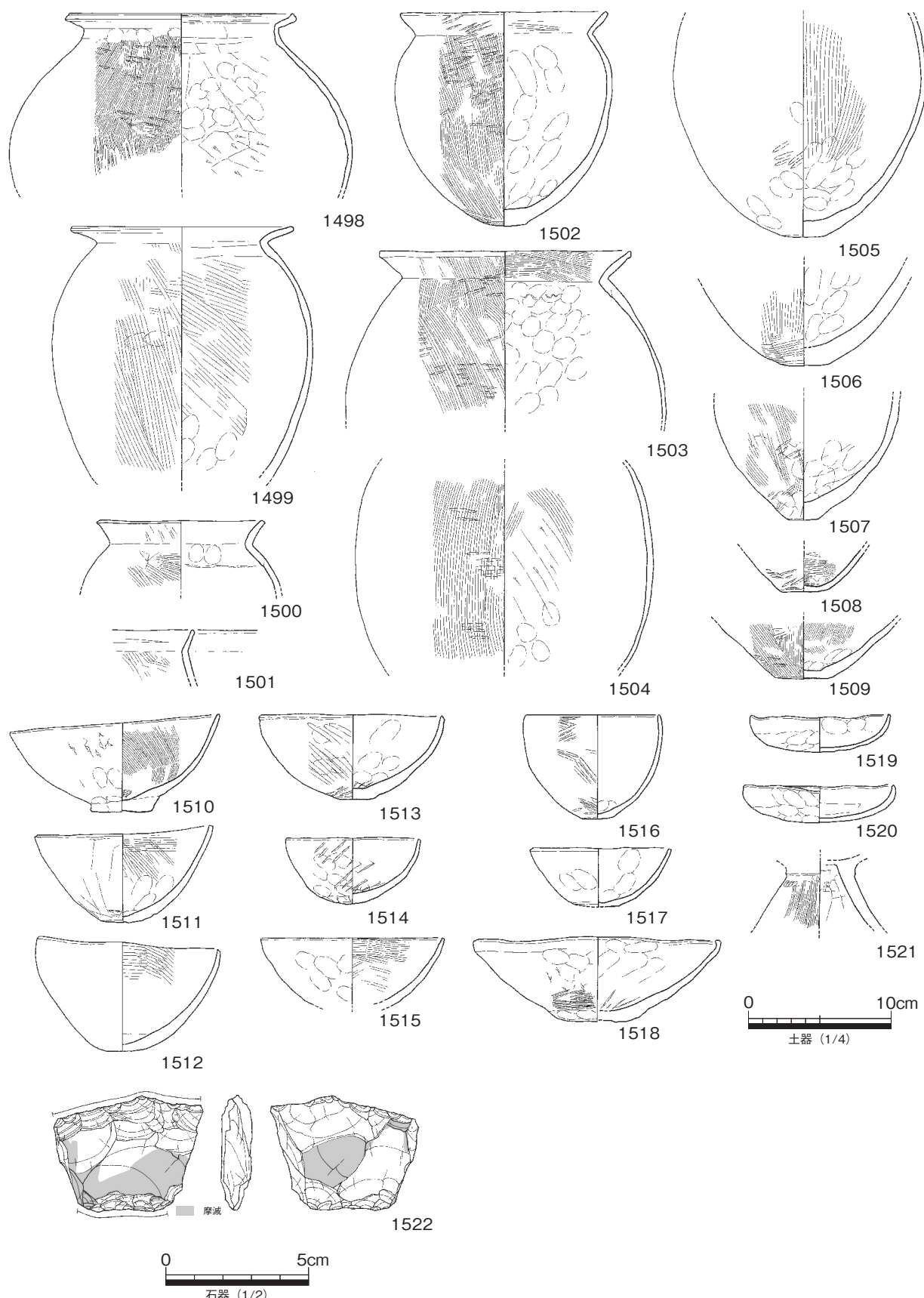


第 173 図 SXo13 土器出土状況

Y=40250.98



第 174 图 SXo14 土器出土状况



第 175 図 SRo10 出土遺物

器が主体を占める。1510～1520は鉢の資料である。1521は高杯脚部の上半部である。1522は側縁の潰れ痕及び裁断面を有することから楔形石器に含めた。

(2) 古代の遺構・遺物

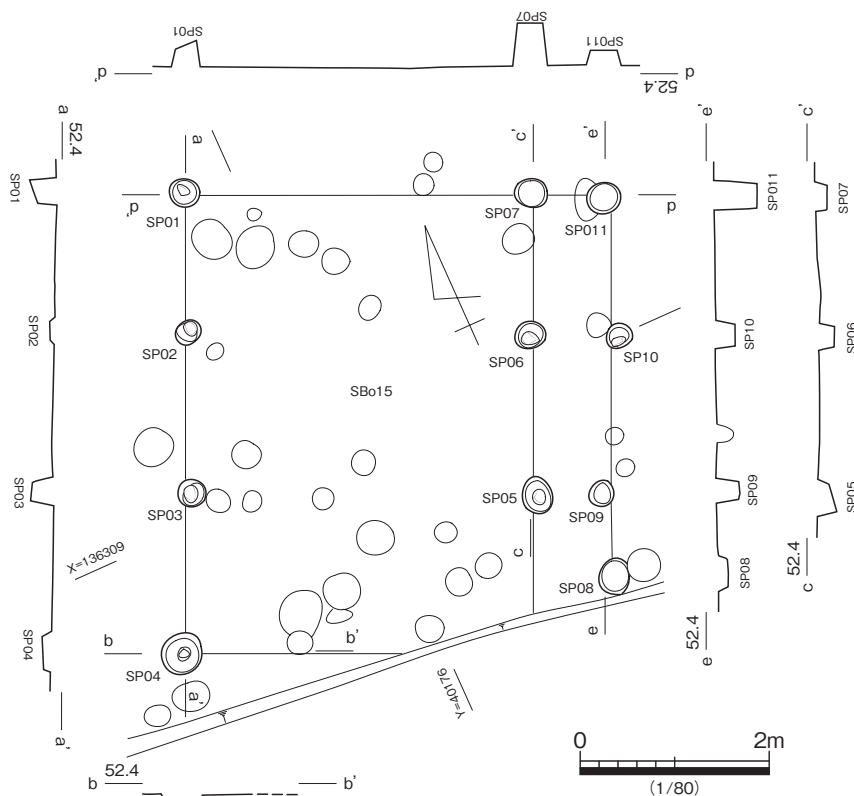
掘立柱建物

SBo15 (第176図)

F7区南端部のSRo05南肩部の微高地上で検出した梁間1間、桁行3間南北棟で、東面には廂が1間分付設している。南東端部の柱穴は調査区より外れるため未確認である。約3.0m北には主軸を合わせた東西方向のSDo33が配されている。身舎は1間(3.7m)×3間(4.8m)、面積17.76㎡、主軸方位N24°E、

柱間は梁間3.7m、桁行1.4～1.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.3～0.4m、深さ0.1～0.5mを測る。廂を含めた構造では、2間(4.5m)×3間(4.8m)、面積21.6㎡を測る。

柱穴からは遺物が出土していないためSBo15の時期判断はできないが、SBo15が北に隣接するSDo33に向きを揃えて配置しているため、この溝跡と類似する7世紀前半頃の可能性が高い。



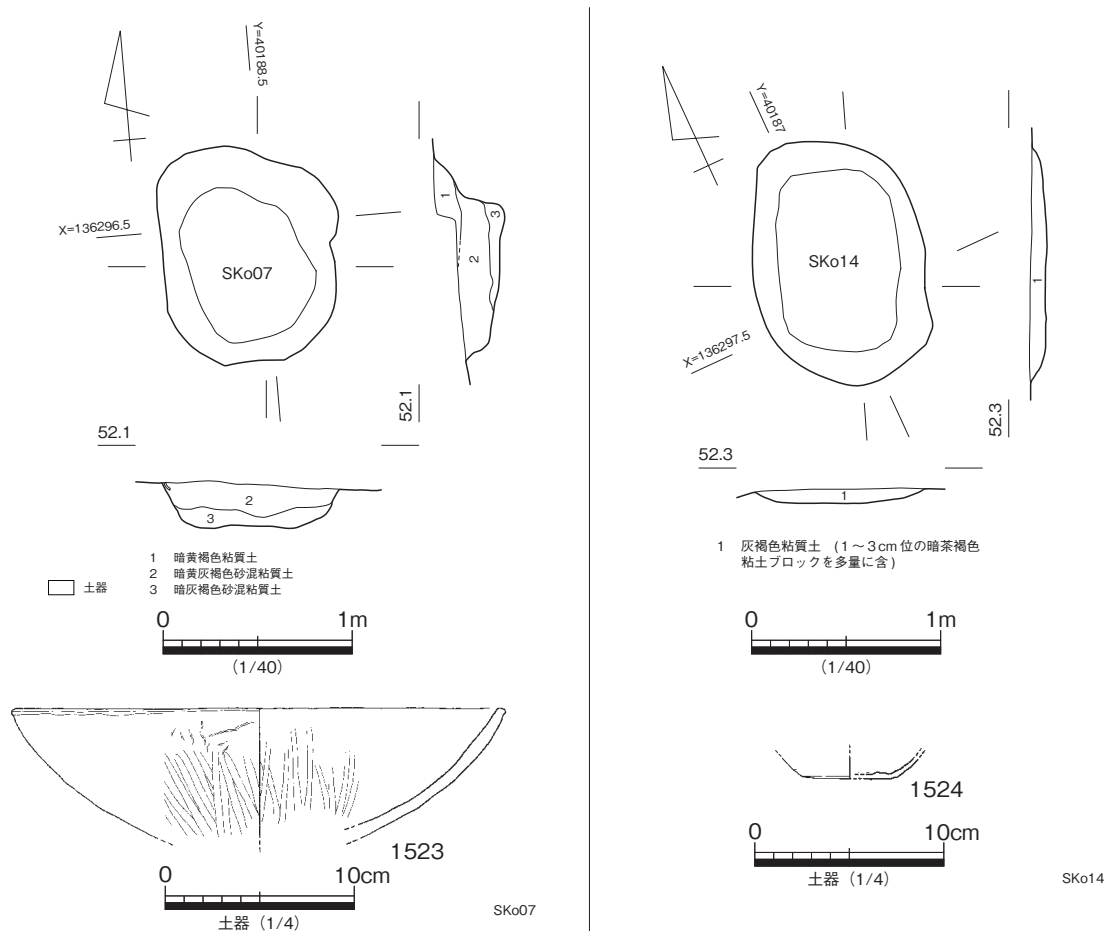
第176図 SBo15平・断面図

土坑跡

SKo07 (第176図)

F6区西半部で検出した土坑である。平面は不整円形状、断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈する。長径1.1m、短径0.9m、深さ約0.35mを測る。埋土は暗黄褐色～暗灰褐色系の粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が極少量出土した。1523は弥生時代後期後半の鉢である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、遺物中で古代末頃の須恵器杯片があり、SKo07はこの時期にあたる可能性がある。



第 177 図 SKo07・14 平・断面図, 出土遺物

SKo14 (第 177 図)

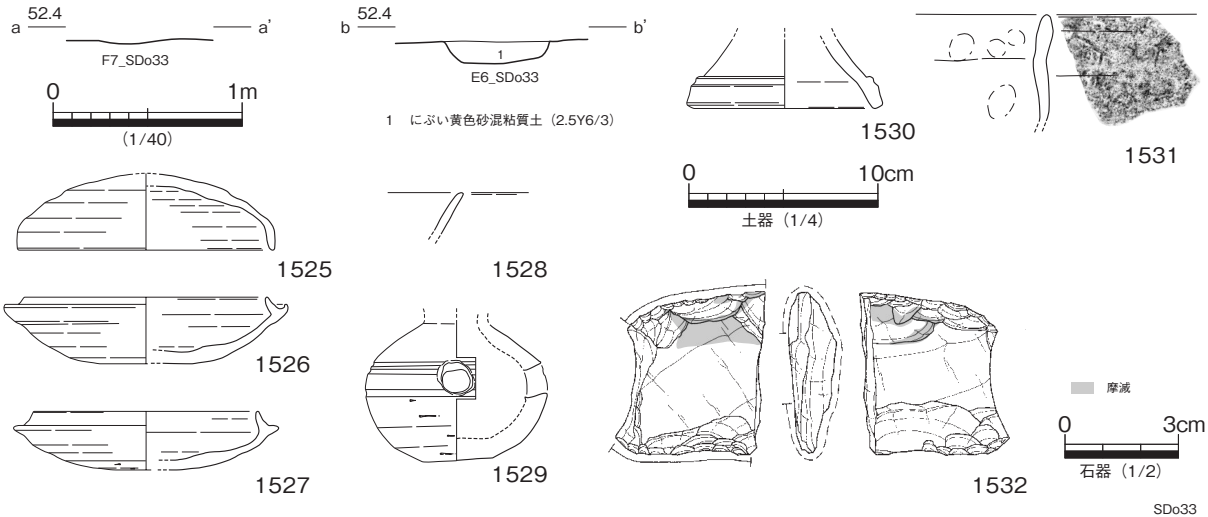
F6 区西部で検出した土坑である。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径 1.3 m、短径 0.9 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は暗茶褐色粘土の小ブロックを多量に含む灰褐色粘質土からなる。埋土からは土師器・須恵器片が極少量出土した。1524 は土師器杯底部片である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物から SKo14 は古代末～中世頃の時期が考えられる。

溝状遺構

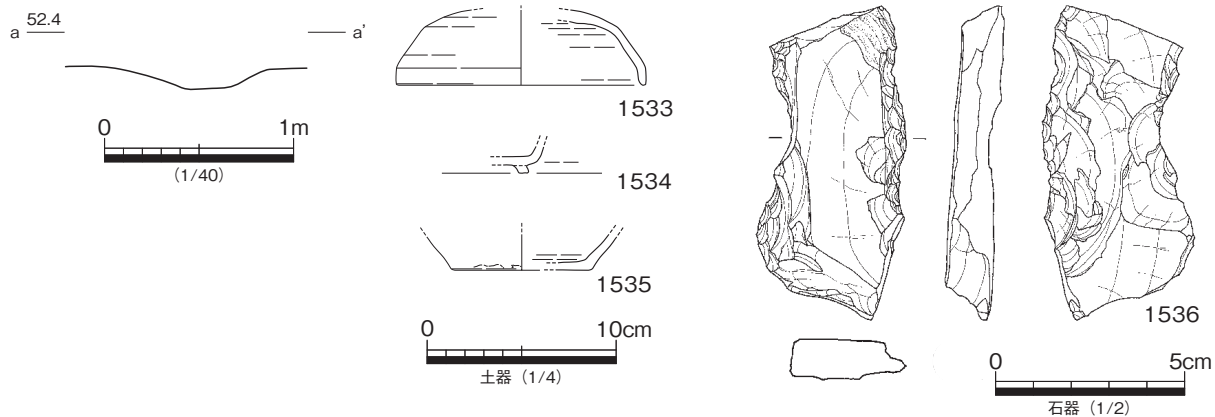
SDo33 (第 178 図)

F7・E6 区南辺部の SRo05 南岸部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。削平を受け残りが極めて悪い。先述したが、約 3.0 m 南には SBo15 が向きを合わせて配されており、両者は互いに関連する遺構の可能性が高い。検出長約 21.0 m、幅約 0.55 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N69.0° W(N21.0° E) を測る。断面は不整形な逆台形状を呈し、埋土はにぶい黄色砂混じり粘質土からなる。

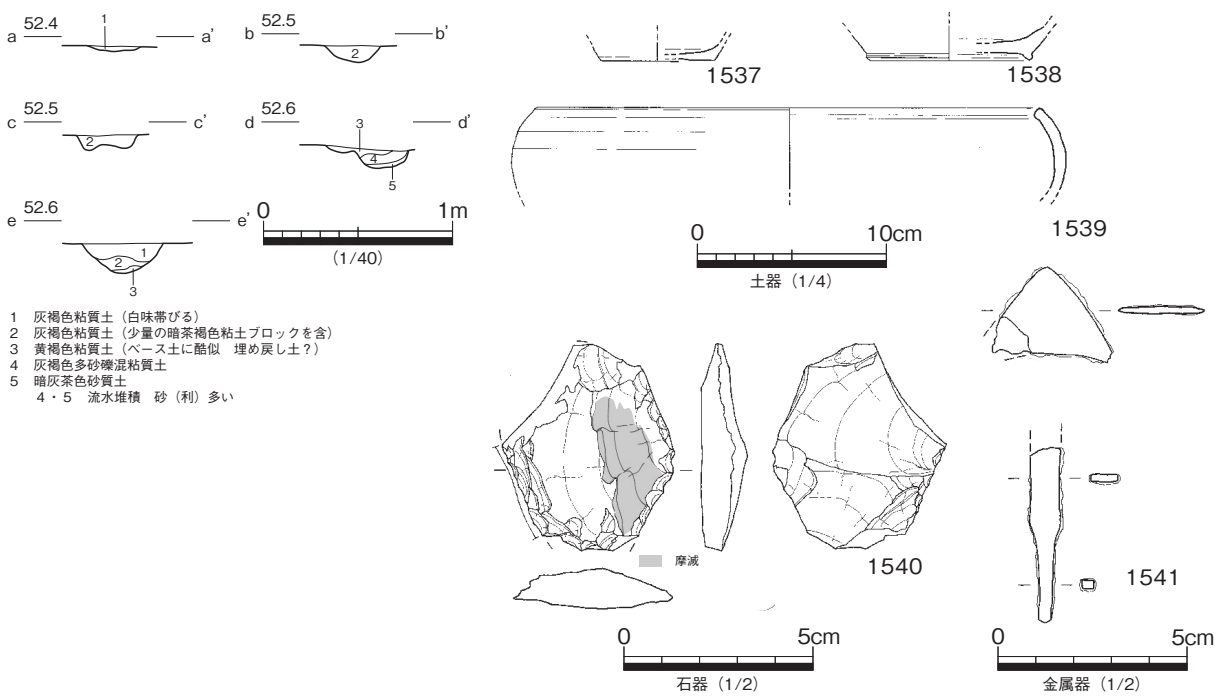
埋土からは土師器・須恵器、石器が少量出土した。1525～1530 は須恵器の資料である。1525 は杯蓋、1526・1527 は杯身である。1529 は甕の体部である。いずれも 7 世紀前半頃の遺物である。1530 は有蓋ないしは無蓋高杯の脚部である。1531 は製塩土器の口縁部片である。外面には格子タタキが認められる。1532 はサヌカイトの石庖丁の破損品で混入品であろう。出土遺物から SDo33 は 7 世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。



SDo33



SDo34



- 1 灰褐色粘質土 (白味帯びる)
- 2 灰褐色粘質土 (少量の暗茶褐色粘土ブロックを含)
- 3 黄褐色粘質土 (ベース土に酷似 埋め戻し土?)
- 4 灰褐色多砂礫混粘質土
- 5 暗灰茶色砂質土
- 4・5 流水堆積 砂 (利) 多い

SDo36

第 178 図 SDo33・34・36 断面図, 出土遺物

SDo34 (第 178 図)

F7 区北辺部の SRo05 北岸部で検出した不整形で短い東西方向の溝状遺構である。削平を受け残りが悪い。検出長約 6.5 m、幅 1.0 ～ 1.5 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N63.0° E を測る。断面は不整形な逆台形状を呈する。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1533 ～ 1535 は須恵器の杯である。1533 は 7 世紀初頭頃の杯蓋、1534 は 8 世紀前半頃の高台付杯の底部片である。1535 は 10 世紀頃の杯底部で、この溝跡の埋没時期を示唆する遺物と考えられる。1536 はサヌカイトの大型剥片の側縁部を作業面にもちいた石核で、混入品である。

SDo36 (第 178 図)

F6 区南辺部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。約 3.3 m 南には SDo37 がこの溝と並走しており、両者は有機的に関連する遺構の可能性が高い。なお、SDo36 の東端には不整形な溝跡 SDo39 が配されている。また、SDo36 は SBo23・24、SKo15、SDo40 等と重複するが、SBo23、SKo15、SDo40 に切り込まれており、前後関係としては、これらの遺構より先行する。検出長約 31.0 m、幅約 0.2 ～ 0.5 m、深さ約 0.1 ～ 0.3 m、主軸方位 N70.0° W(N20.0° E) を測る。断面は不整形な椀底状を呈し、埋土は灰褐色系の粘質土が主体になる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器片が少量出土した。1537 は土師器杯、1538 は須恵器の高台付杯の底部である。1539 は須恵器の鉄鉢である。1540 はサヌカイト製で石器の未製品で混入品である。1541 は上下で分離している鉄族と考えられる。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo36 は古代後半頃の時期が考えられる。

SDo37 (第 179 図)

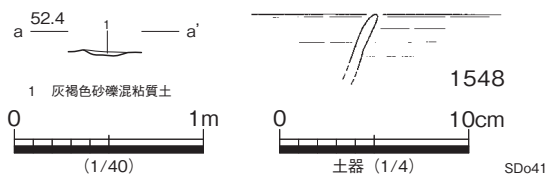
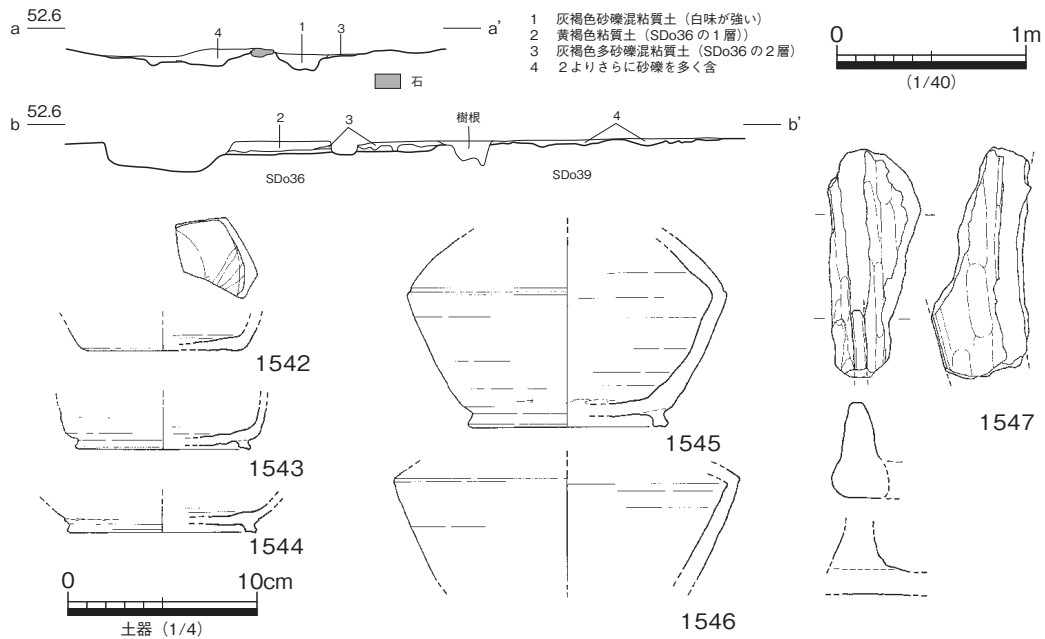
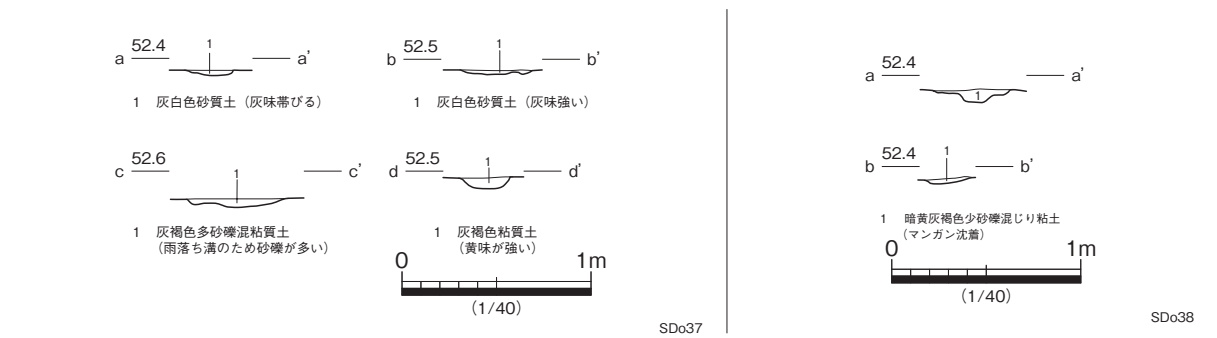
F6 区南辺部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。先述したように、約 3.3 m 北には SDo36 がこの溝と並走しており、両者は有機的に関連する遺構の可能性が高い。削平を受けて残りが悪く、途切れ途切れでしか残っていない。SDo37 は SBo23・24 等と重複するが、SBo23・24 に切り込まれており、前後関係としては、これらの遺構より先行する。検出長約 21.0 m、幅約 0.2 ～ 0.5 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N70.0° W(N20.0° E) を測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は灰色系の砂質土ないしは粘質土が主体になる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係から SDo37 は SDo36 に類似した時期が考えられる。

SDo38 (第 179 図)

F6 区西半部の南辺に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。削平を受けて残りが悪く不明瞭であるが、約 7.0 m 東の延長には SDo37 があり、両者は連続する溝跡の可能性はある。検出長約 5.2 m、幅約 0.3 ～ 0.5 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N70.0° W(N20.0° E) を測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は暗黄灰褐色砂礫混じり粘土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係から SDo38 は、SDo37・41 に類似した時期が考えられる。



第 179 図 SDo37・38・39・41 断面図, 出土遺物

SDo39 (第 179 図)

F6 区南辺部の SDo36 の東端に交わる南北方向の不整形な溝跡である。平面形状は凹凸のある不整形な形状を呈し、若干湾曲気味に南北方向に配されている。検出長約 9.0 m 以上、幅約 1.0 ~ 2.0 m、深さ約 0.1 を測る。断面は不整形で浅い落ち込み状を呈し、埋土は灰褐色系の粘質土が主体になる。

埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1542 は須恵器杯、1543・1544 は 8 ~ 9 世紀頃の須恵器の高台付杯の底部である。1545・1546 は須恵器の長頸ないしは細頸壺である。1547 は土師器甕の焚口部分である。出土遺物から SDo39 は 8 世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

SDo41 (第 179 図)

F6 区南辺部に直線状に配した東西方向の小溝である。削平を受けて残りがかかなり悪い溝跡である。この溝跡の東約 12.0 m には同方向に配された SDo37 が位置することから、この溝跡は SDo37 の東端の

残存部と考えられる。検出長約 1.5 m、幅約 0.5 m、深さ約 0.1 m を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂混粘質土からなる。

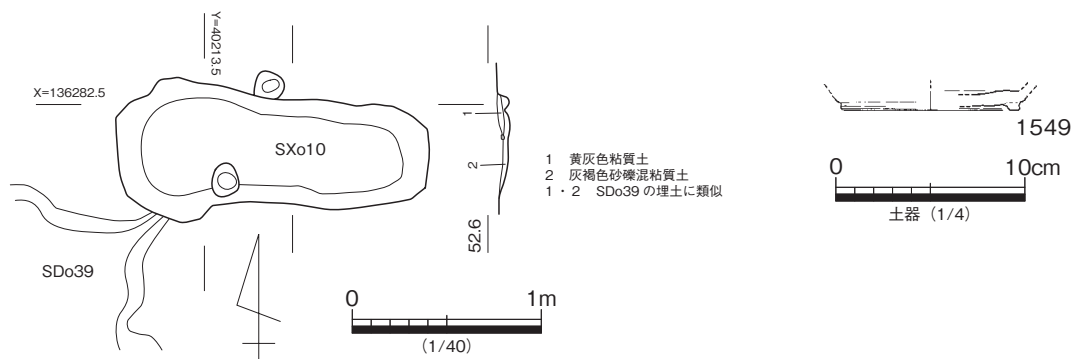
埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。1548 は須恵器の杯である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係から SDo37 は SDo36 に類似した時期が考えられる。

不整形遺構

SXo10 (第 180 図)

F6 区東端部の SDo39 に交わる東西方向の不整形な落ち込み状の遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、検出長約 1.7 m 以上、幅 0.5 ~ 0.7 m、深さ 0.05 m を測る。断面は不整形で浅い落ち込み状を呈し、埋土は黄灰色~灰褐色の砂礫混じり粘質土が主体になる。

埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1549 は 9 世紀頃の須恵器の高台付杯の底部である。出土遺物から SXo10 は 9 世紀以降に埋没した不整形遺構と考えられる。



第 180 図 SXo10 平・断面図, 出土遺物

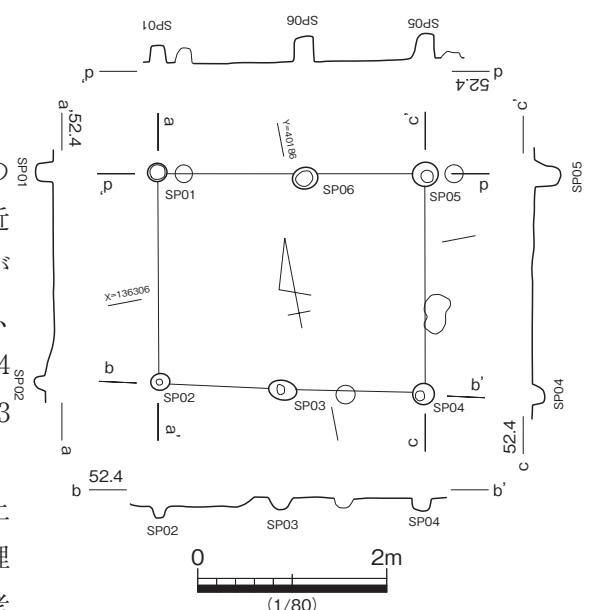
(3) 中世~近世前半の遺構・遺物

掘立柱建物

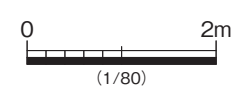
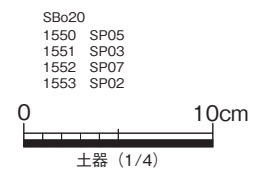
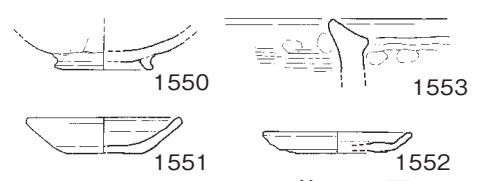
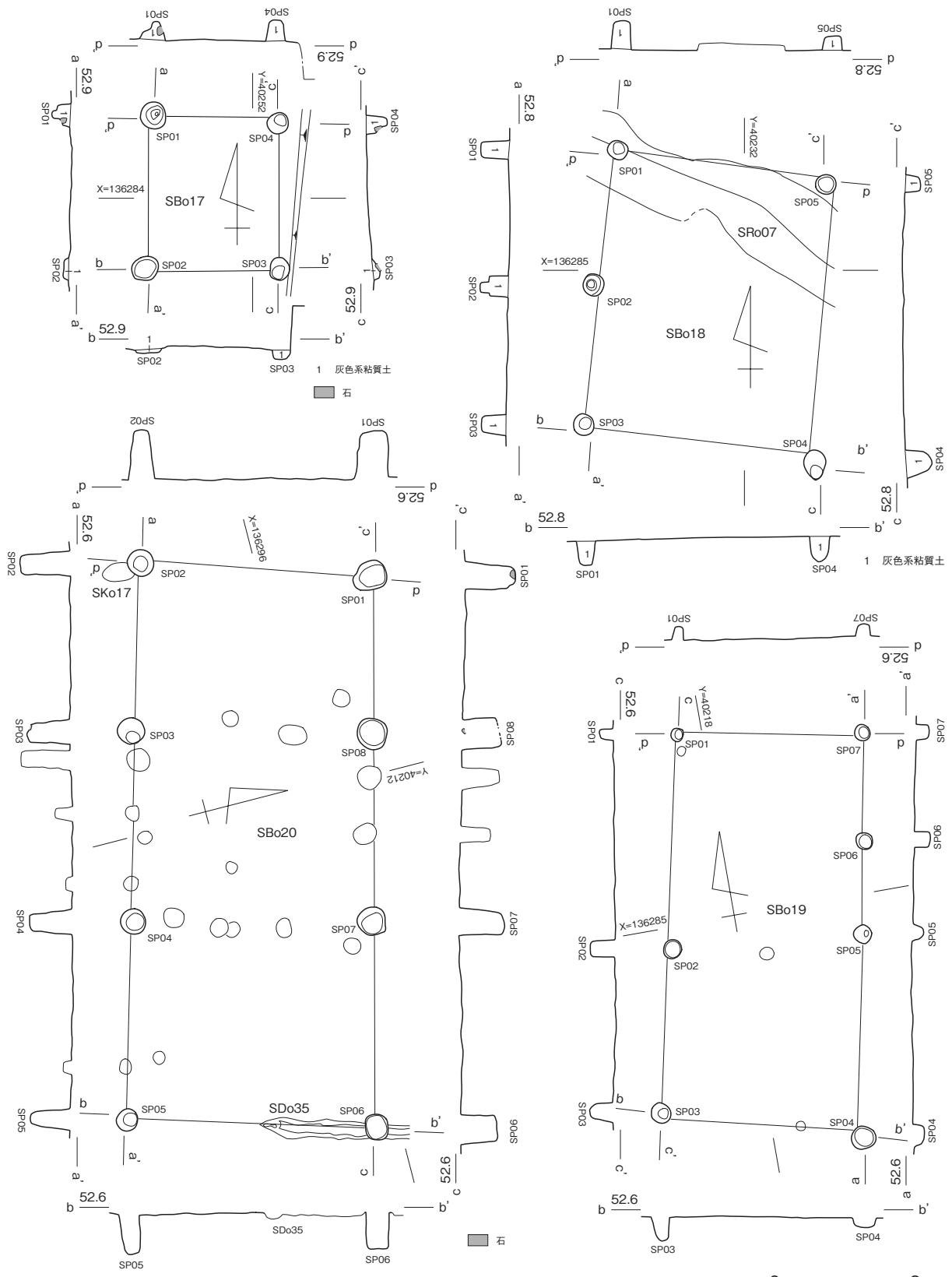
SBo16 (第 181 図)

E6 区南端部の SRo05 南肩部の微高地上の SBo15 の東側で検出した梁間 1 間、桁行 2 間の小型で方形に近い東西棟である。約 4.0 m 北には東西方向の SDo33 が位置する。1 間 (2.2 m) × 2 間 (2.8 m)、面積 6.16 m²、主軸方位 N10.0° E、柱間は梁間 2.2 m、桁行 1.2 ~ 1.4 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.3 m を測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SBo16 の時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から概ね中世の建物と考えられる。



第 181 図 SBo16 平・断面図



第182図 SBo17～20平・断面図，出土遺物

SB017 (第 182 図)

B5 区東端部の SRo07・10 に挟まれた微高地上で検出した梁間 1 間、桁行 1 間の小型で方形に近い南北棟である。1 間 (1.8 m) × 1 間 (2.1 m)、面積 3.78㎡、主軸方位 N0°、柱間は梁間 1.8 m、桁行 2.1 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

柱穴からは中世の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SB017 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

SB018 (第 182 図)

B5 区東端部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 1 間、桁行 2 間の小型の南北棟である。1 間 (3.0 m) × 2 間 (3.6 m)、面積 10.8㎡、主軸方位 N5.0° E、柱間は梁間 3.0 m、桁行 19.0 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.3 ~ 0.4 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。

柱穴からは中世の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SB018 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

SB019 (第 182 図)

F6 区東端部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 1 間、桁行 3 間以上の南北棟である。削平を顕著に受けており柱穴の一部を欠く。1 間 (2.6 m) × 3 間以上 (5.3 m)、面積 13.78㎡、主軸方位 N10.0° E、柱間は梁間 2.6 m、桁行 1.2 ~ 3.8 m を測る。を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m を測る。

柱穴からは土師器小皿、亀山焼片等が少量出土した。出土遺物が少なく、SB019 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

SB020 (第 182 図)

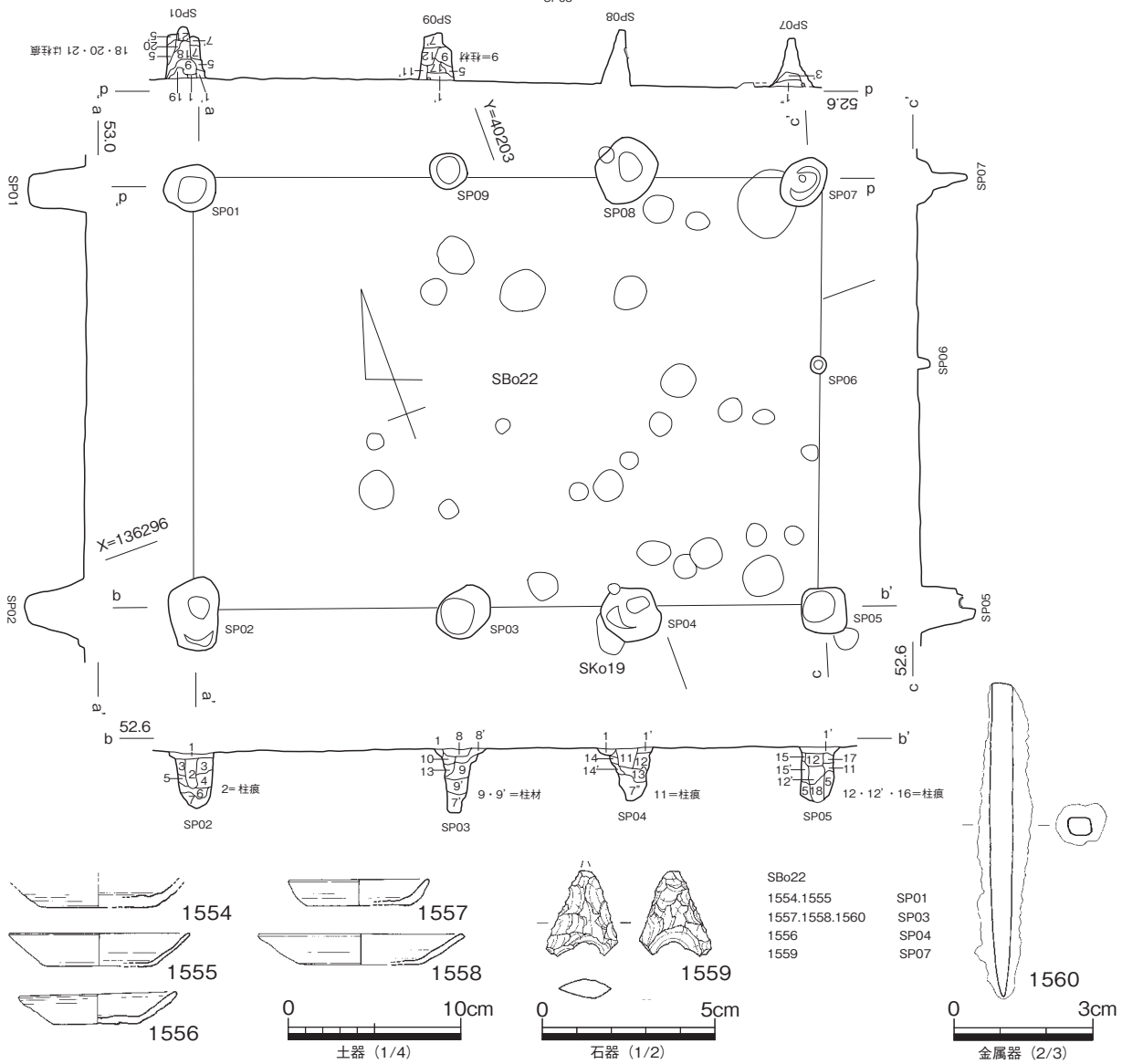
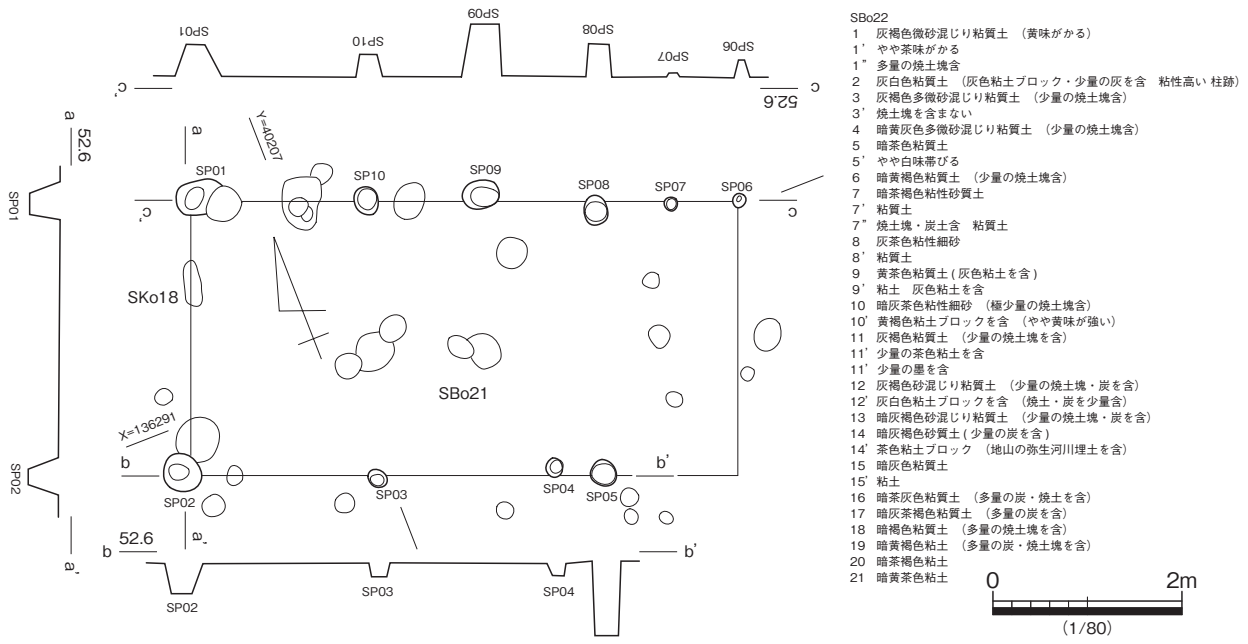
F6 区東半部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 1 間、桁行 3 間の東西棟である。西に SB022、南に SB021 等と隣接し一群をなしている。SB020 は SDo35 と重複し、この溝跡を切り込んでいる。1 間 (3.4 m) × 3 間 (7.6 m)、面積 25.84㎡、主軸方位 N75.0° W(N15.0° E)、柱間は梁間 3.2 ~ 3.4 m、桁行 2.1 ~ 2.8 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.3 ~ 0.4 m、深さ約 0.6 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1550 は SP05 から出土した須恵器碗底部、1551 は SP03 から出土した土師器杯、1552 は SP07 から出土した土師器小皿、1553 は SP02 から出土した土師器足釜である。検出状況や出土遺物から SB020 は概ね中世後半以降の建物と考えられる。

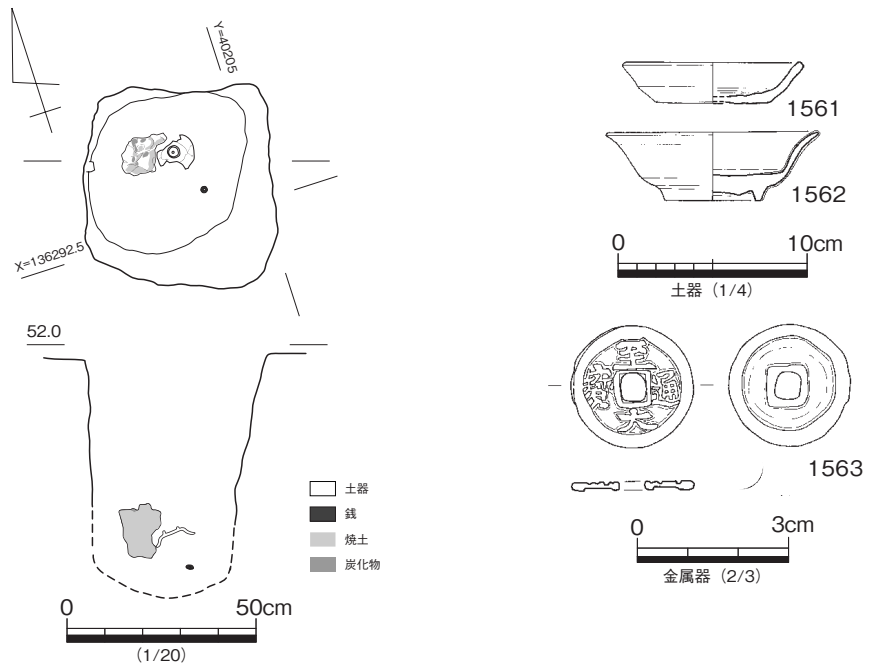
SB021 (第 183 図)

F6 区東半部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 1 間、桁行 3 間の東西棟である。西に SB022、北に SB020 等と隣接し一群をなしている。1 間 (2.9 m) × 3 間 (5.8 m)、面積 16.82㎡、主軸方位 N70.0° W(N20.0° E)、柱間は梁間 2.8 m、桁行 5.8 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ~ 0.4 m、深さ約 0.3 ~ 0.5 m を測る。

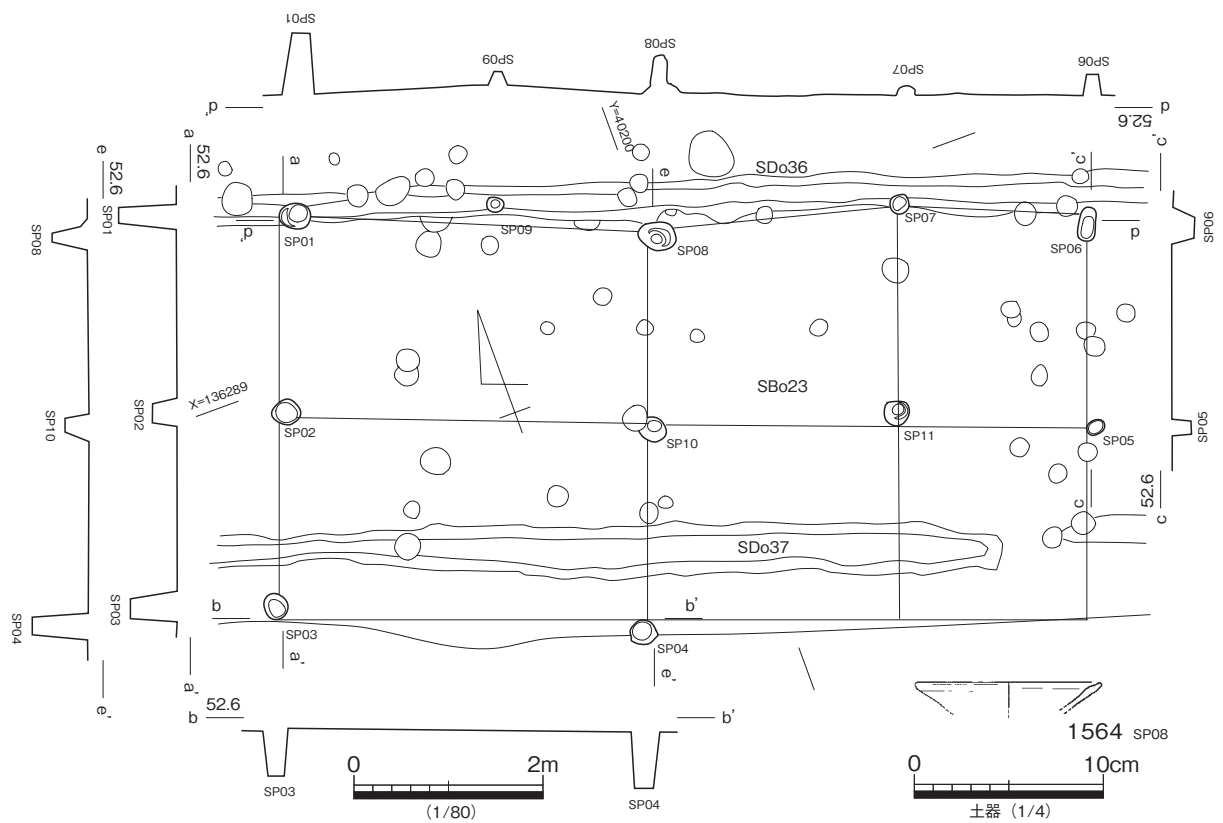
柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく、SB021 の詳細な時期判断には無理があるが、建物配置や出土遺物から SB019・20 に類似する時期が考えられる。



第183図 SBo21・22平・断面図, 出土遺物



第 184 図 SBo22_SP05 平・断面図, 出土遺物



第 185 図 SBo23 平・断面図, 出土遺物

SBo22 (第 183・184 図)

F6 区東半部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 1 間、桁行 3 間の東西棟である。東に SBo20・21 と隣接し一群をなすが、建物群中最も大型の建物である。2 間 (5.0 m) × 3 間 (7.3 m)、面積 36.5㎡、主軸方位 N70.0° W(N20.0° E)、柱間は梁間 2.2 ~ 2.8 m、桁行 1.0 ~ 3.0 m を測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径 0.4 ~ 0.8 m、深さ約 0.6 ~ 0.8 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器・陶器、石器、金属器等が出土した。1554・1555 は SP01、1556 は SP04、1557・1558 は SP03 から出土した土師器小皿と杯である。1559 は SP07 から出土したサヌカイトの石鏃である。1560 は SP03 から出土した鉄釘である。1561・1562 は SP05 から出土した土師器杯と、施釉陶器皿である。また、1563 は中国銭で「至大通宝」(1310 ~ 1311) である。出土遺物から SBo22 は 17 世紀前半頃の建物と考えられる。

SBo23 (第 185 図)

F6 区東半部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 2 間、桁行 4 間の東西棟である。北には SAo06 を境にして、向を揃えた SBo20・21・22 が位置する。また、西には僅かに向きを違えるが SBo24、SAo07 が隣接する。削平を受け側柱の一部を欠く。2 間 (4.2 m) × 4 間 (8.4 m)、面積 35.28㎡、主軸方位 N70.0° E(N20.0° W)、柱間は梁間 2.0 ~ 2.2 m、桁行 2.0 ~ 2.6 m を測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.1 ~ 0.6 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器が少量出土した。1564 は SP08 から出土した底部を欠く中世の土師器杯である。検出状況から SBo23 は周辺の SBo21 に類似した時期が考えられる。

SBo24 (第 186 図)

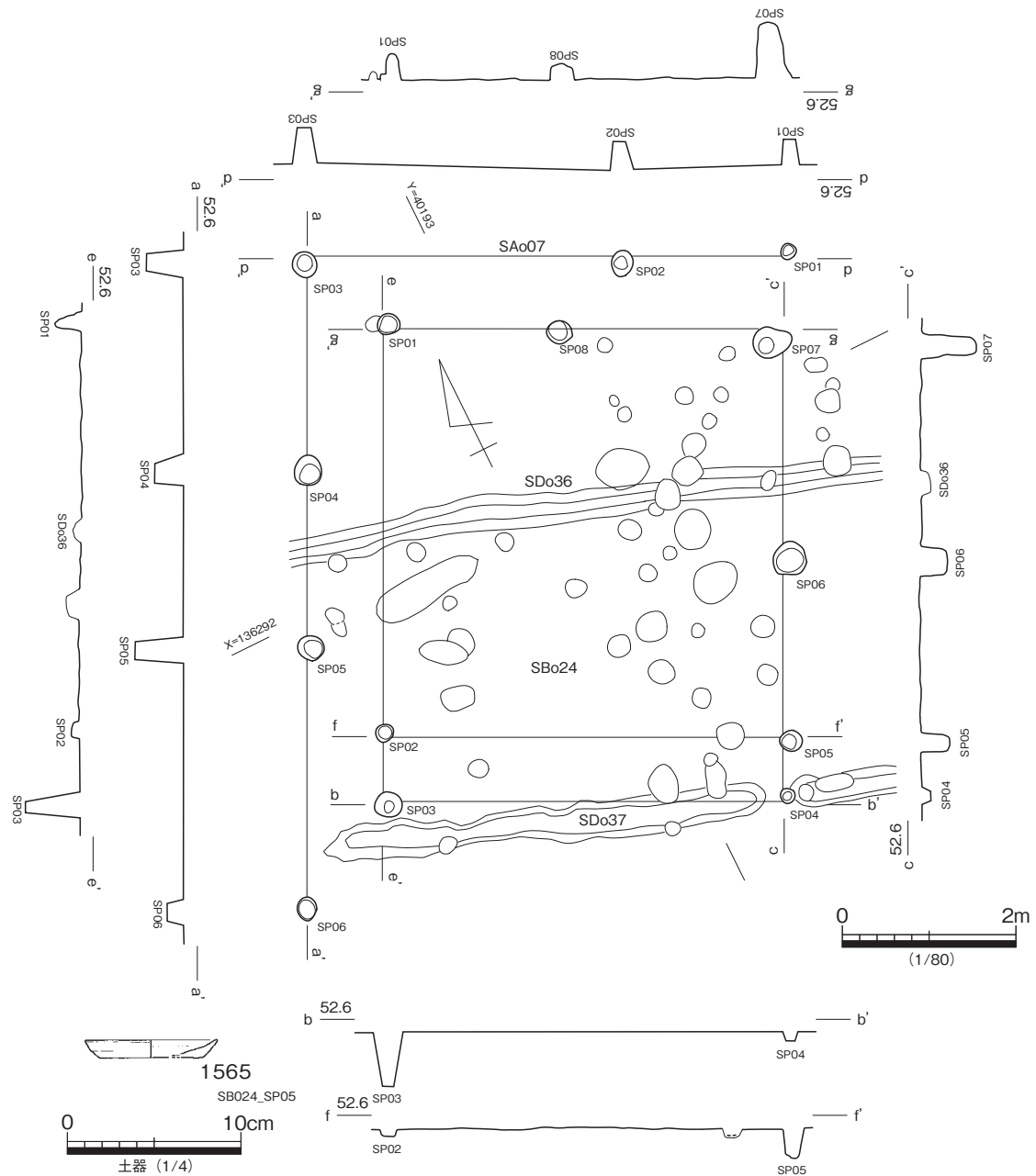
F6 区中央部南の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 2 間、桁行 2 間で、南面に廂が付く南北棟である。東には僅かに向きを違えるが SBo23 が隣接する。削平を受け柱穴の一部を欠く。2 間 (4.6 m) × 2 間 (4.8 m)、面積 22.08㎡、主軸方位 N27.0° E、柱間は梁間 2.0 ~ 2.2 m、桁行 2.2 ~ 2.4 m を測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.1 ~ 0.6 m を測る。廂を含めた構造では、2 間 (4.6 m) × 3 間 (5.4 m)、面積 24.84㎡を測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1565 は SP05 から出土した中世の土師器小皿である。検出状況から SBo24 は周辺の SBo21・22・23 に類似した時期が考えられる。

SBo25 (第 187 図)

F6 区西端部の SRo09 上面の第 1 遺構面上で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の南北棟である。削平を受け一部の柱穴を欠く。西側柱列の西には、並行する柵列 SAo10 が配されている。1 間 (3.6 m) × 3 間 (7.5 m)、面積 27.0㎡、主軸方位 N17.0° E、柱間は梁間約 3.6 m、桁行 2.2 ~ 2.8 m を測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.4 m、深さ 0.1 ~ 0.4 m を測る。

柱穴から土師器・須恵器、亀山焼が少量出土した。出土遺物が少なく SBo25 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世後半以降の建物と考えられる。

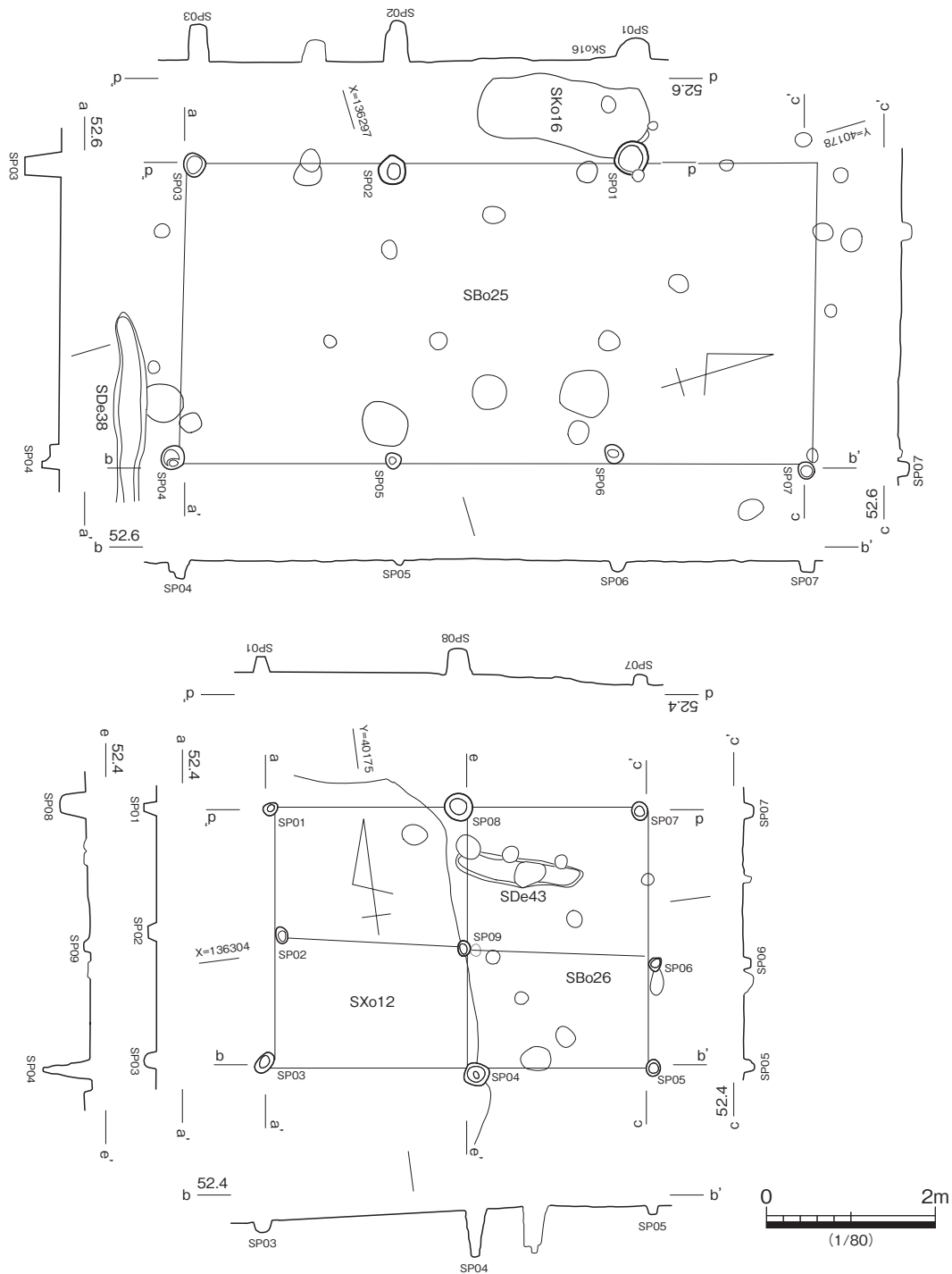


第186図 SB024・SA007 平・断面図, 出土遺物

SB026 (第187図)

F6区西端部のSX012の上面で検出した梁間2間、桁行2間の総柱の東西棟である。削平を受け柱穴の残りは悪い。SA010と重複するが柱穴が切り合わないため前後関係は不明瞭である。2間(3.1m)×2間(4.5m)、面積13.95㎡、主軸方位N72.5°E、柱間は梁間約3.1m、桁行2.0～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.1～0.3m、深さ0.1～0.5mを測る。

柱穴から弥生土器・土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSB026の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世後半以降の建物と考えられる。



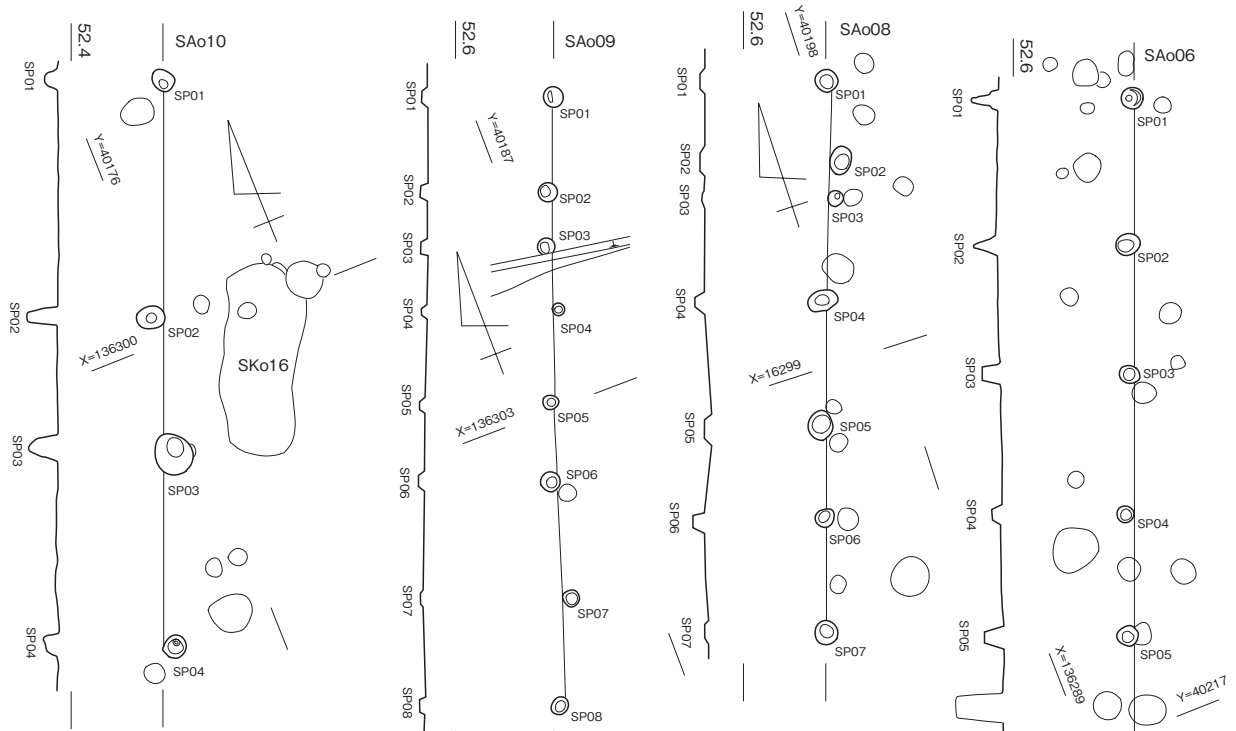
第 187 図 SB025・26 平・断面図

柵列

SAo06 (第 188 図)

F6 区東半部で検出した東西方向の柵列で、北に分布する SB020～22 の建物グループと南に分布する SB023・24 の建物グループ間に位置し、両者を画している。柱間 10 間、検出長 14.2 m、柱間 0.8～2.8 m、柱穴径 0.1～0.4 m、深さ 0.1～0.4 m、主軸方位 N69.0° W (N21.0° E) を測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なく SAo06 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から周辺の建物と同時期の柵列と考えられる。

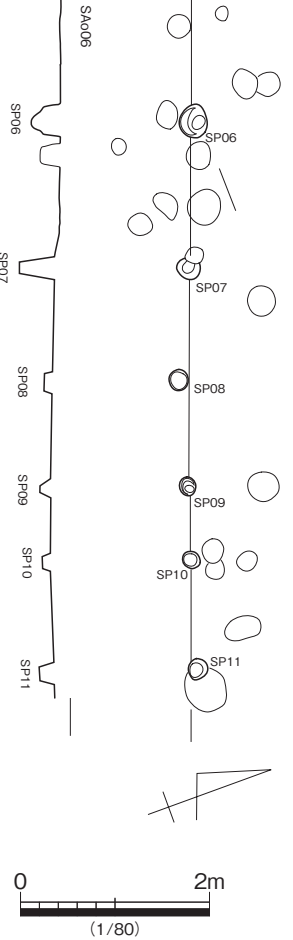


第188図 SAo06・08・09・10平・断面図

SAo07 (第186図)

F6区中央で検出したSBo24の北辺と西辺に付属する柵列である。SAo07は当初、SBo24の北面及び西面の廂と考えた。柱間が揃わないため別遺構にしたが、再考の余地もある。北辺柱間2間、検出長5.4m、柱間1.8～3.6m、柱穴径0.1～0.3m、深さ0.2～0.4m、主軸方位N65.0°W(N25.0°E)を測る。西辺柱間3間、検出長7.4m以上、柱間2.0～3.0m、柱穴径0.2～0.3m、深さ0.2～0.6m、主軸方位N26.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo07の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物からSBo24と類似した時期の柵列と考えられる。



SAo08 (第 188 図)

F6 区中央で検出した SBo22 の西辺に並行に配された南北方向の柵列である。柱間 5 間、検出長 6.2 m 以上、柱間 1.0 ～ 1.2 m、柱穴径約 0.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m、主軸方位 N20.0° E を測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なく SAo08 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から SBo22 と同時期の柵列の可能性が高い。

SAo09 (第 188 図)

F6 区西半部で検出した南北方向の柵列である。柱間 6 間、検出長 6.6 m、柱間 0.8 ～ 1.0 m、柱穴径 0.1 ～ 0.2 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N21.0° E を測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なく SAo09 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から概ね中世後半の柵列と考えられる。

SAo10 (第 188 図)

F6 区西端部で検出した、SBo25 の西辺に並行に配された南北方向の柵列である。SBo26 と重複するが、柱穴が切り合わないため前後関係については不明である。柱間 3 間以上、検出長 6.0 m 以上、柱間 1.4 ～ 2.6 m、柱穴径 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.2 ～ 0.3 m、主軸方位 N20.0° E を測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なく SAo10 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から概ね中世後半の柵列と考えられる。

土坑跡

SKo13 (第 189 図)

F6 区中央部の南壁際で検出した土坑である。南半部が調査区より外れるため北半部を検出した。北端は SDo37 と接するが、切り合いまでには至らない。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径 0.8 m 以上、短径約 0.9 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は灰褐色粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿、須恵器杯片等の中世の遺物が出土しているため、SKo13 は中世以降の時期が考えられる。

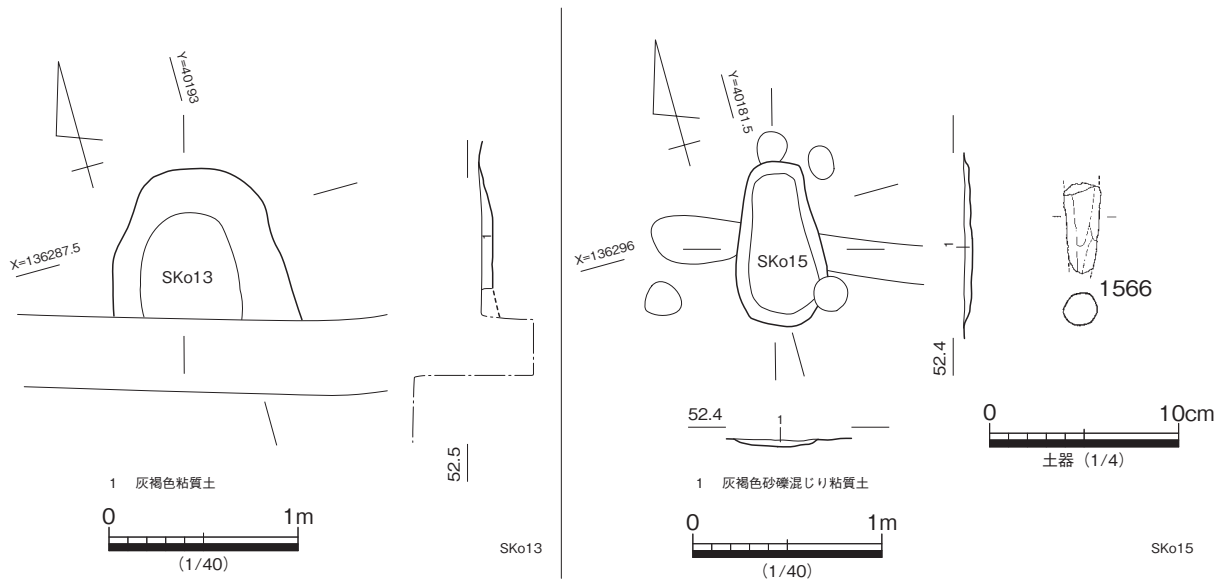
SKo15 (第 189 図)

F6 区西半部で検出した土坑である。この土坑は SDo36 の西端部分で重複し、SDo36 を切り込んでいる。そのため、前後関係としては SDo36 より後出することが解る。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径 0.9 m、短径 0.45 m、深さ約 0.05 m を測る。埋土は灰褐色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が極少量出土した。1566 は土師器足釜脚部片である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物から SKo15 は中世以降の時期が考えられる。

SKo16 (第 190 図)

F6 区西端部で検出した土坑である。この土坑は SBo25 と SAo10 の間に位置し、SBo25 の側柱の柱穴 SP01 に切り込まれているため、前後関係としては SKo16 は SBo25 より先行する。平面は長楕円形状を、断面は幅広な U 字状を呈する。特徴的な点では東西の両端部に須恵器大甕と亀山焼大甕の体部～底部片



第 189 図 SKo13・15 平・断面図，出土遺物

を据えており、本来は上半部まで残存していたものが削平により失われた可能性があるが、何を意図したか性格不明の土坑である。長径約 2.0 m、短径約 0.7 m、深さ約 0.35 m、主軸方位は N23.0° E を測る。

埋土からは土師器・須恵器・瓦質土器等が出土した。1567 は土師器杯、1568 は須恵器壺の口縁部片である。1569 は須恵器大甕の体部片である。1570 は亀山焼大甕の体部片である。外面には格子タタキが顕著である。

SKo17 (第 191 図)

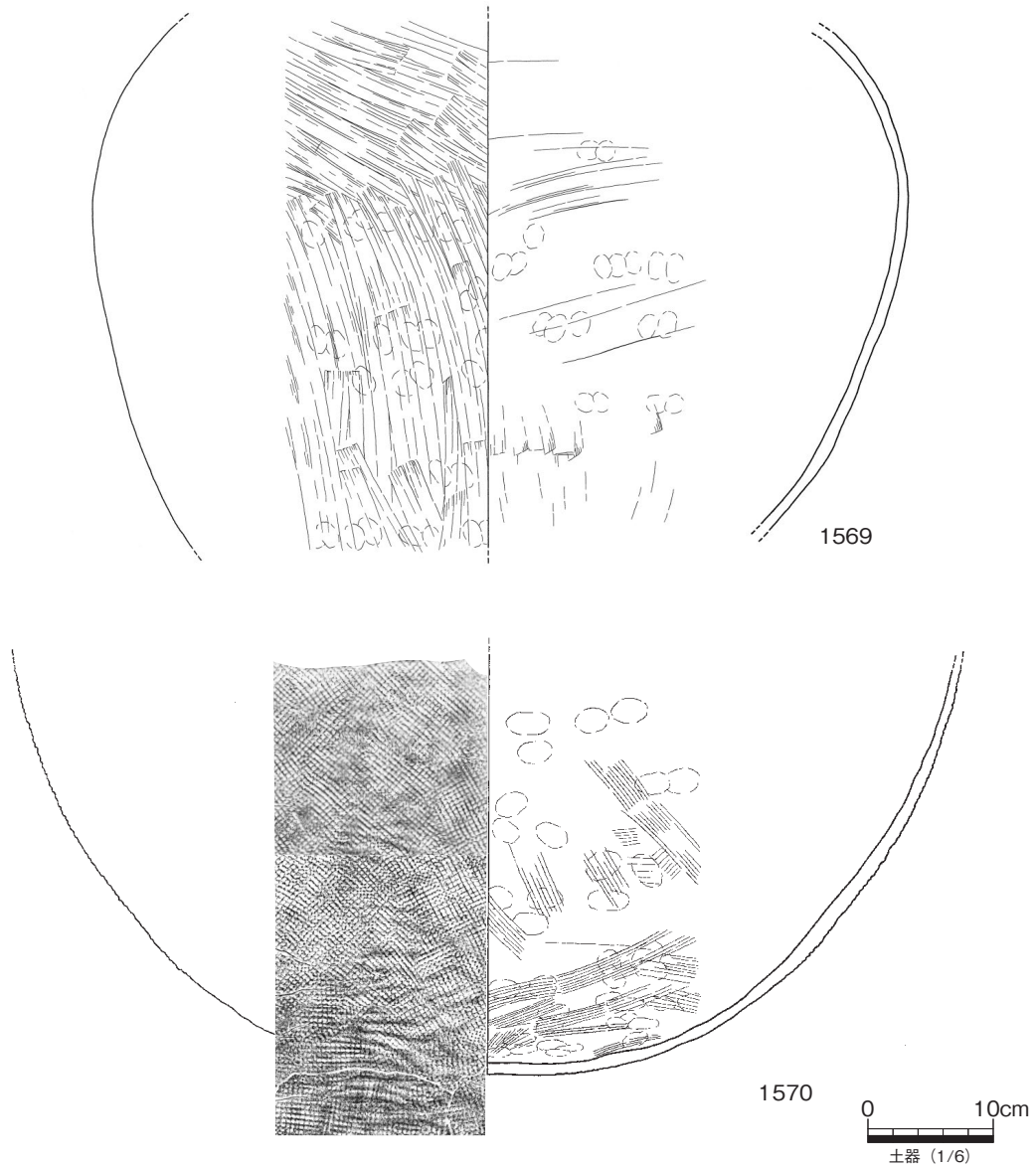
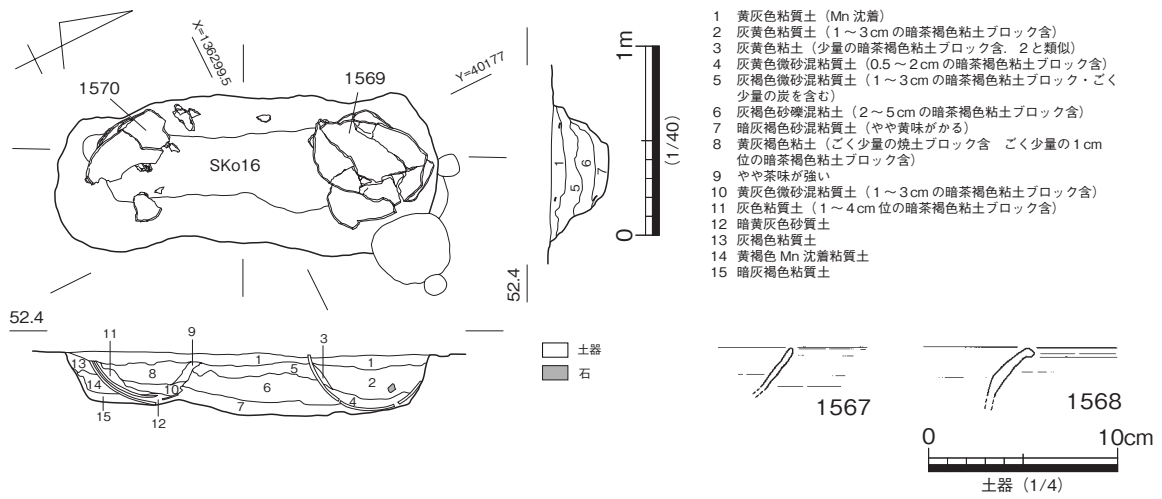
F6 区東半部で検出した土坑である。この土坑は SBo20 の南西隅柱にあたる SP02 と重複し、SP02 に切り込まれているため、前後関係としては SBo20 より先行することが解る。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径 0.45 m 以上、短径 0.25 m、深さ約 0.05 m を測る。

埋土からは土師器杯が 7 個体ほど出土した。出土遺物や検出状況から推定して、SKo17 は地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。1571 ~ 1577 は 15 世紀前半頃の土師器杯である。出土遺物から SKo17 は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。

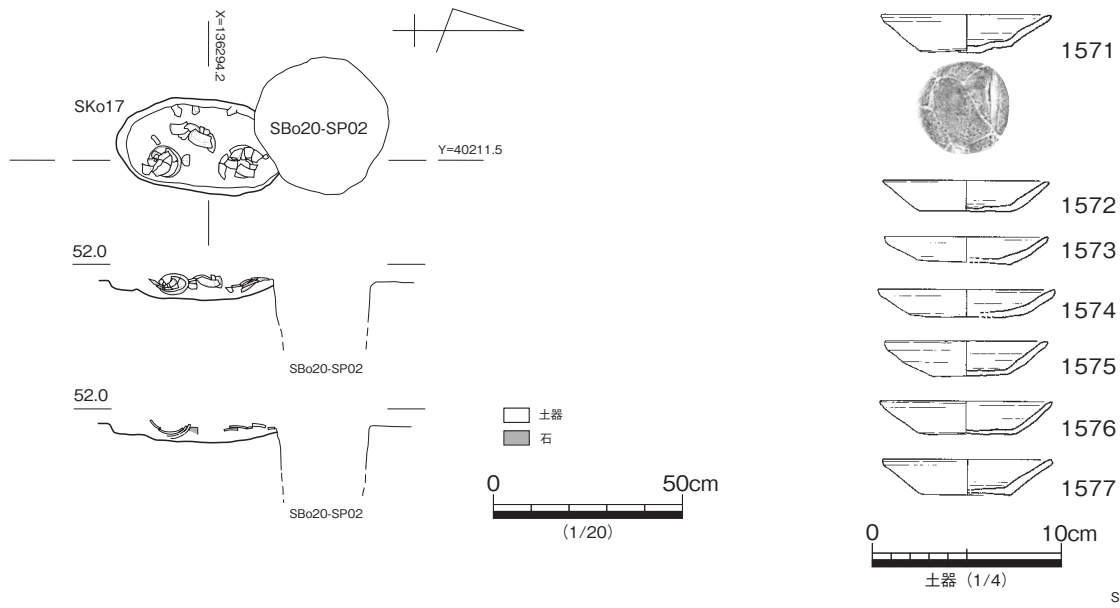
SKo18 (第 191 図)

F6 区東半部で検出した土坑である。この土坑は SBo21 と重複するが柱穴と切り合わないため、前後関係は不明である。平面は長楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径約 0.5 m、短径約 0.18 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土からは土師器杯 11 個体を並べて配し、その杯に加え更に 9 点の銭貨を埋納しており、出土遺物や検出状況から SKo18 は先述した SKo17 同様、地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。

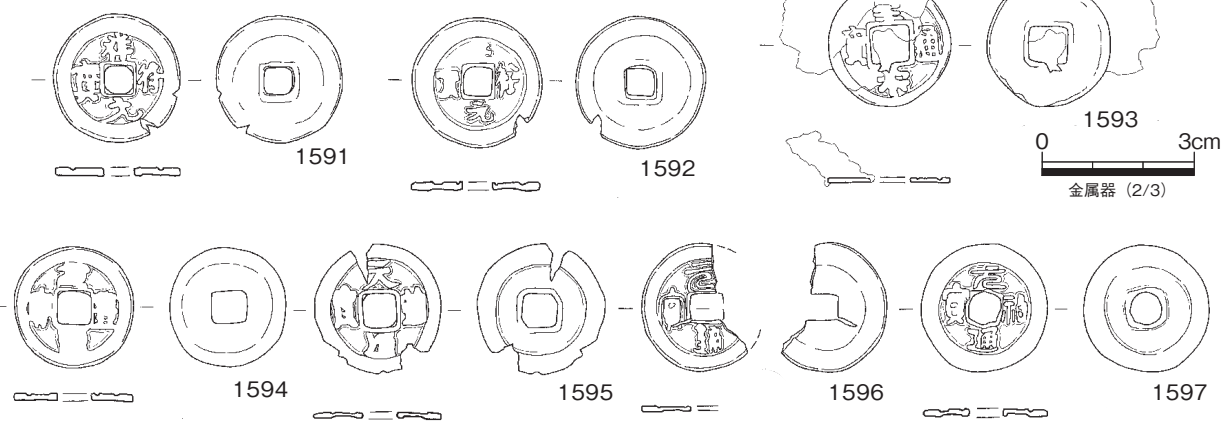
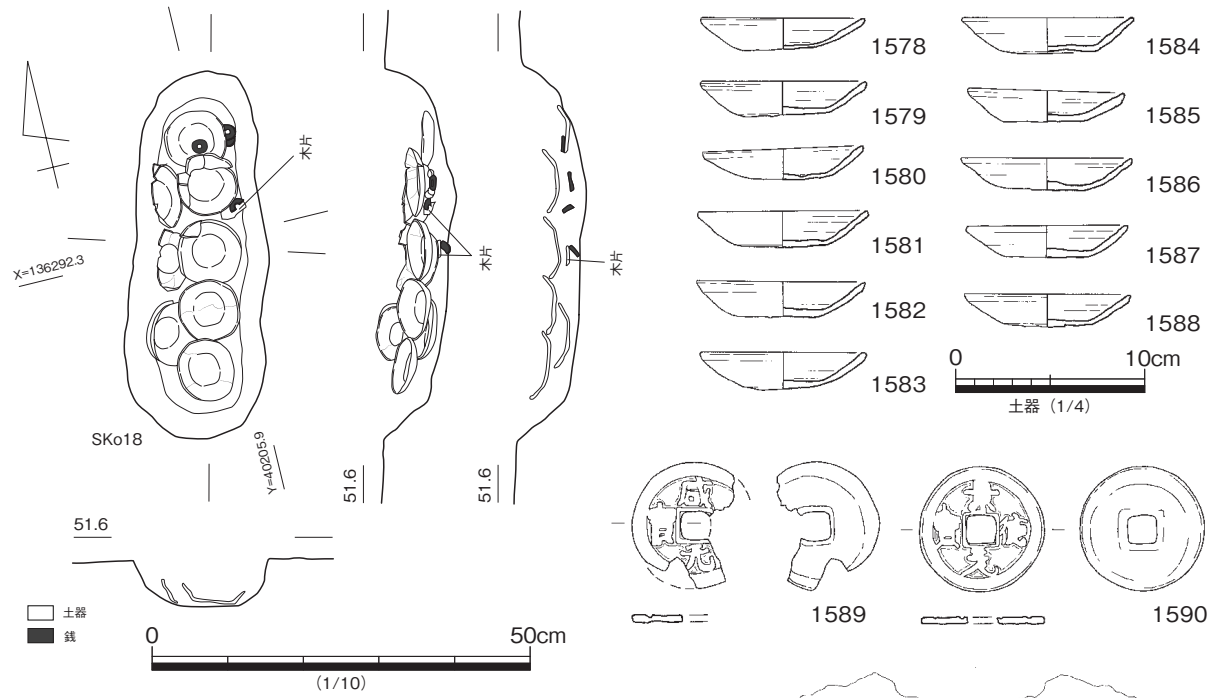
埋土からは 1578 ~ 1597 が出土した。1578 ~ 1588 は 14 世紀後半 ~ 15 世紀前半頃の土師器杯である。1589 ~ 1597 は出土した中国銭である。1589 は咸平元宝 (998 ~ 1003 年)、1590 は景德元宝 (1004 ~ 1007 年)、1591・1592 は祥符元宝 (1008 ~ 1016 年)、1593 は皇宋通宝 (1038 ~ 1040 年)、1594 ~ 1596 は元豊通宝 (1078 ~ 1085 年)、1597 は元祐通宝 (1086 ~ 1094 年) である。銭貨と土器の年代観が合致しないが、土器の年代観から SKo18 は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。



第190図 SKo16平・断面図, 出土遺物

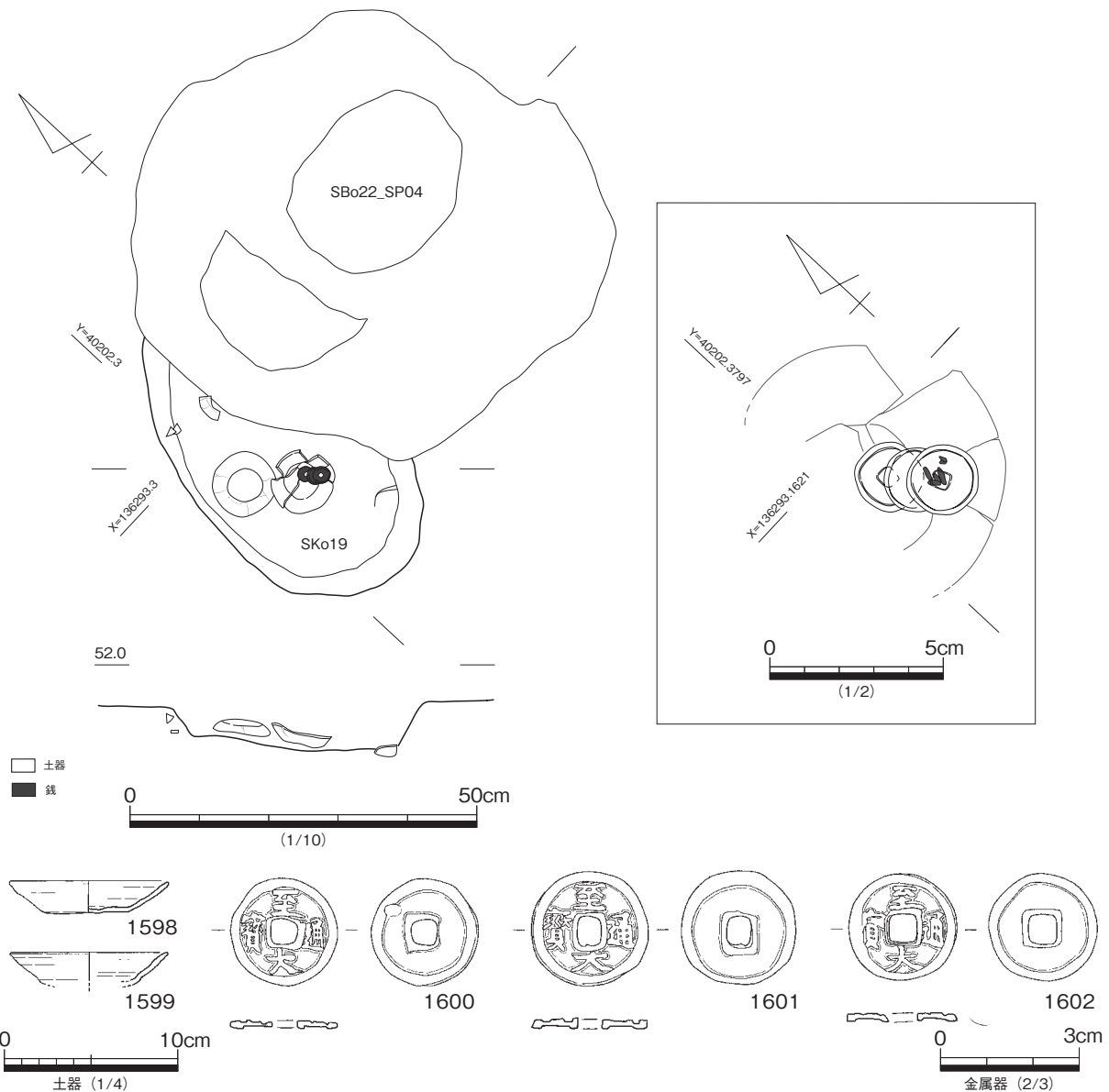


SKo17



SKo18

第191図 SKo17・18平・断面図，出土遺物



第192図 SKo19平・断面図, 出土遺物

SKo19 (第192図)

F6区東半部中央で検出した土坑である。この土坑はSBo22の南側柱列のSP04と重複し、SP04に切り込まれているため、前後関係としてはSBo22より先行することが解る。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な逆台形状を呈する。長径0.5m以上、短径0.3m以上、深さ約0.07mを測る。埋土からは土師器杯が2個体出土し、1つの杯には銭貨3枚を重ねた状態で出土した。また、銭貨と杯との間には、5粒ほどの米粒が認められ、銭貨と一緒に供えられたものと考えられる。出土遺物や検出状況から推定して、SKo17は地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。

埋土からは1598～1602が出土した。1598・1599は14世紀末～15世紀前半頃の土師器杯である。1600～1602は出土した銭貨で、3点伴に至大通宝(1310～1311年)である。遺物の出土状況からSKo19は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。

溝状遺構

SDo40 (第 193 図)

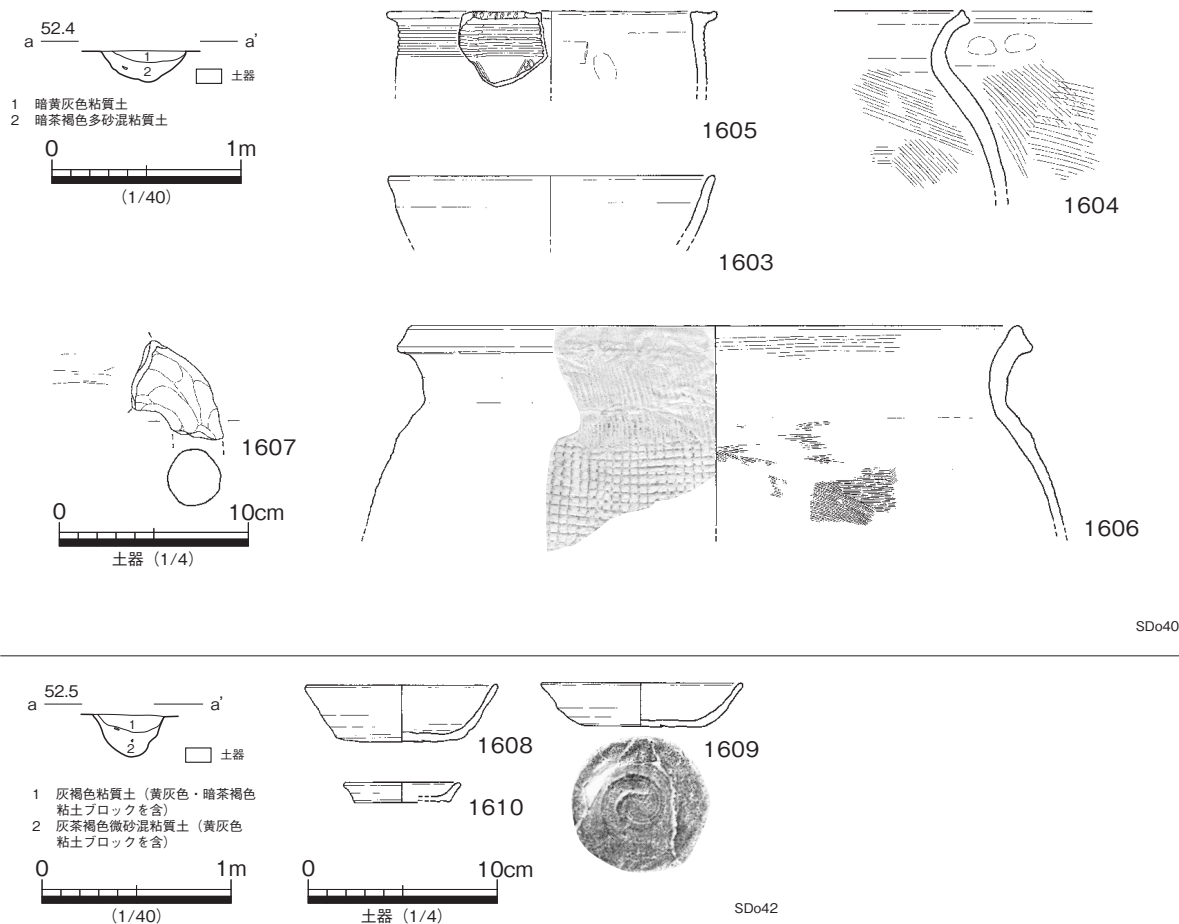
F6 区西半部に直線状に配した南北方向の溝状遺構である。削平を受けて残りがかなり悪い溝跡である。SDo36 と重複し、この溝跡を切り込んでおり、前後関係としては SDo36 より後出する。検出長約 6.7 m、幅約 0.45 m、深さ約 0.15 m を測る。断面は椀状を呈し、埋土上層は暗黄灰色粘質土、下層は暗茶褐色砂混じり粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。1605 は弥生時代前期末～中期初頭の甕上半部である。1604 は弥生時代後期後半の甕でこれらは混入品であろう。1603 は須恵器の杯上半部、1606 は瓦質の亀山焼の甕上半部で、体部外面には格子タタキが顕著に認められる。1607 は土師器足釜片で、これらの遺物が SDo40 の時期を示す遺物と考えられる。出土遺物から SDo40 は中世前半以降の溝状遺構と考えられる。

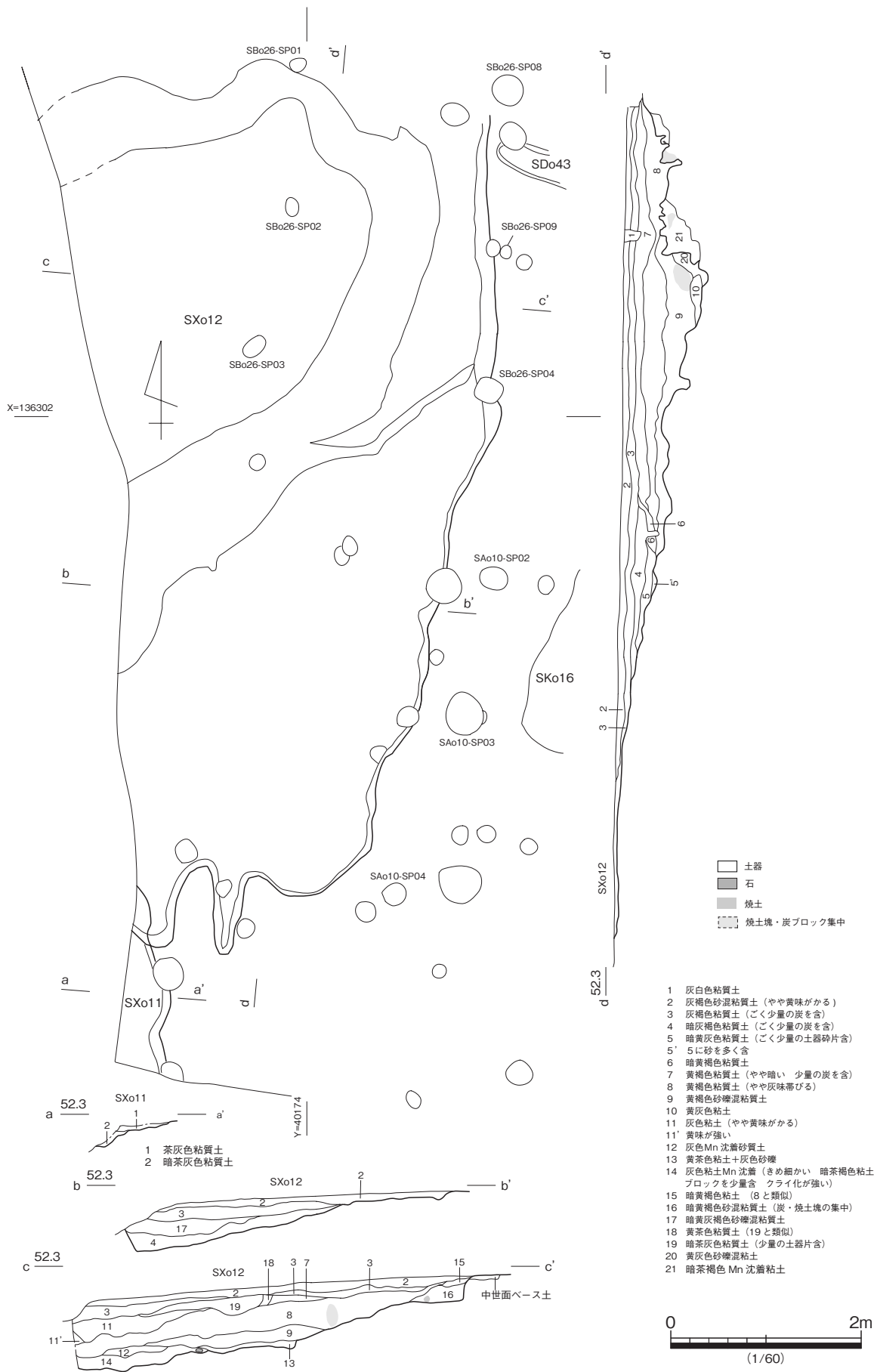
SDo42 (第 193 図)

F6 区西半部の SDo36 南に隣接する小さな溝状遺構である。SBo24 と重複するが、柱穴と切り合っていないため検出状況からの前後は不明である。検出長約 1.3 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は椀状を呈し、埋土上層は灰褐色粘質土、下層は灰茶褐色砂混じり粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1608・1609 は 14 世紀前半頃の土師器杯で、1610 は土師器小皿である。出土遺物から SDo42 は中世前半以降の溝状遺構と考えられる。



第 193 図 SDo40・42 平・断面図, 出土遺物



第 194 図 SXo11・12 平・断面図

不整形遺構

SXo11 (第 194・195 図)

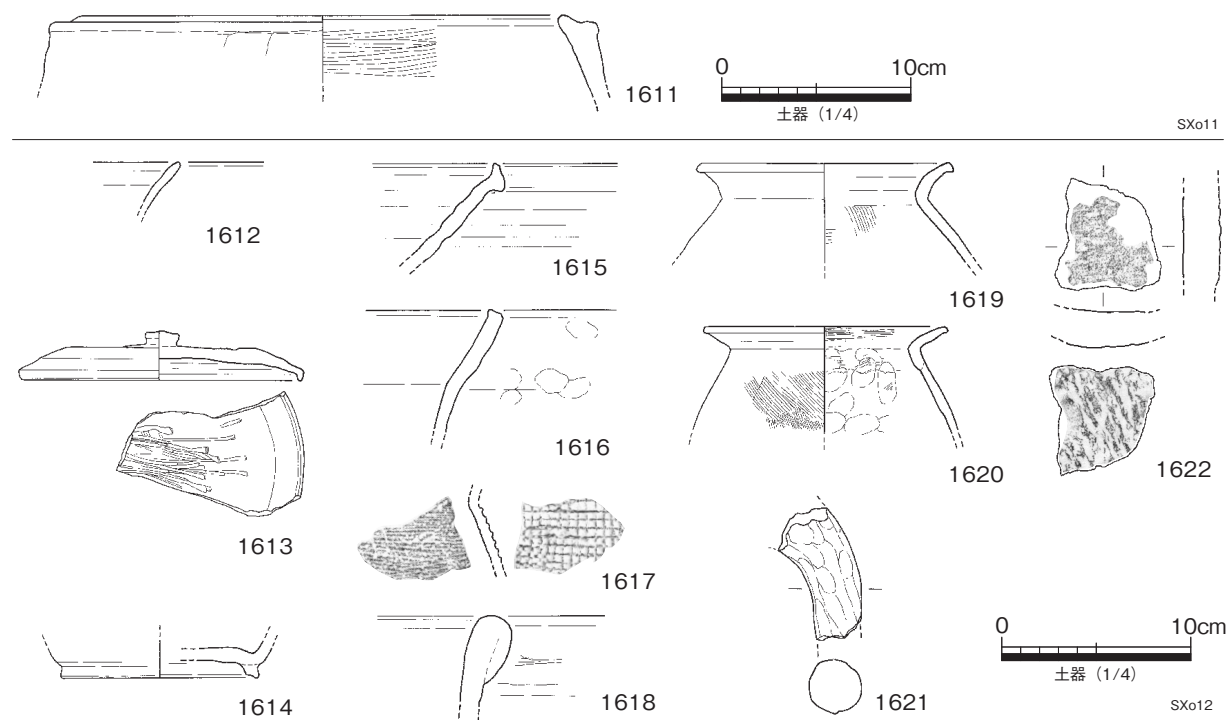
F6 区西端部で検出した SXo12 と重複する落ち込み状の遺構である。性格的には SXo12 同様、完新世段丘崖の縁に位置する遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、段丘崖を斜めに抉っている。全体の中で極一部が調査区内で検出された。形状から SXo12 同様、人為的な遺構とは考えられない。検出長約 1.5 m 以上、幅約 0.8 m、深さ約 0.4 m を測る。断面は凹凸が著しい不整形な落ち込みを呈する。

埋土からは土師器・備前焼片等が少量出土した。1611 は土師器鍋の口縁部片である。出土土器の状況から SXo11 は中世後半以降の遺構と考えられる。

SXo12 (第 194・195 図)

F6 区西端部で検出した比較的大規模な落ち込み状の遺構である。完新世段丘崖の縁に位置する遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、段丘崖を斜めに抉っており、形状から人為的な遺構とは考えられない。検出長約 9.5 m 以上、幅約 4.1 m、深さ約 0.8 m を測る。断面は凹凸が著しい不整形な落ち込みを呈する。埋土は約 20 層に細分できる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・陶器・瓦質土器等が混在した状態で出土した。1619・1620 は弥生時代後期後半の甕上半部、1613・1614 は 8 世紀後半の須恵器蓋・杯でこれらは混入品であろう。この遺構の形成時期を示す遺物は、1615～1618・1621 等の中世後半以降の土器である。



第 195 図 SXo11・12 出土遺物

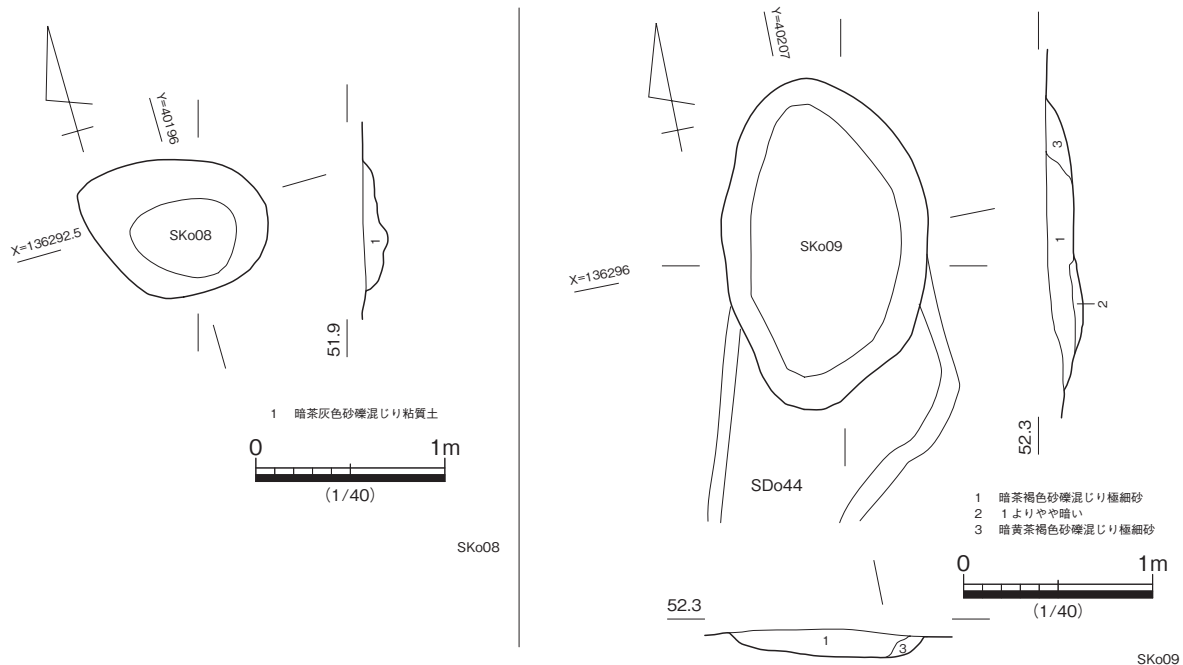
(4) 時期不明の遺構

SKo08 (第 196 図)

F6 区中央部の第 2 遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形円形状、断面は凹凸のある不整形な形状を呈する。長径 1.0 m、短径 0.7 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は暗茶灰色砂礫混じり粘質土からなる。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には無理がある。

SKo09 (第 196 図)

F6 区中央部の第 2 遺構面上で検出した土坑である。この土坑は SDo18 の先端部分で重複し、SDo18 を切り込んでいるため、前後関係としては SDo44 より後出することが解る。平面は不整形楕円形状を呈、断面は浅い皿状を呈する。長径 1.75 m、短径 1.1 m、深さ約 0.15 m を測る。埋土は暗茶灰色礫混じり細砂が主体を占める。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には無理があるが、SDo18 との切り合い関係から SDo18 より後出する時期であることは確かである。



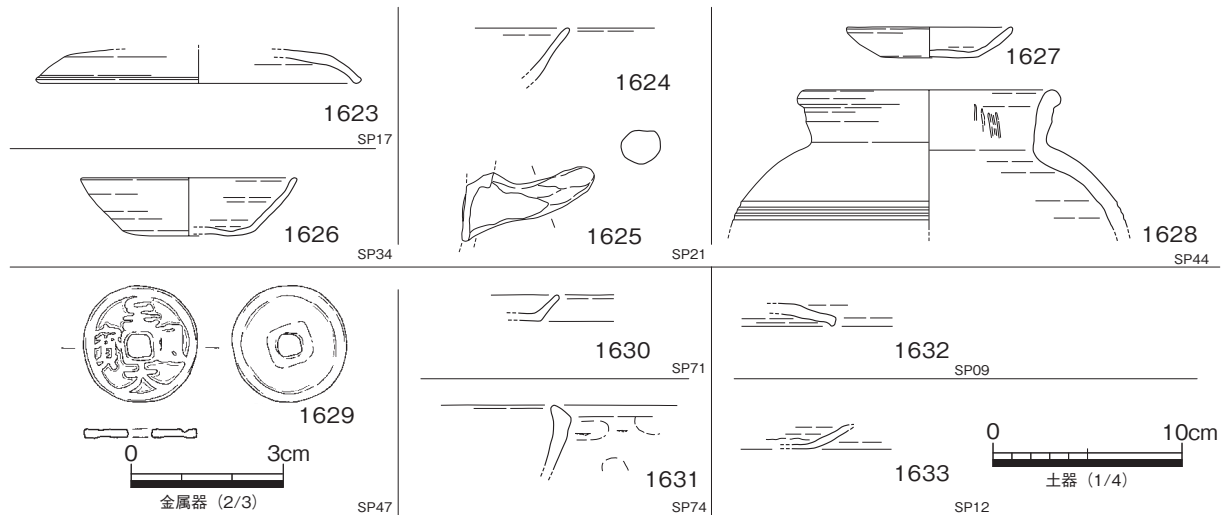
第 196 図 SKo08・09 平・断面図

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第 197 ~ 202 図)

F7・E6・F6・B5 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

1623 ~ 1633 は F7・E6 区の柱穴出土遺物である。1623・1632 は須恵器杯蓋、1624・1626 は須恵器杯、1625 は把手付鉢の把手部と考えられる。1627・1633 は土師器杯、1630 は土師器小皿、1628 は陶器壺の上半部である。なお、1629 の銭貨は至大通宝 (1310 ~ 1311 年) である。

1634 ~ 1670 は F6 区の柱穴出土遺物である。1639・1640・1661・1667・1668 は弥生土器の壺・甕・鉢等の土器である。1660 は 8 世紀後半の須恵器杯、1634・1638・1641・1643・1644・1649・1652・1655・1656・1662 ~ 1666・1670 は中世土師器杯、1635・1669 は土師器小皿、1647・1659 は土師器足釜の脚部である。1642 はサヌカイトの二次加工ある剥片、1653 は砥石である。



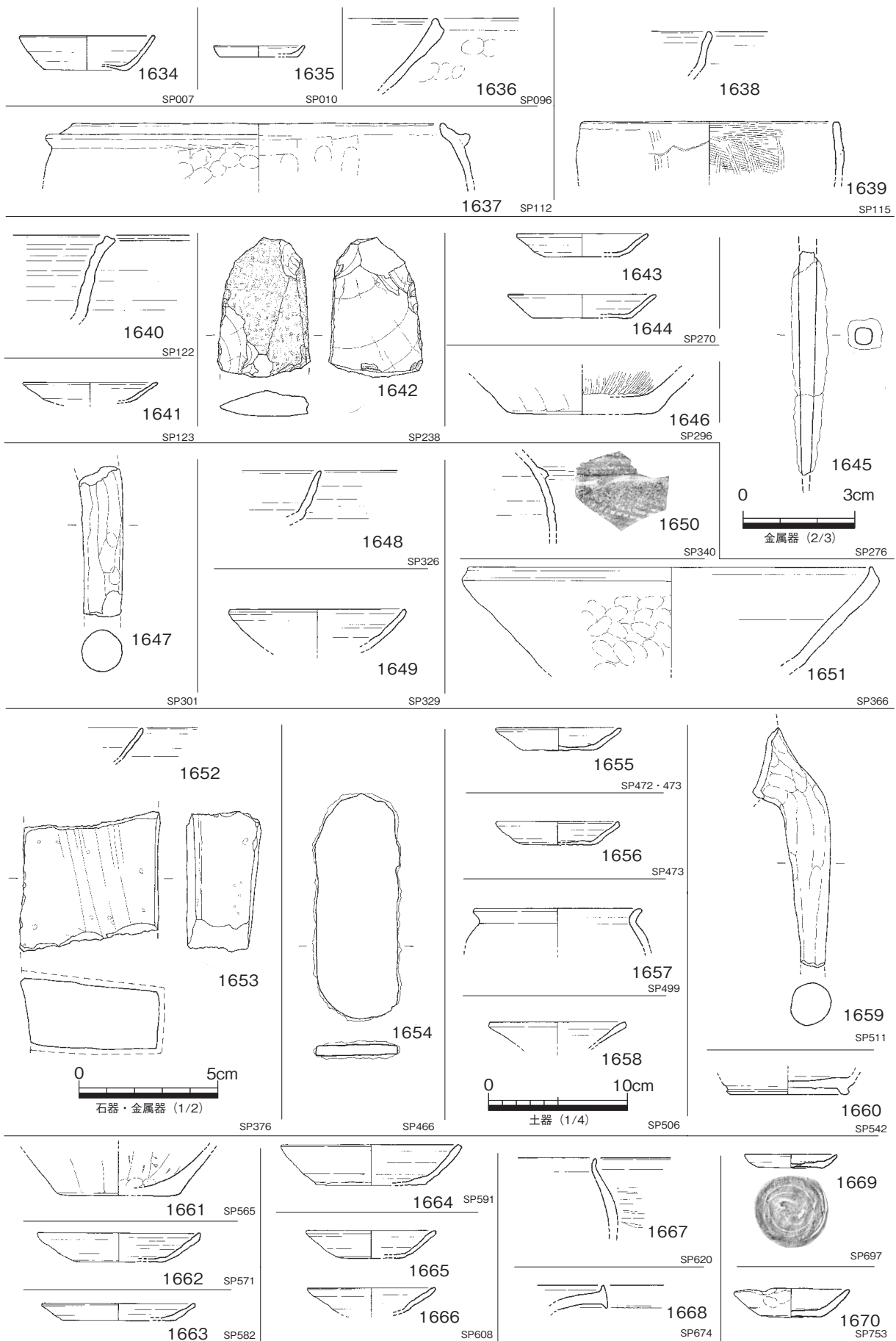
第 197 図 F7・E6 区柱穴出土遺物

1671～1733はF7区の包含層出土遺物で、1671～1681は弥生時代後期後半新相頃の土器である。1671・1672は壺、1673・1674は甕、1675～1677は鉢、1679～1681は高杯である。1671の壺は下半部を欠く壺で、口頸部は外上方に開き、口縁端部は上方へ拡張し、口縁部外面には鋸歯文を巡らしている。1674は下半部を欠く甕で、口縁部は外上方に短く「ハ」字状に開き、体部外面には細いタタキを施しており、この時期の特徴を良く表している。1683～1706・1715は古代の須恵器である。1683は7世紀初頭頃の杯、1684～1698は8世紀後半の蓋と杯である。1704・1705は皿、1715は鉄鉢である。1716～1721は椀で、1716・1717は黒色土器、1718は灰釉陶器、1719は緑釉陶器、1720・1721は白磁椀の口縁部と底部である。1729・1730は平瓦片である。1731～1733は石器である。1732は裁断面から楔形石器に分類した。1733は端部にある敲打痕から大型の砂岩をもちいた敲石に分類した。1731は緑色片岩製の石器で、刃部を片側縁に刃部もつことから磨製石剣状の石器の可能性はある。

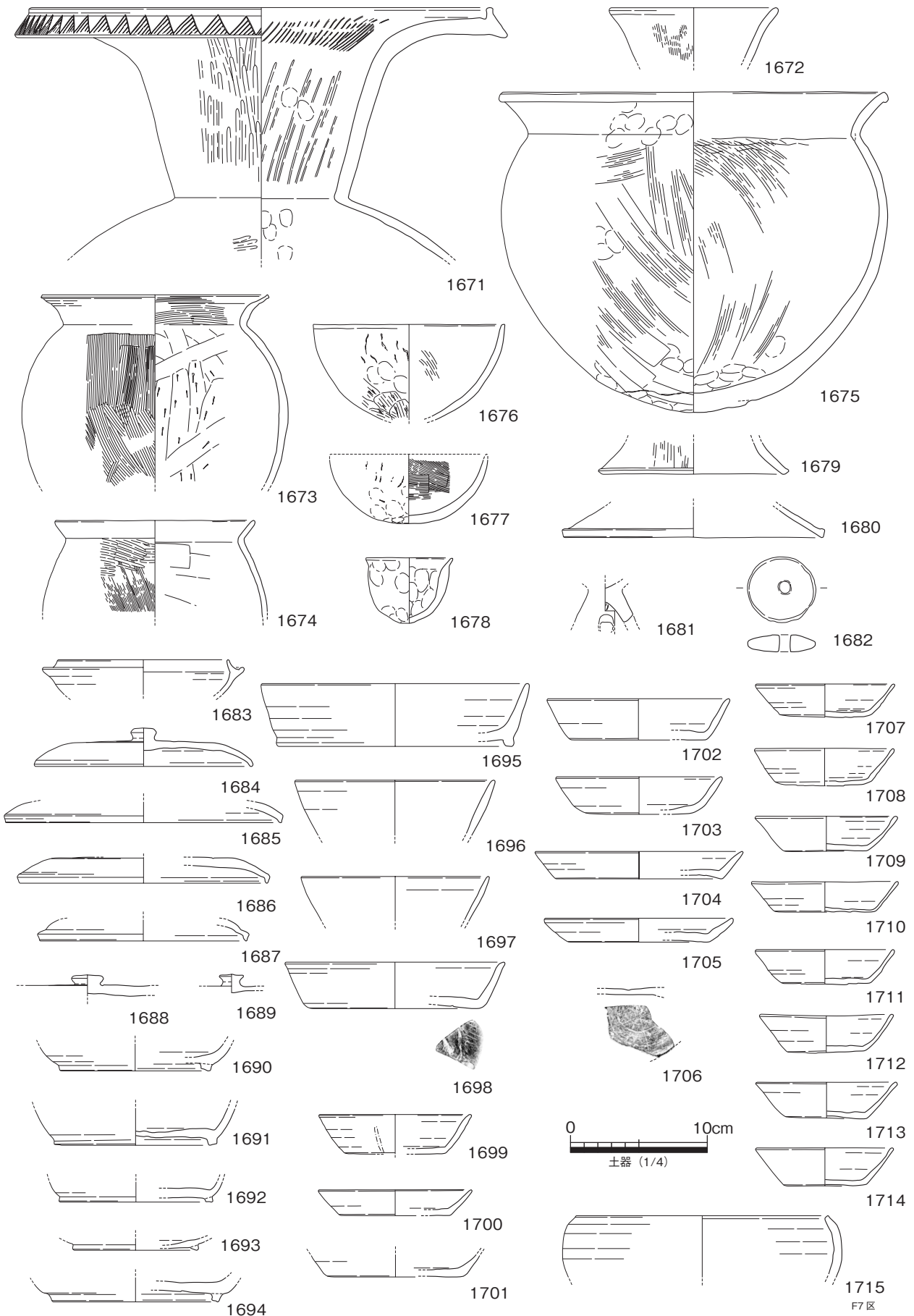
1734～1763はE6区の包含層出土遺物で、1734～1740は弥生時代後期後半新相頃の土器である。1734～1736は壺、1737～1739は甕、1740は高杯脚部である。1741～1749は須恵器杯である。1741は7世紀初頭、1742～1747は8～9世紀の蓋と杯である。1752～1755は椀の資料で、1752は土師器、1753・1754は黒色土器、1755は白磁椀の口縁部片である。1756・1757は須恵器甕の口縁部片である。1758・1759は土錘、1760は平瓦片である。1761はE6区の機械掘削の際に出土した陶印である。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり、県下でも事例はあるが希少な資料である。西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になる。四角錐状の形状を呈し方形の印面をもち、上半部には二条の貫通痕がある。印面には一文字で「大」と「十」が組み合わされた文字の線刻があり、この線刻は「奉」の略字もしくは「本」の可能性が考えられる（註2）。1762はサヌカイトの石鏃、1763は槍先状の形状であるが石核に分類した。

1764～1793はF6区の包含層出土遺物で、1764～1778は弥生後期後半の土器である。1764～1768は壺、1769～1775は甕、1776～1778は高杯である。1779～1783は8～9世紀頃の須恵器蓋・杯である。1789は須恵器高杯の脚部と杯部の接合部分にあたり、内面には「十」字の線刻が認められる。1790・1791はサヌカイトの石鏃、1792はサヌカイトの石庖丁片である。1793は磨滅痕が顕著に認められるため磨石に分類した。

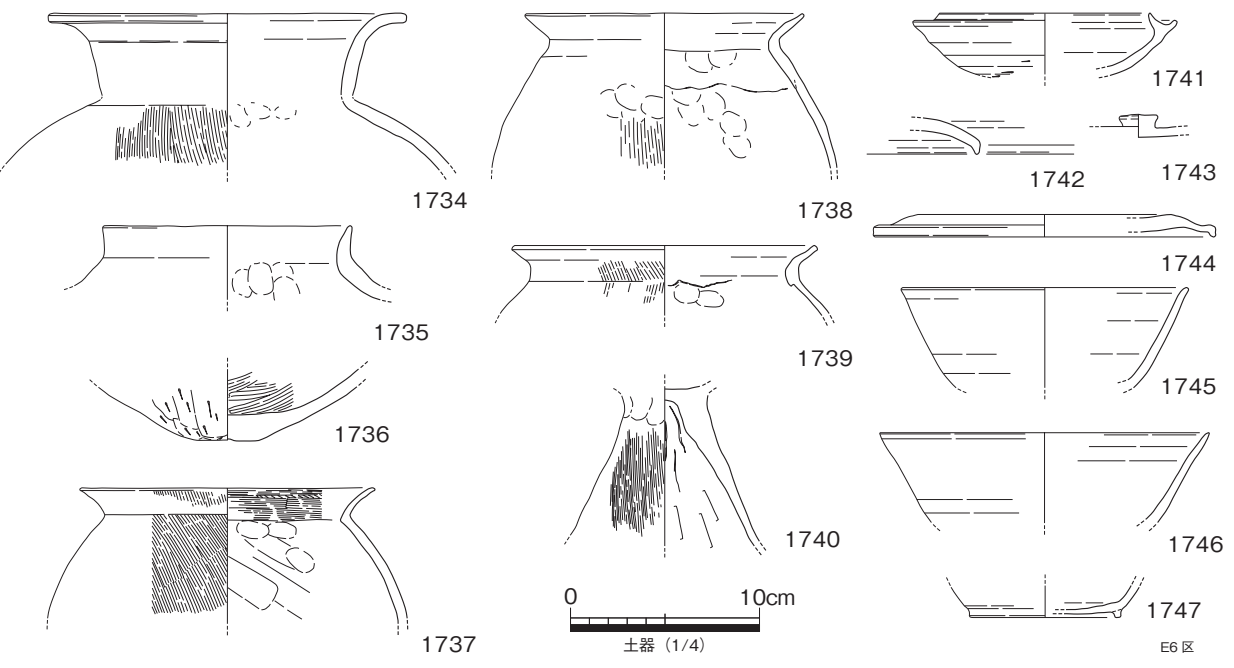
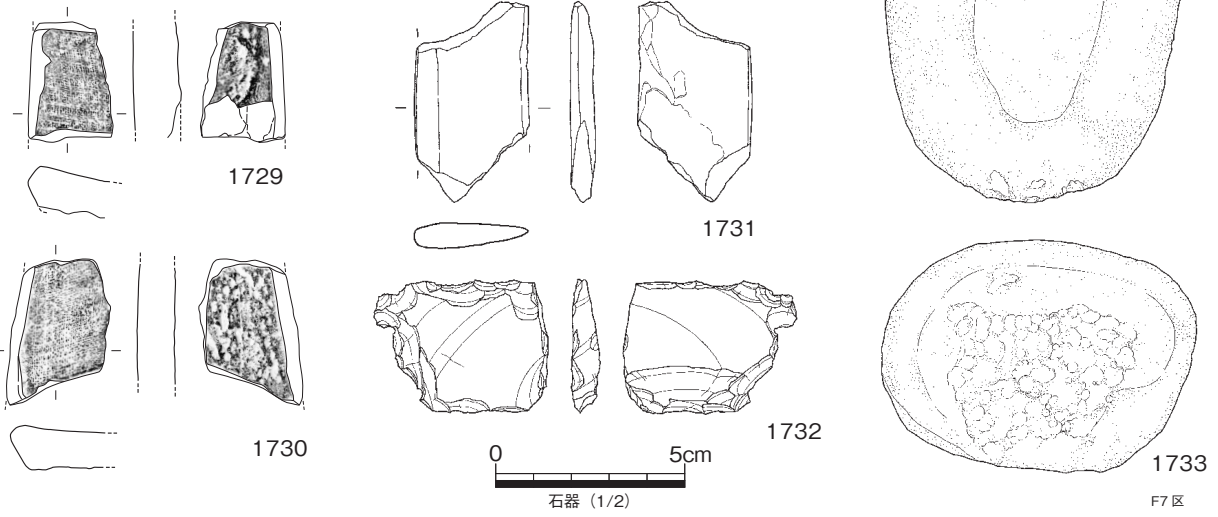
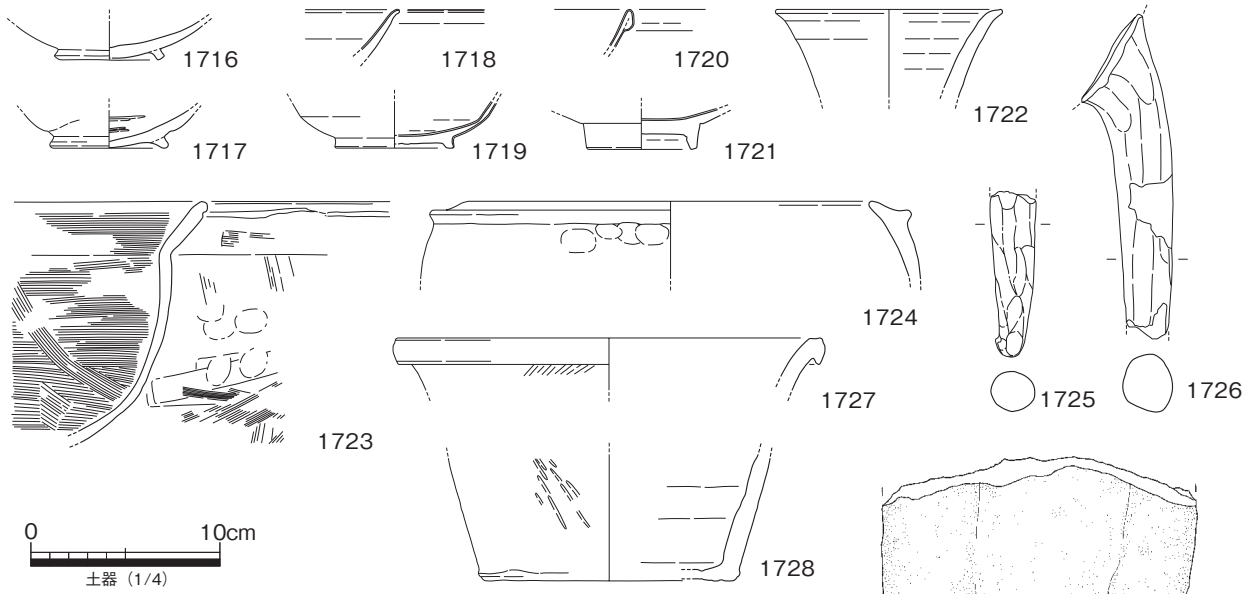
1794・1795はB5区の包含層出土遺物で、1794は弥生時代後期後半の口縁部と底部を欠く甕体部である。1795は平瓦片である。



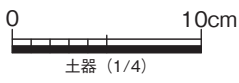
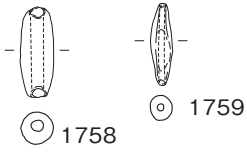
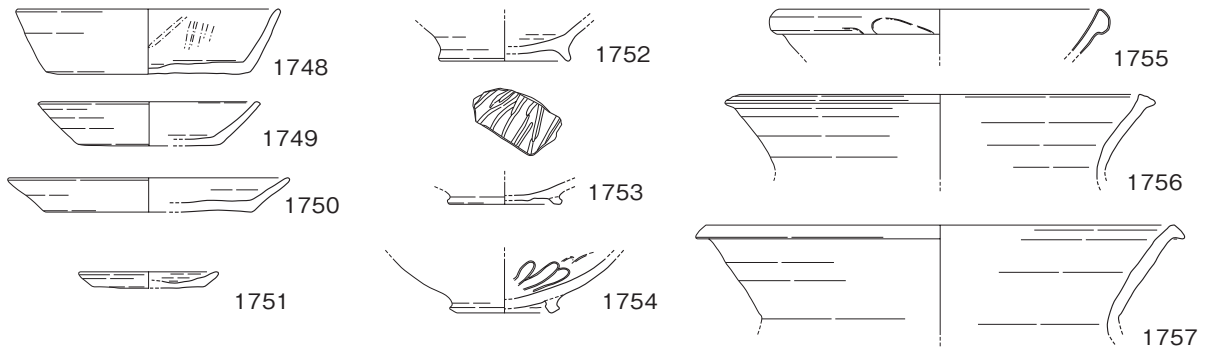
第 198 图 F6 区柱穴出土遺物



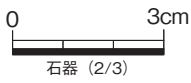
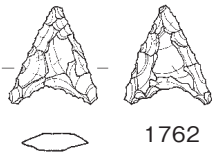
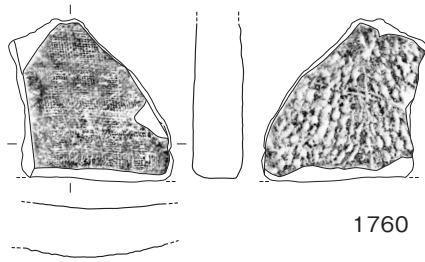
第 199 图 F7 区包含層出土遺物



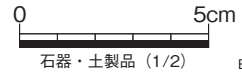
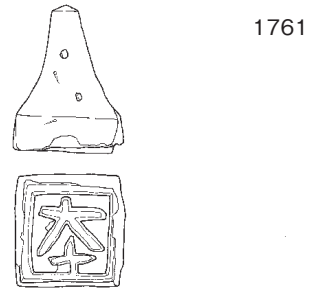
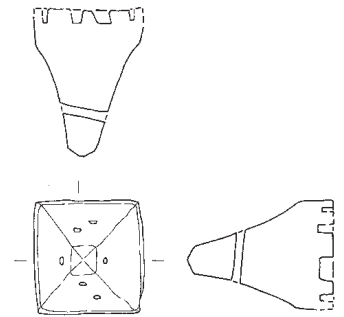
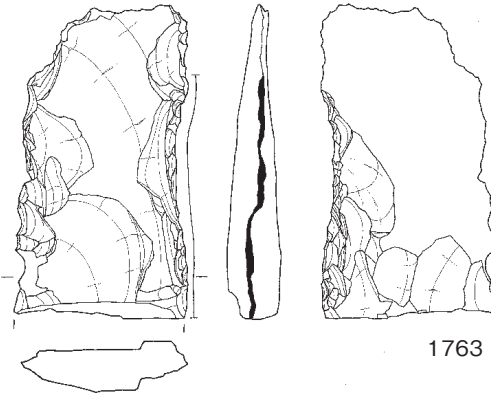
第200図 F7・E6区包含層出土遺物



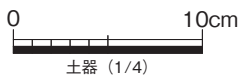
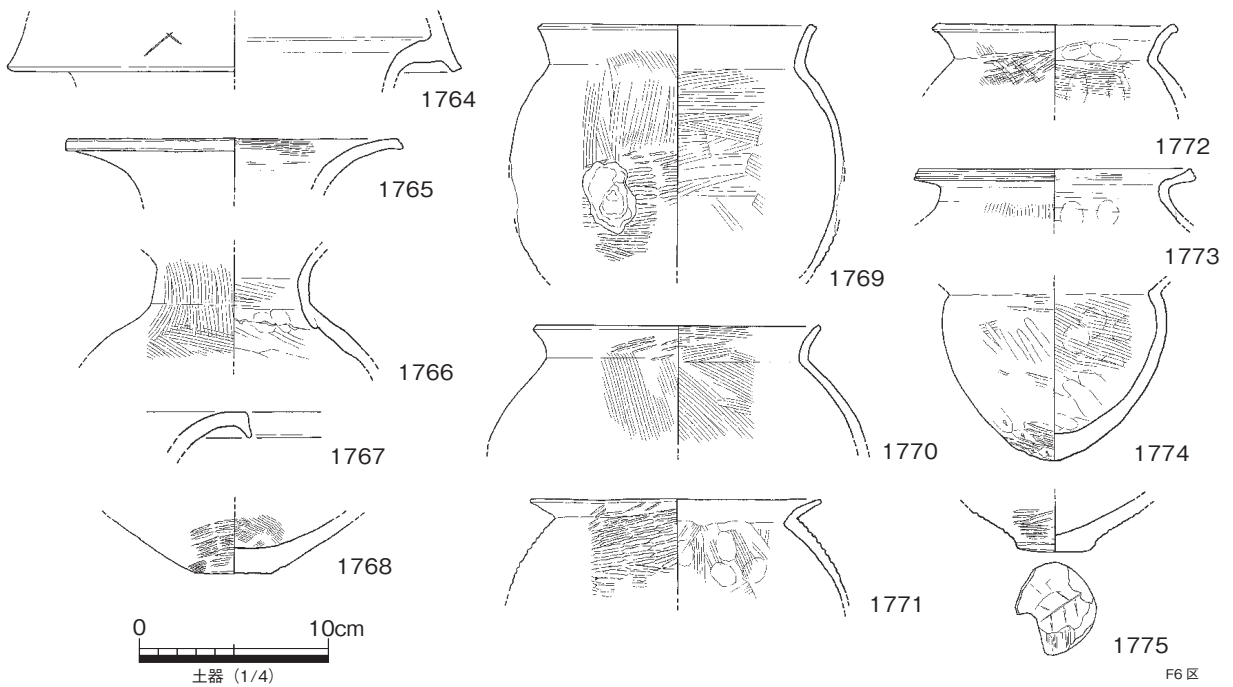
土器 (1/4)



石器 (2/3)



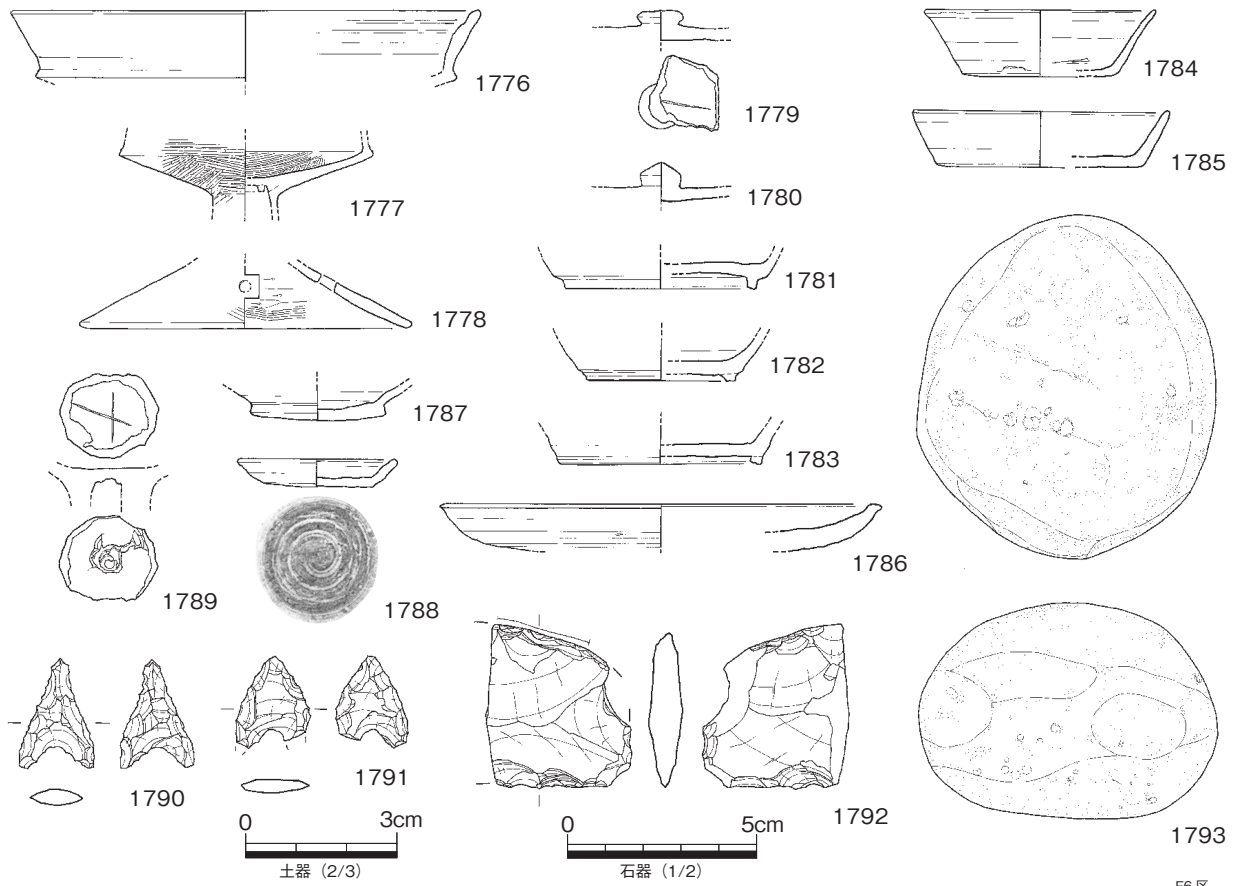
石器・土製品 (1/2) E6区



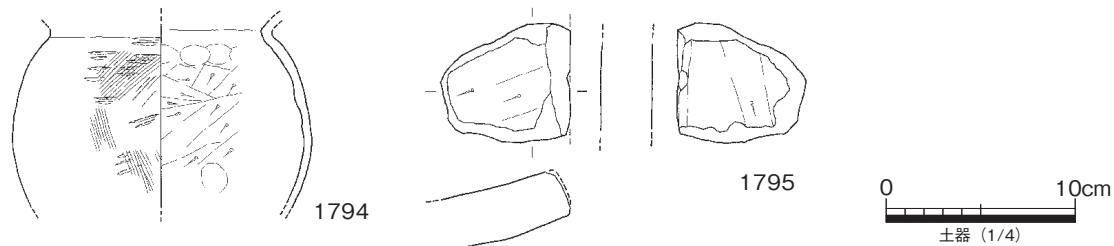
土器 (1/4)

第 201 図 E6・F6区包含層出土遺物

F6区



F6区



B5区

第202図 F6・B5区包含層出土遺物

(補註)

1. 西村尋文 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
- 小野秀幸 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末則遺跡Ⅳ』香川県教育委員会
2. 北山健一郎 2005 「西末則遺跡 4. その他の成果」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』香川県教育委員会 (参考文献)

田辺 昭三 1966 「陶邑古窯址群Ⅰ」平安学園考古学クラブ

中世土器研究会 1995 『概説 中世土器・陶磁器』真陽社

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』

香川県教育委員会 2005 『西末則遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』

香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡Ⅰ』

香川県教育委員会 2005 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』

香川県教育委員会 2006 「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』

香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末則遺跡Ⅱ』

香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末則遺跡Ⅲ』

香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末則遺跡Ⅳ』

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(1)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量 (cm)		備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	
1	SDb01	B16		弥生土器	壺	マメツ ハケ 焼成破裂	ナデ 絞り目 ヘラ削り	25Y7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙	中・多	中・少	細・多	(8.0)		6/8			
2	SDb01	B16		弥生土器	壺	指オサ エ	指オサ エ	5YR7/6 橙	5YR7/4 にぶい橙	中・並	中・少		9.6		3/8			
3	SDb01	B17		弥生土器	壺	ハケ(マメツ)	ハケ後ナデ	25Y7/3 浅黄	25Y8/3 淡黄	中・並		細・少	(7.2)		1/8			
4	SDb01	B16	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ 列点 文	ヨコナデ マメ ツ	5YR6/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	細・少	細・並	(16.8)		1/8			
5	SDb01	B16		弥生土器	高杯	ナデ ハケ マ メツ ヨコナデ	ナデ ハケ マ メツ ヨコナデ	7.5YR6/8 橙	10YR6/6 明黄褐	中・並	中・少	中・少	19.0	14.6	6/8			
8	SDb01	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰				14.4		1/8			
9	SDb01	B17	上層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	N6/ 灰				14.8		2/8			
10	SDb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白				13.4		1/8			
12	SHb01	B17		弥生土器	壺	マメツ 沈線3 糸 斜格子文	マメツ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並		中・少			破片			
13	SHb01	B17		弥生土器	甕	マメツ 剥離	マメツ	7.5YR6/8 橙	10YR6/6 明黄褐	中・多	中・並	中・並	17.8		1/8			
14	SHb01	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N7/ 灰白	N5/ 灰				14.0	4.5	4/8			
15	SHb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰				10.1		2/8			
16	SHb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N 7 / 灰白						5/8			
17	SHb01	B17		土師器	甕	指オサエ後ナデ マメツ	指オサエ後ナデ マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙				20.0		1/8			
18	SHb01	B17		土師器	把手	指オサエ ナデ	指オサエ後ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄						破片			
19	SDb02	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白				13.2	4.1	4/8			
20	SDb02	B17		土師器	甕	ヨコナデ 指オサ エ	ヨコナデ 指オ サエ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙				28.0	27.5	4/8			
21	SHb02	B16		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白				13.6	4.1	4/8			
22	SHb02	B16		土師器	甕	指オサエ後ハケ マメツ	指オサエ後ハケ マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙				29.4		1/8			
23	SHb02	B16		土師器	甕	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				19.6		1/8			
24	SHb03	B16		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰				13.6		1/8			
25	SBb02-SP01	B17		須恵器	蓋	マメツ	マメツ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白						8/8			
26	SBb02-SP01	B17		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 火轆有	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白				18.2	3.2	4/8			
27	SBb02-SP02	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5P6/1 紫灰	N7/ 灰白				11.6	3.8	1/8			
28	SBb02-SP03	B17		土師器	杯	ナデ 高台貼付	ナデ	2.5Y8/1 灰白	7.5YR8/6 浅黄橙				14.0	5.0	2/8	焼成不良		
29	SBb02-SP03	B17		土師器	飯蛸 壺	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄	中・並	中・少		6.3	9.9	7/8			
30	SBb02-SP04	B17		土師器	皿	ヨコナデ 火轆 有	ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄				17.5		2/8	焼成不良、 火だすき		
31	SBb02-SP04	B17		土師器	皿	ナデ	ナデ	5Y6/1 灰	10YR8/4 浅黄橙						破片			
32	SBb02-SP04	B17		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白						破片	焼成不良		

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(2)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		
33	SBb02-SP04	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5BG6/1 青灰	5GY7/1 明オリープ 灰							1/8	
34	SBb02-SP04	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰							1/8	
35	SBb02-SP04	B17		土師器	甕	ナデ ハケ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙							1/8	
36	SBb02-SP05	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	N8/ 灰白							1/8	
37	SBb02- SP03.05	B17		土師器	把手	指オサエ ナデ	指オサエ ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/4 淡黄							8/8	
38	SBb02-SP11	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ 高台貼付	回転ナデ	5Y6/1 灰	N5/ 灰				(9.2)			4/8	
39	SBb02-SP17	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ 削り	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰							1/8	
40	SBb02-SP17	B17		土師器	甕	ヨコナデ ハケ 削り	ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR4/2 灰黄褐							1/8	
41	SBb02-SP18	B17		須恵器	壺	ハケ 削り	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白							2/8	
42	SDb04	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ 削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							2/8	
43	SDb04	B17		土師器	甕	ヨコナデ 指オ サエ 後ハケ	ヘラ 削り 後ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙							3/8	
44	SDb04	B17		土師器	甕	ヨコナデ 板ナ デ ハケ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙							1/8	
45	SBb03-SP10	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10BG5/1 青灰	10BG7/1 明青灰							1/8	
46	SBb03-SP09	B17		須恵器	凹椀 土器 製品 (転用)	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白				幅 4.0 高さ 1.0			8/8	
47	SBb04	B16		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰							破片	
48	SBb04-SP04	B16		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N6/ 灰							3/8	下川津 B 類
50	SBb05-SP02	B16		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							破片	
51	SBb05-SP04	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							破片	
52	SBb05-SP07	B16		土師器	甕	ママッ 板ナデ	ハケ(ママッ) 板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙							1/8	
53	SBb05-SP07	B16		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							破片	焼成不良
54	SPb01	B17		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	5BG5/1 青灰	5BG6/1 青灰							1/8	
55	SPb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白							破片	
56	SDb06	B16	下層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	7.5Y5/1 灰							1/8	
57	SDb06	B16	下層	須恵器	壺	回転ナデ 高台貼 付	回転ナデ	N5/ 灰	N8/ 灰白				(5.2)			2/8	
58	SDb06	B17	下層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							1/8	
59	SDb06	B16	下層	土師器	把手	指オサエ ナデ	指オサエ ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白							8/8	
64	SDb06	B16	上層	須恵器	蓋	回転ナデ 沈線1条 ハケ 削り ナ デ	回転ナデ ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白				3.9			4/8	
65	SDb06	B16	上層	須恵器	蓋	回転ナデ ママ ッ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白							2/8	焼成不良

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(3)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高
66	SDb06	B17	上層	須恵器	盞	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N5/灰	N6/灰						(15.8)		1/8	
67	SDb06	B17	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白						(18.6)		2/8	
68	SDb06	B17	上層	須恵器	壺	回転ナデ 沈線 1条 高台削り 出し	回転ナデ	N6/灰	N6/灰						(8.6)		4/8	沈線、底 部に大の 刻字
69	SDb06	B17	上層	須恵器	甕	回転ナデ ナデ後ハケ	回転ナデ 青海	N6/灰	N5/灰						(20.4)		3/8	
70	SDb06	B17	上層	土師器	把手	回転ナデ ナデ	回転ナデ 波文	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙								8/8	
72	SDb06	B17		土師器	杯	回転ナデ ヘラガキ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5YR6/8 橙						3.3		1/8	
73	SDb06	B17		土師器	杯	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	7.5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白						17.6	14.9	4/8	
74	SDb06	B16		須恵器	盞	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 火轆有	回転ナデ	5Y7/1 灰白	N8/灰白						(11.4)	4.2	2/8	
75	SDb06	B17		須恵器	盞	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白						(14.0)	2.5	2/8	
76	SDb06	B17		須恵器	盞	回転ナデ	回転ナデ ナデ	N7/灰白	2.5GY7/1 明オリーブ 灰						(14.7)		1/8	
77	SDb06	B17		須恵器	盞	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	10BG6/1 青灰	10BG7/1 明青灰						(14.5)		2/8	
78	SDb06	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰									破片
79	SDb06	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 高台貼付	回転ナデ ナデ	N6/灰	N7/灰白						(13.2)	4.2	2/8	
80	SDb06	B17		須恵器	杯	回転ナデ 高台 貼付	ナデ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白							(10.4)		
81	SDb06	B16		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白						(15.9)		4/8	刻印
82	SDb06	B17		須恵器	壺	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 回転 ナデ	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰						(6.6)	9.8	3/8	
83	SDb06	B17		須恵器	甕	回転ナデ メ後ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白						(26.0)		1/8	
84	SDb06	B17		土師器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/4 にぶい、黄橙						(30.4)		1/8	
85	SDb06	B16		土師器	把手	指オサエ ナデ	指オサエ後ナデ マメツ	10YR7/4 にぶい、黄橙	10YR7/4 にぶい、黄橙								8/8	
86	SDb07	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	10BG7/1 明青灰						(14.0)		1/8	
87	SDb07	B16		須恵器	杯	回転ナデ 1条	回転ナデ	5Y7/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄									破片
88	SDb08	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5B6/1 青灰	5B7/1 明青灰						(12.8)		1/8	
89	SDb08	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10G7/1 明緑灰	5GY7/1 明オリーブ 灰						(12.8)		1/8	
90	SDb08	B16		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 高台 貼付	回転ナデ	N4/灰	N4/灰							(9.9)	1/8	
91	SDb08	B16		土師器	甕	マメツ	ハケ マメツ	5YR5/4 にぶい、赤褐	7.5YR5/3 にぶい、褐						(18.6)		1/8	
92	SDb07	B16	上層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰						(7.7)		2/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(4)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		
93	SDb09	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 高台貼付	回転ナデ	N7/灰白	N6/灰					4.3	(10.0)	2/8	
94	SDb09	B17		須恵器	高杯	回転ナデ	絞り目 回転ナデ	5YR7/3にぶい橙	5YR5/1褐灰							7/8	焼成不良
95	SDb18	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白					3.1	(16.8)	1/8	焼成不良
96	SDb17	B17		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N6/灰						(9.2)	3/8	
99	SXb01	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N4/灰	N5/灰							1/8	
100	SXb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	10BG5/1青灰	2.5GY6/1オリーブ 灰					3.9	(9.0)	3/8	
101	SXb01	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 高台貼付	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					4.0	(10.0)	2/8	
102	SXb01	B17		土師器	甕	ナデ ヘラ後ナ デ 指オサエ	ヨココナデ	7.5YR4/4褐	7.5YR6/6橙							破片	
103	SXb01	B17		土師器	鍋	ヨココナデ ナデ	ハケ ハケ後ナ デ	2.5Y7/4浅黄	5YR5/6明赤褐						(39.4)	1/8	
104	SKb01	D15n		土師器	杯	ナデ	ナデ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白							破片	
105	SKb01	D15n		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	7.5Y6/1灰						(19.2)	1/8	
107	SDb10	B16	上層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰						(16.4)	1/8	
108	SDb10	B16		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5RP5/1紫灰	N7/灰白						(12.6)	1/8	
109	SDb10b27	B16		土師器	杯	ナデ 板状圧痕	ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙					2.4	(6.5)	1/8	
110	SDb10	B16		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙					2.6	(7.8)	1/8	
111	SDb10	B16		土師器	足釜	指オサエ ナデ	-	2.5Y7/3浅黄	-							8/8	
112	SDb11	B16		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						(7.0)	1/8	
113	SDb11	B16		土師器	足釜	指オサエ 後ハケ ナデ 指オサ エ(マメツ)	指オサエ 後ハケ マメツ	2.5YR6/6橙	7.5YR5/2灰褐						(22.8)	1/8	
114	SDb11	B16		土師器	足釜	指オサエ ナデ	-	10YR5/2灰黄褐	-							8/8	
115	SDb11	B16		龜山焼	甕	マメツ	マメツ	N4/灰	2.5Y8/1灰白						(17.6)	1/8	
116	SDb22	B16		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白						(10.0)	1/8	
117	SDb22	B16		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ 波文	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰						(23.4)	1/8	
118	SDb25	B16		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ 切り	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙						(5.4)	2/8	
119	SDb24	B16		土師器	小皿	ナデ ヘラ切り	ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					1.0	(4.8)	3/8	
120	SDb24	B16		土師器	椀	ナデ 高台貼付	マメツ	5Y8/2灰白	5Y8/2灰白						(4.8)	2/8	
121	SDb27	B16		須恵器	椀	回転ナデ	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白						(14.0)	1/8	焼成不良
122	SDb29	D15n		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	5B6/1青灰	5B6/1青灰						(16.8)	1/8	
123	SDb29	D15n		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	5PB6/1青灰	5PB6/1青灰						(9.2)	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(6)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
155	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	N7/灰白	2.5GY6/1 オリーブ 灰					細・少	(11.4)	4.2	(8.4)	1/8	
156	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					細・少	(12.7)	4.3	(9.6)	2/8	
157	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	10Y4/1 灰	N8/灰白					細・少	(13.0)	4.1	(9.6)	3/8	
158	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					細・少	(13.4)	5.3	(9.0)	2/8	
159	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 高台貼付	回転ナデ	2.5GY5/1 オリーブ 灰	2.5GY6/1 オリーブ 灰					中・少	(14.2)	4.0	(9.4)	3/8	
160	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 高台貼付	回転ナデ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					中・少	(14.8)	4.5	(11.2)	3/8	焼成不良
161	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 高台貼付	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					中・少	17.9	6.6	(12.6)	6/8	
162	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 高台貼付	回転ナデ	5Y8/2 灰白	5Y8/1 灰白	中・少				中・少			100	6/8	焼成不良
163	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					細・少	(10.8)	3.5	(8.2)	3/8	
164	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(13.8)	3.8	(6.1)	2/8	
165	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 火漣 有	回転ナデ ナデ 火漣有	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰					細・少	(18.8)	3.2	(15.6)	2/8	
166	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	N7/灰白					細・少	(19.0)			1/8	
167	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/2 灰白	5Y8/1 灰白	中・少	中・並			中・少	(19.8)	7.0	(12.4)	3/8	
168	包含層(1)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り ヘラ描文	回転ナデ ナデ	5B5/1 青灰	5B5/1 青灰					中・少			(6.0)	3/8	ヘラ記号
169	包含層(1)	B17		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	N7/灰白	N6/灰	中・並				中・並	(20.6)	2.5	(16.4)	1/8	焼成不良
170	包含層(1)	B17		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	N8/灰白					細・少			(12.4)	1/8	
171	包含層(1)	B17		土師器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ ヨコナデ	5YR6/6 橙	7.5YR7/4 に ぶい橙					中・多	(25.4)			1/8	
172	包含層(1)	B17		土師器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ ナデ	10YR7/4 に ぶい黄橙	10YR7/4 に ぶい黄橙					中・多	(24.4)			1/8	
178	包含層(2)	B16		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	10YR5/1 褐灰	N8/灰白					細・少	(14.4)			2/8	破片
179	包含層(2)	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					中・少				破片	
180	包含層(2)	B17		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	5P6/1 紫灰	5P6/1 明青灰					細・少	(13.8)	2.7		1/8	
181	包含層(2)	B17		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	N6/灰					細・少	(12.8)			2/8	
182	包含層(2)	B17		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ切り 庄痕	回転ナデ ヘラ 描文	10Y5/1 灰	10Y6/1 灰					細・少				2/8	ヘラ記号

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(7)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径	その他
183	包含層(2)	B16		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰					細・少	(12.5)	3.5	(9.0)	3/8	
184	包含層(2)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	中・並					(13.7)	4.7	(9.6)	1/8	焼成不良
185	包含層(2)	B16		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白					細・少	(17.0)	5.9	(10.8)	2/8	
186	包含層(2)	B16		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(18.6)	2.2		2/8	
187	包含層(2)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ 火轆有	N8/ 灰白	N8/ 灰白					細・少	(18.9)	3.5	(16.0)	2/8	
188	包含層(2)	B16		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(19.8)	3.0		1/8	
189	包含層(2)	B17		土師器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・並	(23.8)			1/8	
190	包含層(2)	B17		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(20.0)			1/8	
191	包含層(2)	B17		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					中・少	(22.4)			1/8	
192	包含層(2)	B16		須恵器	盤	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少				破片	
197	包含層(3)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付	回転ナデ ナデ	7.5Y7/1 灰白	N6/ 灰					中・少	(13.2)	4.2	(8.9)	2/8	
198	包含層(3)	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ ナデ 火轆有	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(17.3)	5.7	(12.1)	1/8	
199	包含層(3)	B16		須恵器	甕	回転ナデ カキ メ後沈線文 沈線1条 カキ 後沈線文 沈線2条 カキ 後沈線文 沈線2条	回転ナデ ナデ 青海 波文	N4/ 灰	7.5Y5/1 灰					中・少	(41.8)			1/8	
200	包含層(3)	B16		亀山焼	甕	マメツ 格子目 タタキ	マメツ 痕 当て具	10YR4/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐					中・少	(38.6)			1/8	
203	遺構検出	B17		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ ヘラ	10Y6/1 灰	5BG6/1 青灰					細・少				1/8	
204	遺構検出	C17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	10.9	3.7	7.2	5/8	
205	遺構検出	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付	回転ナデ ナデ	N6/ 灰	5Y8/1 灰白					中・少			(6.6)	3/8	
206	遺構検出	B17		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 貼付	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					中・少			13.2	3/8	ハ7記号
207	遺構検出	D15n		須恵器	甕	回転ナデ ヘラ削り 穿孔1ヶ所	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少			2.5	8/8	
208	遺構検出	B16		須恵器	甕	回転ナデ タタ	回転ナデ 青海 波文	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	(20.8)			2/8	
209	遺構検出	C17		土師器	土錘	ナデ	-	5YR6/6 橙	-					細・少	長1.9 (17.7)	幅0.7	厚0.6	8/8	
226	SDe01	C13	上層 (黒粘)	弥生土器	壺	凹線3条・ヨコ ナデ・ハケ・原 体刺突羽状文	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・並				細・少				1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(8)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径
227	SDe01	C13	上層 (黒粘)	弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線 2条	ヨコナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	細・並								破片
228	SDe01	C13	上層 (黒粘)	弥生土器	壺	ハケ・沈線5条	ナデ・ハケ	7.5 Y R 5/4 にぶい 褐	10 Y R 5/4 にぶい 黄褐	粗・並								2/8
229	SDe01	C13	下層	弥生土器	壺	ナデ	指オサエ・ナデ	10YR6/3にぶい黄褐	10YR6/3にぶい黄褐	中・並					(5.0)			6/8
230	SDe01	C13	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ヘラ 削り	5YR5/4にぶい赤褐	10YR4/1褐灰	中・少								3/8
231	SDe01	C13		弥生土器	甕	マメツ	マメツ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	細・並								破片
232	SDe01	C13	下層	弥生土器	甕	ハケ後ナデ ナ デ	指オサエ後ナデ	10YR3/1黒褐	10YR5/6黄褐	中・並					4.0			7/8
233	SDe01	C13	上層 (黒粘)	弥生土器	甕	ハケ ナデ	板ナデ・ナデ	5YR5/6明赤褐	5YR2/1黒褐	中・並					5.2			7/8
234	SDe01	C13	下層	弥生土器	甕	板ナデ後ナデ	指ナデ	10YR5/3にぶい黄褐	25Y5/3黄褐	中・並					(6.0)			5/8
235	SDe01	C13		弥生土器	甕	ナデ ハラミガ キ	マメツ	10YR3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄褐	中・並					(5.5)			4/8
236	SDe01	C13		弥生土器	高杯	ナデ・沈線	指ナデ	10YR5/4にぶい黄褐	25Y2/1黒	中・少								8/8
237	SDe01	C13	下層	弥生土器	高杯	板ナデ後ナデ	ナデ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・並								5/8
238	SDe01	C13	上層 (黒粘)	須恵器	壺	回転ヘラ削り 回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1灰白	5Y8/1灰白									1/8
239	SDe01	C13	上層 (黒粘)	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰									1/8
240	SDe01	C13		須恵器	壺	回転ナデ タタ キ後ナデ	回転ナデ・板ナ デ 青海波文	N6/灰	N6/灰									1/8
241	SDe01	C13	上層 (黒粘)	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1灰	N5/灰									破片
242	SDe01	C13	上層 (黒粘)	須恵器	甕	回転ナデ	ナデ	N6/灰	N7/灰白									破片
252	SDe02	C13	上・ 下層	弥生土器	壺	ハラミガキ	指オサエ後ヘラ 削り	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/4にぶい橙	中・少					(5.8)			3/8
256	SDe04	C13		弥生土器	甕	マメツ	マメツ	25Y7/3浅黄	10YR7/6明黄褐	中・並					(6.6)			2/8
257	SDe04	C13		弥生土器	甕	板ナデ後ナデ ナデ	ヘラ削り・指オ サエ	25Y3/1黒褐	7.5YR5/4にぶい褐	中・多					(2.9)			3/8
258	SDe04	C13		土師器	小型 丸底 壺	ヨコナデ 指オ サエ・ナデ	ヨコナデ ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙						2.2			6/8
262	SDe06	C13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N6/灰									1/8
263	SDe06	C13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白									2/8
264	SDe06	C13		須恵器	杯	回転ナデ へラ 削り後ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									2/8
265	SDe06	C13		須恵器	杯	回転ナデ	施軸	胎：5Y6/2灰オリー フ	釉：N7/灰白						(6.8)			2/8
266	SDe06	C13		須恵器	壺	タタキ	青海波文	N5/灰	N6/灰									破片
271	SDe11	C13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									破片
272	SDe11	C13		須恵器	壺	回転ナデ 沈線 2条 カキ目 回転ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰									1/8

下川津B
類に類似

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(9)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
274	SXe03	C13		土師器	製塩土器	ナデ	指オサ 工後ナデ	25YR7/4 淡赤橙	25YR7/4 淡赤橙					中・並	(11.9)	—	—	1/8		
277	SFe01・02	C13		土師器	小皿	回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	10YR4/1 褐灰	5YR6/6 橙					細・少	8.0	1.5	6.2	—	7/8	
278	SFe01・02	C13	上層	須恵器	椀	回転ナデ 貼付・ナデ	回転ナデ	2.5 Y 8/1 灰白	2.5 Y 8/1 灰白					中・少	14.6	4.7	3.1	—	7/8	
279	SFe01・02	C13	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白					細・少	(14.6)	—	—	—	1/8	
280	SDe07	C13		須恵器	椀	ナデ 回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	N 8/ 灰白	N 8/ 灰白					細・少	—	—	(6.0)	—	6/8	
281	SDe07	C13		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR7/3 にふい黄橙					細・少	—	—	—	—	破片	
282	SDe08	C13		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	(10.0)	—	1/8	
283	SDe08	C13		須恵器	甕	回転ナデ・沈線 2条	回転ナデ・絞り	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	—	—	—	—	1/8	
285	SDe09	C13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	(13.2)	—	—	—	1/8	
286	SDe10	C13		土師器	小皿	回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
287	SDe10	C13		瓦器	小皿	ヨコナデ サエ	ヘラミガキ	N4/ 灰	N5/ 灰					中・少	9.0	1.5	1.2	—	7/8	
288	SDe10	C13		須恵器	椀	ナデ	回転ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 6/1 黄灰					細・少	—	—	(6.1)	—	1/8	
289	SDe10	C13		須恵器	瓶	回転ナデ・ヘラ 削りナデ	指ナ 指ナ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・多	—	—	(11.8)	—	3/8	
291	SDe13	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	N6/ 灰	5Y7/1 灰白					中・少	—	—	(14.3)	—	1/8	
292	SDe13	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白					細・少	—	—	(6.4)	—	2/8	
293	SDe13	D15s		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	—	—	—	—	5/8	
294	SDe13	D15s		須恵器	瓶	回転ナデ ヘラ削り 回転ナデ ヘラ削り	ハケ 回転ナデ	N5/ 灰	N7/ 灰白					中・少	—	—	—	—	3/8	
295	SDe13	D15s		須恵器	瓶	回転ナデ ヘラ削り	指オ サエ	5YR4/1 褐灰	N6/ 灰					中・少	—	—	(13.8)	—	3/8	
298	SDe16	D12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	(13.6)	3.1	(8.0)	—	2/8	
302	SXe01	C13		土師器	足釜	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	(19.5)	—	—	—	1/8	
306	SXe04	D15s		須恵器	杯	回転ナデ・火襷 有	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					無	—	—	—	—	破片	
307	SXe04	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	(6.2)	—	3/8	
308	SXe04	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	(7.8)	—	1/8	
309	SXe04	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					中・少	—	—	(9.3)	—	1/8	
310	SXe04	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	—	—	(8.7)	—	1/8	
311	SXe04	D15s		黒色土器	椀	マメツ 指オサ エ	マメツ	5YR6/6 橙	2.5Y4/1 黄灰					中・並	—	—	(6.4)	—	1/8	A類
315	SXe02	C13		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・並	—	—	9.8	—	7/8	

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (10)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径	その他
318	SP03	D12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						7.3	1.1	(5.0)	—	4/8
319	SP03	D12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白										破片
320	包含層	C13		青磁	碗	施釉	施釉	釉: 10Y7/2 灰白	胎: 10Y8/1 灰白						17.0	—	—		破片
321	包含層	C13		青磁	碗	連弁 施釉	施釉	釉: 7.5Y6/3 オリーブ黄	胎: 2.5Y7/1 灰白										2/8
322	包含層	C13		青磁	碗	連弁 施釉	施釉	釉: 7.5Y5/3 灰オリーブ	胎: 7.5Y8/1 灰白										1/8
323	包含層	C13		白磁	碗	施釉 露胎	施釉	胎: 5Y7/1 灰白	釉: 5Y8/1 灰白						16.1	—	—		1/8
324	包含層	C13		白磁	碗	高台削り出し 露胎	施釉	胎: 5Y7/2 灰白	釉: 5Y8/1 灰白						(7.0)	—	—		1/8
329	包含層	D15s		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白						16.4	1.8	(13.4)	—	1/8
330	包含層	D15s		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰								(6.8)	—	3/8
331	包含層	D15s		須恵器	瓶	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5PB6/1 青灰	5P7/1 明紫灰								(6.8)	—	1/8
334	包含層	D12		弥生土器	甕	マメツ	マメツ	2.5YR6/8 橙	10YR7/4 にぶい黄橙								6.7	—	6/8
335	包含層	D12		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰										破片
336	包含層	D12		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰								(8.6)	—	2/8
337	包含層	D12		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰								(7.4)	—	2/8
338	包含層	D12		緑釉陶器	皿	回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	釉: N7/ 灰白	胎: N7/ 灰白										1/8
339	包含層	D12		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰								(12.7)	—	1/8
353	SDe20	E14		弥生土器	甕	ナデ	ナデ・指オサエ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/4 にぶい褐										破片 下川津B 類に類似
357	SDe39	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙						10.2	2.4	(5.2)	—	2/8
358	SDe39	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙						9.8	1.9	(5.4)	—	2/8
359	SDe39	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						9.6	1.8	(6.3)	—	3/8
360	SDe39	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ削り後板状 圧痕	回転ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐						8.6	1.5	(5.0)	—	2/8
361	SDe39	F12		土師器	足釜	回転ナデ 指オサエ	板ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙										破片
362	SDe39	F12		弥生土器	壺	回転ナデ後銅歯 文	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙						19.6	—	—	—	1/8
363	SDe39	F12		弥生土器	壺	板ナデ後ナデ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/1 黄灰								5.0	—	2/8
364	SDe39	F12		弥生土器	甕	ヨコナデ (マメツ)	ヨコナデ ハケ	10YR8/3 浅黄橙	5YR3/1 黒褐										1/8
365	SRe01・02	F12		弥生土器	壺	マメツ	マメツ	7.5 Y R 5/6 明褐	10 Y R 5/6 黄褐						14.4	—	—	—	2/8
366	SRe01・02	E13		弥生土器	壺	マメツ	マメツ	5YR7/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙								9.1	—	4/8

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (11)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高			底径
367	SRe01・02	F12		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ 後指オサエ	ハケ	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙	中・並					(15.2)	—	—	1/8	
368	SRe01・02	F12		甕	弥生土器	マメツ	ハケ	5 Y R 6/6 橙	2.5 Y 4/1 黄灰	粗・多					—	(6.7)	—	4/8	
369	SBe02-SP03	E13		蓋	須恵器	回転ナデ	回転ナデ	10 Y 6/1 灰	7.5 Y 7/1 灰白	粗・多					—	—	つまみ 部2.1	4/8	
370	SBe02-SP29	E13		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	2.5 Y 4/2 暗灰黄	2.5 Y 4/2 暗灰黄						(8.2)	1.5	(4.3)	1/8	
371	SBe02-SP31	E13		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	中・少					(12.0)	2.7	(6.6)	3/8	
372	SAe03-SP03	E13		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	7.5 Y R 8/3 浅黄橙	7.5 Y R 8/3 浅黄橙	細・少					—	—	—	破片	
373	SBe02-SP14	E13		碗	陶器	施釉 ナデ	指オ サエ後ナデ	釉：5 Y 8/1 灰白	胎：2.5 Y 7/1 灰白	細・少					—	—	—	破片	
374	SBe02-SP14	E13		足釜	土師器	ヨコナデ サエ後ナデ	ヨコナデ ナデ	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙	細・多					—	—	—	破片	
375	SBe02-SP11	E13		足釜	土師器	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後ナデ	5 Y 2/1 黒	10 Y R 8/3 浅黄橙	中・並					—	—	—	破片	
376	SBe02-SP28	E13		足釜	土師器	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	5 Y R 6/6 橙	—	中・並					長9.1	幅2.5	厚2.4	破片	
377	SBe02-SP10	E13		足釜	土師器	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	7.5 Y R 6/4 にぶい橙	—	細・並					長9.0	幅3.1	厚3.1	破片	
378	SBe03-SP10	E13		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	細・少					—	—	—	破片	口縁部に スス付着、 灯明皿
379	SBe03-SP24	E13		杯	須恵器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N 5/ 灰	N 5/ 灰	細・少					(7.0)	—	—	1/8	
380	SBe03-SP23	E13		皿	陶器	施釉	施釉	釉：7.5 Y R 4/3 褐	胎：7.5 Y R 4/3 褐	細・少					(12.0)	1.5	(8.8)	1/8	
381	SBe03-SP23	E13		碗	青磁	施釉	施釉	釉：2.5 G Y 6/1 オ リーブ灰	胎：N 8/ 灰白	細・少					(13.4)	—	—	1/8	
382	SBe03-SP23	E13		挿鉢	土師器	指オサエ ヘラ切り	ヘラ	7.5 Y R 6/4 にぶい 橙	7.5 Y R 6/4 にぶい 橙	中・並					(10.9)	—	—	3/8	
383	SAe07-SP05	F12		鉢	土師器	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後ナデ	10 Y R 8/4 浅黄橙	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	中・多					—	—	—	破片	
384	SBe05-SP17	F12		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 6/2 灰黄褐	中・少					—	—	—	破片	
385	SBe05-SP16	F12		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	5 Y R 7/6 橙	5 Y R 7/6 橙	中・並					(8.6)	1.9	(5.6)	3/8	
386	SBe05-SP12	F12		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 後ナデ	7.5 Y R 7/6 橙	7.5 Y R 7/6 橙	細・少					—	—	—	—	
387	SBe05-SP03	F12		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 7/2 にぶい黄橙	中・並					(8.8)	1.5	(4.0)	1/8	
388	SBe05-SP12	F12		杯	土師器	回転ナデ	回転ナデ	5 Y R 7/6 橙	5 Y R 7/6 橙	中・少					(9.4)	—	—	2/8	
389	SBe05-SP14	F12		杯	土師器	回転ナデ サエ後回転ナデ 回転ヘラ切り 後ナデ	指オ サエ後回転ナデ 回転ナデ	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	7.5 Y R 7/3 にぶい橙	中・少					(8.8)	1.9	(4.8)	2/8	
390	SBe05-SP12	F12		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5 Y R 7/6 橙	5 Y R 7/6 橙	中・少					(10.0)	1.9	(5.3)	1/8	
391	SBe05-SP12	F12		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	2.5 Y 8/2 灰白	細・少					(9.4)	1.8	(4.7)	2/8	
392	SBe05-SP09	F12		碗	青磁	施釉	施釉	釉：10 Y 5/2 オリー ブ灰	胎：10 Y 6/1 灰	細・少					(5.0)	—	—	2/8	
393	SBe05-SP16	F12		甕	瓦質土器	格子目タタキ 回転ナデ ヘラ切り	剥離 回転ナデ	2.5 Y 5/1 黄灰	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	中・多					(7.8)	1.4	(3.8)	破片	亀山焼
394	SBe06-SP20	F12		杯	土師器	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	5 Y R 7/6 橙	中・少					—	—	—	4/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (12)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
395	SBe06-SP19	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ ナデ後仕 上げナ デ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6 橙						1.2	(4.8)	—	2/8	
396	SBe06-SP20	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6 橙						1.9	(2.4)	—	1/8	
397	SBe06-SP16	F12		土師器	杯	回転ナデ ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	1/8	
398	SBe06-SP11	F12		土師器	杯	回転ナデ ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	1/8	
399	SBe06-SP13	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	5YR7/8 橙						1.5	(5.0)	—	1/8	
400	SBe06-SP18	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						1.5	(5.6)	—	1/8	
401	SBe06-SP20	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						1.4	(5.5)	—	1/8	
402	SBe06-SP18	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ ナデ後仕 上げナ デ	10YR7/3 に ぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄						1.8	4.4	—	7/8	
403	SBe06-SP12	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						—	—	—	2/8	
404	SBe06-SP05	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						1.9	(4.3)	—	2/8	
405	SBe06-SP18	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ ナデ後仕 上げナ デ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 に ぶい橙						1.9	4.2	—	5/8	
406	SBe06-SP18	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						2.8	(5.8)	—	1/8	
407	SBe06-SP12	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	10YR8/2 灰白						—	—	—	1/8	
408	SBe06-SP05	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 に ぶい黄橙	7.5YR7/4 に ぶい橙						—	—	—	1/8	
409	SBe06-SP20	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	破片	
410	SBe06-SP19	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						—	—	—	破片	
411	SBe06-SP19	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						2.7	—	—	破片	
412	SBe06-SP19	F12		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 圧痕	回転ナデ ナデ後仕 上げナ デ	2.5Y8/2 灰白	10YR4/2 灰黄褐						2.9	(7.0)	—	1/8	
413	SBe06-SP16	F12		須恵器	甕	回転ナデ ハケ	回転ナデ	10YR8/6 黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						—	—	—	破片	
414	SBe06-SP20	F12		土師器	挿鉢	ヨコナデ サエ後 ナデ	板ナ デ・ナ デ後オ ロシ 目	10YR5/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄						—	—	—	破片	
415	SBe06-SP18	F12		土師器	挿鉢	指オサ エ後 ナデ	ハケ後 オロシ 目	10YR6/3 に ぶい黄橙	10YR7/3 に ぶい黄橙						—	(14.6)	—	2/8	
419	SBe08-SP06	F12		土師器	鉢	ナデ・ 沈線 剥離	ナデ・ 剝離	10YR4/1 褐灰	5Y7/1 灰白						—	—	—	1/8	
420	SEe01	F12		土師器	小皿	回転ナ デ後 ヘラ切 り後 ナデ	回転ナ デ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						1.6	(6.6)	—	5/8	
421	SEe01	F12		須恵器	椀	回転ナ デ後 ヘラ切 り後 ナデ	回転ナ デ後 ヘラ切 り後 ナ デ	N5/ 灰	5Y8/1 灰白						—	—	—	1/8	西村産
422	SEe01	F12		黒色土器	椀	回転ナ デ後 ヘラ切 り後 ナ デ	回転ナ デ	7.5YR7/4 に ぶい橙	10YR7/2 に ぶい黄橙						—	(4.8)	—	3/8	A類

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (13)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高
423	SE01	F12		須恵器	碗	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 後ミガキ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					中・少	—	6.2	6/8	
424	SKe03	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					細・少	(9.9)	1.5	2/8	
425	SKe03	E13		青磁	碗	施釉	施釉	軸:2.5GY6/1 オリー フ灰	軸:2.5GY6/1 オリー フ灰					細・少	—	—	破片	
426	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	10 YR 8/2 灰白					中・少	(8.4)	1.7	3/8	
427	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	10 YR 8/2 灰白					中・少	8.1	1.7	6/8	
428	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙					中・少	8.1	1.6	7/8	
429	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	10 YR 8/2 灰白					中・少	(7.8)	1.6	2/8	
430	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5 YR 8/3 浅黄橙	2.5 Y 8/2 灰白					細・少	(8.0)	1.5	4/8	
431	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10 YR 8/2 灰白	5 YR 7/6 橙					中・少	(7.7)	—	3/8	
432	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	7.5 YR 6/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					中・少	9.2	1.6	7/8	
433	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					細・少	(8.8)	1.6	2/8	
434	SKe04	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					中・少	(8.0)	1.7	5/8	口縁部に スズ付着、 灯明皿
439	SKe05	E13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5 YR 6/6 橙	5 YR 6/6 橙					中・少	—	—	破片	
440	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	10 YR 8/3 浅黄橙	10 YR 8/3 浅黄橙					細・少	(8.8)	2.0	3/8	
441	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					細・少	8.8	1.9	8/8	
442	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	5 YR 7/6 橙	10 YR 7/3 にぶい 黄橙					中・少	8.6	1.7	7/8	
443	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	5 YR 7/6 橙	5 YR 7/6 橙					中・少	8.7	1.8	7/8	
444	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					細・少	(9.0)	1.6	4/8	
445	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					中・少	8.7	1.6	6/8	
446	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5 YR 6/4 にぶい 橙	7.5 YR 6/4 にぶい 橙					中・少	9.2	1.7	8/8	
447	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5 YR 7/4 にぶい 橙	7.5 YR 7/4 にぶい 橙					細・少	(8.8)	1.6	2/8	
448	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	2.5 YR 6/8 橙	5 YR 7/4 にぶい橙					中・少	9.1	1.7	6/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(14)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
449	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	5 Y R 7/6 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙					中・少	8.4	1.7	5.0	—	8/8 底部内面 被熱によ り紫色、灯 明皿
450	SKe06	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	7.5 Y R 6/4 にぶい 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙					中・少	9.2	1.6	6.0	7/8	
453	SKe07	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙					中・少	(8.3)	1.5	(5.9)	—	2/8
454	SKe07	E13		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N 6/ 灰	5 Y 7/1 灰白					細・少	—	—	(5.8)	—	破片
455	SKe07	E13		土師器	足釜	ヨコナデ サエ・ナデ	ヨコナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙					中・並	—	—	—	—	破片
456	SKe08	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙	10 Y R 8/2 灰白					細・少	(8.0)	1.6	5.6	—	3/8
457	SKe09	E13		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N 4/ 灰	N 4/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
459	SKe10	E13		土師器	足釜	ヨコナデ サエ後ナデ	ヨコナデ ハケ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/2 灰白					中・並	—	—	—	—	破片
460	SKe13	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白					細・並	(8.3)	1.2	(6.1)	—	1/8
461	SKe13	F12		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ後ミガ キ	10 Y R 8/2 灰白	2.5 Y 8/1 灰白					細・少	(16.6)	—	—	—	1/8
462	SKe13	F12		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転 ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	5 Y 8/1 灰白					中・少	—	—	(6.2)	—	3/8
463	SKe13	F12		瓦器	椀	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ミガキ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
464	SKe13	F12		瓦器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ 後ヘラ ミガキ	N6/ 灰	N5/ 灰					細・少	—	—	(5.3)	—	2/8
465	SKe15	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5 Y 8/3 淡黄	2.5 Y 8/3 淡黄					細・並	(9.6)	1.5	(4.9)	—	1/8
466	SKe16	F12		土師器	足釜	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ハケ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白					中・並	—	—	—	—	破片
467	SKe17	F12		須恵器	長頸 壺	格子目タタキ	板ナデ	5 Y 7/1 灰白	5 Y 7/1 灰白					中・並	—	—	—	—	破片 十瓶焼
468	STe01	E13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	7.5 Y R 8/6 浅黄橙					中・並	(14.3)	—	—	—	1/8
469	STe01	E13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白					細・少	—	—	—	—	破片
470	STe01	E13		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙					細・並	—	—	—	—	破片
471	STe01	E13		白磁	椀	施釉	施釉	釉：7.5 Y 7/1 灰白	胎：7.5 Y 7/1 灰白					細・少	—	—	—	—	破片
472	STe01	E13		磁器	椀	施釉	施釉	釉：7.5 G Y 6/1 緑灰	胎：7.5 Y 7/1 灰白					細・少	—	—	—	—	破片
473	STe01	E13		瓦質土器	片口 鉢	ナデ	指オサエ・ナデ	N 4/ 灰	N 4/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
474	STe01	E13		土師器	足釜	ナデ	ナデ	5 Y 8/1 灰白	5 Y 8/1 灰白					中・並	現存 長さ5.2	幅1.8	厚さ 1.7	—	破片
475	STe03	E15		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ 切り	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
476	STe04	E15		土師器	鉢	ヘラ削り・ナデ	指オサエ	7.5 Y R 6/4 にぶい橙	7.5 Y R 6/4 にぶい橙					中・少	—	—	—	—	破片
477	STe04	E15		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
478	STe05	E15		土師器	杯	回転ナデ ヘラ 切り	回転ナデ	5 Y 8/2 灰白	5 Y 8/2 灰白					細・少	—	—	—	—	破片

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (15)

第1分冊

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)		残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		
479	SFe05	E15		須恵器	皿	回転ナデ・マメ ッ	回転ナデ・マメ ッ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白							—	破片	
480	SFe06	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙							—	8/8	
481	SFe06	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙							—	2/8	
482	SFe06	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙							—	1/8	
483	SFe06	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄							—	破片	
484	SFe06	F12		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ後ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白							—	4/8	
485	SFe06	F12		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白							—	6/8	西村産
486	SFe06	F12																
487	SFe06	F12	上層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後ハケ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白							—	2/8	
488	SFe06	F12		須恵器	椀	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白							—	破片	
489	SFe06	F12	上層	黒色土器	椀	ヘラ切り後ナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y2/1 黒							—	破片	A 類
490	SFe06	F12		瓦器	椀	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	N6/ 灰							—	破片	
491	SDe23	E14		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 板状圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白							—	8/8	
492	SDe23	E14		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							—	1/8	
493	SDe24	E15	3層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰							—	1/8	
494	SDe24	E14	1層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N6/ 灰							—	1/8	
495	SDe24	E14		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10Y7/1 灰白	5Y7/4 浅黄							—	1/8	
496	SDe24	E14	3層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							—	1/8	
497	SDe24	E14	3層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							—	2/8	
498	SDe24	E14	2層	須恵器	杯?	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							—	3/8	
499	SDe24	E14	2層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白							—	1/8	
500	SDe24	E14	1層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰							—	3/8	
501	SDe24	E14	2層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白							—	1/8	
502	SDe24	E15	3層	土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							—	2/8	
503	SDe24	E14	3層	土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙							—	2/8	
504	SDe24	E15	1層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白							—	2/8	
505	SDe24	E14	2層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ヘラ ミガキ	N5/ 灰	N5/ 灰							—	3/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (16)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
506	SDe24	E14	1・3層	須恵器	椀	回転ナデ 貼付・ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					中・少	(15.5)	5.4	(5.1)	—	2/8	
507	SDe24	E14	3層	須恵器	椀	回転ナデ 貼付・ナデ	回転ナデ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白					細・少	—	—	(5.0)	—	1/8	
508	SDe24	E14	3層	黒色土器	椀	回転ナデ	ヘラミガキ	10YR8/2灰白	N3/暗灰					細・少	—	—	(6.4)	—	2/8	A類
509	SDe24	E14	2層	白磁	椀	施釉	施釉	軸：7.5Y8/2灰白	胎：7.5Y8/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
510	SDe24	E14	3層	白磁	椀	回転ナデ・施釉	施釉	軸：7.5Y7/2灰白	胎：7.5Y7/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
511	SDe24	E14	3層	白磁	椀	施釉	施釉	軸：7.5Y8/2灰白	胎：7.5Y8/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
512	SDe24	E15	3層	白磁	椀	施釉	施釉	軸：10Y8/1灰白	胎：N7/灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
513	SDe24	E14	3層	白磁	椀	施釉	施釉	軸：7.5Y7/1灰白	胎：7.5Y7/1灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
514	SDe24	E15	1層	青磁	椀	施釉	施釉	軸：7.5Y5/2灰オリー フ	胎：7.5Y5/2灰オリー フ					細・少	—	—	—	高台部 (6.6)	1/8	
515	SDe24	E14	3層	須恵器	鉢	ヨコナデ ミガキ・ヘラ 切り	ヨコナデ ヘラ ミガキ・ナデ	N8/灰白	N6/灰					中・少	(17.8)	6.1	(11.0)	—	3/8	
516	SDe24	E14	2・3層	須恵器	鉢	回転ナデ・指オ サエ・ナデ	回転ナデ 板ナ デ・回転ナデ	N5/灰	N5/灰					細・並	(27.5)	—	—	—	1/8	
517	SDe24	E15	4層	備前焼	瓶	回転ナデ 切り	回転ナデ ヘラ 削り	10Y5/1灰	10Y5/1灰					細・少	—	—	(5.0)	—	3/8	
518	SDe24	E15	2層	備前焼	水瓶	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	N4/灰					細・少	—	—	—	頸部 2.7	3/8	
519	SDe24	E14	2層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ 指オ サエ後ナデ	5Y6/1灰	N6/灰					細・少	(15.4)	—	—	—	1/8	
520	SDe24	E14	2層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・少	—	—	—	—	破片	
521	SDe24	E14	2層	須恵器	甕	ヨコナデ・格子 目タタキ	板ナデ後ナデ	N6/灰	N7/灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
522	SDe24	E14	2層	須恵器	不明	回転ナデ・ナ デ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
523	SDe24	E14	1層	土師器	土錘	ナデ	—	2.5Y6/3にぶい黄	—					細・少	現存 長5.0	幅1.6	厚さ 1.4	—	8/8	
524	SDe24	E15	1層	土師器	土錘	ナデ	—	10YR8/2灰白	—					中・少	現存 長4.6	幅1.3	厚さ 1.3	—	8/8	
547	SDe26a	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白					中・少	(8.7)	—	(5.8)	—	3/8	
548	SDe26a	E14	2層	陶器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR5/1褐灰	2.5YR5/4にぶい赤 褐					細・少	(8.8)	—	—	—	1/8	
549	SDe26a	E14	3層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					細・少	(11.8)	2.3	(7.2)	—	3/8	
550	SDe26a	E14	1層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・並	—	—	(9.4)	—	1/8	
551	SDe26a	E14	2層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰					細・少	(20.2)	—	—	—	1/8	
552	SDe26a	E14	2層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少	(16.8)	—	—	—	1/8	
553	SDe26a	E14	1層	白磁	椀	施釉	施釉	軸：2.5Y7/3浅黄	胎：2.5Y7/3浅黄					細・少	—	—	—	—	破片	
554	SDe26a	E14	1層	黒色土器	椀	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR2/1黒					細・少	—	—	(7.2)	—	1/8	A類
555	SDe26a	E14	1層	青磁	椀	施釉・ナデ 施ヘラ切り	施釉	軸：7.5Y7/2灰白	胎：5Y7/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
556	SDe26a	E14	3層	白磁	椀	回転ナデ 削り出し	施釉	軸：2.5GY8/1灰白	胎：7.5Y8/1灰白					細・少	—	—	2.7	—	6/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (18)

第1分冊

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		
589	SDe26b	E13	1層	須恵器	擂鉢	回転ナデ	ナデ	回転ナデ後オロ シ目	5Y5/1 灰	7.5Y4/1 灰						破片	
590	SDe26b	E13		土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						3/8	体部外面 にスス付 着
591	SDe26b	E13	2層	土師器	鍋	ヨコナデ サエ・ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙						1/8	
592	SDe26b	E13	2層	土師器	鍋	ヨコナデ サエ・板ナ 後ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ・指オサエ 後ナデ	2.5 Y 8/3 淡黄	10 Y R 8/3 浅黄橙						3/8	
593	SDe26b	E13	2層	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						5/8	
594	SDe26b	E13	2層	土師器	把手 付鍋	ナデ	指オサエ	ナデ	10 Y R 4/1 褐灰	7.5 Y R 5/3 におい 濁						6/8	
595	SDe26b	E13	3層	土師器	鍋	ヨコナデ サエ・ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	10 Y R 3/1 黒褐	5 Y 7/1 灰白						2/8	外面スス 付着
596	SDe26b	E13	2層	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ・ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 指オ サエ後ハケ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙						3/8	
597	SDe26b	E13	2層	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	10 Y R 8/4 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙						4/8	体部外面 にスス付 着
598	SDe26b	E13	2層	土師器	把手 付鍋	ナデ	指オサエ	ナデ・指オサエ ハケ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙						2/8	
599	SDe26b	E13	2層	土師器	足釜	指ナデ・板ナ デ	板ナ デ	ハケ	2.5 Y 7/2 灰黄	2.5 Y 7/2 灰黄						破片	
600	SDe26b	E13	2・3 層	陶器	壺	ナデ		ナデ	10YR6/3 におい黄橙	5YR5/6 明赤褐						3/8	
601	SDe26b	E13	2層	土師器	壺	マメツ・指オサ エ	指オサ エ	マメツ・指オサ エ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白						1/8	
602	SDe26b	E13	1層	須恵器	壺	回転ナデ 削り後ナデ	ヘラ	指オサエ	N 6/ 灰	N 7/ 灰白						2/8	
606	SDe27	E13		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転 ナデ	回転ナデ 回転 ナデ後仕上げナ デ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						7/8	内面にス ス付着、灯 明皿
607	SDe27	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転 ナデ	回転ナデ	7.5 Y R 6/4 におい 橙	7.5 Y R 6/4 におい 橙						2/8	
608	SDe27	E13	3層	土師器	杯	回転ナデ 切り後ナデ	ヘラ	回転ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙						2/8	
609	SDe27	E13	2層	土師器	足鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ ナデ	ヨコナデ ナデ	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙						1/8	
610	SDe27	E13		土師器	足釜	指ナデ・指オサ エ	指オサ エ	指オサエ後ハケ	2.5 Y 7/2 灰黄	2.5 Y 7/2 灰黄						破片	
611	SDe27	E13	2層	陶器	甕	ヨコナデ ナデ	ハケ	ヨコナデ ハケ・ ナデ	2.5 Y 3/1 黒褐	2.5 Y 3/1 黒褐						破片	
612	SDe27	E13	2層	白磁	椀	施釉	施釉	施釉	胎：10 Y 8/1 灰白	胎：10 Y 8/1 灰白						破片	
613	SDe27	E13	1層	弥生土器	鉢	ナデ	指オサエ	ナデ	5 Y R 5/8 明赤褐	5 Y R 5/8 明赤褐						1/8	
616	SDe33	E13		弥生土器	壺	マメツ		ヘラ削り	10 Y R 6/3 におい 黄橙	7.5 Y R 5/4 におい 濁						1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (19)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
617	SDe50	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	5YR7/6 橙						(8.0)	1.3	(6.2)	—	1/8	
618	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	板ナ ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐						—	—	—	—	破片	
619	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR7/4 にぶい黄橙						—	—	—	—	破片	
620	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後板ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙						—	—	—	—	1/8	体部外面 にスス付 着
621	SDe50	F12		土師器	焙烙	指オサエ後板ナ デ	指オサエ後板ナ デ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
622	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ後板ナデ	指オ サエ後板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片	体部外面 にスス付 着
623	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ	指オ サエ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR7/4 にぶい橙						—	—	—	—	破片	体部外面 にスス付 着
624	SDe50	F12		土師器	鍋	ヨコナデ サエ	指オ サエ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
625	SDe50	F12		土師器	足釜	ナデ	—	10YR8/4 浅黄橙	—						長さ 9.7	太さ 3.0	高さ 3.0	—	破片	
626	SDe51	F12	2層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙						(13.1)	4.2	7.1	—	5/8	
627	SDe51	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
628	SDe51	F12	上層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						(15.6)	—	—	—	1/8	
629	SDe51	F12		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白						(14.8)	4.9	(6.2)	—	2/8	西村産
630	SDe51	F12	上層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白						—	—	(5.6)	—	6/8	
631	SDe51	F12	下層	黑色土器	椀	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄橙	5YR3/1 黒褐						—	—	6.2	—	8/8	A類
632	SDe51	F12		青磁	椀	施釉	施釉	釉:7.5Y6/2 灰オリー ブ	胎:7.5Y6/2 灰オリー ブ						—	—	—	—	破片	
633	SDe51	F12		青磁	椀	施釉	施釉	釉:10Y8/1 灰白	胎:10Y8/1 灰白						—	—	(6.8)	—	2/8	
634	SDe51	F12	上層	瓦質土器	埴鉢	ヨコナデ サエ後ヨコナデ	ヨコナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白						—	—	—	—	1/8	
635	SDe51	F12	1層	土師器	埴鉢	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						—	—	—	—	1/8	
636	SDe51	F12	上層	瓦質土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄						—	—	—	—	破片	
637	SDe51	F12	上層	土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ヨコナ デ 格子目タ タキ	板ナ ハケ 指オサエ後ナ デ	10YR4/2 灰黄褐	10YR8/4 浅黄橙						—	—	—	—	4/8	
638	SDe51	F12	上層	土師器	鍋	ハケ 指オサエ 後ハケ後ヨコ ナデ 指オサエ後 ハケ 格子目タ タキ	ハケ 指オサエ 後ハケ後ヨコ ナデ 指オサエ後 ハケ 格子目タ タキ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙						—	—	—	—	3/8	

第5表 西末則遺跡V出土器観察表(21)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高			底径	その他	
667	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR7/4 にふい橙							120	2.3	6.6	—	4/8	
668	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙							122	2.6	7.5	—	8/8	
669	SDe45	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ 仕上	10YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白							11.1	2.1	6.7	—	5/8	
670	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐							11.6	2.1	7.8	—	3/8	内面にス ズ附着
671	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙							11.7	2.4	(7.0)	—	2/8	
672	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							11.8	2.5	(7.0)	—	4/8	
673	SDe45	F12	下層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							11.9	2.4	7.5	—	5/8	
674	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙							12.0	2.3	7.9	—	4/8	
675	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙							11.9	2.4	7.2	—	5/8	
676	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							12.0	2.5	7.4	—	3/8	
677	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にふい橙	10YR5/2 灰黄褐							12.0	2.6	(7.4)	—	3/8	内面にス ズ附着
678	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							12.2	2.3	7.9	—	6/8	
679	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白							12.4	2.9	(5.8)	—	1/8	
680	SDe45	F12		土師器	杯	回転ナデ マメ ツ	回転ナデ 仕上	7.5YR7/4 にふい橙	10YR8/3 浅黄橙							12.5	2.6	8.2	—	8/8	
681	SDe45	F12	下層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							13.4	2.7	(9.6)	—	1/8	
682	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙							11.9	6.0	(2.1)	—	2/8	
683	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白							12.4	2.1	(7.8)	—	1/8	
684	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							8.5	2.7	5.8	—	7/8	
685	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙							8.7	3.1	6.0	—	5/8	
686	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にふい橙	10YR8/4 浅黄橙							8.8	2.7	(5.8)	—	3/8	
687	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後板状 庄痕	回転ナデ	7.5YR7/4 にふい橙	7.5YR7/4 にふい橙							9.4	2.5	(6.0)	—	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (22)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径	その他
688	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	75YR8/4 浅黄橙	5YR7/6 橙					中・並	(9.1)	2.3	(5.4)	—	3/8
689	SDe45	F12	上層	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板ナ 庄痕	回転ナデ	75YR7/4 にぶい橙	10YR8/3 浅黄橙					中・並	(9.8)	3.0	(5.9)	—	4/8
690	SDe45	F12	上層	陶器	碗	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	軸：7.5YR2/1 黒	胎：5Y8/1 灰白					細・少	—	—	—	—	破片
691	SDe45	F12	上層	土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ 板ナデ	ヨコナデ ヨコ ナデ後オロシ目 ナデ	10YR5/1 褐灰	10YR8/2 灰白					中・並	(30.2)	—	—	—	破片
692	SDe45	F12	上層	土師器	捏鉢	ヨコナデ 指オ	ヨコナデ 指オ	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰					粗・多	(32.4)	—	—	—	1/8
693	SDe45	F12	上層	土師器	足釜	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙					中・並	—	—	—	—	破片
694	SDe45	F12	上層	土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ ナデ	ヨコナデ 指オ サエ ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙					中・並	—	—	—	—	破片
695	SDe45	F12	上層	土師器	足釜	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙					中・並	—	—	—	—	破片
696	SDe45	F12	上層	土師器	足釜	ナデ・指オサエ	ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	長さ 10.0	長さ 3.0	—	—	破片
697	SDe45	F12	上層	弥生土器	蓋	マメツ ナデ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR3/1 黒褐					粗・多	—	—	(10.0)	—	2/8
698	SDe45	F12	上層	弥生土器	鉢	ナデ	ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙				中・並	—	—	—	—	破片	
703	SDe46	F12		瓦器	碗	回転ナデ ミガキ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片
704	SDe46	F12		土師器	捏鉢	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ マメ ツ 板ナデ	5YR7/8 橙	5YR7/6 橙					中・多	(22.4)	—	—	—	1/8
705	SDe46	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙					中・多	—	—	—	—	破片
706	SDe46	F12		土師器	足釜	ナデ	指オサエ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄					中・並	長さ 6.2	—	—	—	破片
707	SDe47	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白					中・少	(7.4)	1.1	(5.6)	—	1/8
708	SDe47	F12		土師器	鍋	ナデ	ハケ	10YR3/1 黒褐	2.5Y7/1 灰白					中・少	—	—	—	—	破片
709	SDe48	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	(7.6)	1.3	(6.0)	—	1/8
710	SDe48	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	(7.8)	1.2	(6.0)	—	1/8
711	SDe48	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐					細・少	—	—	—	—	破片
712	SDe48	F12		土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ハケ 後オロシ目	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙					粗・多	—	—	—	—	破片
713	SDe48	F12		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ・ナデ 板 ナデ	板ナデ	10YR4/1 褐灰	2.5Y8/2 灰白					中・少	(39.4)	—	—	—	1/8
714	SDe48	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ 指オ サエ 板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・並	—	—	—	—	破片
715	SDe48	F12		土師器	足釜	指オサエ・ナデ	指オサエ 板ナ デ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・並	長さ 7.4	長さ 3.1	—	—	破片
716	SDe49	F12		土師器	鉢	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ 板ナ デ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					粗・並	—	—	—	—	破片
717	SDe49	F12		土師器	足釜	板ナデ後ナデ	—	5YR7/6 橙	—					中・並	長さ 8.2	長さ 2.3	—	—	破片
718	SXc06	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	(8.8)	—	—	—	2/8

体部外面
にスズ付
着

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (23)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
719	SXe06	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙					中・並	(10.9)	2.1	(7.6)	—	1/8
720	SXe06	F12		白磁	碗	回転ナデ ナデ	施釉	胎：5Y7/1 灰白	釉：N8/ 灰白					細・少	—	—	—	—	破片
721	SXe06	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ後板ナデ	ヨコナデ ハケ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・並	—	—	—	—	破片
722	SXe07・08	F12		須恵器	蓋	回転ヘラ削り	回転ナデ げナデ	2.5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白					中・少	—	—	—	—	破片
723	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙					中・並	(8.0)	1.1	(6.4)	—	2/8
724	SXe07・08	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					細・並	8.3	1.4	6.0	—	7/8
725	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・多	(8.8)	1.2	(6.2)	—	2/8
726	SXe07・08	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					細・少	(8.0)	1.5	5.3	—	5/8
727	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					細・少	(8.6)	1.5	(5.8)	—	2/8
728	SXe07・08	F12	暗灰 色粘 土	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白					細・少	11.4	2.1	7.1	—	6/8
729	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	(7.8)	1.3	(5.9)	—	2/8
730	SXe07・08	F12		須恵器	杯	回転ナデ 糸切り	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					中・少	—	2.9	—	—	破片
731	SXe07・08	F12		陶器	杯	回転ナデ 糸切り	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	N6/ 灰					粗・少	—	3.0	—	—	2/8
732	SXe07・08	F12	上層	陶器	杯	回転ナデ 糸切り	回転ナデ	2.5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐					細・少	(10.4)	2.7	(5.8)	—	1/8
733	SXe07・08	F12		白磁	碗	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	釉：5Y7/2 灰白	胎：7.5Y8/1 灰白					細・少	(19.0)	—	—	—	破片
734	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	青磁	碗	連弁文 施釉	回転ナデ後施釉	釉：5Y6/3 オリーブ 黄	胎：7.5YR7/4 にぶ い橙					細・少	—	—	—	—	破片
735	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	青磁	碗	高台削り出し後 施釉	回転ナデ後施釉	釉：2.5GY6/1 オリー ブ灰	胎：5Y6/1 灰					細・少	—	—	(3.8)	—	3/8
736	SXe07・08	F12	上層	青磁	碗	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	釉：5Y7/3 浅黄	胎：2.5Y8/2 灰白					細・少	—	—	(5.9)	—	8/8
737	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	白磁	碗	高台削り出し	回転ナデ後施釉	釉：2.5Y8/2 灰白	胎：2.5Y8/2 灰白					細・少	—	—	3.6	—	5/8
738	SXe07・08	F12		白磁	碗	回転ナデ 削り出し	回転ナデ後施釉	釉：5Y8/2 灰白	胎：5Y8/1 灰白					細・少	—	—	(7.8)	—	2/8
739	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	挿鉢	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ ナ 後オロシ目	ヨコナデ ナデ 後オロシ目	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・多	(34.0)	—	—	—	2/8

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (25)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径	その他
759	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	鍋	ヨコナデ サエ後ナ デ	指オ ハ ナ	板ナ	7.5YR7/4に ぶい橙	10YR8/3 浅黄橙					中・並	—	—	破片	体部にス 入付着
760	SXe07・08	F12		土師器	鍋	ヨコナデ 指オサエ 後ナデ	ナデ 板ナ	板ナ	10YR4/1 褐灰	2.5Y8/2 灰白					中・並	—	—	破片	
761	SXe07・08	F12	暗灰 色粘 土	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ 板ナ	指オ 板ナ	板ナ	10YR3/1 黒褐	10YR8/3 浅黄橙					中・並	(20.4)	—	2/8	穿孔あり
762	SXe07・08	F12		土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ ナ	指オ ナ	ハケ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙					中・並	(24.0)	—	2/8	穿孔あり
763	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	板ナ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白					中・並	(24.2)	—	1/8	体部にス 入付着
764	SXe07・08	F12	上層	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ ナ	ナ	板ナ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・並	(23.0)	—	2/8	穿孔あり
765	SXe07・08	F12		土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	指オ	10YR5/2 灰黄褐	10YR8/2 灰白					中・並	(22.2)	—	1/8	体部にス 入付着
766	SXe07・08	F12	上層	土師器	把手 付鍋	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	ナ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・少	(26.4)	—	4/8	穿孔あり
767	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	足釜	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	指オ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					中・多	(23.0)	—	1/8	
768	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	足釜	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	板ナ	10YR7/3に ぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・並	(27.4)	—	1/8	
769	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	足釜	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	板ナ	7.5YR8/2 灰白	10YR5/2 灰黄褐					中・多	(25.0)	—	1/8	
770	SXe07・08	F12		土師器	足釜	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	板ナ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白					粗・少	(22.8)	—	1/8	
771	SXe07・08	F12	暗灰 色粘 土	土師器	足釜	ヨコナデ サエ後 ナ	指オ 板ナ	ナ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	—	—	破片	
772	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	足釜	ナ	ナ	板ナ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙					中・多	長さ 11.5	高さ 3.2	破片	
773	SXe07・08	F12	暗灰 色粘 土	土師器	足釜	指オサエ ナ	ナ	剥離	2.5Y8/3 淡黄	—					中・並	長さ 10.0	高さ 3.6	破片	
774	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	足釜	指オサエ ナ	ナ	指オサエ 板ナ	10YR7/2に ぶい黄橙	10YR7/2に ぶい黄橙					中・並	長さ 10.8	高さ 3.1	破片	
775	SXe07・08	F12		土師器	足釜	ナ	ナ	—	5YR6/6 橙	—				中・多	長さ 11.3	高さ 2.4	破片		
776	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	壺	ヨコナデ ナ	板ナ	ナ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(12.4)	—	1/8	
777	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	壺	ヨコナデ ナ	板ナ	板ナ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白					中・多	(23.2)	—	1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (26)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高			底径	その他
778	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	壺	ヨコナデ 目タタキ(マメ ツ)	板ナ ココナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙							中・並	—	破片		
779	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	壺	マメツ		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰							中・多	—	破片		
780	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	甕	ヨコナデ 指オ サエ後板ナデ	ハケ ココナデ 指オ サエ後板 ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙							粗・並	(31.8)	—	2/8	
781	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	陶器	甕	指オサエ ナデ 指オ サエ後板 ナデ 指オ サエ後板 ナデ	指オサエ 後板ナ デ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰							粗・少	(26.4)	—	2/8	備前焼
782	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	火鉢	ヨコナデ 指オ サエ後板ナ デ	指オ サエ後板 ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙							粗・並	(31.0)	—	1/8	
783	SXe07・08	F12	灰色 砂質 土	土師器	火鉢	板ナデ	ナデ	10YR8/2 灰白	—						中・並	長さ 4.2	高さ 3.1	—	破片	
784	SXe07・08	F12	暗灰 色粘 土	土師器	不明 土製 土品	指オサエ ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						中・並	長さ 6.3	幅8.1	厚さ 1.6	—	破片
790	SXe09・10	F12	最上 層	土師器	罌鉢	指オサエ 後板ナ デ	ナデ	7.5 Y R 8/6 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙						中・並	—	—	—	破片	
791	SXe09・10	F12	最上 層	土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナ デ	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙						細・並	(8.2)	1.1	(6.4)	—	3/8
792	SXe09・10	F12	最上 層	土師器	杯	回転ナ デ 指オ サエ後 ナデ	回転 ナデ 指 オサエ 後板 ナデ	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙						細・少	10.6	1.5	6.6	—	7/8
793	SXe09・10	F12		土師器	托	ヨコナ デ	ナデ	2.5 Y R 7/4 淡赤橙	2.5 Y 8/2 灰白						細・少	—	—	4.1	—	7/8
794	SXe09・10	F12		土師器	罌鉢	ヨコナ デ 指オ サエ後 ナデ	ヨコ ナデ 指 オサ エ後 板ナ デ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						粗・少	—	—	—	—	破片
795	SXe09・10	F12		須恵器	罌鉢	ヨコナ デ 指オ サエ・ ナデ	ヨコ ナデ 指 オサ エ後 板ナ デ	N 6/ 灰	5 Y 6/1 灰						中・並	(26.0)	—	—	—	1/8
796	SXe09・10	F12		土師器	足釜	ヨコナ デ 指オ サエ後 ナデ	ヨコ ナデ 指 オサ エ後 板ナ デ	10 Y R 6/3 にぶい 黄橙	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙						中・並	(20.4)	—	—	—	2/8
797	SXe09・10	F12		土師器	足釜	指ナ デ	ナデ	10 Y R 7/4 にぶい 黄橙	—						中・少	長さ 15.6	高さ 2.6	—	—	破片
798	SXe09・10	F12		土師器	鍋	ナデ 指オ サエ後 板ナ デ 指オ サエ	板ナ デ	10 Y R 4/1 褐灰	2.5 Y 6/2 灰黄						粗・並	—	—	—	—	破片
799	SXe09・10	F12		土師器	把手 付鍋	ヨコナ デ 指オ サエ後 ナデ	ヨコ ナデ 指 オサ エ後 板ナ デ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白						中・少	(31.2)	—	—	—	2/8
800	SXe09・10	F12		弥生土器	高杯	ヨコナ デ	ヨコ ナデ	2.5 Y 7/1 灰白	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙					細・少	—	—	—	—	—	破片
801	SXe05	F13		土師器	杯	回転ナ デ	回転 ナデ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白						細・並	(13.1)	—	—	—	1/8
802	SXe11	F12		土師器	杯	回転ナ デ 指オ サエ後 板ナ デ 指オ サエ後 板ナ デ	回転 ナデ	7.5 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/2 灰白						細・少	(9.2)	2.2	(5.8)	—	3/8
803	SXe11	F12		土師器	杯	回転ナ デ 指オ サエ後 板ナ デ	回転 ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						中・少	9.1	1.7	4.9	—	4/8

体部外面にスズ付着

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (27)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高			底径
804	SXe11	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ	10 Y R 7/2 に ぶい 黄橙	10 Y R 7/2 に ぶい 黄橙					(8.0)	1.7	(4.4)	—	1/8	
805	SXe11	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙					(8.0)	1.4	(5.8)	—	5/8	
806	SXe11	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白					8.8	2.0	5.5	—	6/8	
807	SXe11	F12		青磁	鉢	施釉	施釉	軸: 5GY6/1 オ リ ア 灰	胎: N7/ 灰白					—	—	—	—	破片	
808	SXe11	F12		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サ エ 後ナデ	ハケ 板ナデ	10 Y R 3/1 黒褐	10 Y R 7/3 に ぶい 黄橙					(39.0)	—	—	—	破片	外面にス ス付着
809	SXe11	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サ エ 後ナデ	板ナデ後ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 7/3 に ぶい 黄橙					—	—	—	—	破片	
810	SXe11	F12		土師器	足釜	指ナデ・指オ サ エ	—	10 Y R 8/3 浅黄橙	—					長さ 12.1	—	—	—	破片	
811	SXe11	F12		陶器	甕	ヨコナデ 指オ サ エ 後ナデ	ヨコナデ ハケ	2.5 Y 6/3 に ぶい 黄	2.5 Y 6/3 に ぶい 黄					—	—	—	—	破片	
812	SXe11	F12		須恵質土 製品	土錘	ナデ	—	N 8/ 灰白	—					現存 長さ 2.7	幅 1.3	長さ 1.1	—	破片	
815	SXe12	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					7.0	1.1	4.9	—	5/8	
816	SXe12	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ 後仕 上げナ デ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(7.1)	2.1	(5.1)	—	3/8	
817	SXe12	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(7.3)	1.5	5.5	—	3/8	口縁部に スス付着、 灯明皿
818	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ 後仕 上げナ デ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					(7.9)	1.8	4.7	—	3/8	
819	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙					8.2	1.4	6.0	—	5/8	
820	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ 後仕 上げナ デ	7.5YR7/3 に ぶい 橙	10YR6/2 灰黄褐					8.4	1.8	4.8	—	7/8	
821	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	10YR7/3 に ぶい 黄橙	2.5Y7/2 灰黄					8.5	1.7	4.2	—	7/8	
822	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ 後仕 上げナ デ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					8.3	2.2	5.1	—	7/8	
823	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ 後仕 上げナ デ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					(9.0)	1.6	(4.7)	—	3/8	
824	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					(11.7)	2.7	(6.7)	—	6/8	
825	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(11.8)	2.2	(6.8)	—	2/8	
826	SXe12	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切 後板状 圧痕	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙					(11.5)	—	—	—	1/8	
827	SXe12	F12		陶器	皿	回転ナデ 施釉 (緑釉)	回転ナデ 施釉 (緑釉)	軸: 5Y7/3 浅黄	胎: 5Y8/1 灰白					(13.6)	—	—	—	破片	
828	SXe12	F12		白磁	碗	回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	軸: 7.5Y8/1 灰白	胎: 7.5Y8/1 灰白					—	—	—	—	破片	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (28)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高
829	SXe12	F12		青磁	施釉	施釉	施釉	軸:2.5GY6/1オリー ブ灰	胎:2.5GY6/1オリー ブ灰						(15.1)	—	1/8	
830	SXe12	F12		青磁	施釉	施釉	軸:10Y6/2オリー ブ灰	胎:10Y6/2オリー ブ灰							—	—	破片	
831	SXe12	F12		青磁	施釉	施釉	軸:2.5GY7/1明オ リーブ灰	胎:N7/灰白							—	—	破片	
832	SXe12	F12		土師器	擂鉢	ナデ後オロシ目	ナデ後オロシ目	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい 橙					(29.0)	—	2/8		
833	SXe12	F12		土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ・ナデ	ヨコナデ ハケ 後オロシ目	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙					(32.0)	—	4/8		
834	SXe12	F12		土師器	擂鉢	ナデ・指オサエ	ナデ後オロシ目	2.5 Y 4/1 黄灰	7.5 Y R 6/4 にぶい 橙				(36.5)	—	1/8			
835	SXe12	F12		土師器	鍋	指オサエ・ナデ・ ハケ	ハケ	10 Y R 7/2 にぶい 黄橙	10 Y R 7/2 にぶい 黄橙				38.7	—	1/8			
836	SXe12	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ・指ナデ	板ナ デ後ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 7/2 にぶい 黄橙				(28.2)	—	1/8			
837	SXe12	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ 指ナデ 格子目タタキ	ヨコナデ オサ エ ヨコナデ ハケ	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙				22.0	—	6/8			
838	SXe12	F12		土師器	足釜	ナデ・指オサエ	施釉	10YR5/2 灰黄褐					長さ 19.6	—	破片			
839	SXe12	F12		土師器	焙烙	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	10 Y R 4/1 褐灰	10 Y R 4/1 褐灰				—	—	破片			
840	SXe12	F12		須恵器	甕	ヨコナデ 格子 目タタキ	ヨコナデ 板ナ デ	10 Y R 8/3 浅黄橙	10 Y R 8/3 浅黄橙				(23.6)	—	2/8			
842	SDe37	E13		青磁	施釉	施釉	軸:2.5 G Y 6/1 オ リーブ灰	胎:2.5 G Y 6/1 オ リーブ灰					(12.8)	—	1/8			
843	SDe37	E13		青磁	施釉	施釉	軸:2.5 G Y 6/1 オ リーブ灰	胎:N 8/ 灰白					—	—	破片			
844	SDe37	E13		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	ヨコナデ後ハケ 目	10 Y R 5/1 褐灰	10 Y R 4/1 褐灰				—	—	破片			
845	SDe37	E13		土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	ヨコナデ ヨコ ナデ後オロシ目	7.5 Y R 8/4 浅黄橙	7.5 Y R 8/4 浅黄橙				—	—	破片			
846	SDe37	E13		土師器	擂鉢	指オサエ後ナデ ナデ	ヨコナデ後オロ シ目	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白				(15.0)	—	2/8			
847	SDe37	E13		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	ヨコナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白				(24.8)	—	1/8			
848	SDe37	E13		土師器	壺	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白				—	—	破片			
850	SDe53	F12	下層	土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙				(7.0)	1.5	2/8			
851	SDe53	F12		土師器	杯	回転ナデ 回転 ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙				(12.3)	3.4	2/8			
852	SDe53	F12		黒色土器	碗	ナデ ヨコナデ	ヘラミガキ(マ メツ)	10YR8/2 灰白	2.5Y4/1 黄灰				—	—	3/8	A類		
853	SDe53	F12	下層	土師器	足釜	指ナデ	—	7.5YR6/6 橙	—				現存 長さ9.6	—	破片			
854	13F_SP12	E13		陶器	碗	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	軸:5 G Y 6/1 オリー ブ灰	胎:5 G Y 6/1 オリー ブ灰				—	—	6/8			
855	13F_SP12	E13		土師器	足釜	板ナ後ナデ	—	10 Y R 8/2 灰白	—				現存 長さ12.6	幅3.1 高さ 3.1	破片			

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (31)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
915	12F_SP174	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						(8.2)	1.1	(5.6)	—	1/8	
920	12F_SP237	F12		黒色土器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ミ ガキ	2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒						(15.0)	5.0	(6.0)	—	1/8	A類
921	12F_SP272	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						—	—	(5.8)	—	5/8	
922	12F_SP272	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
923	12F_SP297	F12		須恵器	鐏鉢	ヨコナデ サエ 後ナデ	指オ サエ 後ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白						—	—	—	—	破片	
924	12F_SP297	F12		土師器	足釜	指オサエ 後ナデ	指オサエ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙						長さ 7.9	太さ 3.6	—	—	破片	
925	12F_SP308	F12		土師器	鉢	ヨコナデ サエ 後ナデ	指オ サエ 後ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄						(17.8)	8.9	(12.0)	—	3/8	
926	12F_SP320	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						(8.4)	1.4	(6.3)	—	3/8	
927	12F_SP358	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙						—	—	—	—	破片	
928	12F_SP358	F12		土師器	鐏鉢	ヨコナデ ナデ	ハケ後オ ロシ目	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙						—	—	—	—	破片	
930	12F_SP375	F12		土師器	足釜	指オサエ 後ナデ	指オサエ 後ナデ	10YR6/2 灰黄褐	—						長さ 7.0	太さ 1.9	—	—	破片	
931	12F_SP392	F12		青磁	椀	施釉	施釉	釉: 5Y7/2 灰白	胎: 5Y8/2 灰白						—	—	—	—	破片	
932	12F_SP392	F12		青磁	椀	施釉	施釉	釉: 5Y7/2 灰白	胎: 5Y7/2 灰白						—	—	—	—	破片	
933	12F_SP392	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						10.2	2.6	6.3	—	8/8	
934	12F_SP414	F12		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ 後ハケ 状工具 によるナ ベナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰						(7.4)	—	—	—	2/8	
935	12F_SP415	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						(9.2)	1.5	(6.0)	—	3/8	口縁部に スス付着、 灯明皿?
936	12F_SP425	F12		青磁	椀	施釉	施釉	釉: 10Y6/2 オリー ア灰	胎: 10Y6/2 オリー ア灰						—	—	(6.6)	—	2/8	
937	12F_SP429	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
938	12F_SP436	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ 後ナデ 後ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						(8.5)	1.8	(5.6)	—	2/8	
939	12F_SP436	F12		土師器	足釜	オサエ 後板ナデ	指オサエ 後ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						長さ 13.5	太さ 3.0	—	—	—	
940	12F_SP438	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白						(9.0)	1.9	(5.8)	—	3/8	
941	12F_SP442	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	5YR7/8 橙	7.5YR8/4 浅黄橙						(7.8)	1.8	(4.2)	—	1/8	
942	12F_SP442	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	—	破片	
943	12F_SP453	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/3 にぶい橙						(12.2)	2.4	(7.6)	—	2/8	
944	12F_SP472	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						(7.9)	1.7	(5.0)	—	3/8	
945	12F_SP487	F12		土師器	足釜	ヨコナデ サエ 後ナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (32)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高
946	12F_SP490	F12		土師器	搦鉢	指オサエ後ナデ ハケ目	ナデ ハケ後オ ロシ目	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・並	—	—	破片	
947	12F_SP495	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙					中・少	1.9	(5.0)	2/8	
948	12E_SP540	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙					細・少	1.7	3.4	3/8	
949	12F_SP546	F12		土師器	足釜	指オサエ後ナデ	指オサエ後板ナ デ・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙					中・多	—	—	破片	スス付着
950	12F_SP558	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・多	—	—	破片	
951	12F_SP591	F12		土師器	足釜	指オサエ後ヨコ ナデ 指オサエ 後ナデ	指オサエ後ヨコ ナデ ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙					中・少	—	—	1/8	
952	12F_SP600	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	5YR7/6 橙	5YR7/4 にぶい黄橙					中・並	1.8	(4.2)	3/8	口縁部一 部スス付 着
953	12F_SP600	F12		磁器	小皿	回転ナデ・施釉	回転ナデ・施釉	胎：5Y8/1 灰白	胎：5Y8/1 灰白					細・少	—	—	破片	
954	12F_SP662	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい黄	7.5YR7/3 にぶい黄橙					細・少	1.5	(5.8)	3/8	口縁部に スス付着、 灯明皿？
955	12F_SP662	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい黄	7.5YR7/4 にぶい黄					細・少	2.2	(6.9)	1/8	
956	12F_SP670	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	2.1	(5.0)	4/8	
957	12F_SP971	F12		土師器	足釜	ヨコナデ サエ後ナデ	指オ サエ後板ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					粗・並	—	—	破片	
960	12F_SP811	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	2.3	(8.0)	1/8	
962	12E_SP71	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙					中・並	1.8	4.7	8/8	口縁部に スス付着、 灯明皿？
963	12E_SP71	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					細・多	2.6	(6.2)	2/8	
964	12E_SP72	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙					中・並	1.7	(6.0)	1/8	
965	12E_SP72	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ ナデ後仕上げナ デ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白					中・少	1.7	(4.8)	2/8	
966	12E_SP72	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙					細・少	1.7	(5.8)	1/8	
967	12E_SP72	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙					細・少	2.1	(6.9)	3/8	
968	12E_SP72	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	ハケ 回転ナデ 後仕上げナ デ	7.5YR6/4 にぶい黄	7.5YR6/4 にぶい黄					細・少	—	—	2/8	
969	12E_SP72	F12		土師器	足釜	ナデ	—	10YR5/3 にぶい黄褐	—					細・多	長さ 8.3	太さ 2.1	破片	
970	12E_SP75	F12		土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	—	—	破片	
972	12E_SP77	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR7/6 橙	2.5YR7/4 淡赤橙					中・並	2.0	(6.4)	2/8	
973	12E_SP90	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・並	2.1	(4.5)	1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (33)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
974	12E_SP96	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙	5YR7/8 橙						3.7	(9.6)	(7.5)	—	2/8	
975	12E_SP96	F12		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						—	—	(10.0)	—	1/8	
976	12E_SP96	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オサエ	ヨコナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白						—	—	—	—	破片	
977	12E_SP139	F12		土師器	足釜	指オサエ・指ナ デ	指オサエ	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/3 にぶい赤褐						—	—	—	—	破片	
978	12E_SP170	F12		土師器	火鉢	ナデ (マメツ) 剥離 板ナデ	ナデ (マメツ) 板ナデ	5Y3/1 オリーブ黒	5Y3/1 オリーブ黒						—	24.3	—	—	5/8	
979	12E_SP174	F12		陶器	椀	施釉	施釉	釉: 25Y8/2 灰白	釉: 25Y8/2 灰白						—	—	—	—	破片	
980	12E_SP174	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙						2.8	(11.8)	(6.0)	—	3/8	
981	12E_SP212	F12		土師器	火鉢	剥離 ナデ	ハケ ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙						—	—	(16.2)	—	4/8	
982	12E_SP219	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙						2.5	—	—	—	破片	
983	12E_SP219	F12		土師器	足釜	指オサエ後ヨコ ナデ 指オサエ 後ナデ	指オサエ後ヨコ ナデ 板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片	体部外面 にスズ付 着
984	12E_SP242	F12		土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						1.3	(8.2)	(2.9)	—	1/8	
985	12E_SP242	F12		須恵器	壺	回転ナデ ヘラ削り 糸切り	回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白						—	—	(4.6)	—	2/8	
986	12E_SP245	F12		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ハケ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐						—	—	—	—	破片	
987	12E_SP245	F12		土師器	釜	剥離 板ナデ	剥離 指オサエ 後板ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR8/2 灰白						17.4	(19.0)	(14.8)	—	3/8	
988	12E_SP249	F12		土師器	土鉢	ナデ	ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白						幅1.3	長さ 3.4	厚さ 1.2	—	8/8	
989	12E_SP274	F12		土師器	把手 付鍋	ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR7/6 橙	5YR6/6 橙						—	—	—	—	破片	
990	包含層	E15		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						3.4	(12.6)	(7.3)	—	2/8	
991	包含層	E15		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	(13.8)	—	—	1/8	
992	包含層	E15		須恵器	壺	ヘラ削り後 回転 ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	(7.0)	—	2/8	
998	包含層	E14		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ 後ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰						—	(14.6)	—	—	1/8	
999	包含層	E14		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	(12.1)	—	1/8	
1000	包含層	E14		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	(7.2)	—	2/8	
1001	包含層	E14		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	—	(12.4)	—	1/8	
1002	包含層	E14		青磁	皿	施釉 削り	施釉	釉: 7.5Y6/2 灰オリー ブ	胎: 7.5Y7/1 灰白						—	—	(4.5)	—	1/8	
1009	包含層	E13		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰						—	—	—	—	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (34)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
1010	包含層	E13		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/2 灰白						1.5	(5.8)	—	2/8	
1011	包含層	E13		施釉陶器	皿	回転ヘラ削り 高台削り出し	施釉	胎: 5Y6/3 オリーブ 黄	釉: 2.5Y7/2 灰黄						—	(4.8)	—	3/8	
1012	包含層	E13		土師器	擂鉢	指オサエ後ナデ	オロシ目 (ハク リ)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	2/8	
1013	包含層	E13		土師器	擂鉢	指オサエ後ナデ	オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙						—	(12.7)	—	2/8	
1014	包含層	E13		土師器	擂鉢	指オサエ後ナデ	ココナデ 指オ サエ後ナデ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰白						—	—	—	破片	
1015	包含層	E13		土師器	土釜	ココナデ 板ナ デ後ナデ	板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	(21.4)	—	1/8	
1016	包含層	E13		土師器	壺	ココナデ ナデ	ココナデ 板ナ デ後ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白						—	(16.6)	—	1/8	
1017	包含層	E13		施釉陶器	円盤 状土 製品	回転ヘラ削り	施釉	胎: 7.5Y5/3 灰オリー ブ	釉: 5Y8/1 灰白						—	(4.5)	—	8/8	
1018	包含層	E13		土師器	土鈴	ナデ	ナデ 絞り目	N4/ 灰	N4/ 灰						3.6	(3.5)	—	4/8	
1021	包含層	F12		弥生土器	甕	ココナデ	ココナデ 回転 ナデ後ナ デ	7.5YR5/4 にぶい糊	7.5YR6/6 橙						—	(14.8)	—	1/8	
1022	包含層	F12		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ ヘラ削り	N7/ 灰白	N8/ 灰白						—	—	—	破片	
1023	包含層	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白						1.1	5.3	—	8/8	
1024	包含層	F12		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白						1.2	4.6	—	8/8	
1025	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	5YR7/6 橙						1.5	4.7	—	6/8	
1026	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						1.8	(3.6)	—	3/8	
1027	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白						1.7	(5.8)	—	2/8	
1028	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄						2.4	6.8	—	5/8	
1029	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ 回転 ナデ後ナ デ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙						3.0	(6.6)	—	1/8	
1030	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						2.9	(5.8)	—	1/8	
1031	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナ デ	回転ナデ 回転 ナデ後ナ デ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白						2.8	(7.2)	—	3/8	
1032	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						2.2	(6.1)	—	2/8	
1033	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						2.4	(8.4)	—	3/8	
1034	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙						2.3	(8.0)	—	3/8	
1035	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						—	—	—	1/8	
1036	包含層	F12		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	破片	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (35)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径
1037	包含層	F12		施釉陶器	皿	施釉	施釉	軸：2.5GY7/1 明オリ リニア灰	胎：7.5Y8/1 灰白								破片	
1038	包含層	F12		施釉陶器	皿	高台削り出し	施釉	軸：5Y5/3 灰オリ ア	胎：5Y5/3 灰オリ ア							(7.7)	1/8	
1039	包含層	F12		施釉陶器	椀	施釉 高台削り 出し後施釉	施釉	軸：10Y6/2 オリ ア灰	胎：N8/ 灰白							(4.9)	2/8	
1040	包含層	F12		施釉陶器	椀	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5Y8/1 灰白	N8/ 灰白							(4.0)	1/8	
1041	包含層	F12		須恵器	椀	回転ナデ ナデ後ナデ	板ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白								2/8	
1042	包含層	F12		青磁	椀	連弁後施釉	施釉	軸：2.5GY6/1 オリ ア灰	胎：2.5GY6/1 オリ ア灰								破片	
1043	包含層	F12		青磁	椀	施釉 高台削り 露胎	施釉	軸：10Y6/2 オリ ア灰	胎：5Y8/1 灰白							(6.6)	3/8	
1044	包含層	F12		土師器	鍋	ハケ 指オサエ 後ハケ 格子目 タタキ	ハケ ハケ後ナ デ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄								1/8	
1045	包含層	F12		土師器	鍋	ヨコナデ 指オサエ	ヨコナデ ハケ	10YR3/2 黒褐	10YR8/3 浅黄橙								2/8	
1046	包含層	F12		土師器	鍋	ヨコナデ 指オサエ	ヨコナデ ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙								破片	
1047	包含層	F12		土師器	足釜	指ナデ	指ナデ	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙								—	
1048	包含層	F12		陶器	甕	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR4/2 灰褐	2.5Y5/2 暗灰黄								破片	備前
1049	包含層	F12		土師器	管状 土鉢	指ナデ	指ナデ	5Y7/1 灰白	—							幅1.3 長さ 4.4	8/8	
1050	包含層	F12		土師器	管状 土鉢	指ナデ	指ナデ	5Y7/1 灰白	—							幅1.5 長さ 4.3	7/8	
1074	SKo06	E _{9e}		弥生土器	甕	ナデ ハケ ナ デ	ナデ ハケ ナ 指オサエ後ヘラ 削り	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄						(14.0)	2.8	5/8	
1075	SKo06	E _{9e}		弥生土器	甕	ナデ ハケ ナ デ	ナデ ハケ ナ ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙						(13.0)	—	2/8	
1076	SKo06	E _{9e}		弥生土器	鉢	ヨコナデ ヘラ削り	ハケ (マメツ)	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						(21.0)	7.8	3/8	
1077	SKo06	E _{9e}		弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	5YR6/8 橙	5YR6/8 橙						(18.4)	8.2	4/8	
1078	SKo06	E _{9e}		弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						—	—	破片	
1079	SKo06	E _{9e}		弥生土器	台付 鉢	ナデ 指オサエ 後ナデ	マメツ	2.5Y8/2 灰白	7.5YR7/4 にぶい橙						—	5.6	7/8	
1081	SDo00	C9	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ マメツ ハケ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						—	—	破片	
1082	SDo00	C9	上層	弥生土器	高杯	マメツ ハラミ ガキ	マメツ 胸部内 面：ハラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙						—	—	8/8	
1083	SDo01	C9	上層	弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	マメツ ハケ後 指オサエ ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙						(11.2)	—	3/8	
1084	SDo01	C9	上層	弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ (マ メツ) 刻み目	指オサエ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						(13.7)	—	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (36)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径
1085	SD001	C9	上層	弥生土器	壺	マメツ ヨコナ デ	指オサ エ	10YR8/4 浅黄橙	25Y8/3 淡黄	中・少			細・少		(18.0)	—	—	2/8
1086	SD001	C9	上層	弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ハケ(マメツ)	75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	中・並					(15.8)	—	—	破片
1087	SD001	C9	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	75YR5/4 にぶい褐	75YR6/4 にぶい橙	細・少			細・並		(16.4)	—	—	破片
1088	SD001	C9	下層	弥生土器	壺	貼付凸帯後刻み 目ヨコナデ	ナデ	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並			細・並		—	—	—	1/8
1089	SD001	C9	上層	弥生土器	壺	板ナデ	板ナデ	10YR4/1 褐灰	5YR6/6 橙	中・多			細・多		—	—	—	3/8
1090	SD001	C9	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ヨコナデ ハケ 後指オサエ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4 にぶい橙	細・並			細・少		(15.0)	—	—	破片
1091	SD001	C9	上層	弥生土器	甕	マメツ 指オサ エ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙	25Y6/2 灰黄	粗・多	中・並		細・少		—	—	—	破片
1092	SD001	C9	下層	弥生土器	鉢	タタキ後板ナデ タタキ後指オ サエ	ハケ	75YR7/6 橙	75YR6/6 橙	中・並			細・少		—	—	—	8/8
1093	SD001	C9	下層	弥生土器	鉢	ナデ 指オサエ ナデ	ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	中・並	中・少		細・少		—	—	—	6/8
1094	SD001	C9	下層	弥生土器	高杯	マメツ ハラミ ガキ(マメツ)	マメツ ハラミ ガキ(マメツ)	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並					(15.9)	—	—	2/8
1095	SD001	C9	下層	弥生土器	高杯	ナデ	指オサエ ナデ 絞目	25Y7/4 浅黄	25Y8/3 淡黄	中・並	細・少		細・少		—	—	—	8/8
1096	SD001	C9	下層	弥生土器	高杯	ナデ	板ナデ	75YR6/4 にぶい橙	75YR5/4 にぶい褐	細・少			細・少		—	—	—	8/8
1099	SD002	C9		弥生土器	甕	剥離	ハケ(剥離)	75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	中・並					(19.2)	—	—	破片
1100	SD003	C9		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並					(16.4)	—	—	1/8
1101	SD003	C9		土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄	中・並					—	—	—	破片
1103	SD014	E10	上層	弥生土器	壺	マメツ	マメツ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4 にぶい橙	中・並	細・少		細・少		(15.6)	—	—	1/8
1104	SD014	E10	下層	弥生土器	壺	ナデ ハケ後刺 突文	ナデ ハケ 指 オサエ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並	細・少		細・少		(14.2)	—	—	1/8
1105	SD014	E10	下層	弥生土器	壺	ハケ後ナデ ナ デ	ハラ削り	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	細・少			細・少		—	—	—	4/8
1106	SD014	E10	上層	弥生土器	壺	ハケナデ	ナデ	75YR5/4 にぶい褐	75YR5/4 にぶい褐	中・並					—	—	—	5/8
1107	SD014	E10	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	25Y4/1 黄灰	75YR7/4 にぶい橙					(12.8)	—	—	—	1/8
1108	SD014	E10	下層	土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ハケ ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙						—	—	—	破片
1109	SD028	E9 _e		縄文土器	浅鉢	条痕文	ヨコナデ 条痕 文	10YR8/2 灰白	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・並			細・少		—	—	—	破片
1110	SD029 SR003	E9 _e	最上層	弥生土器	壺	マメツ マメツ ハケ ナデ	マメツ 指オサエ 後ナデ ハケ 指オサエ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並	中・少	中・並	中・並		—	—	—	3/8
1111	SD029	E9 _e	1層	弥生土器	壺	マメツ 板ナデ (マメツ)	マメツ 指ナデ 指オサエ	75YR7/6 橙	75YR7/4 にぶい橙	中・多	細・少				—	—	—	8/8
1112	SD029	E9 _e	1層	弥生土器	甕	マメツ ハケ	マメツ	5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐	中・並	中・少				(14.5)	133	—	6/8
1113	SD029	E9 _e	1層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ヨコナデ 板ナ デ	75YR6/4 にぶい橙	75YR6/4 にぶい橙	粗・並	中・少		細・並		(13.2)	—	—	1/8
1114	SD029	E9 _e	1層	弥生土器	甕	ヨコナデ 指オ サエ ハケ(マ メツ)	ヨコナデ ハラ 削り(マメツ)	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多	中・少				(19.5)	—	—	1/8
1115	SD029	E9 _e		弥生土器	甕	ハケ(マメツ)ナ デ	ハラ削り(マメ ツ)	75YR6/4 にぶい橙	25Y2/1 黒	粗・多		細・少	細・多		—	—	—	4/8

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (37)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径	その他
I116	SD029	E9e		弥生土器	鉢	指オサエ後ハケナデ	ハケ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・並	中・少		細・多		(17.7)	8.0	3.9	—	8/8
I117	SR001	C9南	上層	縄文土器	浅鉢	ナデ	指オサエ	2.5Y5/3黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	粗・多	中・少		細・少		—	—	—	—	破片
I118	SR001	C9南	上層	縄文土器	浅鉢	ナデ	条痕ヨコナデ	10YR6/2灰黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	粗・多	中・少		細・少		—	—	—	—	破片
I119	SR001	C9南	下層	縄文土器	一	条痕	ナデ	2.5Y5/3黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	中・多	細・少		細・並		—	—	—	—	破片
I120	SR003	E9e		縄文土器	壺	条痕文ハハラミガキ	条痕文ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y3/1黒褐	中・並	細・少		細・少		—	—	—	—	破片
I121	SR003	E9e		縄文土器	深鉢	突帯文後刻み目条痕文ナデ	条痕文ナデ	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	粗・多	細・少		細・少		—	—	—	—	破片
I122	SR003	E9e	下層	縄文土器	浅鉢	条痕文	条痕文ナデ	2.5Y4/1黄灰	2.5Y6/2灰黄	中・並	中・少		中・並		—	—	—	—	破片
I123	SR003	E9e		縄文土器	浅鉢	条痕文	条痕文ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	中・多	中・少		細・並		—	—	—	—	破片
I124	SR003	E9e	中層	縄文土器	浅鉢	条痕文	条痕文ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	2.5Y5/2暗灰黄	中・多	中・少		中・少		—	—	—	—	破片
I125	SR003	E9e	最上層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	中・少			細・少		(13.6)	—	—	—	2/8
I126	SR003	E9w		弥生土器	壺	ハケ後ハラミガキ(マメツ)	指オサエ 指ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	細・少			細・少		—	—	—	—	2/8
I127	SR003	E9e		弥生土器	甕	ナデ刻み目 沈線	指オサエ 指ナデ後ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明褐	中・並	中・少				—	—	—	—	破片
I128	SR003	E9e		弥生土器	甕	ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ(マメツ)	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐	細・少	細・並		細・多		(13.5)	—	—	—	破片
I129	SR003	E9e	最上層	弥生土器	甕	凹線2条後ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	中・並	中・少		細・少		(20.2)	—	—	—	1/8
I130	SR003	E9e	下層	弥生土器	甕	マメツ ハラミガキ	板ナデ後ナデ	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/2灰黄	粗・多	細・少		細・少		—	—	9.2	—	7/8
I131	SR003	E9e	下層	弥生土器	壺	指オサエ 指ナデ	指オサエ 指ナデ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	中・多	中・少		中・少		—	—	(6.5)	—	7/8
I132	SR003	E9e	最上層	弥生土器	壺	マメツ	マメツ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	中・多	中・少		中・多		—	—	5.9	—	6/8
I133	SR003	E9e	最上層	弥生土器	壺	マメツ	マメツ	2.5Y7/2灰黄	2.5Y5/1黄灰	中・多	中・並		中・多		—	—	5.8	—	6/8
I134	SR003	E9e	下層	弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y6/1黄灰	中・多	中・並		細・少		—	—	(7.4)	—	4/8
I135	SR003	E9e	最上層	弥生土器	鉢	マメツ	マメツ	10YR8/2灰白	2.5Y8/2灰白	中・多	中・並		中・多		—	—	—	—	破片
I136	SR003	E9		弥生土器	高杯	マメツ	マメツ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	粗・多	中・多		中・少		—	—	—	—	6/8
I137	SK002	C9		須恵器	甕	回転ナデ 格子目タタキ	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	N7/灰白	N7/灰白						24.5	—	—	—	破片
I138	SK002	C9		土師器	甕	指オサエ(マメツ)	指オサエ(マメツ)	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						—	—	—	—	破片
I139	SD015	E10		須恵器	蓋	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰						—	—	—	—	破片
I140	SB006SP10	E10		土師器	足釜	指オサエ 指ナデ	—	10YR7/2にぶい黄橙	—						—	—	—	—	破片
I141	SB009SP04	E10		土師器	挿鉢	ヨコナデ 指オサエナデ	ヨコナデ 指オサエ後オロシ目	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白						—	—	—	—	破片
I142	SB009SP01	E10		土師器	鍋	ヨコナデ 指オサエ	ヨコナデ 指オサエ	7.5YR7/3にぶい橙	10YR8/3浅黄橙						—	—	—	—	破片
I143	SB012SP03	E9w		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙						(6.2)	1.0	(4.2)	—	1/8

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (38)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径	その他
I176	SB012SP03	E9w		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR7/4 ぶい橙	10YR8/2 灰白					11.0	2.8	6.6	—	5/8		
I177	SA005SP02	E10		土師器	搥鉢 サエ	指オ ナデ	ヨコナデ 後オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					(30.5)	—	—	—	—	破片	
I178	SA003SP05	E10		土師器	搥鉢	指オサエ ナデ	ハケ後オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					—	—	(10.4)	—	—	2/8	
I179	SA004SP02	E10		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 ぶい黄橙	10YR7/3 ぶい黄橙				(9.8)	—	—	—	—	—	1/8	
I180	SA004SP06	E10		土師器	把手 付鍋	ヨコナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					—	—	—	—	—	破片	
I181	SE001	E9w		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					6.9	0.9	5.2	—	—	7/8	
I182	SE001	E9w		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白					10.4	3.2	7.3	—	—	4/8	
I183	SE001	E9w		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				(11.2)	3.9	(7.2)	—	—	—	3/8	
I184	SE001	E9w		須恵器	搥鉢	ナデ 指オサエ	ナデ	N3/ 暗灰	N4/ 灰					—	—	—	—	—	破片	
I185	SE001	E9w		土師器	足釜	ヨコナデ ナデ	ハケ後ナデ	7.5YR7/3 ぶい橙	7.5YR7/3 ぶい橙					—	—	—	—	—	破片	
I186	SK001	C9	下層	縄文土器	浅鉢	条痕後ナデ	指ナデ後ナデ	10YR6/4 灰黄褐	10YR6/4 ぶい黄橙	細・多				—	—	—	—	—	破片	
I188	SD004	C9		土師器	羽釜	回転ナデ	ヨコナデ	10YR7/2 ぶい黄橙	10YR7/3 ぶい黄橙					—	—	—	—	—	1/8	
I189	SD005	C9	下層	土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/4 浅黄褐	10YR7/6 明黄褐				(6.9)	0.9	(5.6)	—	—	—	1/8	
I190	SD005	C9	上層	土師器	小皿	マメツ	マメツ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐					—	—	—	—	—	破片	
I191	SD005	C9	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					—	—	—	—	—	破片	
I192	SD005	C9	下層	須恵器	碗	ヨコナデ	ヨコナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					—	—	(6.0)	—	—	破片	
I193	SD005	C9	上層	瓦質	鉢	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/3 ぶい黄					—	—	—	—	—	破片	
I194	SD005	C9	上層	土師器	鍋	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰					—	—	—	—	—	破片	
I195	SD005	C9	下層	土師器	足釜	指ナデ	—	10YR7/3 ぶい黄橙	—					—	—	—	—	—	—	
I196	SD005	C9	上層	須恵器	壺	回転ナデ (自然 釉)	回転ナデ (自然 釉)	5PB6/1 紫灰	5PB6/1 青灰					—	—	—	—	—	破片	
I197	SD005	C9	上層	陶器	壺	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ後指ナ デ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰					—	—	(10.1)	—	—	破片	
I198	SD005	C9	下層	須恵器	甕	回転ナデ 格子目タタキ後 目タタキ後ナ デ	回転ナデ	2.5GY6/1 オリーブ 灰	N6/ 灰				(15.0)	—	—	—	—	—	1/8	
I199	SD006	C9		土師器	鍋	ナデ	板ナデ後ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					—	—	—	—	—	破片	
I200	SD007	C9		須恵器	甕	格子目タタキ後 カキ目	青海波文	N5/ 灰	N6/ 灰					—	—	—	—	—	破片	
I203	SD011	C9	下位	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙				(9.0)	—	—	—	—	—	1/8	
I204	SD011	C9	上層	土師器	搥鉢	指オサエ後ナ デ	ヨコナデ	5YR7/4 ぶい橙	7.5YR7/4 ぶい橙					—	—	—	—	—	破片	
I205	SD011	C9	上層	土師器	搥鉢	ヨコナデ 指ナ デ	ヨコナデ 剥離	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					—	—	—	—	—	破片	
I206	SD011	C9	上位	土師器	搥鉢	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ (マ メツ)	板ナ デ後ナ デオロ シ目	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄					—	—	—	—	—	破片	
I207	SD011	C9	下層	陶器	搥鉢	回転ナデ後指オ サエヘラ切り 後ナ デ	回転ナ デオロ シ目	2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR5/3 ぶい赤 褐					—	—	(8.9)	—	—	1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (40)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
1242	SDo23	E10	上層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 高台貼付	回転ナデ	5Y4/1 灰	10Y5/1 灰					中・並	—	4.1	—	5/8	
1243	SDo26・23	E10	上層	須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 高台貼付	ハケ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					細・少	—	(5.2)	—	3/8	
1244	SDo23	E10	下層	土師器	足釜	指ナ サエ	ハケ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙					粗・多	—	—	—	破片	
1245	SDo23	E10	下層	須恵器	甕	回転ナデ 平行タ タキ 自然釉	回転ナデ 青海 波文後ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	—	4/8	
1246	SDo23	E10	下層	須恵器	甕	格子目タタキ	ナデ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・少	—	—	—	破片	焼成不良
1247	SDo23	E10	下層	須恵器	甕	格子目タタキ ナ ヘラ切り	ナデ 板ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	(16.4)	—	2/8	十瓶焼
1248	SDo23	E10	上層	弥生土器	甕	ヘラミガキ ナ 切り	指オ サエ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/6 橙	中・並	細・並 細			中・並	—	—	—	6/8	
1254	SDo24	E10		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ 切り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙					中・並	—	(3.0)	—	3/8	
1255	SDo24	E10		瓦器	小皿	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ヘラ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・多	—	(4.4)	—	2/8	
1256	SDo24	E10		土師器	擂鉢	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR7/6 橙					粗・多	—	—	—	1/8	
1257	SDo24	E10		土師器	足釜	ヨコナデ 指ナ サエ	ヨコナデ 板ナ 後ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙					中・少	—	(24.0)	—	破片	
1258	SDo24	E10		土師器	足釜	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ナデ	2.5YR6/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白					中・並	—	—	—	破片	
1259	SDo24	E10		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	—	—	—	破片	
1260	SDo24	E10		土師器	足釜	指ナデ	—	7.5YR7/6 橙	—					中・多	—	—	—	破片	
1261	SDo24	E10		土師器	足釜	指ナデ	—	10YR7/2 にぶい黄橙	—					細・並	—	—	—	破片	
1264	SDo25	E10		土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ナデ 後オロシ目	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	—	—	—	破片	
1265	SDo25	E10		土師器	擂鉢	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ハケ 後オロシ目	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙					中・並	—	—	—	破片	
1266	SDo25	E10		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ハケ 後ナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR6/4 にぶい橙					中・多	—	(37.1)	—	破片	
1267	SDo24・25 交点	E10		土師器	捏鉢	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	—	(37.2)	—	破片	
1268	SDo24・25 交点	E10		土師器	壺	ナデ	ナデ 板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・並	—	(13.6)	—	3/8	
1269	SDo26	E10		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙					細・少	—	(7.0)	—	1/8	
1270	SDo26	E10		青磁	椀	施釉	施釉	釉:2.5GY6/1 オリー フ灰	胎: N7/ 灰白					細・少	—	(13.0)	—	1/8	
1271	SDo26	E10		土師器	擂鉢	指オサエ ナデ	ナデ 後オロシ目 ハケ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰					粗・多	—	(17.2)	—	1/8	破片
1272	SDo26	E10		土師器	鍋	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	—				中・多	—	—	—	—	破片	
1273	SDo26	E10		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ 後ナデ	ヨコナデ ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					中・並	—	(26.3)	—	1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(41)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
1274	SD026	E10		土師器	足釜	指オサエ ナデ	—	10YR7/3にぶい黄橙	—					長さ 9.2	高さ 2.4	—	—	破片	
1276	SX002	C9	中層	黒色土器	碗	マメツ 回転ハ ラ削り	ヘラミガキ(マ メツ)	25Y8/8黄	25Y7/3浅黄					—	—	(5.8)	—	2/8	
1277	SX004	E10		陶器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	10YR3/1黒褐					—	—	—	—	破片	
1278	SX005	E10		土師器	搦鉢	ヨコナデ ナデ 指オサエ	後オロシ目	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐					—	—	—	—	破片	
1279	SX005	E10		土師器	掛鉢	ヨコナデ ハケ ヘラ削り	ヨコナデ ハケ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					—	—	—	—	破片	
1280	SX005	E10		土師器	足釜	指ナデ	指オサエ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					—	—	—	—	破片	
1281	SX004	E9w		縄文土器	浅鉢	マメツ 指オサ エ	マメツ	5Y5/1灰	25Y4/2暗灰黄	中・多				—	—	—	—	破片	
1282	SX004	E9w		弥生土器	甕	マメツ	マメツ	25Y7/1灰白	25Y8/1灰白	中・並				—	—	(7.0)	—	1/8	
1285	SR004	E9w		土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					(8.4)	1.1	(6.7)	—	2/8	
1286	SR004	E9w		青磁	皿	回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	胎:7.5Y5/1灰	軸:2.5GY5/1オリ ア灰					(10.4)	—	—	—	破片	
1287	SR004	E9w		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					—	—	—	—	破片	
1288	SR004	E9w		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	5YR5/1褐灰	5YR6/1褐灰					—	—	—	—	破片	
1291	SP15	C9		瓦器	碗	ヘラミガキ	ヘラミガキ(マ メツ)	N5/灰	N4/灰					(16.0)	—	—	—	破片	
1292	SP050	E10		土師器	鍋	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ ナ デ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					—	—	—	—	破片	
1293	SP072	E10		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙					(10.0)	1.7	(6.2)	—	1/8	
1295	SP169	E10		土師器	杯	回転ナデ 回転 ヘラキリ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					(7.6)	1.4	(6.1)	—	1/8	
1296	SP177	E10		土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラキリ	回転ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙					(7.0)	1.4	(5.6)	—	1/8	
1297	SP260	E10		土師器	火鉢	板ナデ ナデ	—	2.5Y5/1黄灰	—					長さ 3.7	高さ 3.5	—	—	破片	
1298	SP01	E9w		土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					(7.8)	1.9	(5.8)	—	3/8	
1299	SP08	E9w		土師器	鍋	ナデ ハケ ハ ケ後ナデ	ハケ	10YR5/2灰黄褐	10YR3/1黒褐					—	—	—	—	破片	
1300	SP10	E9w		土師器	壺	回転ナデ(自然 細)	マメツ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙					(20.6)	—	—	—	破片	
1301	SX001	C9		須恵器	蓋	回転ナデ(自然 細)	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白					(10.0)	—	—	—	破片	
1302	SX001	C9		土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					(9.6)	1.0	(8.0)	—	破片	
1311	SX008	E10		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙					—	—	—	—	破片	
1312	包含層	E10		須恵器	杯	回転ナデ 回転 ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					(10.0)	—	—	—	3/8	
1313	包含層	E10		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐					(14.7)	—	—	—	1/8	
1314	包含層	E10		土師器	搦鉢	指オサエ ナデ	ハケ後オロシ目	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙					—	—	(10.4)	—	4/8	
1315	包含層	E10		土師器	把手 付鍋	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ナデ	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙					(20.3)	—	—	—	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (42)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径			その他	
1316	包含層	E10		土師器	把手 付鍋	ヨコナデ 指オサエ ナデ	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 指オサエ ナデ	10YR7/3にぶい黄橙	内部 10YR7/3にぶい黄橙						(22.9)	—	—	1/8		
1317	包含層	E9w・ E10		土師器	メツ 板ナデ	ヨコナデ 板ナデ	ヨコナデ 指オサエ ナデ	10YR4/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐								(17.9)	—	—	3/8	
1319	SX008	E9w		須恵器	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰							—	—	—	破片		
1322	SX009	F6		弥生土器	タタキ 後ハケ	ハケ 後ナデ	ハケ 後ナデ	7.5YR6/3にぶい褐	10YR6/2灰黄褐							—	5.6	—	8/8		
1323	SX009	F6		弥生土器	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐							(15.7)	—	—	4/8		
1324	SX009	F6		弥生土器	ヨコナデ タタキ	タタキ	ヨコナデ 後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄							(9.2)	—	—	3/8		
1325	SX009	F6		弥生土器	ナデ 台付 鉢	指オサエ 内面：ナ デ	板ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙							(9.6)	—	—	3/8		
1326	SX009	F6		弥生土器	高杯	ヨコナデ 削り	ヨコナデ	5YR6/8橙	5YR6/8橙							(9.0)	—	—	破片		
1327	SR005	F7		弥生土器	壺	ハケ	指オサエ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙							—	—	—	8/8		
1328	SR005	F7		弥生土器	壺	ハケ 後タタキ 指オサエ	指オサエ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙							—	7.0	—	6/8		
1329	SR005	F7		弥生土器	鉢	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オ サエ	10YR4/2灰黄褐	10YR4/1褐灰							(13.6)	—	—	4/8		
1330	SR005	F7		弥生土器	鉢	ヨコナデ (マメ ツ)	マメツ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙							(18.0)	—	—	1/8		
1331	SR005	F7		弥生土器	鉢	ヨコナデ (マメツ)	ヨコナデ 指オ サエ	5YR6/6橙	5YR6/6橙							(14.0)	—	—	1/8		
1332	SR005	F7		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4にぶい黄褐	5Y3/1オリーブ黒						(25.6)	—	—	1/8			
1333	SR005	E6	上・ 中層	弥生土器	鉢	ナデ	ヨコナデ 指オサエ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙						—	3.6	—	—	6/8		
1334	SR005	E6		弥生土器	台付 鉢	指オサエ・ナデ	指オサエ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙						—	5.2	—	—	4/8		
1335	SR005	F7	上層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙						—	—	—	7/8			
1336	SR005	F7	下層	土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ ツ	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙							(15.6)	—	—	1/8		
1337	SR005	F7	上層	土師器	把手 付壺	ハケ 指オサエ	指オサエ	7.5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐							—	—	—	破片		
1338	SR005	F7	上層	土師器	壺	ナデ	指オサエ	10YR6/1褐灰	—							—	—	—	破片		
1339	SR005	F7		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰							(12.2)	—	—	2/8		
1340	SR005	F7	包含 層	須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白							(13.2)	2.7	—	1/8		
1341	SR005	F7	下層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白							(10.0)	—	—	2/8		
1342	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰							(12.7)	—	—	1/8		
1343	SR005	F7	上層・ 下層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N5/灰	N5/灰							13.2	4.8	(7.3)	4/8		
1344	SR005	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰							—	—	(5.8)	1/8		

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (43)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		
1345	SR005	F7	上層	土師器	蓋	回転ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙							8/8	
1346	SR005	F7	茶灰 色粘 質土	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							3/8	
1347	SR005	F7	上層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰							1/8	
1348	SR005	F7	上層	瓦質土器	蓋	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/3 浅黄							破片	
1349	SR005	F7	下層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白							1/8	
1350	SR005	F7	上層	須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ削り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白							1/8	
1351	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白							1/8	
1352	SR005	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(10.8)		2/8	
1353	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					(12.4)		1/8	
1354	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5Y5/1 灰	N6/ 灰					(9.6)		1/8	
1355	SR005	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N7/ 灰白					(10.0)		1/8	
1356	SR005	E6		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					(9.0)		1/8	
1357	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	5P6/1 紫灰	5P6/1 紫灰					(10.6)		3/8	
1358	SR005	F7	茶灰 色粘 質土	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					(9.8)		1/8	
1359	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ 火漉	N6/ 灰	N6/ 灰					(7.4)		2/8	
1360	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ 火漉	N6/ 灰	N6/ 灰					(7.6)		2/8	
1361	SR005	F7	上層	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ 火漉	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(7.9)		2/8	
1362	SR005	E6		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰					(7.8)		2/8	
1363	SR005	F7	茶灰 色粘 質土	須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り 有	回転ナデ 火漉	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(6.1)		1/8	
1364	SR005	E6		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白					(16.0)		1/8	
1365	SR005	F7	茶灰 色粘 質土	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					(14.9)		1/8	
1366	SR005	E6		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ削り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(10.3)		1/8	
1367	SR005	F7		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ削り 有	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					(10.4)		1/8	
1368	SR005	F7	上層	須恵器	皿	回転ナデ ヘラ削り 有	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(14.7)		1/8	
1369	SD034 SR005	F7		須恵器	高杯	カキ目後 沈線 2条	絞り目 ヨコナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					(11.3)		1/8	
1370	SR005	F7	上層	須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(11.4)		1/8	

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (44)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径	その他
1371	SR005	F7		須恵器	平瓶	回転ナデ	カキ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					—	—	—	2/8	
1372	SR005	F7		須恵器	平瓶 把手	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	N7/灰白	N7/灰白					現存 幅30	厚さ 1.5	—	破片	
1373	SR005	F7	上・ 下層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					—	—	肩部径 (10.8)	1/8	穿孔1ヶ所
1374	SR005	F7	上層	須恵器	盤	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白					—	—	—	破片	
1375	SR005	F7	上・ 下層	須恵器	横瓶	格子目タタキ後 カキ目	格子目タタキ後 カキ目	青海波文 ナデ	N6/灰	N7/灰白					—	—	—	破片	
1376	SR005	E6		須恵器	壺	回転ナデ	刻み ヘラ描線刻	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					—	—	—	1/8	
1377	SR005	F7	上層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					—	—	—	1/8	
1378	SR005	F7	上層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白					—	—	—	破片	
1379	SR005	F7	上層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	N5/灰					—	—	—	破片	
1380	SR005	F7	茶灰 色粘 質土	土師器	蓋	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	5YR7/8 橙					1.5	(7.0)	—	1/8	
1381	SR005	F7	上層	土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙				—	—	(7.0)	—	1/8	
1382	SR005	F7	上層	黒色土器	椀	回転ナデ	回転ナデ	マメツ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y3/1 黒褐				—	—	—	破片		
1383	SR005	F7	下層	緑釉陶器	皿	ヨコナデ	ヨコナデ	施釉	5Y7/2 灰白	5Y7/1 灰白				—	—	—	破片		
1384	SR005	F7	包含 層	緑釉陶器	椀	回転ナデ	緑釉	回転ナデ	2.5GY7/1 明オリー ア灰	2.5GY7/1 明オリー ア灰				—	—	(7.7)	—	4/8	
1385	SR005	F7	上層	土師器	羽釜	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙				—	—	—	破片		
1386	SR005	F7	包含 層	土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙				—	—	(5.6)	—	1/8	
1390	SR007	B5		弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐				中・並 細・少	細・並	—	—	3/8	
1391	SR007	B5		弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐				中・並 細・少	細・並	—	—	1/8	
1392	SR007	B5	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙				中・並 細・少	細・並	—	—	1/8	
1393	SR007	B5	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	2.5Y3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐				粗・並 細・多	細・並	(5.7)	—	2/8	
1394	SR007	B5		弥生土器	高杯	ハケ	ハケ	ハケ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/4 にぶい褐				中・多 中・少	細・並	—	—	5/8	
1395	SR008	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				粗・並 細・少	細・並	—	—	破片	
1396	SR008	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙				中・多	細・並	(12.6)	—	2/8	
1397	SR008	F6		弥生土器	甕	タタキ後ナデ	タタキ後ナデ	指オサエ	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y5/1 黄灰				中・並	細・少	—	—	(3.9)	2/8
1398	SR008	F6		弥生土器	鉢	ナデ	指オサエ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				細・並	細・並	(10.6)	2.5	(2.2)	2/8
1399	SR008	F6		弥生土器	鉢	タタキ後ナデ	タタキ後ナデ	指オサエ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				粗・並	細・並	—	—	破片	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (45)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土						備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高
1400	SRo08	F6		弥生土器	鉢	ヨコナデ 指オ サエ ハケ	ヨコナデ ハケ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並			細・少	(32.0)	—	—	破片
1401	SRo08	F6		弥生土器	鉢	ナデ 指オサエ	ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・並			細・少	—	2.2	—	3/8
1402	SRo08	F6		弥生土器	高杯	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ヘラ削り	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	細・少			細・少	—	(18.0)	—	2/8
1403	SRo09	F6	下位 にある 黄褐色 粗砂	縄文土器	深鉢	条痕 貼付突帯 後刻み目	ナデ	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	粗・多			細・少	—	—	—	破片
1404	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ 竹管 文、ヨコナデ後 ハケ	ヨコナデ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	中・並	細・少	細・少	—	—	—	—	破片
1405	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ 斜行 鉢歯文 ハケ 貼付突帯後刻み 目	ヨコナデ ハケ マメツ ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・多	中・少		細・並	(32.0)	—	—	2/8
1406	SRo09	F6		弥生土器	壺	ハケ (マメツ)	ヨコナデ (マメ ツ) ハケ ナデ マメツ	2.5Y5/6 黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・多			—	25.0	—	—	8/8
1407	SRo09	F6		弥生土器	壺	凹線2条 斜行 鉢歯文 マメツ	マメツ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	細・少		—	21.9	—	—	破片
1408	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	オサエ ヨコナ デ ハケ (マメ ツ)	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並			—	(18.3)	—	—	3/8
1409	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハラ ミカキ	ヨコナデ ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	粗・並	細・少		—	25.1	—	—	4/8
1410	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ 波状 文 ハケ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	2.5Y5/6 明赤褐	粗・少			細・多	(24.0)	—	—	
1411	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・並			細・少	(20.0)	—	—	1/8
1412	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ マメ ツ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・少			細・少	(20.8)	—	—	3/8
1413	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ 後ヨコナ デ	ヨコナデ ハケ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	細・少			細・少	(18.7)	—	—	1/8
1414	SRo09	F6		弥生土器	壺	ハケ後ハラミカ キ タタキ後ハ ケ	ハケ後ナデ 指 オサエ後ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	粗・並			細・少	—	—	—	3/8
1415	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	マメツ ヨコナ デ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・多			細・並	—	—	—	2/8
1416	SRo09	F6		弥生土器	壺	ハケ 後板	板ナデ後ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並			細・並	—	—	—	3/8
1417	SRo09	F6		弥生土器	壺	ハケ (マメツ)	ハケ (マメツ)	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細・並			細・少	—	—	—	2/8
1418	SRo09	F6		弥生土器	壺	ハケ 貼付突帯後刻み 目	板ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・並	中・並		細・少	—	—	—	5/8
1419	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ (マメツ) ナデ	マメツ	10YR5/6 黄褐	10YR6/6 明黄褐	中・並			細・多	—	—	—	破片
1420	SRo09	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ 指オサエ マ メツ 指オサエ	ヨコナデ ハケ 指オサエ マ メツ 指オサエ	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/4 にぶい黄	粗・多	中・少		細・多	(16.0)	—	—	2/8

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (46)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					底径 (cm)	器高 (cm)	口径	重量	砂粒	雲母	その他	残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒									
1421	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ キ後ハケ	タ ハケ	ヨコナデ ハケ 後ナデ (マメツ)	75YR6/6 橙	25Y5/2 暗灰黄	中・並					16.0	—	—	—	—	1/8		
1422	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ マメ	ハケ	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	25Y6/4 にぶい黄	粗・並	中・少				15.3	—	—	—	—	5/8		
1423	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ハケ	ヨコナデ (マメツ)	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・並	中・少				16.4	—	—	—	—	2/8		
1424	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ハケ	ヨコナデ ハケ後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	中・並	細・少				13.4	—	—	—	—	1/8		
1425	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ 後ヨコナデ	ハケ	ヨコナデ ハケ	75YR5/6 明褐	75YR6/6 橙	粗・並	中・少				13.4	—	—	—	—	1/8		
1426	SR009	F6		弥生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・多	細・少				14.8	—	—	—	—	1/8		
1427	SR009	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ハケ	ヨコナデ 指オ (マメツ)	10YR5/4 にぶい黄褐	75YR5/6 明褐	中・並	細・少				10.7	—	—	—	—	—		
1428	SR009	F6		小型 丸底 壺	壺	ナデ ハケ	ハケ 後ハラミガキ ハケ	ハケ後ナデ ハケ 指オ ナデ	25Y7/4 浅黄	25Y7/4 浅黄	細・並					9.9	—	—	—	—	5/8		
1429	SR009	F6		弥生土器	壺	ナデ	ナデ	ナデ 指オサエ	75Y3/1 オリー 黒	1 0 YR 6 / 4 にぶ い黄橙	中・多					—	4.9	—	—	—	3/8		
1430	SR009	F6		弥生土器	壺	ハケ後 タタキ マメツ	ナデ	マメツ	25YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	粗・多	細・多				—	—	—	—	—	5/8		
1431	SR009	F6		弥生土器	壺	ナデ (マメツ)	ナデ	ハケ後ナデ (マメツ)	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	細・並	細・少				—	—	—	—	—	3/8		
1432	SR009	F6		弥生土器	壺	ナデ	ナデ	マメツ	25Y7/4 浅黄	25Y7/4 浅黄	粗・多	細・少				—	—	—	—	—	8/8		
1433	SR009	F6		弥生土器	壺	ハケ	ハケ	ハケ ナデ	1 0 YR 5 / 4 にぶ い黄褐	1 0 YR 6 / 4 にぶ い黄橙	中・多	細・少				—	—	—	—	—	3/8		
1434	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ (マメツ)	ハケ	ヨコナデ ハケ 後指オサエ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並	細・少				14.8	—	—	—	—	1/8	下川津B 類に類似	
1435	SR009	F6		弥生土器	甕	マメツ タタキ (マメツ)	タタキ	マメツ ハラ ナデ	75YR7/6 橙	25Y6/2 灰黄	中・多					14.2	—	—	—	—	3/8		
1436	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ キ後ハケ	タタ	ヨコナデ ハラ ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/6 明黄褐	粗・多	細・並				17.6	—	—	—	—	2/8		
1437	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ キ	タタ	ヨコナデ 指オ サエ後ナデ	5Y2/1 黒	5Y2/1 黒	中・多					18.4	—	—	—	—	2/8		
1438	SR009	F6		弥生土器	甕	ナデ ハケ (マメツ)	ハケ (マメツ)	ハケ (マメツ) 指オサエ 後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	25Y6/4 にぶい黄	細・並	細・少				14.1	—	—	—	—	1/8		
1439	SR009	F6		弥生土器	甕	ハケ 後ナデ (マメツ)	ハケ 後ナ デ	ハケ タタキ 後ハケ	10YR6/4 にぶい黄橙	25Y7/3 黄	中・並					14.7	—	—	—	—	1/8		
1440	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ (マメツ)	ハケ (マメツ)	ハケ 後指オサエ	75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	細・並	細・少				13.2	—	—	—	—	1/8		
1441	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ キ後ハケ (マメツ)	タタ	ヨコナデ 板ナ デ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並					12.4	—	—	—	—	4/8		
1442	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ	ハケ (マメツ) ナデ	25Y5/3 黄褐	25Y5/3 黄褐	中・並	細・少				16.2	—	—	—	—	1/8		
1443	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ	ナデ ハケ 後ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・少					—	—	—	—	—	破片		
1444	SR009	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ハケ	ヨコナデ オサ エ後ハケ	5YR4/6 赤褐	75YR4/4 褐	中・並	細・少				—	—	—	—	—	破片		

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (47)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					法量 (cm)		備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径
1445	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ	ハケ(マメツ) ハケ後指オサエ	25Y6/3にぶい黄	25Y5/3黄褐	細・並					(158)	—	—	1/8
1446	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ヨコナデ ハケ 後指ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並					(134)	—	—	1/8
1447	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ マメ	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	中・多					(178)	—	—	1/8
1448	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ タタ	ヨコナデ ナデ	25Y6/4にぶい黄	25Y6/6明黄褐	中・並					(130)	—	—	1/8
1449	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ タタ 後ハケ後ナデ	ヨコナデ 指オ サエ後板ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	粗・並					(165)	—	—	2/8
1450	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オサエ(マメ ツ)	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・多					(188)	—	—	1/8
1451	SR009	F6		甕	弥生土器	ナデ ハケ	ヨコナデ ハラ 削り	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	粗・多					(158)	—	—	1/8
1452	SR009	F6		甕	弥生土器	ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	75YR6/6橙	75YR6/6橙	細・並					(148)	—	—	1/8
1453	SR009	F6		甕	弥生土器	マメツ タタキ 後ハケ	マメツ ハケ後 ナデ	25Y5/3灰オリーブ	25Y5/3灰オリーブ	中・並					(150)	—	—	3/8
1454	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オ サエ後ハケ	10YR7/4にぶい黄橙	25Y7/4浅黄	中・並					—	—	—	破片
1455	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ (マメツ)	ヨコナデ ハケ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・並					(130)	—	—	2/8
1456	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ	ハケ(マメツ) ハラ 削り後ナ デ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	粗・多					(130)	—	—	1/8
1457	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハラ	ヨコナデ 後ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	細・並					(168)	—	—	1/8
1458	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	75YR6/6橙	75YR6/6橙	中・多					118	—	—	2/8
1459	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ タタ キ後ハケ	ヨコナデ 板ナ デ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	細・並					(128)	—	—	2/8
1460	SR009	F6		甕	弥生土器	板ナデ後ヨコ ナデタタキ後 ナデタタキ後 ナデ	ヨコナデ ハラ 削り後ナ デ	25Y7/4浅黄	25Y7/4浅黄	粗・並					(116)	—	—	2/8
1461	SR009	F6		甕	弥生土器	ヨコナデ ハケ 後ナデ	ヨコナデ ハケ 後ナデ	75YR6/4にぶい黄	10YR7/6明黄褐	中・並					—	—	—	破片
1462	SR009	F6		甕	弥生土器	ハケ(マメツ)	マメツ ハケ後 指オサエ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	細・多					—	—	—	破片
1463	SR009	F6・ E6		甕	弥生土器	ヨコナデ タタ キ後ナ デ	ヨコナデ 板ナ デ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐	中・並					—	—	—	1/8
1464	SR009	F6		甕	弥生土器	ハケ	ナデ ハケ(マ メツ) 指オサエ 後ハケ	25Y4/1黄灰	10YR6/4にぶい黄橙	中・多					—	20	—	3/8
1465	SR009	F6		甕	弥生土器	指オサエ後ハ ケ	指オサエ後ハ ケ	75YR5/4にぶい褐	25Y5/2暗灰黄	粗・多					—	3.2	—	3/8
1466	SR009	F6		甕	弥生土器	タタキ後ハケ (マ メツ)	ナデ ハケ 後ナデ	25Y7/4浅黄	25Y6/2灰黄	細・並					—	—	—	3/8
1467	SR009	F6		甕	弥生土器	タタキ後ハケ (マ メツ)	ナデ ハケ 後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並					—	(3.3)	—	3/8

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (48)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高
1468	SR009	F6		甕	ハケ	指ナデ	指ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・多	細・少	—	—	—	—	5/8	
1469	SR009	F6		甕	マメツ ハケ 指オサエ後ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	粗・並	細・少	—	—	—	—	3/8	
1470	SR009	F6		甕	ハケ(マメツ)	ナデ(マメツ)	ナデ(マメツ)	7.5YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	細・並	—	—	—	—	7/8	
1471	SR009	F6		甕	板ナデ後ナデ	ハラケズリ後ハケ	ハラケズリ後ハケ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄橙	中・並	細・並	—	—	—	—	2/8	
1472	SR009	F6		甕	ハケ 指オサエ 後ナデ 粘土貼 付後	ナデ	ナデ	2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	粗・少	細・少	—	—	—	—	5/8	
1473	SR009	F6		甕	ハケ	ハラ削り後ナデ ハケ後ナデ	ハラ削り後ナデ ハケ後ナデ	5YR5/4にぶい赤褐	2.5Y4/1黄灰	中・並	—	—	—	—	—	8/8	
1474	SR009	F6		甕	タタキ後ハケ	指オサエ後ハケ	指オサエ後ハケ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	細・少	細・少	—	—	—	—	8/8	
1475	SR009	F6・ E6		甕	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐	中・並	—	—	—	—	—	2/8	
1476	SR009	F6		甕	ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	—	—	1/8	
1477	SR009	F6・ E6		甕	板ナデ タタキ 後板ナデ	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	—	—	8/8	
1478	SR009	F6		甕	板ナデ	指オサエ ナデ	指オサエ ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	—	—	—	—	—	2/8	
1479	SR009	F6		甕	タタキ後板ナデ ハラ描文	板ナデ	板ナデ	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	中・多	—	—	—	—	—	8/8	
1480	SR009	F6		甕	マメツ ナデ	ナデ	ナデ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5Y2/1黒	粗・多	細・並	—	—	—	—	5/8	
1481	SR009	F6		甕	タタキ後ナデ(マ メツ)	ハラ削り後ナデ	ハラ削り後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐	中・並	細・少	—	—	—	—	2/8	
1482	SR009	F6・ E6		甕	板ナデ後タタキ	ナデ(マメツ)	ナデ(マメツ)	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	粗・並	細・少	—	—	—	—	8/8	
1483	SR009	F6・ E6		甕	ハケ(マメツ)	指オサエ(マメ ツ)	指オサエ(マメ ツ)	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	細・少	—	—	—	—	—	3/8	
1484	SR009	F6		甕	タタキ後ハケ後 ナデ(マメツ)	板ナデ ナデ	板ナデ ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐	中・並	—	—	—	—	—	8/8	
1485	SR009	F6		鉢	マメツ タタキ (マメツ)	ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	10YR5/4にぶい黄褐	2.5Y6/4にぶい黄	中・多	—	—	—	—	—	5/8	
1486	SR009	F6		鉢	ヨコナデ マメ ツ	ヨコナデ 板ナ デ後ナデ	ヨコナデ 板ナ デ後ナデ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	粗・並	細・少	—	—	—	—	2/8	
1487	SR009	F6		鉢	ヨコナデ ハラ ミガキ 絞目 ハラ削り	ヨコナデ ハラ ミガキ(マメツ)	ヨコナデ ハラ ミガキ(マメツ)	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	細・並	細・少	—	—	—	—	7/8	
1488	SR009	F6		鉢	ヨコナデ 指オ サエ ハケ	ヨコナデ マメ ツ	ヨコナデ マメ ツ	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	中・多	細・少	—	—	—	—	1/8	
1489	SR009	F6		鉢	ハケ	ハケ	ハケ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	中・並	細・少	—	—	—	—	破片	
1490	SR009	F6		鉢	ハラ削り(マメ ツ) 葉脈痕	ナデ(マメツ) ハケ(マメツ)	ナデ(マメツ) ハケ(マメツ)	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	粗・多	細・少	—	—	—	—	7/8	
1491	SR009	F6		台付 鉢	板ナデ	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y5/2暗灰黄	細・少	—	—	—	—	—	2/8	
1492	SR009	F6		高杯	ナデ ヨコナデ	ナデ ハケ ヨ コナデ	ナデ ハケ ヨ コナデ	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	中・並	細・少	—	—	—	—	8/8	
1493	SR009	F6		器台	ヨコナデ 斜行 鍾崗文 ヨコナ デ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	中・並	細・少	—	—	—	—	1/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (49)

第1分冊

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土					備考				
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒		口径	器高	底径	その他
1494	SRo09	F6		弥生土器	ミニ チュ ア鉢	指オサエ ナデ	指オサエ ナデ	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	中・並	中・並	細・少			5.3	3.8	2.1	—	7/8
1495	SRo09	F6		弥生土器	製塩 土器	指オサエ ナデ	指オサエ	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	中・並	中・並	細・少			—	—	4.6	—	1/8
1498	SRo10	B5		弥生土器	ヨコナ デ後 ハケ ミガキ	タタキ後ナ デ後ナ ハケ	ハケ後ヨコナ デ後ナ ハケ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	中・並	中・並	細・少			(15.4)	—	—	—	1/8
1499	SRo10	B5		弥生土器	ヨコナ デ	ヨコナ デ	ヨコナ デ	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	中・並	中・並	細・並			(15.4)	—	—	—	3/8
1500	SRo10	B5		弥生土器	ハケ後ナ デ	ハケ後ナ デ	ハケ後ナ デ	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	中・少	中・少	細・多			(11.3)	—	—	—	2/8
1501	SRo10	B5		弥生土器	ナデ	ナデ	ナデ	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	中・少	中・少	細・少			—	—	—	—	破片
1502	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ハケ	タタキ後 ハケ	指オサエ後 ナデ	2.5Y5/2暗灰黄	2.5Y6/3にぶい黄	中・並	中・並	細・少			14.2	14.9	3.0	—	6/8
1503	SRo10	B5		弥生土器	ハケ	ハケ	ハケ	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	中・並	細・少			(17.4)	—	—	—	1/8
1504	SRo10	B5		弥生土器	タタキ ハケ	タタキ ハケ	ハケ	2.5Y5/2暗灰黄	7.5YR5/6明褐	粗・並	粗・並	細・少			—	—	—	—	2/8
1505	SRo10	B5		弥生土器	指オサエ 後ナ デ	指オサエ 後ナ デ	指オサエ 後ナ デ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	中・並	中・並	細・多			—	—	3.2	—	3/8
1506	SRo10	B5		弥生土器	ハケ	ハケ	指オサエ後 ナデ	5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	中・並	中・並	細・並			—	—	3.5	—	2/8
1507	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ハケ	タタキ後 ハケ	ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	細・小	細・小	細・少			—	—	2.0	—	8/8
1508	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ナデ	タタキ後 ナデ	指オサエ後 ハケ	10YR5/6黄褐	10YR5/6黄褐	中・並	中・並	細・並			—	—	3.4	—	7/8
1509	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ハケ	タタキ後 ハケ	ハケ 後ナ デ	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	中・並	中・並	細・少			—	—	3.7	—	4/8
1510	SRo10	B5		弥生土器	ヨコナ デ	ヨコナ デ	ヨコナ デ	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	中・並	細・少			14.8	6.75	4.2	—	7/8
1511	SRo10	B5		弥生土器	板ナ デ	板ナ デ	ハケ後ナ デ	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	中・並	中・並	細・並			(12.2)	6.7	(2.9)	—	5/8
1512	SRo10	B5		弥生土器	ナデ	ナデ	ハケ ナ デ	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	粗・並	粗・並	細・多			12.6	8.0	2.0	—	—
1513	SRo10	B5		弥生土器	ナ デ	ナ デ	ナ デ	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	細・少	細・少				12.7	6.0	3.0	—	8/8
1514	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ナデ	タタキ後 ナデ	板ナ デ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	中・並	中・並	細・並			(9.2)	4.6	4.4	—	5/8
1515	SRo10	B5		弥生土器	ナ デ	ナ デ	ハケ ハ ケ	7.5YR5/4にぶい赤 褐	5YR5/6明赤褐	中・並	中・並	細・少			(12.5)	—	—	—	3/8
1516	SRo10	B5		弥生土器	タタキ後 ナデ	タタキ後 ナデ	指オサエ後 ナデ	10YR6/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	中・並	中・並	細・少			9.4	7.3	2.1	—	7/8
1517	SRo10	B5		弥生土器	ナ デ	ナ デ	ナ デ	2.5Y4/2暗灰黄	2.5Y5/3黄褐	細・少	細・少	細・少			(9.5)	4.0	3.2	—	7/8
1518	SRo10	B5		弥生土器	ナ デ	ナ デ	ナ デ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙	細・並	細・並	細・並			(16.8)	(5.9)	(5.7)	—	2/8
1519	SRo10	B5		弥生土器	指オサエ ナ デ	指オサエ ナ デ	指オサエ ナ デ	7.5YR5/4にぶい赤 褐	10YR5/4にぶい黄褐	細・並	細・並	細・並			(9.6)	2.5	—	—	4/8
1520	SRo10	B5		弥生土器	指オサエ ナ デ	指オサエ ナ デ	板ナ デ	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	中・並	中・並	細・少			(10.4)	2.6	(9.5)	—	4/8
1521	SRo10	B5		弥生土器	ナ デ	ナ デ	板ナ デ	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	中・並	中・並	細・少			—	—	—	—	4/8
1523	SKo11	F6		弥生土器	ナ デ	ナ デ	ナ デ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR5/1褐灰	中・並	中・並	細・少			(25.6)	—	—	—	2/8

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (50)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高
1524	SKo14	F6		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						(5.0)	—	3/8	
1525	SDo33	F7		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	—	3/8	
1526	SDo33	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						3.5	(4.9)	2/8	
1527	SDo33	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						3.1	(5.6)	3/8	
1528	SDo33	E6		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	—	破片	
1529	SDo33	F7		須恵器	甕	回転ナデ 洗線1 糸 回転ヘラ削 り	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	3.8	8/8	穿孔1ヶ所
1530	SDo33	F7		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N5/ 灰						—	(9.6)	1/8	
1531	SDo33	F7		土師器	製塩 土器	ナデ タタキ ナデ	指オサエ後ナデ	5Y4/1 灰	10YR6/2 灰黄褐						—	—	破片	
1533	SDo34	F7		須恵器	蓋	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	(13.0)	1/8	
1534	SDo34	F7		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	破片	
1535	SDo34	F7		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰						—	(7.4)	1/8	
1537	SDo36	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙						—	(6.0)	2/8	
1538	SDo36	F6・ E5		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	(3.7)	1/8	
1539	SDo36	F6・ D5		須恵器	鉄鉢	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/1 灰						—	(26.6)	破片	
1542	SDo39	F6・ D5		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ 有	N7/ 灰白	N7/ 灰白						—	(8.7)	破片	
1543	SDo39	F6・ D5		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付後 回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	7.5Y7/1 灰白						—	(9.1)	1/8	
1544	SDo12	F6・ D5		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付後 回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白						—	(9.8)	1/8	
1545	SDo39	F6・ D5		須恵器	壺	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付後 回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白						—	(10.4)	1/8	
1546	SDo39	F6・ D5		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	5PB7/1 明青灰	5PB7/1 明青灰						—	—	破片	
1547	SDo39	F6・ D5		土師器	竈	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙						—	—	—	
1548	SDo41	F6・ F5		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白						—	—	破片	
1549	SXo10	F6・ D5		須恵器	杯	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付後 回転ナデ	回転ナデ (マメ ツ)	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰						—	(9.3)	破片	
1550	SBo20SP05	F6・ D5		須恵器	椀	回転ナデ ヘラ切り後 高台貼付後 回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	5Y7/1 灰白						—	(4.6)	2/8	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表(51)

第1分冊

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考				
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径	その他	残存率	
1551	SB020SP03	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						8.0	1.8	(4.0)	—	2/8		
1552	SB020SP07	F6・ D5		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙						7.6	1.05	(6.0)	—	1/8		
1553	SB020SP02	F6・ D5		土師器	足筥	横ナデ 指オサ 上	回転ナデ 指オサ 後	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄						—	—	—	—	—	破片	
1554	SB022SP01	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						—	—	(7.0)	—	1/8		
1555	SB022SP01	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄						10.4	1.8	(6.0)	—	1/8	口唇部に スス付着 灯明皿	
1556	SB022SP04	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙						9.0	1.7	5.1	—	5/8		
1557	SB022SP03	F6・ D5		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						7.8	1.4	(6.0)	—	1/8		
1558	SB022SP03	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						11.8	1.7	(7.4)	—	1/8		
1561	SB022SP05	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						9.1	2.1	(6.1)	—	8/2		
1562	SB022SP05	F6・ D5		施釉陶器	皿	回転ナデ後施釉 高台削り出し	回転ナデ後施釉	釉: 7.5Y6/2 灰オリー ブ	胎: 7.5YR6/6 橙						11.0	3.6	5.1	—	6/8		
1564	SB023SP08	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙						9.8	—	—	—	1/8		
1565	SB024SP05	F6・ D5		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10R6/8 赤橙						7.6	1.0	(6.0)	—	1/8		
1566	SKo15	F6・ D5		土師器	足筥	ナデ	—	5YR6/8 橙	—						長さ 4.8	長さ 1.8	—	—	—		
1567	SKo16	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙						—	—	—	—	破片		
1568	SKo16	F6・ D5		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰						—	—	—	—	破片		
1569	SKo16	F6・ D5		須恵器	甕	指オサ 後板ナ デ	指オサ 後板ナ デ	N5/ 灰	N5/ 灰						—	—	—	—	8/8		
1570	SKo16	F6・ D5		瓦質土器	甕	格子目 タタキ	指オサ 後板ナ デ	5Y3/1 オリー ブ黒	2.5Y8/1 灰白						—	—	9.4	—	3/8	亀山焼	
1571	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙						8.9	1.9	4.9	—	8/8		
1572	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙						8.8	1.6	(4.8)	—	4/8		
1573	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						8.6	1.4	(5.0)	—	4/8		
1574	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 後板状圧痕	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						9.3	1.4	(6.0)	—	2/8		
1575	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ 後板状圧痕	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						8.5	1.8	4.0	—	7/8		
1576	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						9.0	1.7	5.2	—	7/8		

第5表 西末則遺跡V出土器観察表 (52)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径		器高	底径	その他
1577	SKo17	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					8.9	1.8	4.8	—	8/8	
1578	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(8.7)	1.7	(4.0)	—	3/8	
1579	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					8.7	1.8	5.2	—	7/8	
1580	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙					8.5	1.3	2.8	—	8/8	
1581	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/4 浅黄橙					9.0	1.9	5.0	—	8/8	
1582	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					9.0	1.3	3.6	—	8/8	
1583	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					8.7	1.95	4.1	—	8/8	
1584	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					9.0	1.9	5.1	—	8/8	
1585	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR7/6 橙					8.3	1.2	5.0	—	8/8	
1586	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙					8.9	1.7	4.1	—	4/8	
1587	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	2.5Y8/3 淡黄					8.4	1.7	4.4	—	8/8	
1588	SKo18	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/3 浅黄橙					6.7	1.7	4.9	—	8/8	
1598	SKo19	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR8/4 淡橙	7.5YR8/4 浅黄橙					9.0	1.85	4.9	—	8/8	
1599	SKo19	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(9.0)	—	—	—	2/8	
1603	SDo40	F6・ E5		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白					(17.3)	—	—	—	破片	
1604	SDo40	F6・ E5		弥生土器	甕	ヨコナデ 指オ サエ	ヨコナデ ハケ	10YR6/6 明黄褐	2.5Y6/3 にぶい黄					—	—	—	—	破片	
1605	SDo40	F6・ E5		弥生土器	甕	ナデ 刻み目 沈線6条 斜格 子文?	板ナ デ後ナデ	5YR6/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙					(17.4)	—	—	—	破片	
1606	SDo40	F6・ E5		瓦質土器	甕	ヨコナデ ハケ 後指オサエ 格子目タ キ	ヨコナデ (ハク リ)	10YR3/1 黒褐	10YR5/4 にぶい黄褐					(32.0)	—	—	—	破片	亀山焼
1607	SDo40	F6・ E5		土師器	足釜	指ナデ 指オサ エ	板ナデ? (マメ ッ)	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/6 橙					長さ 5.2	太さ 2.4	—	—	—	—
1608	SDo42 SDo37	F6・ E5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					10.0	3.0	6.8	—	7/8	
1609	SDo42	F6・ E5		土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					10.5	2.3	6.6	—	6/8	
1610	SDo42	F6・ E5		土師器	小皿	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙					(6.0)	1.0	(5.0)	—	破片	

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (53)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
1611	SXo11	F6・ E5		土師器	鍋	ヨコナデ 板ナ デ	ハケ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐						(25.3)	—	破片		
1612	SXo12	F6・ F6		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄褐 7.5YR7/6 橙						—	—	破片		
1613	SXo12	F6・ F6		須恵器	蓋	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ 状庄糞	N5/ 灰						(14.8)	2.6	—	2/8	
1614	SXo12	F6・ F6	上層	須恵器	杯	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白						—	—	1/8		
1615	SXo12	F6・ F6	下層	須恵器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白						—	—	破片		
1616	SXo12	F6・ F6		土師器	鍋	指ナデ	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐						—	—	破片	煤付着	
1617	SXo12	F6・ F6		瓦質土器	甕	格子目タタキ	ハケ	ハケ	2.5Y6/1 黄灰						—	—	破片	亀山焼	
1618	SXo12	F6・ F6		陶器	甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰						—	—	破片	備前	
1619	SXo12	F6・ F6		弥生土器	甕	ヨコナデ (マメ ツ)	ハケ	ヨコナデ ハケ メ (マメツ)	5YR6/8 橙		細・多				(13.0)	—	1/8		
1620	SXo12	F6・ F6		弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ	ハケ後ナデ 指 オサエ	7.5YR7/4 にぶい橙		細・少				(12.7)	—	2/8		
1621	SXo12	F6・ F6		土師器	足釜	板ナデ後指ナデ	指ナデ	—	7.5YR7/4 にぶい橙						長さ 7.0	太さ 2.8	—		
1623	SP017	F7		須恵器	蓋	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白						(16.8)	—	1/8		
1624	SP021	F7		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1 灰白						—	—	破片		
1625	SP021	F7		土師器	鉢	ナデ 指オサエ	ナデ	ナデ	2.5Y7/3 浅黄						現存 長さ 7.0	幅2.1	破片		
1626	SP034	F7		須恵器	杯	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白						(11.3)	3.1	(7.1)	—	3/8
1627	SP044	F7		土師器	杯	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙						(8.6)	1.7	(4.6)	—	3/8
1628	SP044	F7		陶器	壺	回転ナデ 洗線3 糸	回転ナデ	回転ナデ	N3/ 暗灰						(13.0)	—	—	2/8	備前焼
1630	SP071	F7		土師器	小皿	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙						—	—	—	破片	
1631	SP074	F7		土師器	鉢	ナデ 指オサエ	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	破片	
1632	SP009	E6		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰						—	—	—	破片	
1633	SP012	E6		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/8 橙						—	—	—	破片	
1634	SP007	F6・ E5		土師器	杯	回転ナデ へラ 切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白						(9.6)	2.4	(6.0)	—	1/8
1635	SP010	F6・ E5		土師器	小皿	回転ナデ へラ 切り	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙						(6.4)	0.9	(5.6)	—	1/8
1636	SP096	F6・ E6		土師器	鉢	ヨコナデ 指オ サエ	板ナ デ	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい黄橙						—	—	—	—	破片
1637	SP112	F6・ F5		土師器	足釜	ヨコナデ 板ナ デ後指オサエ	板ナ デ	ヨコナデ	10YR8/3 浅黄橙						26.8	—	—	—	1/8

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (54)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		
1638	SP115	F6・ E5		土師器	杯	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	内部							破片		
1639	SP115	F6・ F5		弥生土器	鉢	ヨコナデ ハケ 後ナデ	ヨコナデ ハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	中・多		細・並	(18.0)	—	1/8			
1640	SP122	F6・ E5		弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	粗・並	中・少	細・並	—	—	破片	下川津B 類		
1641	SP123	F6・ F5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙				(9.4)	—	1/8			
1643	SP270	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙			粗・多	(9.6)	1.6	破片			
1644	SP270	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			中・並	10.7	1.7	2/8			
1646	SP296	F6・ D5		土師器	挿鉢	板ナデ (マメツ)	オロシ目 (マメ ツ)	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/2 暗灰黄			粗・多	—	(10.8)	—	2/8		
1647	SP301	F6・ D5		土師器	足釜	指オサエ後ナデ	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙			中・多	長さ 10.8	2.9	破片			
1648	SP326	F6・ D5		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白			細・少	—	—	破片			
1649	SP329	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙 5YR4/1 黄灰 褐灰	2.5Y5/1 黄灰 7.5YR7/4 にぶい橙			中・並	12.7	—	—	内外面ス ズ付着、灯 皿		
1650	SP340	F6・ E5		須恵器	壺	回転ナデ 自然 格子目タタ キ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰			細・少	—	—	破片			
1651	SP366	F6・ E5		瓦質土器	鉢	指オサエ ナデ	ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰			中・少	(29.2)	—	1/8			
1652	SP376	F6・ E5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			細・無	—	—	破片			
1655	SP472	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り 後板状 圧痕	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙			細・少	(8.9)	1.55	3/8			
1656	SP473	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り 後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐			細・少	(8.6)	1.6	2/8			
1657	SP499	F6・ D5		弥生土器	甕	ヨコナデ マメ ツ	ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙			細・少	(12.0)	—	破片			
1658	SP506	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙			細・少	(9.8)	—	1/8			
1659	SP511	F6・ D5		土師器	足釜	板ナデ 指ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙			細・多	長さ 17.2	2.8	—			
1660	SP542	F6・ D6		須恵器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り 後ナデ 高台貼付後回 転ナデ	回転ナデ	5B6/1 青灰	5B6/1 青灰			中・少	—	(8.4)	1/8			
1661	SP565	F6・ D5		弥生土器	甕	マメツ 板ナデ	ハケ 削り	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	中・並		—	(9.0)	—	2/8			
1662	SP571	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り 後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙			細・無	(11.6)	2.1	2/8			
1663	SP582	F6・ D5		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ ハケ ハケ切り 後板状 圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙			細・少	(10.8)	1.2	2/8			

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (57)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)		残存率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径			器高	底径
1712	包含層	F7		土師器	杯	回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	7.5YR8/4 浅黄橙						5.6	2.9	5.6	7/8	
1713	包含層	F7		土師器	杯	回転ナデ 切り後板状狂痕	回転ナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙						5.9	2.6	5.9	7/8	
1714	包含層	F7		土師器	杯	回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙						6.0	2.8	6.0	7/8	
1715	包含層	F7		須恵器	鉄鉢	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰									1/8	
1716	包含層	F7		黒色土器	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/6 明黄褐	5Y4/1 灰						(5.2)		(5.2)	2/8	
1717	包含層	F7		黒色土器	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8/2 灰白	2.5Y3/1 黒褐						(6.0)		(6.0)	2/8	
1718	包含層	F7		灰釉陶器	椀	回転ナデ	回転ナデ・施釉	胎：2.5Y8/1 灰白	釉：2.5Y6/2 灰黄										破片
1719	包含層	F7		緑釉陶器	椀	施釉 施釉 切り	施釉	胎：7.5Y6/2 灰オリー ブ	胎：N7/ 灰白						(6.2)		(6.2)	3/8	
1720	包含層	F7		白磁	椀	施釉	施釉	胎：7.5Y7/1 灰白	胎：N8/ 灰白										破片
1721	包含層	F7		白磁	椀	回転ナデ 削り出し	施釉	胎：7.5Y7/1 灰白	胎：7.5Y7/2 灰白						5.8		5.8	5/8	
1722	包含層	F7		須恵器	瓶	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					(11.7)		(11.7)	1/8		
1723	包含層	F7		土師器	銅	ナデ ハケ	ナデ ハケ	2.5Y3/2 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙										破片
1724	包含層	F7		土師器	足釜	ヨコナデ サエ・ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙									2/8	
1725	包含層	F7		土師器	足釜	ナデ	—	5YR7/6 橙	—									8/8	
1726	包含層	F7		土師器	足釜	指オサエ・指ナ デ	指オサエ・指ナ デ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐										—
1727	包含層	F7		須恵器	壺	回転ナデ ハケ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白									1/8	
1728	包含層	F7		須恵器	壺	回転ナデ タタキ後ナデ ヨコナデ 切り	ヨコナデ	N4/ 灰	N5/ 灰						(13.2)		(13.2)	1/8	
1734	包含層	E6		弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オサエ 指オサエ ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙									4/8	
1735	包含層	E6		弥生土器	壺	ナデ	ナデ 指オサエ・ ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白									1/8	
1736	包含層	E6		弥生土器	壺	ハラ削り・ナデ	ハラミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙						3.3		3.3	5/8	
1737	包含層	E6		弥生土器	甕	ハケ後ナデ ハケ	ハケ後ナデ 板 ナデ・指オサエ ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙									1/8	
1738	包含層	E6		弥生土器	甕	ヨコナデ マメ ツツ・指オサエ・ ハケ	ヨコナデ 指オサエ 指オサエ ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶい黄橙									2/8	
1739	包含層	E6		弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ 指オサエ・ ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙									1/8	
1740	包含層	E6		弥生土器	高杯	指オサエ・ハケ	指オサエ・ ナデ	5YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい黄橙									6/8	基部 5.2
1741	包含層	E6		須恵器	杯	回転ナデ ハラ削り	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白									1/8	
1742	包含層	E6		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰										破片
1743	包含層	E6		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰									1/8	つまみ 部2.0

第5表 西末則遺跡V出土土器観察表 (58)

報文 番号	報告 遺構名	地区名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高		底径	その他	残存率
1744	包含層	E6		須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	(18.0)	1.2	—	天井部 (13.4)	1/8	
1745	包含層	E6		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					細・少	(15.0)	—	—	—	2/8	
1746	包含層	E6		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N3/ 暗灰	N7/ 灰白					中・少	(17.4)	—	—	—	1/8	
1747	包含層	E6		須恵器	杯	回転ナデ ナデ 回転ヘラ 切り後ナデ	回転ナデ	N 6/ 灰	N 6/ 灰					中・少	—	—	(7.9)	—	1/8	
1748	包含層	E6		須恵器	杯	回転ナデ 回転 ヘラ切り	回転ナデ	N 7/ 灰白	N 7/ 灰白					細・少	(13.7)	3.5	(9.3)	—	3/8	
1749	包含層	E6		須恵器	杯	体部：回転ナデ 底部：回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	(11.4)	2.3	(7.6)	—	1/8	
1750	包含層	E6		須恵器	皿	回転ナデ ヘラ 切り	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					細・多	(14.8)	1.8	(10.8)	—	1/8	
1751	包含層	E6		土師器	小皿	回転ナデ 回転 ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・少	(7.3)	0.9	(5.9)	—	2/8	
1752	包含層	E6		土師器	碗	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラミガキ	2.5YR6/8 橙	10YR7/4 にぶい黄橙					中・並	—	—	(6.8)	—	2/8	
1753	包含層	E6		黒色土器	碗	回転ナデ 切り後ナデ	回転ナデ	2.5YR8/2 灰白	N3/ 暗灰					細・少	—	—	(5.8)	—	1/8	
1754	包含層	E6		黒色土器	碗	ヨコナデ	暗文	10 Y R 8/2 灰白	N 3/ 暗灰					中・少	—	—	(5.0)	—	4/8	
1755	包含層	E6		白磁	碗	施釉	施釉	7.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	(17.0)	—	—	—	1/8	
1756	包含層	E6		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・少	(21.0)	—	—	—	1/8	
1757	包含層	E6		須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	N3/ 暗灰	N4/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片	
1758	包含層	E6		土師器	土錘	ナデ	—	10 Y R 7/3 にぶい 黄橙	—					中・多	長さ 4.7	幅1.8 1.7	—	—	8/8	
1759	包含層	E6		土師器	土錘	ナデ	—	10 Y R 7/4 にぶい 黄橙	—					中・少	長さ 4.4	幅1.1 1.3	—	—	8/8	
1764	包含層	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・多	細・少	細・並			17.2	—	—	—	2/8	
1765	包含層	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ (マメ ツ)	ヨコナデ ハケ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	細・少	細・並			—	—	—	—	8/8	
1766	包含層	F6・ D5		弥生土器	壺	ハケ (マメツ) 指オサエ後ナデ	マメツ ハケ 指オサエ後ナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並		細・少			—	—	—	—	6/8	
1767	包含層	F6		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/6 橙	粗・多	細・多			—	—	—	—	—	破片	
1768	包含層	F6・ D5		弥生土器	壺	タタキ ナデ	ハケ ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	粗・並	粗・多			—	—	—	3.5	—	4/8	
1769	包含層	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ タタキ	ヨコナデ ハケ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・並	中・少	中・並			(14.4)	—	—	—	1/8	焼成破裂
1770	包含層	F6		弥生土器	甕	ナデ 指オサエ タタキ	ナデ ハケ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR7/3 にぶい橙	中・多	細・並	細・並			(15.0)	—	—	—	1/8	
1771	包含層	F6・ D5		弥生土器	甕	タタキ後ナデ タタキ	ヨコナデ (マメ ツ) オサエ後ハ ケ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	細・少					(15.4)	—	—	—	1/8	
1772	包含層	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ タタ キ後ハケ	ヨコナデ ハケ 後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並	細・少	細・少			(12.4)	—	—	—	1/8	
1773	包含層	F6		弥生土器	甕	ヨコナデ 凹線 2条 ハケ	ヨコナデ ハケ 後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・少	細・少	細・少			(14.3)	—	—	—	1/8	
1774	包含層	F6		弥生土器	甕	タタキ後ヘラミ ガキ ヘラ削り 後タタキ	ハケ ハケ後ナ デ	2.5YR7/6 橙	2.5Y6/3 にぶい黄	粗・並				—	—	—	3.4	—	8/8	
1775	包含層	F6・ D5		弥生土器	甕	タタキ 木葉文	マメツ	2.5YR5/4 にぶい赤 褐	2.5YR5/6 明赤褐	中・並	細・少	細・少			—	—	4.2	—	3/8	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(1)

第1分冊

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
6	SDb01	B16	5層	石鏃	27.0	14.0	3.0	1.08	サヌカイト	
7	SDb01	B16	4層	槍先形石器	59.0	41.0	10.5	28.99	サヌカイト	
11	SDb01	B16	上層	石鏃	31.0	19.0	4.0	2.05	サヌカイト	
49	SBb04	B16		二次加工ある剥片	32.0	38.0	10.0	9.21	サヌカイト	
60	SDb06	B16	下層	石包丁	80.0	40.0	11.0	36.75	サヌカイト	
61	SDb06	B16	下層	削器	61.0	32.0	3.0	9.47	サヌカイト	
62	SDb06	B16	下層	削器	70.0	41.0	7.0	17.47	サヌカイト	
63	SDb06	B16	下層	石核	80.0	50.0	19.0	72.21	安山岩	
71	SDb06	B16	上層	石鏃	29.0	25.0	4.0	1.35	サヌカイト	
97	SDb17-2	B17	埋土	石鏃	46.5	69.5	13.0	44.69	サヌカイト	
98	SDb19	B16		石鏃	49.0	63.0	42.0	162.69	砂岩	
106	SKb01	D15N		石鏃	25.0	16.0	5.0	1.5	サヌカイト	
130	SDb29	C17		石鏃	21.0	19.0	35.0	0.76	サヌカイト	
136	SDb36	C17		石鏃	13.0	14.0	3.0	0.43	サヌカイト	
137	SDb30	C17	下層	機形石器	46.0	71.0	11.0	54.03	サヌカイト	
173	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	20.0	15.0	2.0	0.44	サヌカイト	
174	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	20.5	14.0	3.0	0.53	サヌカイト	
175	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	16.0	19.5	3.0	0.73	サヌカイト	
176	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	17.5	14.5	3.0	0.55	サヌカイト	
177	包含層(1)	B17	赤茶	太型蛤刃石斧	80.0	79.0	41.0	352.12	砂岩	
193	包含層(2)	B17		石鏃	21.0	19.0	4.0	0.93	サヌカイト	
194	包含層(2)	B17		石鏃	21.5	15.0	3.0	0.68	サヌカイト	
195	包含層(2)	B17		石鏃未製品	17.0	14.0	2.0	0.63	サヌカイト	
196	包含層(2)	B17		石鏃	28.0	19.0	3.0	1.54	サヌカイト	
201	包含層	B16		石鏃	27.0	12.0	3.50	1.06	サヌカイト	
202	包含層	B16		槍先形石器未製品	83.0	38.0	17.0	60.92	サヌカイト	
210	包含層	C17		石鏃	15.0	14.0	2.50	0.38	サヌカイト	
211	包含層	D15N		石鏃	22.0	18.0	2.50	0.56	サヌカイト	
212	包含層	D15N		石鏃	27.0	14.0	3.0	0.56	サヌカイト	
213	包含層	B17		石鏃	25.0	18.0	4.0	1.41	サヌカイト	
214	包含層	C17		石鏃	20.0	9.50	4.0	0.55	サヌカイト	
215	包含層	B16		石鏃	15.0	13.5	2.0	0.34	サヌカイト	
216	包含層	D15N		石鏃	17.0	10.0	2.0	0.48	サヌカイト	
217	包含層	B16		石鏃	32.0	25.0	3.0	3.15	サヌカイト	
218	包含層	B17		石鏃	30.0	18.0	4.0	1.86	サヌカイト	
219	包含層	C17		石鏃	33.0	19.0	5.0	2.83	サヌカイト	
220	包含層	C17		石包丁	58.0	48.0	11.0	25.11	サヌカイト	
221	包含層	D15N		削器	71.0	36.0	12.0	27.87	サヌカイト	
222	包含層	B16		削器	57.0	42.0	8.5	17.96	サヌカイト	
223	包含層	C17		石匙	69.5	43.0	4.0	13.09	サヌカイト	
224	包含層	D15N		二次加工ある剥片	44.0	81.0	12.0	28.32	結晶片岩	
225	包含層	B16		剥片	49.0	72.0	9.0	26.55	サヌカイト	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(2)

第1分冊

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
243	SDe01	C13		石鏃	26.0	15.0	3.0	085	サヌカイト	
244	SDe01	C13		槍先形石器	132.0	27.0	11.0	43.20	サヌカイト	
245	SDe01	C13	下層	石庖丁	122.0	45.0	12.0	70.74	サヌカイト	
246	SDe01	C13	下層	楔形石器素材	66.0	44.0	16.0	62.05	サヌカイト	
247	SDe01	C13		楔形石器	62.0	84.0	13.0	83.12	サヌカイト	
248	SDe01	C13	上層(黒粘土)	楔形石器	45.0	67.0	8.0	38.90	サヌカイト	石鏃転用
249	SDe01	C13	上層(黒粘土)	楔形石器	68.0	55.0	15.0	58.01	サヌカイト	石鏃転用
250	SDe01	C13	下層	石鏃	49.0	54.0	10.0	29.70	サヌカイト	
251	SDe01	C13	下層	剥片	136.0	68.0	34.0	242.07	安山岩	
253	SDe02	C13	上・下層	石鏃	30.5	15.0	3.0	1.14	サヌカイト	
254	SDe02	C13	上・下層	削器	78.0	57.0	13.0	51.68	サヌカイト	
255	SDe02	C13	上・下層	二次加工ある剥片	66.0	61.0	17.0	82.92	安山岩	
259	SDe04	C13		石鏃	16.0	17.5	3.0	0.47	サヌカイト	
260	SDe04	C13		石鏃	22.0	14.0	3.0	0.54	サヌカイト	
261	SDe04	C13		石鏃	30.0	15.0	6.0	1.99	サヌカイト	
267	SDe06	C13		石鏃	22.0	15.0	4.0	1.05	サヌカイト	
268	SDe06	C13		石鏃	25.0	20.5	3.5	0.81	サヌカイト	
269	SDe06	C13		剥片	95.0	63.0	22.0	125.66	安山岩	
270	SDe06	C13		石核	142.0	154.0	94.0	1975.07	安山岩	
273	SDe11	C13		石庖丁	80.0	42.0	13.0	49.95	サヌカイト	
275	SXe03	C13		石鏃	98.0	63.0	15.0	110.37	安山岩	
276	SFe00	C13		石匙	80.0	44.0	9.0	22.63	サヌカイト	
284	SDe08	C13		石鏃	17.0	15.0	3.0	0.83	サヌカイト	
290	SDe10	C13		石庖丁	104.0	47.0	13.0	72.74	サヌカイト	
296	SDe13	D15s		二次加工ある剥片	51.0	58.0	15.0	39.23	サヌカイト	
297	SDe13	D15s		未製品	89.0	38.0	13.0	51.36	結晶片岩	
299	SDe16	D12		石鏃	26.0	16.0	3.0	0.75	サヌカイト	
300	SDe16	D12		石鏃	23.0	16.0	3.0	0.94	サヌカイト	
301	SDe16	D12		削器	67.0	43.0	8.0	25.70	サヌカイト	
305	SXe01	C13		石庖丁未製品?	59.0	58.0	12.0	50.25	サヌカイト	
312	SXe04	D15s		石鏃	26.0	18.0	3.0	1.05	サヌカイト	
313	SXe04	D15s		石鏃	19.0	17.5	4.0	0.78	サヌカイト	
314	SXe04	D15s		槍先形石器未製品	56.0	40.0	10.0	22.20	サヌカイト	欠損品
316	SXe02	C13		削器	42.0	99.0	8.0	32.15	サヌカイト	
317	SP01	D12		削器	42.0	83.0	8.0	25.38	サヌカイト	
325	包含層	C13		石鏃	32.0	19.0	4.0	1.70	サヌカイト	
326	包含層	C13		石鏃	28.0	13.0	4.0	1.07	サヌカイト	
327	包含層	C13		石鏃	16.0	16.0	3.0	0.41	サヌカイト	
328	包含層	C13		石庖丁	79.0	42.0	15.0	62.33	安山岩	
332	包含層	D15s		石鏃	27.0	16.0	2.5	0.84	サヌカイト	
333	包含層	D15s		剥片	139.0	57.0	12.0	140.30	結晶片岩	
341	包含層	D12		石鏃	29.0	18.0	5.0	1.30	サヌカイト	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(3)

第1分冊

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
342	包含層	D12		石鏃	230	14.0	3.0	0.41	サヌカイト	
343	包含層	D12		石鏃	160	12.0	3.5	0.39	サヌカイト	
344	包含層	D12		石鏃	220	15.0	3.0	0.45	サヌカイト	
345	包含層	D12		石鏃	320	18.0	4.0	1.97	サヌカイト	
346	包含層	D12		石鏃	160	14.0	2.0	0.36	サヌカイト	
347	包含層	D12		石鏃	135	12.0	4.0	0.53	サヌカイト	
348	包含層	D12		石鏃未製品	180	11.0	4.0	0.65	サヌカイト	欠損品
349	包含層	D12		石廬丁	470	60.5	9.0	25.82	サヌカイト	
350	包含層	D12		石廬丁未製品	900	49.0	10.0	48.61	サヌカイト	
351	包含層	D12		楔形石器	44.0	60.0	16.0	50.31	サヌカイト	
352	包含層	D12		石核	700	61.0	33.0	161.21	サヌカイト	
354	SDe19	E14		搔器	76.0	73.0	16.0	84.18	サヌカイト	石鏃転用
355	SDe19・20	E14		石鏃	25.0	19.0	3.0	0.94	サヌカイト	
356	SDe19・20	E14		削器	220	49.0	7.0	10.74	サヌカイト	
416	SBe06_SP12	F12		敲石	1130	102.0	42.0	816.75	砂岩	
417	SBe06_SP09	F12		敲石	900	30.0	21.0	89.70	緑色片岩	
418	SBe06_SP05	F12		火打石	370	31.0	24.0	28.61	石英	
458	SKe09	E13		楔形石器削片	430	12.0	12.0	4.42	サヌカイト	
537	SKe09	E14	1層	石鏃	170	14.0	3.0	0.40	サヌカイト	
538	SKe09	E15	3層	石鏃	230	14.5	3.0	0.57	サヌカイト	
539	SKe09	E14	3層	石鏃	230	14.0	3.0	0.62	サヌカイト	
540	SKe09	E14	1層	石鏃	250	13.0	3.0	1.08	サヌカイト	
541	SKe09	E15	3層	石鏃	250	16.0	4.0	1.52	サヌカイト	
542	SKe09	E14	2層	石鏃	200	12.0	3.0	0.58	サヌカイト	
543	SKe09	E14	2層	楔形石器	41.0	40.0	9.0	14.94	サヌカイト	石包丁転用
544	SKe09	E14	1層	未製品	650	38.0	15.0	45.21	サヌカイト	
545	SKe09	E14	2層	石核	735	37.0	15.0	47.29	サヌカイト	
546	SKe09	E15	2層	石核	41.0	32.0	22.0	24.24	サヌカイト	
572	SDe26a	E14	2層	楔形石器	400	31.0	5.0	9.62	サヌカイト	
573	SDe26a	E14	2層	削器	570	68.0	140	55.03	サヌカイト	
574	SDe26a	E14	3層	削器	540	66.0	15.5	44.36	サヌカイト	
575	SDe26a	E14		石核	600	49.0	13.0	42.44	サヌカイト	
576	SDe26a	E14	2層	敲石	1330	88.0	25.0	451.06	砂岩	
577	SDe26a	E14	2層	敲石	1100	64.0	19.0	192.52	砂岩	
603	SDe26b	E13	2層	石廬丁未製品	560	54.0	6.0	23.69	結晶片岩	
604	SDe26b	E13	1層	削器	350	67.0	15.0	37.74	サヌカイト	
614	SDe27	E13		石核	520	71.0	45.0	167.75	石英	
615	SDe32	E13		敲石	860	84.0	50.0	513.76	砂岩	
645	SDe51	F12	2層	石核	650	86.0	65.0	538.87	石英	
651	SDe42	F12		石鏃	240	14.0	4.0	1.09	サヌカイト	
701	SDe45	F12	上層	砥石	1130	70.0	70.0	1047.68	砂岩	
785	SXe07・08	F12	暗灰色粘土	砥石	2410	1700	9300	45000	砂岩	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(4)

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
786	SXe07・08	F12	暗灰色粘土	石臼	16.0(cm)	16.3(cm)	8.5(cm)	1858.64	凝灰岩	
787	SXe07・08	F12	灰色砂質土	石臼	22.2(cm)	15.8(cm)	9.8 (cm)	3200.0	凝灰岩	
788	SXe07・08	F12		石鏃	24.0	16.0	3.0	1.14	サヌカイト	
813	SXe11	F12		火打石	52.0	33.0	31.0	61.0	石英	
814	SXe11	F12		丸石	32.5	32.0	27.0	32.89	砂岩	
841	SXe12	F12		砥石	89.0	57.0	30.0	227.99	砂岩	
858	13F_SP74	E13		砥石	87.0	44.0	39.0	213.53	花崗岩	
864	13F_SP222	E13		石庖丁	89.0	41.0	7.0	30.48	サヌカイト	
865	13F_SP222	E13		砥石	72.0	39.0	20.0	106.70	花崗岩	
877	13F_SP390	E13		石鏃	21.0	17.0	3.0	0.95	サヌカイト	
879	13F_SP459	E13		石鏃	69.0	29.0	8.0	15.22	サヌカイト	
884	13E_SP179	E13		砥石	33.0	22.5	15.0	15.81	花崗岩	
905	13F_SP30	F12		石鏃	16.0	17.0	3.0	0.66	サヌカイト	
907	12F_SP26	F12		打製石庖丁	59.0	46.0	7.0	19.62	サヌカイト	
916	12F_SP93	F12		石臼	20.5(cm)	13.9(cm)	10.4(cm)	2524.90	凝灰岩	
918	12F_SP220	F12		丸石	42.5	37.0	35.0	74.21	花崗岩	
919	12F_SP241	F12		凹石	100.0	96.0	45.0	793.62	安山岩	
929	12F_SP358	F12		敲石	135.0	35.0	15.0	126.95	砂岩	
958	12F_SP712	F12		石鏃	22.0	12.0	3.0	0.59	サヌカイト	
961	12E_SP51	F12		砥石	73.0	41.0	16.0	80.90	花崗岩	
971	12E_SP75	F12		機形石器	35.0	14.0	19.0	9.27	長石	
983	包含層	E15		石庖丁	107.0	51.0	10.0	76.96	サヌカイト	
994	包含層	E15		石庖丁	75.0	40.0	9.0	27.55	サヌカイト	
995	包含層	E15		削器	40.0	57.0	15.0	38.92	サヌカイト	
996	包含層	E15		石鏃	58.0	57.0	19.0	66.49	サヌカイト	
997	包含層	E15		大型蛤刃石斧	105.0	44.0	31.0	218.31	砂岩	
1003	包含層	E14		石鏃	17.0	15.0	3.0	0.61	サヌカイト	
1004	包含層	E14		石鏃	19.0	17.0	3.0	0.52	サヌカイト	
1005	包含層	E14		石庖丁	58.0	49.0	11.0	38.31	サヌカイト	
1006	包含層	E14		石鏃	84.0	68.0	24.0	194.61	サヌカイト	
1007	包含層	E14		石鏃	78.0	61.0	19.0	88.26	サヌカイト	
1008	包含層	E14		二次加工ある剥片	98.0	62.0	19.0	102.23	安山岩	石核?
1019	包含層	E13		石鏃	21.0	20.0	4.0	0.84	サヌカイト	
1020	包含層	E13		石鏃	26.0	15.0	3.0	0.62	サヌカイト	
1056	包含層	F12		石鏃	25.0	15.0	3.0	0.50	サヌカイト	
1057	包含層	F12		石鏃	19.0	14.0	2.50	0.35	サヌカイト	
1058	包含層	F12		石鏃	15.0	12.0	3.0	0.46	サヌカイト	
1059	包含層	F12		石鏃	30.0	18.0	4.0	2.05	サヌカイト	
1060	包含層	F12		石鏃	24.0	14.0	4.0	1.00	サヌカイト	
1061	包含層	F12		石鏃	28.0	20.0	5.0	2.78	サヌカイト	
1062	包含層	F12		石鏃	25.0	13.0	4.0	1.44	サヌカイト	
1063	包含層	F12		削器	46.0	43.0	9.0	20.21	サヌカイト	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(5)

第1分冊

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
1064	包含層	F12		削器	54.0	55.0	10.0	25.72	サヌカイト	
1065	包含層	F12		削器	75.0	38.0	4.0	18.80	サヌカイト	
1066	包含層	F12		削器	80.0	66.0	8.0	45.86	サヌカイト	
1067	包含層	F12		石斧	110.0	65.0	43.0	353.13	安山岩	
1068	包含層	F12		楔形石器の削片	42.0	20.0	10.0	10.63	サヌカイト	
1069	包含層	F12		楔形石器の削片	42.0	19.0	6.0	5.16	サヌカイト	
1070	包含層	F12		敲石	79.5	62.5	40.0	311.19	花崗岩	
1071	包含層	F12		敲石	80.0	62.0	56.0	350.72	砂岩	
1072	包含層	F12		円盤状石製品	48.0	40.0	7.0	15.91	結晶片岩	
1073	包含層	F12		二次加工ある剥片	22.0	11.0	9.0	1.57	緑色頁岩	
1080	SKc06	E9e		削器	8.6	11.3	1.4	149.03	サヌカイト	
1097	SDo01	C9	上層	石鏃	26.0	15.0	2.5	1.23	サヌカイト	
1098	SDo01	C9	下層	槽長剥片	52.0	37.0	3.5	11.91	サヌカイト	
1102	SDoc3	C9		砥石	96.0	35.0	55.0	248.61	安山岩	
1120	SRo01	C9	上層	石鏃	23.0	18.0	3.0	0.75	サヌカイト	
1121	SRo01	C9	下層	石鏃	17.0	15.0	2.5	0.66	サヌカイト	
1122	SRo01	C9	上層	石鏃	15.5	14.0	2.30	0.41	サヌカイト	
1123	SRo01	C9	上層	石鏃	11.5	12.3	2.0	0.38	サヌカイト	
1124	SRo01	C9	下層	石鏃	19.0	15.0	4.0	0.87	サヌカイト	
1125	SRo01	C9	上層	石鏃	22.0	19.0	3.0	0.88	サヌカイト	
1126	SRo01	C9	下層	石鏃	37.0	20.0	4.0	1.93	サヌカイト	
1127	SRo01	C9	上層	石鏃	31.0	15.0	4.30	1.15	サヌカイト	
1128	SRo01	C9	下層	削器	45.0	42.0	6.0	17.71	サヌカイト	
1129	SRo01	C9	下層	翼状剥片	40.0	22.0	4.0	4.85	サヌカイト	
1147	SRo03	E9e	最上層	石鏃	2.0	1.4	0.25	0.60	サヌカイト	
1148	SRo03	E9e	上層	石鏃	2.7	2.0	0.3	0.93	サヌカイト	
1149	E9e_SRo03	E10		石鏃	4.6	1.9	0.4	3.23	サヌカイト	
1150	SRo03	E9e	上層	槍先形石器未製品	4.9	4.5	0.8	18.03	サヌカイト	
1151	SRo03	E9e	下層	槍先形石器	6.1	5.0	1.0	35.56	サヌカイト	
1152	SRo03	E9e	上層	槍先形石器未製品	6.9	4.1	1.7	56.22	サヌカイト	
1153	SRo03	E9e	下層	削器	10.3	5.0	0.63	53.09	サヌカイト	
1154	E9e_SRo03	E10	上層	削器	3.8	5.9	0.7	29.25	サヌカイト	
1155	SRo03	E9e	下層	削器	9.6	4.35	0.8	59.68	サヌカイト	
1156	SRo03	E9e	上層	削器	11.0	4.8	1.0	48.19	サヌカイト	
1157	SRo03	E9e		石庖丁	11.4	4.7	0.9	58.63	サヌカイト	
1158	SRo03	E9e	上層	石庖丁	5.1	6.0	0.75	34.78	サヌカイト	
1159	SRo03	E9e		石庖丁	4.55	6.0	0.8	28.42	サヌカイト	
1160	SRo03	E9e	下層	石鏃	12.5	7.8	1.4	176.33	サヌカイト	
1161	SRo03	E9e		石鏃	11.3	6.3	1.1	95.01	サヌカイト	
1162	SRo03	E9e		石鏃	9.3	5.1	1.7	105.46	サヌカイト	
1163	SRo03	E9e	下層	石鏃	9.7	6.7	1.3	106.66	サヌカイト	
1164	SRo03	E9w		石鏃	8.1	5.9	1.3	84.69	サヌカイト	

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(6)

第1分冊

観文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
1165	SRo03	E9e	下層	石核	9.5	5.65	1.75	115.14	サヌカイト	
1166	SRo03	E9e	下層	石核	6.9	5.3	1.4	111.82	サヌカイト	
1167	SRo03	E9w		石核	5.8	5.3	1.7	54.26	サヌカイト	
1172	SBo07 SP02	E10		石鏃	1.9	1.35	0.4	0.9	サヌカイト	
1187	SKo03	C9		石鏃	22.0	18.0	3.50	1.25	サヌカイト	
1201	SDo10	C9		石鏃	22.0	18.0	3.0	0.93	サヌカイト	
1202	SDo10	C9		石鏃	22.0	12.0	2.0	0.60	サヌカイト	
1216	SDo11	C9		削器	57.0	74.0	12.0	65.06	サヌカイト	
1217	SDo11	C9	下位	削器	45.0	46.0	6.0	21.58	サヌカイト	
1220	SDo12	C9		石鏃	18.0	14.5	2.0	0.37	サヌカイト	
1225	SDo17	E10		楔形石器	6.6	6.0	2.0	110.62	安山岩	石鏃転用
1250	SDo23	E10	上層	楔形石器	3.1	2.4	0.7	6.64	サヌカイト	
1251	SDo23	E10	下層	石核	5.0	5.9	1.5	58.63	サヌカイト	
1252	SDo23	E10	下層	砥石	6.0	3.3	2.3	62.99	安山岩	
1253	SDo23	E10	下層	砥石	10.7	3.7	3.3	304.23	砂岩	
1262	SDo24	E10		楔形石器	4.7	5.4	0.8	21.51	サヌカイト	
1263	SDo24	E10		敲石	9.6	4.7	3.9	249.27	砂岩	
1283	SXo07	E9w		石鏃	2.7	1.65	0.3	1.46	サヌカイト	
1289	SRo04	E9w	上層	石鏃	5.35	5.3	1.6	46.22	サヌカイト	
1290	SRo04	E9w	上層	石鏃	7.9	5.7	1.2	85.60	サヌカイト	
1294	SP156	E10		楔形石器	3.8	6.5	1.3	44.85	サヌカイト	
1303	包含層	C9		石鏃	32.0	24.0	35.0	1.91	サヌカイト	
1304	包含層	C9		石鏃	21.0	21.0	2.5	0.69	サヌカイト	
1305	包含層	C9		石鏃	17.0	15.0	3.80	0.41	サヌカイト	
1306	包含層	C9		石鏃	12.0	11.0	2.50	0.33	サヌカイト	
1307	包含層	C9		削器	37.0	38.0	9.0	10.24	サヌカイト	
1308	包含層	C9		楔形石器の削片	47.0	21.0	6.0	7.16	サヌカイト	
1309	包含層	C9		石核	44.5	45.0	25.0	54.27	流紋岩	
1310	包含層	C9		石核	57.0	46.0	18.0	53.93	サヌカイト	
1320	包含層	E9e		石鏃	2.9	2.1	0.3	1.04	サヌカイト	
1321	包含層	E9e		砥石	21.9	4.8	2.3	385.69	安山岩	
1387	SRo05	E6		石廬丁	3.8	4.9	0.7	14.77	サヌカイト	
1388	SRo05	F7		楔形石器	5.6	4.6	1.2	31.76	サヌカイト	
1389	SRo05	F7	包含層	楔形石器の削片	8.2	2.3	1.2	27.18	サヌカイト	
1496	SRo09	F6		削器	7.8	5.0	1.3	51.46	サヌカイト	
1497	SRo09	F6		未製品	7.5	4.8	0.9	69.31	結晶片岩	
1522	SRo10	B5		楔形石器	4.0	5.2	1.1	28.31	サヌカイト	
1532	SDo33	F7		石廬丁	4.3	3.7	1.1	26.21	サヌカイト	
1536	SDo34	F7		石核	8.3	3.95	1.1	47.15	サヌカイト	
1540	SDo36	F6・D5		未製品	5.4	4.55	1.0	28.03	サヌカイト	
1559	SP629	F6・D6		石鏃	1.8	1.5	0.4	0.95	サヌカイト	
1642	SP238	F6・E6		調整ある削片	5.0	3.35	0.9	20.04	サヌカイト	

第6表 西末則遺跡V出土石器觀察表(7)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
1653	SP376	F6・E5		砥石	5.0	2.7	2.5	91.42	花崗岩	
1731	包含層	F7		磨製石剣?	5.3	3.05	0.7	16.00	緑色片岩	
1732	包含層	F7		楔形石器	3.5	4.7	0.9	13.82	サヌカイト	
1733	包含層	F7		敲石	10.2	8.3	6.0	708.40	砂岩	
1761	包含層	E6		陶印	3.0	2.9	3.7	29.89	須恵質	
1762	包含層	E6		石鏃	1.9	1.8	0.3	0.68	サヌカイト	
1763	包含層	E6		石核	8.3	4.7	1.1	55.52	サヌカイト	
1790	包含層	F6		石鏃	2.2	1.5	0.3	0.62	サヌカイト	
1791	包含層	F6・B5		石鏃	1.7	2.0	0.25	0.59	サヌカイト	
1792	包含層	F6・D5		石釘丁	4.3	3.9	0.9	18.46	サヌカイト	
1793	包含層	F6		磨石	9.0	7.9	5.7	622.43	安山岩	

第1分冊

第7表 西末則遺跡V出土金属観察表

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
435	SKe04	E13		不明	42.0	12.0	2.0	2.97	鉄製品	
702	SDe45	F12	上層	不明	66.0	41.0	15.0	28.45	鉄製品	
789	SXe07・08	F12	暗灰色粘土	不明	現存長 21.9(cm)	現存幅 8.5(cm)	1.0(cm)	—	不明	
849	SDe37	E13		不明	47.0	37.0	3.0	13.42	鉄製品	
917	12F_SP116	F12		モリ	59.0	5.0	5.0	14.17	鉄製品	
1284	SXo07	E9W		玉	11.0	10.0	10.0	6.25	鉄製品	
1541	SDo36	F6区-D5	上層 暗黄褐色粘土	鉄鏃	—	—	—	6.26	鉄製品	
1560	SP634	F6区-D5		釘	91.0	6.0	5.0	22.01	鉄製品	
1645	SP276	F6区-D5		釘	80.0	6.0	6.0	17.17	鉄製品	
1654	SP466	F6区-D5		不明	82.0	51.0	4.0	35.35	鉄製品	

第1分冊

第8表 西末則遺跡V出土銭観察表

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	年代	法量			状態	
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
436	SKe04	E13		元豊通宝	北宋1078~1085	24.0	24.0	1.50	2.60	完形
437	SKe04	E13		聖栄元宝	北宋1101	25.0	25.0	1.50	3.10	完形
438	SKe04	E13		聖栄元宝	北宋1101	24.0	24.0	2.0	2.77	完形
451	SKe06	E13		聖栄元宝	北宋1101	24.5	24.5	1.5	2.93	完形
452	SKe06	E13		淳熙元宝・十六	南宋1174~1189	25.0	25.0	2.0	2.44	完形
605	SDe26b	E13	2層	天聖元宝	北宋1023~1032	25.0	24.0	1.0	1.27	一部欠損
652	SDe42	F12		至大通宝	元1310~1311	24.0	24.0	2.0	2.24	一部欠損
959	12F_SP768	F12		洪武通宝	1573~1688	23.0	23.0	2.0	2.91	完形
1215	SDo11	C9	下層(底面)	元祐通宝	北宋1086~1094	23.0	22.0	1.0	1.79	完形
1231	SDo20	E10		皇宋通宝	北宋1038~1040	22.0	22.0	2.0	1.61	完形
1563	SP632	F6・D5		至大通宝	元1310~1311	24.0	24.0	2.0	3.02	完形
1589	SKo18	F6・D5		咸平元宝	北宋998~1003	25.0	20.0	1.5	1.35	1/2残存
1590	SKo18	F6・D5		景德元宝	北宋1004~1007	24.5	24.5	1.0	1.75	完形
1591	SKo18	F6・D5		祥符元宝	北宋1008~1016	25.0	25.0	1.5	2.63	ほぼ完形
1592	SKo18	F6・D5		祥符元宝	北宋1008~1016	26.0	26.0	1.0	2.09	完形
1593	SKo18	F6・D5		皇崇通宝	北宋1038~1040	24.5	24.5	1.0	7.50	銭模数付着
1594	SKo18	F6・D5		元豊通宝	北宋1078~1085	23.0	23.0	1.50	1.97	完形
1595	SKo18	F6・D5		元豊通宝	北宋1078~1085	26.0	26.0	1.0	1.70	一部欠損
1596	SKo18	F6・D5		元豊通宝	北宋1078~1085	25.0	21.0	1.0	0.65	1/2残存
1597	SKo18	F6・D5		元祐通宝	北宋1086~1094	25.0	25.0	2.0	1.80	完形
1600	SKo19	F6・D5		至大通宝	元1310~1311	23.0	23.0	2.0	2.76	完形
1601	SKo19	F6・D5		至大通宝	元1310~1311	24.0	25.0	2.0	3.09	完形
1602	SKo19	F6・D5		至大通宝	元1310~1311	23.0	23.0	2.0	2.66	完形
1629	SP47	F7		至大通宝	元1310~1311	22.5	22.5	1.50	2.73	完形

第9表 西末則遺跡V出土瓦観察表(1)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	調整		色調		胎土				残存率	備考	
					凸面	凹面	凸面	凹面	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長(残存長)			幅(残存幅)
303	SXe01	C13		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白	中・少		中・少	8.1	7.0	1.9	破片
304	SXe01	C13		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	細・多		中・少	7.6	6.3	1.7	破片
340	包含層	D12		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/2灰黄	細・少		細・少	(80)	(84)	2.1	破片
525	SDe24	E14	3層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N7/灰白	N7/灰白	中・少		中・少	15.0	15.8	2.3	4/8
526	SDe24	E14	2層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	中・少		中・少	15.5	8.4	2.5	3/8
527	SDe24	E14	2層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	細・少		中・少	14.6	5.7	2.2	破片
528	SDe24	E14	3層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N4/灰	N4/灰	中・少		中・少	12.5	8.1	2.0	破片
529	SDe24	E14	2層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N4/灰	N4/灰	細・多		細・多	9.3	7.4	2.0	破片
530	SDe24	E14	1層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N4/灰	N4/灰	粗・少		粗・少	7.2	6.7	2.5	破片
531	SDe24	E14	3層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	5Y6/1灰	5Y6/1灰	中・少		中・少	7.5	7.5	2.4	破片
532	SDe24	E14	2層	平瓦	布目圧痕	縄目タタキ	10Y6/1灰	10Y6/1灰	中・多		中・多	7.8	6.5	2.2	破片
533	SDe24	E14	3層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N5/灰	N5/灰	粗・少		細・少	6.8	5.8	1.7	破片

第10表 西末則遺跡V出土瓦観察表(2)

報文 番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	調整		色調		胎土			法量 (cm)		残存率	備考
					凸面	凹面	凸面	凹面	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長 (残存長)	幅 (残存幅)		
534	SDe24	E14	2層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N5/灰	N5/灰	中・少			58	7.1	2.2	破片
535	SDe24	E14	2層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N6/灰	N6/灰	粗・少			7.4	6.2	2.1	破片
536	SDe24	E15	4層	丸瓦	板ナデ	布目圧痕	2.5Y8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少			10.0	6.6	2.8	2/8
570	SDe26a	E14	2層	丸瓦	布目圧痕・へ う削り	板ナデ	N4/灰	N4/灰	細・少	細・少		19.3	12.5	1.9	6/8
571	SDe26a	E14	1層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N5/灰	N5/灰	細・少			10.0	7.8	2.0	破片
665	SDe43	F12	上層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N6/灰	5Y6/1灰	中・並			9.6	6.2	1.7	破片
699	SDe45	F12		平瓦	ナデ	板ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	中・多			7.9	8.3	1.9	破片
700	SDe45	F12	上層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	10YR5.4にぶ い黄褐色	7.5YR6/6橙	細・少	細・少		3.7	5.3	1.9	破片
885	13E_SP188	E13		丸瓦	ナデ	布目・板ナデ 後ナデ	N7/灰白	N7/灰白	細・少			5.3	4.4	1.4	破片
904	13F_SP26	F12		平瓦	板ナデ	ナデ	N7/灰白	N4/灰	細・少	中・少		10.0	6.8	1.9	破片
1051	包含層	F12	灰色粘質土	平瓦	板ナデ ナデ	ナデ 布目圧痕	N6/灰	5Y6/1灰	細・少			(3.7)	(4.6)	1.1	破片
1052	包含層	F12		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N7/灰白	N7/灰白	細・少			(3.2)	(3.7)	3.5	破片
1053	包含層	F12		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	5YR6/8橙	10YR7/8黄橙	中・少			(5.2)	(5.0)	2.3	破片
1054	包含層	F12		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N7/灰白	N5/灰	中・少			(8.3)	(7.5)	1.9	破片
1055	包含層	F12		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	細・少			(7.1)	(6.9)	2.9	破片
1249	SDe23	E10	上・下層	軒平瓦	布目圧痕・部 分的に指ナデ	縄目後ナデ	N6/灰	N6/灰	中・少			13.2	12.4	4.1	破片
1275	SDe24	E10		軒平瓦	マメツ	マメツ	N3/暗灰	N3/暗灰	粗・多	中・少		3.8	3.6	4.6	破片
1318	包含層	E10		平瓦	ナデ	布目圧痕	N6/灰	N6/灰	細・少			6.7	3.1	1.6	破片
1622	SXo12	F6・F6		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N6/灰	N6/灰	細・少			—	—	—	破片
1729	包含層	F7		平瓦	剥離	布目圧痕	N7/灰白	N7/灰白	細・少			6.5	4.5	2.5	破片
1730	包含層	F7	1層	平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N7/灰白	N7/灰白	中・少			8.8	5.5	2.3	破片
1760	包含層	E6		平瓦	縄目タタキ	布目圧痕	N7/灰白	N7/灰白	細・少			8.7	8.8	2.6	破片
1795	包含層	B5		平瓦	へう削り	へう削り	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	中・並			6.2	6.8	2.7	破片



B16 調査区 調査状況 (西南から)



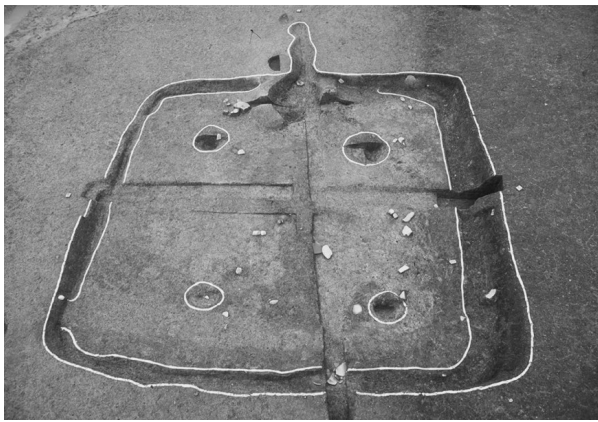
B17 調査区 東壁断面



SDb01 遺物 (1) 出土状況 (南から)



SDb01 遺物 (2) 出土状況 (南から)



SHb01 調査状況 (南から)



SHb01 かまど断面 (南から)



SHb01 断面 (北から)



SDb02 遺物出土状況 (東から)

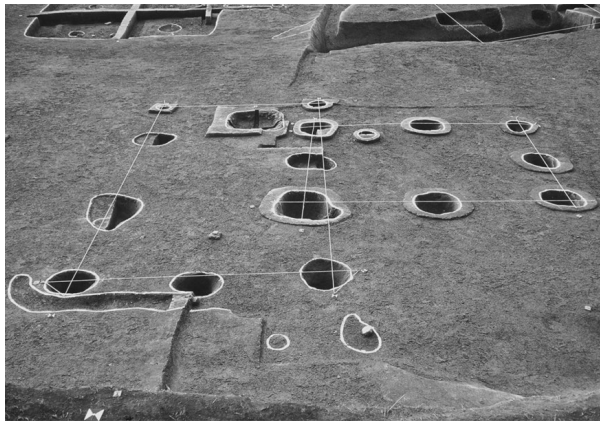
図版 2 西末則遺跡V



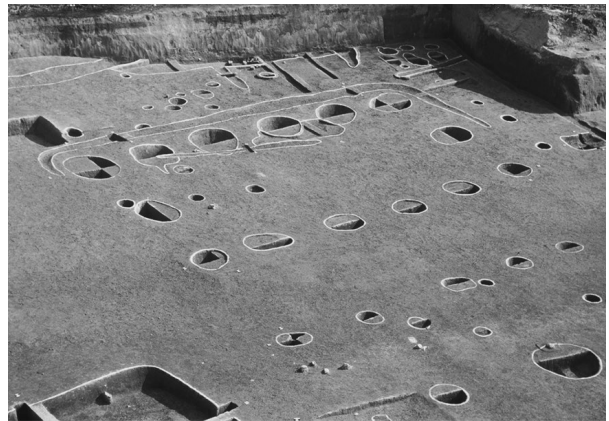
SHb02 調査状況 (西から)



SHb03 断面 (北から)



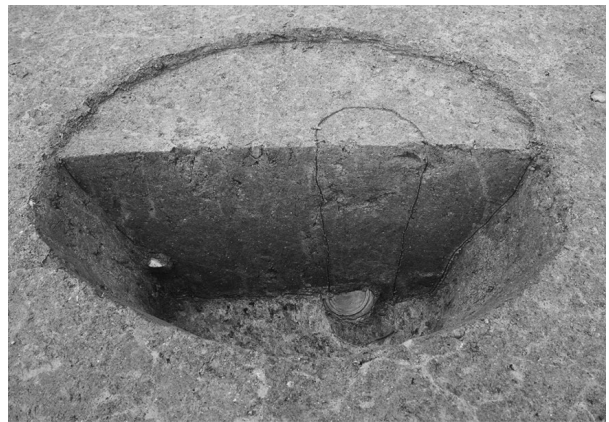
SBb01・SBd15 調査状況 (東から)



SBb02 調査状況 (西北から)



SBb01_SP06、SBd15_SP 切り合い関係 (南から)



SBd02_SP11 断面 (西から)



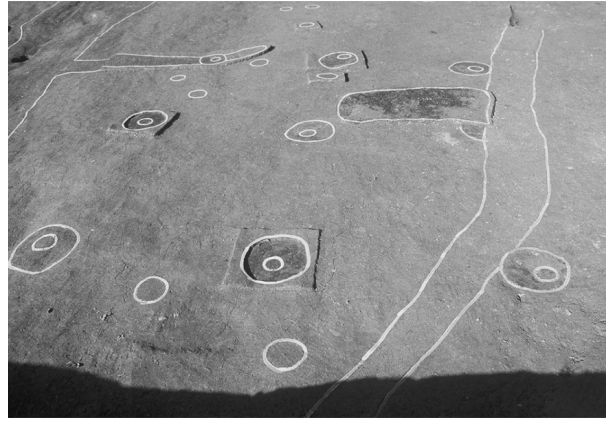
SBb02_SP01 遺物出土状況 (西から)



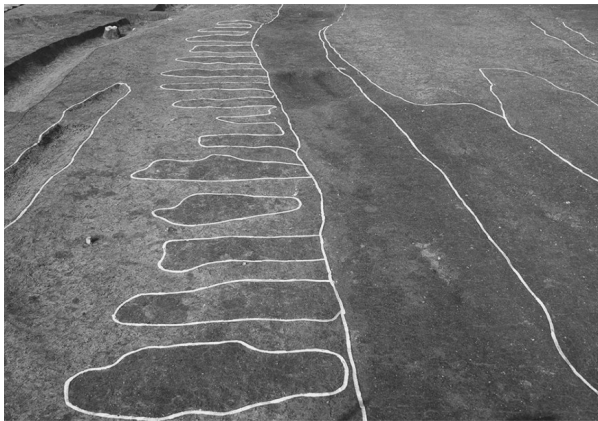
SBb04 検出状況 (南から)



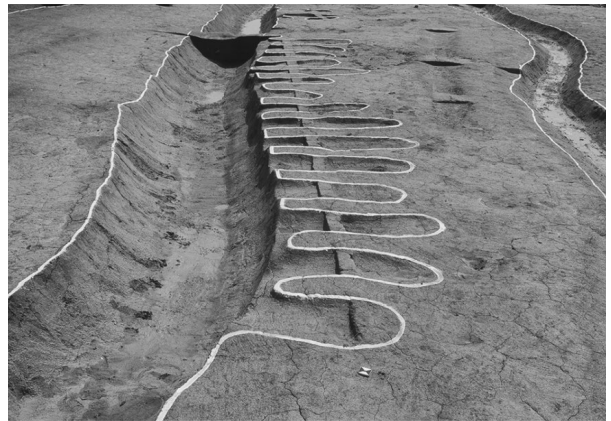
SBb05・SBb02 調査状況 (南から)



SBb06 検出状況 (南から)



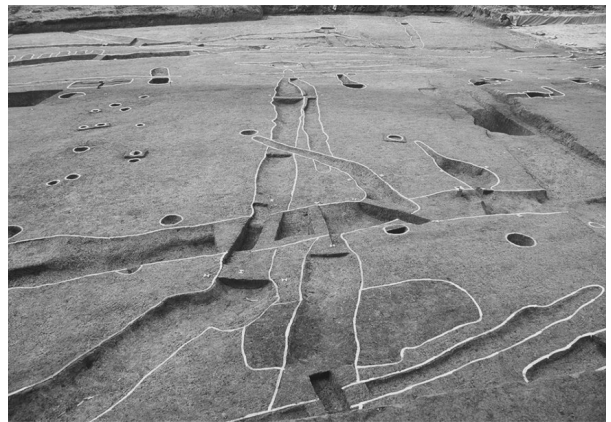
SXb02 検出状況 (南から)



SXb02 調査状況 (北から)



SDb11 調査状況 (西から)



SDb25 等 調査状況 (東から)



SDb30 等 調査状況 (東から)



SDb32 等 断面 (西から)

図版 4 西末則遺跡V



C13区南半部全景(1) (南から)



C13区南半部全景(2) (南から)



C13区南端部全景(1) (南から)



C13区南端部全景(2) (東から)



C13区 SFe00 全景 (南西から)



C13区 SFe01,02 全景 (南から)



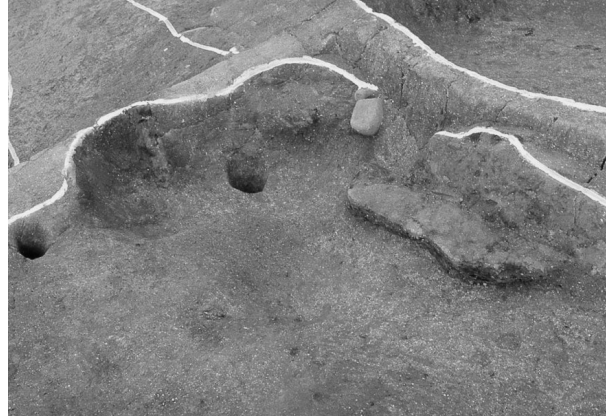
C13区 SFe01 遺物出土状況 (南から)



C13区 SFe01 土層断面(1) (北から)



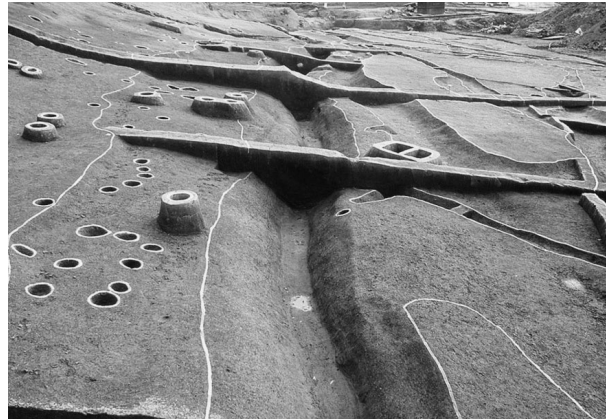
C13区 SFe01 土層断面(2) (北西から)



C13区 SFe02 窯壁詳細 (南西から)



C13区 SFe02 土層断面 (北から)



C13区 SDe01・02 全景 (北から)



C13区 SDe01 北端部土層断面 (南から)



D12・15区調査区全景 (北から)



D12区南半部全景 (東から)

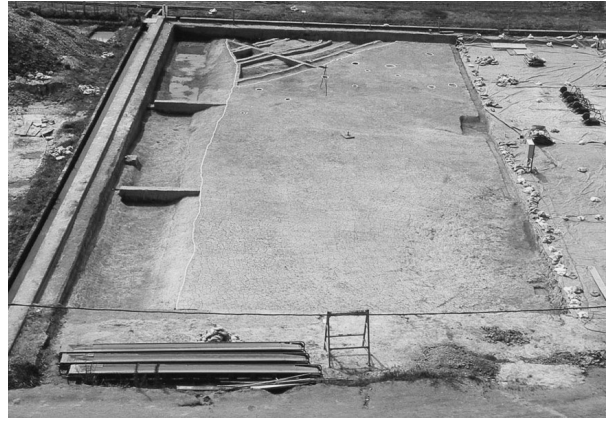


D15s区 SDe13 土層断面 (南から)

図版 6 西末則遺跡V



E14・15区調査区全景（北から）



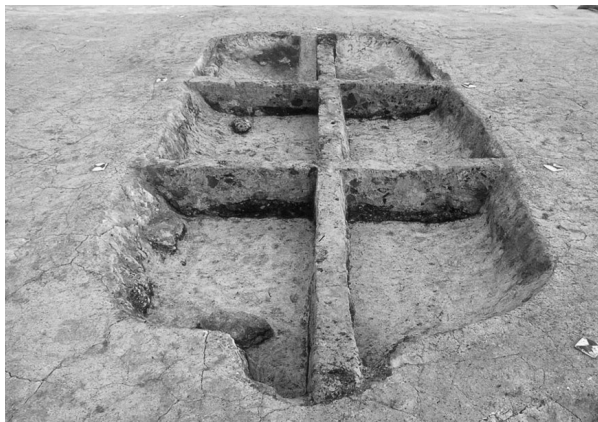
E14区調査区全景（東から）



E15区 SFe03 全景（西から）



E15区 SFe04・05 全景（東から）



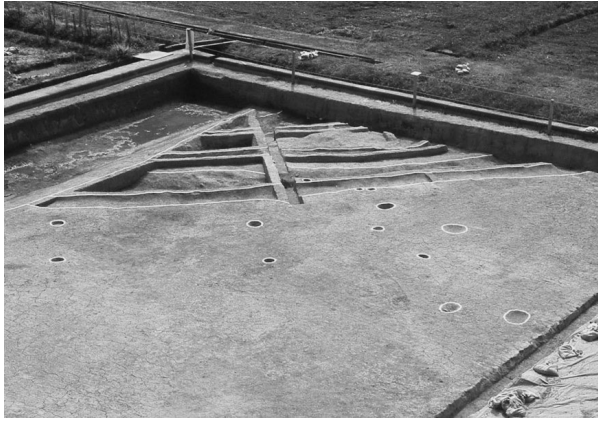
E15区 SFe04 土層断面（北から）



E15区 SFe05 全景（東から）



E15区 SFe05 煙道部詳細（東から）



E14区 SDe19～23 全景（北東から）



E14区 SDe19・20 全景（南東から）



E14・15区 SDe24・SFe03～05 全景（北から）



E14・15区 SDe24 全景（南から）



E14・15区 SDe24 土層断面（南から）



E14区 SDe25 全景（西から）



E14区 SDe26a 全景（東から）



E14区 SDe26a 土層断面（西から）

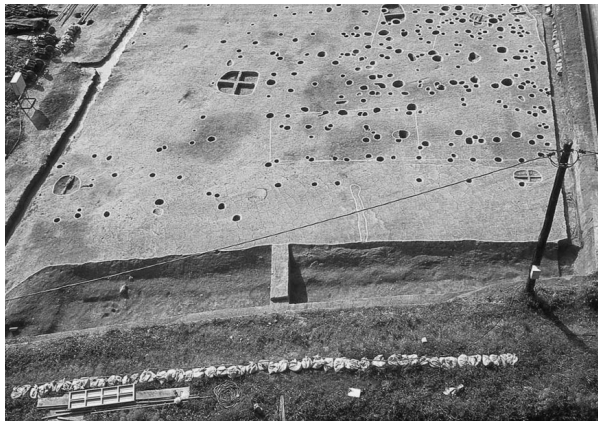
図版 8 西末則遺跡V



E13区調査区全景（東から）



E13区西半部全景（東から）



E13区東半部全景（東から）



E13区東半部全景（南から）



F12区調査区全景(1)（東から）



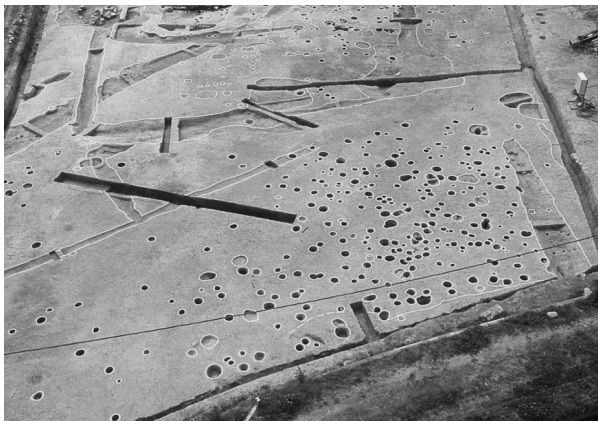
F12区調査区全景(2) (東から)



F12区西半部全景(1) (東から)



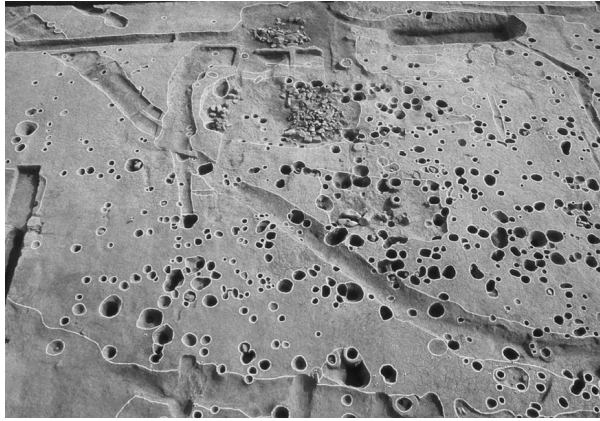
F12区西半部全景(2) (東から)



F12区東半部全景(1) (東から)



F12区東半部全景(2) (東から)



F12 区中央部全景 (北から)



F12 区 SBe06 全景 (北から)



F12 区 SBe06_SP19 (東から)



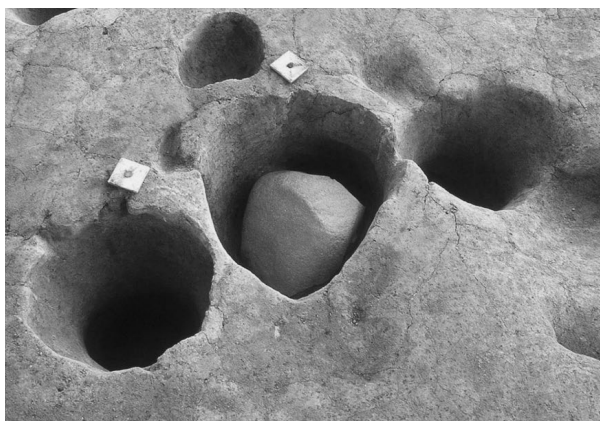
F12 区 12FSP71 遺物出土状況 (南西から)



F12 区 12ESP170 遺物出土状況 (南から)



F12 区 12FSP392 遺物出土状況 (東から)



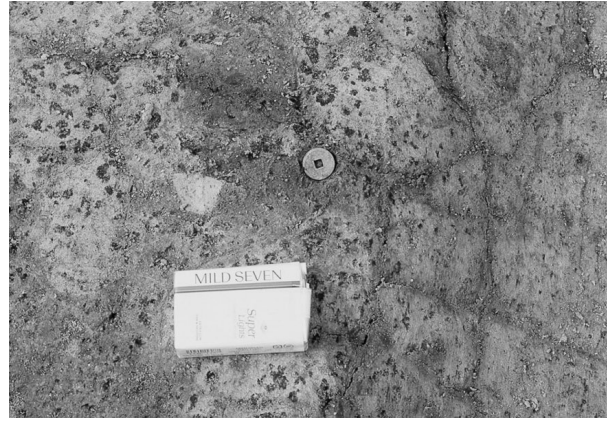
F12 区 12FSP557 全景 (北から)



F12 区 12FSP687 柱材 (南から)



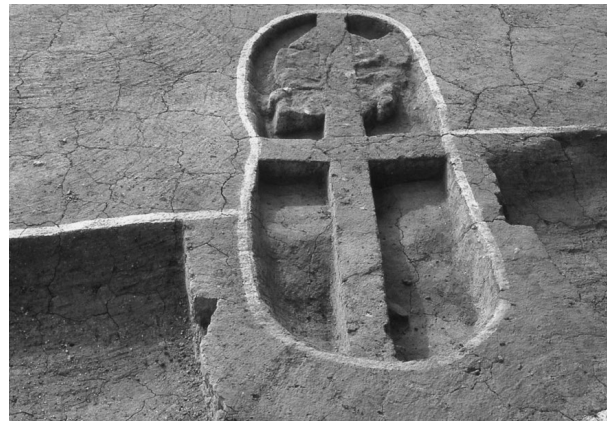
F12区 12FSP704 根石 (西から)



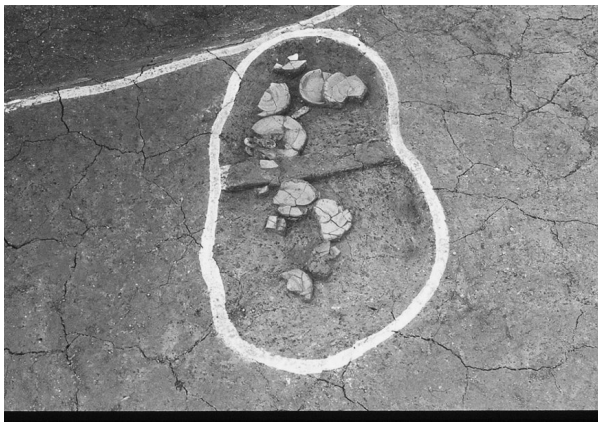
F12区 12FSP768 上面銭出土状況 (北から)



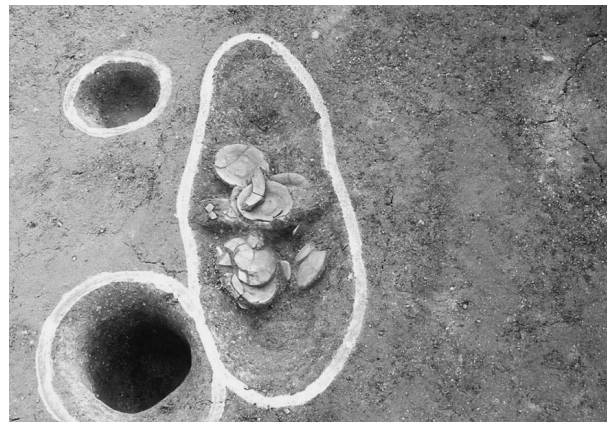
E13区 SKe03 全景 (西から)



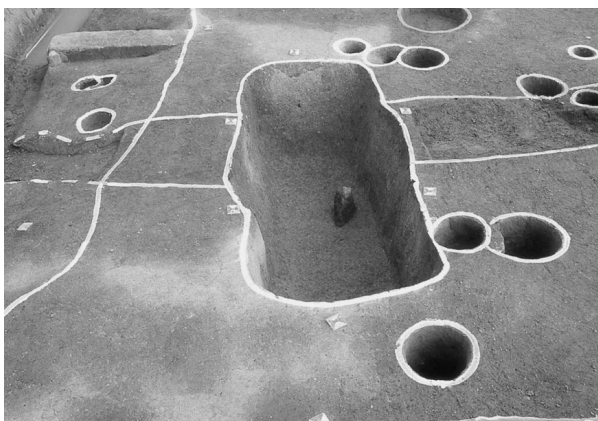
E13区 SKe03 焼土検出状況 (西から)



E13区 SKe04 遺物出土状況 (東から)



E13区 SKe06 遺物出土状況 (北から)



E13区 STe01 全景 (西から)



F12区 SFe06・07 検出状況 (東から)



F12区 SFe06・07 全景 (東から)



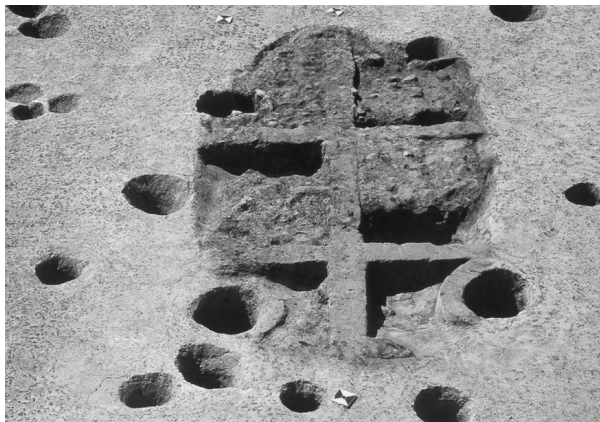
F12区 SFe06 検出状況 (東から)



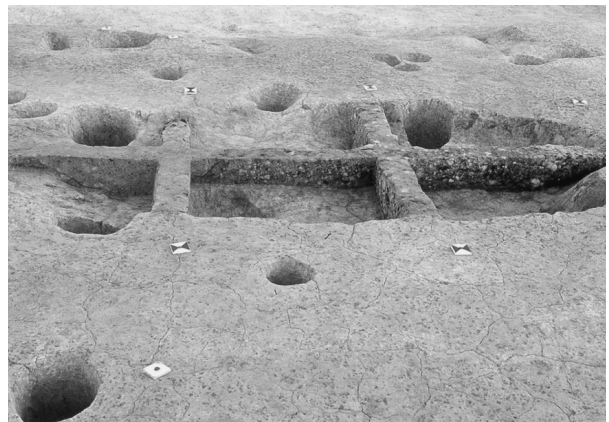
F12区 SFe06 遺物出土状況 (北から)



F12区 SFe06 全景 (東から)



F12区 SFe07 全景 (東から)



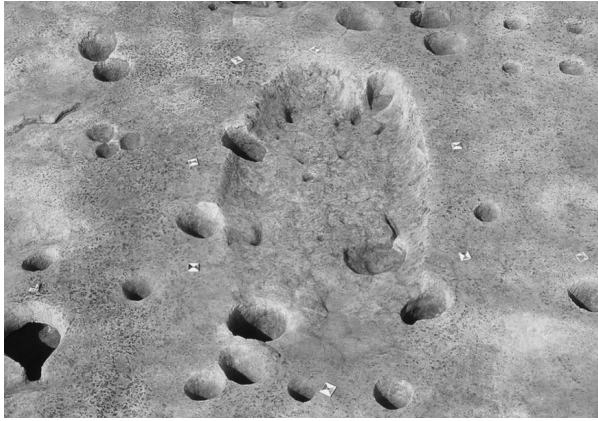
F12区 SFe07 土層断面(1) (北から)



F12区 SFe07 土層断面(2) (北から)



F12区 SFe07 土層断面(3) (北から)



F12区 SFe07 完掘状況 (東から)



E13・F12区 SDe26b・51 全景 (南から)



E14区 SDe26a 土層断面 (西から)



E13区 SDe26b 土層断面 (北から)



E13区 SDe26b 北端土層断面 (南から)



F12区 SDe45～47 周辺全景 (北から)



F12区 SDe45 土層断面 (西から)



F12区 SXe07 土層断面 (西から)

図版 14 西末則遺跡V



F12区 SRe01 土層断面(1) (北西から)



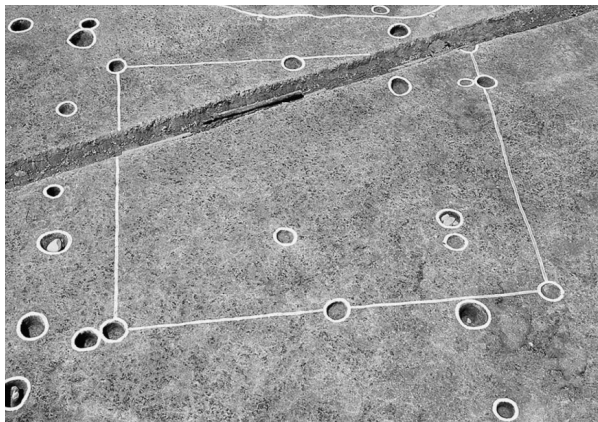
F12区 SRe01 土層断面(2) (北から)



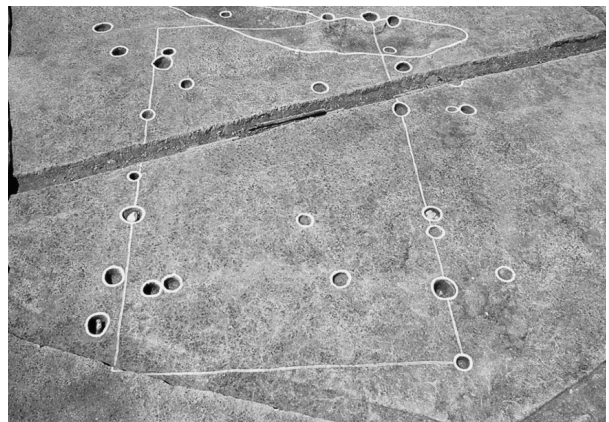
C9区北半部全景 (南から)



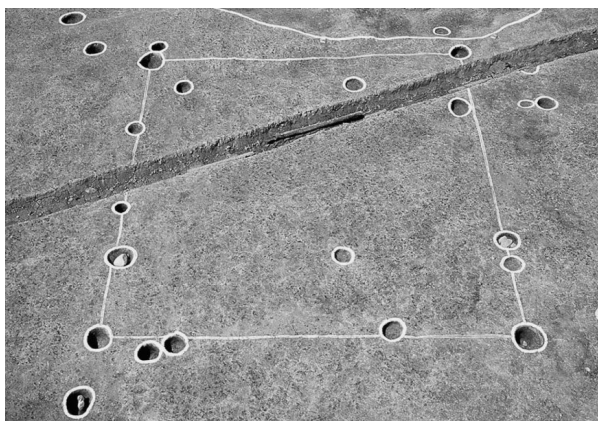
C9区南半部全景 (北から)



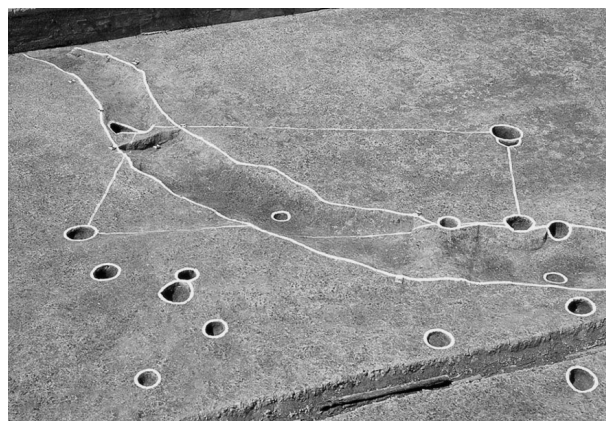
C9区 SBo01 全景 (南から)



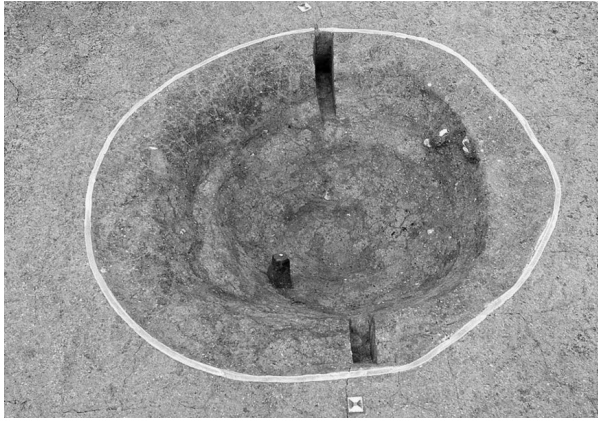
C9区 SBo02 全景 (南から)



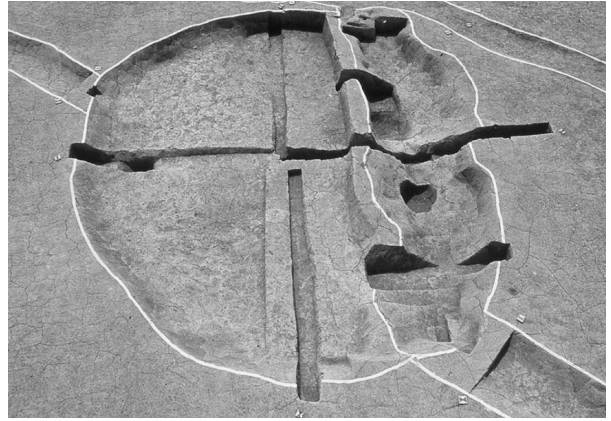
C9区 SBo03 全景 (南から)



C9区 SBo04 全景 (南から)



C9区 SKo01 全景 (南から)



C9区 SKo03 全景 (東から)



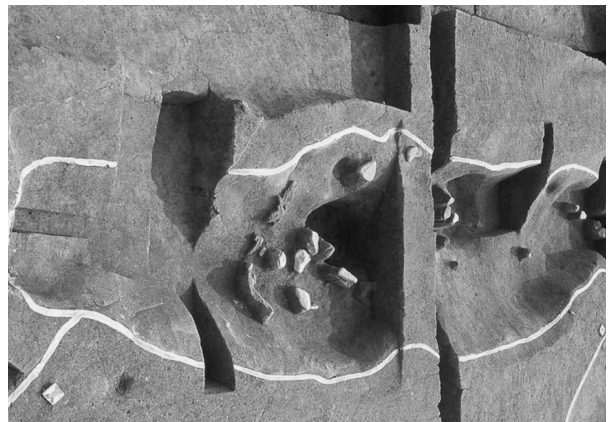
C9区 SDo00 全景 (南東から)



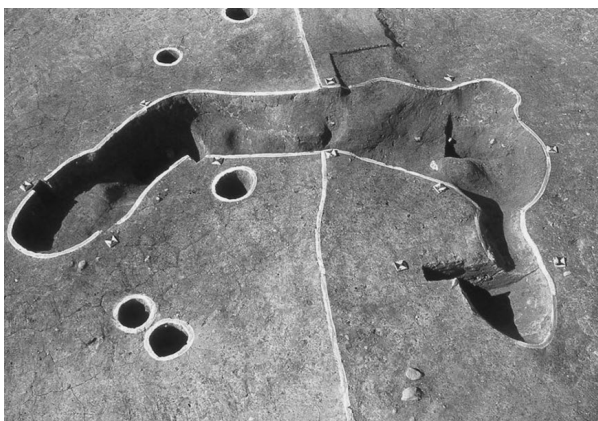
C9区 SDo01・02 全景 (南東から)



C9区 SDo02~04 全景 (北西から)



C9区 SDo12 遺物出土状況 (北から)



C9区 SXo02 全景 (南から)



C9区 SRo01 全景 (北東から)



E10区調査区全景（南から）



E10区 SB010・11 全景（南から）



E10区 SB010・11 全景（北から）



E10区 SD014・23・24 等全景（南から）



E10区 SD023 全景（南から）



E10区 SDo24 全景 (東から)



E10区 SDo24 土層断面 (西から)



E10区 SDo25 全景 (南から)



E9e区調査区全景 (1) (南から)



E9e区調査区全景 (2) (東から)



E9e区 SKo06 遺物出土状況 (北から)



E9e区 SKo06 全景 (北から)



E9e区 SDo29 土層断面 (1) (南東から)



E9e 区 SDo29 土層断面 (2) (南東から)



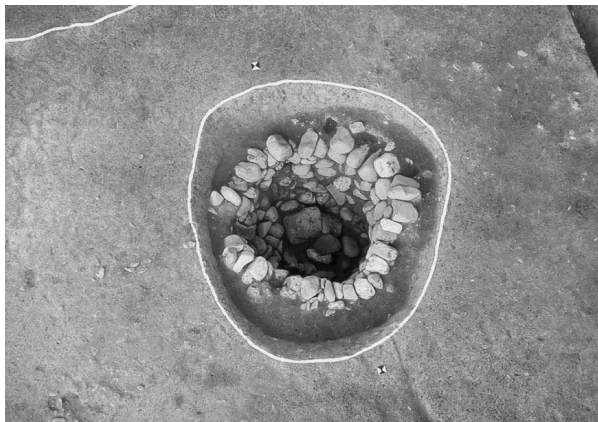
E9e 区 SRo03 土層断面 (北東から)



E9w 区 調査区 全景 (南から)



E9w 区 SBo13 全景 (南から)



E9w 区 SEo01 全景 (南から)



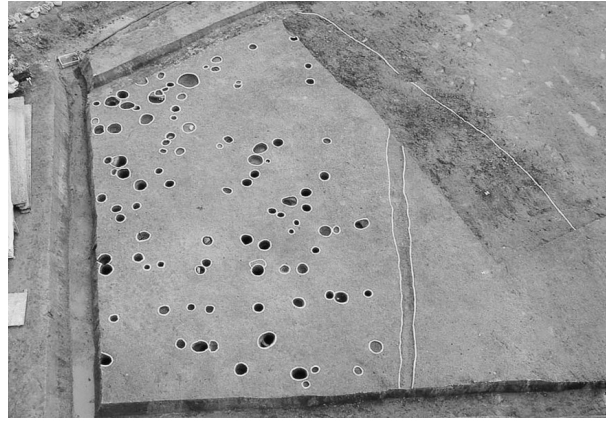
E9w 区 SEo01 断面 (東から)



E9w 区 SDo30 ~ 32 全景 (西から)



F7区調査区全景（南から）



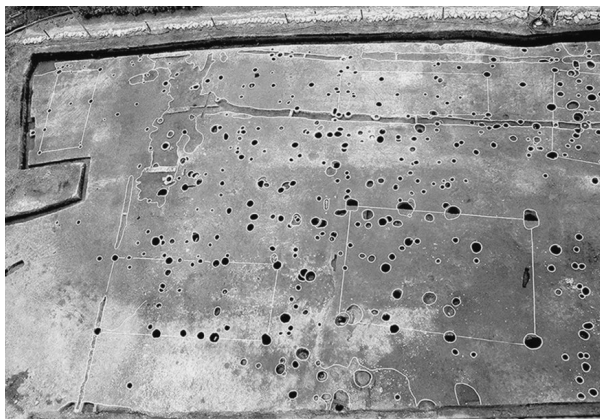
F7区 SBo15 周辺（東から）



F7区 SRo05 土層断面（北から）



F6区第1面調査区全景（西から）



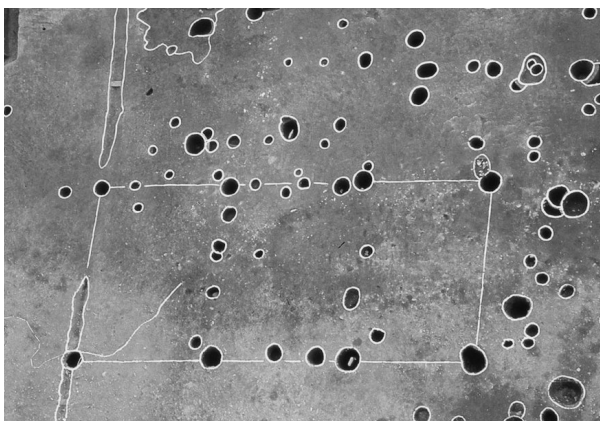
F6区第1面調査区東部全景(1)(北から)



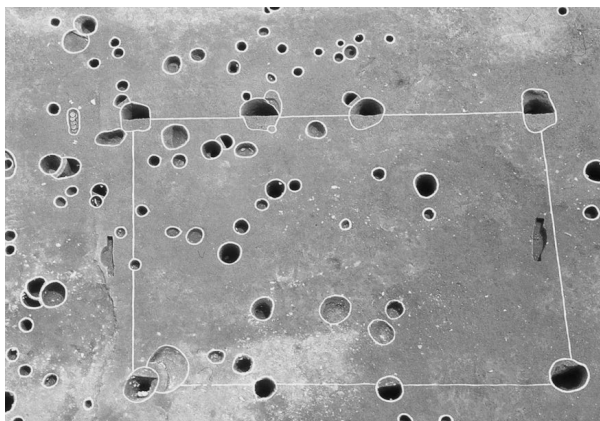
F6区第1面調査区東部全景(2)(北から)



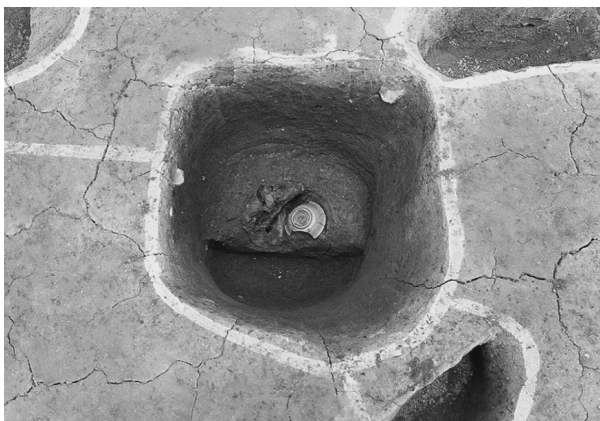
F6区第1面調査区西部全景(北から)



F6区SBo20全景(北から)



F6区SBo22全景(北から)



F6区SBo22_SP05遺物出土状況(南から)



F6区SKo16遺物出土状況(南から)



F6区SKo16全景(南から)



F6区 SP682 遺物出土状況（南から）



F6区 SP492 遺物出土状況（東から）



F6区 SKo19 遺物出土状況（西から）



F6区 SXo13 遺物出土状況（北から）

図版 22 西末則遺跡V





図版 24 西末則遺跡V









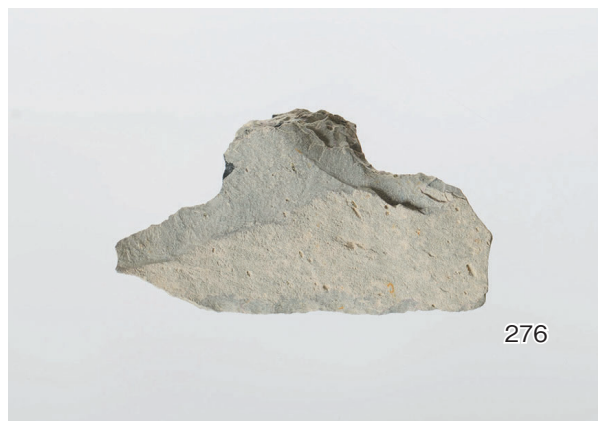
図版 28 西末則遺跡V

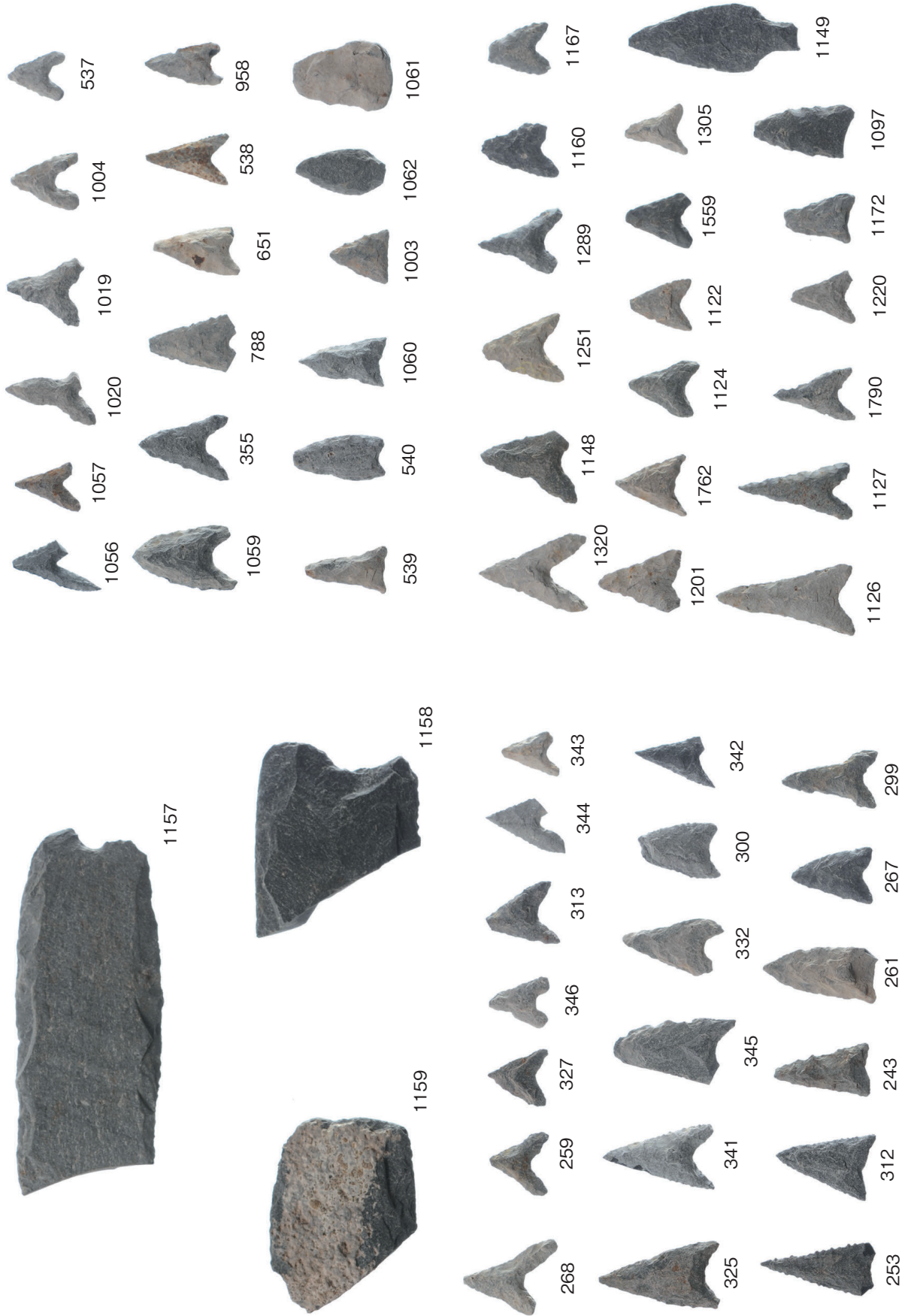












图版 34 西末則遺跡Ⅴ



436



437



438



452(表)



452(裏)



451



605



652



959



1215



1231



1563



1589



1590



1591



1592



1593



1594



1595



1596



1597



1600



1601



1602



1629

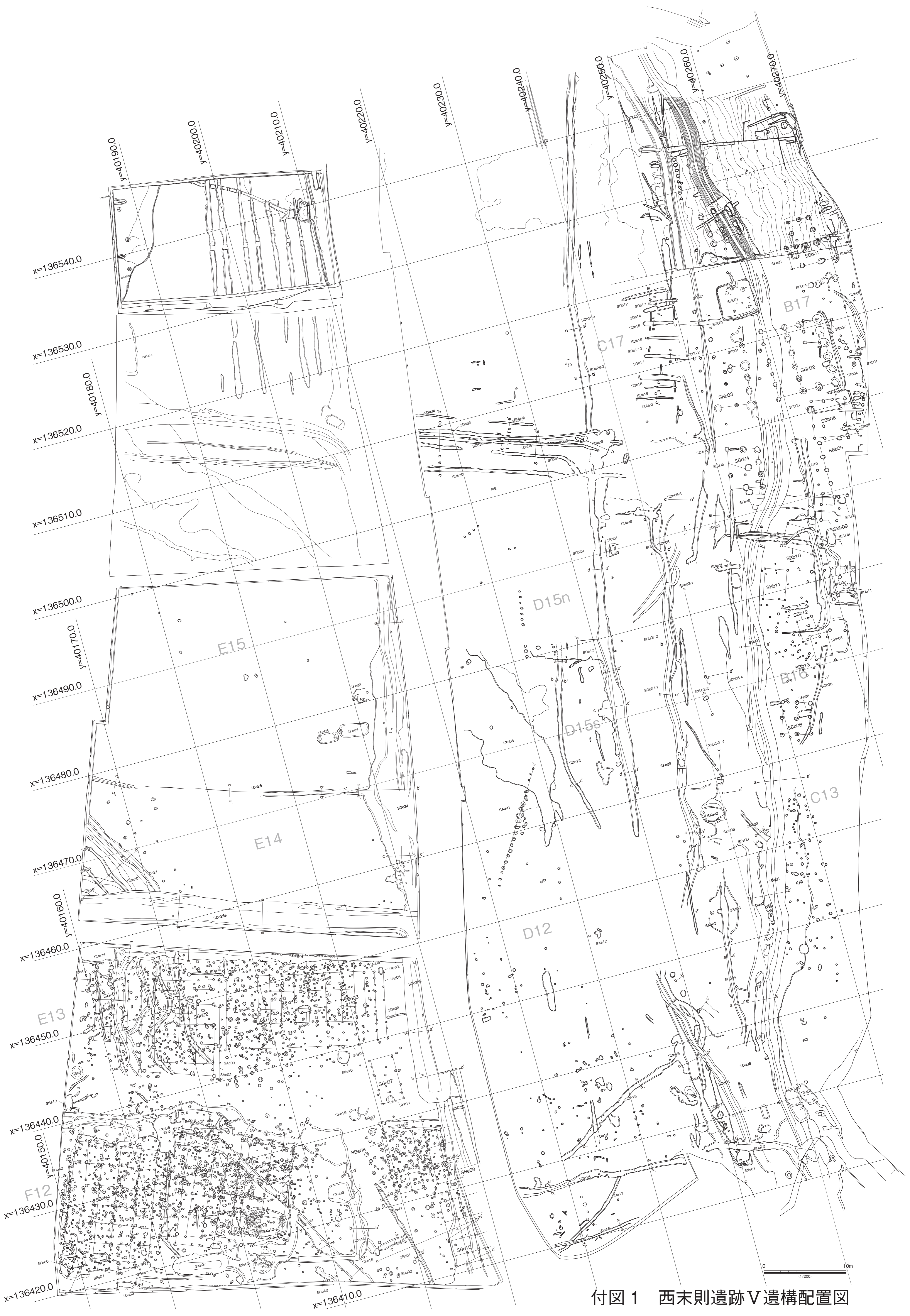
報告書抄録

ふりがな	にしすえのりいせきV だい1ぶんさつ							
書名	西末則遺跡V 第1分冊							
副書名	香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第5冊							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	西村尋文(編)・木下晴一							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関名	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦2015年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	発掘期間	発掘面積 (㎡)	調査原因
		市町	遺跡 番号					
にしすえのりいせき 西末則遺跡	かがわけんあやうたくんあやがわちやう 香川県綾歌郡綾川町 きた・やまだしも 北・山田下	37381		34° 13' 35"	133° 56' 15"	2002040 ～ 20030331	11,186	香川県農 業試験場 移転
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西末則遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古代 中世 近世	掘立柱建物・土坑・ 溝・炭焼窯・自然河 川	縄文土器・弥生土器・土師器・ 須恵器・瓦器・陶磁器・石器				
要約	西末則遺跡は末則丘陵の西斜面から綾川にかけて広がる段丘面上に展開する、縄文時代から近世に至る集落跡である。調査範囲は広く、今回報告する調査成果の中で注目できるのは、弥生時代後期、古代～中世にいたる当地の灌漑水路網の変遷がたどれる溝群を確認した点である。また、この遺跡では古墳時代後期末・古代・中世～近世にいたる集落跡を数地点で確認することができた点にある。主に古墳時代末～古代の集落、中世後半～近世前半の複数の屋敷地の変遷がたどれ、集落の全容が明らかとなった点が重要な成果である。							

香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第5冊
西末則遺跡Ⅴ
第1分冊

2015年3月20日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2192 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 株式会社 中央印刷所



付図1 西末則遺跡V遺構配置図



付図2 西末則遺跡V遺構配置図

0 10m
(1/200)